

山梨県埋蔵文化財センター調査報告書

第一五八集

甲府城下町遺跡

二〇〇九・三

山梨県教育委員会

甲府城下町遺跡(北口県有地)

— 北口県有地開発に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 —

2008.3
山梨県教育委員会

甲府城下町遺跡(北口県有地)

— 北口県有地開発に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 —

2008.3
山梨県教育委員会

序　文

本書は、JR甲府駅北口にある県有地の有効利用を目的とした開発に伴う甲府城下町遺跡の発掘調査成果をまとめたものであります。

甲府城下町遺跡は、甲府城を中心に広域にその広がりをみせている遺跡で、過去にも当地点に近接した地区で発掘調査が実施されており、古墳時代以降の遺物等も数多く検出されています。中世の当該地は戦国期武田氏館跡城下町の南端の一角を占め、寺域の一部となっていました。

江戸期以降、幕末期までは甲府城「山手御門」北側の山手小路・森下小路・橘小路に囲まれた位置で武家屋敷地や空閑地が配置されていた地区でもあります。江戸柳沢期（1704年～1724年）の「甲府御城絵図」によると柳沢吉保家臣御寄合「根津文左衛門」らが居住していたことが理解でき、幕末にあたる嘉永二年（1849年）以降の「懐宝甲府絵図」では「中島・鳩田・カモミヤ」などの甲府勤番士屋敷地のほか、空閑地が区画されている場所がありました。

今回の発掘調査は平成17年8月から12月と平成18年5月から12月までの二箇年度に渡る期間を要し、その間の基礎的整理作業と、その後の本格的整理作業を経て本書の刊行に至りました。

調査の結果、井戸12基、溝状遺構約50条、戦国期と想定できる墓坑も加え土坑約50基、埋桶11基のほか多数の柱穴などが確認されました。また、遺物は中世から近世、近代まで様々なものが出土しております。種類も喫茶・食膳・調理用具や神酒徳利や仏飯器などの信仰に関わる用具類など多岐にわたっております。そのほか、鳥の飼育に使用された餌猪口や草花の観賞のための植木鉢なども出土し、当時の趣味娯楽の世界を垣間見ることができました。

今回の調査で以上のような成果が得られたことは、広大な甲府城下町遺跡の一端を探る上で欠くことのできない歴史資料となることは間違いないものでしょう。

末筆ではありますが種々のご協力ご助言を賜りました関係機関各位および関係者の皆様に厚く御礼申し上げます。

平成20年3月

山梨県埋蔵文化財センター

所長　末木　健

甲府城下町遺跡(北口県有地)発掘調査の概要

甲府城下町遺跡〔北口県有地〕JR甲府駅北口の近く、甲府市北口2丁目にあります。この場所は甲府市北部の山裾より甲府盆地に流れ下る相川によって作り出された扇状地の端部にあたります。また、標高は約280mあります。過去にこの付近で数々の発掘調査が実施され、古墳時代から近代までの遺構や遺物が数多く検出されている所です。なかでも中世では戦国期武田氏館跡城下町の一角落としており、江戸期以降、幕末期までは甲府城「山手御門」北側の山手小路・森下小路・橋小路に囲まれた位置にある武家屋敷に相当する重要な場所でもありました。

ここでは、二年次におよぶ発掘調査で、どのような成果が得られたのかを簡単に紹介してみたいと思います。

遺構は、当初は調査範囲のいたる所に近代の建物基礎、上・下水施設等による搅乱があると想定されましたが、井戸12基、溝状遺構約50条、墓坑を含む土坑約50基、埋壺11基のほか多数の柱穴などが検出されました。



重機を使用して溝や井戸の出てくる深さまで地面を掘り下げます。



遺構の大きさや位置を確認します。



確認された遺構を慎重に掘り下げて、その形や出土品が出た位置や深さなどを写真や図面に記録していきます。



出土した陶磁器などの正確な図面を書いたり、発掘調査で記録された図面や写真を整理して発掘調査報告書を作成します。



検出された遺構と遺物



埋桶とは、便槽遺構のことです。内部の土壌を分析した結果、原生種に近い葡萄の種が発見されました。



今回の調査では自然石を精巧に積み上げて作られた[石積み井戸]と[素掘り井戸]の2種類の井戸が検出されました。



深い掘り込みを持つ江戸時代の土坑



灯明皿は江戸前期までは素焼きの皿が使われてきました。中期以降は油を無駄にしないよう軸薬がかけられた灯明皿が使用されます。また、江戸後期(18世紀中頃)には秉燭も出現してきます。

16世紀中頃と推測される墓坑



集織器は、生糸を作る操糸機の磁器製部品です。鍋で煮た繭から糸を繰り出して中央の細い穴を通って燃りがかけられ糸となります。

鳥籠の中に入れて水や餌を入れておく鉢猪口も出土し当時の趣味娯楽の世界を垣間見ることができます。



I 区西側完掘状況



I 区東側完掘状況



II 区完掘状況(北側より撮影)

口絵 2



I 区 第6号溝状遺構出土遺物 1



I 区 第6号溝状遺構出土遺物 2



I 区 第6号溝状遺構出土遺物 3



I 区 第6号溝状遺構出土遺物 4



I 区 J区出土 泥人形(猿)



I 区 L-13-K-19区出土 集緒器



I 区 表土出土 検査用乳鉢

例　　言

- 1 本書は山梨県甲府市北口二丁目地内に所在する甲府城下町遺跡（北口県有地）の発掘調査報告書である。
- 2 調査は山梨県企画部企画課から山梨県教育委員会が委託を受け山梨県埋蔵文化財センターが発掘調査を実施したものである。
- 3 発掘調査期間および整理作業期間は以下のとおりである。

【平成17年度】

発掘調査	平成17年8月1日～12月26日
基礎的整理作業	平成18年1月6日～3月20日

【平成18年度】

発掘調査	平成18年5月8日～11月21日
基礎的整理作業	平成18年11月1日～3月23日

【平成19年度】

本格的整理作業	平成19年5月7日～3月21日
---------	-----------------

- 4 本書の執筆・編集は山梨県埋蔵文化財センターの吉岡弘樹が担当した。
- 5 遺構写真・調査風景写真是吉岡弘樹・奥石逸子・鶴田博・野代恵子・上原健弥・長田隆志が撮影した。
- 6 報告書掲載遺物写真是吉岡が撮影した。
- 7 発掘調査における国土座標測量・グリッド杭設定・標高杭設定については株式会社昭和測量に委託した。
- 8 本遺跡より採取した土壤の理化学分析はパリノ・サーヴェイ株式会社に委託した。
- 9 発掘調査および整理作業においては次の方々ならびに機関より、ご協力ご教示を賜った。記して感謝の意を表す次第である。

甲府市役所・甲府市教育委員会・帝京大学山梨文化財研究所・株式会社昭和測量・

パリノ・サーヴェイ株式会社・有限会社手塚建材興業・月刊マイタウン・

山梨日日新聞社・山梨放送

石川　満（甲府市都市整備部）・信藤裕仁・伊藤正幸・伊藤正彦・志村憲一・平塚洋一・
佐々木満（甲府市教育委員会）・平山　優（山梨県史編さん室）

（順不同・敬称略）

- 10 本遺跡に関わる出土品および記録図面・写真類などは一括して山梨県埋蔵文化財センターに保管してある。

凡　　例

- 1 掲載した図面の縮尺は原則として以下のとおりである。

《遺構》

遺構全体図－1／500　　溝状遺構－1／60　　土坑－1／40・1／30
井戸－1／30　　埋桶－1／20　　遺物集中区－1／40　　圓池遺構－1／60

《遺物》

磁器・陶器・土器－1／1・1／3・1／4　　土製品－1／1・1／2・1／3
瓦－1／3　　石製品－1／1・1／3・1／6　　木製品－1／3
金属製品－1／1・1／3

- 2 図版中の表記については次のとおりである。

《遺物》

- a 遺物図版中のスクリーントーンは以下のとおりに使用した
陶器・土器等煤付着範囲－　熔着痕跡－
b 遺物ドットについては、発掘調査時にPナンバーで取り上げた遺物については
●で、木杭－■・木製品－□・錢貨－▲・瓦－△・石製品－○とした。

《遺物》

- a 遺構図等に示した方位は国土座標による真北をとる。
b 遺構図断面図等に示した数値は標高を示している。
c 遺構図版中にある遺物番号は、遺物図版・遺物観察表の番号と一致する。
d 遺構図版中のスクリーントーンは以下のとおりである。

地山－　搅乱－　建物基礎等－

- 3 陶磁器類の分類等については、『内藤町遺跡』（新宿区内藤町遺跡調査会ほか 1992）
・『甲府城下町遺跡（甲府駅周辺地区画整理事業地内43街区）』（山梨県埋蔵文化財
センター 2004）・『甲府城下町遺跡（日向町遺跡第2地点）』（山梨県埋蔵文化財セン
ター 2004）を基準としている。

目次

序文

甲府城下町遺跡(北口県有地)発掘調査の概要

図絵

例言・凡例

目次

第1章 調査の経緯と組織	1
第1節 調査に至る経緯	1
第2節 調査の組織	1
第2章 遺跡の概観	3
第1節 地理的環境	3
第2節 歴史的環境	3
第3章 調査の方法と基本層序	8
第1節 調査の方法	8
1 調査区とグリッドの設定	8
2 遺構掘削と記録方法	8
第2節 基本層序	9
第4章 各節	11
第1節 発掘調査の概略	11
第2節 検出された遺構と遺物	11
【I区】	12
◎溝状遺構	12
◎土坑	20
◎井戸	26
◎埋桶	29
◎園池遺構	29
【II区】	30
◎溝状遺構	30
◎土坑	32
◎井戸	34
◎埋桶	34
第5章 自然科学分析	245
第6章 考察	264
第1節 土地利用の変遷	264
第2節 蚕糸関連の遺物	272

図版目次

1 甲府城下町道路の範囲と調査地点位置図	58 ピット（1）	115 I区遺構出土遺物（39）
2 調査地点位置図	59 ピット（2）	116 I区遺構出土遺物（40）
3 基本層序観察地点と柱状図	60 ピット（3）	117 I区遺構出土遺物（41）
4 遺構配置図	【II区】	118 I区遺構出土遺物（42）
5 溝状遺構配置図	61 第1・2・5・11・12号溝状遺構・第5・6号土坑	119 I区遺構出土遺物（43）
6 土坑配置図	62 第2号溝状遺構・第1・2号土坑	120 I区遺構出土遺物（44）・ I区遺構出土遺物（1）
7 井戸配置図	63 第2号溝状遺構・第1・2号土坑遺物分布図	121 I区遺構外出土遺物（2）
8 埋桶・圓池遺構・遺物集中区配置図	64 第3号溝状遺構	122 I区遺構外出土遺物（3）
9 柱穴配置図	65 第4号溝状遺構（1）	123 I区遺構外出土遺物（4）
【I区】	66 第4・6・7・10号溝状遺構（2）	124 I区遺構外出土遺物（5）
10 第1号溝状遺構（1）	67 第4・9・13号溝状遺構（3）	125 I区遺構外出土遺物（6）
11 第1号溝状遺構（2）	68 第4・9・13号溝状遺構（4）	126 I区遺構外出土遺物（7）
12 第1号溝状遺構遺物分布図	69 第4号溝状遺構内削木	127 I区遺構外出土遺物（8）
13 第2・5号溝状遺構	70 第5号溝状遺構	128 I区遺構外出土遺物（9）
14 第3号溝状遺構（1）	71 第13・14号溝状遺構・第9号土坑	129 I区遺構外出土遺物（10）
15 第3号溝状遺構（2）	72 第4・7号土坑	130 I区遺構外出土遺物（11）
16 第6～9号溝状遺構	73 第8・11号土坑	131 I区遺構外出土遺物（12）
17 第6号溝状遺構遺物分布図	74 第1号井戸	132 I区遺構外出土遺物（13）
18 第10号溝状遺構	75 第1～3号埋桶	133 I区遺構外出土遺物（14）
19 第11号溝状遺構	76 第4号埋桶・ピット	134 I区遺構外出土遺物（15）
20 第11号溝状遺構遺物分布図	77 I区遺構出土遺物（1）	135 I区遺構外出土遺物（16）
21 第12・13号溝状遺構	78 I区遺構出土遺物（2）	136 I区遺構外出土遺物（17）
22 第14～19号溝状遺構	79 I区遺構出土遺物（3）	137 I区遺構外出土遺物（18）
23 第20号溝状遺構	80 I区遺構出土遺物（4）	138 I区遺構外出土遺物（19）
24 第4・21・22号溝状遺構	81 I区遺構出土遺物（5）	139 I区遺構外出土遺物（20）
25 第23・26・37号溝状遺構	82 I区遺構出土遺物（6）	140 I区遺構外出土遺物（21）
26 第24～26・37・39号溝状遺構	83 I区遺構出土遺物（7）	141 I区遺構外出土遺物（22）
27 第25号溝状遺構遺物分布図	84 I区遺構出土遺物（8）	142 I区遺構外出土遺物（23）
28 第27（石垣1・2）・28号溝状遺構	85 I区遺構出土遺物（9）	143 I区遺構外出土遺物（24）
29 第29・35号溝状遺構	86 I区遺構出土遺物（10）	144 II区遺構出土遺物（1）
30 第30～34・36号溝状遺構	87 I区遺構出土遺物（11）	145 II区遺構出土遺物（2）
31 第38号溝状遺構	88 I区遺構出土遺物（12）	146 II区遺構出土遺物（3）
32 第40号溝状遺構	89 I区遺構出土遺物（13）	147 II区遺構出土遺物（4）・ 遺構外出土遺物（1）
33 第44～46号溝状遺構	90 I区遺構出土遺物（14）	148 II区遺構外出土遺物（2）
34 第47・48号溝状遺構	91 I区遺構出土遺物（15）	149 II区遺構外出土遺物（3）
35 第49～55号溝状遺構	92 I区遺構出土遺物（16）	150 調査地周辺遺跡位置図
36 第1～3号土坑	93 I区遺構出土遺物（17）	151 調査地周辺の土地利用及び発掘調査地点
37 第4～7号土坑	94 I区遺構出土遺物（18）	152 絵図からみた拌領地（1）
38 第9・10号土坑	95 I区遺構出土遺物（19）	153 絵図からみた拌領地（2）
39 第11・12号土坑	96 I区遺構出土遺物（20）	154 絵図からみた拌領地（3）
40 第13・14号土坑	97 I区遺構出土遺物（21）	155 古地図と調査地点
41 第13号土坑遺物分布図	98 I区遺構出土遺物（22）	
42 第15・16号土坑	99 I区遺構出土遺物（23）	
43 第16号土坑遺物分布図	100 I区遺構出土遺物（24）	
44 第17～20号土坑	101 I区遺構出土遺物（25）	
45 第21～24・26・27号土坑	102 I区遺構出土遺物（26）	
46 第29～34号土坑	103 I区遺構出土遺物（27）	
47 第35～38号土坑	104 I区遺構出土遺物（28）	
48 第40・42・44号土坑	105 I区遺構出土遺物（29）	
49 第1・3号井戸	106 I区遺構出土遺物（30）	
50 第2号井戸	107 I区遺構出土遺物（31）	
51 第4・5号井戸	108 I区遺構出土遺物（32）	
52 第6～8号井戸	109 I区遺構出土遺物（33）	
53 第9～11号井戸	110 I区遺構出土遺物（34）	
54 第1～6号埋桶	111 I区遺構出土遺物（35）	
55 第12・13号井戸・圓池遺構	112 I区遺構出土遺物（36）	
56 圓池遺構遺物分布図	113 I区遺構出土遺物（37）	
57 遺物集中区遺物分布図	114 I区遺構出土遺物（38）	

表目次

1 甲府城下町閑遠年表（1）
2 甲府城下町閑遠年表（2）
3 I区溝状遺構一覧表
4 I区土坑一覧表
5 I区井戸一覧表
6 I区埋桶一覧表
7 I区圓池遺構一覧表
8 II区溝状遺構一覧表
9 II区土坑一覧表
10 II区井戸一覧表
11 II区埋桶一覧表
12 I区出土遺物観察表
13 II区出土遺物観察表

第1章 調査の経緯と組織

第1節 調査に至る経緯

調査地点はJR甲府駅北口に位置しており、周辺で進行している甲府駅周辺土地区画整理事業地にあり、山梨県の所有する県職員駐車場を含む約7,000m²の用地内に県立図書館の入る学習拠点複合施設建設が計画された。当該地は広域に周知の埋蔵文化財包蔵地として存在が知られている「甲府城下町遺跡」にあたり、埋蔵文化財保護措置のため、隣接する過去の発掘調査成果などに基づいて、事前の発掘調査が必要となった。その後、学術文化財課と総務部企画課の間で複数の協議によって調査範囲、期間、予算積算作業などが検討され山梨県埋蔵文化財センターによって、平成17・18年度に発掘調査および基礎的整理作業、平成19年度に本格的整理作業・報告書刊行することとなった。平成17年度は平成17年5月10日の現地協議の後、平成17年8月1日から12月26日まで発掘調査、平成18年1月6日から3月20日まで基礎的整理作業を実施した。また、平成18年度は平成18年5月8日から11月21日までの約7ヶ月間の発掘調査と平成18年11月1日から平成19年3月23日までの基礎的整理作業を行った。さらに平成19年5月7日からは本格的整理作業として出土遺物の図化や原稿執筆などを行い平成19年3月末に本書の刊行となった。

なお、法的な手続きは以下に示す。

- | | |
|-------------|--|
| 平成17年7月14日 | 文化財保護法第99条第1項に基づく埋蔵文化財発掘調査の報告を山梨県教育委員会教育長に提出 |
| 平成18年4月26日 | 文化財保護法第99条第1項に基づく埋蔵文化財発掘調査の報告を山梨県教育委員会教育長に提出 |
| 平成18年11月22日 | 文化財保護法第100条第2項の規定により埋蔵文化財発見の通知を甲府警察署長に通知する。 |
| 平成18年11月28日 | 甲府警察署長より拾得物預り書を受領する。 |

第2節 調査の組織

調査主体 山梨県教育委員会

調査機関 山梨県埋蔵文化財センター

調査担当

平成17年度 発掘調査 主査・文化財主事 吉岡弘樹

主任・文化財主事 輪石逸子

基礎的整理作業 主査・文化財主事 吉岡弘樹

平成18年度 発掘調査 主査・文化財主事 吉岡弘樹

主任・文化財主事 鶴田 博

主任・文化財主事 野代恵子

非常勤嘱託 上原健弥

非常勤嘱託 長田隆志

基礎的整理作業 主査・文化財主事 吉岡弘樹

主任・文化財主事 鶴田 博

主任・文化財主事 野代恵子

発掘作業員（短期間臨時職員・短期間非常勤嘱託職員）

平成17年度 発掘調査・重機運転・土砂運搬

功刀正彦 村田勝利

発掘調査

天野亀一 天野きみ子 伊藤知子 梅谷馨 小沢正臣 加賀美昌友 北野礼子

加藤哲 金丸恵美 輿石順郎 児玉和子 小寺縁 五味護 斎藤里美

佐藤武光 鮫田勝夫 澤田しおり 清水千三 清水政矢 進藤貴一 高島稔

田中ふみ江 土屋幹夫 東条幹雄 戸栗幸子 中込政吉 中込二三子

中澤保 中澤久雄 羽中田弘 原稔 古郡フミ子 古屋恵美子 古屋守久

望月勝子 手塚房子 保坂祐貴 深沢和樹 渡辺金造

基礎的整理作業

伊藤知子 佐藤武光 土屋幹夫 中込二三子

平成18年度 発掘調査・重機運転・土砂運搬

功刀正彦 村田勝利

発掘調査

天野亀一 天野きみ子 伊藤知子 入倉和代 梅谷馨 岡部豊雄 小沢正臣

加賀美昌友 北野礼子 児玉和子 五味護 斎藤里美 佐藤武光 鮫田勝夫

清水千三 清水勝正 清水博行 清水政矢 新宅智子 進藤貴一 高島稔

田中ふみ江 田辺君代 土屋幹夫 中込政吉 中込二三子 中澤保 中澤久雄

中嶋友雄 新津正大 野沢喜美 羽中田弘 古郡フミ子 望月勝子 保坂祐貴

深沢和樹 矢崎孔明 矢部寶一 渡辺金造

基礎的整理作業

伊藤知子 小林順子 新宅智子 進藤貴一 平川涼子

平成19年度 本格的整理作業

清水真弓 新津多恵 西山和子 平川涼子 三好美智

栗原礼子 栗原里江子 三好春菜

第2章 遺跡の概観

第1節 地理的環境

本発掘調査地点は甲府市北口2丁目に所在し、甲府駅北ロータリーに近接している。調査地周辺は秩父山系から湧出し甲府市北部の山裾より甲府盆地に流下する相川によって形成された扇状地扇端部にある。相川はその後、荒川と合流しさらに南流し、秩父山地甲武信ヶ岳（標高2,475m）を水源とする笛吹川と合流する。笛吹川は甲府盆地東南側を西進し、中央市において釜無川と合流し駿河湾に注いでいる。なお、この富士川水系は幹線流路128km、流域面積3,990km²であり、最上川、球磨川と並び日本三大急流と呼ばれている。

調査地点は標高約280mの南緩傾斜地にあり、西方に相川、東方に藤川や標高約423mの愛宕山を見る位置に存在する。また、戦国期において武田城下町の南部と近世における甲府城下町遺跡北部との重複地点ともなっている。甲府城「山手御門」および内堀と二の堀に囲まれた地点にあたる。

第2節 歴史的環境

永正16年（1519）に武田信虎がそれまで武田氏が館を構えていた石和川田館より甲府盆地北側の相川に居館を移したことによって甲府の発展の礎となつたことは間違いない。当地は川田館と比較しても経済・軍事など様々な面で勝っていた。翌17年には鷹嶺ヶ崎の後背地に当たる積翠寺に詰城として要害城を築き軍事態勢の強化を図っている。同時に南に緩やかな傾斜をみせる扇状地上には、城下町を建設している。今回の調査地点はその南端にあたる。武田氏滅亡の天正10年（1582）の後、天正11年（1583）に平岩主計守親吉によって甲府城の築城が開始されている⁴¹。その後、城の築造は羽柴秀勝・加藤光泰・浅野長政と統けられ慶長6年（1601）再度、入城した城代平岩主計守親吉によって完成されたと言われている。なお、築城に当たり一条小山にあった一蓮寺は南方に移転されている。甲府城は中央部の内城とその外側にある内郭、さらにその外側の外郭の三層からなっており、それらは内堀・二の堀・三の堀によって区切られ城下町を厳重に防御する体制が整えられている。また、城代平岩主計守親吉の下に武田道臣の桜井安芸守信忠・石原四郎右衛門尉昌明・小田切大隅守茂富・跡部九郎右衛門尉昌忠の四名を奉行とし実務にあたらせた。

慶長8年（1603）には家康の第九子徳川義直の領地となるが幼少のため平岩主計守親吉が引き続き国政にあたっている。慶長12年（1607）に義直は尾張清洲城に転封となる。このため甲斐は幕府直轄領となり、甲府城は武川衆を核とする武川十二騎が城番を務めた。元和2年（1616）二代將軍徳川秀忠の三男徳川忠長が甲府城主となつても、この城番制は続いた。寛永9年（1632）10月に忠長の改易をもって再び甲斐は幕府直轄となり甲府城番制度も再編がなされる。この城番制とは上級旗本2名の1年交代制をとるものであり、寛文元年（1661）に三代將軍徳川家光の三男徳川綱重が甲府城主に命じられるまでの26年間52名の旗本が城番に任命されている。綱重の子徳川綱豊（六代將軍家宣）は延宝6年（1678）遺領を嗣ぎ甲府城主となり、宝永元年（1704）12月に綱吉の養子となることが決定し江戸城西の丸に入るまで甲斐の支配にあつた。

宝永元年（1704）12月徳川綱吉の側近である柳沢吉保が4万石の加増を受け15万石をもって甲府城主となつた。実際に吉保は来申しなかつたが甲府城の大改修や城下町の再整備を実施している。その後、宝永6年（1709）綱吉の死によって吉保は駒込の六義園に隠居し所領は子の吉里が襲封した。翌年には吉里は甲府城に在城し唯一の在城主となつた。しかし、享保9年（1724）八代將軍徳川吉宗による享保の改革が実行され始める中で吉里は大和郡山へ転封となつてしまう。この後、明治維新まで甲斐は幕府直轄領となるのである。ちなみにこの享保9年の甲府町方人口は、家数1,837軒、借家1,001軒、人口は14,006人を数え江戸期最大となっている。



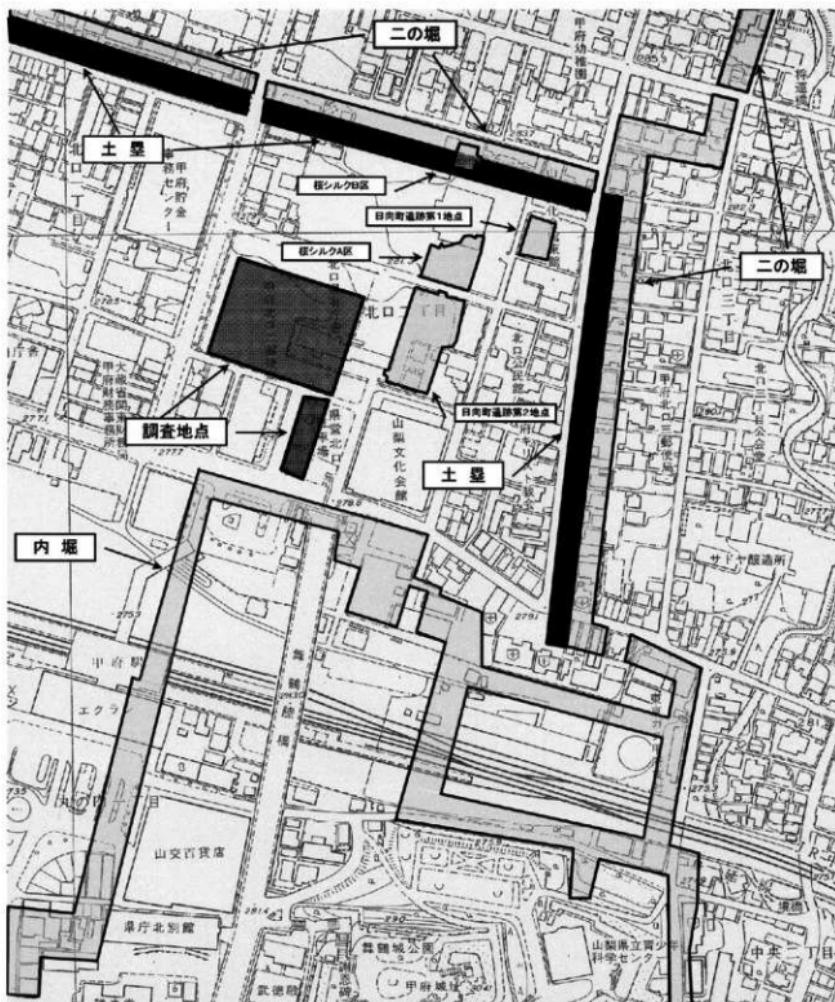
第1図 甲府城下町遺跡の範囲と調査地点位置(S=1/25,000)

吉里の転封後、幕府は甲府城の警護と城下政務を目的とした甲府勤番支配制度を設置した。これは、追手支配と山手支配からなる甲府勤番支配¹²を任命し、その配下にそれぞれ100名の勤番士と与力10騎、同心50名を配置するものである。勤番士の多くは江戸で小普請組に属し200～300俵取りのものであった。なお、町人地は上府中26町、下府中23町となっており初期の頃と比べて変化はしていない。

慶応3年（1867）徳川慶喜による大政奉還後、甲府では極めて混乱した政治状況に晒されることとなる。翌4年1月の鳥羽・伏見の戦いで薩長軍勝利を経て、2月には「官軍鎮撫隊」と称し公家高松実村・小沢雅歌之助による「偽勅使」事件が起こり、3月には甲府城開城や勝沼柏尾で近藤勇率いる「甲陽鎮撫隊」と官軍の戦いがあり、5月には甲府勤番士の去就が決定されている。

明治2年（1869）には戊辰戦争も終結し版籍奉還が行われ明治政府の基礎は固まり、それまでの甲斐府は甲府県となり、4年には廃藩置県により山梨県となった。また、6年には藤村紫朗が県令として着任した。藤村は甲府城の内外を巡る堀が開発の妨げになると考え、二の堀と三の堀を一部残して埋立て払い下げを行い市街地化の促進を図った。明治7年（1874）には勵業製糸場、9年には県立師範学校・山梨裁判所・山梨県病院のほか甲府城内に葡萄栽培を研究する勵業試験場が建設された。また、10年には県庁舎も完成している。

明治22年（1889）甲府市制が施行され若尾逸平が初代市長に就任すると共に新宿～八王子間に甲武鉄道が開通し、明治36年（1903）6月10日には中央線が甲府まで開通した。



第2図 調査地点位置図(S=1/2,500)

*1 山梨県史による甲斐国の近世は天正18年（1590）に豊臣秀吉が小田原北条氏を滅ぼし豊臣系大名が入国し、甲府城建設や検地などを実施した時期を始めと定め、江戸幕府が滅亡し明治維新となる慶応4年（1868）を終末とする278年間としている。また、その特徴として一国が幕府直轄領として展開したこととしている。

*2 従五位下諸太夫・江戸城芙蓉の間詰・役高3,000石と定められている。また、役知は1,000石で任期は平均4年であった。

西暦	年号	月日	出来事
1312	正和元年		一条時信を開基として始祖忠頼の館であった一条小山(現甲府城跡)に一蓮寺を創建する。
1392	明徳三年		南北朝統一。信成流・武田氏発展の基礎が確立する。
1519	永正十六年	8月	武田信虎が石和から勝尾ヶ崎に居館を移す。
1520	永正十七年		信虎、積翠寺丸山に要害城を築造する。
1541	天文十年	6月	信虎、晴信に駿河へ追放される。
1547	天文十六年		晴信、「甲州法度」を制定。
1559	永禄二年		晴信、信玄と改名。
1573	元亀四年	4月12日	信濃伊那郡駒場にて病死。四郎勝頼が家督を継ぐ。
1581	天正九年	正月	勝頼、藤尾ヶ崎を廃し越崎新府城に入る。
1582	天正十年	3月3日	勝頼、新府城に火をかけ岩殿城に向かう。
		3月11日	勝頼、天目山にて自害。武田氏滅亡。
		3月29日	織田信長臣、河尻秀隆が甲斐を領有する(穴山領は除く)。
		6月10日	本能寺の変。信長自害。
		6月18日	河尻秀隆、殺害される。
		7月9日	徳川家康、甲府に入る。
		12月12日	家康、平岩親吉に甲斐の守備を命じる。
			平岩親吉が甲府城の築造に取りかかる。
1583	天正十一年		豊臣秀吉による小田原攻め。家康は関東に所領替えとなる。
1590	天正十八年		羽柴秀勝が甲斐を受領。
1591	天正十九年	2月	秀吉、加藤光泰が甲斐を封じた。
1593	文禄二年		加藤光泰、朝鮮出兵陣中にて没する。
		11月	浅野長政が甲斐に封じられる。
1600	慶長五年		關ヶ原の合戦の殊勲により浅野長政は紀州和歌山に転封となる。
1601	慶長六年		甲斐は徳川の直轄領となり平岩親吉が甲府城代となり、再び入府する。
1603	慶長八年	1月	家康の第九子義直がわずか4歳で甲斐の領主となる。
1607	慶長十二年		義直、尾張清洲に転封となり、甲府城へは城番(武川十二騎)が配される。
1616	元和二年		徳川秀忠の三男、忠長が甲斐領主となる。
1631	寛永八年	5月	忠長は行状不足により甲府城に蟄居を命じられる。甲府城番制の再編。
1632	寛永九年	10月	忠長、改易となり上州高崎城主安藤重長に預けられる。
1633	寛永十年	12月	忠長、自刃する。
1636	寛永十三年		上級旗本二名による甲府城番制度が始まる。寛文元年(1661)まで続く。
1660	万治三年	正月	九龍火事。伊勢町酒屋江戸屋五郎兵衛より出火し柳町・八日町・三日町・工町・連雀町・魚町・穴山町を焼失。
1661	寛文元年	8月	家光の第三子徳川綱重が25万石で入府。
1678	延宝六年	9月	綱重が没しその子綱豈が遺領を継ぐ。
1693	元禄六年	12月	古細屋町より出火。愛宕町・金手町・上一条町・下一条町・和田平町を焼失。
1703	元禄十六年	11月	元禄大地震。方羽町・柳町で崩壊した家屋が出た。しばらく余震が続く。
1704	宝永元年	12月	綱豈が綱吉の養子として江戸城西の丸に入る。
			柳沢吉保が川越より4万石の加増(15万石)を受け甲府城主となる。
1707	宝永四年	10月	東南海を震源とした大地震が起こる。山田町で14軒が全半壊。
		11月	富士山宝永の大噴火。
1709	宝永六年	6月	吉保、綱吉の死によって江戸六義園に隠居。所領はその子、吉里が襲封した。
1722	享保七年	2月	片羽町より出火。緑町から南側の村々を焼く。御坂町から西青沼町境まで火除地を設定。
1724	享保九年	3月	吉里、大和郡山に転封。
		7月	甲府勤番支配が置かれる。
1727	享保十二年	12月9日	大久保火事。裏先手小路、大久保内蔵助屋敷より出火。甲府城本丸・屋形曲輪・清水曲輪をはじめ勤番士屋敷64軒を焼失。また、町方の被害は柳町・定助七町のほか五町、隣接する深町・一蓮寺地内町、光沢寺地内町や在方にまで及んだ。町方13町の類焼家屋敷は本家761軒・借家952軒・土蔵33軒ほか。
			柳町から出火。8町の本家299軒・借家311軒を類焼させた。
1735	享保二十年	12月9日	緑町より出火。
1744	延享元年	4月	本年以降、江戸歌舞伎など本格的な芝居小屋を持つ芸能が流行する。
1764	明和元年	9月	麻屋火事。八日町、麻屋平兵衛宅より出火。13町1,160軒を焼失。
		10月	元細屋町桶屋惣兵衛宅より出火。柳町・魚町・三日町を類焼。
1782	天明二年	7月	関東大地震。
1796	寛政八年		近藤政明と永見為貞が甲府学問所(激典館)を開設する。

表1 甲府城下町遺跡関連年表(1)

西暦	年号	月日	出来事
1803	享和三年	4月4日	鳥羽屋火事。甲府城下最大の大火発生。柳町鳥羽屋庄右衛門宅より出火。下府中19町、類焼家屋1,108軒・被災者6,732人・死者150人に及んだ。なお、一蓮寺地内町も類焼し一蓮寺もほぼ焼失。~幕末には復興。
1806	文化三年		甲府勤番支配松平定能が甲斐国誌の編纂に着手。~文化11年に完成。
1822	文政五年	3月	縫善火事。八日町、龜屋金兵衛牧野宗寿宅より出火。柳町・魚町・三日町など城下の大半を焼く。
1852	嘉永五年	閏2月	大火。被害は鐵町から桶屋町にまで及ぶ。
1854	嘉永七年	3月	富士井屋火事。柳町、富士井屋宋助宅より出火。三日町より南側の10町を焼く。類焼家屋853軒・被災者は3,576人。
		11月	安政大地震。
1860	安政七年	正月	穴山町新八宅より出火。隣接する町の一部を焼失。
1862	文久二年	3月	横工町より出火。上府中の5町を焼く。
1864	元治元年	3月	甲府勤番支配の町方兼務を解き甲府町奉行所を設ける。
1865	慶応元年	5月	甲府町奉行所が廃止される。
1866	慶応二年	8月	甲府城代を新設し甲府町奉行所を再び設置する。
1867	慶応三年	6月	甲府勤番支配を甲府小普請組支配と改称。
		10月14日	徳川慶喜による大政奉還。
1868	慶応四年	2月1日	「官軍鎮撫隊」と称する公家高松実村が入甲。
		2月3日	「官軍鎮撫隊」小沢雅歌之助が遠光寺に到着。鎮撫受入れを迫る。
		3月4日	官軍が甲府城に入城。
		3月6日	近藤勇率いる「甲陽鎮撫隊」と官軍が勝沼柏尾で戦闘。近藤軍敗退。
		3月23日	東海道副総督柳原前光が入申し職政を改める。
		5月26日	柳原前光が再度入申し甲府勤番士の去就が決定する。
1869	明治二年	7月	版籍奉還。甲斐府は甲府県となる。
1873	明治六年	1月	藤村紫朗が山梨県令に任命される。
1874	明治七年	10月	勤業製糸場が建設される。
1876	明治九年		県立師範学校・山梨裁判所・山梨県病院・甲府城内に葡萄栽培の研究を目的とした勤業試験場が建設される。
1877	明治十年		県庁舎が完成。
1889	明治二十二年	6月10日	甲府市制施行。
1903	明治三十六年	6月11日	中央線が甲府まで開通する。
1907	明治四十年	2月	柳町の遊郭より出火。270戸を焼く。
		8月	大水害。
1930	昭和五年		甲府城の内堀が埋め立てられ、県庁舎、県会議事堂、県立図書館が建設される。
1945	昭和二十年	7月6日	甲府大空襲。米軍マリアナ基地よりB29が139機飛来。

表2 甲府城下町遺跡関連年表(2)

第3章 調査の方法と基本層序

第1節 調査の方法

1. 調査区とグリッドの設定

調査は元県職員駐車場部分の東西約93.5m、南北約63m、面積約5,900m²をI区とし、山梨文化会館西側にあたる元北口第一駐車場の一部分東西約22m、南北約50m、面積約1,100m²をII区とし調査区と定めた。

グリッドの設定は近接して発掘調査されている地点の遺構との関係が容易に判断できるように国土座標に基づいた5mに設定した。南北のグリッドラインは真北を示しており、磁北よりより6度東側にずれる。ちなみに山梨県地域での国土座標原点は長野県佐久郡南牧村の東経130°30'00"、北緯36°00'00"地点に設定されていることを付け加えておく。

また、本遺跡では調査区が2カ所に及んでいるため混乱を来さないようI区では順次北に向かってアルファベット大文字[A]から[R]まで、II区では北に向かって平板名[あ]から[こ]までとし、東西方向はI・II区共通にアラビア数字を西から東に[1]から[21]まで付した(第3図参照)。グリッドの呼称は5m間隔で正方形に設置された杭の北東隅の杭の名称をグリッド名とすることとした。

2. 遺構掘削と記録方法

調査地点では近隣での調査の状況などから表土並びに近代の搅乱の多く入っている層の把握が十分に出来ていたため、調査地I区西側より平爪バケット装着の大型重機による表土の除去を行った。なお、この地点の深度は隣接して北に上がる武田通りの道路面とほぼ同じであるため、約1~1.2mの深度までの除去となる。また、部分的に存在するアスファルト舗装や過去にあった建築物の基礎コンクリート、全面に敷設されている碎石層は分別して保管することとした。

近代以降の第Ⅲ層までは重機によって土壤の除去を実施しそれより下層についての掘り下げは人力によってグリッド単位で遺構・遺物の把握に努めた。プランの判明した遺構に対しては土層堆積確認用のベルトを適宜設け、平面・断面図等の図面作成を行っていった。図面は当該遺跡がほぼ平坦であることから図面整理の容易さを考慮し造り方測量を基本とした。また、井戸など調査が危険深度まで達する遺構については安全確保の観点から総ての調査終了後、埋め戻し時に大型重機によって断ち割り写真撮影することで対応した。

記録写真は一眼レフカメラによる35mmモノクロおよびリバーサルフィルム撮影のほかデジタルカメラ、中判カメラによる撮影も適宜行った。



平成17年度I区表土剥ぎの状況



平成18年度II区表土剥ぎの状況

第2節 基本層序

調査区地表面標高の最高地点はI区北東部で約280.500m、最も低い地点はII区南端部で約278.500mを測りおおよそ2mの比高差を有している。

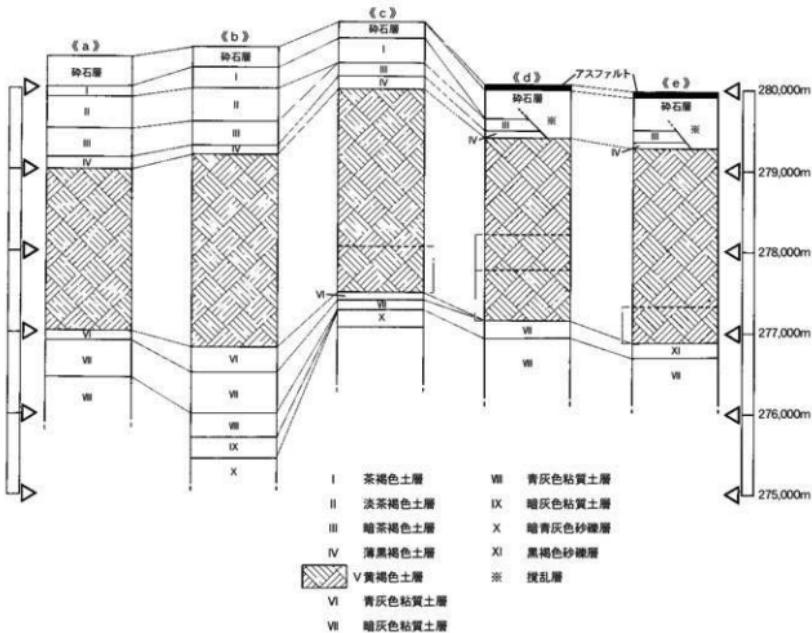
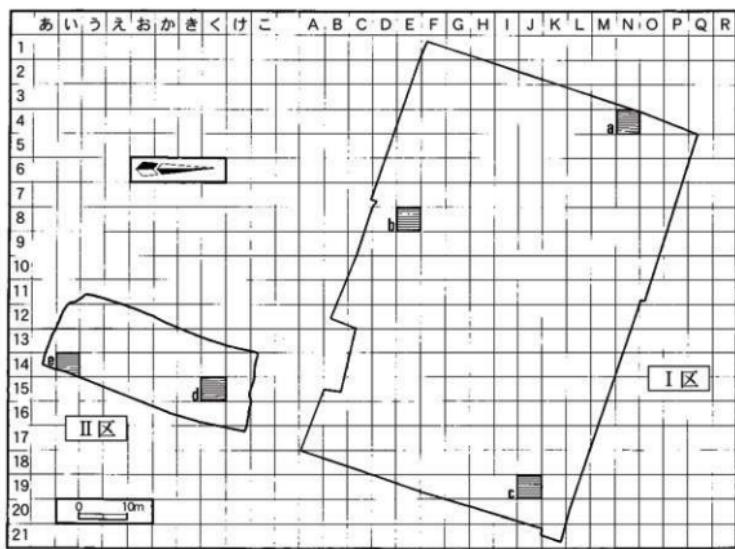
基本層序は調査区が広大なため土層堆積状況の良好な箇所を5地点選定し調査終了後の埋め戻し直前に深掘りあるいは井戸の断ち割りを実施する時に観察した。

表土層はアスファルト舗装・碎石層である。その下層の第I層（茶褐色土層）についても硬く転圧されており多くの箇所で搅乱も見られることなどから表土直下の造成時の盛土の可能性がある。第II層の淡茶褐色土層は20～30cmの厚さの近世（19世紀以降）における堆積層と想定できる。なお、火災等の痕跡は見られなかった。第III層（暗茶褐色土層）は近接する過去の発掘調査でも確認されている18～19世紀の遺物を多く混入する江戸時代後期の層である。第IV層（薄黒褐色土層）は非常に薄く堆積を見せる層で周囲の状況などから近世以前（中世・戦国期か？）と推定している。表土層からこの第IV層までは後世の土地利用によって各所で建物基礎の敷設などで削平されており必ずしも依存状態は良好なものとはいえない。

第V層以下は自然堆積層である。第V層（黄褐色土層）は非常に厚く確認できての観察地点で2～2.5m以上の堆積を見せている。江戸期の武家屋敷造成にあたっては溝状造構など区画割りをする造構など多くの造構がこの第V層まで切り土している。第VI層は第I区において確認された青灰色粘質土層である。第VII層（暗灰色粘質土層）は調査区のほぼ全域において確認できるが南端部では観察できなかった。第VII層（青灰色粘質土層）は第VI層と同意層である。第IX層は暗灰色粘質土層である。第X層（暗灰色砂礫層）は透水層であり、標高約275m前後に位置している。第XI層は第II区南端部においてのみ確認された第V層（黄褐色土層）直下に存在する黒褐色砂礫層である。



調査地土層断面の状況



第3図 基本層序観察地点と柱状図

第4章 各節

第1節 発掘調査の概略

甲府城下町遺跡〔新たな学習拠点建設事業〕は甲府市北口2丁目に所在し、甲府駅北口に近接している。調査地周辺は秩父山系から湧出し甲府市北部の山裾より甲府盆地に流下する相川によって形成された扇状地扇端部にある。調査地点は標高約280mの南緩傾斜地であり、西方に相川、東方に藤川や標高約423mの愛宕山を見る位置に存在する。過去、当地点に近接して数ヶ所で発掘調査が実施されており、古墳時代以降の遺物等が数多く検出されている。また、中世の当該地は戦国期武田氏館跡城下町の一角を占め、江戸期以降幕末期までは甲府城「山手御門」北側の山手小路・森下小路・橋小路に囲まれた位置にある武家屋敷地に相当する。江戸柳沢期（1704年～1724年）の「甲府御城絵図」によると柳沢吉保家臣御寄合「根津文左衛門」らが居住していたことが理解できる。また、幕末にあたる嘉永2年（1849年）以降の「懐宝甲府絵図」では「中島・焉田・カモミヤ」の屋敷地の他、空閑地が区画されている。

2年に渡る発掘調査により、次のような成果が得られている。

遺構は、当初は調査範囲のいたる所に後世の建物基礎、上・下水施設等による擾乱による影響が想定できただが、井戸12基、溝状遺構約50条、土坑約50基（墓坑を含む）、埋桶11基のほか多数の柱穴などが検出された。

井戸は素掘りで下方に井戸桶を有するタイプと内面に石積みのあるタイプに大別できる。

溝状遺構については、そのほとんどが甲府城下町の街路区画に平行または直交するもので、現在のところ塙や生垣等とセットで屋敷等の区画とされていたと推測している。

土坑は、各所から検出されたが直径2m以上の形状を呈するものが目立つ。そのほとんどの用途は不明であるが、戦国期と想定できる墓坑も數基含まれている。

埋桶については大型のものと小型のものがあり前者は便槽遺構とも想定できようが、後者は現在のところその用途は不明である。

遺物の検出は、中世から近世近代まで様々である。種類も喫茶用具（土瓶、急須）、食膳用具（猪口、湯飲み、皿、茶碗）、調理用具（擂鉢、捏鉢、焜炉）、神酒徳利や仏飯器などの信仰に関わる用具類と多岐にわたっている。その他、江戸中期以降、生物の飼育や花木の栽培鑑賞が流行し、中でも、文鳥や鶯などの小鳥が盛んに飼育され、さえずりや美しさが愛好される。これらの趣味の用具として、水や餌を入れて鳥籠の中に入れておくための餌猪口（えじょく）や植木鉢なども出土し当時の趣味娯楽の世界を垣間見ることができる。

今回の調査で以上のような成果が得られたことは、広大な甲府城下町遺跡の一端を探る上で欠くことのできない歴史資料となることは間違いないであろう。

また、基礎的整理作業においては、出土遺物の注記・接合・復元の他、報告書掲載資料の抽出も実施した。

第2節 検出された遺構と遺物

遺構のほとんどが、中世から近世近代に帰属するものである。その分布状況はやや密にあると言える。中世では武田氏戦国期城下町の南端部に位置している関係からか1,550年頃の墓坑や溝状遺構が検出されている。また、近世では勤番時代に空閑地となっていた時期があるためか屋敷地を区画する溝状遺構とセットとして築地塙を想定させるピットも検出された。そのほか、井戸・土坑などが確認されている。

【I区】

○溝状遺構

■第1号溝状遺構（第10~12・77・78図）

位置 調査区[I区]の西側を南北にJ-3区~P-5区にかけて走る。第3・8・9溝状遺構に切られている。

形状 長さ約32m・幅約1.5mで直線状に伸びる。底部形状は平坦で壁は緩やかに約30cm立ち上がっていいる。

遺物 磁器・小皿・小皿・陶器一天目茶碗・中碗・小皿・擂鉢・小壺・土器ーかわらけ・灯明皿・火鉢、石製品ー硯、金属製品ー錢貨など豊富に検出されている。

時期 灰釉小皿などからみれば大窯期の時期設定ができる。また、かわらけ・灯明皿などからも中世から18世紀中葉までの時期に比定される。若干ではあるが横走する橋小路のラインより北に振れていることから戦国期構築の可能性も捨て切れない。

■第2号溝状遺構（第13図）

位置 K-7区に位置し第3号溝状遺構に切られているが新旧関係は不明である。

形状 深度は約15cmと浅く直線状に約7.3m伸びる。

遺物 遺構構築時期を推定できる遺物の検出はなかった。

■第3号溝状遺構（第14・15図）

位置 L-3からJ-8区まで約31mほど直線的に走る。また、L-4区でほぼ直角に第1号溝状遺構を切り、K-6区で第9号溝状遺構に接觸している。また、K-7区で第2号溝状遺構と直角に接続している。さらにJ-8区では第9号土坑に切られている。

形状 平面形は直線であり、底面は平坦に壁面はやや急激に立ち上がる。

遺物 時期判断できる遺物の出土はない。

■第4号溝状遺構（第24図）

位置 E-8区からD-12区に直線的に確認された。

形状 長さ約17m、幅約1mの規模で深度約10cmと浅く壁は緩やかに立ち上がる。E-8区で第7号井戸に切られている。また、第22号溝状遺構と併走しており、延長線上に第21号溝状遺構が位置している。

遺物 図示し得る遺物の出土はないが周囲の状況などから構築時期は近世と考えておきたい。

■第5号溝状遺構（第13図）

位置 J-6・I-6・I-7区より検出された。

形状 長さ約3.8m、幅約80cmで深度は約13cmと浅い。底面は平坦で、壁面は、やや急激に立ち上がる傾向をみせている。

遺物 構築時期を決定できる遺物の出土はない。

■第6号溝状遺構（第16・17・78~81図）

位置 K-4・5区、J-5区より検出された。

形状 長さ約8.1m、幅約1.3mを測り直線的に走る。近接する第8号溝状遺構とは併走し、第7号溝状遺構とは直角に交わる。新旧関係は第7号溝状遺構が古い。また、西側で一段の段差を持つ。深度は約85cmを測る。壁面は、ほぼ垂直に立ち上がりをみせている。

遺物 5層からなる覆土中のほぼ全体から遺物の出土をみた。その種類は磁器ー酒杯・小碗・中碗・小皿・中皿・神酒徳利、陶器ー中皿・中碗・擂鉢・花生、土器ーかわらけ・灯明皿・焙烙・風口、瓦ー丸瓦などである。これらの遺物の時期は概ね18世紀中葉から19世紀中葉までが多い。

時期 出土遺物の多くが18世紀中葉から19世紀中葉までに位置付けられる物であり、明治維新の勤番土廃止に伴い一括廃棄されたものと推測して良いと思われる。よって当溝状遺構の使用された年代は

幕末から明治初頭と思われよう。

■第7号溝状遺構（第16図）

位置 I-4・5区、J-5区に位置している。

形状 南北に直線的に長さ10.3m、幅63cmの規模で検出された。深度は約30cmで壁面は北側に向かうにつれて急傾斜を持って立ち上がる傾向をみせている。底面形はU字あるいはV字状を呈している。また、接している遺構との新旧関係は第14号土坑→第10号溝状遺構→第7号溝状遺構→第6・11号溝状遺構となろう。

遺物 構築時期を決定できる遺物の出土はない。

■第8号溝状遺構（第16図）

位置 K-3・4・5区、J-5区に位置している。

形状 第9号溝状遺構に周囲を囲まれている。第1号溝状遺構を直角に若干切る形で直線的に東西方向に伸びている。また、第6号溝状遺構と近接し併走する。

遺物 図示し得る遺物の出土はない。

■第9号溝状遺構（第16図）

位置 J-2～6区、I-5区、K-4～6区、L-3・4区に位置し西側の調査区外に伸びる。

形状 検出状況は幅約70cm、深度約30cmで約20cmの大きさの掘った円礫が充填され約38.2mに渡って「大コの字」状に確認された。平面形から想定するに、橘小路と調査区間で「口」状に囲まれる形状を持つものであろう。円礫を除去した後に確認された底面形はほぼ平坦で急峻な角度をもって壁を形成している。

性格 ほぼ同一の礫を選定し充填しており、形状が「口」状に想定できることや、接している全ての遺構を切っていることなどから明治以降の建物の雨落ち用溝や建物基礎、暗渠などの用途が推測される。

遺物 時代決定できる遺物の出土はなかった。

時期 遺構の切り合い関係から現段階では近代の遺構と考えている。

■第10号溝状遺構（第18・81図）

位置 J-2～5区、I-5～7区、H-7・8区に位置し西端で調査区外に伸びている。

形状 長さ約28.1m、幅約95cm、深度約40cmを測り直線的に伸びる。底面形はほぼ平坦で壁面はやや急峻に立ち上がっている。検出したほぼ半分の位置から西側で、同一の方向で第9号溝状遺構に切られている。また、第14号土坑をわずかに切る形で接触している。さらに平行して柱穴も確認されており、屋敷地を区画する溝状遺構と想定できよう。

遺物 4層からなる覆土中からは陶器一仏飯器（18世紀代）が出土している。

時期 遺構の切り合い関係や出土遺物から江戸期18世紀代の所産と比定できる。

■第11号溝状遺構（第19・20・81・82図）

位置 I-4区、H-4～6区に位置している。東側端部で第12号溝状遺構と直角に接觸している。また、西側では搅乱坑に大きく切断されており、その延長線上に第13号溝状遺構が存在している。このため、第13号溝状遺構とは同一遺構と推測もできる。

形状 長さ約11.2m、幅約85cm、深度約25cmを測り、わずかに蛇行をみせるものの、ほぼ直線で東西に伸びる。東端部は浅い土坑状の広がりをみせ、第12号溝状遺構との接続を伺わせている。底面の形状はU字状を呈している。また、壁面の立ち上がりは緩やかである。

遺物 磁器一皿・小碗・神酒徳利、陶器一急須・土瓶・擂鉢などおおよそ18世紀代の遺物が出土している。

時期 出土遺物や周囲の状況から江戸期18世紀代と推測できる。

■第12号溝状遺構（第21・82図）

位置 F-5区、G-5区、H-5・6区に位置しており、北側端部で第11号溝状遺構とほぼ直角に接続している。また、第2号埋桶と接しており、第3号埋桶の東方約1m位置に存在している。

形状 南北に長さ約9.6m、幅約90cm、深度約23cmの規模を持ち、底面形は平坦で壁は緩やかに立ち上がっている。

遺物 磁器－神酒徳利、陶器－中碗、瓦－丸瓦がそれぞれ1点ずつ出土している。

時期 出土遺物から18～19世紀に存在していたと推測される。

■第13号溝状遺構（第21・82～84図）

位置 I-2・3区に位置しており、第16号土坑と接している。

形状 東側では擾乱によって切られ、西側では調査区外に伸びている。確認された規模は、長さ4.3m、幅75cm、深度は約37cmを測る。擾乱や走行している方位などから第11号溝状遺構の延長とも考えられる。底面は平坦で壁は垂直に立ち上がっている。

遺物 およそ18世紀中葉以降の磁器－酒杯・小碗・中碗・大碗・大鉢・神酒徳利、陶器－灯明皿・搖鉢・植木鉢・火鉢、土器－かわらけ、瓦－丸瓦と出土遺物は多岐に渡っている。

時期 出土遺物より18世紀中葉以降に使用された溝状遺構と思われる。

■第14号溝状遺構（第22・84・85図）

位置 第15・16号溝状遺構が合流した地点より直角に南側へ走っている。F-3区、G-3区に位置している。また、南方の延長線上に第18号溝状遺構が、西方には直角に第19号溝状遺構が接続している。

形状 幅にばらつきがみられるが直線的に長さ約7m、幅95cm、深度約38cmを測る。底面は平坦で、壁の西側は緩やかに、東側はやや急勾配で立ち上がる。

遺物 磁器－酒杯・中碗・皿・土瓶蓋、陶器－鉢・水鉢・蓋、土器－土製人形、金属製品－毛抜き・錢貨が出土している。製作時期はいずれも18世紀から19世紀代の範疇に入るものである。

時期 遺物年代より江戸後期より明治前半までの18世紀から19世紀代と比定できよう。

■第15号溝状遺構（第22図）

位置 G-2・3区に位置しており、第17号溝状遺構と直角に接続している。

形状 検出された長さは約2mと短い。幅は55cmを測る。底部は平坦で壁は垂直に立ち上がる。第17号溝状遺構との接続部には襖の入った柱穴が存在する。

遺物 図示し得る遺物の出土はなく時期決定できない。

■第16号溝状遺構（第22図）

位置 H-2区、G-2・3区に位置しており、G-3区で第17号溝状遺構と合流している。

形状 長さ約7.8m、幅約1m、深度約25cmを測り、東西方向に走る。北側の壁面は緩やかな立ち上がりをみせており杭列を伴っている。

遺物 遺物の出土はなく時期の決定は難しい。

■第17号溝状遺構（第22・85図）

位置 G-2・3区より検出された。G-3区で第16号溝状遺構と合流する。また、第15号溝状遺構が直角に接続する。

形状 長さ約7.93mで直線的に伸びる。幅は約40cmを呈し、深度は約14cmと浅い。底部は平坦で壁は緩やかに立ち上がりをみせている。

遺物 18世紀～19世紀とみられる磁器－神酒徳利が出土している。

時期 周囲の状況や出土遺物などから18世紀～19世紀として良かろう。

■第18号溝状遺構（第22図）

位置 E-3区、F-3区に位置している。第14号溝状遺構と直線的に繋がる。また、第14号溝状遺構との接続部では第19号溝状遺構も直角に接続している。

形状 第14号溝状遺構とは明らかに幅に違いがみられる特徴を持つ。第14・18・19号の3条をもってT字状の平面形をなしている。長さは約2.64m、幅約40cm、深度12cmを測る。底部は平坦で緩やかに立ち上がる壁を有している。

遺物 出土遺物はない。

■第19号溝状遺構（第22図）

位置 F-2・3区に位置している。第16・17号溝状遺構と平行している。

形状 第14・18号溝状遺構との接続地点のわずか手前で、土坑にはなり得ない円形の極浅い広がりを持っている。長さ約7.3m、幅約78cm、深度約20cmを測る。底部は平坦で緩やかに立ち上がる壁を持っている。

遺物 図示し得る遺物の出土はない。

■第20号溝状遺構（第23図）

位置 F-8・9・10区、G-8区において検出された。至近距離に第6号井戸があり、3条の溝状遺構がほぼ直交している。

形状 本調査区で検出された最大幅の溝状遺構である。わずかに湾曲があるが基本的には直線的に伸びる形状と言って良いであろう。長さ約13.72m、幅約3.28m、深度約30cmを測り所々に杭が打設されている。底面はほぼ平坦で緩やかに立ち上がる壁を持っている。覆土は6層からなり最上層には礫がみられる。

遺物 遺物の出土はない。

■第21号溝状遺構（第24図）

位置 D-11～13区に位置している。第4・22号溝状遺構とほぼ平行に南北方向に走る。

形状 長さ約6.1m、幅約55cm、深度約10cmを測る。中央あたりで、幅が若干広がる傾向を持っている。底面は平坦で壁は緩やかに立ち上がっている。

遺物 図示し得る遺物の出土はない。

■第22号溝状遺構（第24・85図）

位置 E-8～10区、D-10～12区に位置しており、第4号溝状遺構と近接した位置で併走している。また、南西部分では第21号溝状遺構が平行に、第23号溝状遺構が端部に直角に配されている。

形状 22.95mと非常に長い直線で幅約80cm、深度は約55cmを測る。底部の状況はU字形を呈しておりやや急峻に立ち上がる壁を持つ。また、わずかではあるが杭の打設も確認されている。

遺物 金属製品－銭貨の出土が2点みられる。

■第23号溝状遺構（第25図）

位置 B-11・12区、C-11・12区、D-12区に位置している。第21・22号溝状遺構と接続してはいないが端部にて直角に接する配置となっている。

形状 検出された長さは約7.58m、幅約1.1m、深度23cmである。なお、西端は調査区外に伸びている。底面形は平坦で壁は緩やかに立ち上がる形状を持つ。

性格 第22・23号溝状遺構で区画された範囲は絵図に見る武家屋敷地を想定させるものである。

遺物 図示や時期決定できうる遺物の出土はない。

■第24号溝状遺構（第26・85図）

位置 A-17・18区、B-16・17区に位置している比較的幅の広い溝状遺構である。西側は後世の建物基礎コンクリートにて削平されている。第26・27号溝状遺構とは約2mの間隔を保って並走しており、第25・39号溝状遺構とは直交している。

形状 全体に異形な部分が確認される。残存する長さは11.52mで幅は約45cmを測る。深度は約23cmと浅い。底面は平坦で壁は緩やかに立ち上がる形状を呈している。

遺物 土器－かわらけが出土している。

時期 遺物の時期より江戸期の遺構として差し支えないものと思われる。

■第25溝状遺構（第26・27・85・86図）

位置 A-17区、B-17・18区に位置している。第26溝状遺構より出発し南側調査区外に伸びる。

形状 暗渠状に礫が組み込まれている。直線状に南側に伸びており確認された長さは9.47m、幅15cmを測り、第24号溝状遺構を切っている。礫を排除した後の平面形はほぼ平坦で緩やかに立ち上がっている。

遺物 当遺構からは次のような豊富な遺物が検出されている。磁器－中碗・皿・五寸皿・蓋物蓋・土瓶・仏飯器・陶器－灯明皿・擂鉢・練鉢・鉢・火鉢・蓋・植木鉢・土器－焼塙蓋・焜炉・七厘（さな）。

時期 出土遺物の年代より18世紀～19世紀中葉の遺構と想定できよう。

■第26号溝状遺構（第25・26・86・87図）

位置 B-16～18区、C-16区に位置しており、第24・27号溝状遺構に挟まれた形で東西方向に併走している。また、第37号溝状遺構が本遺構をトレースする形で検出されている。同様に遺構内に第14号土坑が確認されているほか、第18・32・33号土坑、第4号埋立が近接している。

形状 確認された長さは約20.14m、幅は約85cm、深度約26cmを測る。底面の状況は平坦で壁は緩やかに立ち上がっている。また、木杭が両側壁に沿って、ほぼ40～50cm間隔で検出された。

遺物 2層に分かれる覆土からは、磁器－小杯・中碗、土器－焜炉、金属製品－角釘・錢貨が検出された。

時期 構築された年代は、第37号溝状遺構（～18世紀中葉）を切っている事と、出土した磁器の年代より19世紀中葉以降、つまり明治期のものと推測できよう。

■第27号溝状遺構（第28・87・109～111図）

位置 C-16～19区に位置しており、第24・26・28号溝状遺構と同様に東西に併走しており、東方では第38号溝状遺構・第9号井戸とほぼ直角に接している。さらに西方では第29号溝状遺構と直交する。

形状 溝内に石積みを有し、L字状に屈折する。石積み下には胴木も検出されている。また、西面には杭が打設されている。検出された長さは約10.9m、幅1.05m、深度は45cmを測る。底面は平坦で壁面は急峻な勾配をもつて立ち上がっている。

遺物 磨混じりの4層からなる覆土中からは、磁器－小碗・皿・蓋物・仏飯器・検査用乳鉢、陶器－土鍋・鉢・擂鉢・土瓶・行平・捏鉢・片口、土器－植木鉢、ガラス製品－瓶が出土している。

時期 出土遺物より19世紀中葉以降の所産と考えられる。

■第28号溝状遺構（第28図）

位置 C-17・18区、D-16・17区より検出された。西端では第29号溝状遺構と東端では第38号溝状遺構とほぼ直角に接続している。

形状 平面形は他の溝状遺構と違い緩いS字状をみせる。長さは約10.9mで幅は約35cmと狭く深度も浅い。底面は平坦で壁は緩やかに立ち上がる形状をとる。

遺物 遺物の出土はない。

■第29号溝状遺構（第29・87図）

位置 C-15区、D-16区、E-16区、F-17区に位置し第35号溝状遺構と北端付近で直交している。

形状 直線的な伸びをみせるがC-16区にて後世の建物基礎で削平されている。遺構は、柱穴と杭列を有している。検出された規模は長さ約14.71m、幅約82cmを測る。深度は約12cmと浅い。底面は平坦で壁はほんの僅かな傾斜で立ち上がっている。

遺物 磁器－中碗、陶器－灯明皿・鉢、金属製品－錢貨が出土している。

時期 出土した遺物の年代から、18世紀中葉から19世紀代と推察される。それらのことから当遺構の時期は幕末から明治初期と想定できよう。

■第30号溝状遺構（第30図）

位置 D-14・15区に位置している。

形状 長さ約3.42m、幅約55cm、深度約18cmを測る。

遺物 遺物の出土はない。

時期 他の第31～34号溝状遺構と同様の形状から明治期以降当地が耕作化されていた時期の畝状遺構と

想定できる。

■第31号溝状遺構（第30・87図）

位置 D-14区にて検出された。周辺には同方向に走る第30~34号溝状遺構がある。

形状 長さ約3.08m、幅約50cm、深度約10cmであり直線的に伸びる。底面は平坦で壁面は緩やかに立ち上がっている。

遺物 磁器－中碗、陶器－擂鉢の2点が出土している。

時期 遺物の年代からすると18世紀～19世紀代と理解できようが周囲の同様の歟状を呈する溝状遺構との関係などから想定するに明治期以降の所産と考えられよう。

■第32号溝状遺構（第30・87図）

位置 E-14区に位置している。同グリッドには第33・34号溝状遺構が東西方向に並列している。

形状 長さ約3.13m、幅約39cm、深度約15cmを測る。底面は平坦で壁は緩やかな傾斜をもって立ち上がる。

遺物 日章旗の模様押しされて作られたガラス製おはじきが1点出土している。

時期 周囲の同形態の歟状を呈する溝状遺構や出土遺物などから明治期以降と考えられる。

■第33号溝状遺構（第30図）

位置 E-14区に位置している。同グリッドには第32・34号溝状遺構が東西方向に並列している。

形状 長さ約3.2m、幅約42cm、深度約18cmを測る。底面は平坦で壁面は緩やかに立ち上がっていく。

遺物 遺物の出土はない。

■第34号溝状遺構（第30図）

位置 E-14区に位置している。同グリッドには第32・33号溝状遺構が東西方向に並列している。また、北側の至近距離に第30号土坑がある。

形状 長さ約3.74m、幅約55cm、深度約25cmを測り直線的に伸びる。底面は平坦で壁面は緩傾斜をもって立ち上がってゆく。

遺物 遺物の出土はない。

■第35号溝状遺構（第29・87図）

位置 E-16・17区に位置しており、第29号溝状遺構と直交している。

形状 長さ約6.51m、幅約52cm、深度約37cmを測り、直線的に東西方向に伸びる。

遺物 遺物の出土は器種不明の土器（近世か？）が出土しているのみである。

性格 第29号溝状遺構とともに武家屋敷地の区画を示しているものと想定できる。

■第36号溝状遺構（第30・87図）

位置 E-13・14区、F-14・15区に位置している。東側端部に第44号土坑が近接して検出されている。

形状 長さ約7.3m、幅約1.1m、深度約41cmの規模で直線的に東西方向に伸びる。

遺物 4層からなる覆土より磁器－中碗、ガラス製品－おはじきが出土している。

時期 出土遺物などからは時期決定できる確証は得られなかった。

■第37号溝状遺構（第25・26・88図）

位置 B-16～18区、C-16区に位置しており、第26号溝状遺構と壁面を切り合いながら併走している。

形状 直線的に長さ約8.53m、幅約60cm、深度約16cmを測り、主に、北側の壁面に杭の打設が確認できた。

遺物 土器－灯明皿が出土している。遺物から時期判断をするならば中世から18世紀中葉までに帰属する遺構と考えられる。

性格 切り合い関係をみると第4号埋桶や第26号溝状遺構に切られており、これらの遺構より古い時期の18世紀中葉以前に所在したものと判断できよう。

■第38号溝状遺構（第31・88図）

位置 C-18区、D-18区、E-18・19区、F-19区に長く伸びている。南側端部は石積みを持つ第27号溝状遺構に切られて、第9号井戸と近接をしている。反対側の北側では第10号井戸に接近した位置が端部となっている。

形状 長さは約24.5mを呈しており、幅約60cm、深度約31cmを測る。底面形は平坦あるいはU字状を示す。壁面の立ち上がりはやや急峻である。

遺物 磁器－中碗、陶器－灯明皿、金属製品－銭貨が出土している。

時期 出土遺物から18世紀中葉以降の時期設定ができるよう。

■第39号溝状遺構（第26・88図）

位置 A-16・17区、B-17区に位置しており、第24号溝状遺構より南側調査区外に向けて僅かながら検出されたものである。

形状 直線的に伸びる形状をとる。検出された長さは約1.85m、幅約1.2m、深度約17cmを測る。対面の状況は平坦で壁面は緩やかに立ち上がっていく。

遺物 2層からなる覆土中からは陶器－大碗が出土している。

時期 遺物の時期からみれば18世紀代が妥当といえよう。

■第40号溝状遺構（第32・88図）

位置 G-16～19区に位置している。東進した後、第38号溝状遺構と直交する。

形状 長さ15.34m、幅約90cm、深度約20cmの規模で直線的に伸びる形状をとる。

遺物 土器－灯明皿が出土している。

時期 出土遺物からの時期をみると下限を18世紀中葉とみて良いだろう。

■第41号溝状遺構

欠番

■第42号溝状遺構（第88図）

位置 K-16区、J-16区、H-15区、G-15区に位置している。

形状 直線的に伸び、直角に近い角度で立ち上がる。

遺物 磁器－集結器・検査用乳鉢、石製品－石臼が出土している。

時期 近現代に位置付けたい。

■第43号溝状遺構

位置 I-17区、H-17区、G-16・17区、F-16区に位置している。

形状 直線的に伸び、直角に近い角度で立ち上がる。

遺物 遺物の出土はない。

時期 検出状況などから近現代に位置付けたい。

■第44号溝状遺構（第33・88図）

位置 J-17区、K-17区に位置している。近接して4基の柱穴がある。

形状 直線的に伸び、その規模は長さ約6.18m、幅約62cm、深度は浅く約15cmを測る。

遺物 磁器－中碗が出土している。

時期 出土遺物から概ね18世紀代と想定している。

■第45号溝状遺構（第33図）

位置 H-13区、I-13区に位置している。

形状 端部に煉瓦組みの污水枠がある。直線的に伸び、長さ約4.8m、幅約62cm、深度約32cmを測る。

底面形はU字形で壁面は急峻に立ち上がる傾向が見られる。

遺物 遺物の出土はない。

時期 污水枠に接続されている所から近現代に位置付けられるものである。

■第46号溝状遺構（第33図）

位置 H-13区に位置しており、第45号溝状遺構より北方向に直角に派生している。

形状 第45号溝状遺構より約1.2mの長さで直線的に伸びている。幅は約58cm、深度は約24cmを測る。

遺物 図示し得る遺物の出土はない。

時期 第45号溝状遺構との関係から近現代に位置付けられよう。

■第47号溝状遺構（第34図）

位置 F-10区、G-10・11区、H-10・11区に位置している。第48号溝状遺構と併走するともに第20号溝状遺構の北側に直角に接続している。

形状 直線的に伸びH-10区内で第48号溝状遺構とともに消滅していく。確認された長さは約11.75m、幅約85cm、深度約24cmを測る。底面形は平坦であり、壁面は急峻な角度をもって立ち上がっていている。

遺物 遺物の検出はない。

■第48号溝状遺構（第34図）

位置 F-10区、G-10区、H-10・11区に位置している。第20号溝状遺構より第47号溝状遺構とともに併走している。

形状 直線的に伸びH-10区内で消滅していく。長さは約11.59m、幅約96cm、深度約25cmを測る。底面は平坦で壁はほぼ垂直に立ち上がっている。

遺物 図示し得る出土遺物はない。

■第49号溝状遺構（第35図）

位置 F-12・13区、G-13区に位置している。周辺は近現代の建物基礎コンクリートで削平が激しい。

形状 長さ約6.15m、幅約50cm、深度約24cmの規模で直線的に伸び内部には切石積みの石組み溝が形成されている。

遺物 遺物の出土はない。

時期 切石積みが採用されている点などから明治以降の溝である可能性が強い。

■第50号溝状遺構（第35図）

位置 D・E・F・G-13区に位置している。コンクリート建物基礎により一部が破壊されている。

形状 南北方向に走り第53号溝状遺構と直交する。また、第55号溝状遺構もほぼ直角に接近している。溝内底部壁際の立ち上がり部分には約60cm間隔で極小サイズの柱穴が確認できている。これは、他の溝状遺構にもみられる杭の打設された痕跡とみて間違いないものと思われる。底面はほぼ平坦と言つてよく壁面はなだらかに立ち上がって行く状況が見て取れる。

遺物 遺物の出土はない。

時期 出土遺物こそ無いが主軸方向や検出状況などから江戸期の遺構と考えて良さそうである。

■第51号溝状遺構（第35図）

位置 F-11・12区に位置している。本来は第50号溝状遺構に直角に交わっていた様子が検出時に容易に理解できる状況であった。東西方向に伸びる溝状遺構であり東側は後世の搅乱や建物基礎などによって削平されている。

形状 直線的に伸び、底面は平坦な形状を持ち、西側端部に僅かな平坦面の段差を有している。壁は急角度で立ち上がっている。確認された長さは約12.52m、幅約60cm、深度約35cmを測る。

遺物 遺物の出土はない。

時期 遺物からの時期決定はできないが形状や主軸方向などから第50号溝状遺構同様に江戸期に構築されたものと推測できよう。

■第52号溝状遺構（第35図）

位置 F-11区、G-12区に位置している。南側を煉瓦組みの污水井に、東側壁面を平行に建物基礎によっ

て削平されている。第51号溝状遺構とは直角に、第50号溝状遺構とは平行に走る位置となる。

形状 北東方向に直線的に伸びている。検出された長さは現存長約3.86m、幅約95cm、深度は約15cmと浅い。北側端部の形状は他の溝状遺構が弧を描く形状を取っているのと違い角度を持った形状を作り出されている。底部は平坦であり、壁面は緩やかに立ち上がっている。

遺物 図示し得る遺物の出土はない。

■第53号溝状遺構（第35図）

位置 E-13区に位置している。第50号溝状遺構と直角に交差している。

形状 東西方向に直進し調査区外に消える溝状遺構で遺構底面は平坦であるが小柱穴を有している。その用途は不明である。また、壁は緩やかに立ち上がっている。検出長は約5.81m、幅約43cm、深度約15cmを測る。

遺物 時期決定できうる資料の出土はない。

時期 遺物からの時期決定はできないが遺構切り合い状況からみれば当溝状遺構の方が第50号溝状遺構より新しいことが言えそうである。

■第54号溝状遺構（第35図）

位置 F-13区に位置している。明治期以降と推される石組みの溝状遺構である第49号溝状遺構と西端部がほぼ直角に接している。

形状 長さ約2.1m、幅約65cm、深度約38cmの小型な規模の溝状遺構である。底面は平坦で壁面は垂直に立ち上がりいわゆる箱形を呈している。

遺物 図示できる遺物の出土はない。

時期 明治期に比定されている第49号溝状遺構に西側端部を切られていることから明治期以前の遺構としておきたい。

■第55号溝状遺構（第35図）

位置 F-13・14区を東西に走る短い溝状遺構で第50号溝状遺構と直角に対峙する位置にある。

形状 近接する位置にある第54号溝状遺構とほぼ同じ規模・形状を持っていると言って良いだろう。長さ約1.73m、幅約66cm、深度約36cmを測る。壁面は垂直に立ち上がっている。

遺物 遺物の出土はない。

時期 同形状の第54号溝状遺構が近接した地点にあることなどから明治期以前の遺構である可能性も捨てがたい。

◎ 土坑

■第1号土坑（第36図）

位置 N-5・6区に位置している。西側には第1号溝状遺構が南北方向に走っている。

形状 不整形を呈し、長軸約4.0m、短軸約2.7m、深度約17cmを測る。底面はほぼ平坦で壁は極めて緩やかに立ち上がる。

遺物 遺物の出土はない。

■第2号土坑（第36・88図）

位置 M-3区にあり、ほぼ半分は調査区外にあるものと想定できる。北側に近接して第3号土坑が確認されている。

形状 不整形を呈し底面には起伏がみられる。壁の立ち上がり状況は南側では急角度で北側ではやや緩やかである。規模は長軸約2.79m、深度約38cmを測る。

遺物 土器一かわらけが1点出土している。

時期 出土遺物の製作時期からみると18世紀中葉以前となろう。

■第3号土坑（第36図）

位置 M-3・4区にあり南側には第2号土坑が検出されている。当遺構は調査対象地の際にありその全容は明らかになり得なかった。

形状 不整四角形を呈しているものと推される。短軸約95cm、深度約26cmで底面は緩やかな起伏を有している。

遺物 図示し得る遺物の出土はない。

■第4号土坑（第37図）

位置 L-6区において検出された。近くに第5・6号土坑がある。

形状 楕円方形を呈している。長軸約98cm、短軸約83cm、深度約20cmを測る。底面は正方形に近く平坦である。壁の状況はやや緩やかな傾斜をもって立ち上がっている。

遺物 遺物の出土はない。

■第5号土坑（第37図）

位置 L-6区に位置している。付近には第4・6・7号土坑が点在している。

形状 平面形はほぼ正円を呈しており、底面は平坦で壁は緩やかに立ち上がっている。長軸約1.22m、短軸約1.27m、深度約23cmを測る。底面はなだらかな傾斜を持ち壁は緩やかな角度で上方を向く。

遺物 遺物の出土はない。

■第6号土坑（第37図）

位置 K-6・7区に位置しており、第7号土坑が東側で接続している。

形状 不整形を呈しており、長軸約2.02m、短軸約1.27m、深度約36cmを測る。底面は大きな起伏を伴っている。壁面の傾斜はなだらかである。

遺物 遺物の出土はない。

■第7号土坑（第37図）

位置 K-7区において第6号土坑と接続した形で検出された。

形状 不整形を呈している。長軸約1.6m、短軸約1.21m、深度約50cmを測る。底面はなだらかな形態をしている。壁面は緩やかな傾斜で上方に開口している。

遺物 図示し得る遺物の出土はなかった。

時期 第6号土坑と切り合い関係にあるが新旧は不明確である。

■第8号土坑

欠番

■第9号土坑（第38・88・89図）

位置 I-8区、J-8区に位置しており北側を第3号溝状遺構と接続している。また、東側には4箇所に柱穴を確認している。

形状 楕円方形を呈し、その規模は長軸約3.72m、短軸約3.09m、深度約51cmを測る。底面の状況は平坦であるが東南側に一段上がったテラスを有している。

遺物 8層からなる覆土中から、磁器一小杯・小碗・中碗・蓋、陶器一灯明皿・瓶、土器一灯明皿・かわらけ・焙烙などが出土している。

時期 第3号溝状遺構に切られている点や出土遺物の時期などから18世紀中葉から19世紀代の所産と考えて良いであろう。

■第10号土坑（第38・89図）

位置 J-8・9区に位置している。また、第3号溝状遺構を挟んで第9号土坑と対峙している。

形状 長楕円形を呈している。長軸約1.63m、短軸約98cmで深度は約13cmと浅い。底面は平坦で壁は緩やかな傾斜を持って開口している。

遺物 遺物は土器・焙烙が出土している。

時期 出土遺物や周囲の状況より近世と考えて良いだろう。

■第11号土坑（第39・89図）

位置 G-7・8区に位置している。周間に近接した遺構はない。

形状 長楕円形状を呈している。その規模は長軸約3.03m、短軸約1.69m、深度約17cmを測る。底面の形状は僅かに中央に向かって傾斜を持っているが、ほぼ平坦と言っても良いであろう。壁は緩やかな傾斜で立ち上がる。

遺物 磁器一猪口、土器一かわらけ、瓦一輪違い瓦の出土があった。

時期 遺物の状況から概ね18世紀代の時期が求められよう。

■第12号土坑（第39・89図）

位置 H-8・9区、I-8・9区に位置している。西側には第9・10号土坑や第10号溝状遺構がある。

形状 全容が明らかとなつてはいないが平面形は第9号土坑と同じく隅丸方形状を呈しているものと推測できる。短軸は約2.62m、深度約58cmを測る。底面は平坦で壁は垂直に近い角度で立ち上がっている。

遺物 7層に分層できる覆土からは土器一灯明皿、金属製品一錢貨が出土している。なお、覆土中には拳から人頭大の礫の混入がみられた。

時期 現在のところ出土遺物や周囲の状況などから18世紀代の所産としておきたい。

■第13号土坑（第40・41・90・91図）

位置 調査区の西南端方向に当たるE-4・5区、F-4・5区より検出された。当遺構の東側に近接して第12号溝状遺構がある。

形状 基本形は隅丸方形状を呈しているものであろうが、東南方向にやや歪みを持っている。長軸約3.8m、短軸約3.07m、深度約31cmの規模を有している。底面には一段低く、隅丸長方形状の凹みを持つ。壁の立ち上がりは緩やかな傾斜として良いだろう。

遺物 磁器一小碗・碗・大碗・小皿・土瓶・蓋物、陶器一擂鉢・瓶・仏飯器・灯明皿・灯明受皿、土器一五穀、石製品一宝幢印塔（宝珠）と豊富な遺物が出土している。

時期 出土遺物より18世紀中葉～19世紀中葉として良いであろう。

■第14号土坑（第40・91図）

位置 I-5・6区、J-4・5区において確認された遺構である。第7・9号溝状遺構によって切られている。

形状 平面形状は長楕円形を呈している。長軸は第7号溝状遺構により端部が削平されてしまっているが約9.2m、短軸約2.03mを測る。また、深度は約39cmである。

遺物 陶器一皿、土器一灯明皿・かわらけ、金属製一小柄、獸骨（ニホンジカ・ウマ？）が4層からなる覆土中から検出されている。

時期 出土遺物の年代から18世紀中葉以前と考えて良いであろう。

性格 拳大の礫が多く覆土中に充填されている事や獸骨など遺物出土状況から祭祀的要素を持つ土坑の可能性も強い。

■第15号土坑（第42図）

位置 I-4区より確認された。第7・9・11号溝状遺構によって囲まれた範囲に存在している。

形状 不整楕円形を呈している。長軸は約1.58m、短軸約94cm、深度約37cmを測る。坑内には2箇所に柱穴状の凹みを持つため、底面には平坦面が僅かにあるのみである。

遺物 遺物の出土はない。

■第16号土坑（第42・43・91～95図）

位置 調査区の西端にあたるH-2・3区、I-2・3区に位置している。南側には第16・17号溝状遺構が東西に走っている。また、当遺構は北辺部を第13号溝状遺構と接している。

- 形状** 平面形は不整円形を呈しており底面は起伏に富んでいる。壁はほぼ垂直に立ち上がりをみせている。
その規模は長軸約3.58m、短軸約3.36m、深度約37cmを測る。
- 遺物** 4層からなる覆土中からは拳大の角礫の他、磁器一紅猪口・小杯・小碗・中碗・大碗・小皿・中皿・段重・蓋物・神酒德利・仏飯器・検査用乳鉢・陶器一擂鉢・飼猪口・中壺・瓶・土瓶・土鍋・秉燭・灯明皿・灯明受皿・土器一灯明皿・かわらけ・焰格・焜炉・火鉢・火消壺蓋・五徳・七厘・石製品一硯・金属製品一刀装具(切羽)といった豊富な遺物が検出された。
- 時期** 豊富な出土遺物より概ね18世紀中葉から19世紀中葉の造構と推定される。
- 性格** 若干、時期の異なる遺物が混入されてはいるものの、明治維新によって勤番支配が廃されて拝領地を返納し当地を立ち去る前に生活資材を一括廃棄した土坑である可能性が強い。

■第17号土坑(第44・95・96図)

- 位置** E-10・11区に位置しており、近接して第4・20号溝状造構などがある。
- 形状** 平面形は不整長方形を呈している。底面はほぼ平坦で壁は緩やかに立ち上がっている。規模は長軸約4.49m、短軸約1.8m、深度42cmを測る。
- 遺物** 坑内は5層の覆土が観察され、磁器一小碗・中碗・皿、陶器一擂鉢・碗・皿・瓶、土器一かわらけ・灯明皿・瓦一丸瓦が検出されている。
- 時期** かわらけ・灯明皿などの特徴などによって18世紀中葉以前の造構としておきたい。

■第18号土坑(第44・96・97図)

- 位置** B-18区に位置している。第26・27号溝状造構、第32号土坑に周囲を囲まれている。
- 形状** 不整形を呈しており、長軸約1.52m、短軸約72cm、深度約11cmと比較的小規模な形状をとっている。
- 遺物** 土器一かわらけ、金属製品一銭貨が出土している。
- 時期** かわらけの年代より中世から18世紀中葉の範囲に入るものと思われる。
- 性格** 遺物の種別から明らかに墓坑の可能性が強い。

■第19号土坑(第44・97図)

- 位置** B-18区、第26号溝状造構内にて検出された。
- 形状** 僅かな浅い凹みのみの確認であった。長軸約1m、短軸約38cmの規模であり深度は認められない。
- 遺物** 金属製品一銭貨が5点出土している。
- 時期** 本造構が墓坑とするならば16世紀中葉の可能性が強い。

■第20号土坑(第44・97・98図)

- 位置** A-16区、B-16区に位置している。造構の半分は調査区外に伸びている。
- 形状** 長楕円形を呈しているものと思われる。底面は平坦で壁面は緩やかに立ち上がっている。深度は約73cmを測る。
- 遺物** 10層に分層できる覆土からは、磁器一小碗・中碗・大碗・中鉢・浅鉢、陶器一中碗・擂鉢・浅鉢・びんだらい、石製品一石臼の出土をみた。
- 時期** 出土遺物より近世の造構であることは間違いない。

■第21号土坑(第45図)

- 位置** C-15区、D-15区にあり、西側には第22・24号土坑が位置している。
- 形状** 不整楕円形を呈している。規模は長軸約92cm、短軸約57cm、深度約39cmと小さい。底面は平坦で壁面はなだらかに立ち上がっている。
- 遺物** 坑内の底面からは銭貨が、壁面からはかわらけが出土している。
- 時期** かわらけの時期区分より16世紀中葉としておきたい。
- 性格** 遺物の構成種類から墓坑の可能性が強い。

■第22号土坑（第45図）

位置 C-15区にあり、至近距離に第21・24号土坑がある。

形状 不整楕円形を呈しており、底面はほぼ平坦で壁は緩やかに上方へ開口していく。

遺物 遺物の出土はない。

■第23号土坑（第45・98・99図）

位置 E-15・16区に位置している。

形状 不整形を呈しており、一部は後世の建物基礎により削平されている。底面はほぼ平坦で壁は浅く緩やかに開いていく。

遺物 金属製品一錢貨4点が出土している。

性格 錢貨の出土や周囲の土坑配置状況などから墓坑の可能性が高い。

■第24号土坑（第45・99図）

位置 D-15区に位置している。南側に第21・22号土坑が配置されている。

形状 潛丸長方形に近い楕円形をみせる。底部は平坦で壁面は緩やかに立ち上がっている。

遺物 磁器一小碗、土器一かわらけ、金属製品一錢貨が出土している。

時期 若干、近世の遺物の混入がみられるが、16世紀中葉の遺物の出土状況などから後者を当遺構の時期として示しておきたい。

性格 かわらけ・錢貨の出土から墓坑の可能性が強まっている。

■第25号土坑

搅乱

■第26号土坑（第45・99・100図）

位置 F-15区、D-15区に位置しており、東側を第29号溝状遺構が南北に走っている。

形状 潜丸方形に近い不整円形状を呈している。長軸約1.42m、短軸約96cm、深度約26cmの規模を有している。底面は平底で壁の立ち上がりは急峻で垂直に近い。

遺物 土器一かわらけ（3点）、金属製品一錢貨（6点）の他、木製品が出土している。

時期 かわらけの時期から16世紀中葉と推定される。

性格 遺物出土のあり方や種別などから墓坑の可能性が強い。

■第27号土坑（第45・100図）

位置 D-16区、第29号溝状遺構内より検出されたものである。

形状 本来、土坑状の掘り込みを有していたものと推されるが、第29号溝状遺構に削平されているため、正確な規模等は掴めない。

遺物 金属製品一錢貨および人骨が出土している。

性格 錢貨や人骨の出土から墓坑と考えられる。

■第28号土坑

搅乱

■第29号土坑（第46・100図）

位置 G-14区に位置し、南側には第36号溝状遺構が存在している。

形状 形状はほぼ正円形で底面は中央に向かって傾斜するU字形をとっている。壁は垂直に近い急角度で立ち上がっている。長軸約1.12m、短軸約1.08m、深度約57cmを測る。

遺物 4層からなる覆土中からは磁器一碗が検出されている。

時期 出土した遺物からおよそ近世の遺構であると推察される。

■第30号土坑（第46・100図）

位置 F-14区に位置している。

形状 蟻状の深い溝に半分以上が削平されているため、その全容は判断できない。深度は約8cmと浅い。

遺物 磁器－中碗、陶器－鉢が出土している。

時期 出土している磁器、陶器ともに近代と位置付けられるものであることから当遺構は19世紀中葉以降と判断される。

■第31号土坑（第46・100図）

位置 D-16区、E-16区に位置している。

形状 平面形は梢円形状をとる。坑内は3層の覆土に分層でき、上層部には角礫が混入している。長軸約1.18m、短軸約98cm、深度約31cmを測る。底面は平底で壁は急峻に立ち上がっている。

遺物 石製品－五輪塔（空風輪）が出土している。

■第32号土坑（第46図）

位置 B-17・18区にて検出された。

形状 第26号溝状遺構と接続しており、正確な形状把握は難しい。短軸約73cm、深度約22cmを測る。底面は緩いU字状を呈しており、広角度で開口していく。

遺物 遺物の出土はない。

性格 坑内に杭の打設がみられることから本来は土坑ではなく溝状遺構の可能性もある。

■第33号土坑（第46図）

位置 B-16区に位置しており、第26号溝状遺構に北側部分を切られている。

形状 削平されている北側を復元してみると、ほぼ円形の形状であったと想定できる。直径は約90cm、深度は約28cmである。底面はほぼ平坦で緩やかに開口していく。

遺物 人工遺物か判断不可能な木材片の他、数点の遺物の出土はあったが図示し得るものではない。

時期 第37号溝状遺構の時期設定が18世紀中葉以前であるため、当土坑の構築時期はさらに古くなると言えよう。

■第34号土坑（第46・100図）

位置 I-17・18区に跨って検出された。南側に近接して第5・6号埋桶が位置している。

形状 ほぼ円形を呈している。長軸約1.42m、短軸約1.09m、深度約47cmを測る。底面は平坦で壁は垂直に立ち上がっている。

遺物 3層の覆土からは磁器－中碗、土器－灯明皿が検出されている。

時期 灯明皿の年代から18世紀中葉以前の遺構であると考えられる。

■第35号土坑（第47・100・101図）

位置 調査区の東端であるI-20区より検出された。北方向には第36～38号土坑がある。

形状 楕円長方形に近い梢円形状をとる。底面は多少の起伏はあるもののほぼ平坦と言えるもので、やや急角度を持って開口している。長軸約1.78m、短軸約96cm、深度約51cmを測る。

遺物 磁器－小碗・中碗、陶器－皿・小鉢・擂鉢、土器－かわらけ・灯明皿・焰燈、金属製品－用途不明金具と多様な遺物が出土している。

時期 様々な時期の遺物があり現段階では近世としておく。

■第36号土坑（第47図）

位置 I-20区、J-20区に跨って位置している。周囲には第35・37・38号土坑が点在している。

形状 平面形は楕丸方形を呈している。底面は平坦で壁はなだらかに短く開口している。長軸約92cm、短軸約72cm、深度約13cmの規模を呈する。

遺物 遺物の出土はない。

■第37号土坑（第47・101図）

位置 J-20区に位置している。周囲には第35・36・38号土坑が点在している。

形状 楕丸方形の平面形を持ち底面は平坦で壁はなだらかに立ち上がっていく。直径約67cm、深度約13cmの規模を有している。

遺物 石製品－硯が出土している。

時期 現段階では周囲の構造状況などから近世と考えている。

■第38号土坑（第47・102図）

位置 J-20区に位置しており、周囲には第35・36・37号土坑が点在している。

形状 平面形は隅丸長方形を呈している。底面は平坦で壁面はなだらかに立ち上がっている。長軸約1.6m、短軸約77cm、深度約16cmを測る。

遺物 遺物は土器－灯明皿・焼塙壺（蓋）が出土している。

時期 遺物の時期からも当構築の構築時期は近世で間違いない。

■第39号土坑

搅乱

■第40号土坑（第48・102図）

位置 J-20・21区に位置している。南側には第36～37号土坑がある。

形状 平面形は不整長方形を呈している。長軸約4.03m、短軸約1mを測り、深度は約12cmと浅い。底面は平坦で壁は非常に緩やかに開口している。

遺物 坑内からは、磁器－蓋物、土器－灯明皿、金属製品－把手（筆筒の引出？）が出土している。

時期 遺物からおおよそ18世紀中葉以前の構築と考えている。

■第41号土坑

搅乱

■第42号土坑（第48図）

位置 K-20区に位置している。

形状 平面形は楕円形状を示している。底面は平坦で壁面はやや急勾配を保ちながら開口している。規模は長軸約1.32m、短軸約83cm、深度約29cmを呈する。

遺物 木材細片の他、遺物の出土はない。

性格 覆土に混入されている礫や木材片の状況を見るに意図的・祭的な埋納が推測されよう。

■第43号土坑

搅乱

■第44号土坑（第48・102図）

位置 F-15区に向かって西方より伸びる第36号溝状構築の東端部に僅かな距離を残しつつ位置している。

形状 平面形は不整長方形を呈しており、北東角に浅い柱穴状の張り出し部を持つ。底面は僅かな凹みがあるものの、平坦で壁は緩やかに立ち上がっている。その規模は長軸約1.05m、短軸約61cm、深度約7cmを測る。

遺物 金属製品－銭貨が出土している。

性格 銭貨が出土している点から墓坑の可能性がある。

◎ 井戸

井戸の調査はそれぞれ深度があり、危険回避のため覆土観察はしていない。なお、調査終了後に重機によって半裁を実施し状況を観察した。

■第1号井戸（第49・102～105図）

位置 調査区の北西角付近にあるN-5・6区に位置している。近接して第1号溝状構築、第1号埋桶がある。

形状 平面形は不整円形を呈している。素掘りの井戸であるが廃棄時に多くの礫が充填されている。長軸約1.62m、短軸約1.38m、深度約1.8m以上を測る。断面形は開口部に向かうに従って僅かにロー

ト状に広がりを持つ。

遺物 磁器－酒杯・小碗・中碗・大碗・小皿・大皿・向付・神酒徳利・合子・蓋物・陶器－小碗・大碗・皿・向付・擂鉢・蓋物・土鍋・仏飯器・灯明皿・灯明受皿・捏鉢・手水鉢・植木鉢・土器－灯明皿・かわらけ・焰燈・甕・石製品と多岐にわたっている。

時期 出土遺物は18世紀から19世紀中葉が多く江戸時代後期と推測されよう。

■第2号井戸（第50・105・106図）

位置 調査区の北西部、N-7・8区、O-7・8区に位置している。周囲にはあまり遺構は無く希薄である。

形状 平面形は、長軸4.5m、短軸4.38mの不整円形を呈している。遺構の北西部には垂直で浅い深度に素掘りの凹みを有する。当初は井戸と考えていたが現在では土坑の性格が強いものと思われる。

遺物 比較的18世紀中葉から19世紀中葉までの遺物が多い。その種類は以下にあげるものである。磁器－酒杯・中碗・小皿・蓋物・陶器－大鉢・擂鉢・蓋物・灯明受皿・瓶・土器－かわらけ・器台・瓦－軒丸瓦。

時期 遺物の年代から明治維新時の拝領地返納に伴い土坑に廃棄された遺物と想定できる。

■第3号井戸（第49・107図）

位置 調査区北西部、N-3・4区に位置している。南側に並列して第2・3号土坑がある。また、同区には南北に走る比較的古い時期に比定される第1号溝状遺構が確認されている。

形状 平面形は直径約2.12mの円形を呈している。石積みで下方には桶を設置している、いわゆる積み上げ式井戸枠の石組型である。積み石は下方に大振りなものを、上方に行くにつれて小振りな石を使っている傾向が見られる。桶は1段しか検出できなかったが、おそらく下方にも存在している可能性が高い。深度は2.3m以上である。なお、掘方の形状はロート状を示している。

遺物 陶器－大甕が1点検出されているのみで時期決定は難しい。

■第4号井戸（第51図）

位置 調査区の中央やや北寄りにあるK-11・12区、L-11・12区に位置している。また、1mほど東側に第5号井戸がある。

形状 平面形は長軸約2.41m、短軸約2.36mの不整円形を呈している。構造は石組み井戸で石組みは上方に向かうにつれ若干の開きがみられる。掘方はロート状を呈しており深度は2.5m以上である。

遺物 図示し得る遺物の出土は無い。

■第5号井戸（第51・107図）

位置 調査区中央やや北寄りの第4号井戸の東側に近接し、当井戸が確認された。K-12区、L-12区にあたる。

形状 平面形は円形を呈している。規模は長軸約2.17m、短軸約2.05m、深度は2.5m以上である。構造は第4号井戸と同様に石組み井戸である。断面形は石組みはほぼ垂直に掘方はロート状に開いている。

遺物 図示し得る遺物は石製品－石臼が1点のみである。

時期 第4・5号井戸とともに時期決定できる遺物は少ないが周囲の状況などから江戸期として差し支えあるまい。

■第6号井戸（第52・107図）

位置 G-9・10区に位置している。近接して第20・48号溝状遺構がある。

形状 大型の角礫を石組みに使用している石組み井戸である。規模は長軸約2.53m、短軸約2.29mを測る。角礫の石尻を後方に長く使用している点などの特徴がみられる。非常に堅固な作りで壁面は垂直に立ち上がりつており孕み等も見受けられない。また、掘方も垂直で安定している。深度は2.7m以上である。

遺物 土器－かわらけ、ガラス製品－ベン先・おはじきと18世紀中葉以前から近代までと時期設定する

には時期差がある。

■第7号井戸（第52・107～109図）

- 位置** E-8区に位置しており第4号溝状遺構に切られている。また、第4号溝状遺構に並列して第22号溝状遺構がある。さらに北側をみると第20号溝状遺構が占地している。
- 形状** ほぼ円形で長軸2.69m、短軸2.59mを測る。深度は2.8m以上である。素掘りで下方に井戸枠を2段以上組んでいる。断面形は井戸枠上部より開くロート状をとる。
- 遺物** 磁器・小碗・小皿・神酒徳利・合子、陶器・大鉢・擂鉢・蓋、土器・かわらけ・灯明皿・焰燈と多種の遺物が検出された。
- 時期** 出土した遺物は18世紀中葉以前より19世紀代と時代幅を有している。勤番支配期に使用され、明治維新に伴って廃絶されたものと言えよう。

■第8号井戸（第52・109図）

- 位置** D-7・8区に占地している。当グリッドは調査区南側端部にあり北側7～8m先に第7号井戸、第4・22号溝状遺構があるので周囲の近接した位置には遺構は見あたらない。
- 形状** 下方に桶の井戸枠を設ける素掘りタイプの井戸である。ほぼ正円の平面形を作り、規模は直径約2.04mを測る。深度は1.5m以上である。断面形は井戸枠の上方約50cmまでは垂直に立ち上がり、そこからは大きな角度を持って開口するロート状を呈している。
- 遺物** 磁器・中碗、陶器・瓶が出土しているのみで遺物の出土は少ない。
- 時期** 遺物の年代から18世紀から使用され、19世紀中葉には廃絶されたものであろう。

■第9号井戸（第53・109図）

- 位置** C-18区にある。当区域は調査区の東側端部に位置しており、東西に走る第27号溝状遺構と切り合った関係にある。また、当遺構の西側には近接して第27号溝状遺構から南北方向に長く走る第38号溝状遺構がある。
- 形状** 角礫を積み上げた石組み井戸である。石組みは垂直に積み上げられその上端よりロート状に開いている。平面形は梢円形を呈し、規模は長軸約2.07m、短軸約2.36mを測る。深度は2.3m以上である。
- 遺物** 遺物の出土は少なく陶器類の碗・甕・擂鉢のみである。
- 時期** 遺物より江戸期の井戸で間違いないと思われるが詳細な時期は明確ではない。

■第10号井戸（第53図）

- 位置** G-19・20区、H-19・20区の調査区東側端部に位置している。周囲に遺構は第38号溝状遺構があるのみである。
- 形状** ほぼ円形を呈している石組み井戸である。壁面は垂直に立ち上がるが自然石を積んでいるためか南側で孕みがみられる。掘方も石組みと同様に垂直である。規模は長軸約2.7m、短軸約2.36mを測る。なお、深度は3.2m以上である。
- 遺物** 遺物の出土はない。
- 時期** 遺物等の出土がないため、時期決定は難しいが江戸期の所産と考えておきたい。

■第11号井戸（第53・109図）

- 位置** 調査区北東側の隅（I-20・21区）において検出された。付近には南側に第40号土坑があるのみである。
- 形状** 平面形は隅丸方形状を呈している素掘り井戸である。断面形は開口部より50～80cm下方から広がりをみせるいわゆるロート状である。規模は超軸約2.16m、短軸約1.85mを測る。なお深度は2.0m以上である。
- 遺物** 磁器・中碗、陶器・土瓶・灯明皿、土器・かわらけ・灯明皿・泥人形、木製品・漆器（579～581）が出土している。これらの遺物は概ね19世紀中葉までに位置付けられる物である。
- 時期** 出土遺物などから当遺構は江戸後期から19世紀中葉までに帰属するものと推定される。

◎ 埋桶

■第1号埋桶（第54図）

位置 P-5区に位置している。東側には第1号溝状造構が南北に走っている。

形状 平面形は不整円形をとるが底面は平坦である。その土坑内へ桶を正位に埋設している。土坑の規模は長軸約71cm、短軸約65cm、深度約25cmを測る。

時期 現段階では判断できない。

性格 断定はできないが形状や規模などから便槽造構としてよからう。

■第2号埋桶（第54図）

位置 G-5区において検出された。第12号溝状造構と僅かに接している。

形状 平面形は円形を呈す土坑に正位に桶を設置している。土坑掘方は桶の形状に合うよう掘り込まれている。桶は底面に7枚の板を敷いて作成されている。土坑の規模は長軸約85cm、短軸約78cm、深度約31cmを測るものである。

時期 現段階において判断は難しいが、接している第12号溝状造構が18~19世紀代とされているため同時期ではないと思われる。

性格 形状や規模などから便槽造構と考えて良いであろう。

■第3号埋桶（第54図）

位置 F-5区に位置している。至近距離に第12号溝状造構がある。

形状 検出時に確認された板材のみと思われたが、その後若干の浅い掘り込み内にも板材のある事が判明し、当板材は桶底面とした。規模は長軸約70cm、短軸約68cmを測る。なお、深度は無い。

時期 第12号溝状造構などの確認面に底面があることなどから現段階では19世紀以降の設置と考えている。

性格 形状や規模などから便槽造構と考えている。

■第4号埋桶（第54図）

位置 B-17区より検出された。第26号溝状造構内より検出された第37号溝状造構を切るようにして設置されている。また、西側には第33号土坑が近接している。

形状 底面が平坦な不整円形状の土坑内に正位で木製桶が設置されていた。覆土は3層に分層することができ、検出時に桶内からは当造構が廃絶されたときに破壊されたと思われる板材が多数検出されている。検出された規模は長軸約91cm、短軸約77cm、深度約36cmを測る。

時期 第26号溝状造構の帰属時期が18世紀~19世紀と設定されていることから当溝状造構廃絶後の19世紀以降と考えている。

性格 他の埋桶と同様に便槽造構と考えておきたい。

■第5・6号埋桶（第54図）

位置 I-17・18区に並列して位置している。北側至近距離に第34号土坑が確認されている。

形状 双方共に円形の土坑内に正位に大型の桶が設置されている。検出時の状況はほぼ桶底面が確認できたのみで側板のほとんどが削平されてしまっていた。規模は、第5号埋桶は長軸約151cm、短軸約149cm、深度約20cm、第6号埋桶は長軸約152cm、短軸約150cm、深度約35cmを測る。底部には廃絶に入れられたものとも推測できる礫が検出されている。

時期 周囲の状況などから19世紀代の帰属となろう。

性格 同時期に並列して設置された便槽造構と考えられる。

◎ 園池造構（第55・56・111~118図）

園池造構は調査当初、遺物集中区あるいは維新時に生活雑貨品を大量廃棄した土坑・井戸などと想定して

いたため遺構の性格が確認時点では難しいものであった。

位置 調査区の北東角にあたるK-19・J-19の2グリッドに跨って確認された。近くには素掘りの第11号井戸がある。

形状 長軸約7.1m、短軸約4.37m、深度は井戸部分以外の箇所で約1.1mを測る。平面形は不整形を呈している。また、底面からはほぼ円形の平面形を持つ2基の素掘り井戸（第12・13号井戸）と隅丸長方形形状の土坑が検出された。これらが、当遺構に付属するものかの判断は現段階では難しいが、井戸については園池に水を供給する役割を果たしていた可能性もあるだろう。南側壁には杭の打設も顯著にみられる。さらに、東・北面には杭の打設をし土留めの板材を渡している様子もみて取れる。

遺物 磁器では、酒杯・小碗・中碗・大碗・皿・中鉢・髪油壺・神酒徳利・段重・蓋類・合子・蓮華・仏飯器・集繕器、陶器は、小碗・おろし皿・徳利・土瓶・擂鉢・甕・秉燭・灯明皿・灯明受皿・鍋、土師質製品として泥人形・のほか基石（おはじき？）や軒丸瓦・軒平瓦・棟瓦、石製品のヒデ鉢、自然遺物の桃種子、金属製品の錢貨と多種に富む遺物が検出されている。これらの遺物が帰属する時期はおよそ18世紀中葉から19世紀中葉と考えられるものである。

時期 検出された遺物の年代や出土位置などから18世紀中葉から19世紀中葉の江戸後期に園池として使用された後、明治維新時の拝領地返還の際に、生活用品の大量廃棄が行われたものと判断して良いであろう。

【II区】

○溝状遺構

■第1号溝状遺構（第61・144図）

位置 調査区を南北にけ-16区～う-16区にかけてほぼ直線的に長く走る。第2・3・5・12号溝状遺構に切られている。

形状 長さ約31.7m、幅約65cmで直線状に伸びる。底部形状は平坦で壁は緩やかに約20cm立ち上がっている。

遺物 磁器一小碗・小皿、陶器一天目茶碗・中碗・小皿・擂鉢・小瓶、土器一かわらけ・灯明皿・火鉢、石製品一硯、金属製品一錢貨など豊富に検出されている。

時期 灰釉の小皿などからみれば戦国期（大窓期）の時期設定ができる。また、かわらけ・灯明皿などからも中世から18世紀中葉までの時期に比定される。若干ではあるが、横走する橋小路のラインよりも北に振れていることから戦国期構築の可能性も捨て切れない。

■第2号溝状遺構（第62・63・144図）

位置 け-17・18区において検出された。第1号溝状遺構とは直角に交差している。また、西側端部を第1・2号土坑に切られる形態を取っている。

形状 長さ約11.3m、幅約45cm、深度約32cmを測る。ほぼ直線をなしており、底面は平坦で、壁面はなだらかに立ち上がっている。

遺物 磁器一小碗・大碗・五寸皿・急須が第1・2号土坑付近から検出されている。

時期 遺物が検出された地点が第1・2号土坑であるため当遺構の帰属である確証は若干薄れるものと言える。また、遺物の年代も、近世から近代と様々であるため、遺構使用時の年代決定は難しい。

■第3号溝状遺構（第64図）

位置 え-3～6区・お-6区に位置している。第1・4号溝状遺構とほぼ直角に交差している。

形状 直線に伸びており、他の溝状遺構より幅が広い。検出された規模は長さ約13.37m、幅約1.52m、深度約30cmを測る。覆土は4層からなる。底面は平坦で壁面はやや急峻に立ち上がっている。

遺物 遺物の出土はない。

時期 周囲の遺構の状況などから近世の所産と考えている。

■第4号溝状遺構（第65～69・144図）

位置 いー2区、うー2区、えー2・3区、おー2・3区、かー2・3区、きー3・4区、くー3・4区、けー3・4区、こー3・4区と調査区西端を南北に走っている。また、第10号溝状遺構が本遺構の西側を併走し、第3・13・14号溝状遺構が直交する形で交差している。さらに第4号埋桶と第9号土坑が後世に当遺構を掘削している。

形状 長さ約43.02m、幅約1.9m、深度約40cmの規模で南北に走っている。底面は北側ではV字であるが南方に向かうに連れ平坦となる。壁面についても同様に、北側では急勾配、南側ではややゆるやかに立ち上がっている。特筆すべき点として底部より胴木が2条に並列し、なおかつ胴木が移動しないように木杭の打設が検出されている。これは当遺構が溝状遺構として存在していたのではなく、石積みをするために掘削されたことを物語っている。

遺物 土器一かわらけ、石製品一五輪塔（空風輪）が出土している。

時期 周囲の遺構の状況や切り合い関係などから18世紀中葉～19世紀代と推測できよう。

■第5号溝状遺構（第70図）

位置 えー2～5区、うー5区に位置している。第1・4・10号溝状遺構と直交している。

形状 東南東～西北西方向に伸び、長さ約15.48m、幅約63cm、深度約20cmを測る。底面は平坦で壁は急峻に立ち上がっている。

遺物 図示し得る遺物の出土はない。

時期 時期決定できる遺物はないが、直交する第1・4・10号溝状遺構を切っていることなどから近世と位置付けて良いであろう。

■第6号溝状遺構（第66図）

位置 かー3区に位置している。第4号土坑と接触している。

形状 同規模の第7号溝状遺構と併走している。長さ約4.55m、幅約45cm、深度は約10cmと浅い。

遺物 遺物の出土はない。

時期 形状から判断するに畝状遺構と考えられ、当地が耕地化される近代の所産として良いであろう。

■第7号溝状遺構（第66図）

位置 かー3区、うー3区に位置している。第4号溝状遺構と南端部が接触している。

形状 同規模の第6号溝状遺構と併走している。長さ約4.3m、幅約45cm、深度は約5cmと浅い。

遺物 遺物の出土はない。

時期 形状から判断するに第6号溝状遺構と同様に近代の畝状遺構と考えられる。

■第8号溝状遺構

欠番

■第9号溝状遺構（第67図）

位置 えー2区、調査区画に平行して検出された。東側に第10号溝状遺構、第1・2号埋桶が位置している。

形状 直線状に伸びる。長さ約3.32m、深度は浅く約4cmを測るのみである。第6・7号溝状遺構と同じく畝状遺構の可能性もある。

遺物 遺物の出土はない。

時期 畝状遺構と想定するならば近代に比定されるものであろう。

■第10号溝状遺構（第66・144図）

位置 きー2・3区、かー2区、おー2区、えー2区と広域に渡って検出された。約1m程東側を第4号溝状遺構が併走している。また、南側で第1号埋桶によって一部が削平されている。

形状 他の溝状遺構が直線的に伸びているのに対し当遺構は緩く湾曲する形状を示している。長さは約15.21m、幅約70cm、深度約20cmを測り、北側半分の底面には柱穴らしき痕跡がある。底面形状はV字状を

呈しており壁面は急峻な立ち上がりをみせている。

遺物 底面にある柱穴内より石製品－五輪塔（火輪）が検出されている。

時期 現段階では中世以降としておきたい。

■第11号溝状遺構（第61図）

位置 き－16・17区、く－16・17区に位置している。調査区東壁面に添うように検出された。

形状 規模の推定はできない。西側壁の上面に沿って杭が等間隔に並ぶ。

遺物 遺物の出土はない。

■第12号溝状遺構（第61図）

位置 え－14・15区に位置している。第1号溝状遺構に直交し第5号溝状遺構とは併走する関係にある。
また、遠い位置ではあるが第3号溝状遺構とも併走している。

形状 長さ約5.25m、幅約35cm、深度約10cmの規模を測る。形状は直線状を呈しており、東端部に柱穴を持つ。

遺物 遺物の出土はない。

時期 深度や長さなどから畝状遺構の可能性もあり近代と想定している。

■第13号溝状遺構（第67・144図）

位置 う－2区、え－2区に位置している。

形状 第4号溝状遺構を切り南側壁面に礫を使用している。その規模は長さは5.5m以上、幅約52cm、深度約37cmを測る。平面形状は直線的である。

遺物 石製品－石臼が出土している。

時期 現況では近代と想定している。

■第14号溝状遺構（第71図）

位置 い－1～3区に渡り存在が確認された。第4号溝状遺構と直交する地点に第9号土坑がある。

形状 直線的に伸び、底面は平坦で壁はなだらかに立ち上がりをみせている。長さ約9.55m、幅は約1.15mと広く深度は約20cmを測る。

遺物 遺物の出土はない。

時期 他の遺構との切り合い関係から近代としておきたい。

◎ 土坑

■第1号土坑（第62・63・145図）

位置 け－4・5区、こ－4・5区に位置している。第2号土坑と接し、第2号溝状遺構と交差している。

形状 平面形は不正形を呈している。規模は長軸約4m、短軸約2.7m、深度約17cmを測る。底面は平坦で壁面は緩やかに立ち上がる。

遺物 磁器－中碗・五寸皿、陶器－捏鉢・泥人形が出土している。

時期 遺物より18世紀代～19世紀中葉までの遺構と想定される。

■第2号土坑（第62・63図）

位置 け－5区に位置している。第1号土坑・第2号溝状遺構と切り合っている。

形状 四角長方形を呈している。長軸は約2.79m、深度約38cmを測る。底面は起伏を伴い、壁面は急傾斜で立ち上がっている。また、3本の杭が直列に打ち込まれている。

遺物 遺物は、かわらけが出土している。

時期 遺物年代より18世紀中葉以前の遺構としておきたい。

■第3号土坑

欠番

■第4号土坑（第72・145図）

位置 おー3・4区に位置している。擾乱および第6号溝状遺構と切り合いをみせている。

形状 囲丸方形を呈している。長軸約1.66m、短軸約1.08m、深度約20cmを測る。底面は平坦で壁は緩やかに立ち上がっている。

遺物 金属製品一錢貨が出土している。

時期 現況では近世と思われるが詳細な時期は明確ではない。

■第5号土坑（第61図）

位置 おー15区に位置して検出された。近接して第1号溝状遺構がある。

形状 長軸約1.22m、短軸約1.05mを測り深度は約10cmと浅い。平面形は不正形、底面は起伏を伴っている。壁は緩やかに立ち上がっている。

遺物 遺物の出土はない。

■第6号土坑（第61・145図）

位置 きー16区、調査区東側より検出された。

形状 全容が明らかではないが方形をとる平面形態である可能性が強いとみられる。底面は起伏を伴い壁面は緩やかに立ち上がっている。

遺物 陶器の瓶が出土している。

時期 出土遺物より近代に比定されるものと思われる。

■第7号土坑（第72・145図）

位置 うー14・15区、えー14・15区に位置している。

形状 平面形は不正形をとる。長軸約1.6m、短軸約1.21m、深度は約1.5mと深い。底面はなだらかな傾斜を持ち、壁面は急峻に立ち上がっている。

遺物 磁器一小碗・中碗・从飯器が出土している。

時期 遺物の年代より18世紀から19世紀の所産と推測できる。

■第8号土坑（第73・145図）

位置 くー14・15区に位置している。

形状 囲丸長方形を呈し底面は平坦で壁面の立ち上がりは緩やかである。規模は長軸約3.14m、短軸約1.48m、深度約38cmを測る。

遺物 磁器一小杯、陶器一鉢・擂鉢・灯明皿・玩具、ガラス製品一瓶が出土している。

時期 近代の遺物が出土しているものの、当遺構の構築時期は18世紀～19世紀中葉と考えておきたい。

■第9号土坑（第71図）

位置 いー12区、第4号溝状遺構と第14号溝状遺構の交差地点に位置している。

形状 不正円形状を呈している。規模は長軸約2.02m、短軸約1.75m、深度約20cmを測る。底面形は平坦で壁は緩やかに立ち上がる傾向をみせる。

遺物 遺物の出土はない。

時期 周囲の遺構の状況などから構築時期は18世紀～19世紀中葉としたい。

■第10号土坑

欠番

■第11号土坑（第73・144図）

位置 かー12区、第10号溝状遺構内にある。

形状 楕円形状を示している。長軸約1.45m、短軸約97cm、深度約75cmを測る。底面はほぼ平坦で壁面はやや急傾斜で立ち上がっている。坑内には角礫が詰められている。

遺物 石製品一五輪塔（火輪）が出土している。【当遺物は第10号溝状遺構で示してある。】

時期 遺物より第10号溝状遺構の時期と同じ中世以降から18世紀中葉以前としておきたい。

◎ 井戸

■第1号井戸（第74・145～147図）

位置 く-15区より検出された。

形状 平面形は不整円形を呈している。ロート状の素掘り井戸であるが、下方では四方に脇を付けた柱を立て横板を渡している特徴を持つ。長軸約2.73m、短軸約2.63mを測る。深度は3m以上である。

遺物 磁器-小杯・小碗・中碗・陶器-土瓶・蓋物・餌擂鉢・餌猪口・土鍋・灯明皿・灯明受皿・土器-焙烙・七厘・焜炉といった豊富な遺物を確認した。

時期 遺物から18世紀中葉から19世紀中葉に機能していた遺構と思われる。

◎ 埋桶

■第1号埋桶（第75図）

位置 え-12区に位置しており、第10号溝状遺構を削平して構築されている。また、第2号埋桶が近接している。

形状 平面形は不整円形をとる。土坑内に正位に桶を埋設している。土坑の規模は長軸約68cm、短軸約65cm、深度約43cmを測る。底面は平坦で壁は垂直に近い急峻な傾斜をもって立ち上がっている。

遺物 遺物の出土はない。

時期 第10号溝状遺構を削平している点などから現段階では近代と判断している。

性格 形状や規模などから便槽遺構としてよからう。第2号埋桶が近接して位置している点や規模がほぼ同じ事から同時期に対に存在していた可能性が高い。

■第2号埋桶（第75図）

位置 え-12区に位置しており、第10号溝状遺構を削平して構築されている。また、第1号埋桶が近接している。

形状 平面形は不整円形をとるが底面は平坦である。その土坑内に正位に桶を埋設している。土坑の規模は長軸約70cm、短軸約66cm、深度約50cmを測る。壁は垂直に近い急峻な傾斜をもって立ち上がっている。

遺物 遺物の出土はない。

時期 第1号埋桶と同様に現段階では近代と判断している。

性格 形状や規模などから便槽遺構としてよからう。第1号埋桶が近接している点や規模がほぼ同じ事から同時期に対に存在していた可能性が高い。

■第3号埋桶（第75図）

位置 え-13・14区に位置している。

形状 平面形は不整円形をとるが底面は平坦である。その土坑内に正位に桶を埋設しており、土坑の規模は長軸約120cm、短軸約107cm、深度約53cmを測る。壁は垂直に立ち上がっている。

遺物 遺物の出土はない。

時期 他の埋桶と同様に現段階では近代と判断している。

性格 形状や規模などから便槽遺構としてよからう。

■第4号埋桶（第76図）

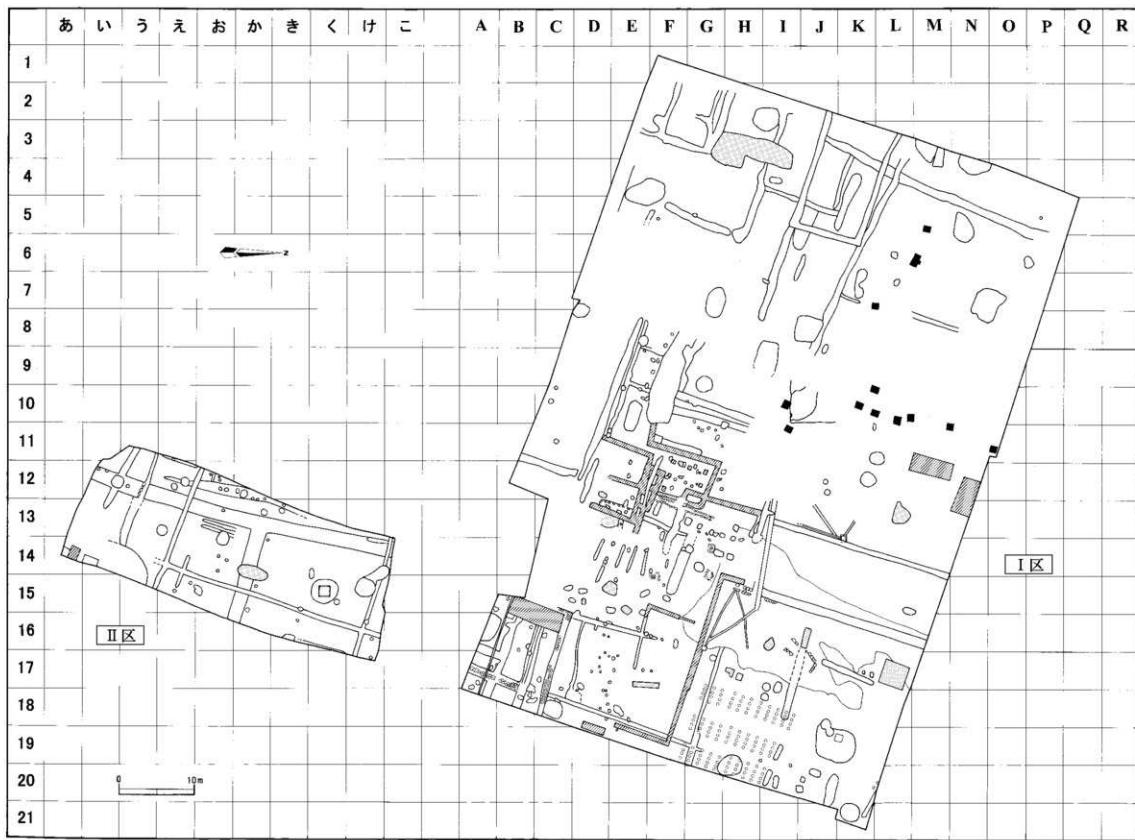
位置 お-13区に位置している。第4号溝状遺構を削平している。周囲には第6・7・10号溝状遺構がある。

形状 桶の底板のみの検出である。平面形は不整円形をとり底面は平坦である。土坑の規模は長軸約63cm、短軸約58cmを測り、深度はない。

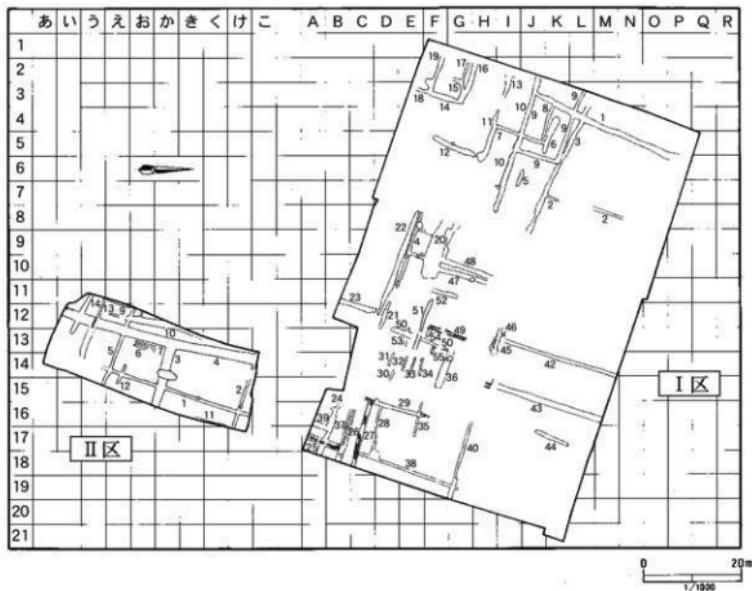
遺物 遺物の出土はない。

時期 他の埋桶と同様に現段階では近代と判断している。

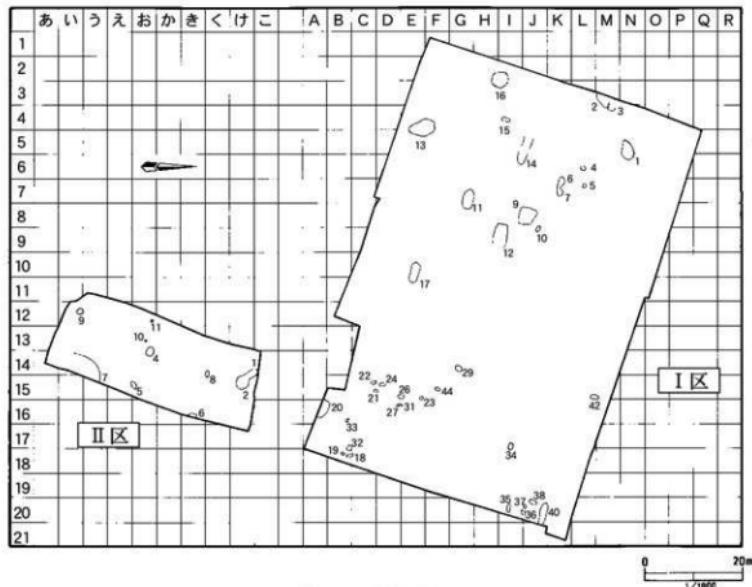
性格 形状などから便槽遺構としてよからう。



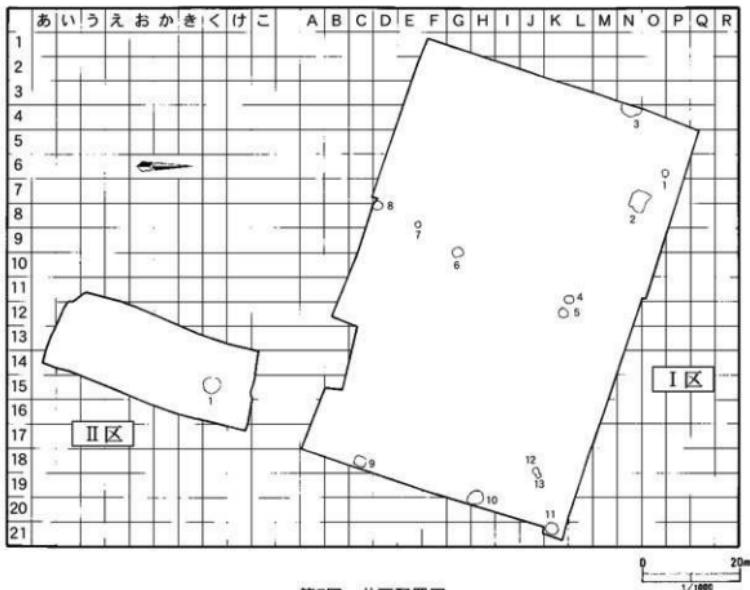
第4図 遺構配置図



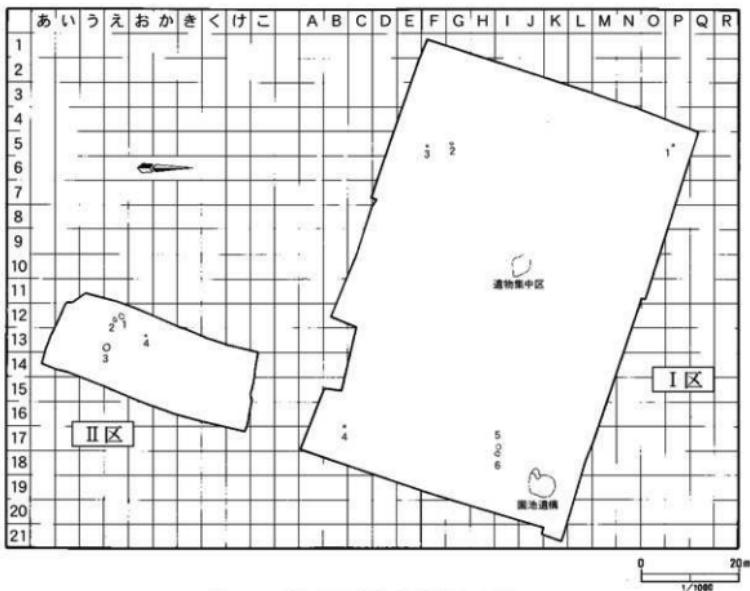
第5図 溝状遺構配置図



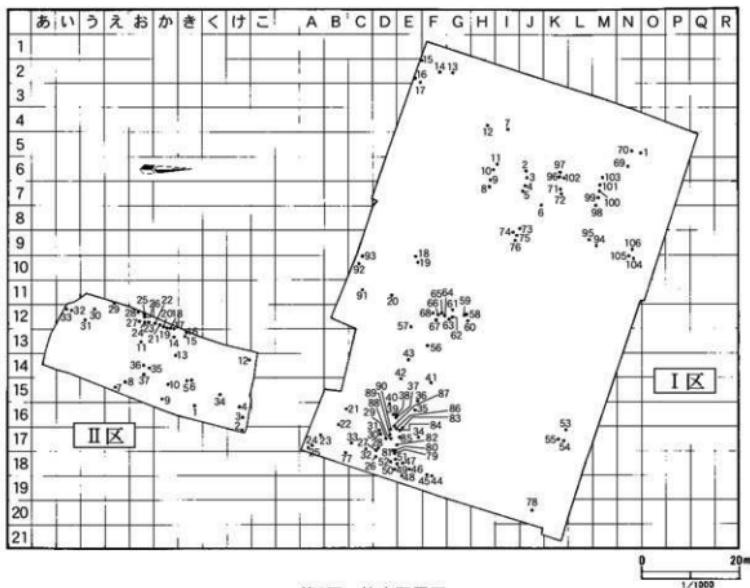
第6図 土坑配置図



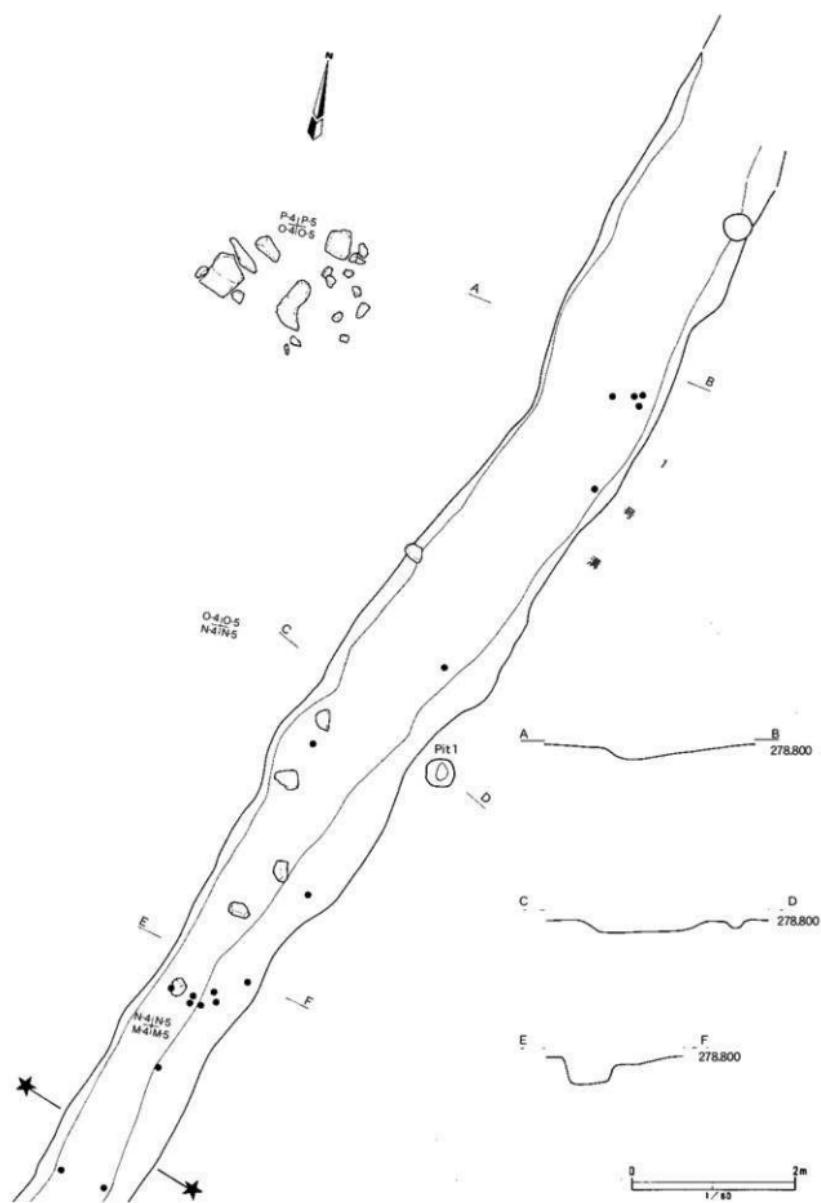
第7図 井戸配置図



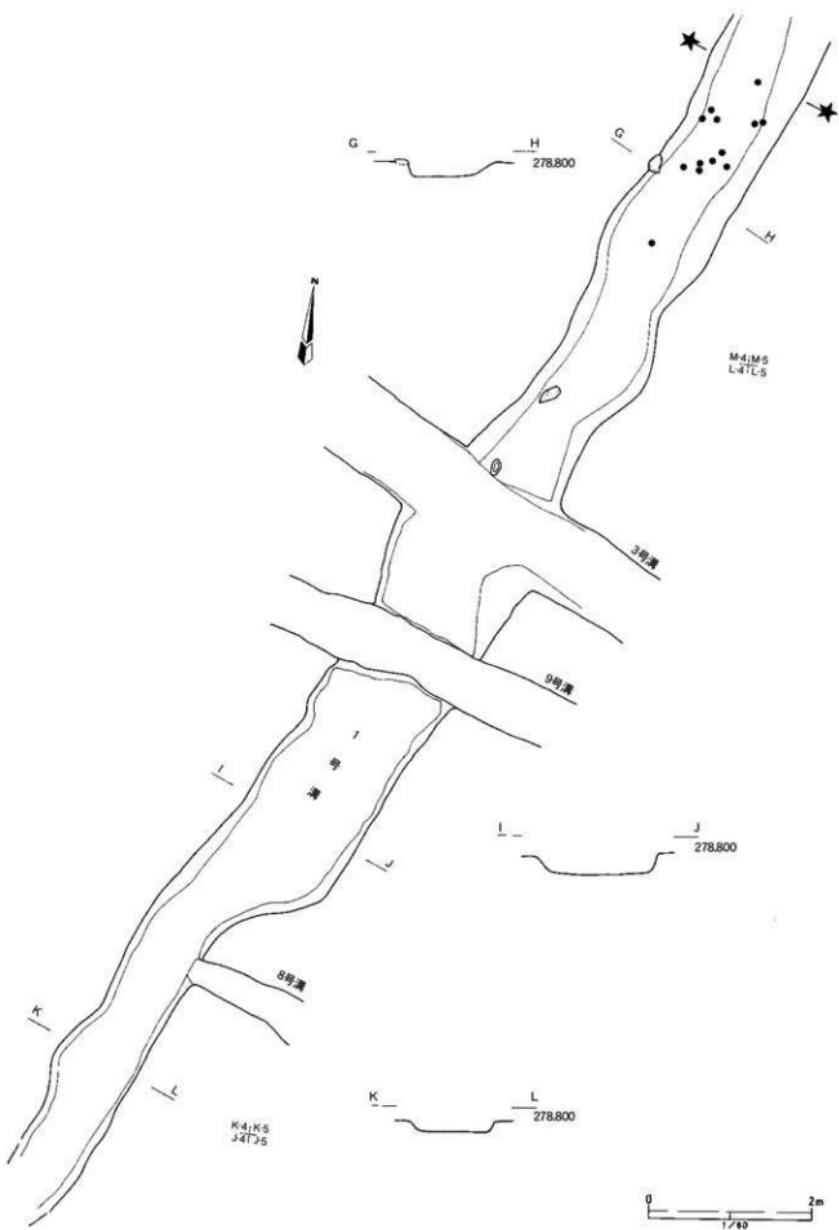
第8図 埋桶・圈池遺構・遺物集中区配置図



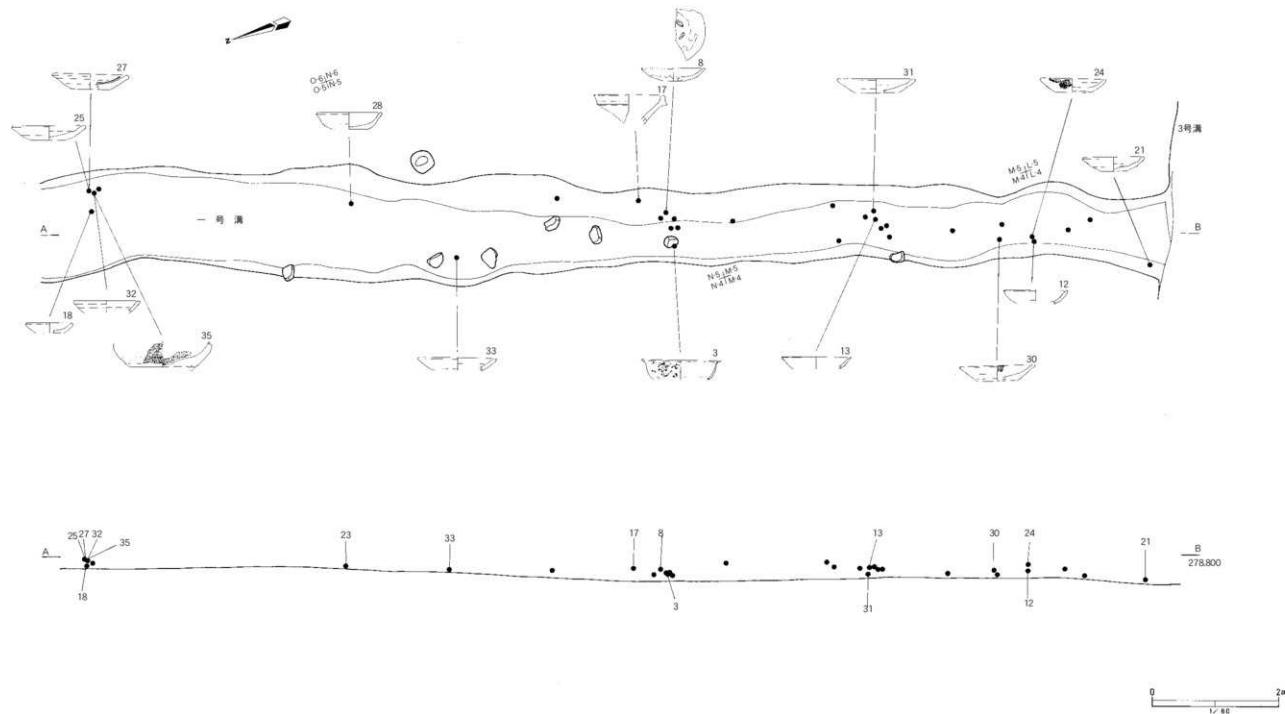
第9図 柱穴配置図



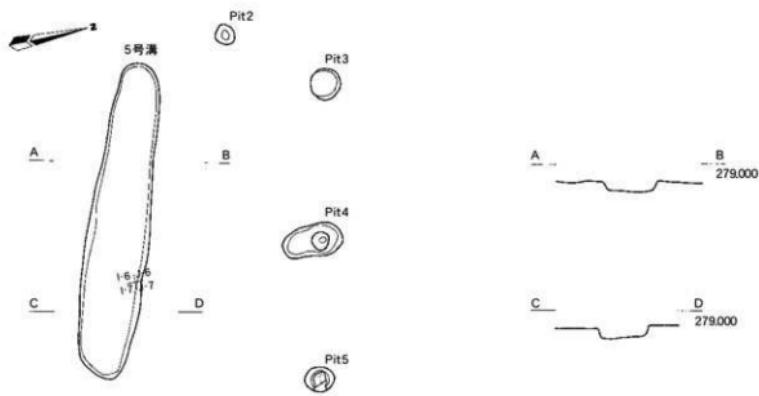
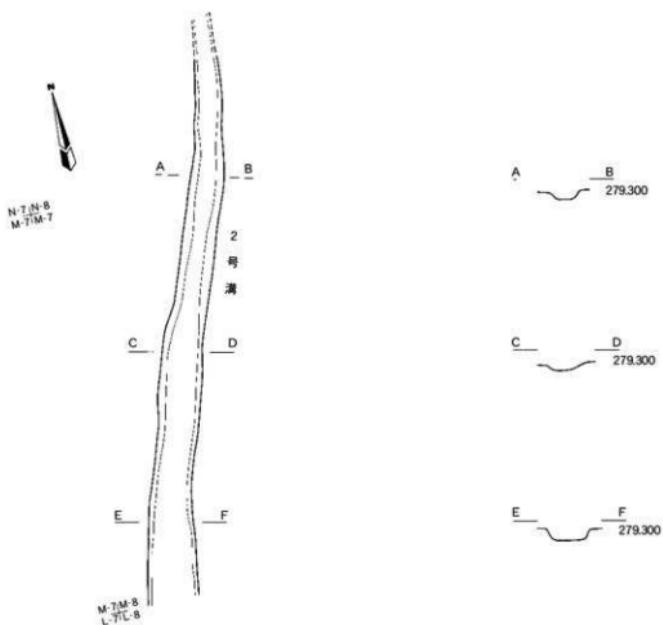
第10図 第1号溝状造構(1)



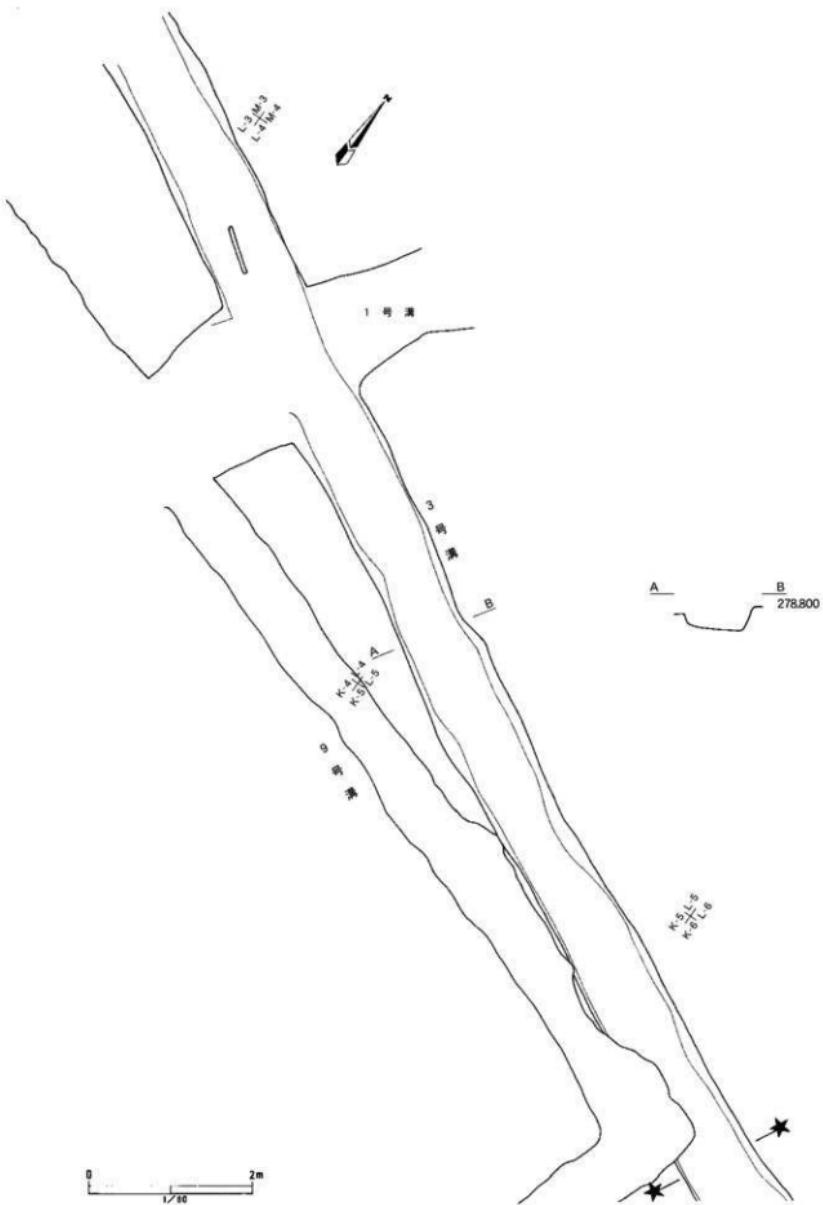
第11図 第1号溝状造構(2)



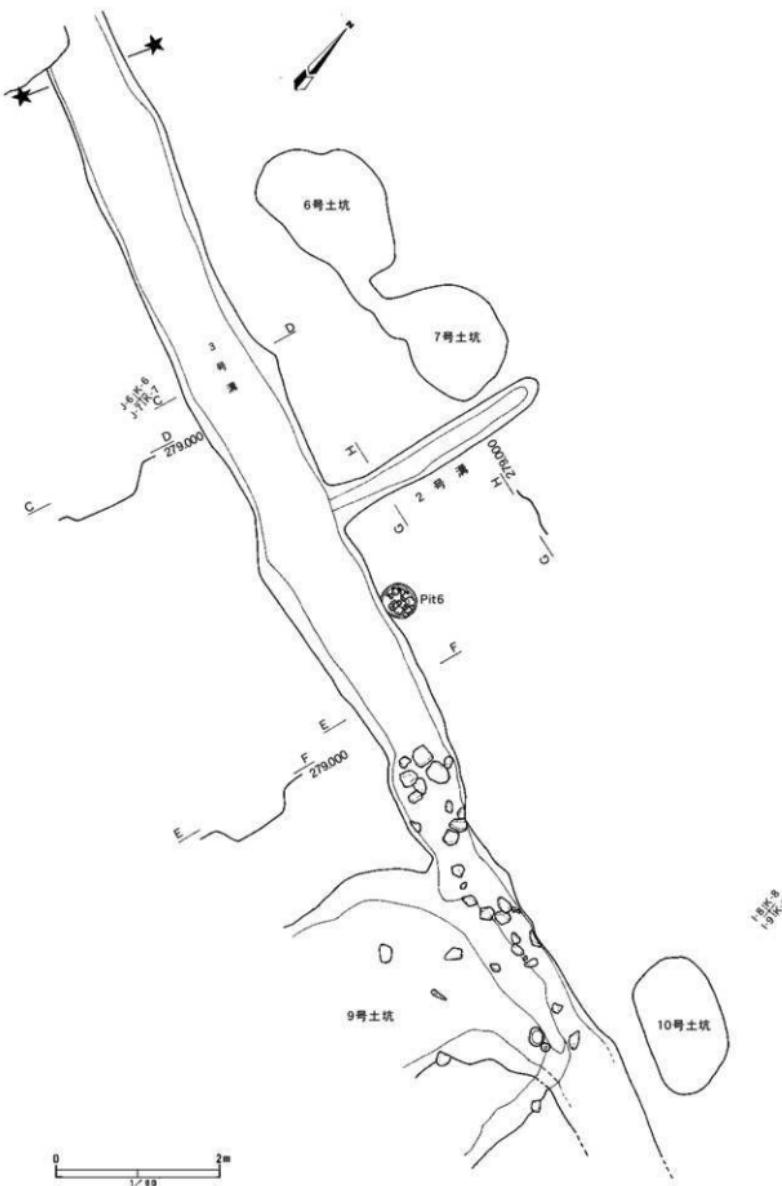
第12図 第1号溝状遺構遺物分布図



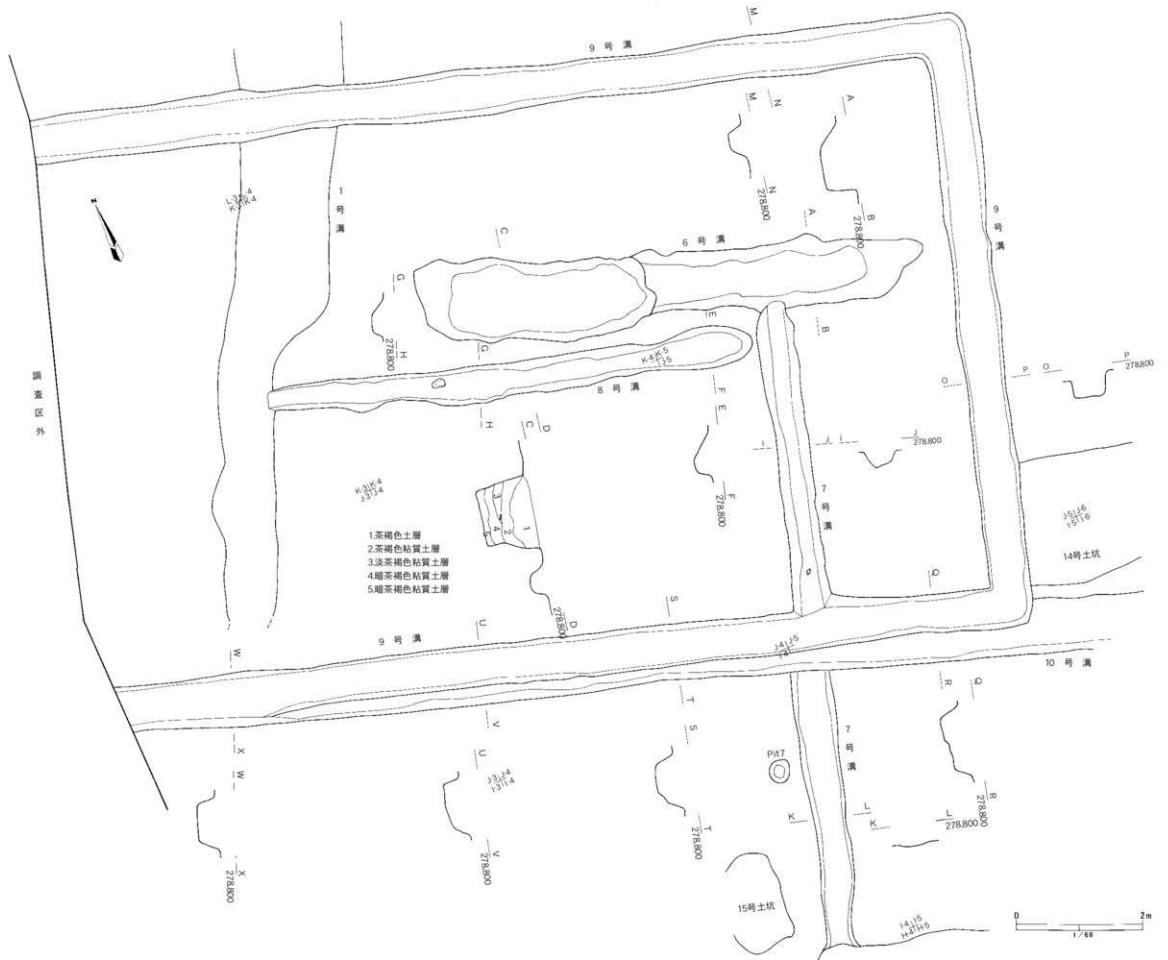
第13図 第2・5号溝状遺構



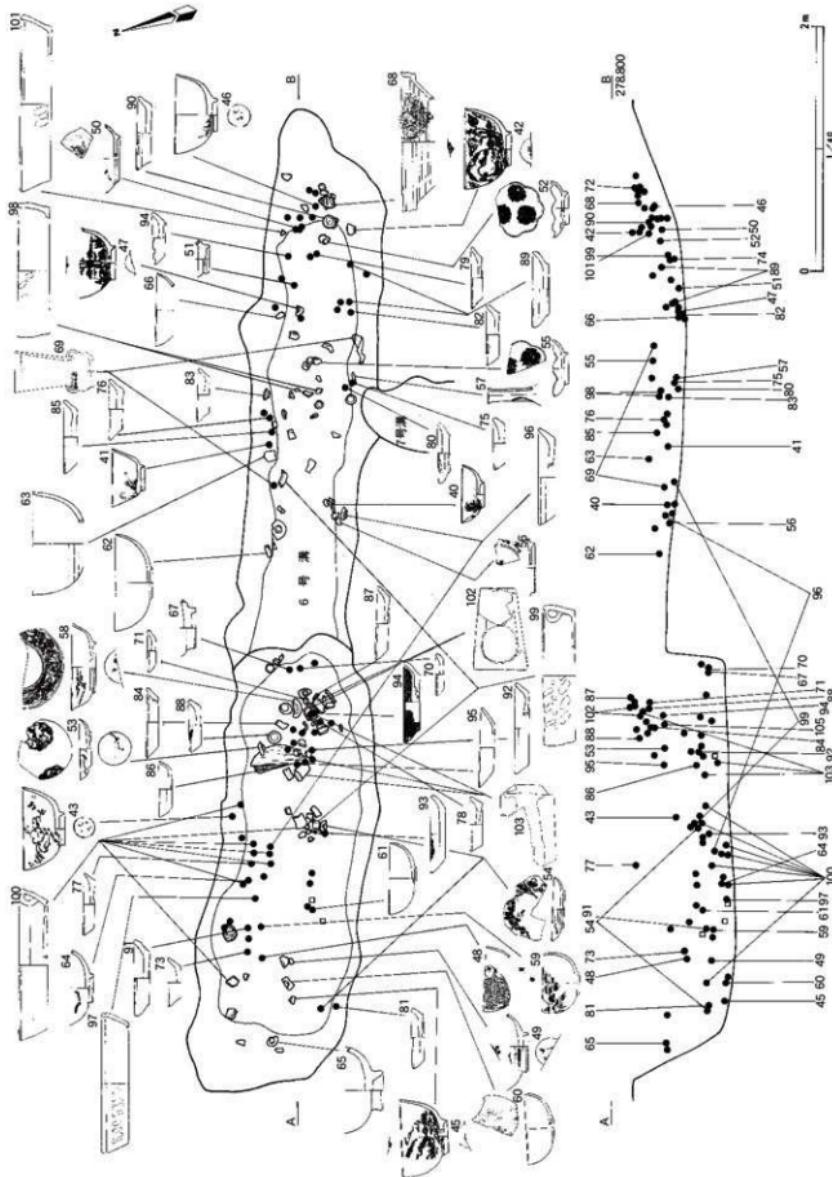
第14図 第3号溝状造構(1)



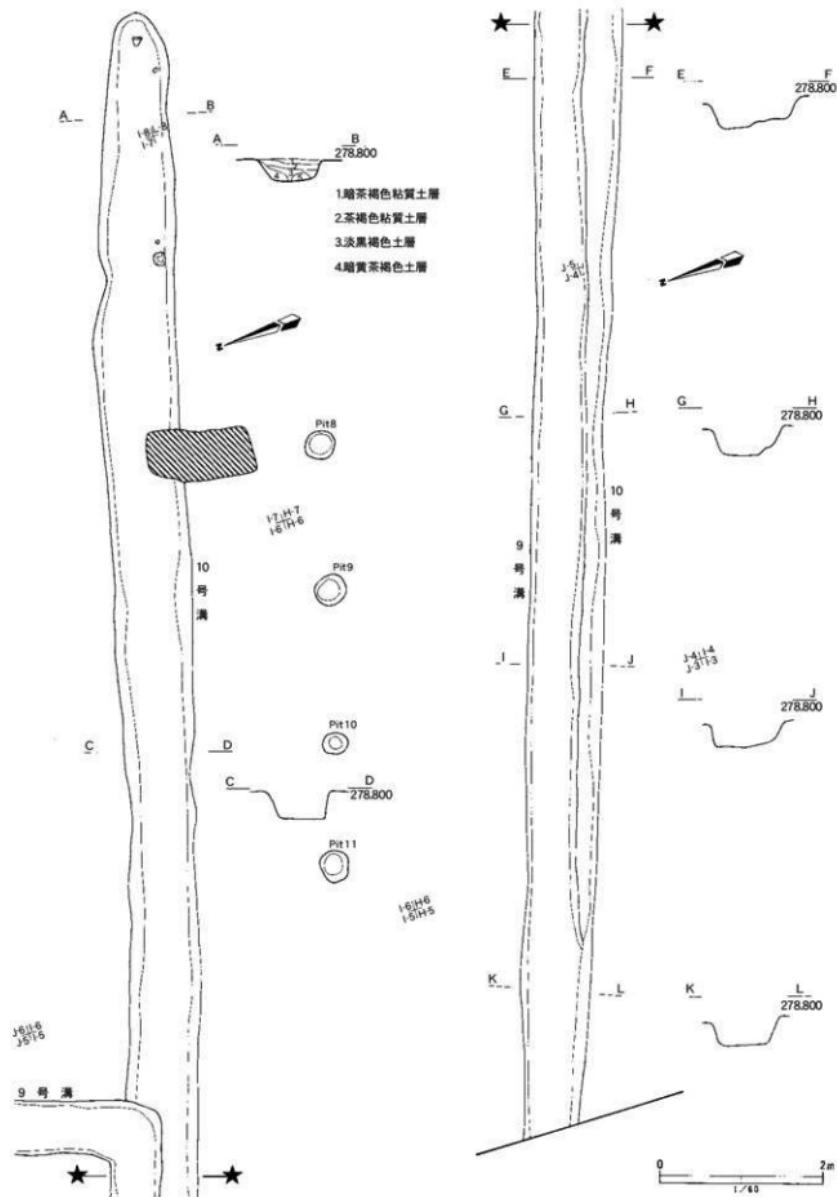
第15図 第3号溝状遺構(2)



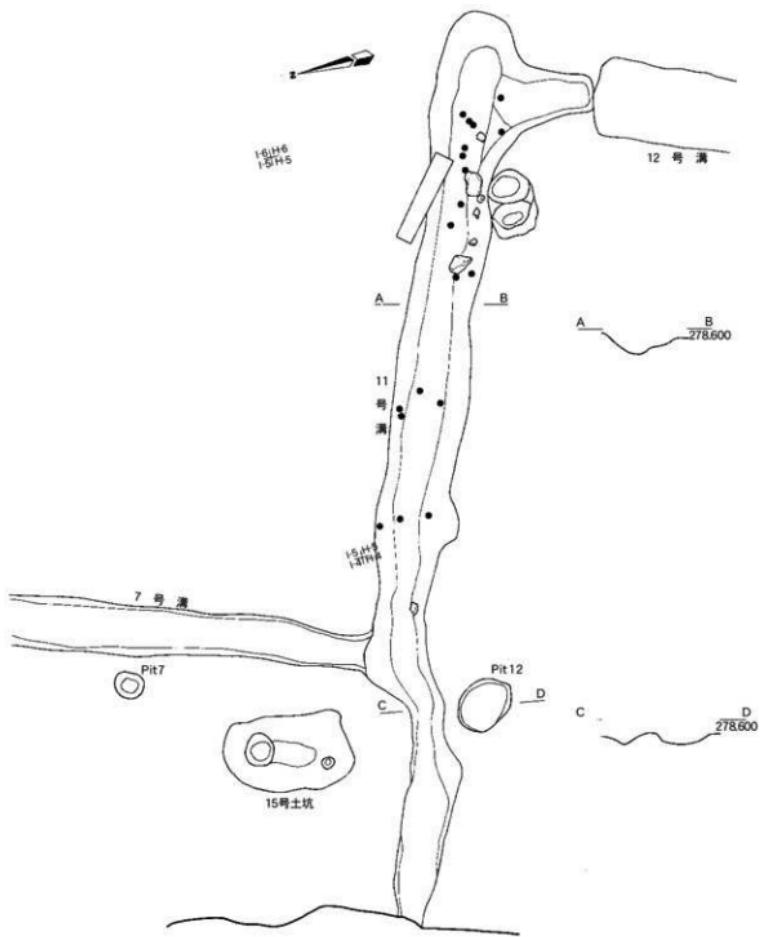
第16図 第6・7・8・9号溝状遺構



第17図 第6号溝状遺構遺物分布図

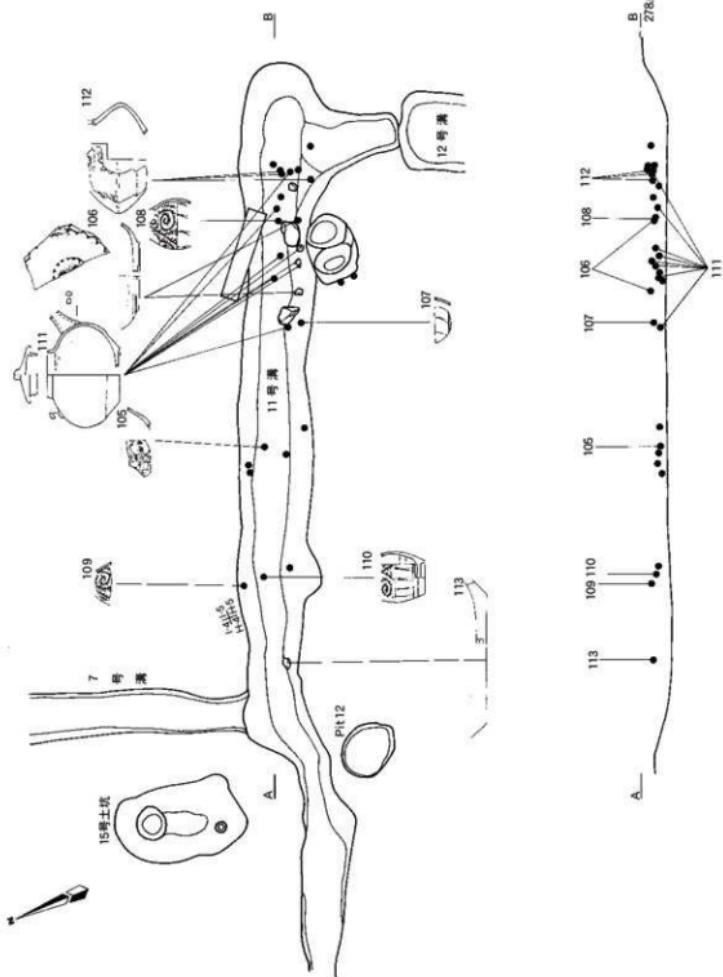


第18図 第10号溝状遺構

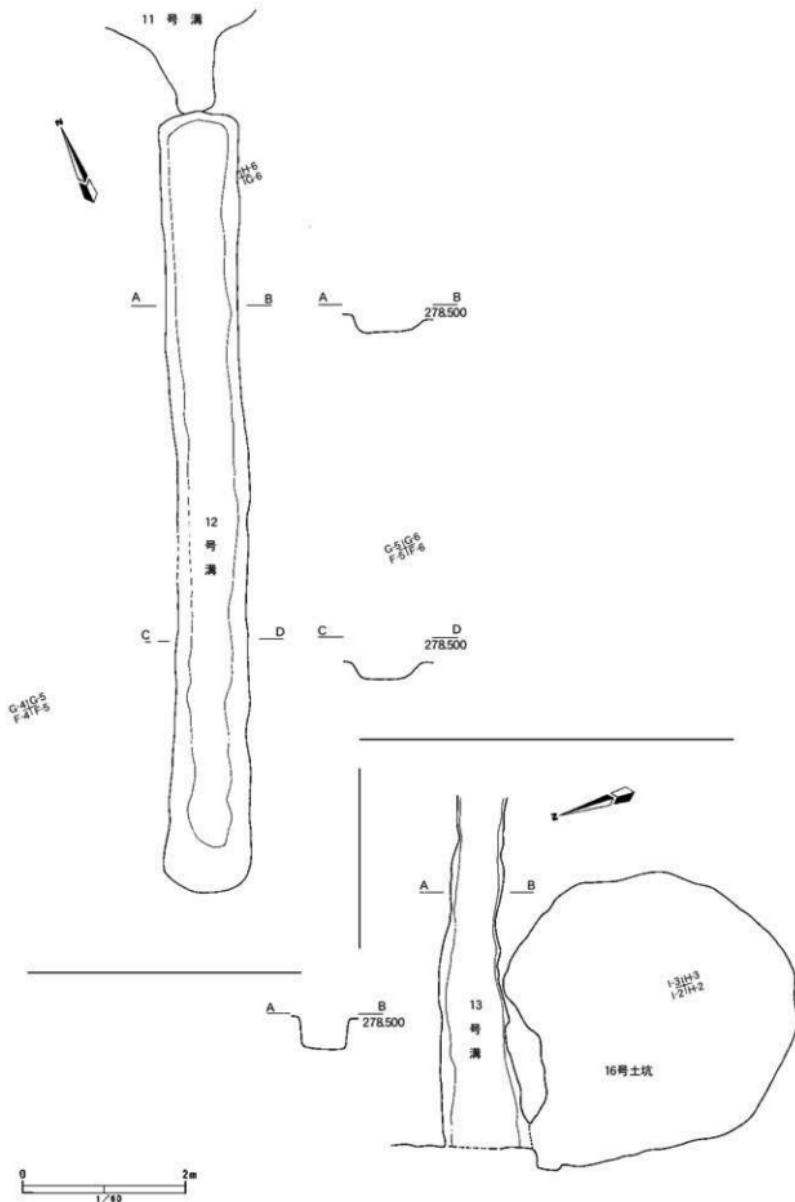


第19図 第11号溝状遺構

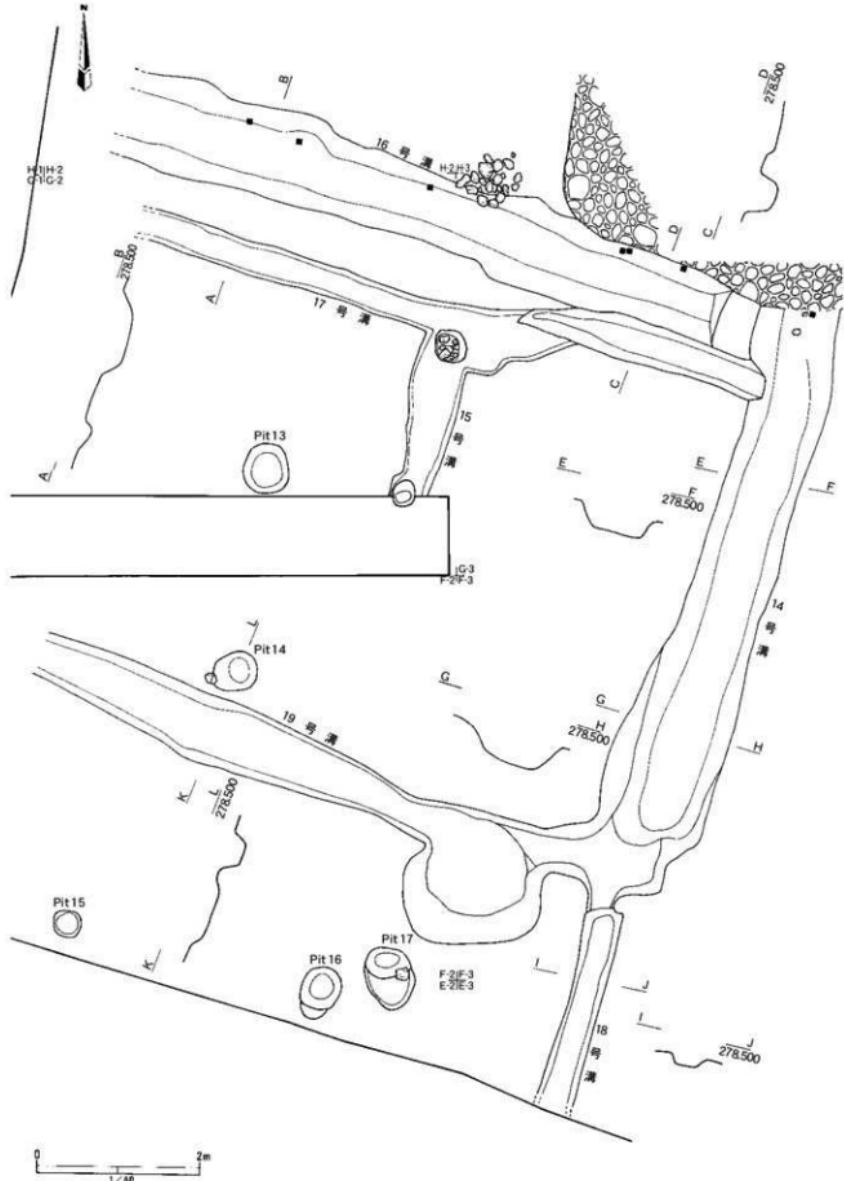
0 2m
1/40



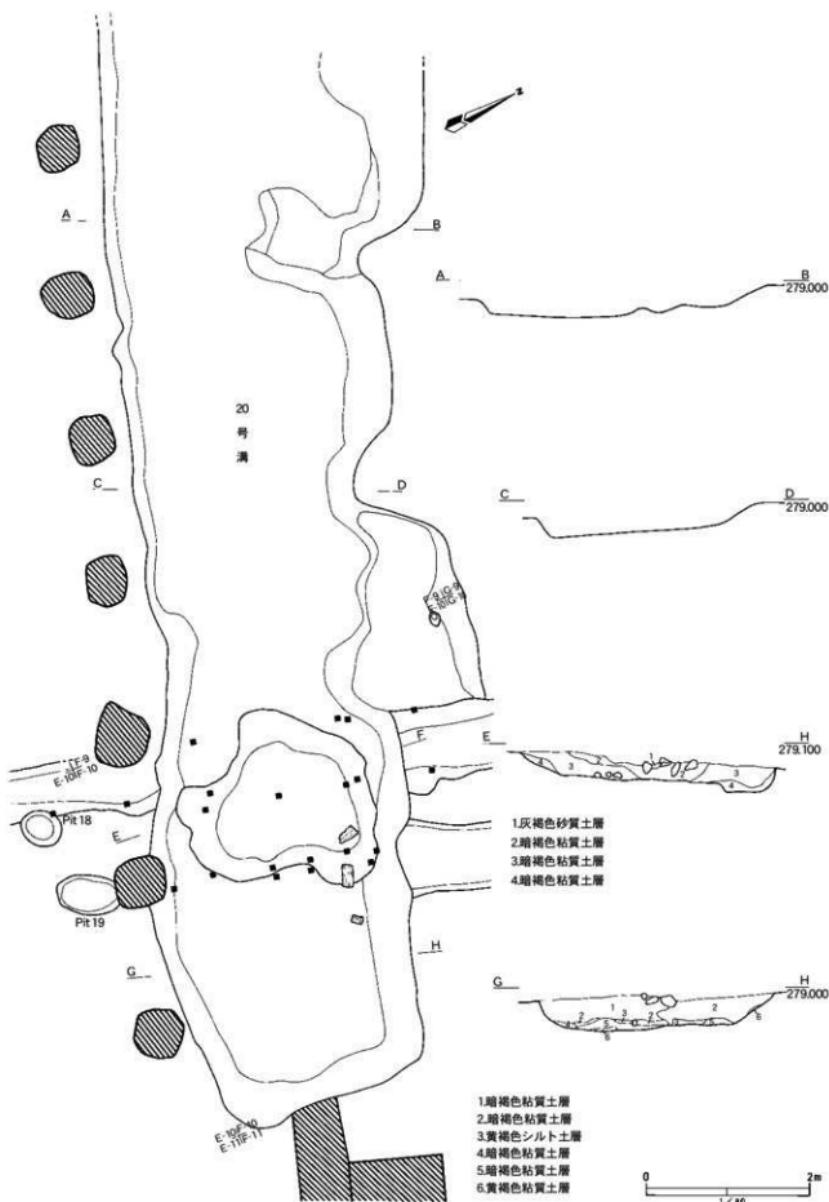
第20圖 第11號溝狀遺構遺物分布圖



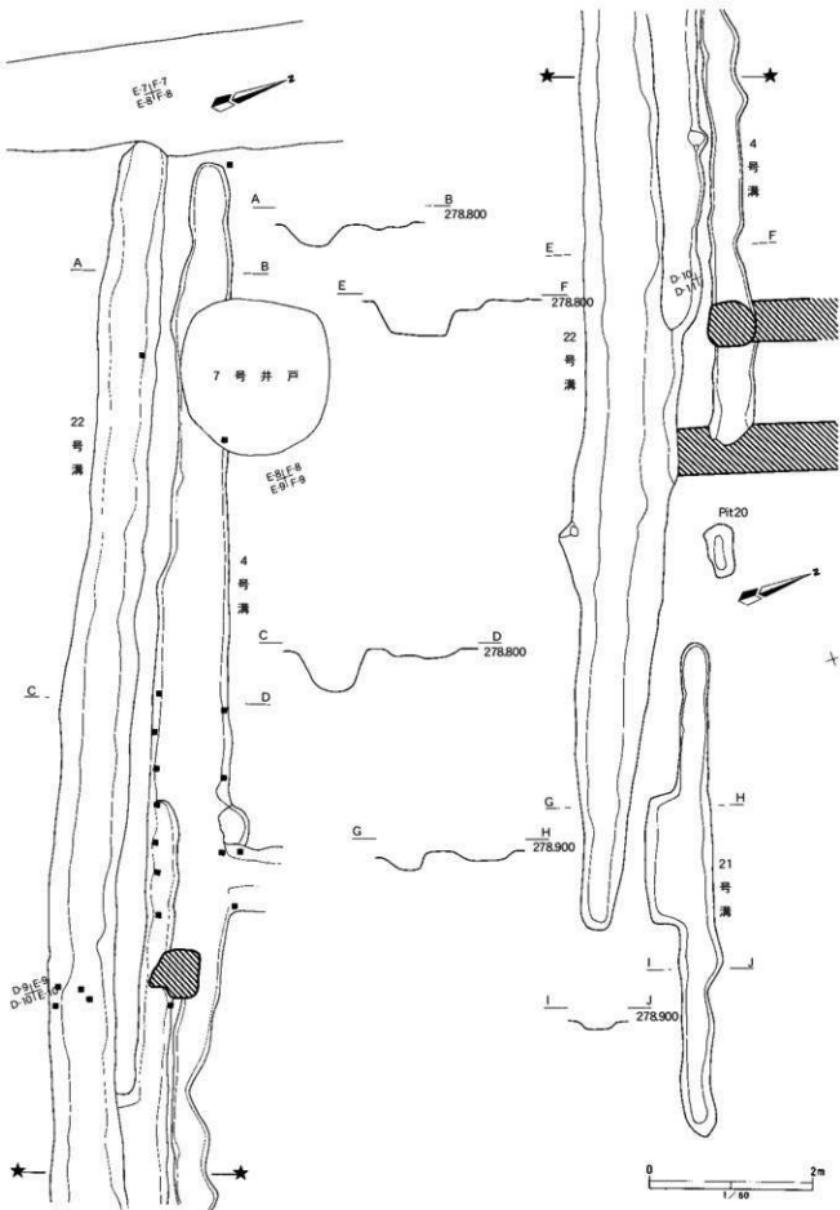
第21図 第12・13号溝状遺構



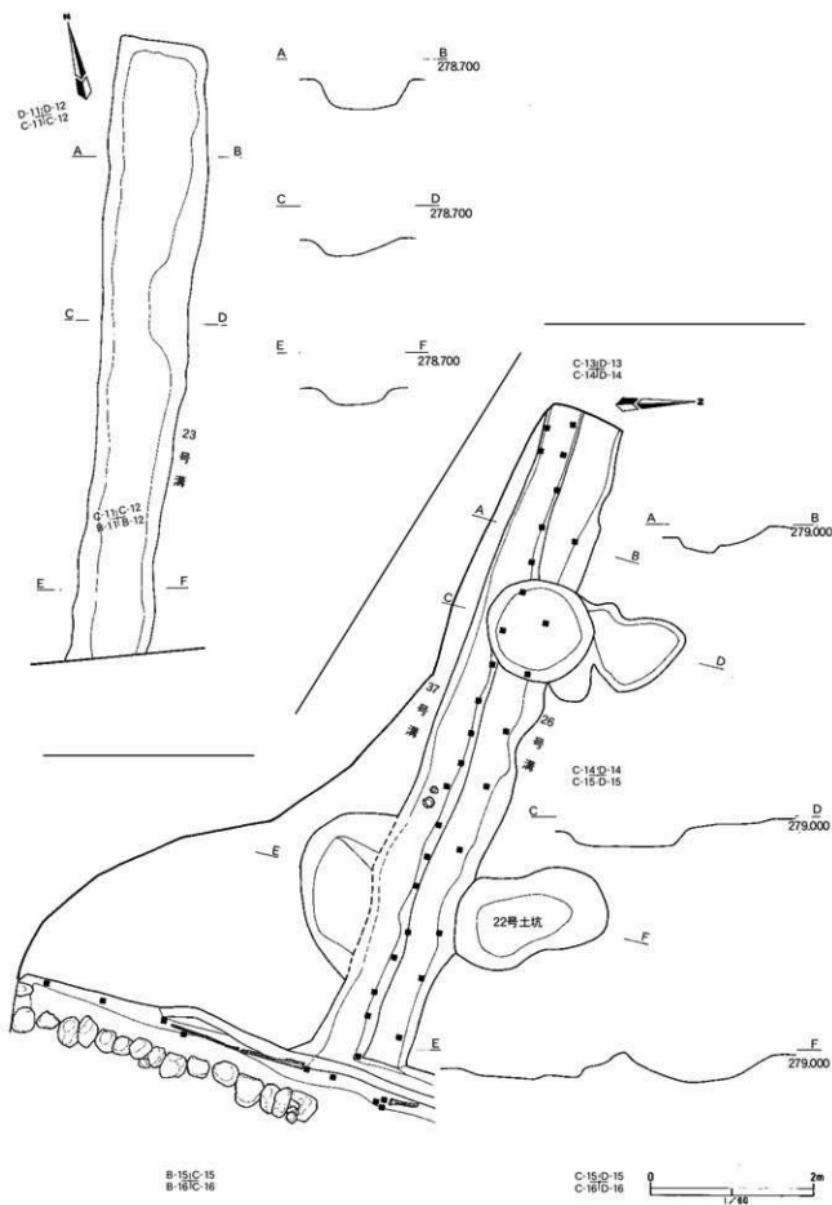
第22図 第14~19溝状造構



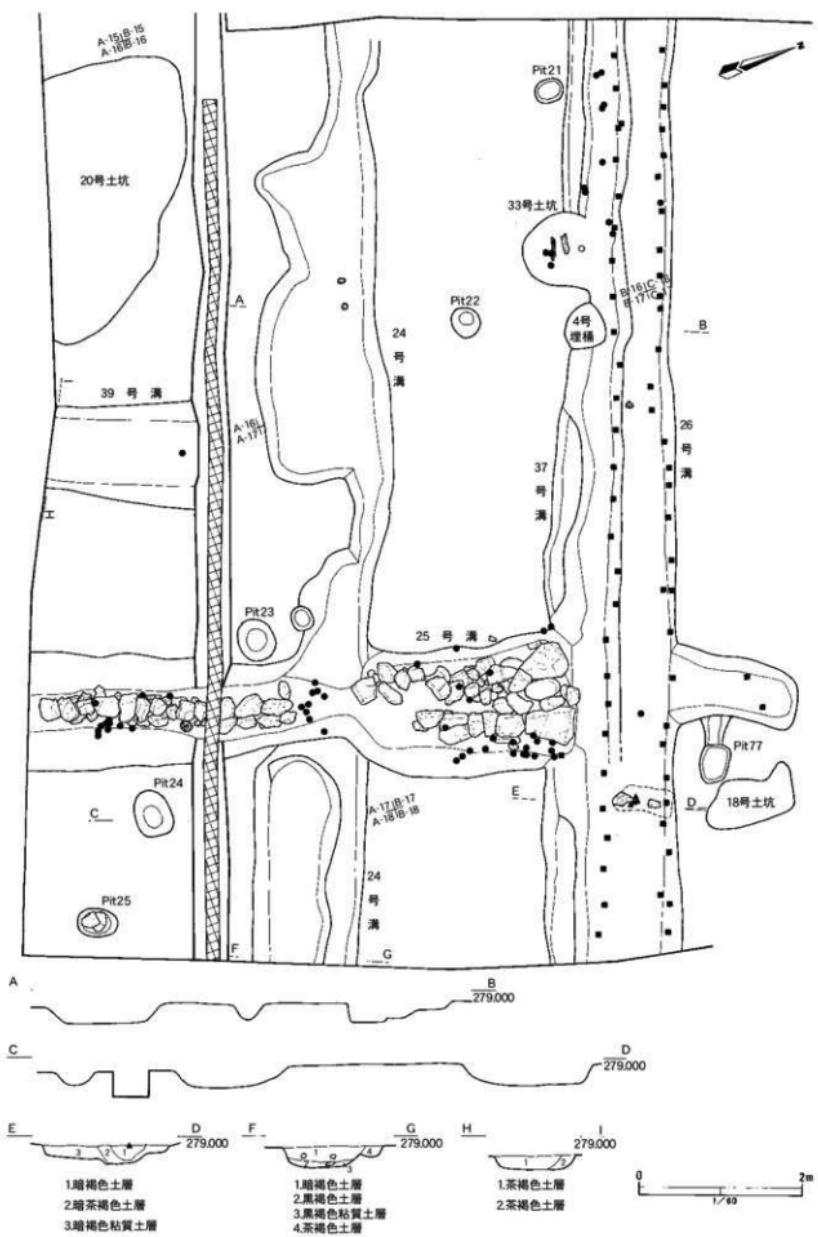
第23図 第20号溝状遺構



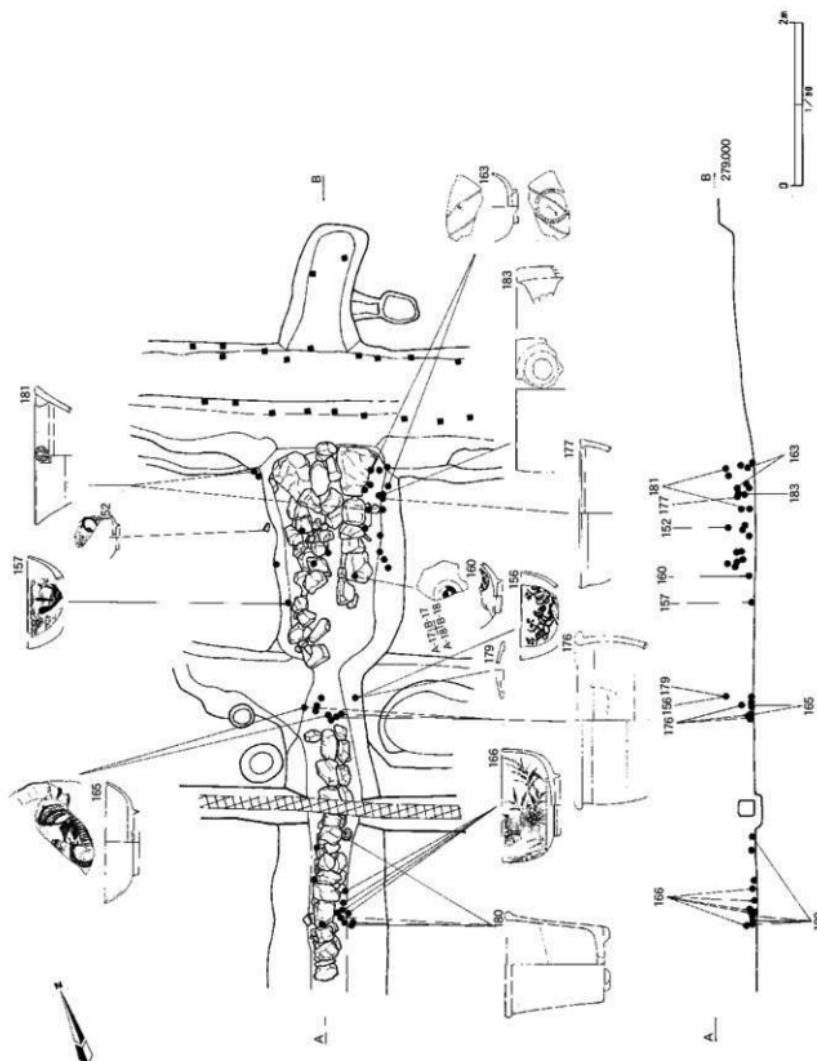
第24図 第4・21・22号溝状造構



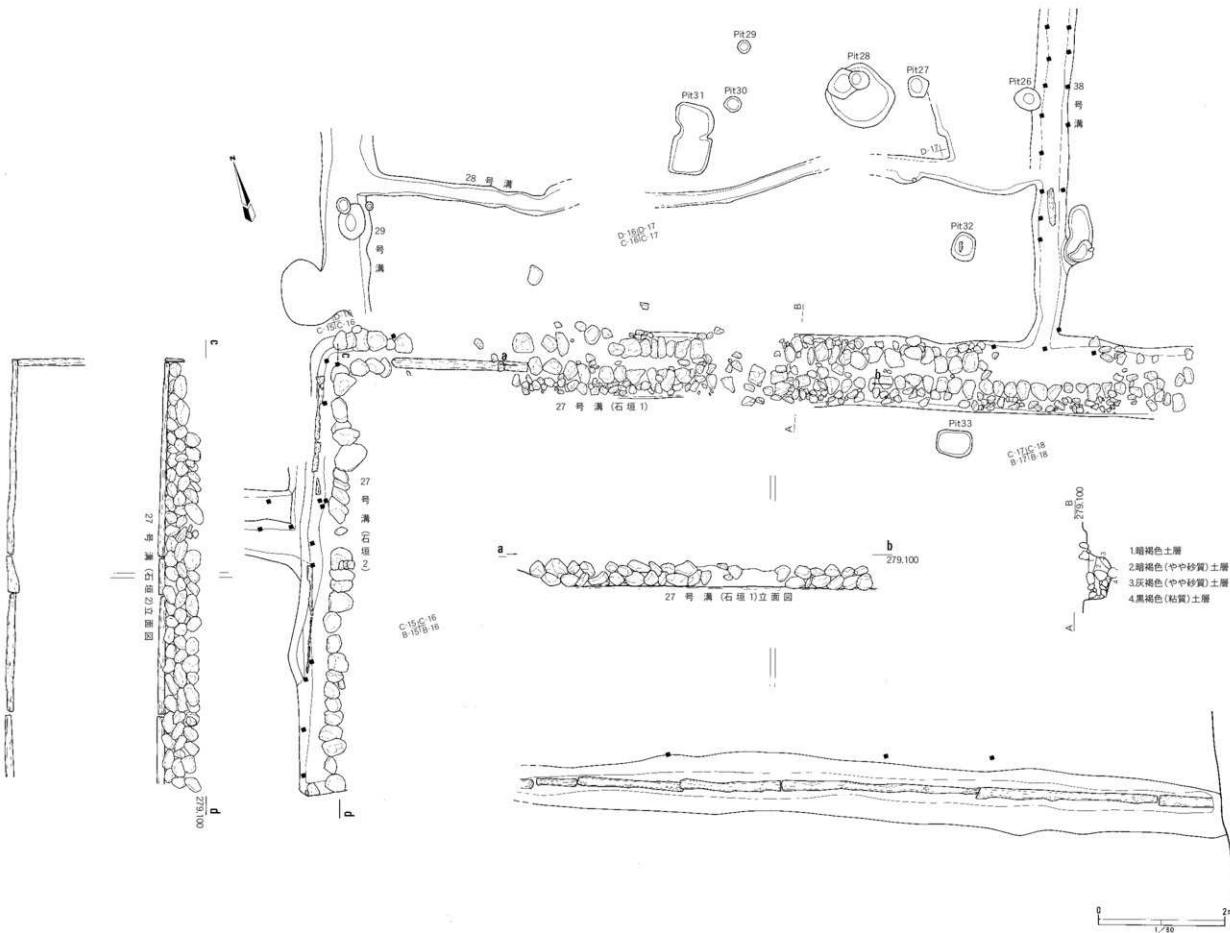
第25図 第23・26・37号溝状遺構



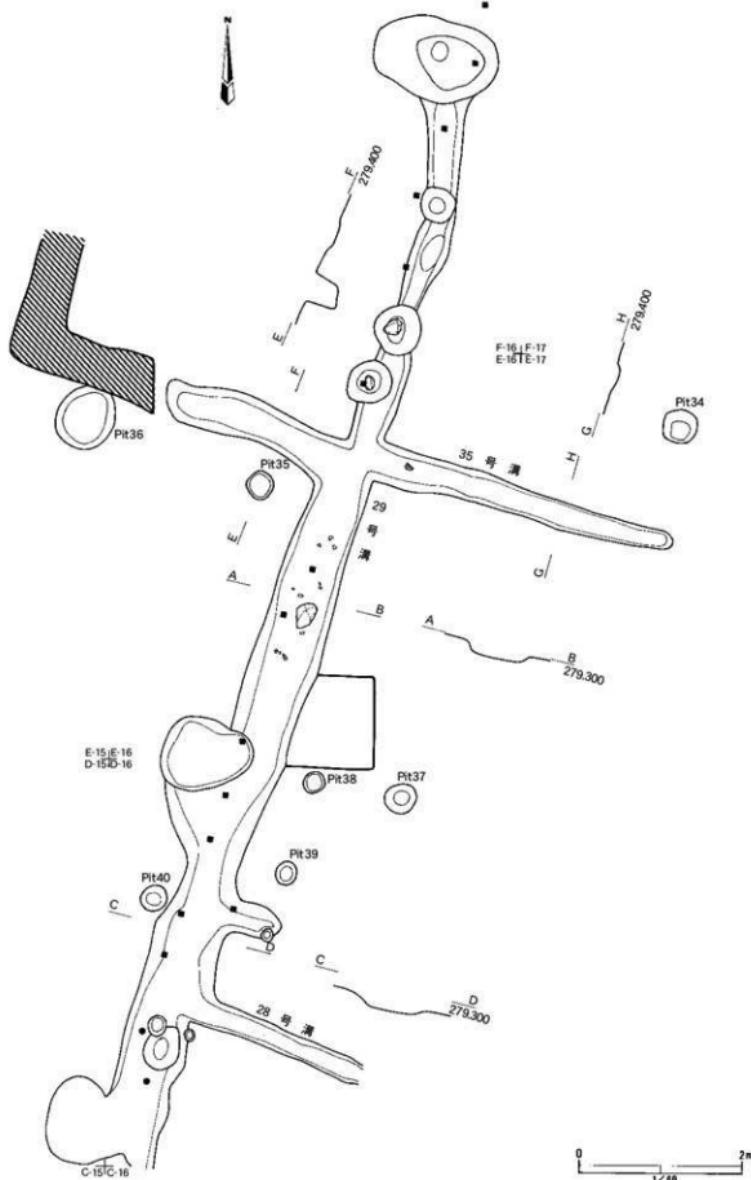
第26図 第24～26・37・39号溝状遺構



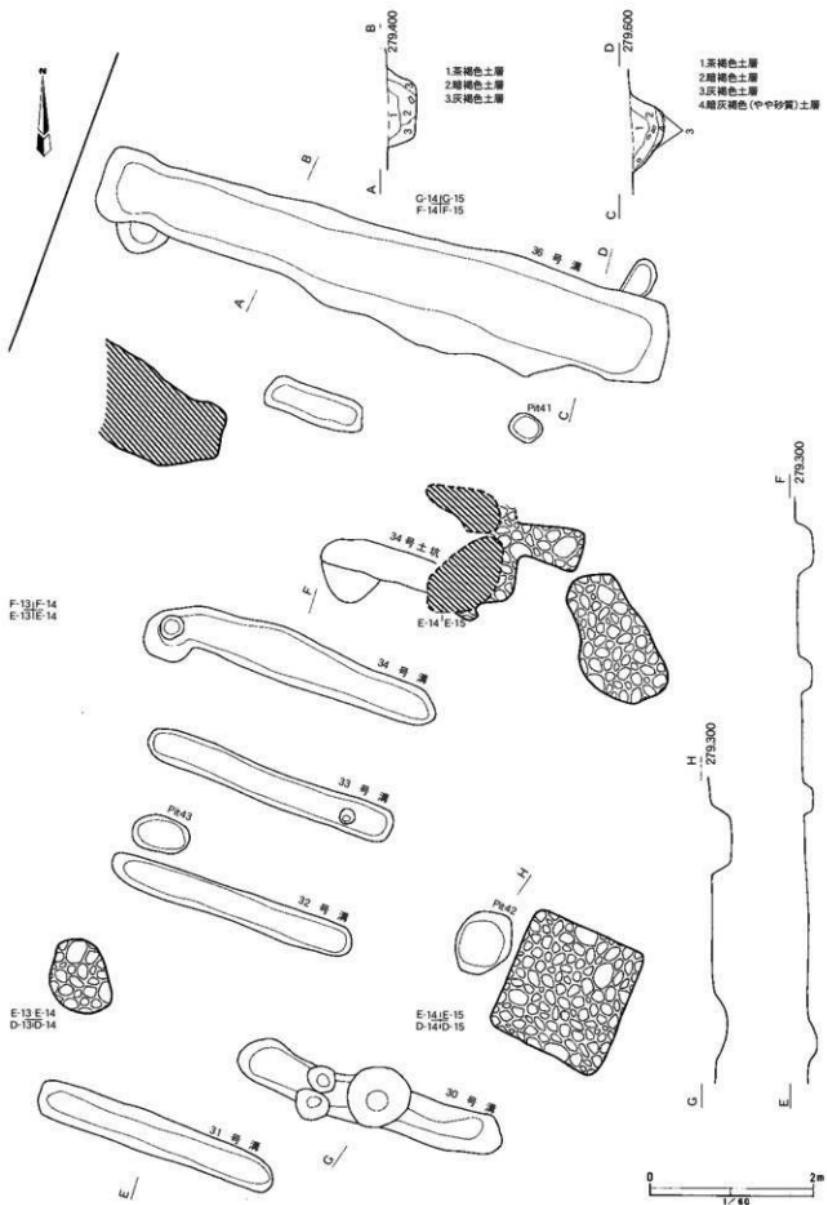
第27圖 第25號薄狀遺構遺物分布圖



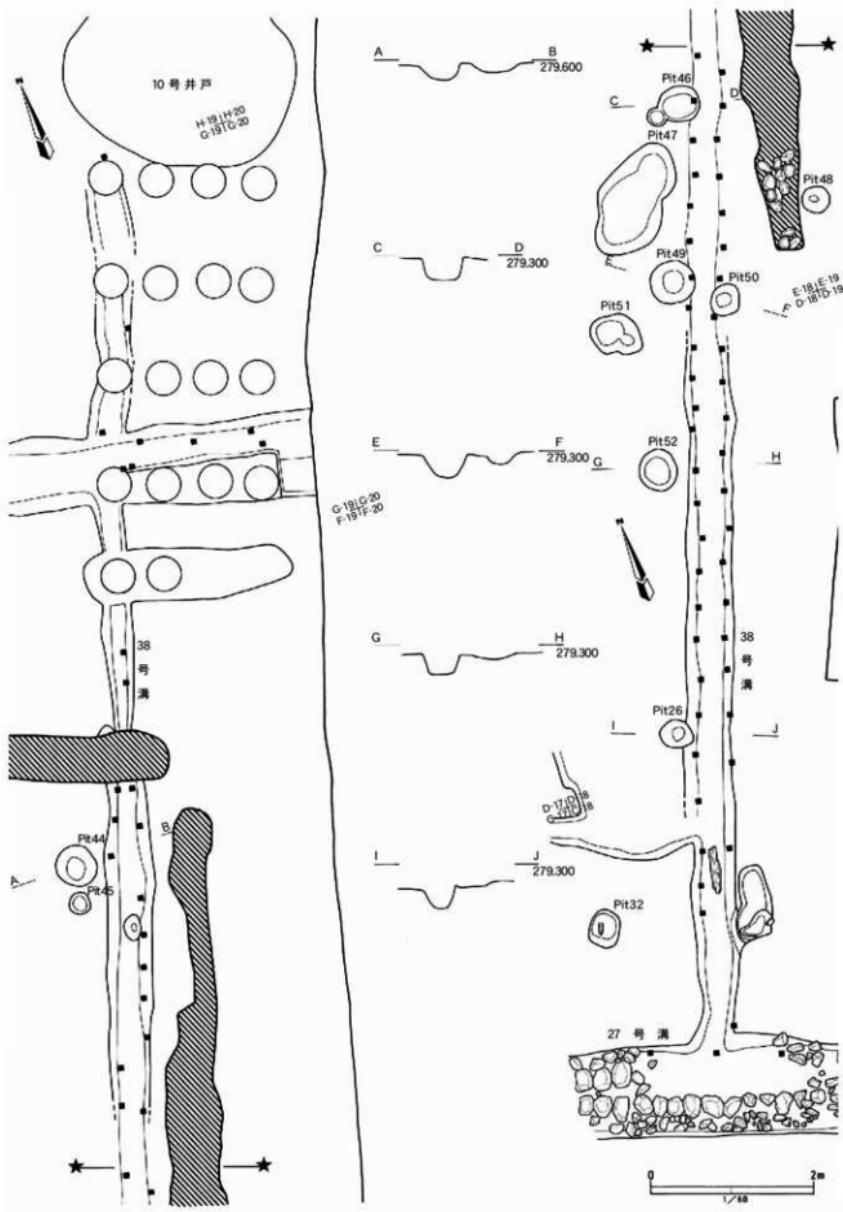
第28図 第27(石垣1・2)・28号溝状遺構



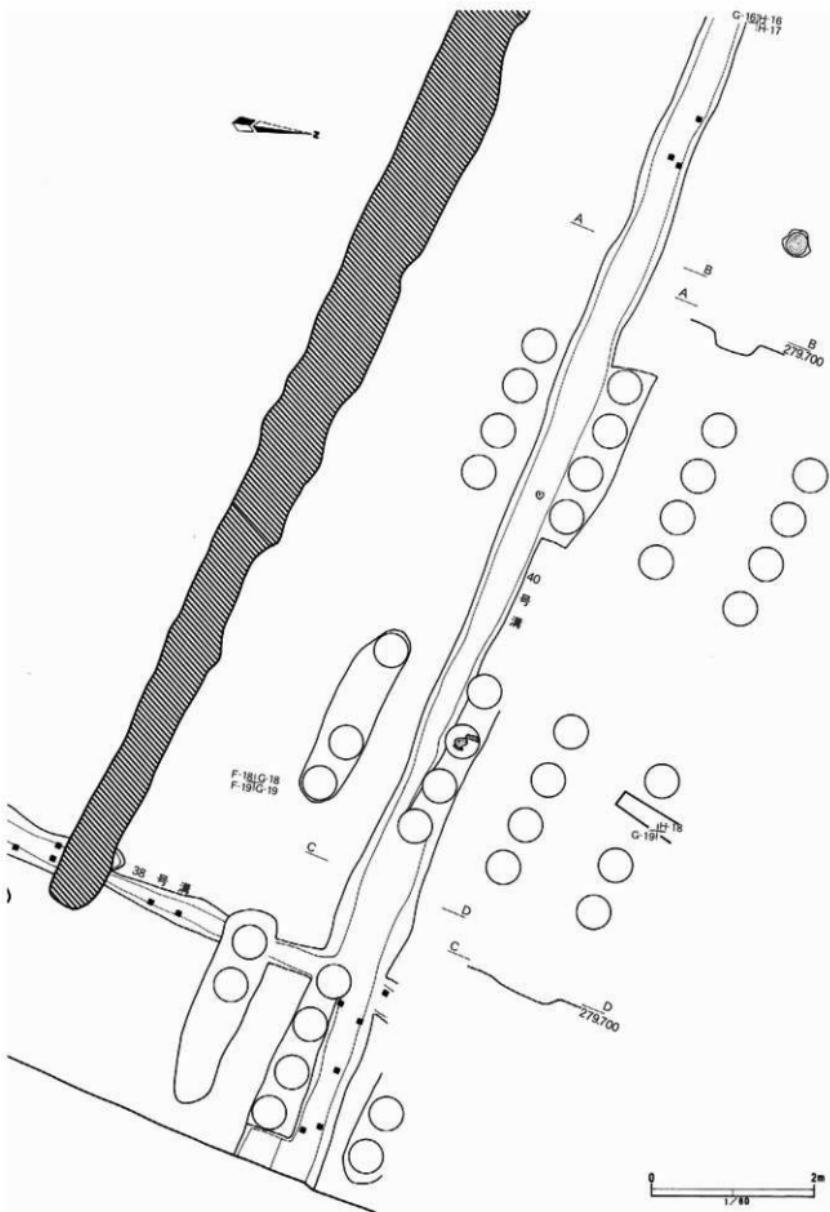
第29図 第29・35号溝状遺構



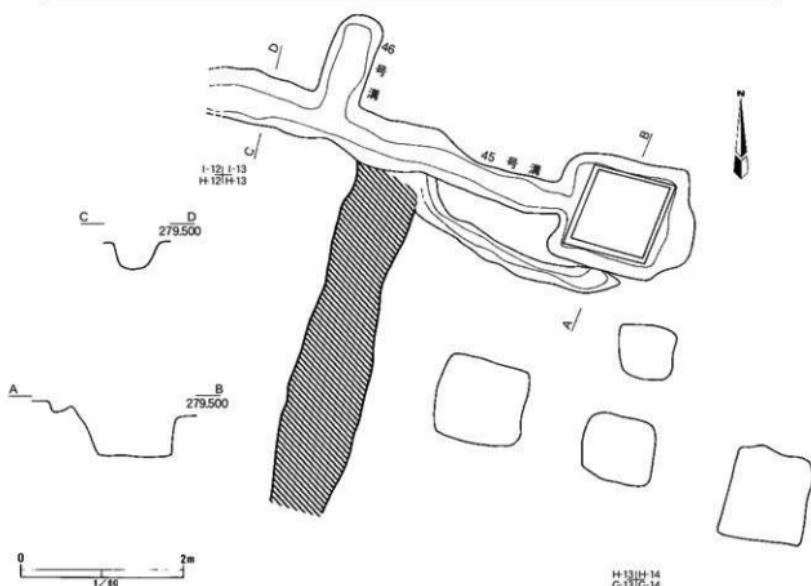
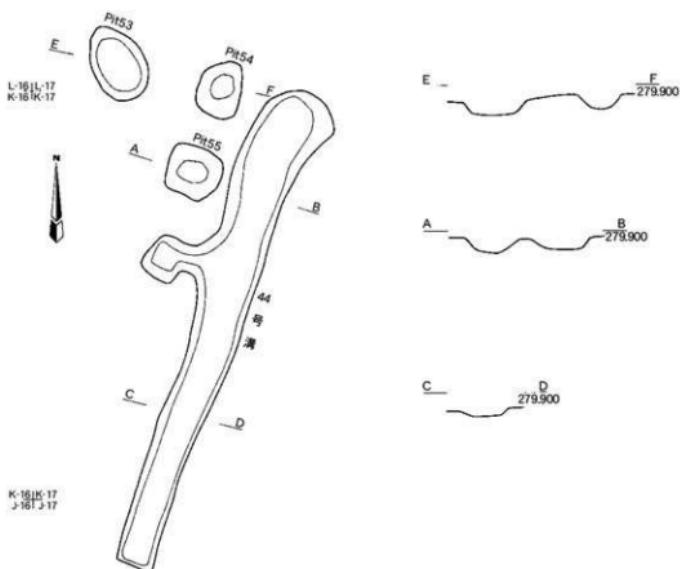
第30図 第30~34、36号溝状遺構



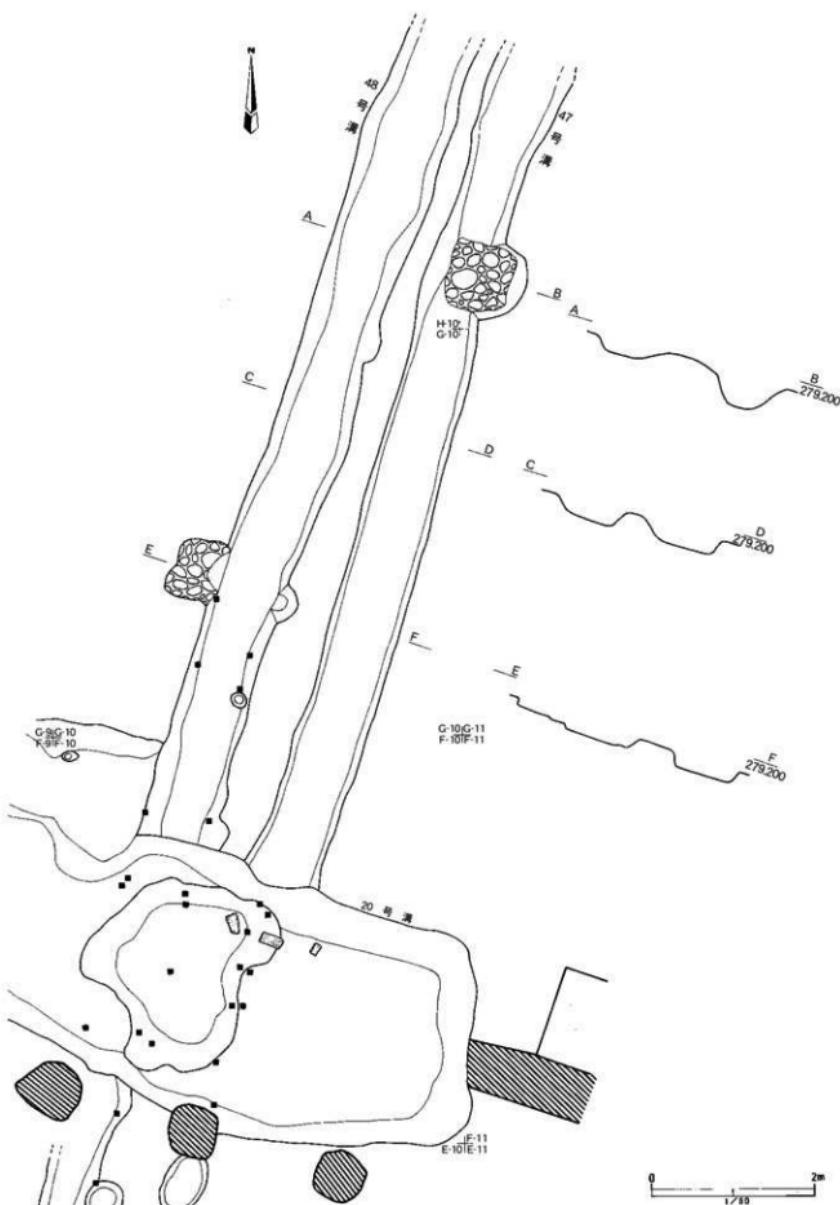
第31図 第38号溝状遺構



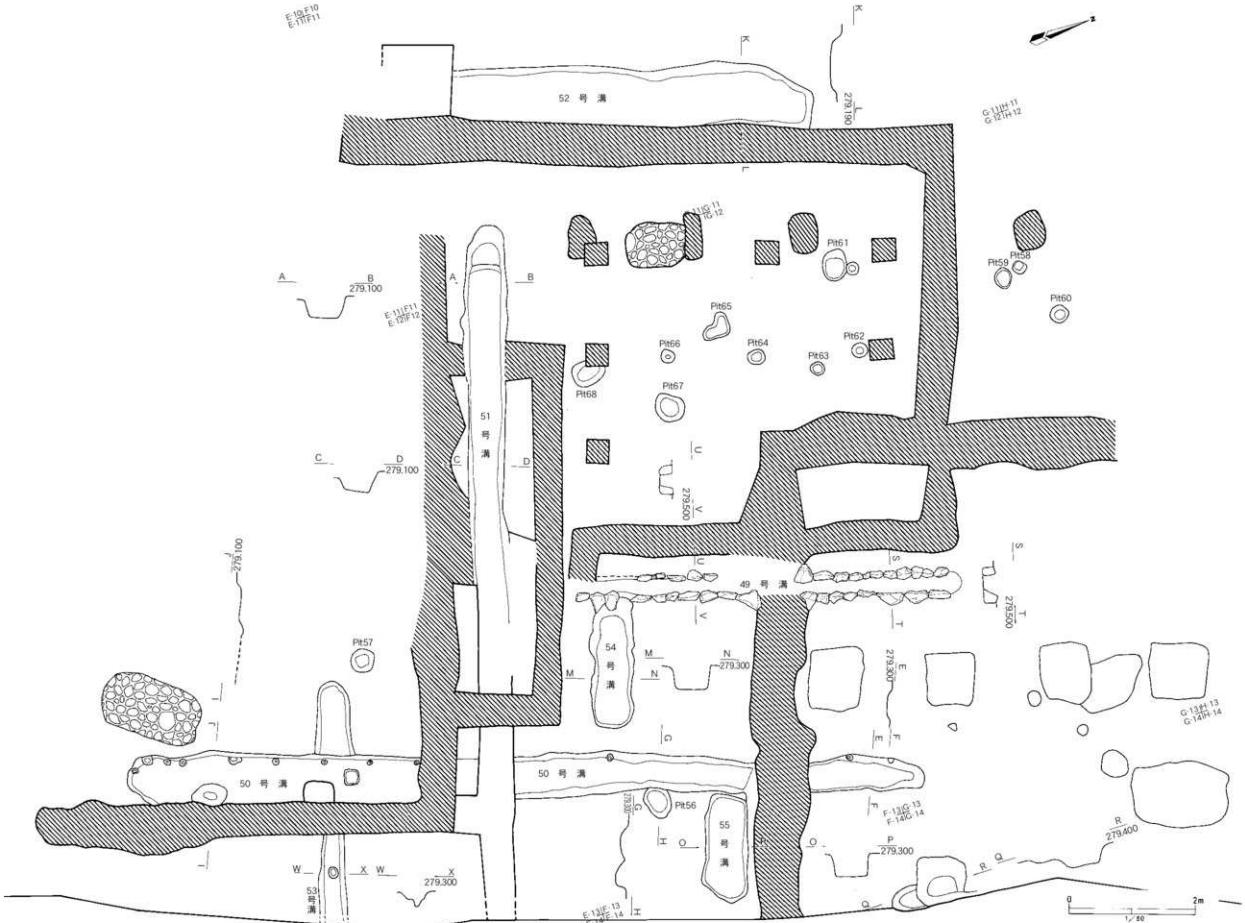
第32図 第40号溝状遺構



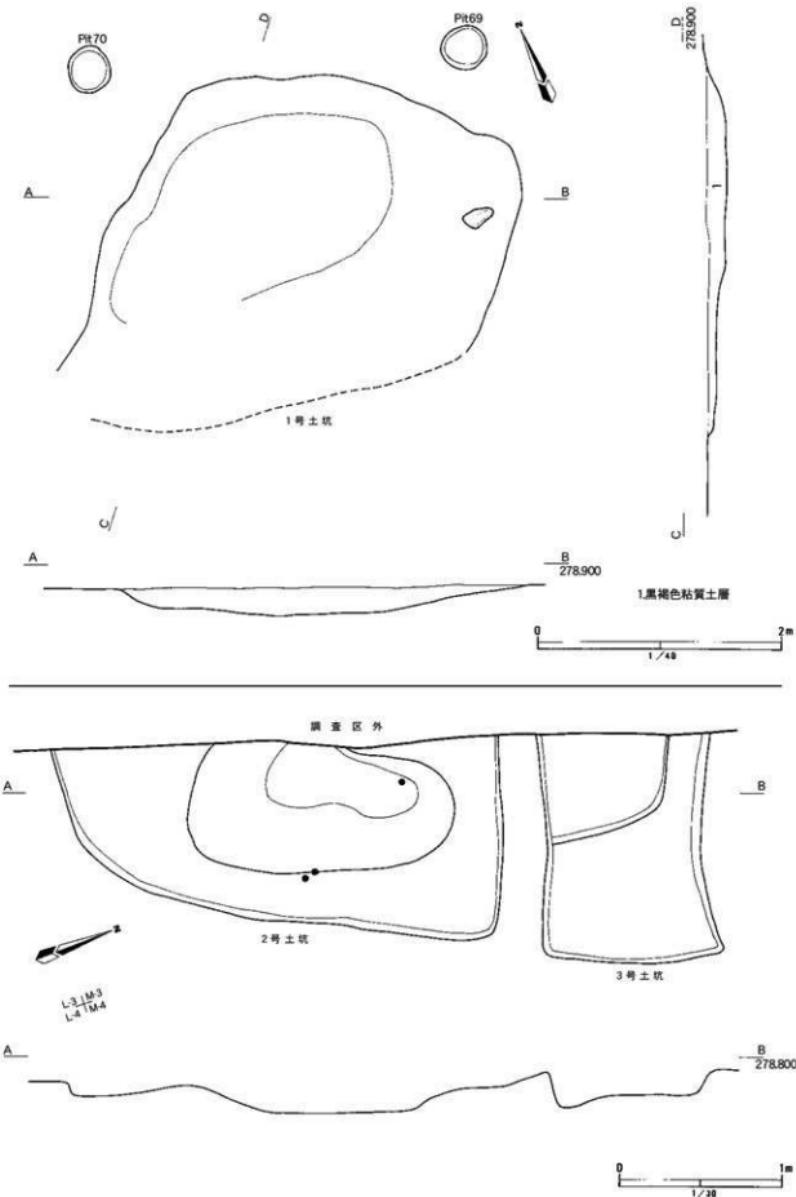
第33図 第44～46号溝状遺構



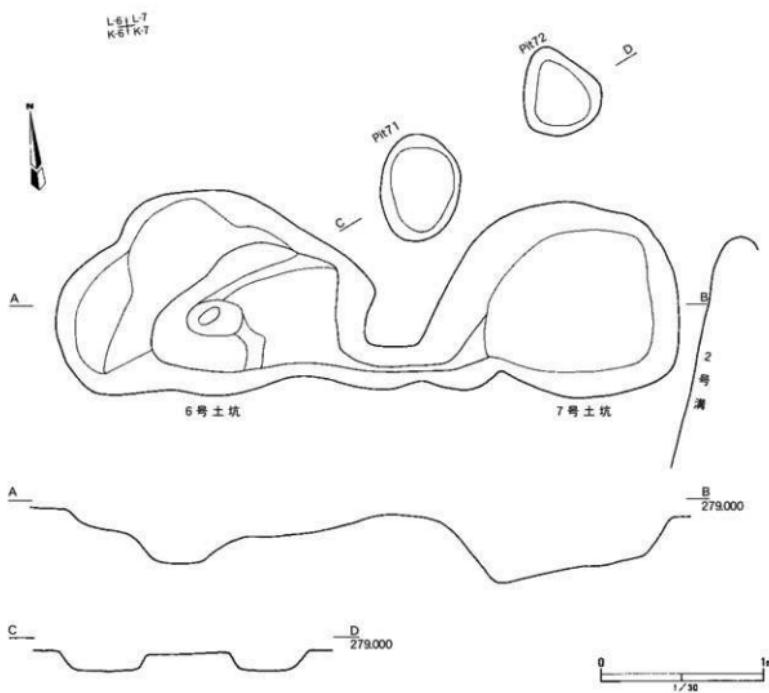
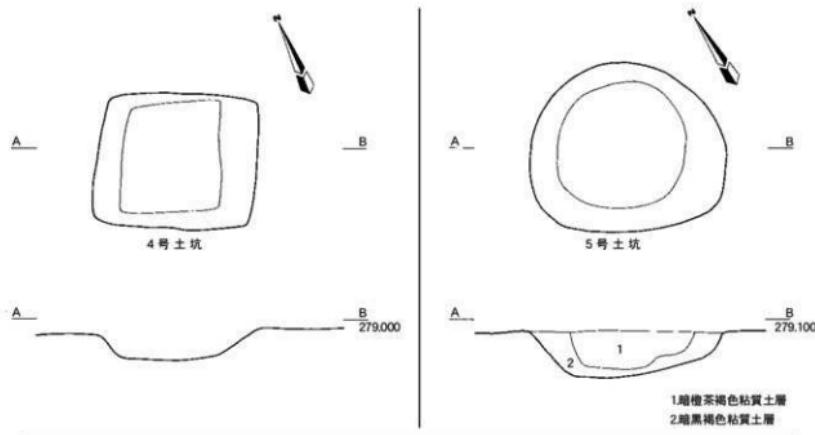
第34図 第47・48号溝状遺構



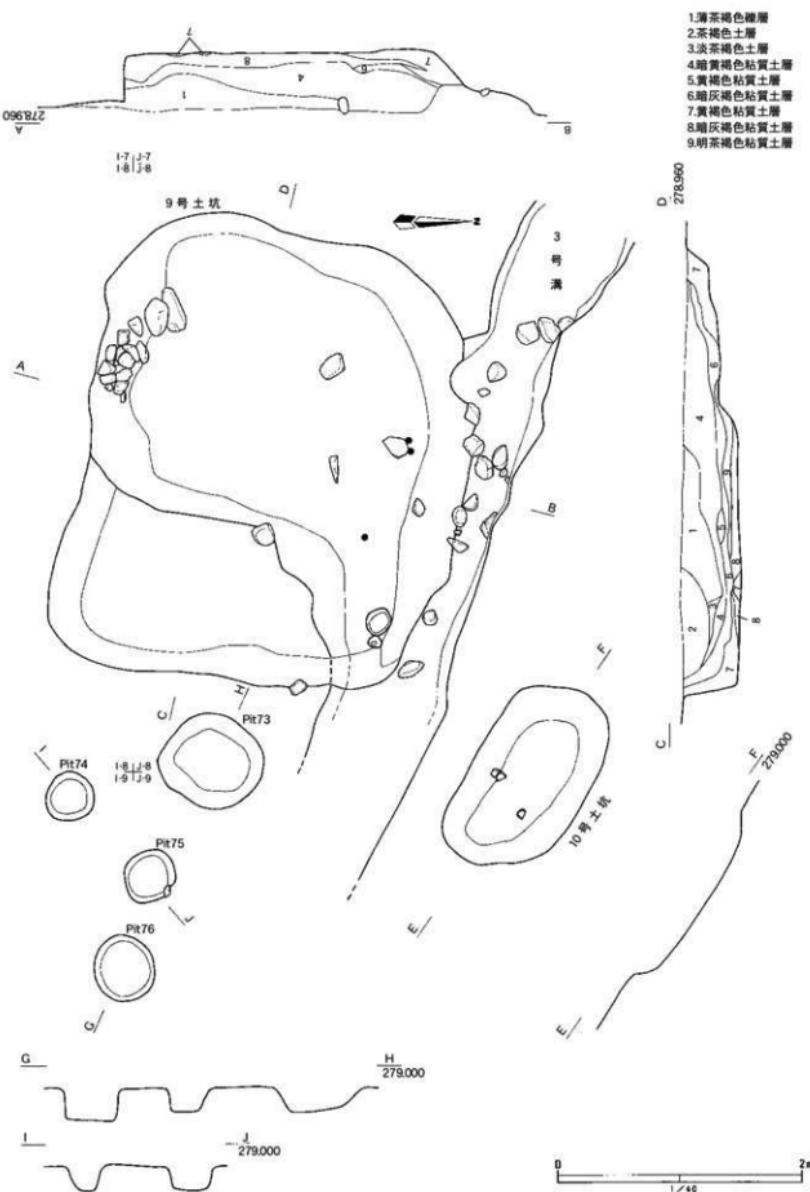
第35図 第49~55号溝状造構



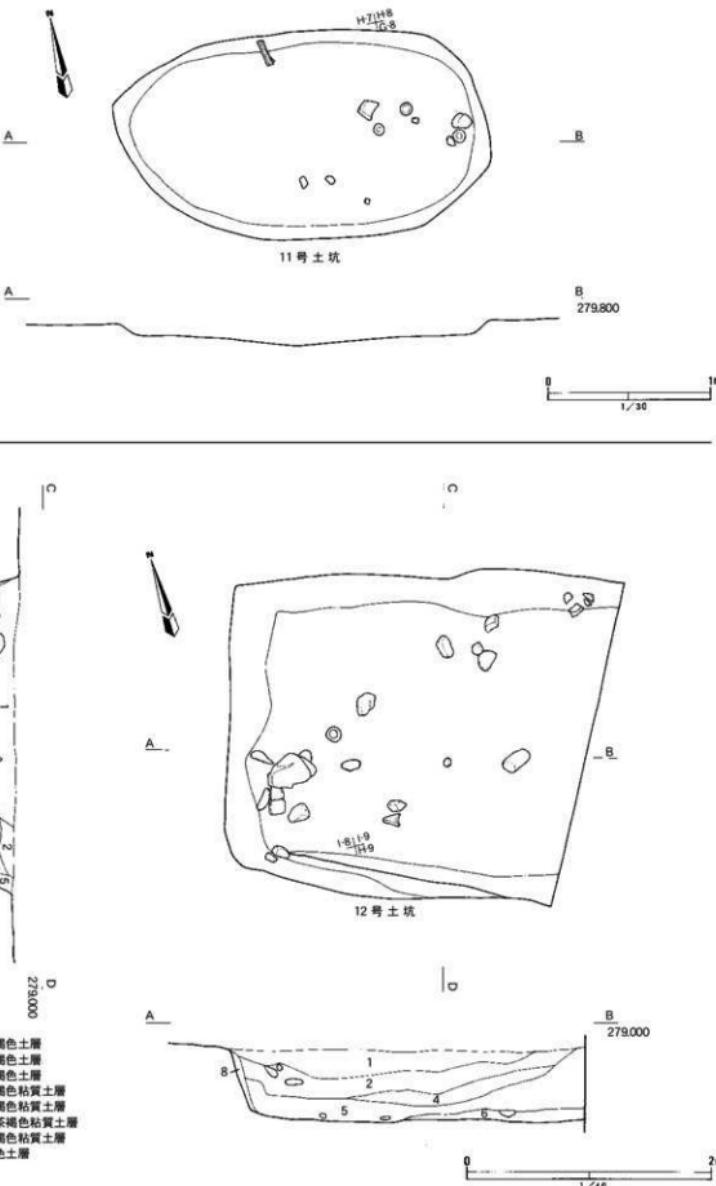
第36図 第1~3号土坑



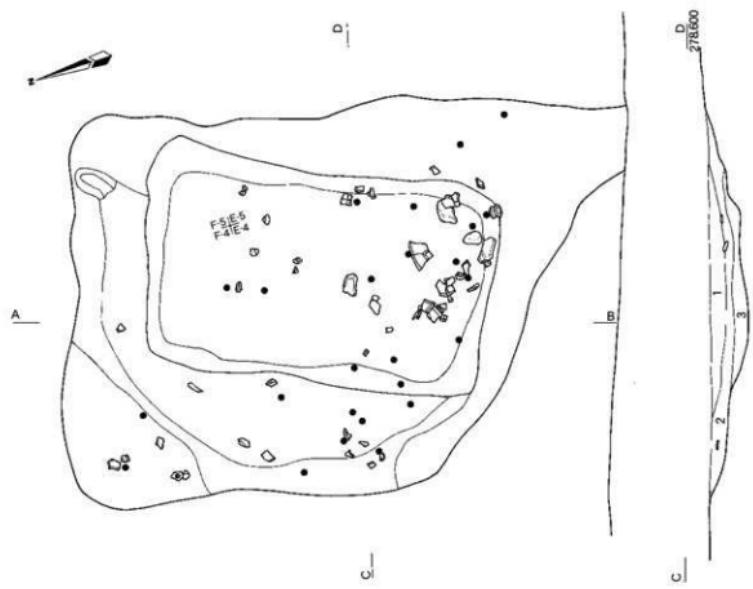
第37図 第4~7号土坑



第38図 第9・10号土坑

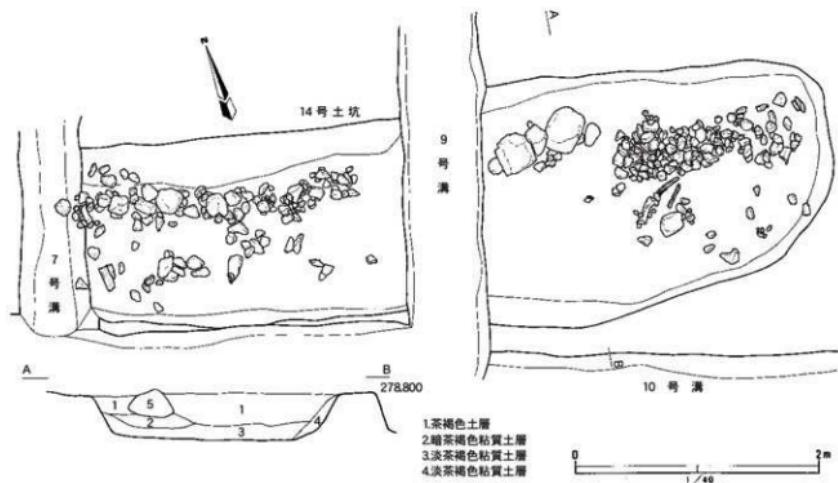


第39図 第11・12号土坑

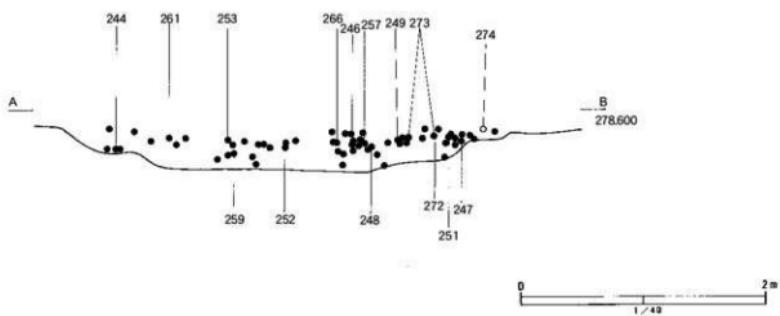
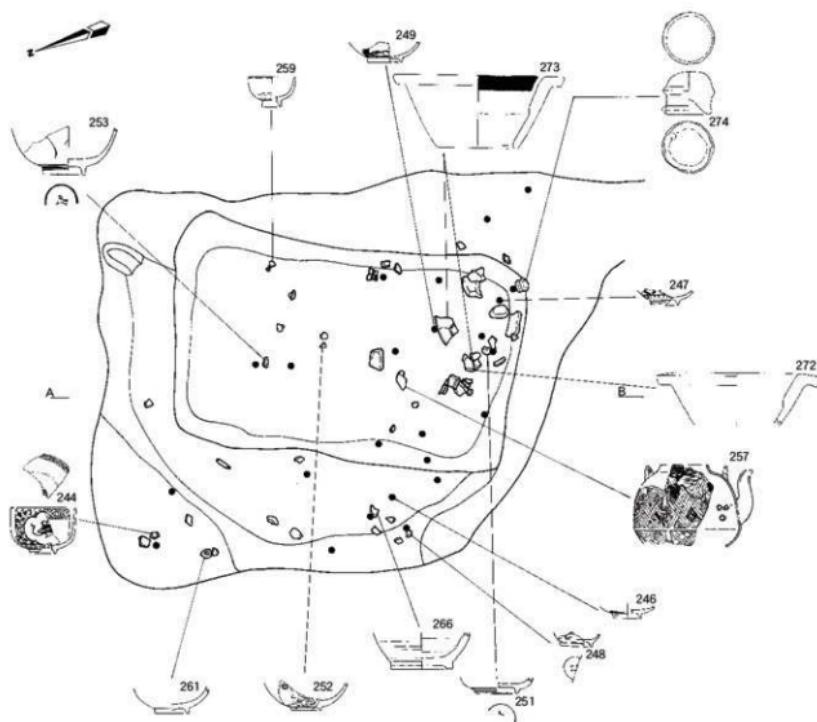


B 278.600

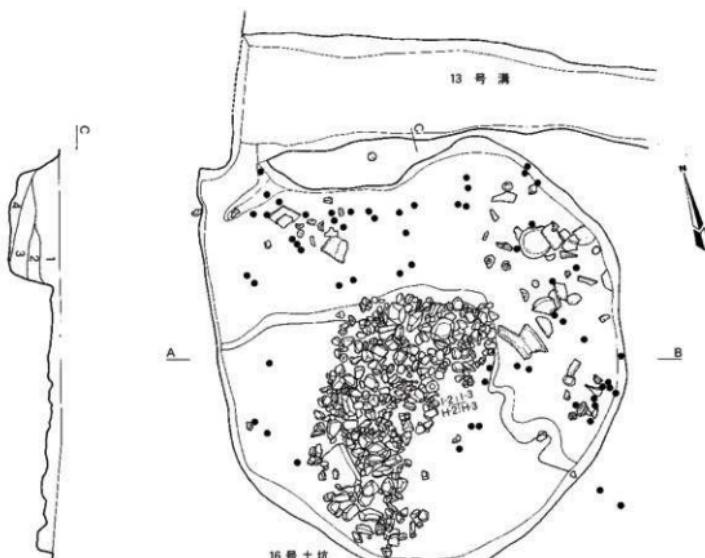
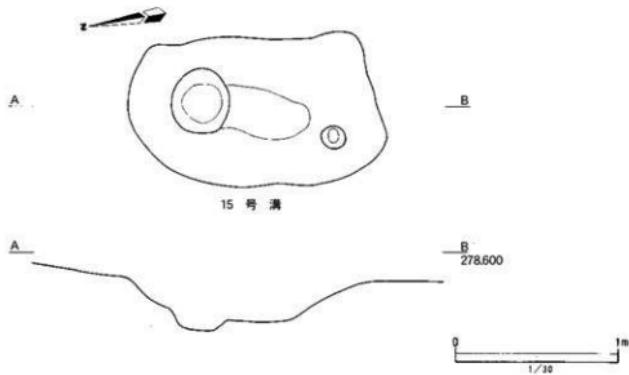
1.茶褐色粘質土層
2.暗茶褐色粘質土層
3.淡茶褐色粘質土層
4.暗茶褐色土層



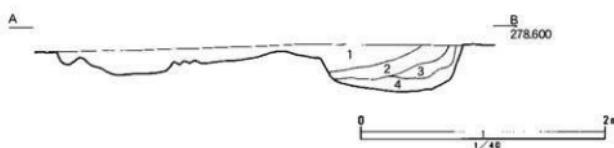
第40図 第13・14号土坑



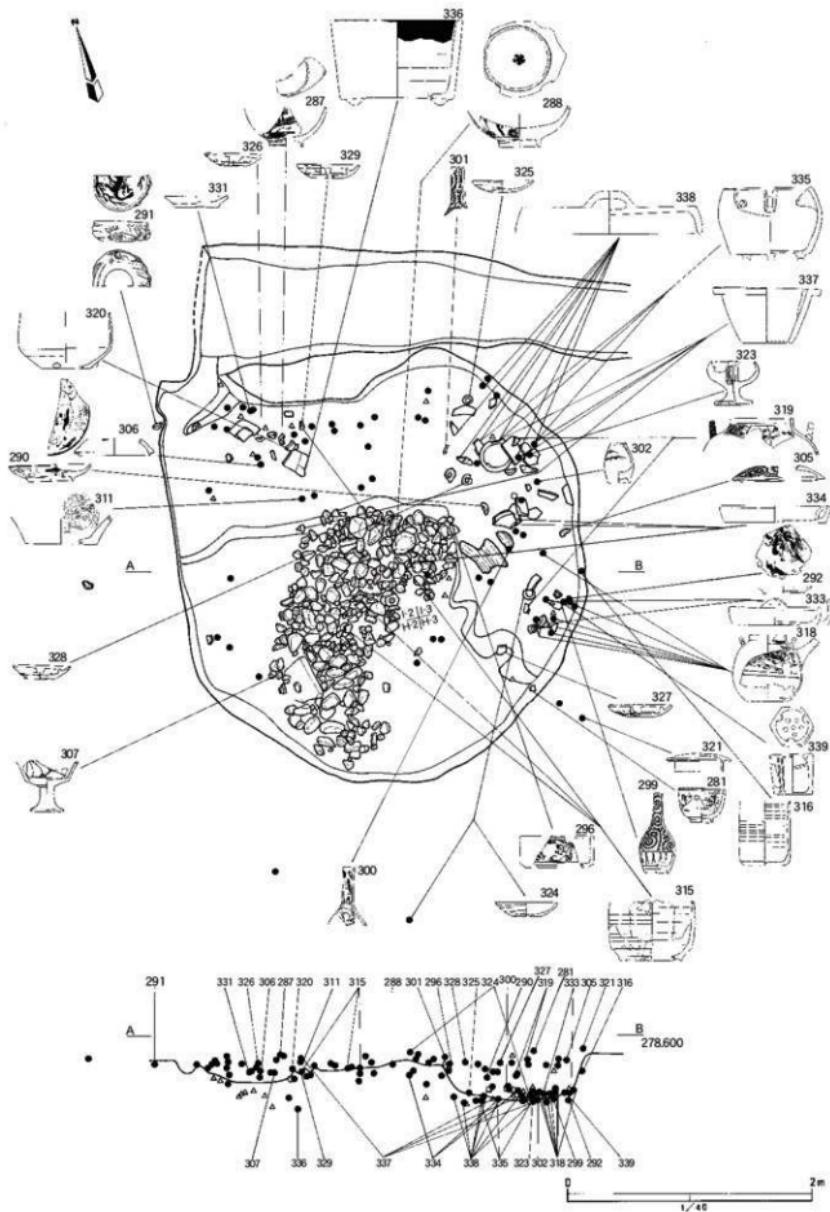
第41図 第13号土坑遺物分布図



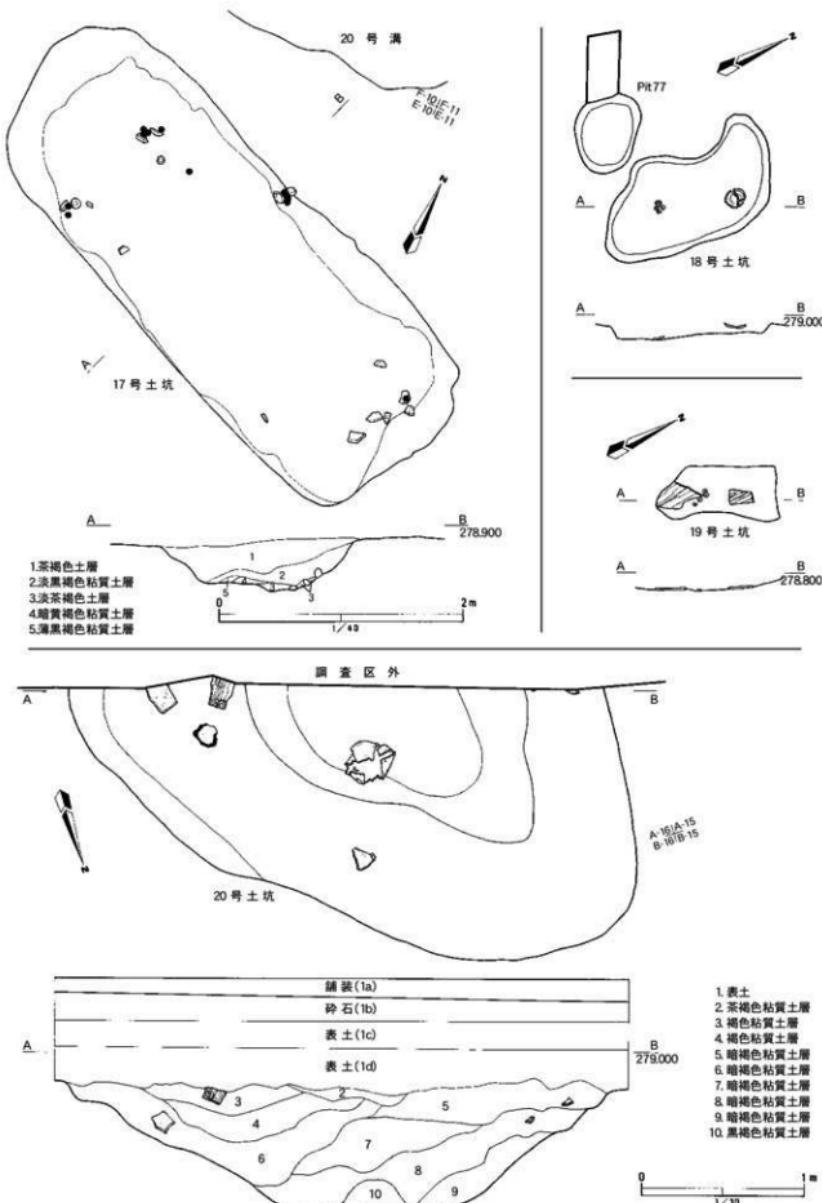
1. 黑褐色粘質土層
2. 暗茶褐色粘質土層
3. 暗茶褐色粘質土層
4. 薄黑褐色粘質土層



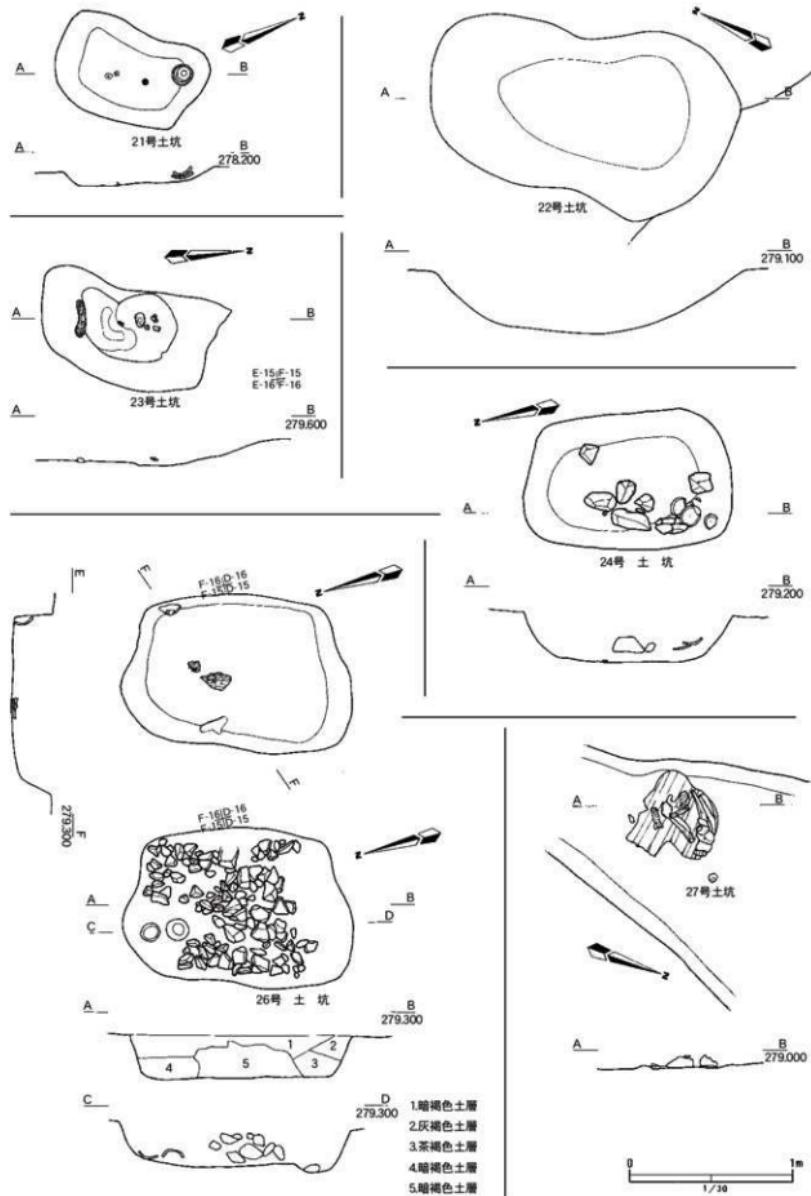
第42図 第15・16号土坑



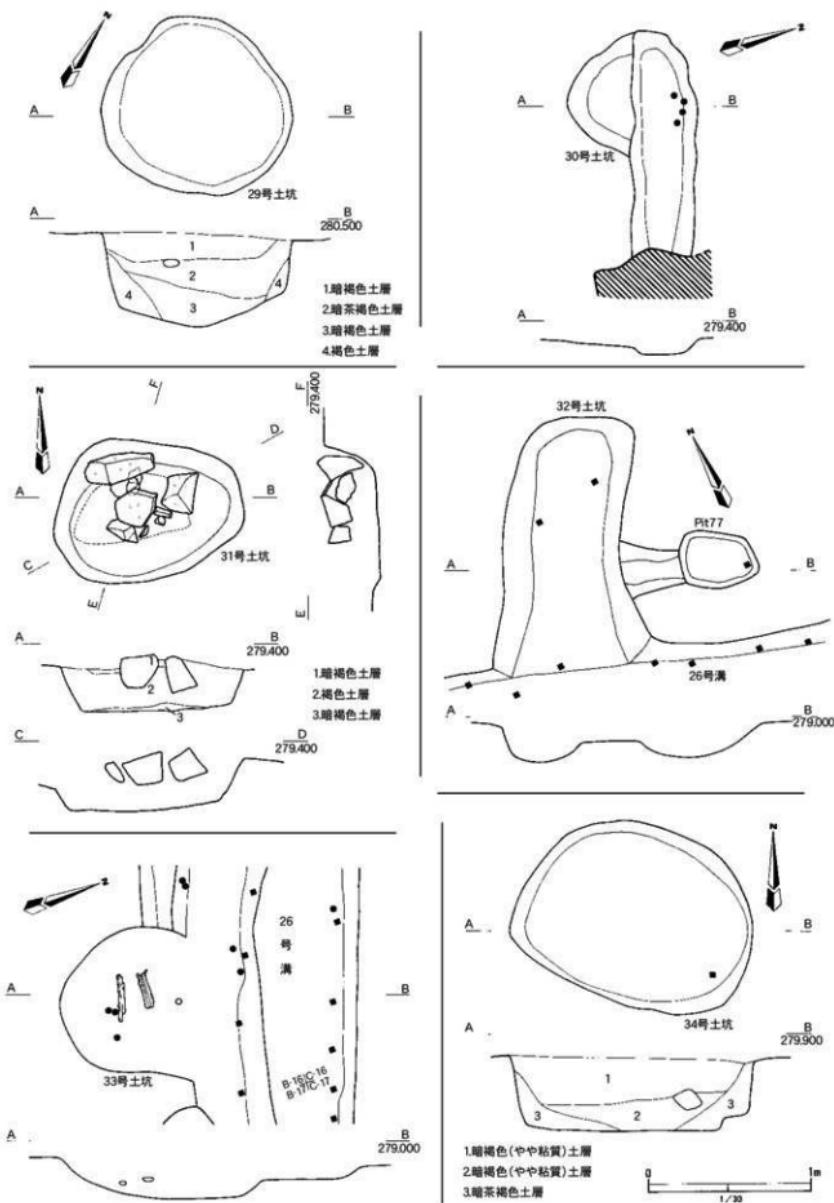
第43図 第16号土坑遺物分布図



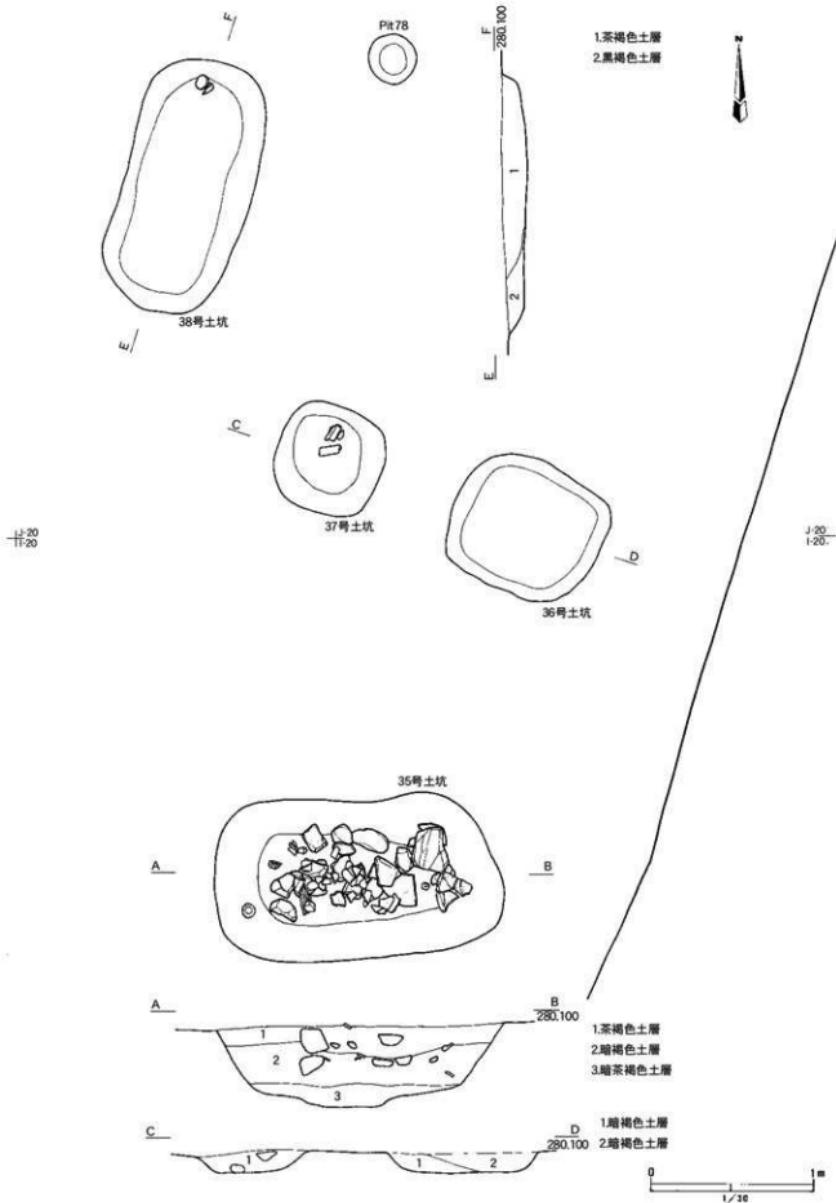
第44図 第17~20号土坑



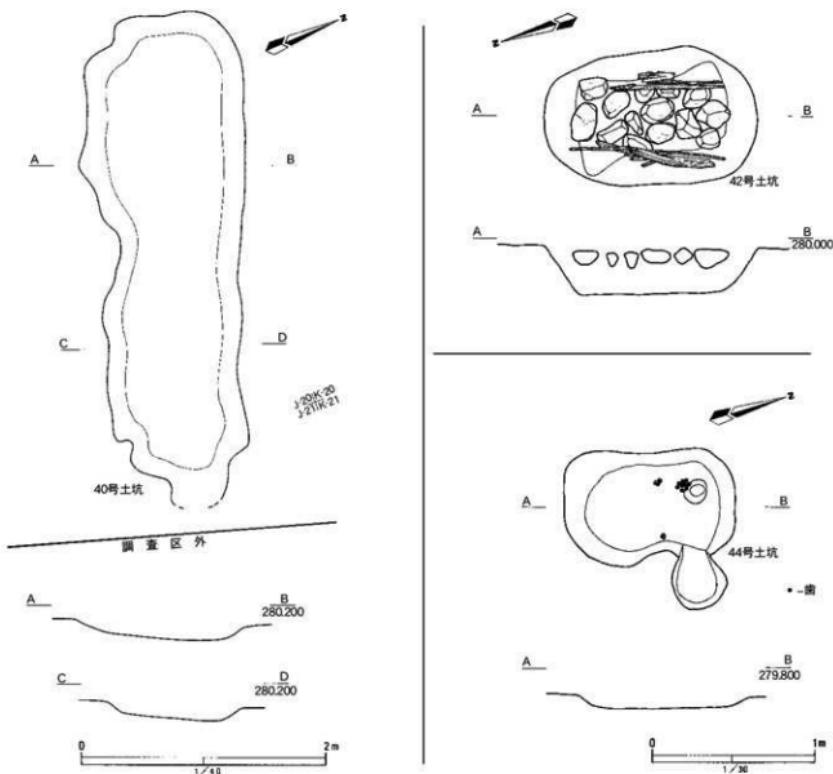
第45図 21~24・26・27号土坑



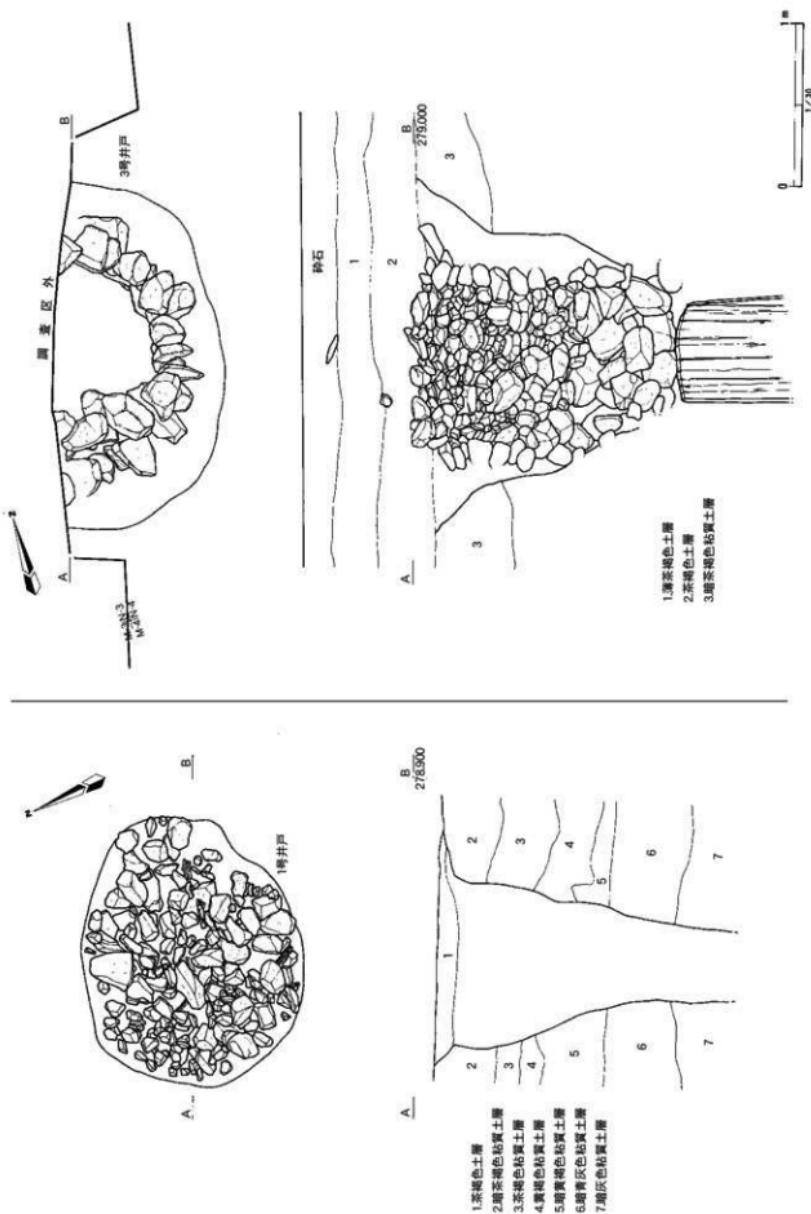
第46図 第29~34号土坑



第47図 第35~38号土坑



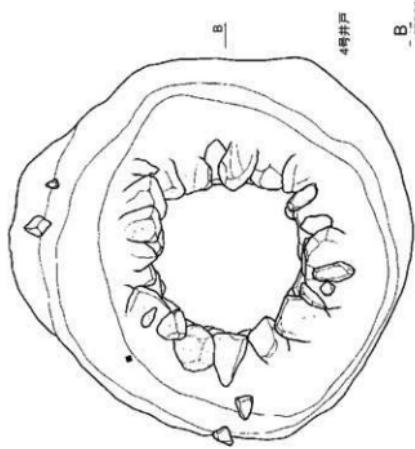
第48図 第40・42・44号土坑



第49圖 第1・3号井戸

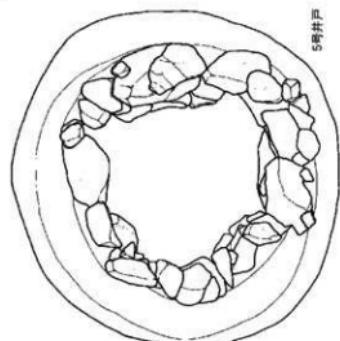


第50図 第2号井戸



5号井戸

A



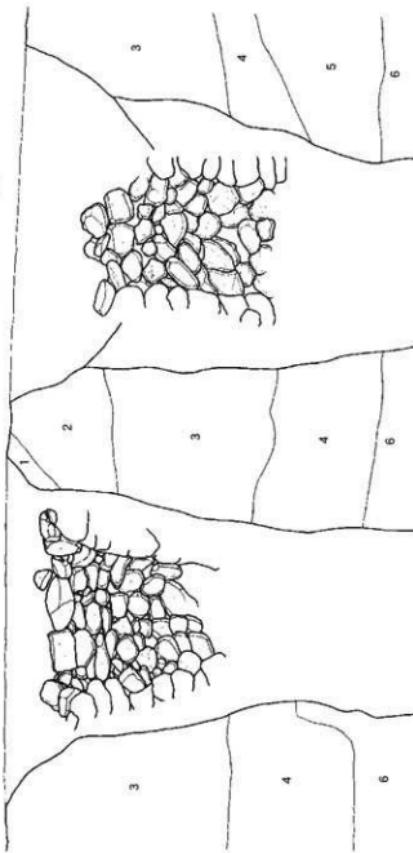
4号井戸

A

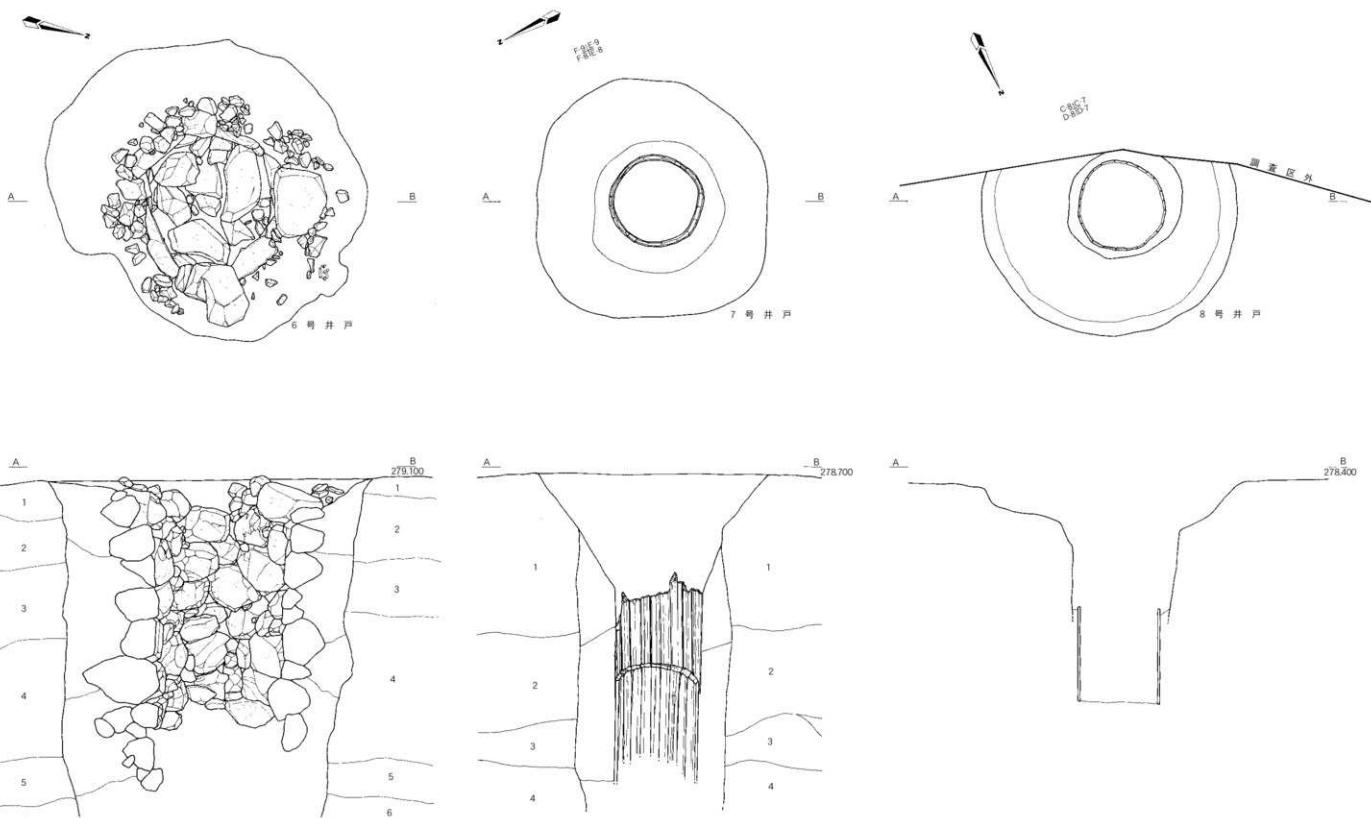
B
- 273.300

A

- 1茶褐色土層
- 2淡黃褐色粘土層
- 3青褐色粘質土層
- 4明黃褐色粘土層
- 5暗灰褐色沙礫層
- 6暗灰色沙礫層



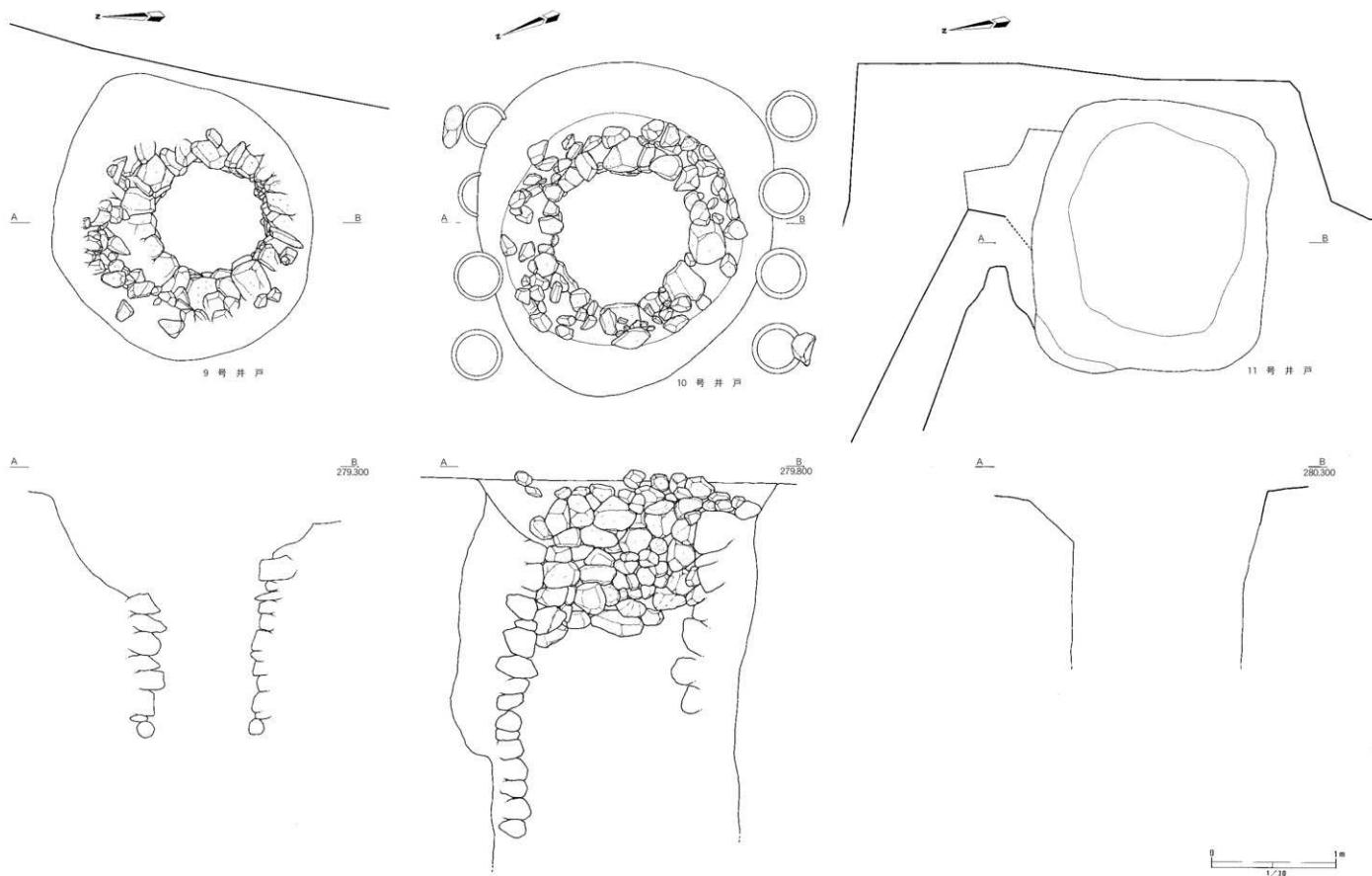
第51図 第4・5号井戸



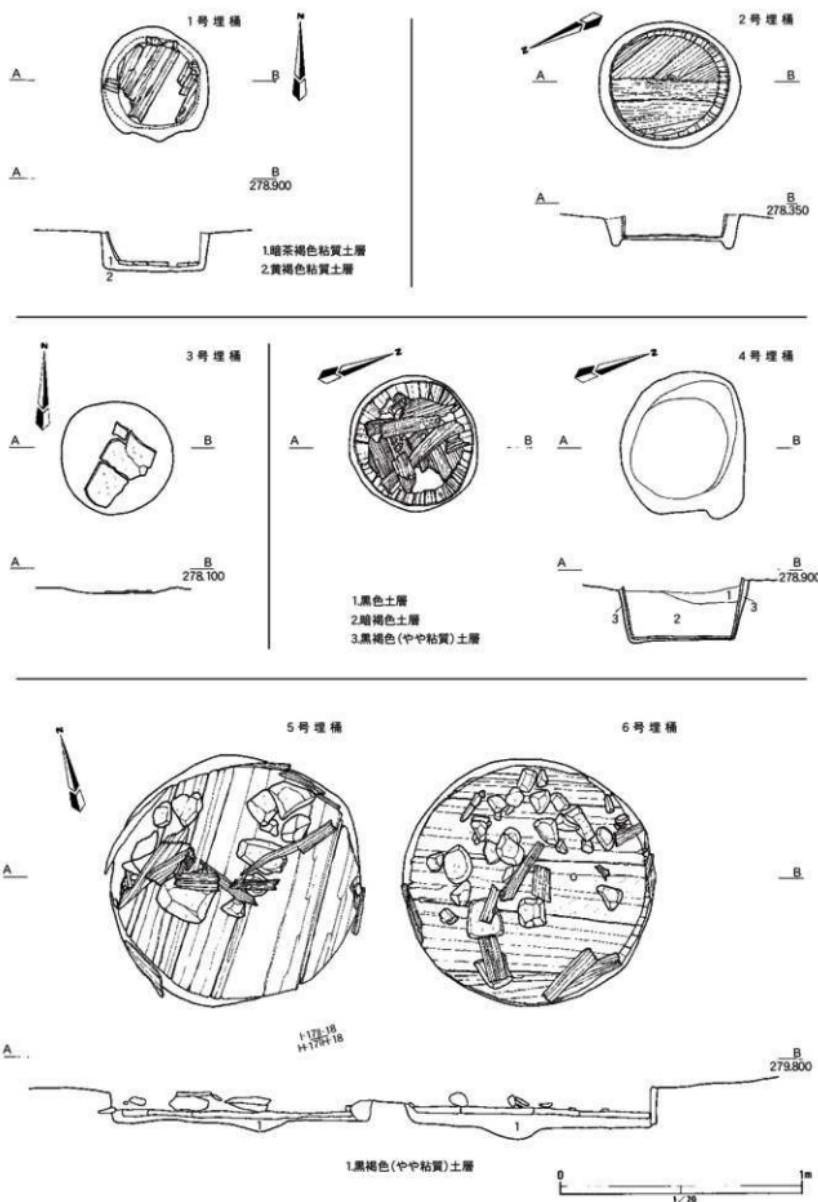
- 1.茶褐色土層
2.明茶褐色粘質土層
3.暗茶褐色粘質土層
4.明黃褐色粘質土層
5.暗灰色砂質土層
6.黑色粘質土層

- 1.黄褐色粘質土層
2.明黄褐色粘質土層
3.暗灰色砂質土層
4.黒灰色粘質土層

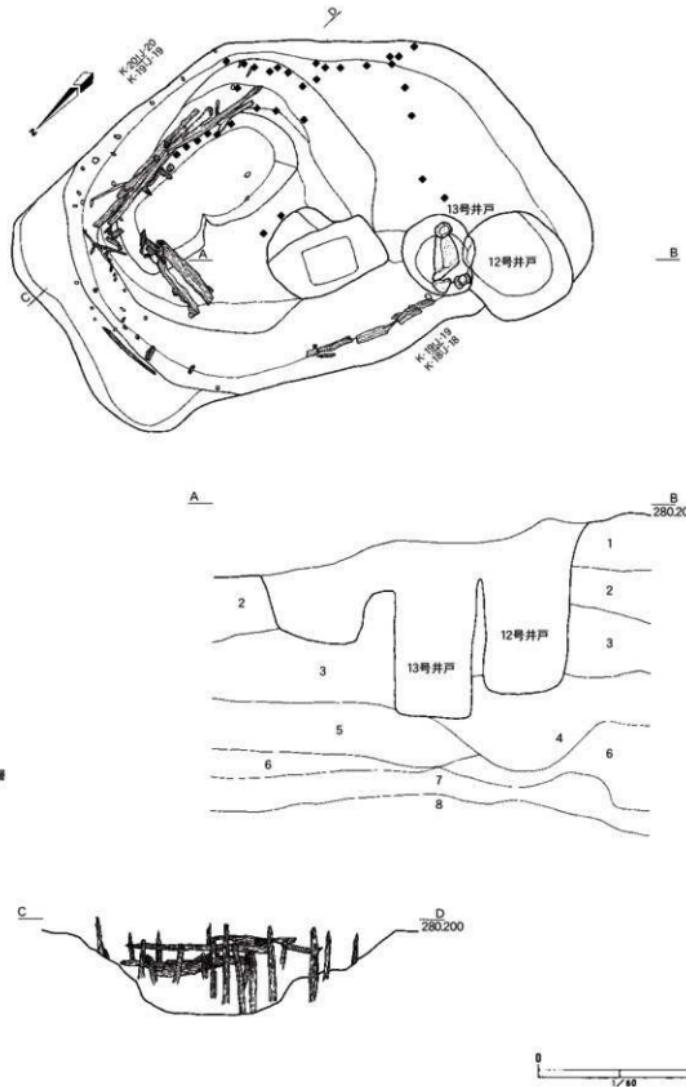
第52図 第6~8号井戸



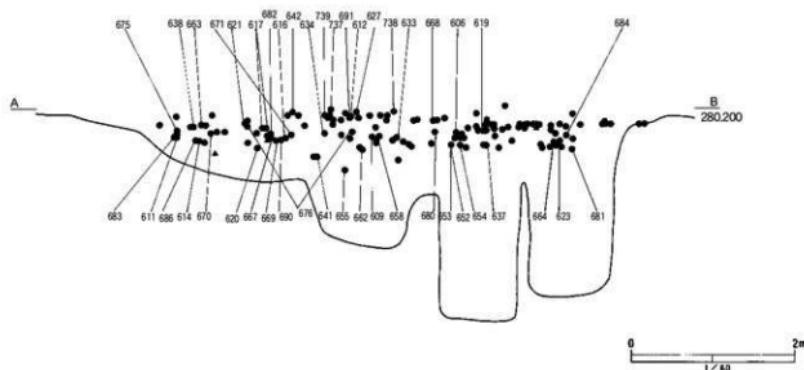
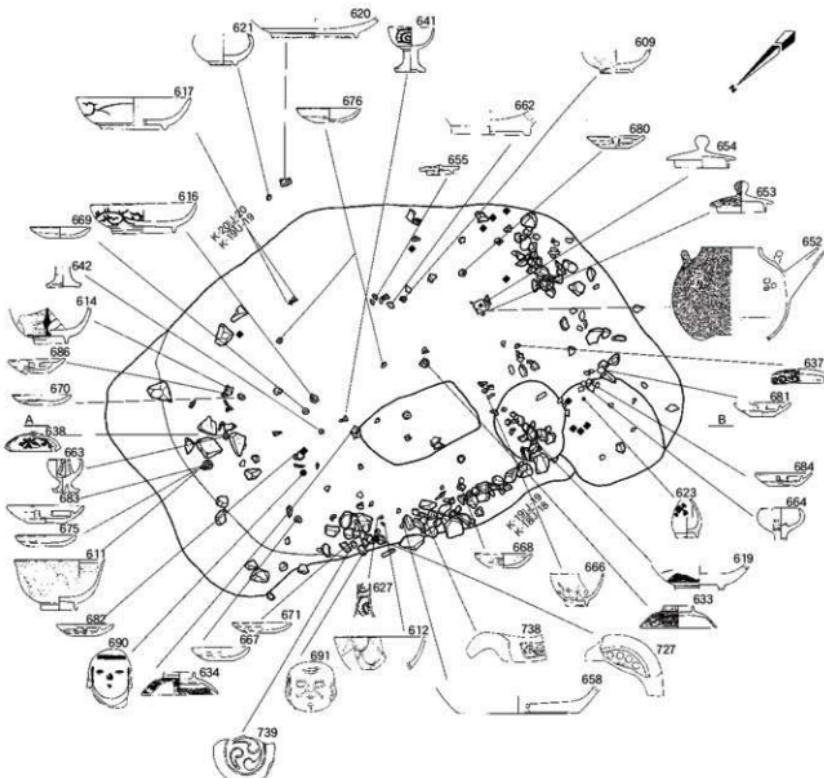
第53図 第9~11号井戸



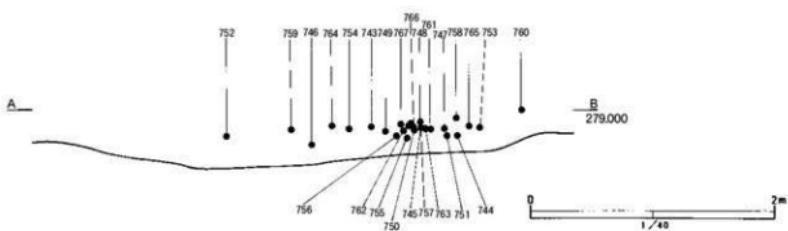
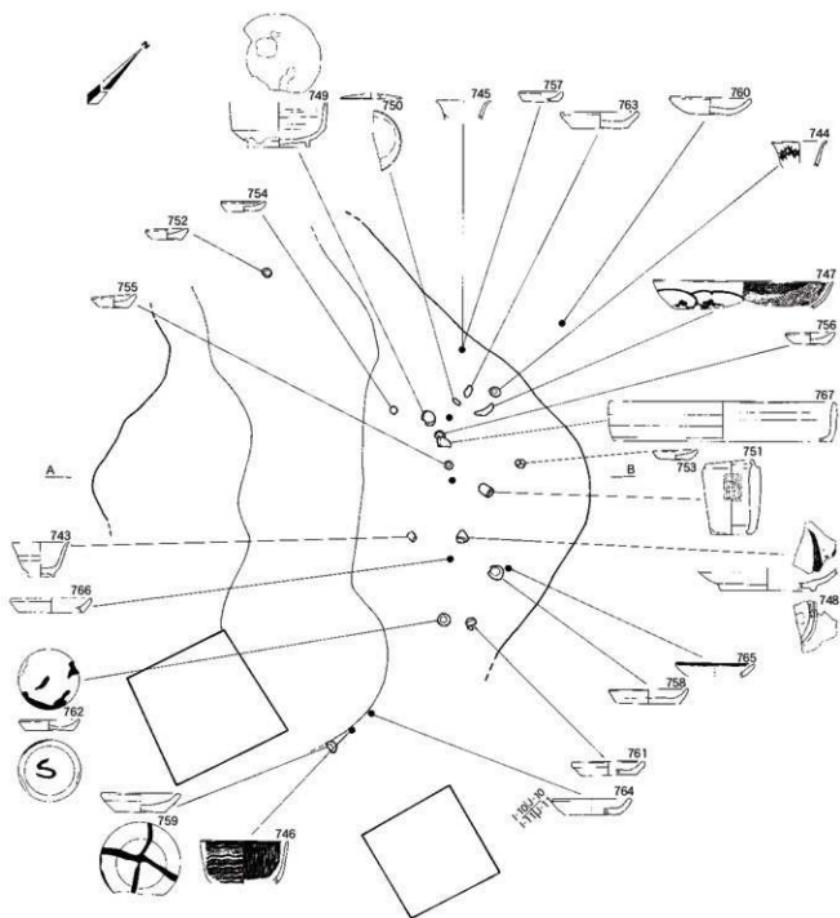
第54図 第1~6号埋桶



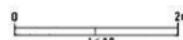
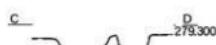
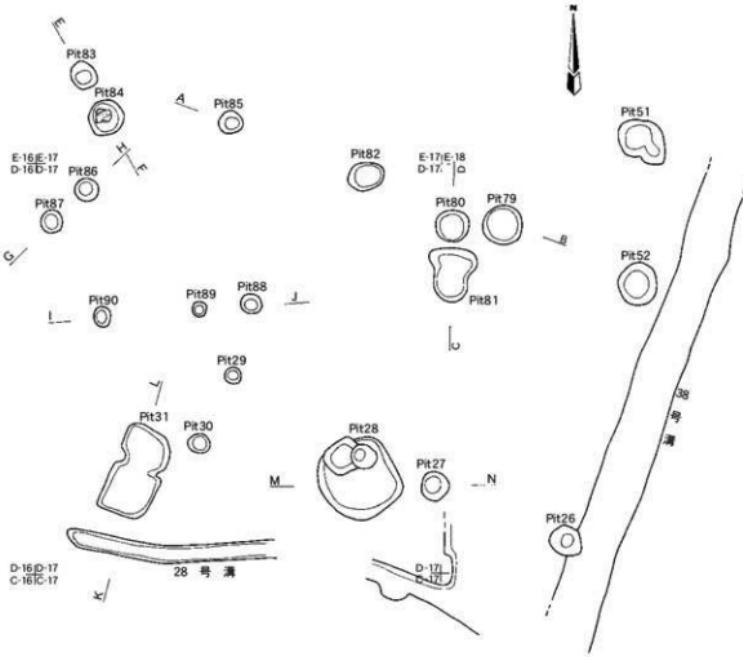
第55図 第12・13号井戸・園地造構



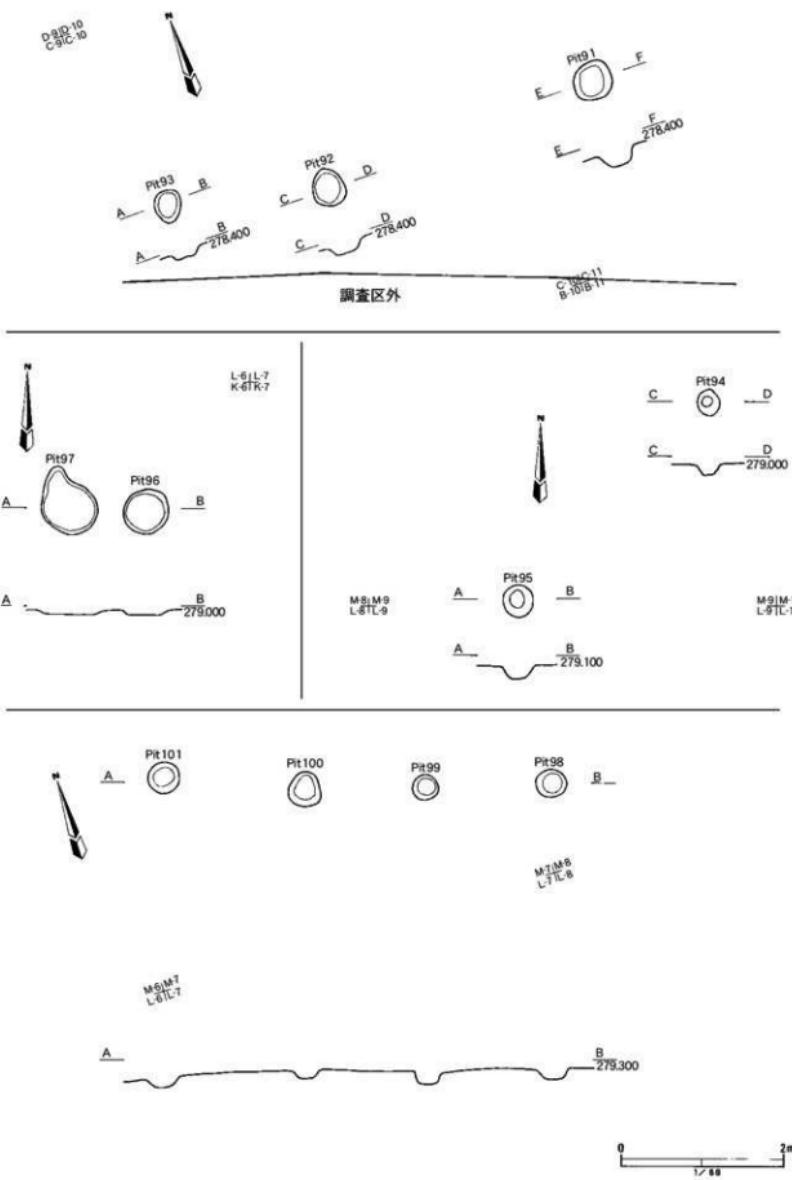
第56図 地面遺構遺物分布図



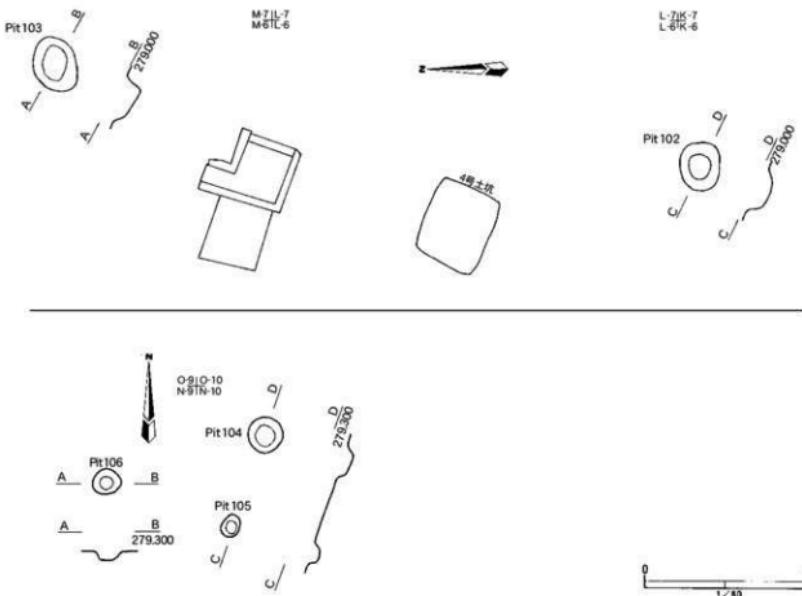
第57図 遺物集中区遺物分布図



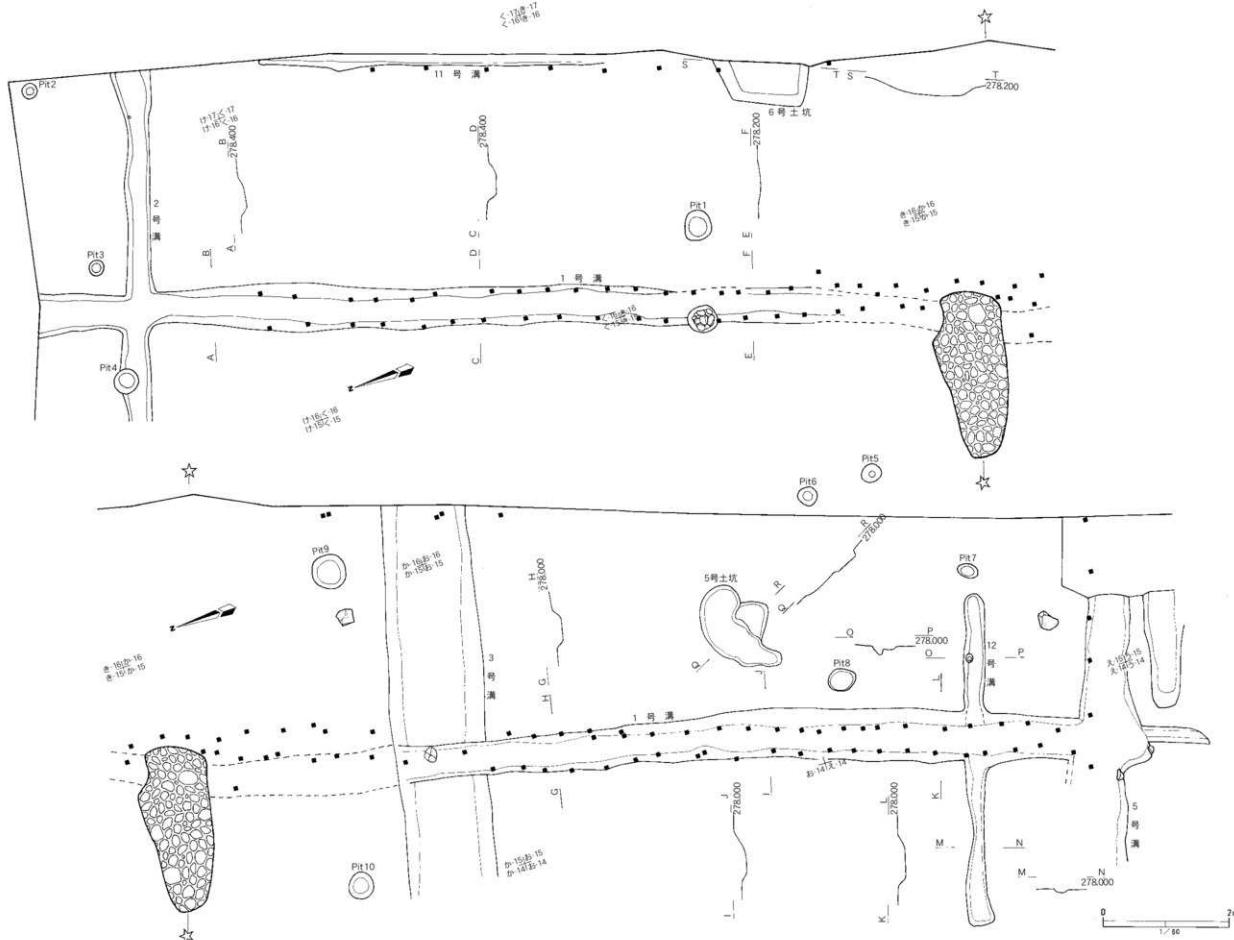
第58図 ピット(1)



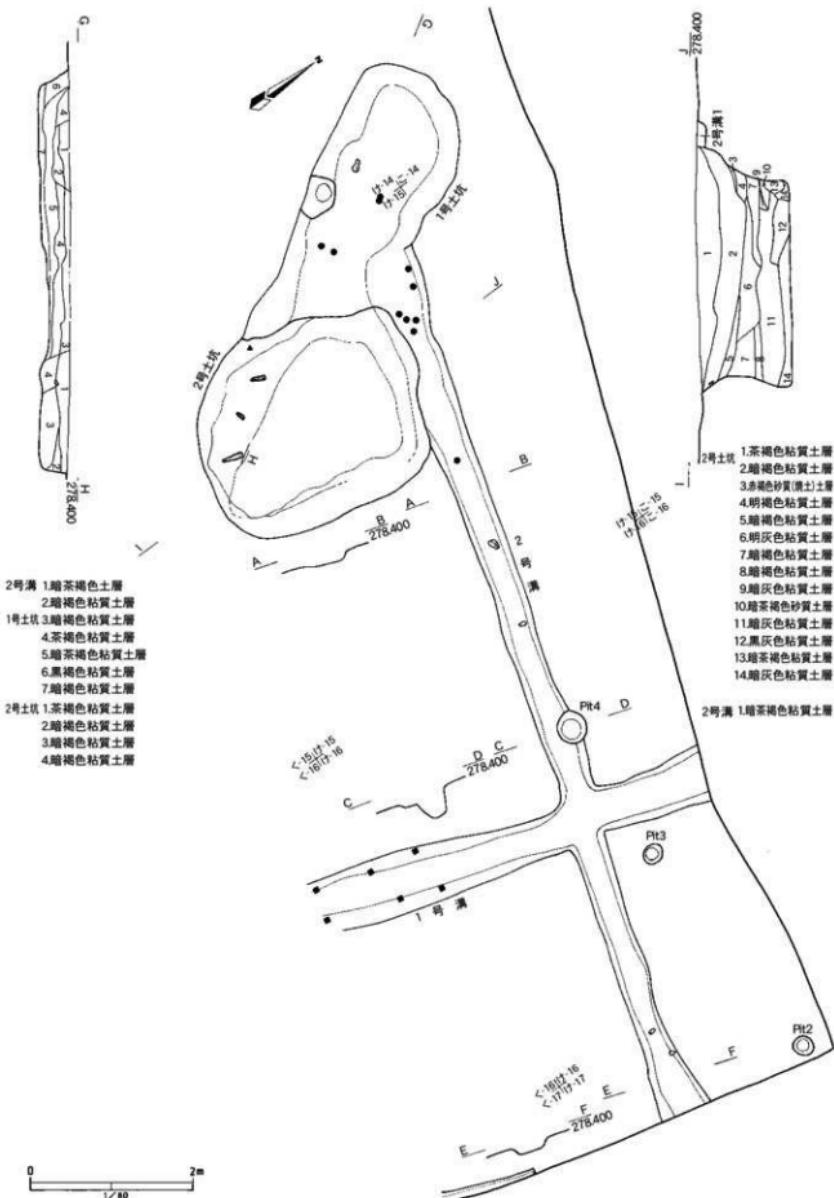
第59図 ピット(2)



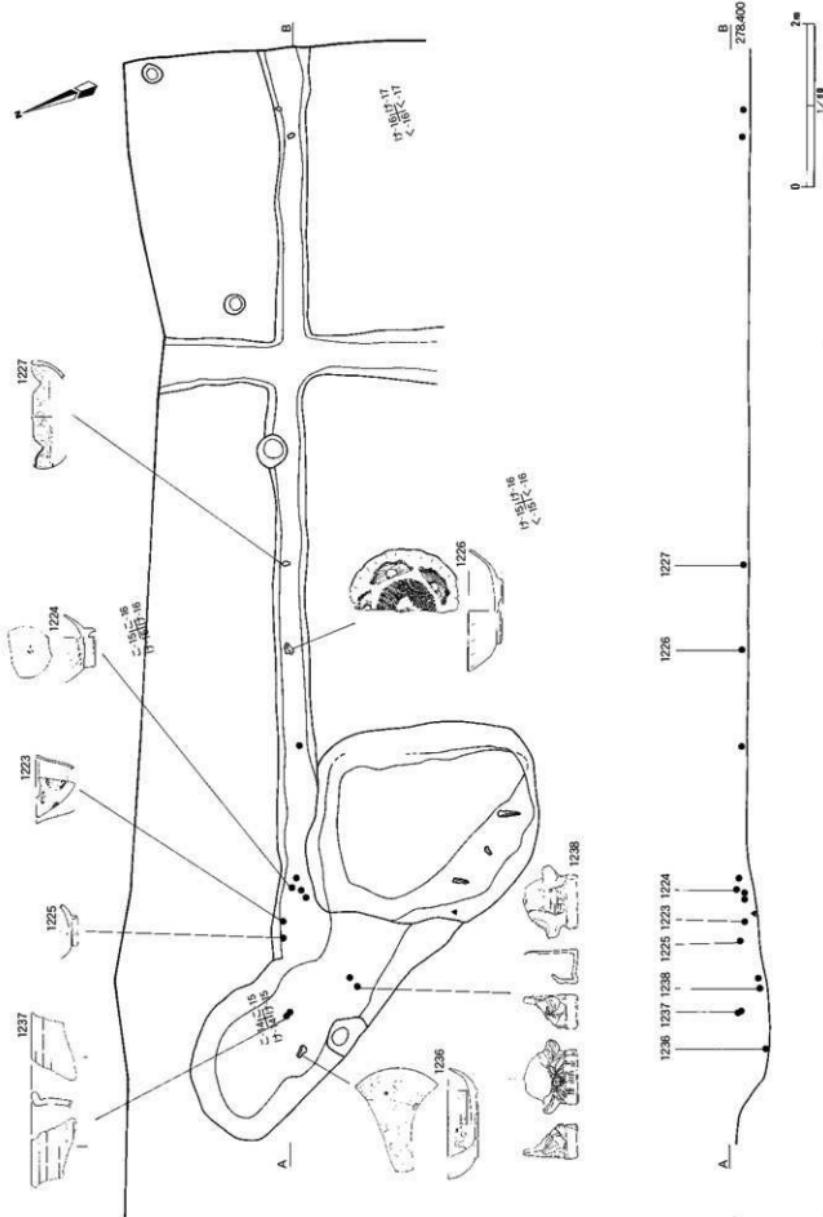
第60図 ピット(3)



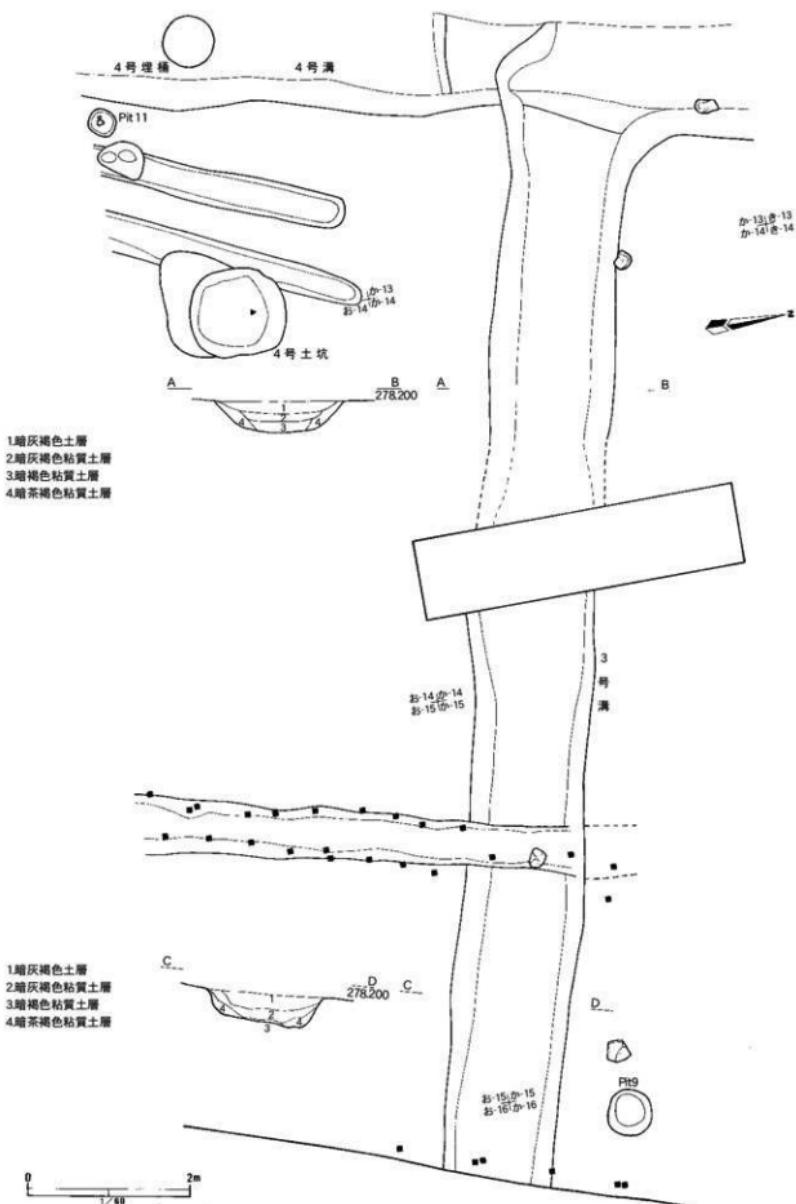
第61図 II区第1・2・5・11・12溝状遺構 第5・6号土坑



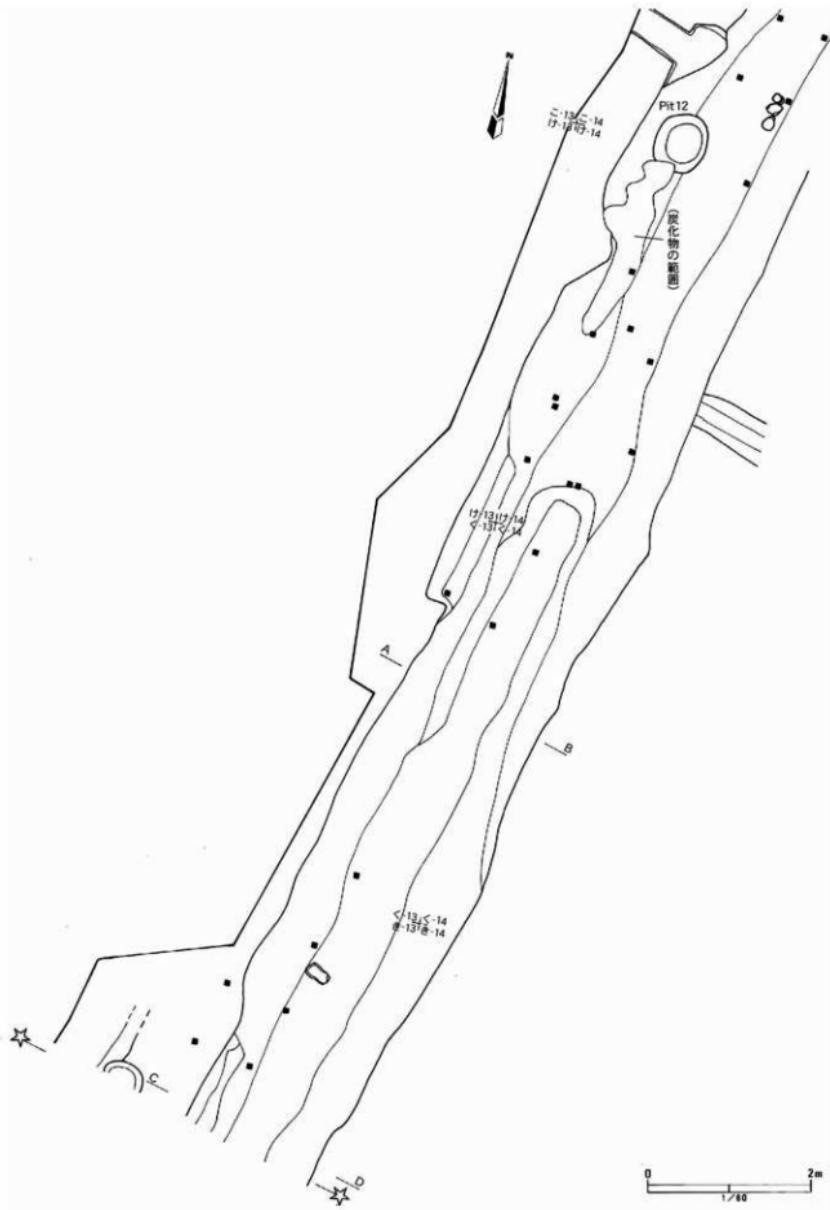
第62図 II区第2号溝状遺構 第1・2号土坑



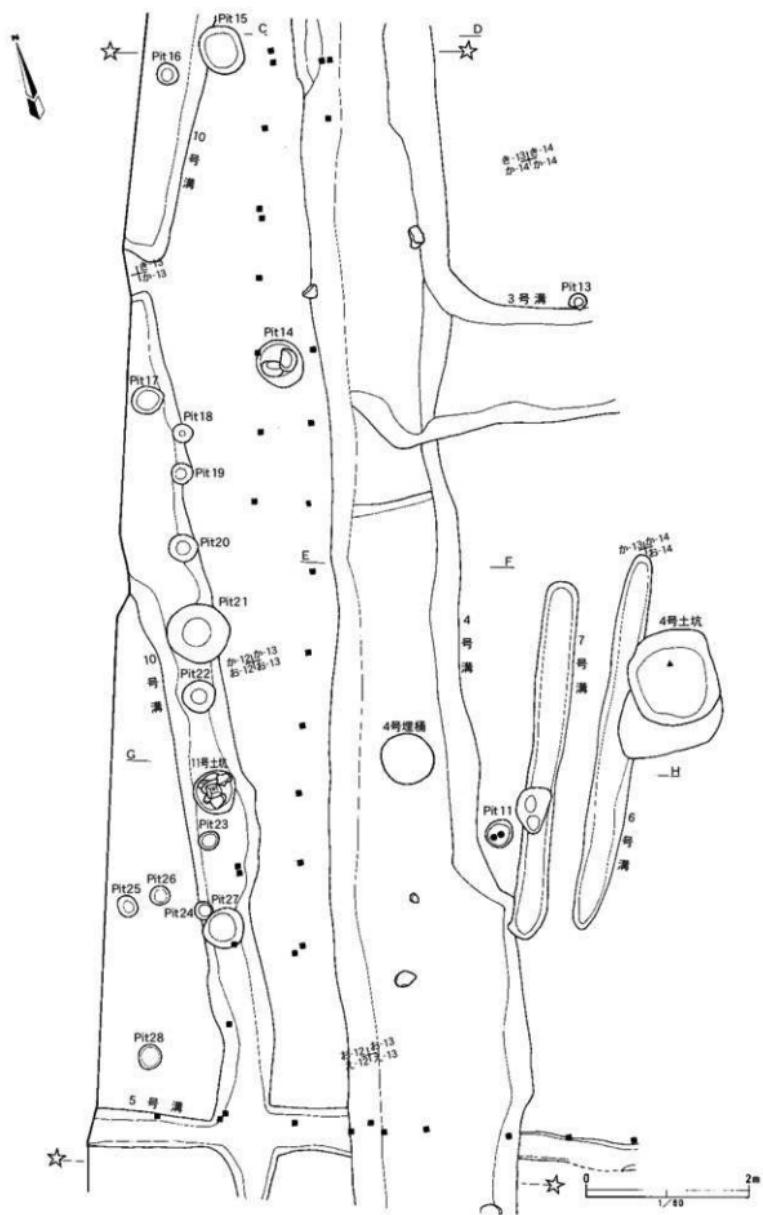
第63図 II区第2号溝状遺構・第1・2号土坑遺物分布図



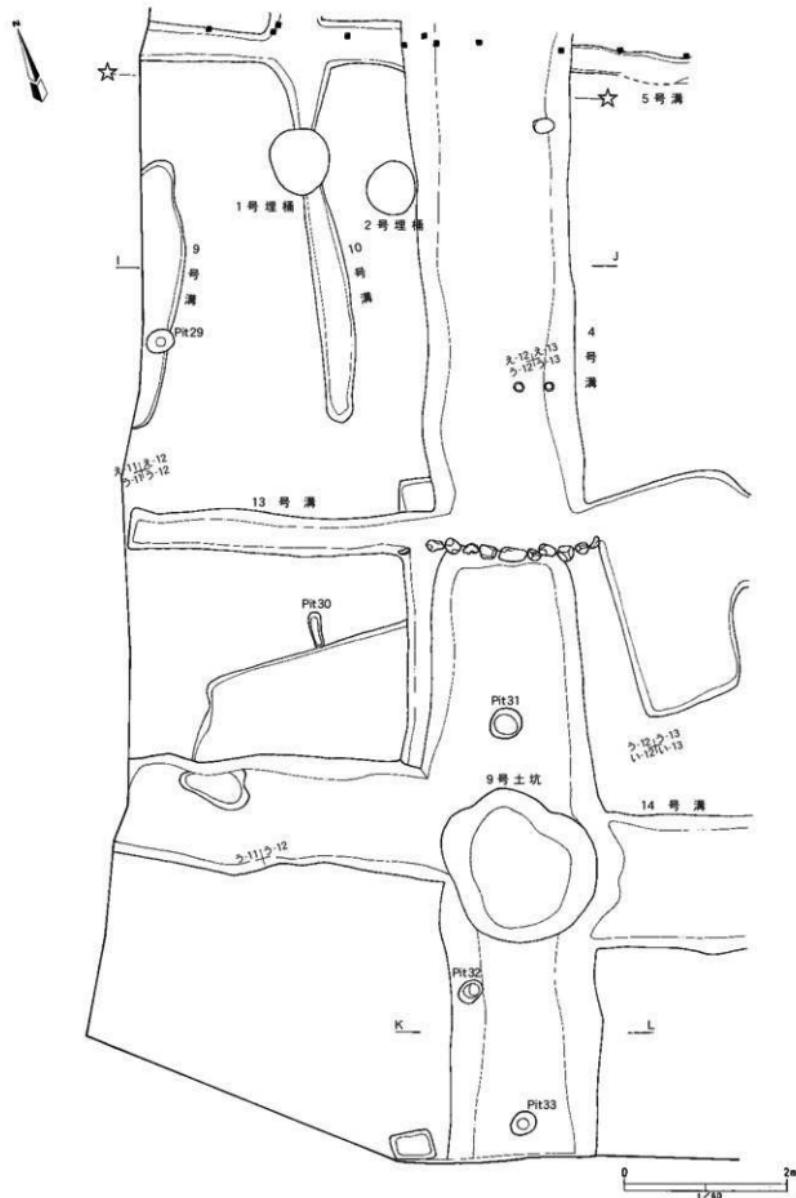
第64図 II区第3号溝状遺構



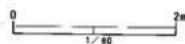
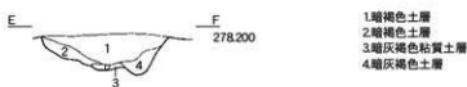
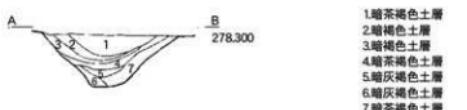
第65図 II区第4号溝状造構(1)



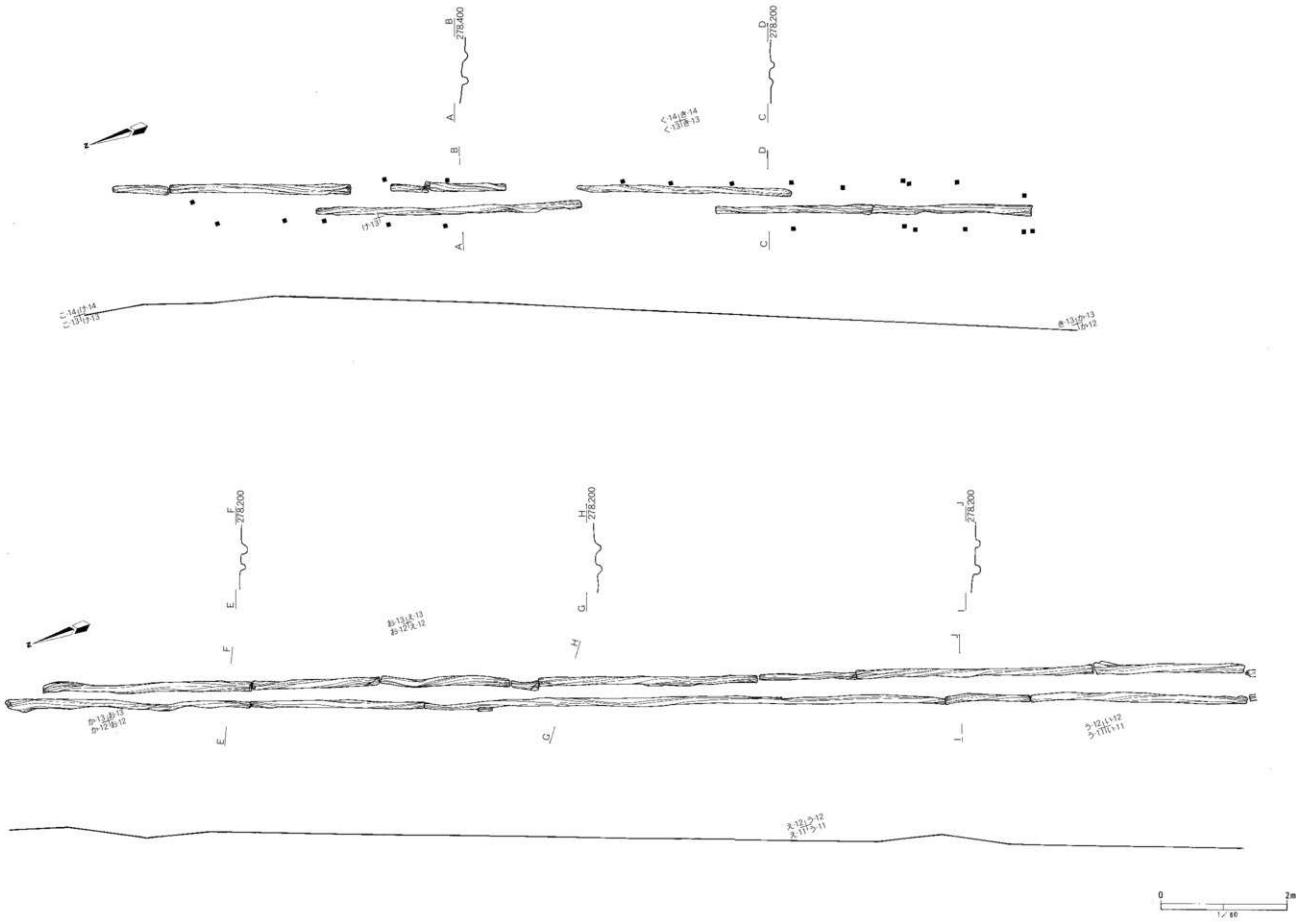
第66図 II区第4・6・7・10号溝状遺構(2)



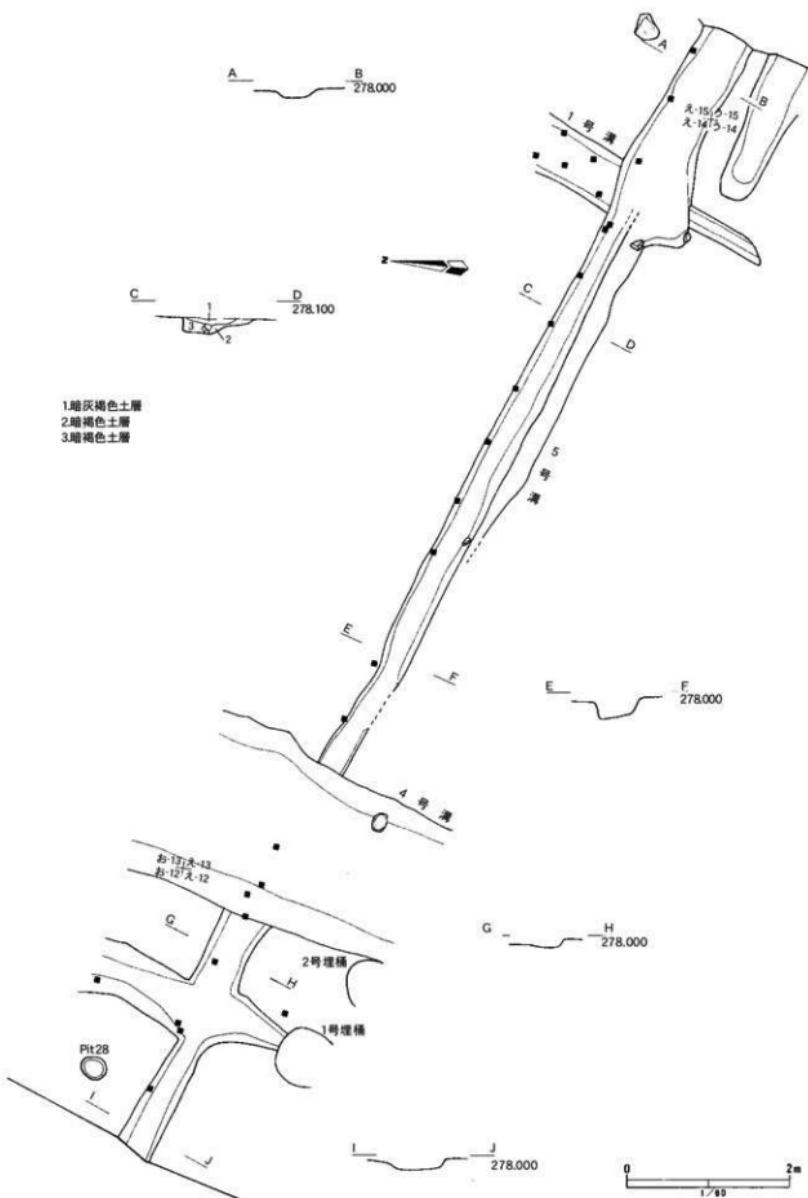
第67図 II区第4・9・13号溝状遺構(3)



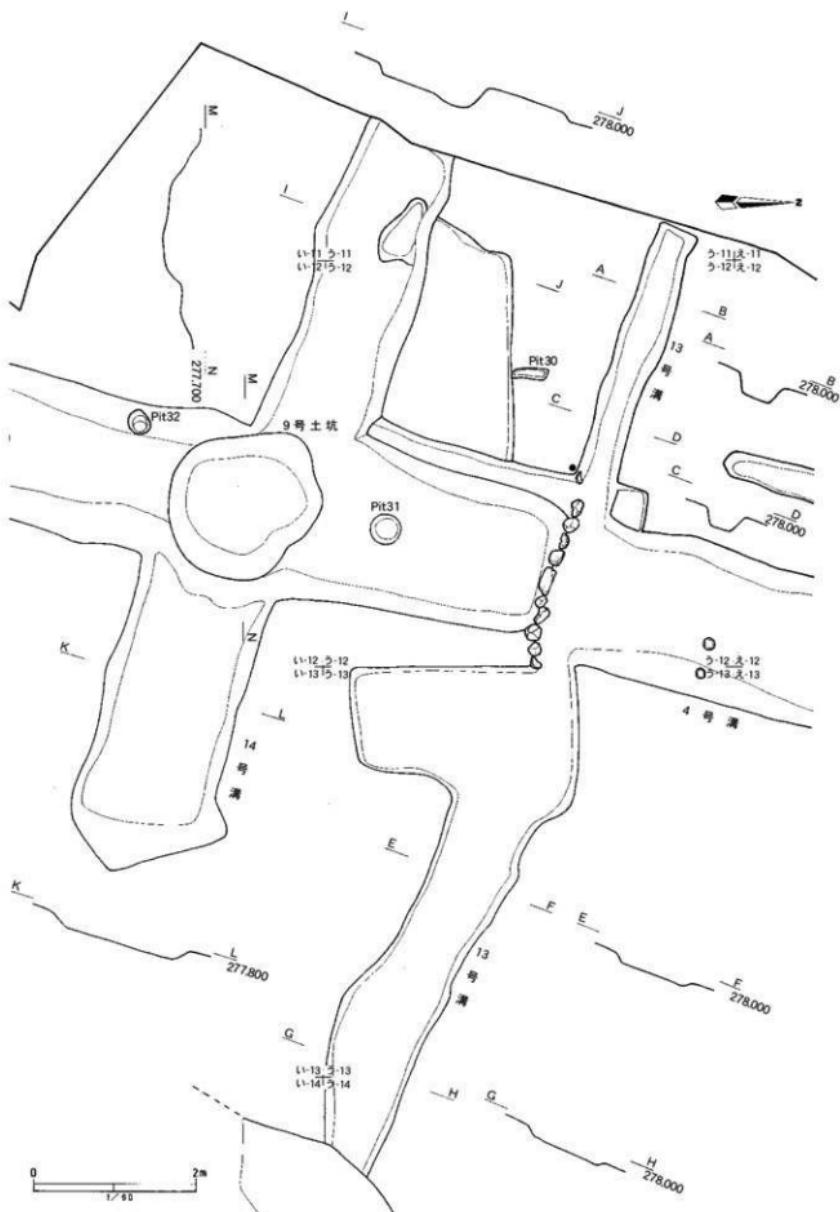
第68図 II区第4・9・13号溝状遺構(4)



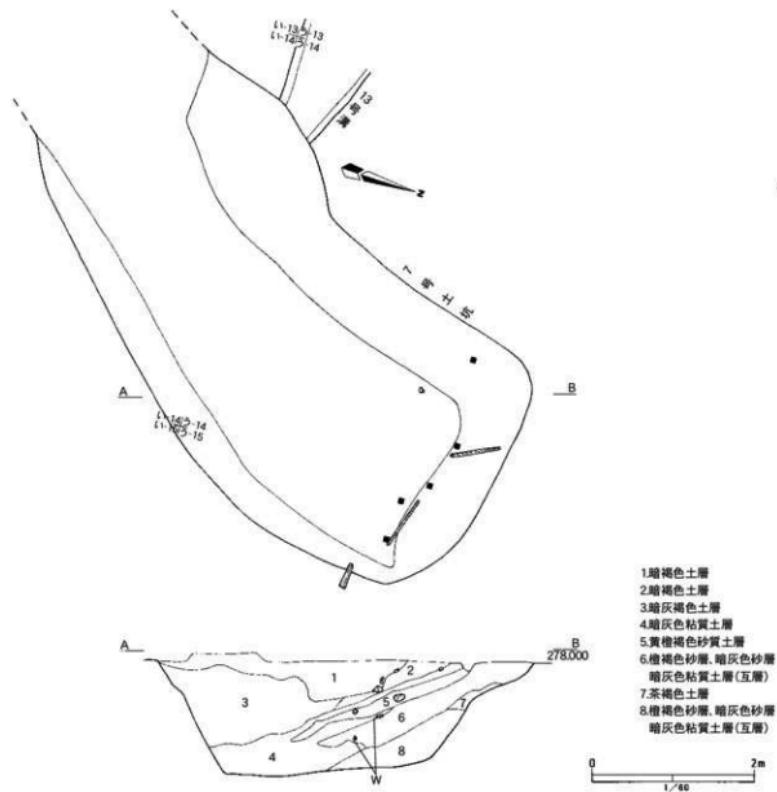
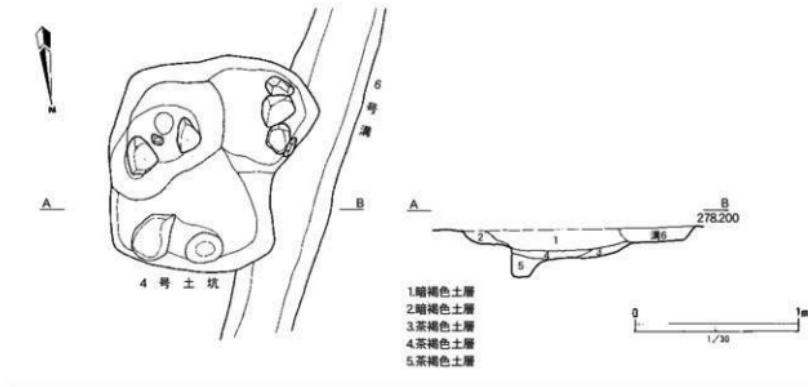
第69図 II区第4号溝状造構内胴木



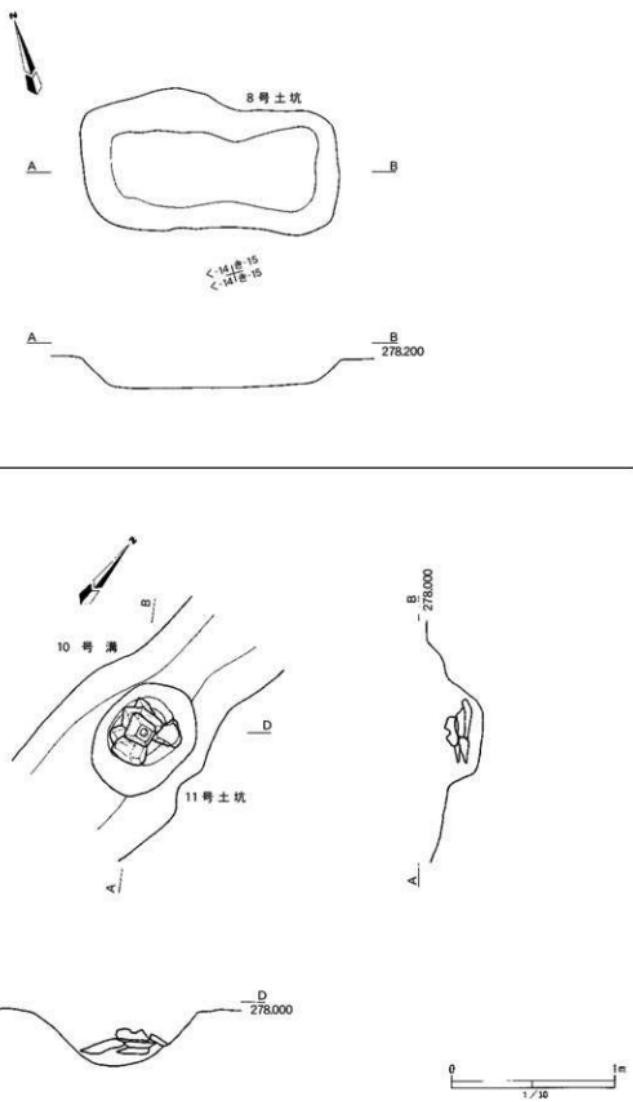
第70図 II区第5号溝状造構



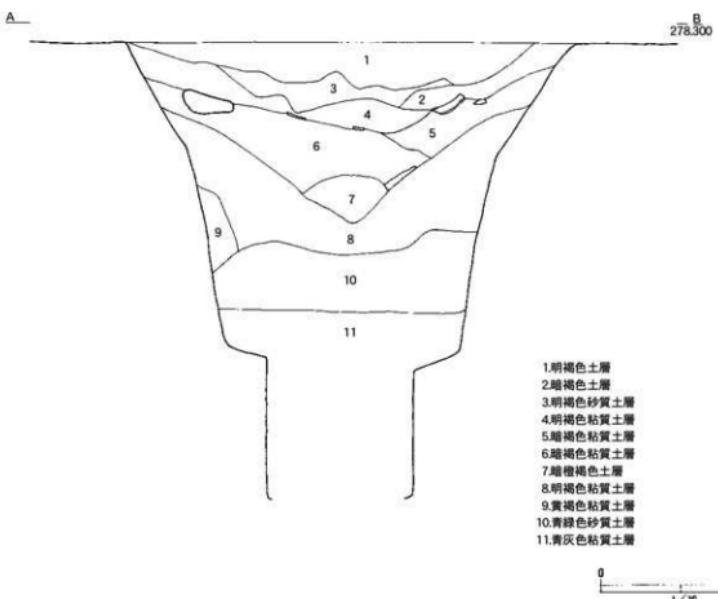
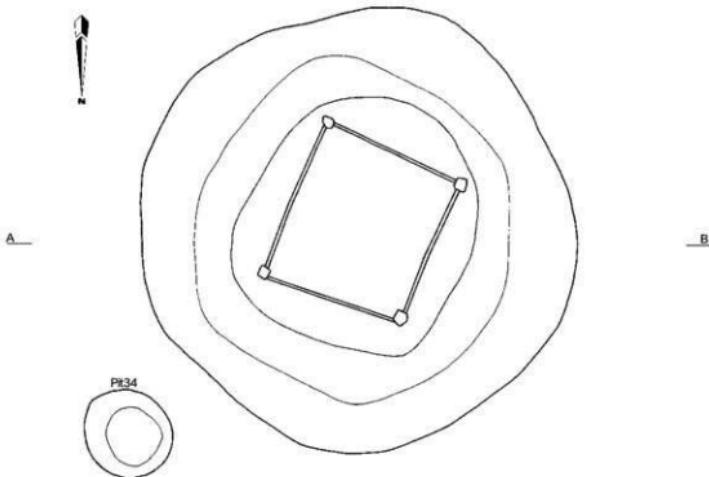
第71図 II区第13・14号溝状遺構・第9号土坑



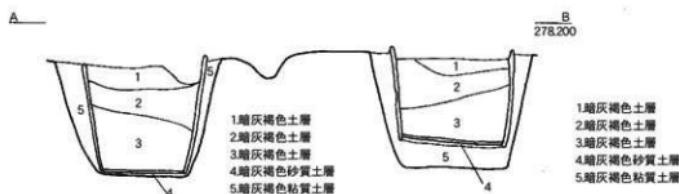
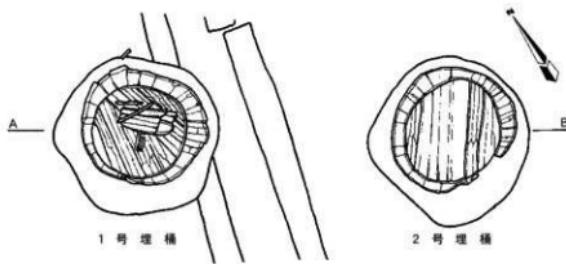
第72图 II区第4·7号土坑



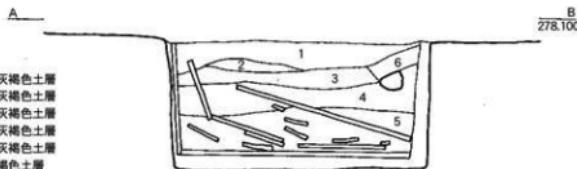
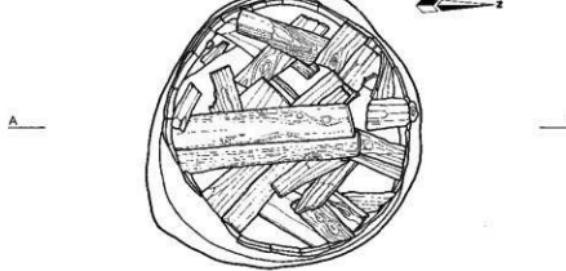
第73図 II区第8・11号土坑



第74図 II区第1号井戸

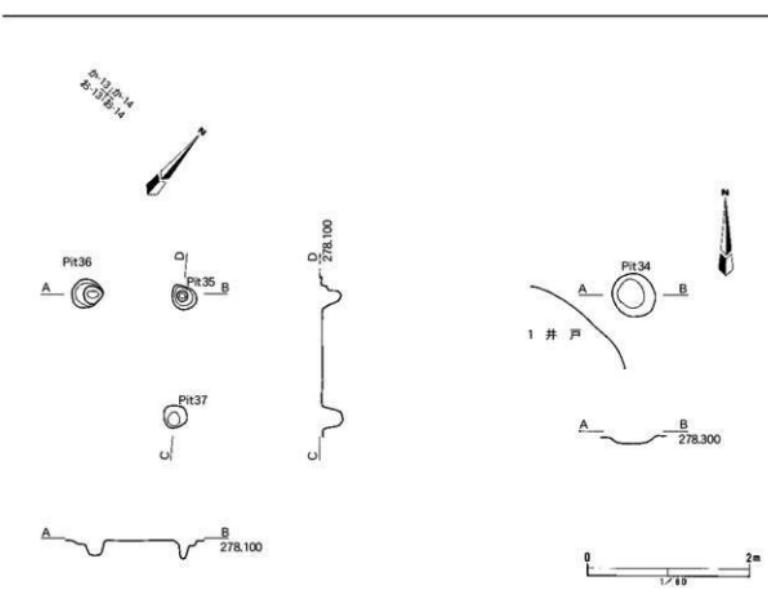
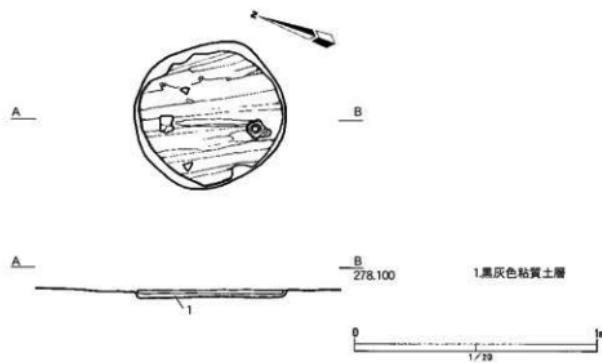


3号埋桶



0 1m
1/20

第75図 II区第1~3号埋桶



第76図 II区第4号埋桶・ピット

I 区 遺構一覧表（溝状遺構）（1）

遺構番号	検出地点	重複關係(新→旧)	特徴	長軸方位	形状	横断面(m) (縦深さ(等高差))			底土	検出遺物	遺構時期
						横	縦	深			
1 J-3-p-5	3層+1層 8m+1m	深度がく離傾斜に伸びる。3層と 底地に近い段傾斜で文交差する。	N-27°-E 直線的	平坦	縫やかに立ち上 がる。	3.200	150	30	278.6	粗粒小礫、小砾 陶器片、骨、中陶、火鉢 石製品類 金屬製品類	中世～近世
2 K-7	2層+3層	深度がく離傾斜に伸びる。3層と 底地に近い段傾斜する。	N-17°-E 直線的	平坦	縫やかに立ち上 がる。	7.90	50	15	278.1		
3 L-3-j-8	1層+3層 13m+2.9m	9mほどは傾斜する。1-2層と底 地の傾斜する。	N-62°-W 直線的	平坦	やや急傾に立ち上 がる。	3.110	100	30			
4 E-8-D-12	7層+4層 22層+4層	21層の直線壁上にあらう22層と階 段状に並んである。1-2層と底 地の傾斜する。	E-22°-S 直線的	平坦	縫やかに立ち上 がる。	1.698	98	10			
5 J-6-i-7	6層+7層	深度がく離傾斜に伸びる。近傍 して他の傾斜があり。	E-20°-S 直線的	平坦	やや急傾に立ち上 がる。	3.82	79	13			
6 K-4-j-5	7層+10層+9層	8mほどは傾斜する。近傍 して他の傾斜があり。	E-20°-S 直線的	平坦	直角に立ち上 がる。	8.12	127	85			
7 I-4-j-5	1層+6層	8mほどは傾斜する。近傍 して他の傾斜があり。	N-20°-E 直線的	いあるいは V字状	北側に向かうに 直角に立ち上 がる。	1.036	63	30			
8 K-2-j-5	9層+10層	6層と併走し9層とほぼ直角に接続。 柱状の変形を呈す。	E-18°-S 直線的	ほぼ平坦 V字状	北側は急傾斜に 直角に立ち上 がる。	7.81	60	22			
9 J-2-i-1 L-6-L-3	1-3-7-8+10層+9層	大窓の形状を呈し、20mm程の凹槽 が先端側にある。	E-20°-S コの字状	平坦	直角に立ち上 がる。	(3.820)	70	40			近代?
10 J-3-H-8	9層+10層	9層にはほぼ水平に斜平される。	N-18°-E 直線的	ほぼ平坦 V字状	東方より西側 斜平区外へ傾き て立地する。	2.810	95	38	4層からなる。 陶器・仏像等		18C
11 I-4-H-6	11層+7層 11層+2層	壁間に張り出しきを待ち、7層と底 地の傾斜する。	N-70°-W 直線的	縫り面に直角に 張り出しがあ る。また、手すり やや突出する。	1.121	85	25				
12 H-5-F-5	11層+12層	11層に直線がわざかに接続する。	N-22°-E 直線的	ほぼ平坦 V字状	縫やかに立ち上 がる。	9.60	89	23			
13 I-2-I-3	13層+6土坑	11層の底盤である可能性が高い ため、12層とし、16土坑と むすびかず接続している。	E-19°-S 直線的	平坦	縫り面に立ち上 がる。	(431)	75	37			
14 F-3-G-3	14層+17層 14層+19層	10mほどはその字状に接続する。 また、18層ほどは直角に接続する。	N-16°-E 直線的	平坦	西側は縫やかに 直角に立ち上 がる。	6.98	95	38			
15 G-3	13層+15層	17層と直角に接続する。接続部に は縫の入り合ひ。	N-15°-E 直線的	平坦	縫に立ち上 がる。	205	55	-			

I 区 遺構一覧表（潮状遺構）(2)

遺構番号	検出地点	重複關係(新→旧)	特徴	長軸方位	形状	標高(m)(海抜基準面)	標高面(m)	幅	奥深さ	出土	検出遺物	遺構特例
16 H-2-G-3	18m+17m	北側斜面に枕列を以て17mと併合する。G-3グリッドにて。	平面	E-20° - S	直線的	780	100	25				18C-19C
17 G-2-H-3	15m+16m	16mと重複する。G-3グリッドにて。	平面	E-17° - S	直線的	793	40	14				
18 E-3-F-3	14m+18m	14mの半分を以て18mと合流する。	N-17° - E	わすかに屈曲	平面	764	40	12				
19 F-2-F-3	18m+19m	18mの半分を以て19mと合流する。	E-23° - S	直線的	平面	730	78	20				
20 F-8-G-8 -F-10	6.3m+6.3m	6.3mの半分を以て6.3mと合流する。	E-20° - S	直線的	平面	610	55	10				近世
21 D-11-D-13	5.5m	21.4mと接続しての方に向て併走する。	E-18° - S	直線的	平面	610	55	10				
22 E-8-D-12	22m+4m	21.4mと直角に向て併走する。22mに接続している。わずか前に折れに偏路ができる。	E-19° - S	直線的	L字状	2,295	80	55				
23 B-11-D-12		圓錐区より22mに直角に向て伸びる。	E-20° - S	直線的	平面	758	110	42				
24 B-15-B-17	24m+25m	26.2mと平行して約1mの間隔を保ちながら、25mに接続する。25mに接する部分で切替を行っていた。	E-20° - S	直線的	平面	1,192	45	23	4層に分割される。			近世
25 A-17-B-17	25m+24+26+37m	周辺斜面に散在する。遺構が多く出土している。	N-23° - E	直線的	平面	947	150	-				
26 B-17-C-15	26m+27m	37mの東や北を直角に折り、木杭が2本(40~50cm)埋設して突出された。	E-21° - S	直線的	平面	(2,060)	105	45	2層に分かれれる。			18C-19C
27 C-16-C-19	27m+29+38m	断面・石込みを持ち、土状に盛がる。	E-19° - S	L字状	直線的	1,090	35					19C~
28 D-15-D-18	28m+29m+38m	傾斜が大きい。	E-18° - S	直線的	平面	1,471	62	12				
29 C-15-F-16	28m+29m+35m	Ptと帆柱を直線的に並べ、28mは独立する。	N-18° - E	直線的	平面	342	55	18				18C-19C
30 D-14-D-15			E-21° - S	直線的	平面	342	55	18				
31 D-14		30m+1mは平行しており底状態の凹凸性が大きい。	E-22° - S	直線的	平面	308	50	10				近世-中世
32 E-14		(測量開口?)	E-20° - S	直線的	平面	313	39	15				ガラス製品-おはじき
33 E-14			E-22° - S	直線的	平面	320	42	18				
34 E-14			E-20° - S	直線的	平面	374	55	25				

I 区 遺構一覧表（溝状遺構）（3）

遺構番号	検出地点	重複割合 (新→旧) (不明)	遺特徴	長軸方位	形状	標高(m)(測量基準(充満地))	標高差(m)	底面	底面	底面	底面	底面	底面	検出遺物	遺物時期	
35	E-16-17	29溝+35溝	25溝と交又する。	E-17'-S	直線的	651	52	37							土器・骨器・不明	近世?
36	G-13-14	F-14-15	30溝～37溝と平行しており底状遺構の可能性あり。(底地盤か)東面水が保存している。	E-19'-S	直線的	730	110	41	縹やかに立ち上る。	縹やかに立ち上る。	縹やかに立ち上る。	縹やかに立ち上る。	縹やかに立ち上る。	縹やかに立ち上る。	土器・骨器・不明	近世?
37	B-17-C-15	20溝+37溝	20溝のやや北東を併走。むずかに水が保存している。	E-21'-S	直線的	853	60	16	縹やかに立ち上る。	縹やかに立ち上る。	縹やかに立ち上る。	縹やかに立ち上る。	縹やかに立ち上る。	縹やかに立ち上る。	土器・灯明三	中世?
38	C-18-D-19	27溝+38溝	27溝より南側に100mに離隔する。底地盤がほんの僅に露出している。	N-22'-E	直線的	2,450	60	31	縹やかに立ち上る。	縹やかに立ち上る。	縹やかに立ち上る。	縹やかに立ち上る。	縹やかに立ち上る。	縹やかに立ち上る。	土器・灯明三	18Cの層?
39	A-16			N-25'-E	直線的	(185)	120	17	縹やかに立ち上る。	縹やかに立ち上る。	縹やかに立ち上る。	縹やかに立ち上る。	縹やかに立ち上る。	縹やかに立ち上る。	土器・大碗	18C
40	G-16-C-19	38溝+40溝	底面は深いとややかなたどり。口の方に折れ崩壊している。	E-10'-S	直線的	1,535	90	20	縹やかに立ち上る。	縹やかに立ち上る。	縹やかに立ち上る。	縹やかに立ち上る。	縹やかに立ち上る。	縹やかに立ち上る。	土器・灯明三	中世? 中層
41	欠番	F-14-L-16	底地盤の溝跡	N-18'-E	直線的	120	56	20	縹やかに立ち上る。	縹やかに立ち上る。	縹やかに立ち上る。	縹やかに立ち上る。	縹やかに立ち上る。	縹やかに立ち上る。	土器・骨器・検出困難	近現代
42	F-15-L-17		底地盤の溝跡	N-18'-E	直線的	618	62	15	縹やかに立ち上る。	縹やかに立ち上る。	縹やかに立ち上る。	縹やかに立ち上る。	縹やかに立ち上る。	縹やかに立ち上る。	土器・石器	近現代
43	J-17-K-17		面積の付随する。	N-18'-E	直線的	480	62	32	縹やかに立ち上る。	縹やかに立ち上る。	縹やかに立ち上る。	縹やかに立ち上る。	縹やかに立ち上る。	縹やかに立ち上る。	土器・石器	18C?
44	H-13	I-13	複数組みの円形研究導管に配置されている。	N-18'-S	直線的	120	56	20	縹やかに立ち上る。	縹やかに立ち上る。	縹やかに立ち上る。	縹やかに立ち上る。	縹やかに立ち上る。	縹やかに立ち上る。	土器・石器	近現代
45	H-13		45溝より南側に張り出す。	N-18'-E	直線的	1,175	85	24	縹やかに立ち上る。	縹やかに立ち上る。	縹やかに立ち上る。	縹やかに立ち上る。	縹やかに立ち上る。	縹やかに立ち上る。	土器・石器	近現代
46	F-10-H-11	47溝+20溝	48溝に通じる。	N-17'-E	直線的	1,159	96	25	縹やかに立ち上る。	縹やかに立ち上る。	縹やかに立ち上る。	縹やかに立ち上る。	縹やかに立ち上る。	縹やかに立ち上る。	土器・石器	18C?
47	F-10-H-11	48溝+20溝	47溝に存在。底が検出されている。	N-17'-E	直線的	(615)	50	24	縹やかに立ち上る。	縹やかに立ち上る。	縹やかに立ち上る。	縹やかに立ち上る。	縹やかに立ち上る。	縹やかに立ち上る。	土器・石器	近現代
48	F-12-13	G-13	石包み	N-19'-E	直線的	1,252	60	9	縹やかに立ち上る。	縹やかに立ち上る。	縹やかに立ち上る。	縹やかに立ち上る。	縹やかに立ち上る。	縹やかに立ち上る。	土器・石器	近現代
49	D-13-G-13	50溝+53溝	コンクリート基礎の所平を受けている。周囲に石包みがある。	N-19'-E	直線的	1,100	60	35	縹やかに立ち上る。	縹やかに立ち上る。	縹やかに立ち上る。	縹やかに立ち上る。	縹やかに立ち上る。	縹やかに立ち上る。	土器・石器	近現代
50	F-11-E-13	51溝+50溝	コンクリート基礎の所平を受けている。周囲に石包みがある。	E-18'-S	直線的	581	(95)	15	縹やかに立ち上る。	縹やかに立ち上る。	縹やかに立ち上る。	縹やかに立ち上る。	縹やかに立ち上る。	縹やかに立ち上る。	土器・石器	近現代
51			コンクリート基礎の所平を受けている。底地盤が露出される。	N-20'-E	直線的	210	65	38	縹やかに立ち上る。	縹やかに立ち上る。	縹やかに立ち上る。	縹やかに立ち上る。	縹やかに立ち上る。	縹やかに立ち上る。	土器・石器	近現代
52			底地盤に直接接する。	E-19'-S	直線的	173	66	36	縹やかに立ち上る。	縹やかに立ち上る。	縹やかに立ち上る。	縹やかに立ち上る。	縹やかに立ち上る。	縹やかに立ち上る。	土器・石器	近現代
53			50溝+53溝+54溝	E-20'-S	直線的	(386)	43	15	縹やかに立ち上る。	縹やかに立ち上る。	縹やかに立ち上る。	縹やかに立ち上る。	縹やかに立ち上る。	縹やかに立ち上る。	土器・石器	近現代
54			50溝+54溝	E-20'-S	直線的				縹やかに立ち上る。	縹やかに立ち上る。	縹やかに立ち上る。	縹やかに立ち上る。	縹やかに立ち上る。	縹やかに立ち上る。	土器・石器	近現代
55			50溝+54溝	E-20'-S	直線的				縹やかに立ち上る。	縹やかに立ち上る。	縹やかに立ち上る。	縹やかに立ち上る。	縹やかに立ち上る。	縹やかに立ち上る。	土器・石器	近現代

I 区 遺構一覧表 (土坑) (1)

遺構番号	発出地点	遺構關係 (新→旧) (不明)	形状			壁面 長軸	床面 長軸	横断面 (M)	出土物	通構跡
			長軸方位	平面	底面					
1 N - 5-6		E - 25° - S 不整形	平坦		非常に複雑か。	400	270	17	土器・かわらけ	中世～18C 中層
2 M - 3		N - 20° - E 不整形	底面を伴う。	底面を立地上げる。	279	—	38	—	土器・かわらけ	中世～18C 中層
3 M - 3-4		W - 20° - S 不整形	底面を伴う。	底面を立地上げる。	—	—	26	—	土器・かわらけ	中世～18C 中層
4 L - 6		E - 22° - N 圆丸方形	底面を伴う。	底面を立地上げる。	98	83	20	—	土器・かわらけ	中世～18C 中層
5 L - 7		E - 30° - S 不整形	底面を伴う。	底面を立地上げる。	122	105	27	—	土器・かわらけ	中世～18C 中層
6 K - 6-7	6±-7±	E - 8° - S 不整形	底面を伴う。	底面を立地上げる。	202	127	36	—	土器・かわらけ	中世～18C 中層
7 K - 7	6±-7±	E - 9° - S 不整形	底面を伴う。	底面を立地上げる。	160	121	50	—	土器・かわらけ	中世～18C 中層
8 欠番									土器・小瓶・小壺・中壺・量 陶器・灯明皿・瓶・かわらけ・壺	18C～19C 中層
9 I - 8 - J - 8	3層-9±	W - 15° - N 圆丸方形	平坦やテラスを有する。	通常に近い急勾配を持つて立ち上る。	372	309	51	—	土器・小瓶・小壺・中壺・量 陶器・灯明皿・瓶・かわらけ・壺	18C～19C 中層
10 J - 8-9		W - 35° - N 矩形円形	平坦	底面を立地上げる。	163	94	13	—	土器・壺	近世
11 G - 7-8		E - 20° - S 矩形円形	平坦	底面を立地上げる。	303	169	17	—	土器・かわらけ 瓦・輪廻瓦	18C～
12 I - 8-9		E - 18° - S 不整長方形	平坦	通常に近い急勾配を持つて立ち上る。	—	262	58	—	土器・かわらけ	18C～19C 中層
13 E - 4-5 F - 4-5	S - 23° - W 不整長方形	楕丸或方形の平面圖を持つ。	底面を立地上げる。	380	307	31	—	土器・壺・瓶・瓶・底・仏頭・灯明皿・灯明皿 石製品・玉器(玉珠)	18C 中層	
14 I - 5-6 J - 4-5	7層-14± 9層-14±	E - 23° - S 矩形円形	ほぼ平坦	やや急勾配で立ち上る。	—	203	39	4層	土器・壺・かわらけ 金屬製品・小瓶	近世
15 I - 4		S - 17° - W 不整圓形	わずかに平坦面がみられる。	底面に近い急勾配を持つて立ち上る。	158	94	37	—	土器・壺・瓶・底・仮面・火薙・火薙・土器・瓦 灯明皿・壺・かわらけ・壺・壺・壺・壺・壺 五色・七層	18C 中層
16 H - 2-3 I - 2-3	13層±16±	N - 23° - E 不整長方形	底面を覆む。	—	358	336	37	—	土器・壺・中壺・大壺・小壺・中國・設置 陶器・萬字形・棒鉢形・火薙・火薙・火薙 土器・壺・灯明皿・壺・壺・壺・壺・壺 金製品・銀・刀剣・刀具(刀羽)	18C 中層
17 E - 10-11		E - 20° - S 不整長方形	ほぼ平坦	底面を立地上げる。	449	180	42	5層	土器・壺・中壺 土器・壺・かわらけ・壺 瓦・丸瓦	中世～18C 中層
18 B - 18 C - 18	莫比	不整形	ほぼ平坦	やや急勾配で立ち上る。	152	72	11	—	土器・かわらけ 金製品・銀	中世～18C 中層
19 B - 18	N - 29° - E 不整形	平坦	—	—	100	38	0	—	土器・壺・中壺・中壺・中壺・中壺	近世
20 A - 16 B - 16	N - 23° - W 矩形円形	平坦	底面を立地上げる。	—	—	73	10層	土器・壺・中壺・中壺・中壺・中壺 石製品・石臼	近世	

I 区 遺構一覧表(土坑) (2)

遺構番号	発出地点	重複關係(新→旧) (不明半)	基準方位	形状			横断面(m)(透視図(等高線))	横断面 (m)	出土	検出遺物	透視時間		
				底面	側面	長軸							
21	C-15	D-15	N-50° - E	圓丸壺形	平坦		圓や少し立ち上がる。	92	57	10	土器:かわらけ 金属性製品:鉛質	16C 中葉	
22	C-15		N-10° - E	不整圓形	浅いU字状		圓や少し立ち上がる。	190	94	39			
23	E-15-16		N-22° - E	不整圓形	平坦		細めの縦やかに立ち上がる。	107	57	10	金属性製品:鉛質	16C 中葉	
24	D-15		N-7° - E	圓丸壺形	平坦		圓や少し立ち上がる。	130	83	30	土器:かわらけ 金属性製品:鉛質	16C 中葉	
25	圓柱												
26	F-15	D-15	N-18° - E	不整圓形	平坦		急勾配を持った立ち上がる。	142	96	26	土器:かわらけ 金属性製品:鉛質	16C 中葉	
27	D-16		29周-27±	不明	不明								
28	圓柱												
29	G-14		E-11° - S	ほぼ円形	浅いU字状		ほぼ垂直に立ち上がる。	112	108	57	4周	電鋸:板	
30	F-14		舷状の長い溝に切 られる。	W-15° - N	ほぼ円形	平坦	圓や少し立ち上がる。	-	-	8			
31	D-16	E-16	E-1° - S	橢円形	平坦		急勾配を持つ立ち上がる。	118	98	31	3周	石製品:五輪塔 陶器:碗	近世
32	B-17-18		N-27° - 22±	26周-22±	U字状		圓や少し立ち上がる。	-	73	22			
33	B-16		N-20° - 13±	ほぼ円形	ほぼ平坦		圓や少し立ち上がる。	90	28				
34	I-17-18		E-26° - S	ほぼ円形	平坦		ほぼ垂直に立ち上がる。	142	109	47	3周	電鋸:中綱 土器:打刃頭	~18C 中葉
35	I-20		E-4° - N	橢円形	ほぼ平坦		急勾配を持つ立ち上がる。	178	96	51	3周	留目:小瓶、中綱 土器:打刃頭・留目 金属性製品:用意不明金属	近世
36	I-20 J-20		E-23° - S	圓丸壺形	ほぼ平坦		圓や少し立ち上がる。	92	72	13	2周		
37	J-20		E-23° - S	圓丸壺形	平坦		圓や少し立ち上がる。	67	67	13	1周	石製品:碗	近世
38	J-20		N-16° - E	圓丸壺形	平坦		圓や少し立ち上がる。	160	77	16	2周	土器:打刃頭・燒造	近世
39	圓柱												
40	J-20-21		E-21° - S	不整圓形	平坦		圓や少し立ち上がる。	403	100	12	土器:留物 金属性製品:鉛質	~18C 中葉	
41	圓柱												
42	K-20		N-19° - E	橢円形	平坦		やや斜面を持った立ち上がる。	132	83	29			
43	圓柱												
44	F-15		N-17° - E	不整圓形	平坦		圓や少し立ち上がる。	105	61	7	金属性製品		

I 区 遺構一覧表（井戸）

遺構番号	発出地点	面積測量(単位)	特徴	長軸方位	形状	規模(cm)(面積面積(測定値))	積出遺物	通構時期	
					平面	裏面	長軸	裏面	
1 N-5-6		無限りであるが裏面の時に上方では壁 が多く残されている。		N-25° -W	不規円形	僅かにアート状を 呈している。	162 138 190以上	磁器 漆杯・小瓶・大瓶・小皿・大皿・陶器 陶器 小瓶 中瓶 大瓶 盆付・鉢付・蓋付 土器 打削目付 磁器 瓦片	18C中葉～19C中葉
2 N-7-8 O-7-8		広く大きい土坑内に田みがある。井戸と 諺として調査したが土坑の可能性が高 い。		N-14° -E (井戸中央部のみ 部分の輪郭付)	不規円形	直底に立ち上がりがつ く。	450 438 —	磁器 漆杯・小瓶・大瓶・鉢付・蓋付 陶器 大瓶・鉢付・蓋付 土器 打削目付 かわらけ・漆器・鐵 瓦・軋丸瓦	18C～19C中葉
3 N-3-4		石積みで下方には繩を留めている。(圓 み上げ式井戸の石組み)、盤方はロー ト状を呈している。		N-18° -E	円形	ほぼ垂直	212 —	陶器 大瓶	
4 K-11-12 L-11-12		鶴嘴井戸に近接している。石積み井戸 で盤方はロート状を呈している。		N-20° -E	不規円形	ほぼ垂直	241 236 250以上	—	
5 K-12 L-12		鶴嘴井戸に近接している。石積み井戸 で盤方はロート状を呈している。		N-12° -E	円形	ほぼ垂直	217 205 250以上	石製品・石臼	
6 G-9-10		石積み井戸、盤方も繩・大袋の角を表 示する。下方に井戸口を2段以上組んで いる。		N-35° -E	不規円形	直底	253 229 270以上	ガラス製品・土器・おはじき	～近代
7 E-8	7井戸-4溝	無限り。下方に井戸口を2段以上組んで いる。		N-22° -W	はば円形	ロート状	269 259 280以上	磁器 小瓶・大瓶・鉢付・蓋付 土器 打削目付	18C中葉～19C
8 D-7-8		無限り、下方に井戸口を2段以上組んで いる。		E-5° -N	円形	ロート状	204 150以上	磁器 中瓶 陶器 瓦	18C～19C中葉
9 C-18		石積み井戸、窓口部に向かって広角度 で開口する。		N-54° -E	構内形	ロート状	237 207 230以上	陶器・碗・鉢付	近世
10 G-19-20 H-19-20		石積み井戸。		N-56° -W	はば円形	直底	270 236 320以上	—	
11 I-20-21		無限り井戸。		E-16° -S	楕円形	ほぼ垂直に立ち上 がるが直口部近く で開く。	216 185 200以上	磁器 中瓶 陶器 土瓶 土器 かわらけ・打削目・蓋付 木製品・漆器	～18C中葉

I 区 遺構一覧表（埋植）

遺構番号	検出地点	重複關係 (新→旧) (不明)	形状		規格 (cm) [厚×幅] (測定値)		積出遺物	通鑑時間
			平面	断面	長軸	短軸		
1 P-5		不規則形 (不明)	平坦	はば垂直	71	65	25	275.58
2 G-5		円形	平坦	垂直	85	78	31	278.3
3 F-5		円形	平坦	—	70	68	—	278
4 S-17	4壁-26溝-37溝	不規則形	平坦	垂直	91	77	36	278.4
5 I-17-18		円形	平坦	垂直	151	149	20	279.6
6 I-18		円形	平坦	垂直	152	150	35	279.62

I 区 遺構一覧表（園池遺構）

遺構番号	検出地点	重複關係 (新→旧) (不明)	形状		規格 (cm) [厚×幅] (測定値)		積出遺物	通鑑時間
			平面	断面	長軸	短軸		
1 K-19 J-19		不規形	起伏に富み2つの井戸・溝の土堤状の山みを有す。	傾やかな斜面を持つて立ち上がる。	710	437	110	280.1

I 区 遺構一覧表 (PIT) (1)

遺構 番号	検出地点	重複関係 (新→旧) (不明≠)	規模(cm) [現存値] (推定値)			形状	検出遺物	遺構時期
			長軸	短軸	深度			
1	N - 5		36	33	12	隅丸方形		
2	J - 6		25	20		不整形		
3	J - 6		40	39		円形		
4	J - 6・7		75	40		長横円形		
5	J - 7		39	30		不整円形		
6	K - 7 J - 7	3溝≠6Prt	45	40		不整円形		
7	I - 4		36	32		不整円形		
8	H - 7		40	35		隅丸方形		
9	H - 6		40	36		隅丸方形		
10	I - 6		32	25		隅円形		
11	I - 6		40	31		隅円形		
12	H - 4		80	55		隅円形		
13	G - 2		62	55		隅丸方形		
14	F - 2		60	48		隅円形		
15	F - 2		38	32		隅円形		
16	F - 2 E - 2		70	46		隅円形		
17	F - 2 E - 2		80	58		隅円形		
18	E - 10		51	45		長横円形		
19	E - 10		80	49		隅円形		
20	D - 11		65	30		不整円形		
21	B - 16		35	30		隅円形		
22	B - 16		39	32		隅円形		
23	A - 17		52	43		隅円形		
24	A - 17		59	45		隅円形		
25	A - 18		50	35		隅円形		
26	D - 18		45	35		隅円形		
27	D - 17・18		35	33		隅丸方形		
28	D - 17		106	90		隅丸方形		
29	D - 2		20	20		円形		
30	D - 17		28	27		隅丸方形		
31	D - 17		115	60		不整形		
32	C - 17・18		45	36		隅円形		
33	C - 17		57	43		隅丸長方形		
34	E - 17		41	41		隅丸方形		
35	E - 16		36	36		隅丸方形		
36	E - 15・16		80	70		不整円形		
37	D - 16		40	36		不整円形		
38	D - 16		27	25		円形		
39	D - 16		30	25		不整円形		
40	D - 16		35	31		不整円形		
41	F - 15		40	35		隅丸方形		
42	E - 15		80	68	25	隅円形		
43	E - 14		70	43		隅円形		
44	F - 19		50	50	20	円形		
45	F - 19		26	26		円形		
46	E - 18	38溝≠46Prt	70	45	25	不整形		
47	E - 18		150	85		長横円形		
48	E - 19		35	31		不整円形		
49	E - 18	38溝≠49Prt	55	55	30	円形		

I 区 遺構一覧表 (PIT) (2)

遺構 番号	検出地点	重複関係 (新-旧) (不明≠)	規模(cm) [現存値] (推定値)			形状	検出遺物	遺構時期
			長軸	短軸	深度			
50	E - 18	38漢≠50Pit	40	35	13	橢丸方形		
51	E - 18		70	50		不整橢円形		
52	D - 18		50	45	26	不整円形		
53	L - 17 K - 17		96	65	15	円形		
54	L - 17 K - 17		70	51	18	橢丸長方形		
55	K - 17		68	62	18	橢丸長方形		
56	F - 13	50漢≠56Pit	55	38	15	橢円形		
57	E - 12-13		36	36		橢丸方形		
58	G - 12		21	20		橢丸方形		
59	G - 12		35	26		橢円形		
60	G - 12		27	26		橢丸方形		
61	G - 12		58	50		不整形		
62	G - 12		25	25		円形		
63	G - 12		22	20		円形		
64	G - 12 F - 12		28	23		橢円形		
65	F - 12		45	38		不整形		
66	F - 12		23	18		不整円形		
67	F - 12		48	40		不整円形		
68	F - 12		55	40		橢円形		
69	N - 5		38	38		円形		
70	N - 5		40	34		不整円形		
71	K - 7		66	50	11	橢円形		
72	K - 7		54	48	10	不整形		
73	J - 8-9		80	74	20	橢丸長方形		
74	I - 9		40	40	22	円形		
75	I - 9 J - 9		42	42	20	橢丸方形		
76	I - 9 J - 9		52	50	26	円形		
77	B - 18	32土≠77Pit	50	34	20	橢丸長方形		
78	J - 20		32	29		円形		
79	D - 18		50	48	17	円形		
80	D - 17-18		40	38	15	円形		
81	D - 17-18		66	60	15	不整形		
82	D - 17-18		45	35	20	橢円形		
83	E - 17		35	30	22	橢丸長方形		
84	E - 17		43	43	25	不整円形		
85	E - 17		30	30	25	不整円形		
86	D - 17		30	28	28	円形		
87	D - 17		27	27	28	円形		
88	D - 17		28	22	15	橢円形		
89	D - 17		17	17	16	橢丸方形		
90	D - 17		25	21	15	不整円形		
91	C - 11		47	45	20	橢丸方形		
92	C - 10		48	38	13	橢円形		
93	C - 10		40	32	10	橢円形		
94	M - 9		30	25	13	不整円形		
95	M - 9 L - 9		38	38	15	円形		
96	K - 6		55	55	7	円形		
97	K - 6		86	65	5	不整形		
98	M - 8		37	35	15	円形		

I 区 遺構一覧表 (PIT) (3)

遺構 番号	検出地点	重複関係 (新-旧) (不明≠)	規模(cm) [現存値] (推定値)			形状	検出遺物	遺構時期
			長軸	短軸	深度			
99	M-7		32	32	15	円形		
100	M-7		42	40	11	不整形		
101	M-7		40	40	15	円形		
102	K-6		60	50	15	椭円形		
103	M-6		70	53	25	不整形		
104	N-10		43	43	12	円形		
105	N-10		28	21	12	不整円形		
106	N-9		36	30	13	不整円形		

III区 遺構一覽表（溝状遺構）

検出地点	標高(m)	地理関係(新・旧)	特徴	長軸方位			形状	底面	長さ	幅	標高(m) [海抜(標準)]	標高差(m)	土	掘削中間地質資料	出土物	通過時間	
				平坦	平坦	緩傾斜											
17-16 ～17-16	2.9±1.9 1.3±3.3 1.3±5.5 1.3±12.3	新しいものと全く同じ形状で、表面には等高線で示す の斤跡が確認できる。	N=19° - E	緩傾斜	平坦	やや急傾斜 上がる。	3.170	65	25	279.9						近世	
17-17-18 ～17-18	2.9±1.9 1.3±3.3 1.3±4.9 1.3±4.9	1周回りで走行している。面積は1:2 馬主印がある。通路の土は1:3-2 西側に立ちいている。	E=19° - S	緩傾斜	平坦	緩やかに立ち上 がる。	1.130	45	32	278.25						近世～近代?	
3 え-3-6 お-6	3.8±4.9 1.2±2.3 1.2±2.3 1.2±2.3 1.2±2.3 1.2±3.4 1.2±3.4 1.2±4.9	南北に走る大規模な溝である。北端から走り、南端で折 れて斜め下に走る。馬主印がある。	E=14° - S	緩傾斜	平坦	やや急傾斜 上がる。	1.337	152	30	278.1						近世	
4 い-2-2 わ-2-2 わ-2-2 わ-2-2 わ-2-2 わ-2-2 わ-2-2 わ-2-2	3.8±4.9 1.2±2.3 1.2±2.3 1.2±2.3 1.2±2.3 1.2±3.4 1.2±3.4 1.2±4.9	南北に走る大規模な溝である。北端から走り、南端で折 れて斜め下に走る。馬主印がある。	N=13° - E	ほぼ直線的	平坦	緩やかに立ち上 がる。	4.302	190	40	278	7層からなり、 土器が出土する。						18世紀～19世紀
5 ウ-5 え-2-5 か-3 か-3 か-3 欠番	4.9±5.9 4.9±5.9 6.9±4.9 6.9±4.9 6.9±4.9 6.9±4.9 6.9±4.9 6.9±4.9	東側から西側に走りながら、 4周に分かれている。	N=23° - E	緩傾斜	平坦	やや急傾斜 上がる。	1.548	63	20	277.8	3層からなる。						近世
6 か-3 7 か-3 9 欠番	6.9±4.9 6.9±4.9 6.9±4.9 6.9±4.9 6.9±4.9 6.9±4.9 6.9±4.9 6.9±4.9	4周に平行している。4段と接続し て走る。底状痕の可能性あり。 6周に平行している。確かに縦と横 している。斜面剥離の可能性あり。	N=25° - E	緩傾斜	平坦	緩やかに立ち上 がる。	455	45	10	278.1						近代	
9 え-2	6.9±4.9	10周にやや平行している。底状痕 の可能性がある。	N=20° - E	緩傾斜	平坦	緩やかに立ち上 がる。	430	45	5	278.1						近代	
10 え-2 お-2 か-2-2 か-2-2	9.9±10.9 10.9±1.9	やや平行している。底状痕の可能性あり。 馬頭印が確認できる。	N=23° - E	緩傾斜	平坦	緩やかに立ち上 がる。	332	—	4	277.8						近代?	
11 き-16-17 ～16-17	9.9±1.9	調査区東側面にかかるように突出さ れ、馬頭印に長い穴があっている。	N=70° - W	V字状	緩傾斜	やや急傾斜 上がる。	1.521	70	20	277.9	石器類:五輪鏡(火鉢)						中世～
12 久-14-15 ～14-15	9.9±12.3	1周に通角で交わる。深度が浅く低 い。平行して走る。底状痕の可能性も指さない。	E=19° - S	緩傾斜	ほぼ平相	緩やかに立ち上 がる。	525	35	10	277.85						近代?	
13 う-2 え-2	1.3±4.9 1.1±1.9	4周と交しその2点に土印がある。	E=21° - S	緩傾斜	平坦	やや急傾斜 上がる。	—	52	37							近代?	
14 い-1-3	9.9±14.9		E=22° - S	緩傾斜	平坦	緩やかに立ち上 がる。	965	115	20	276.5						近世?	

II区 遺構一覧表（井戸）

番号	検出地点	重複關係（種-田）	特徴	長軸方位 N-21° -S	形状	横断面 平面	底面 上方口一ト状に開いている。												
1	< -15		口一ト状の奥まり井戸であるが下方で は四つに脚を付いた柱を立てて棲板を設 している。																

II区 遺構一覧表（土坑）

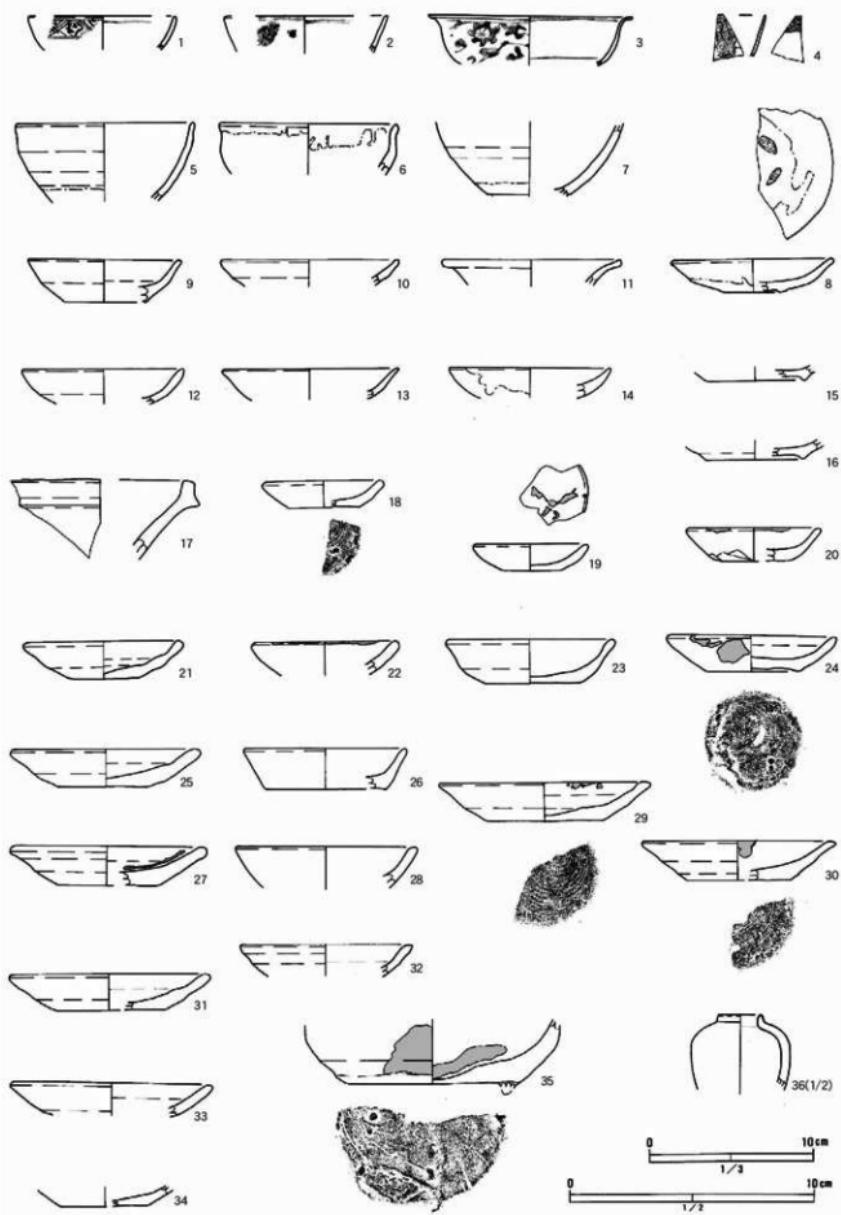
番号	検出地点	重複關係（種-田）	長軸方位 N-25° -W	形状	横断面 平面	底面 非常に凹凸やわらか	横断面 長軸	底面 400	底面 270	底面 17	底面 100以上	底面 273	底面 300以上	底面 278.7	底面 100以上	底面 273	底面 300以上	底面 278.7	底面 100以上
1	17-4-5		N-19° -E	圓丸透方形	平坦	非常に凹凸やわらか	短軸	270	底面 400	底面 17	底面 100以上	底面 273	底面 300以上	底面 278.7	底面 100以上	底面 273	底面 300以上	底面 278.7	底面 100以上
2	17-5		E-22° -N	圓丸透方形	起伏を伴う。	多孔性で立ち上がりがある。	短軸	279	底面 270	底面 17	底面 100以上	底面 273	底面 300以上	底面 278.7	底面 100以上	底面 273	底面 300以上	底面 278.7	底面 100以上
3	欠番		E-23° -N	圓丸透方形	平坦	圓やかに立ち上がりがある。	短軸	165	底面 108	底面 20	底面 100以上	底面 273	底面 300以上	底面 278.7	底面 100以上	底面 273	底面 300以上	底面 278.7	底面 100以上
4	18-3-4		E-22° -N	圓丸透方形	平坦	圓やかに立ち上がりがある。	短軸	122	底面 105	底面 10	底面 100以上	底面 273	底面 300以上	底面 278.7	底面 100以上	底面 273	底面 300以上	底面 278.7	底面 100以上
5	18-15		E-15° -N	圓丸透方形	平坦	圓やかに立ち上がりがある。	短軸	160	底面 121	底面 150	底面 100以上	底面 273	底面 300以上	底面 278.7	底面 100以上	底面 273	底面 300以上	底面 278.7	底面 100以上
6	色-16		-	不規形	起伏を伴う。	圓やかに立ち上がりがある。	短軸	160	底面 121	底面 150	底面 100以上	底面 273	底面 300以上	底面 278.7	底面 100以上	底面 273	底面 300以上	底面 278.7	底面 100以上
7	18-14-15		E-9° -S	不規形	なだらかな傾斜を持つ。	圓やかに立ち上がりがある。	短軸	314	底面 148	底面 38	底面 100以上	底面 273	底面 300以上	底面 278.7	底面 100以上	底面 273	底面 300以上	底面 278.7	底面 100以上
8	< -14-15		E-17° -S	圓丸透方形	平坦	圓やかに立ち上がりがある。	短軸	202	底面 175	底面 20	底面 100以上	底面 273	底面 300以上	底面 278.7	底面 100以上	底面 273	底面 300以上	底面 278.7	底面 100以上
9	11-12		黃金	不規形	平坦	圓やかに配で立ち上がる。	短軸	145	底面 97	底面 75	底面 100以上	底面 273	底面 300以上	底面 278.7	底面 100以上	底面 273	底面 300以上	底面 278.7	底面 100以上
10	欠番		H-9° -E	橢円形	やや平坦	やややかに配で立ち上がる。	短軸	63	底面 58	底面 0	底面 100以上	底面 273	底面 300以上	底面 278.7	底面 100以上	底面 273	底面 300以上	底面 278.7	底面 100以上
11	18-12		-	-	-	-	底面	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

II区 遺構一覧表（埋桶）

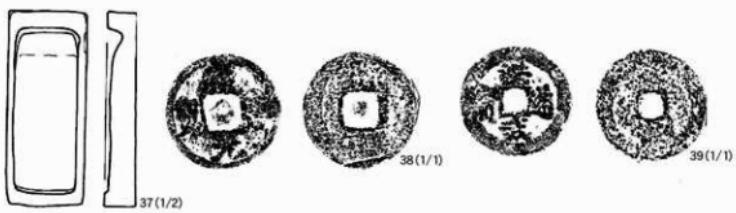
番号	検出地点	重複關係（種-田）	形状	横断面 平面	底面 非常に近い急傾斜	横断面 長軸	底面 66	底面 65	底面 43	底面 3	底面 100以上	底面 70	底面 66	底面 50	底面 53	底面 6	底面 58	底面 0	底面 3
1	丸-12	18-4-3	不規形	平坦	底面 非常に近い急傾斜	短軸	66	底面 65	底面 43	底面 3	底面 100以上	底面 70	底面 66	底面 50	底面 53	底面 6	底面 58	底面 0	底面 3
2	丸-12	-	不規形	平坦	底面 非常に近い急傾斜	短軸	120	底面 107	底面 53	底面 3	底面 100以上	底面 120	底面 107	底面 53	底面 53	底面 6	底面 58	底面 0	底面 3
3	丸-13-14	-	不規形	平坦	底面 非常に近い急傾斜	短軸	63	底面 58	底面 0	底面 3	底面 100以上	底面 63	底面 58	底面 0	底面 53	底面 6	底面 58	底面 0	底面 3
4	28-13	-	不規形	平坦	底面 非常に近い急傾斜	短軸	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

II区 遺構一覧表 (PIT)

遺構 番号	検出地点	重複関係 (新-旧) (不明±)	規模(cm) [現存値] (推定値)			形状	検出遺物	遺構時期
			長軸	短軸	深度			
1	吉-16		48	40		橢丸方形		
2	け-17		25	25		円形		
3	け-16		25	25		円形		
4	け-16	2溝≠4P±	40	40	30	円形		
5	吉-15		31	29		不整円形		
6	き-15		30	30		不整円形		
7	え-15		35	18		橢円形		
8	え-15		45	35		橢丸方形		
9	か-16		55	55		不整円形		
10	か-15		43	40		不整円形		
11	お-13		35	30		不整円形		
12	け-14 こ-14	4溝内	72	63		橢丸長方形		
13	か-13	3溝≠13P±	20	16		不整形		
14	か-13		60	53		不整円形		
15	き-13	10溝≠15P±	63	50		橢丸長方形		
16	吉-13	10溝内	28	25		不整円形		
17	か-12	10溝内	40	35		不整円形		
18	か-12	10溝≠18P±	25	23		不整円形		
19	か-12	10溝≠19P±	25	25		不整円形		
20	か-12	10溝内	35	35		円形		
21	か-12	10溝≠21P±	75	73		円形		
22	お-12	10溝内	39	39		不整円形		
23	お-12	10溝内	25	20		橢円形		
24	お-12	27P±≠24P±	22	22		円形		
25	お-12		25	21		橢円形		
26	お-12		25	25		円形		
27	お-12	24P±≠27P±	52	50		不整円形		
28	お-12		30	30		不整円形		
29	え-12	9溝≠29P±	35	27		橢円形		
30	う-12		41	15		橢丸長方形		
31	う-12	4溝内	40	36		不整円形		
32	い-12	4溝内	32	25		橢円形		
33	い-12	4溝内	33	27		不整円形		
34	<-15		58	51	10	不整円形		
35	お-14		35	25	25	不整円形		
36	お-14		40	35	17	不整円形		
37	お-14		28	27	25	不整円形		



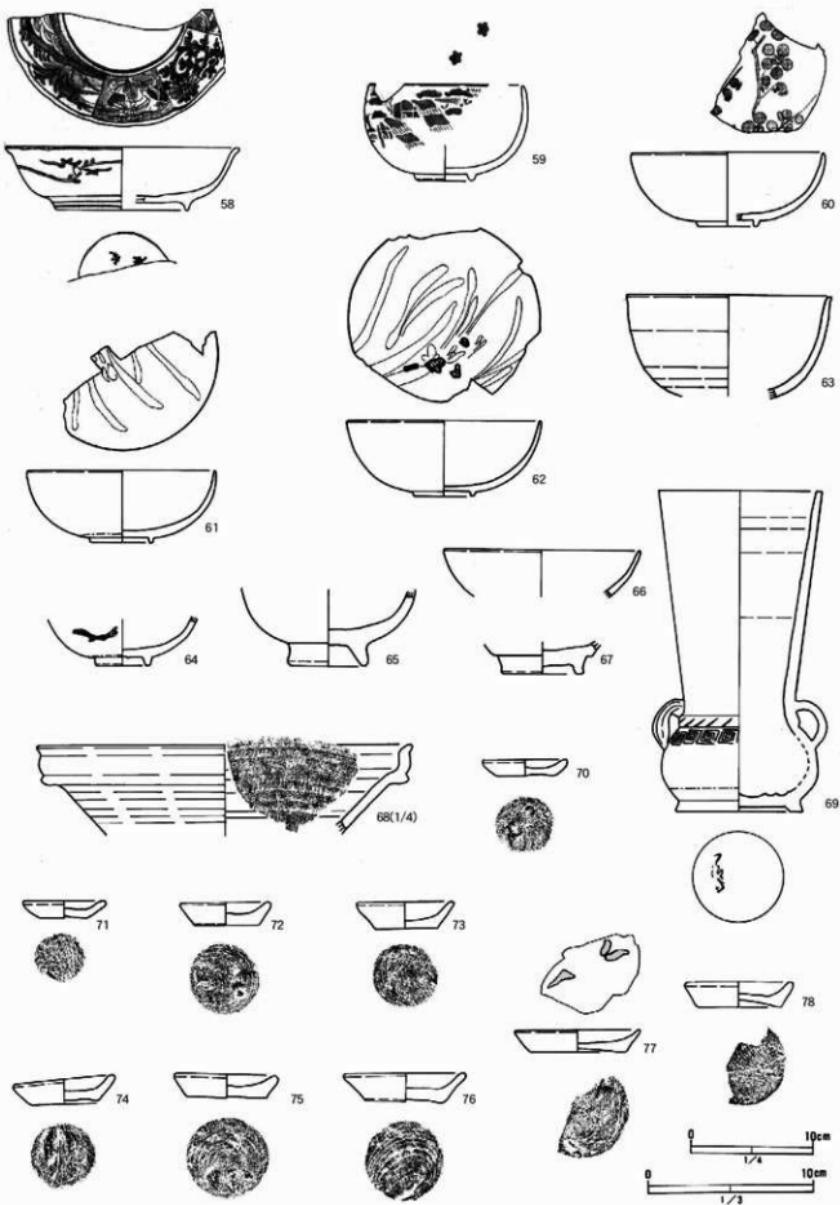
第77図 I区遺構出土遺物(1)



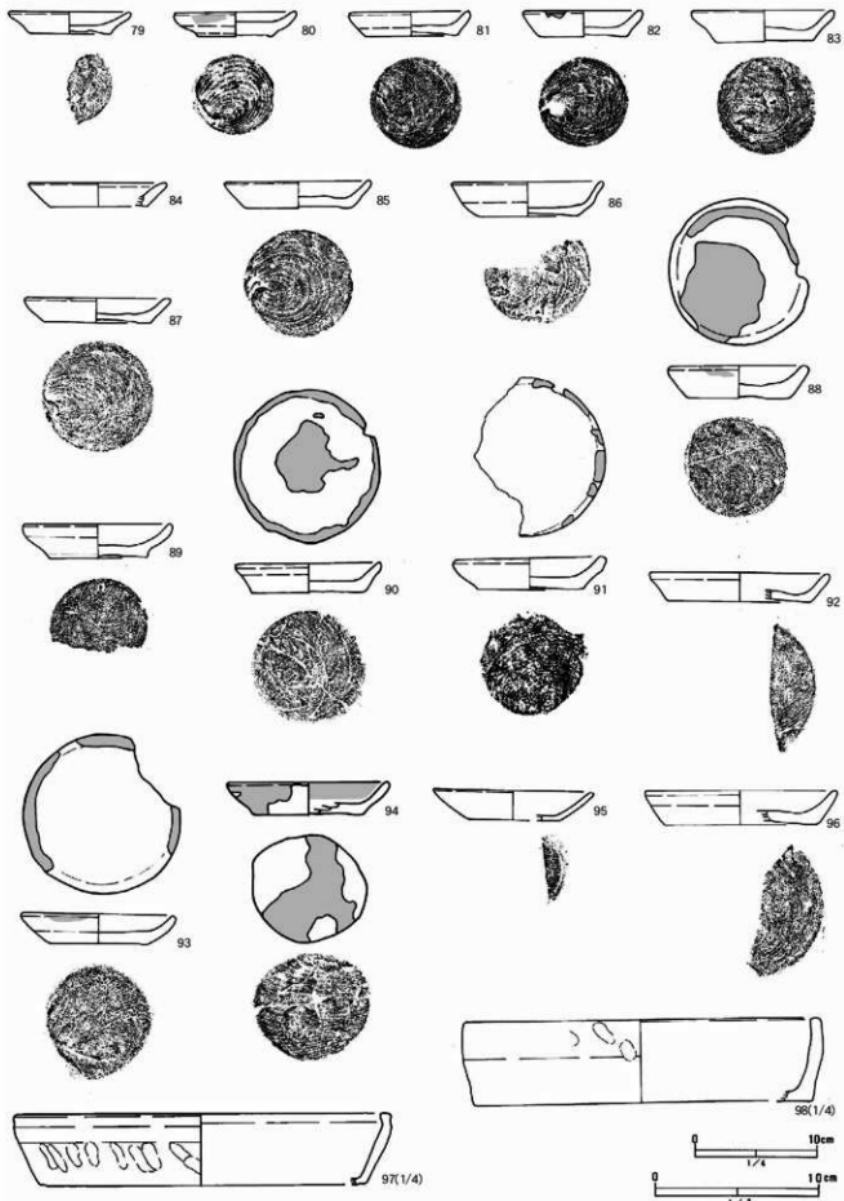
I区第1号満状遗物



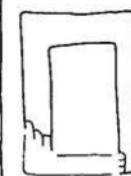
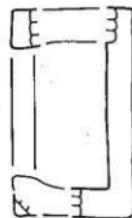
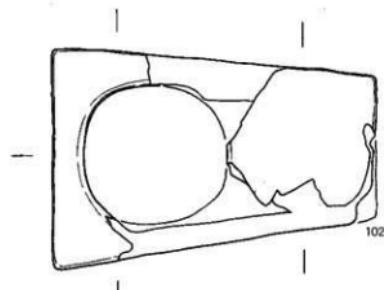
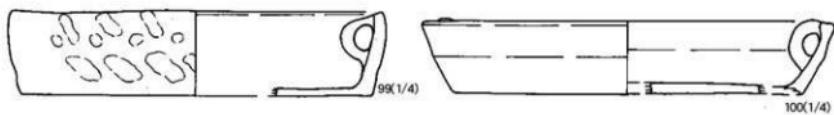
第78图 I区遗物出土遗物(2)



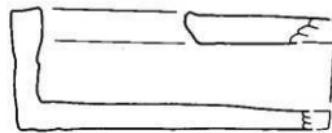
第79図 I区遺構出土遺物(3)



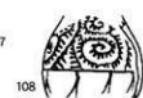
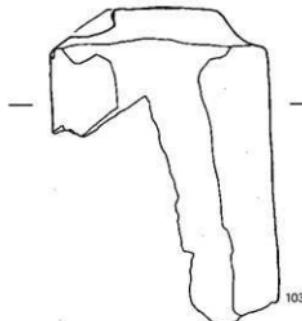
第80図 I区遺構出土遺物(4)



I区第6号溝状遺構

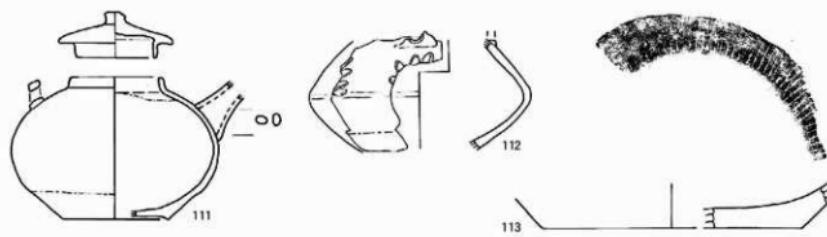


I区第10号溝状遺構

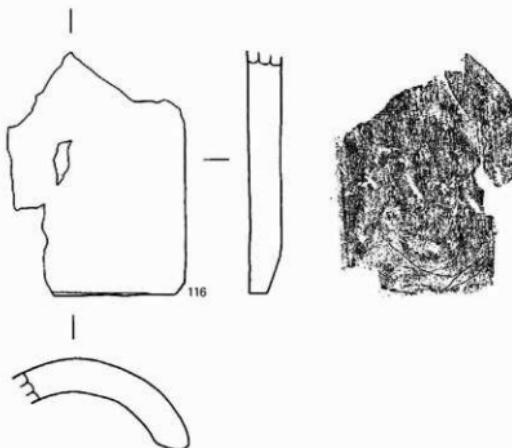


0 1/4 10cm
0 1/3

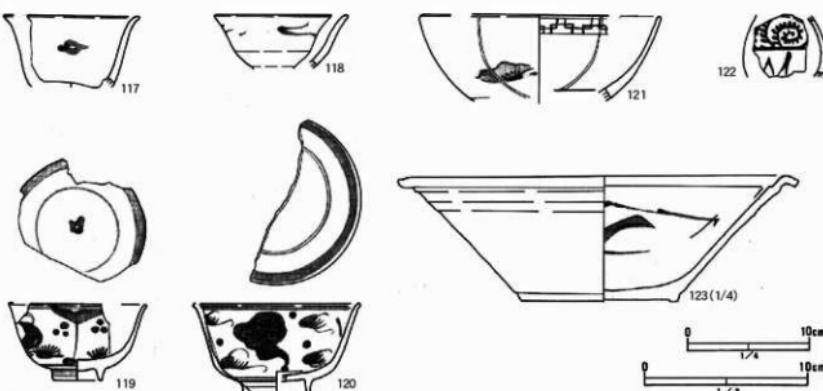
第81図 I区遺構出土遺物(5)



I区第11号溝状遺構

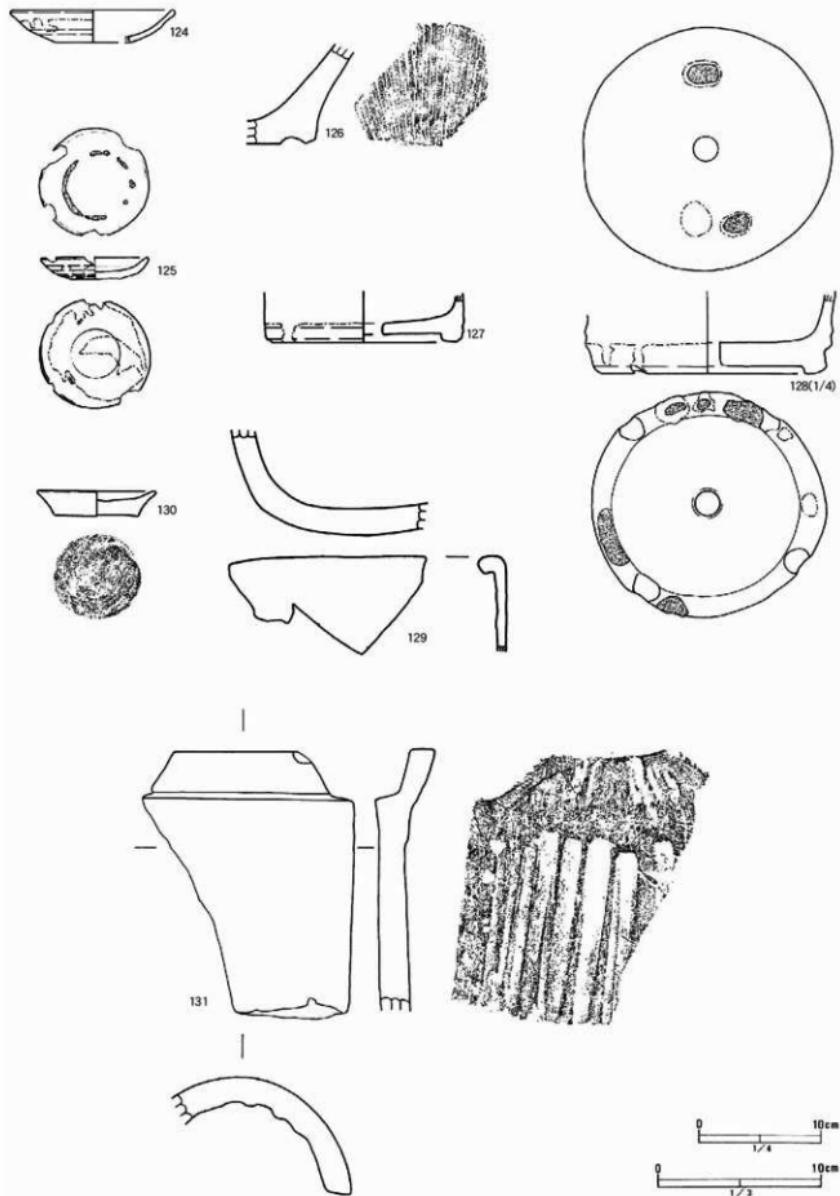


I区第12号溝状遺構

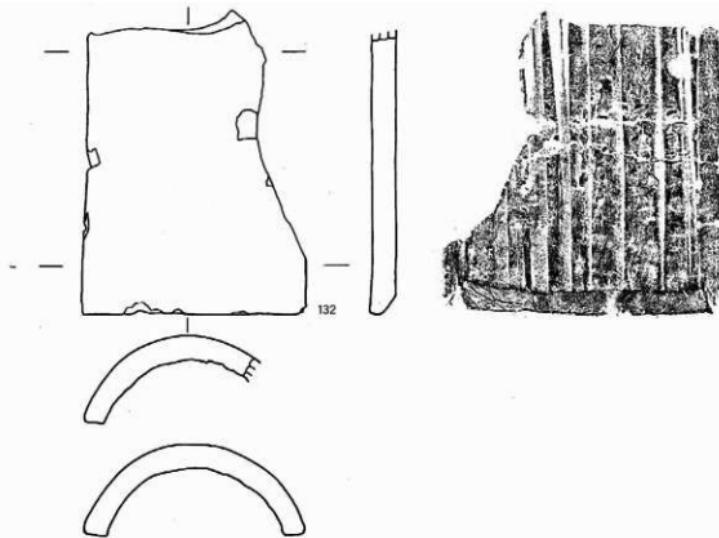


0 10cm
1/4 10cm
0 1/3

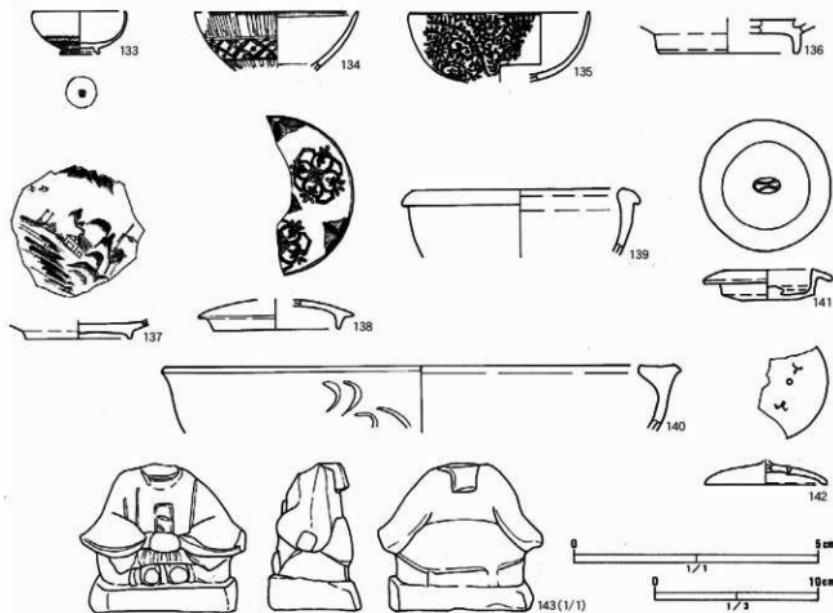
第82図 I区遺構出土遺物(6)



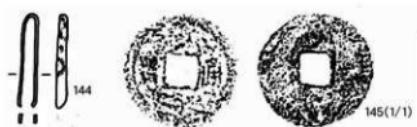
第83図 I区遺構出土遺物(7)



I区第13号溝状遗構



第84図 I区遺構出土遺物(8)



I区第14号満状遗構

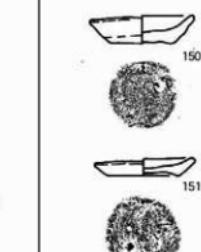


I区第17号満状遗構



148(1/1)

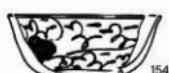
145(1/1)



I区第24号満状遗構



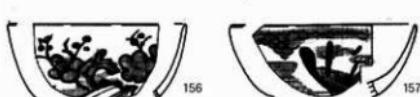
153



154



155



156

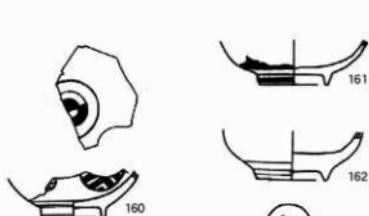
157



158



159



160



161



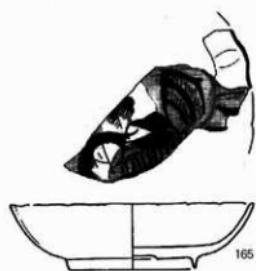
162



163



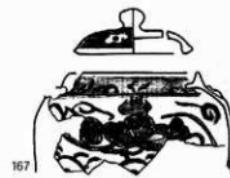
164



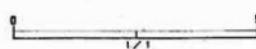
165



166



167



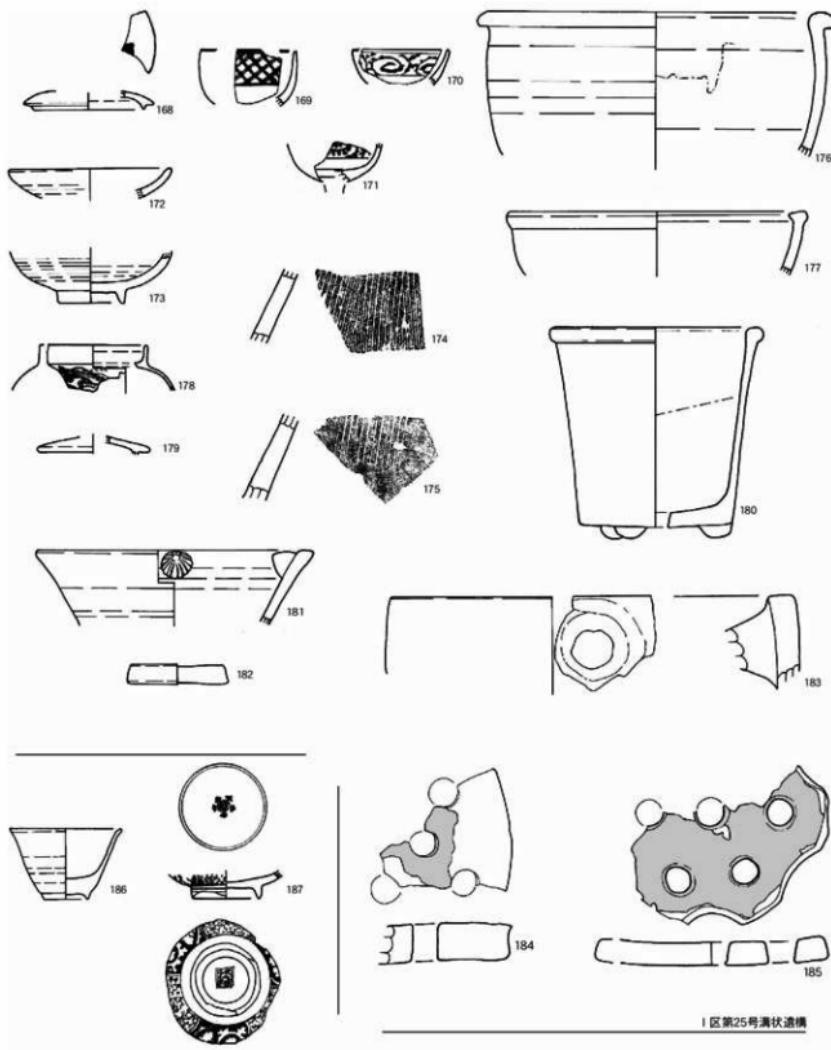
0

1/2 1/4

5cm

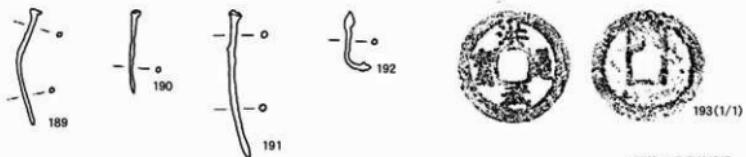
10cm

第85図 I区遺構出土遺物(9)

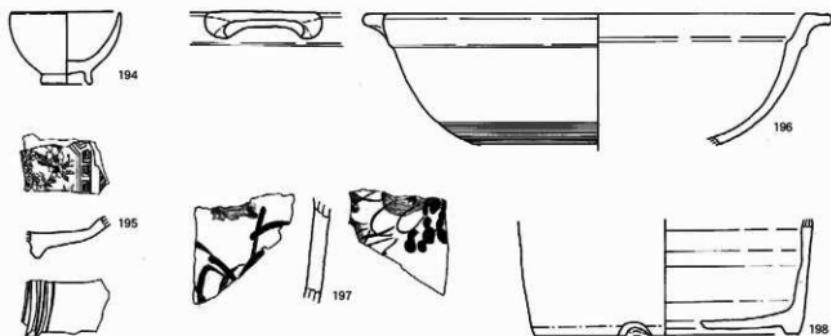


0
10 cm
1/3

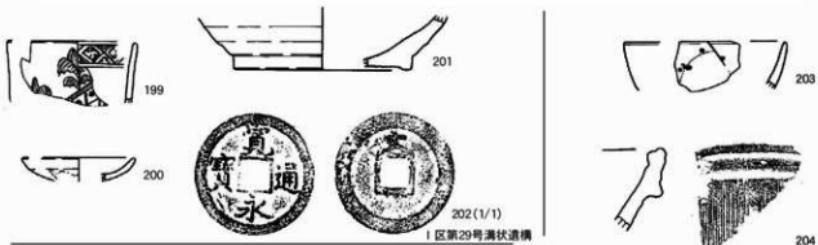
第86図 I区遺構出土遺物(10)



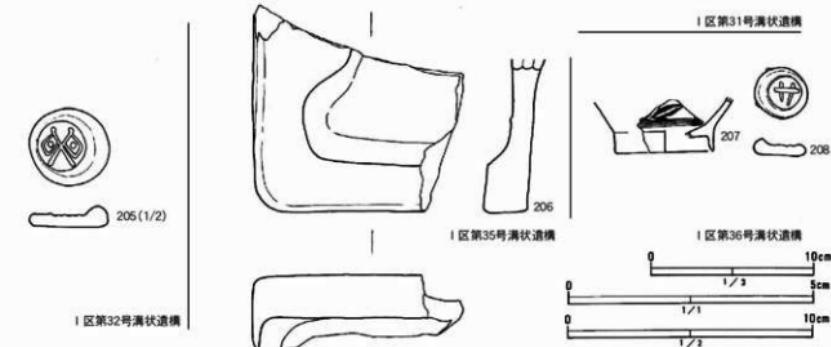
I区第26号満状遺構



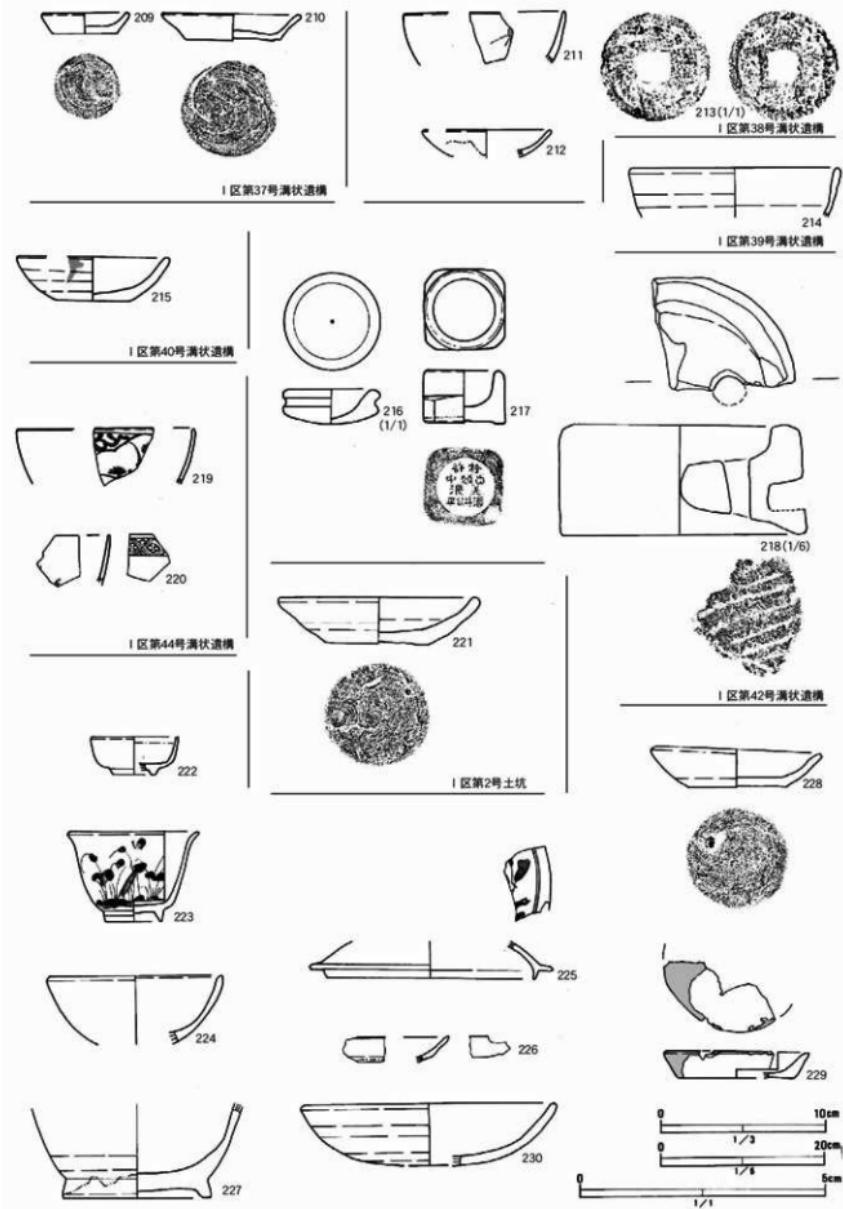
I区第27号満状遺構



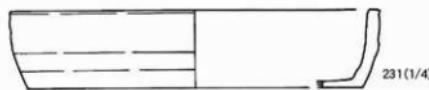
I区第29号満状遺構



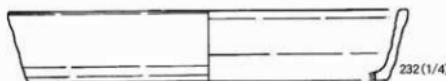
第87図 I区遺構出土遺物(11)



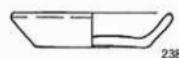
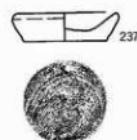
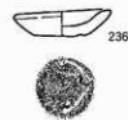
第88図 I区遺構出土遺物(12)



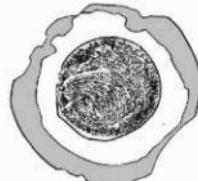
I区第9号土坑



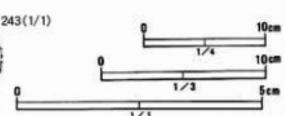
I区第10号土坑



239

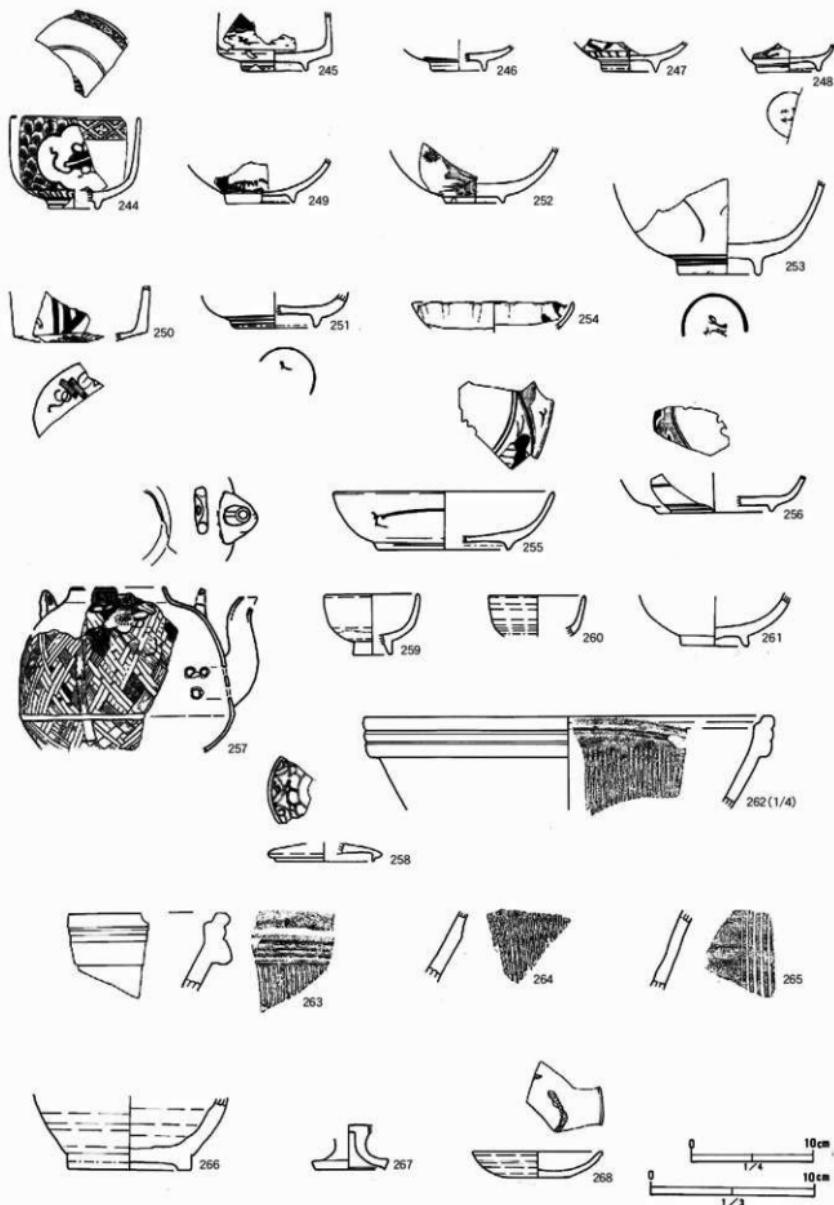


I区第11号土坑

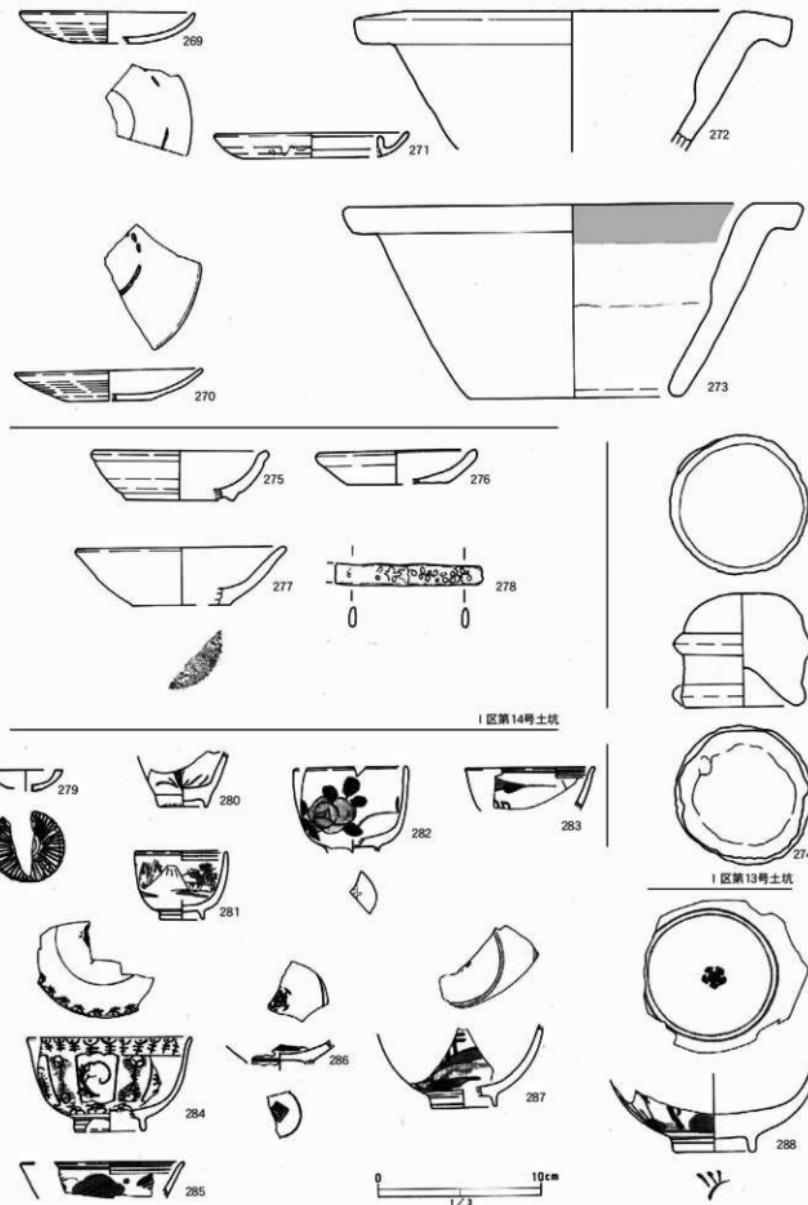


I区第12号土坑

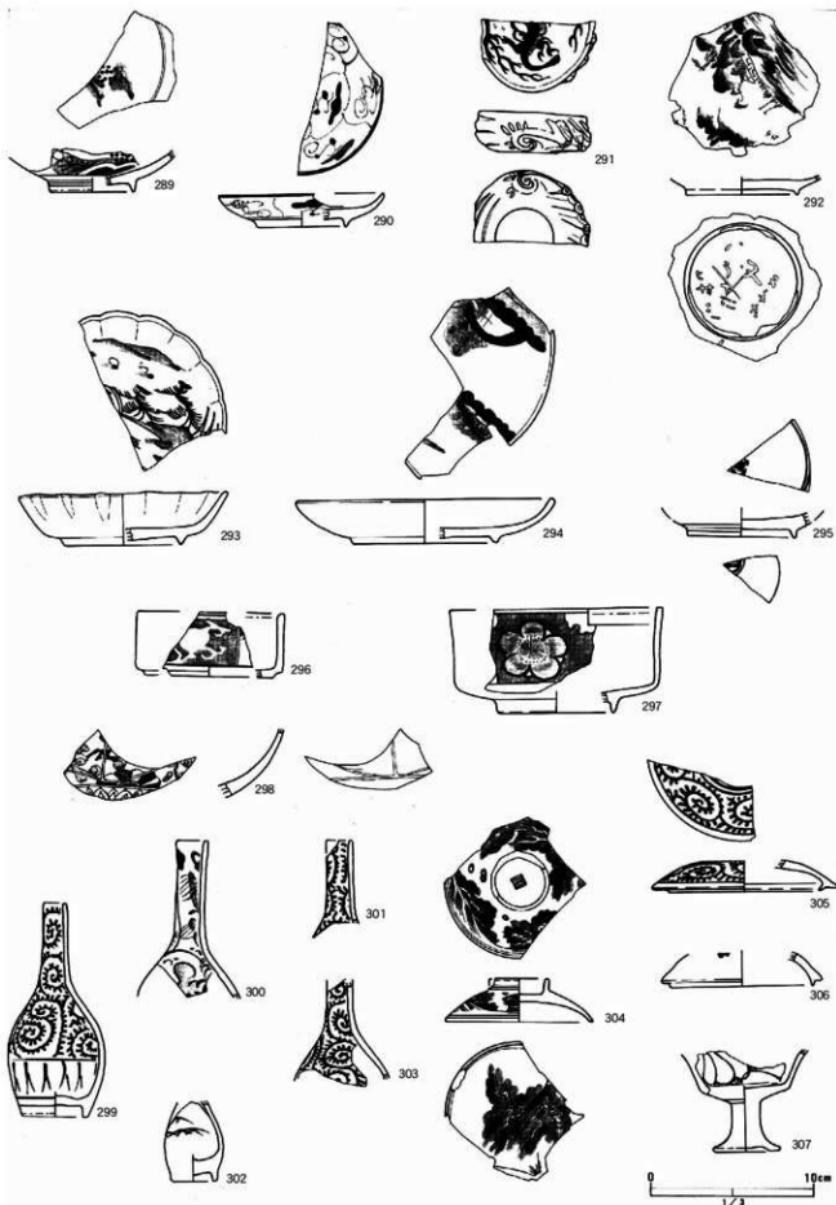
第89図 I区遺構出土遺物(13)



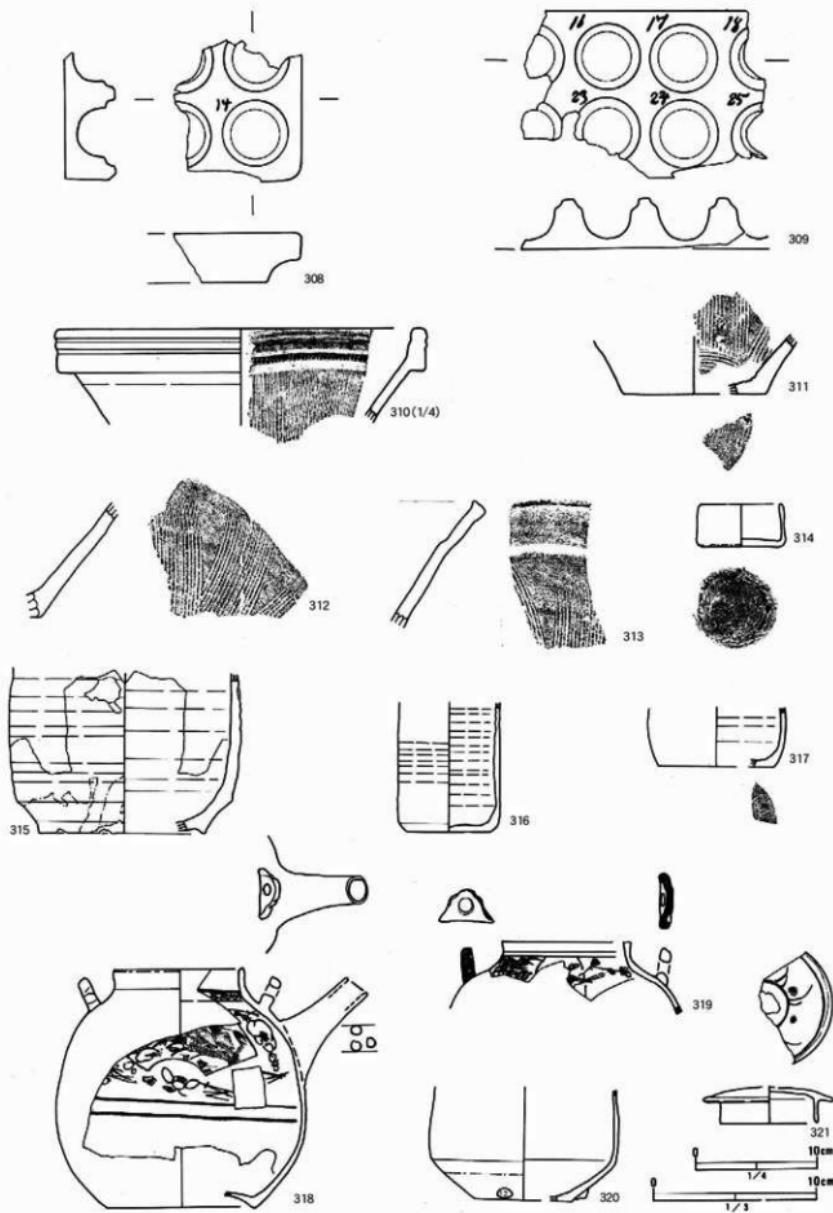
第90図 I区遺構出土遺物(14)



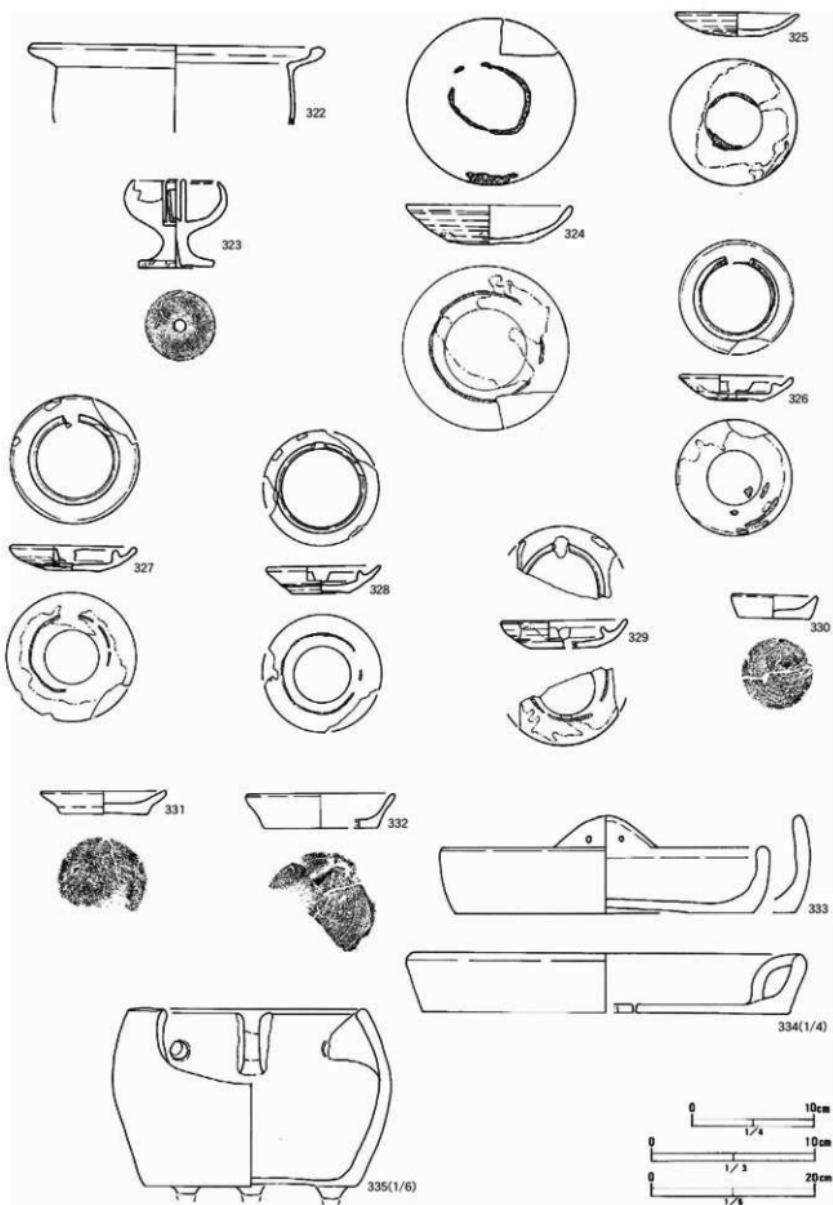
第91図 I区遺構出土遺物(15)



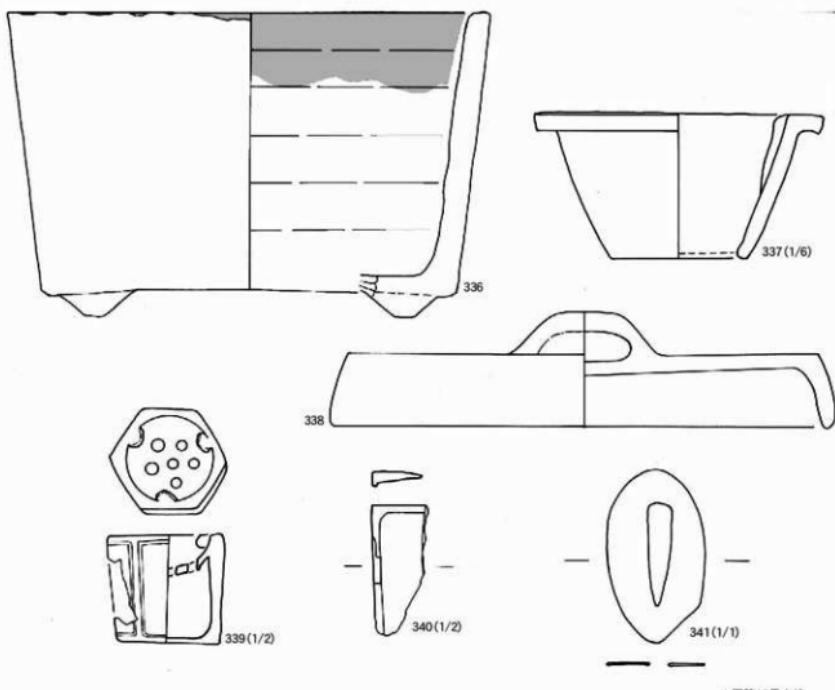
第92図 I区遺構出土遺物(16)



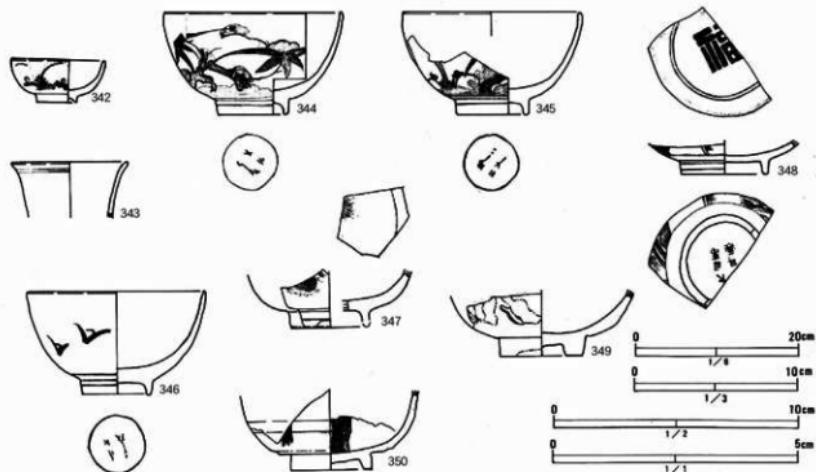
第93図 I区遺構出土遺物(17)



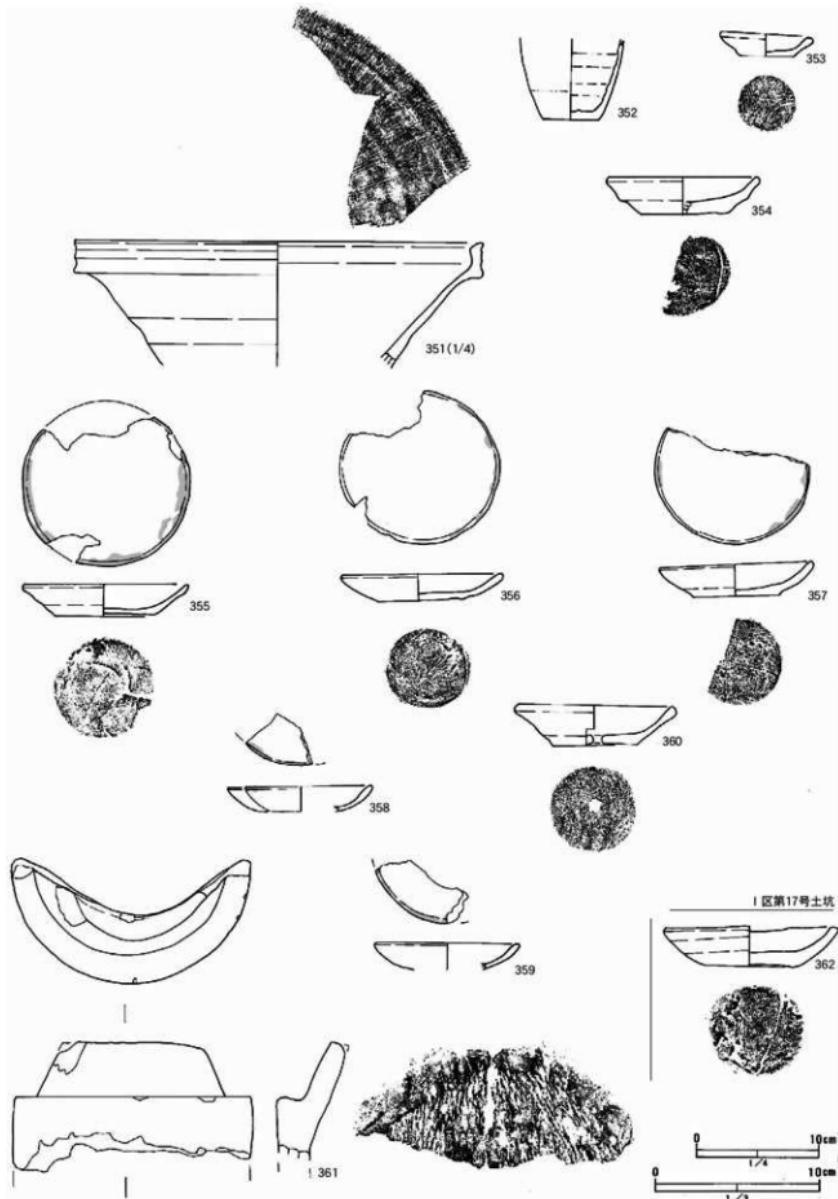
第94図 I区遺構出土遺物(18)



I区第16号土坑



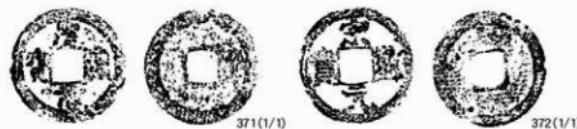
第95図 I区遺構出土遺物(19)



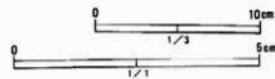
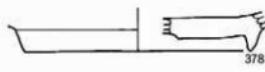
第96図 I区遺構出土遺物(20)



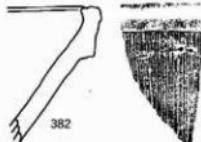
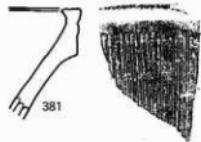
I区第18号土坑



I区第19号土坑



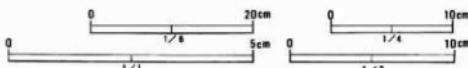
第97図 I区遺構出土遺物(21)



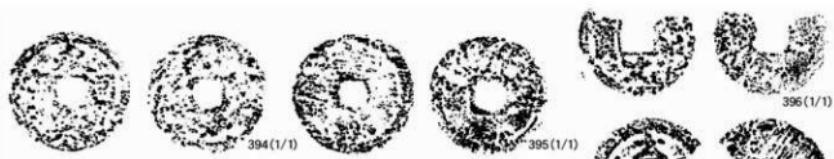
I区第20号土坑



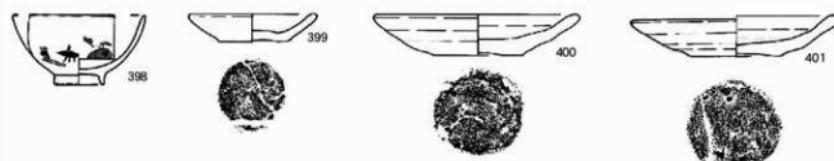
I区第21号土坑



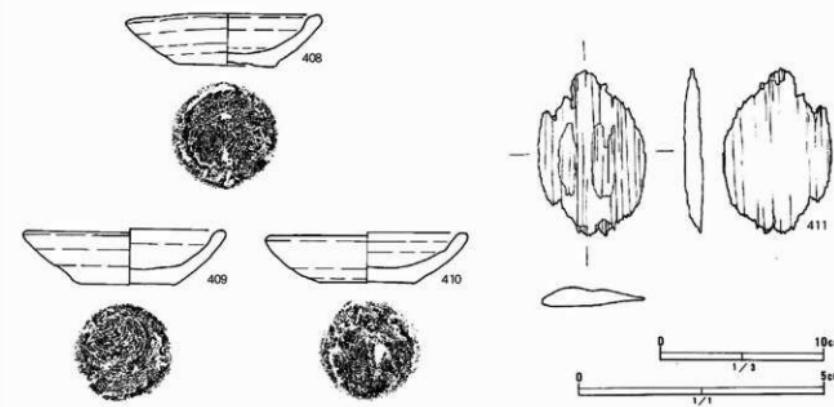
第98図 I区遺構出土遺物(22)



I区第23号土坑



I区第24号土坑



第99図 I区遺構出土遺物(23)



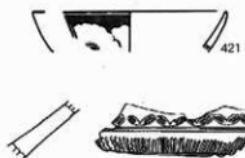
I区第26号土坑



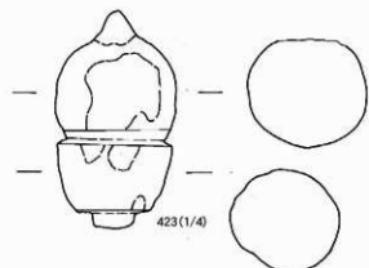
I区第27号土坑



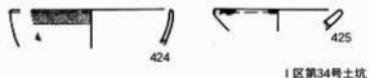
I区第29号土坑



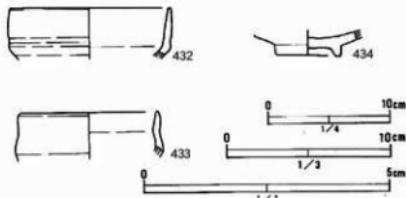
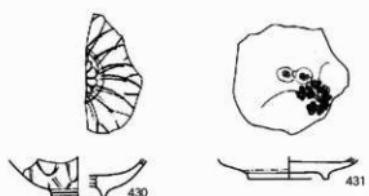
I区第30号土坑



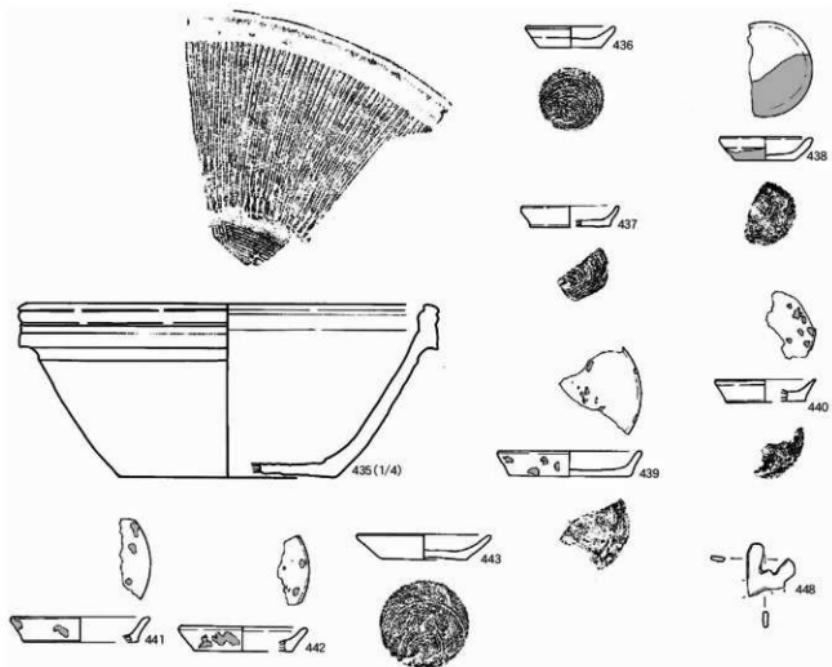
I区第31号土坑



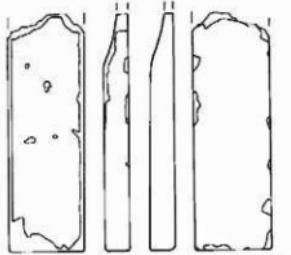
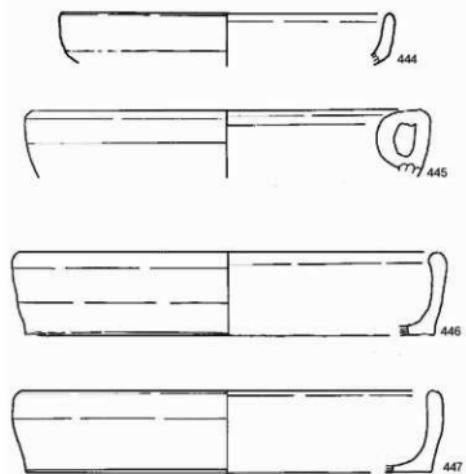
I区第34号土坑



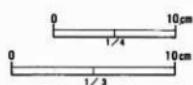
第100図 I区遺構出土遺物(24)



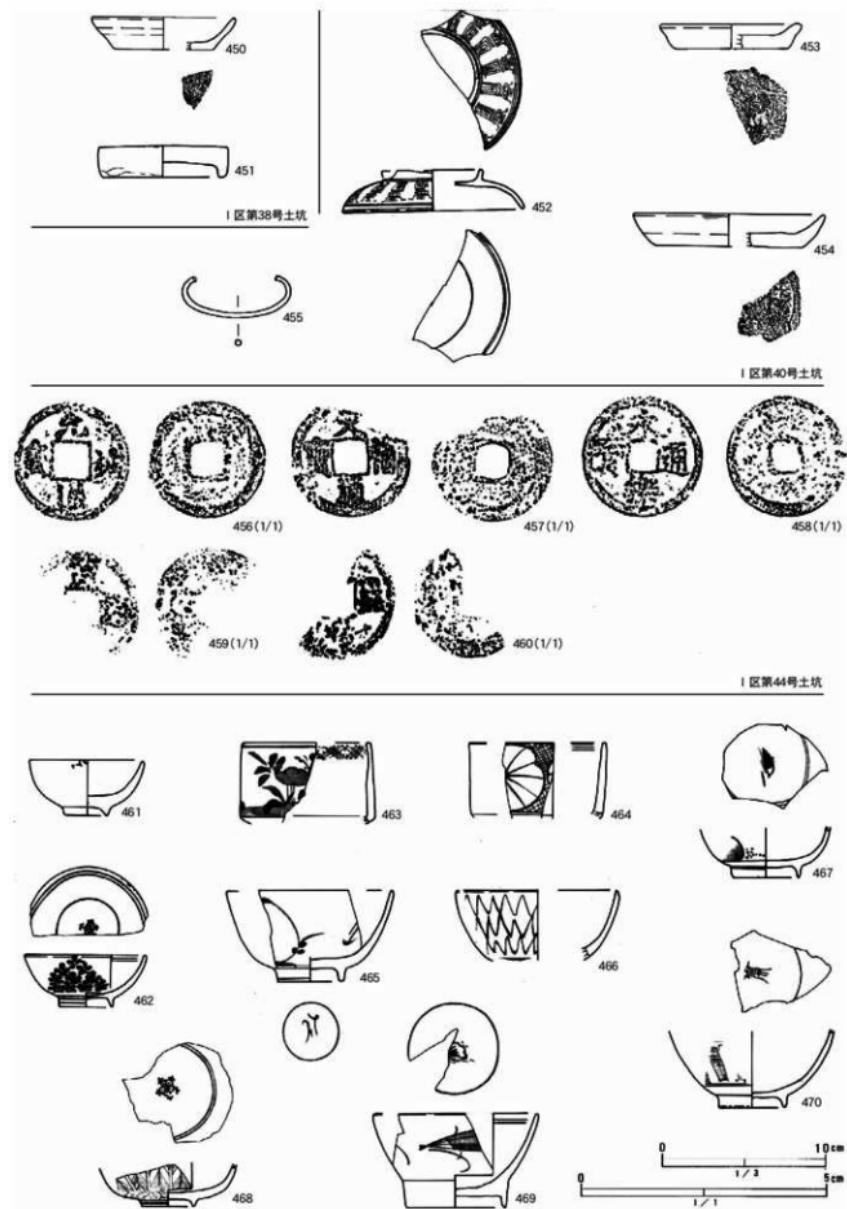
I区第35号土坑



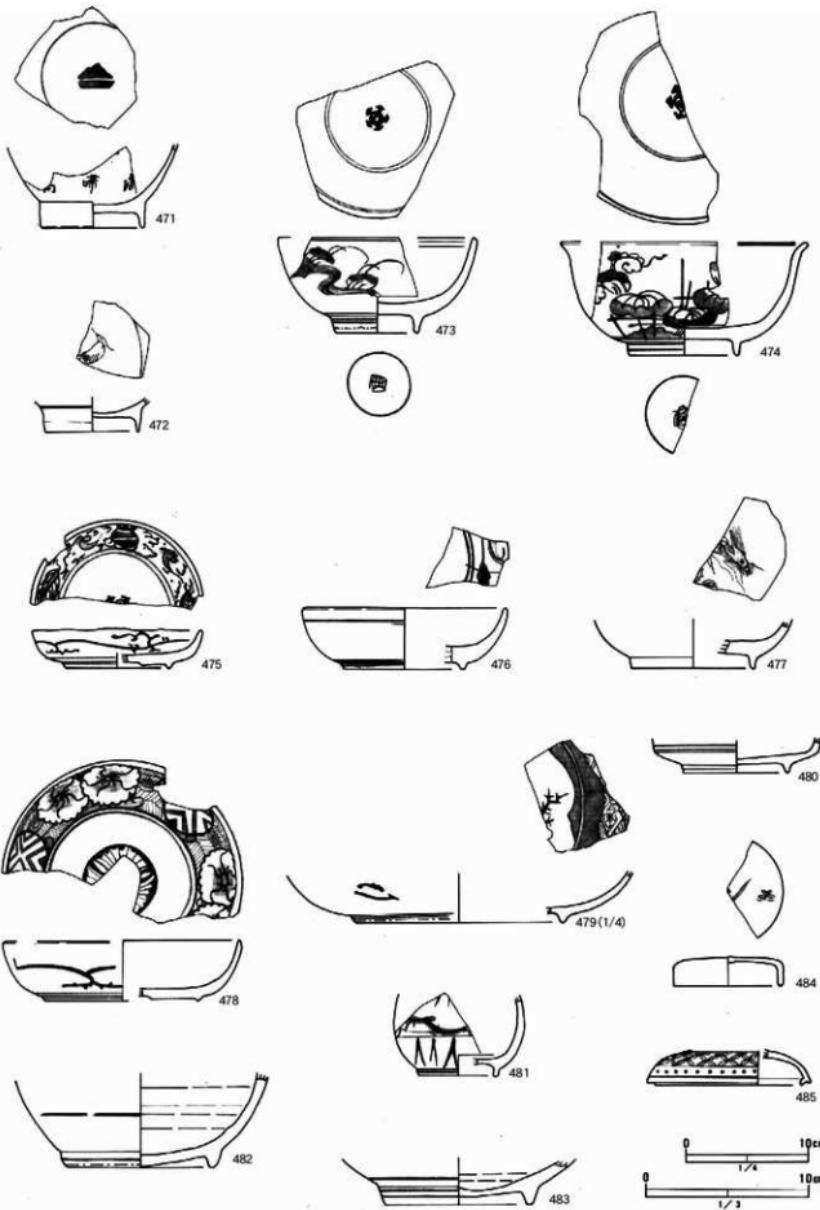
I区第37号土坑



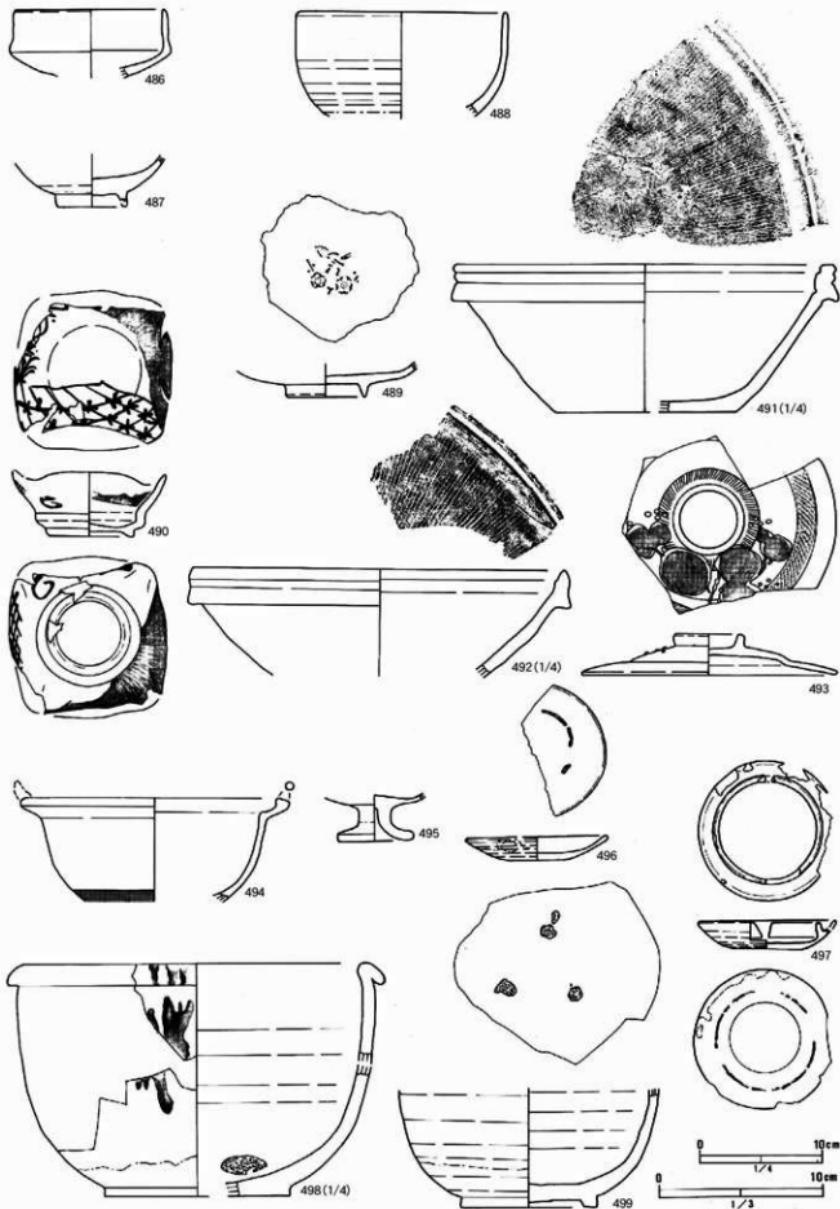
第101図 I区遺構出土遺物(25)



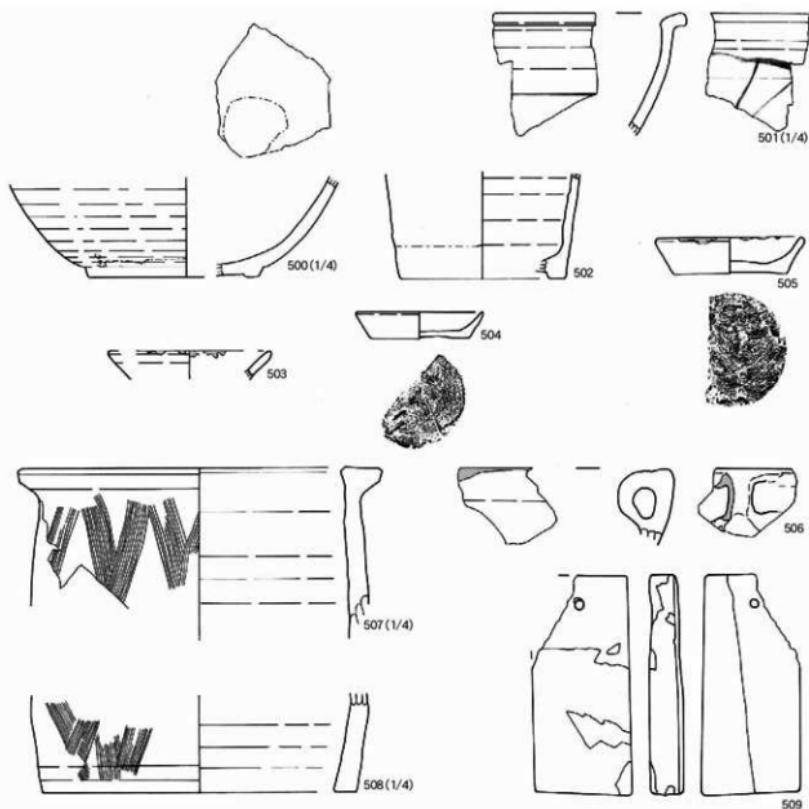
第102図 I区遺構出土遺物(26)



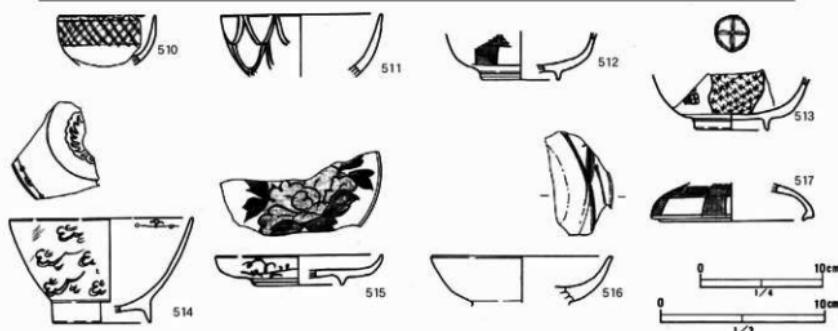
第103図 I区遺構出土遺物(27)



第104図 I区遺構出土遺物 (28)



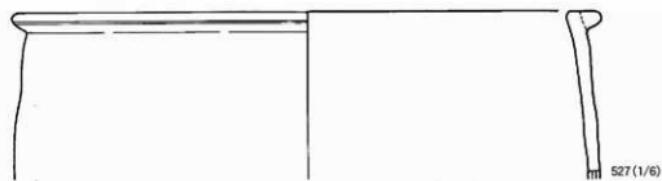
I区第1号井戸



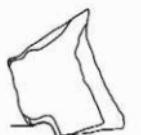
第105図 I区遺構出土遺物(29)



第106図 I区遺構出土遺物(30)



I区第3号井戸



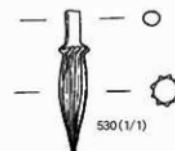
528 (1/6)



529



531 (1/1)



530 (1/1)

I区第6号井戸



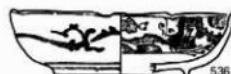
532



534



535



536



533



537



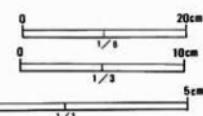
538



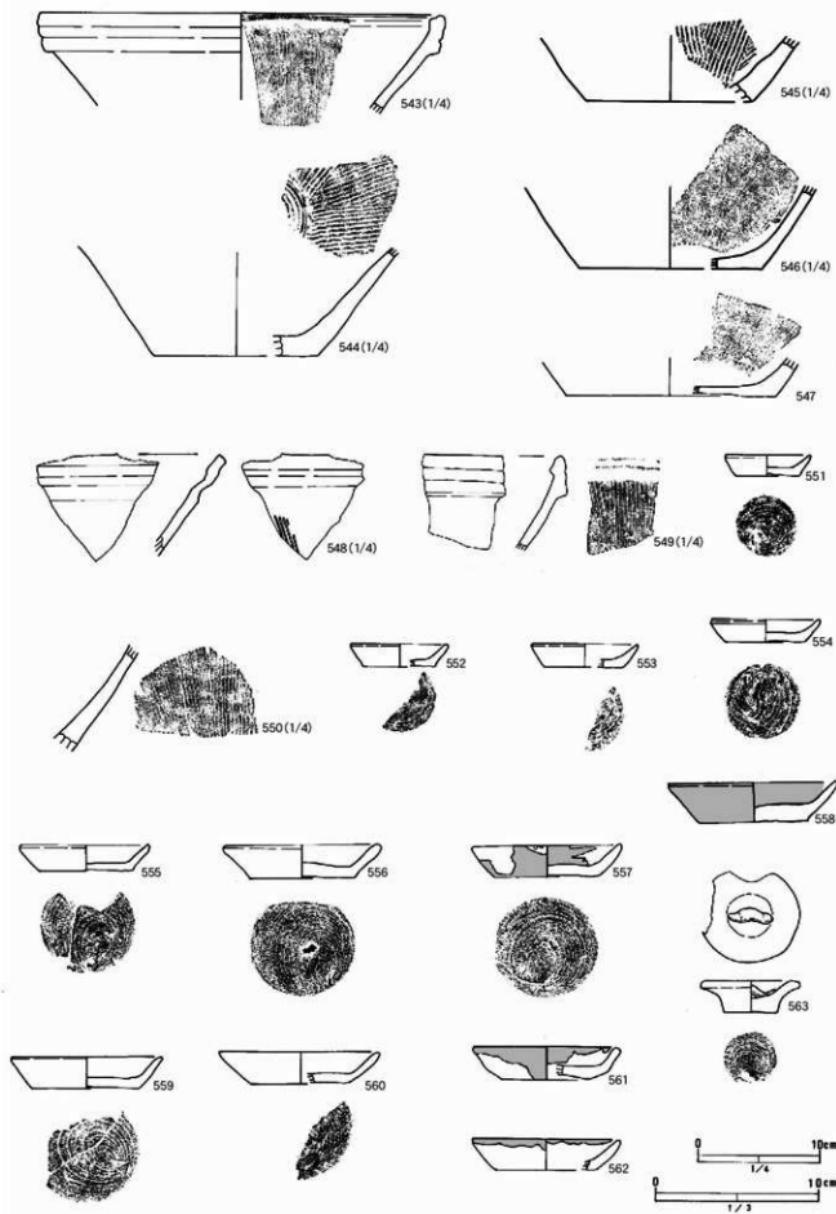
541



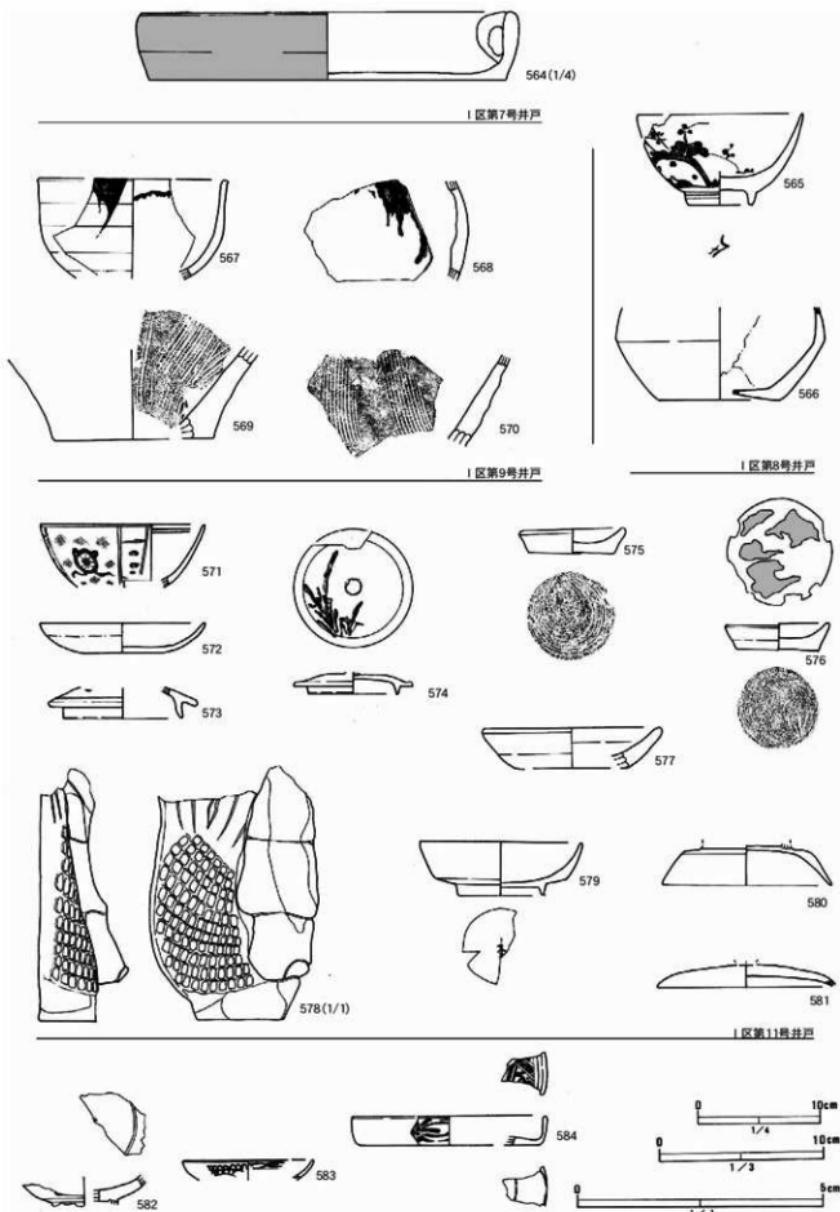
539



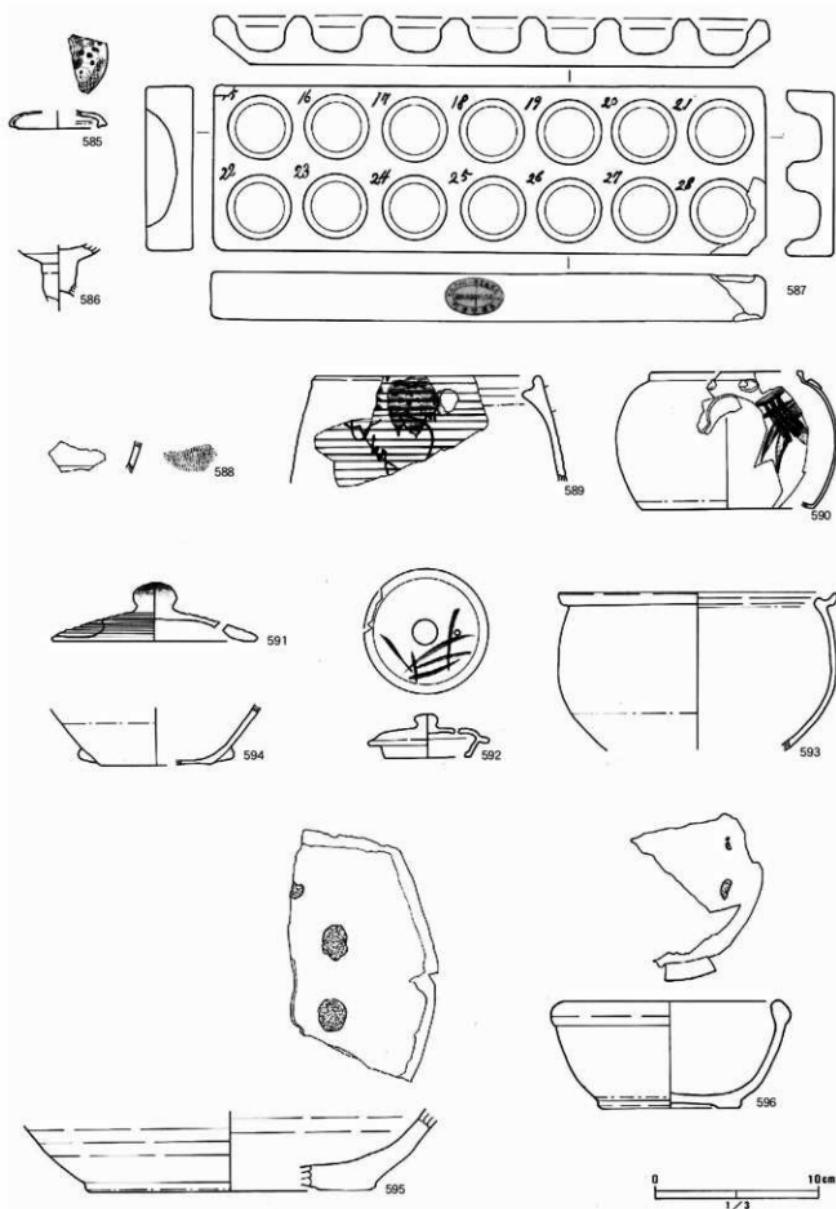
第107図 I区遺構出土遺物(31)



第108図 I区遺構出土遺物(32)



第109図 I区遺構出土遺物(33)



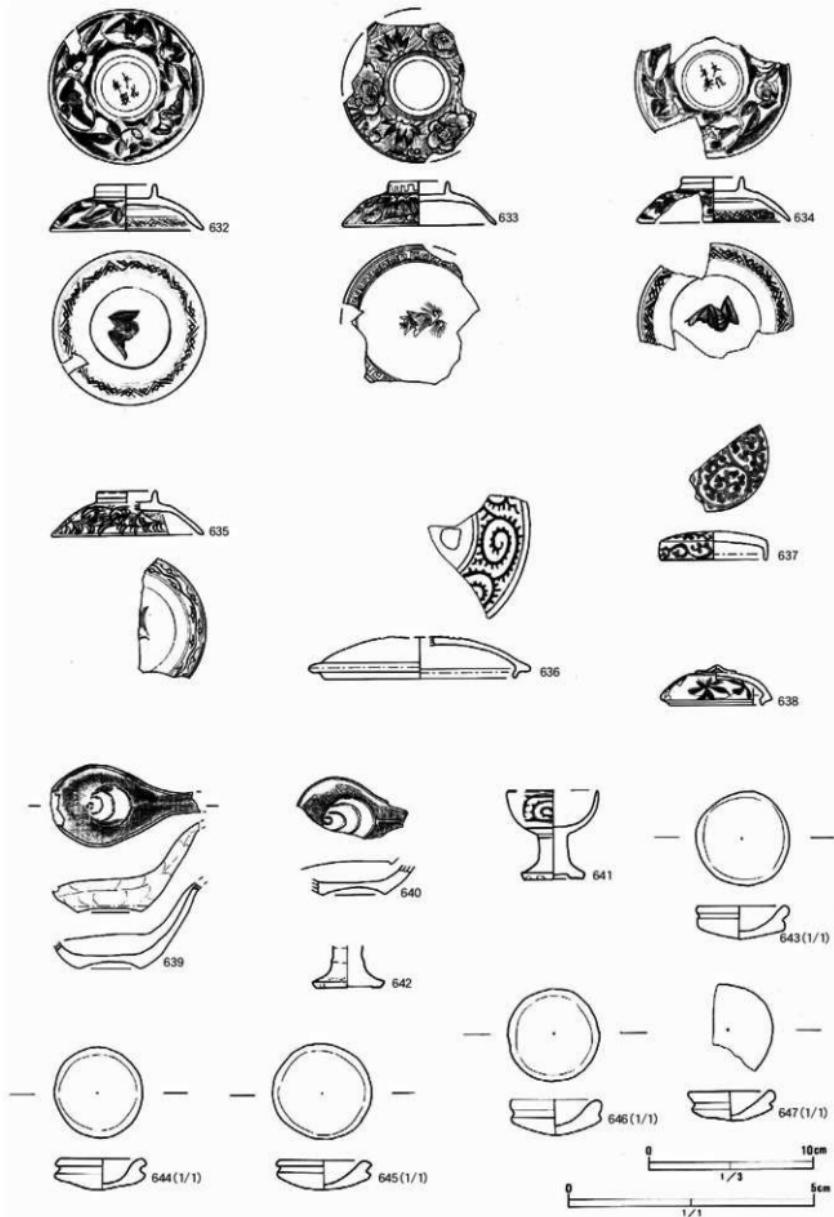
第110図 I区遺構出土遺物(34)



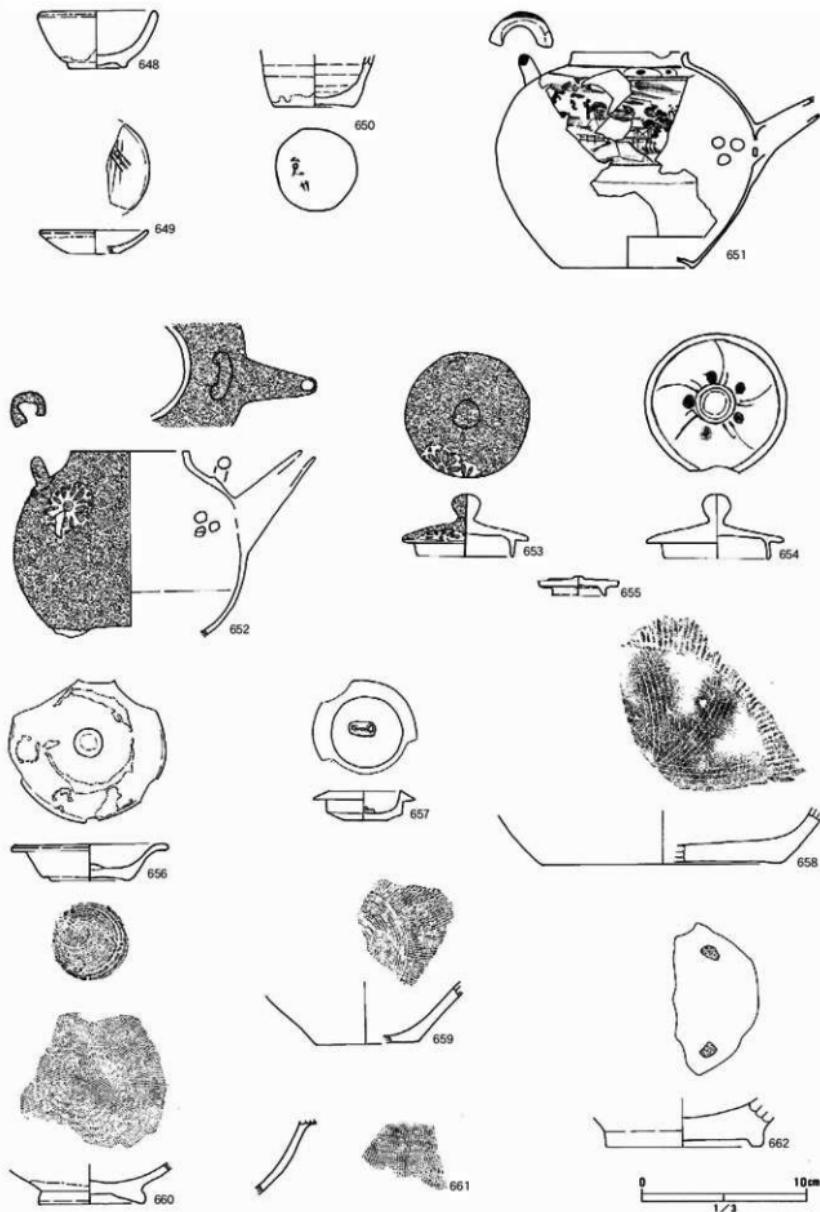
第111図 I区遺構出土遺物(35)



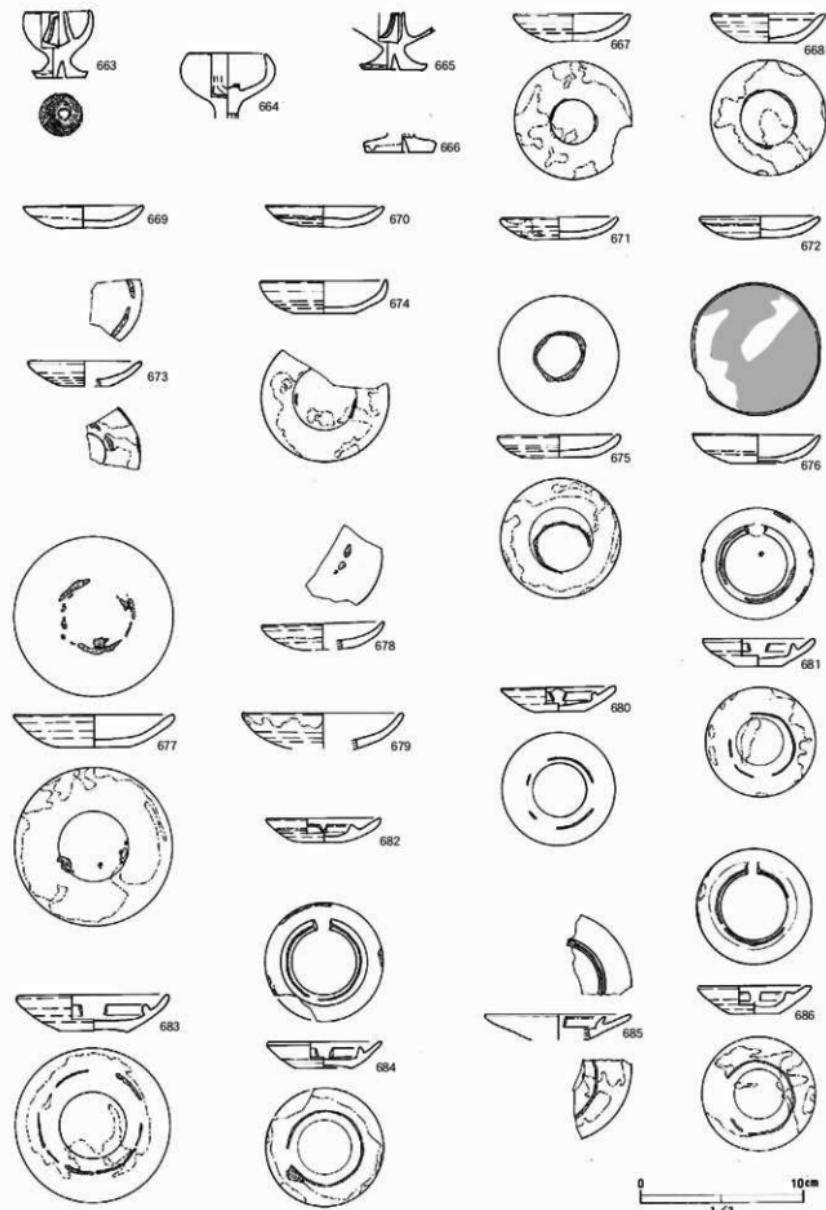
第112図 I区遺構出土遺物(36)



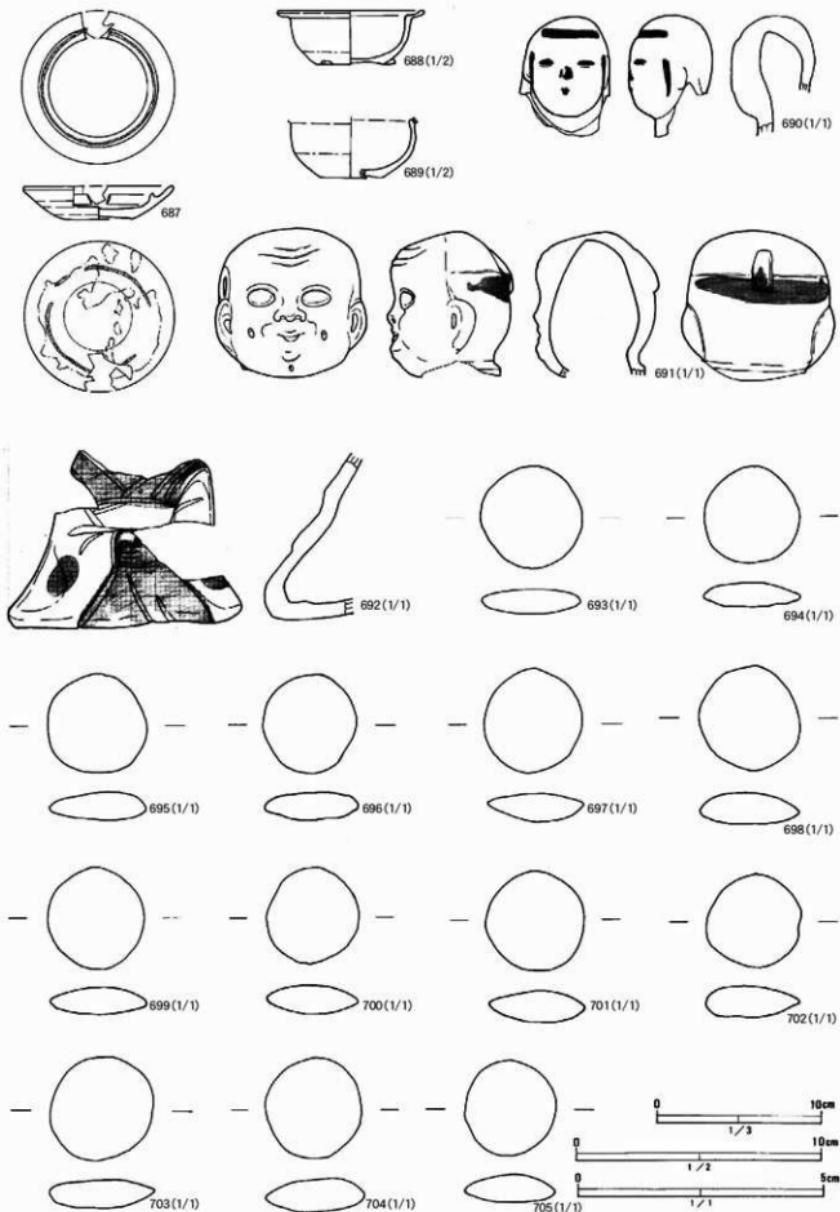
第113図 I区遺構出土遺物(37)



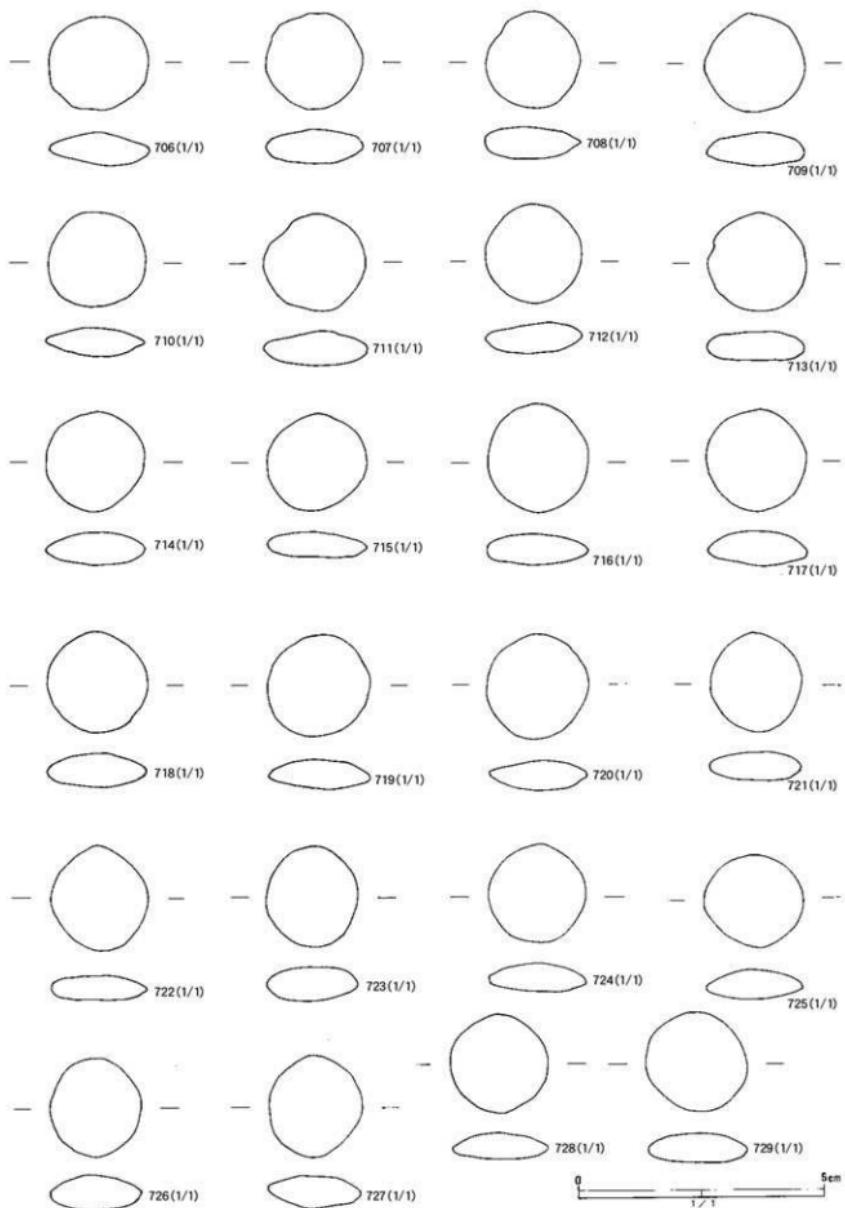
第114図 I区遺構出土遺物(38)



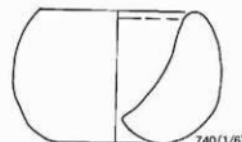
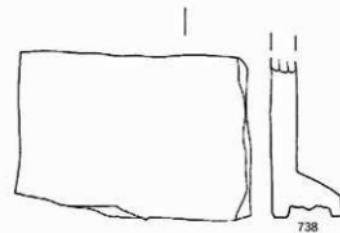
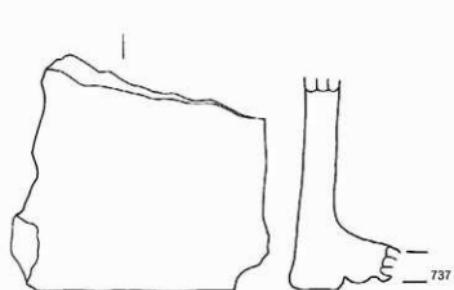
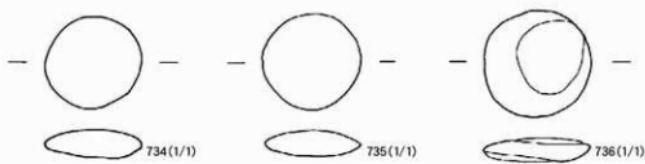
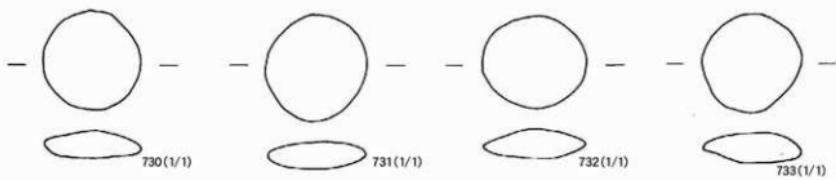
第115図 I区遺構出土遺物(39)



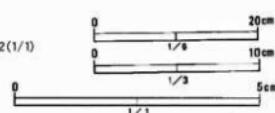
第116図 I区遺構出土遺物(40)



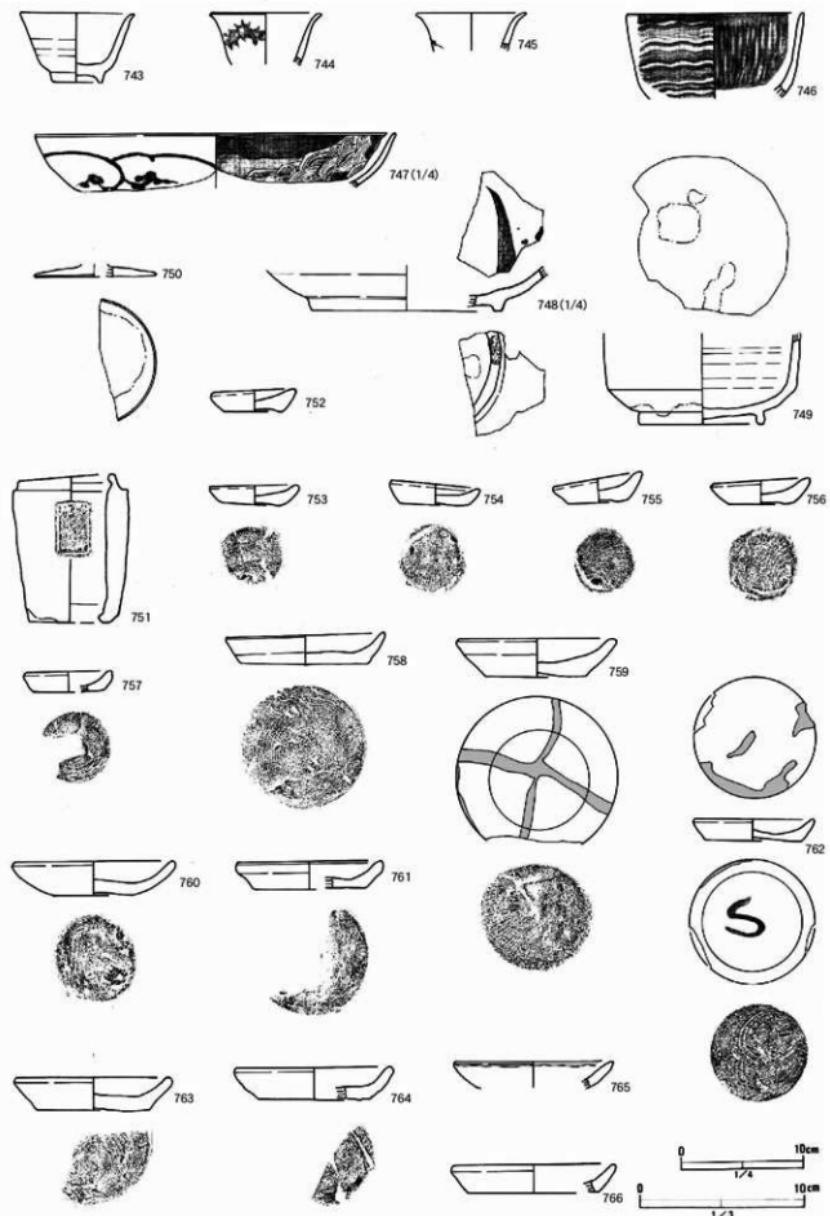
第117図 I区遺構出土遺物(41)



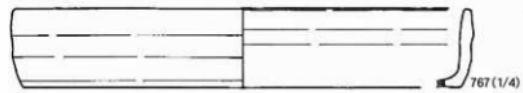
I区圆池遗構



第118図 I区遺構出土遺物(42)



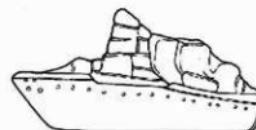
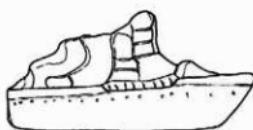
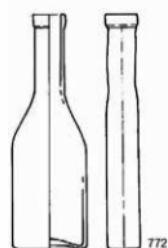
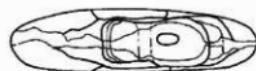
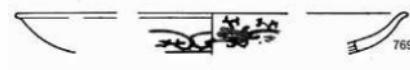
第119図 I区遺構出土遺物(43)



I区遺物集中区



I区A16グリット



771 (1/1)

770 (1/1)



I区A17グリット



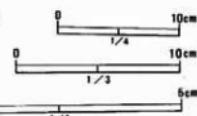
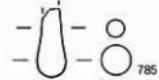
779



779

I区B17グリット

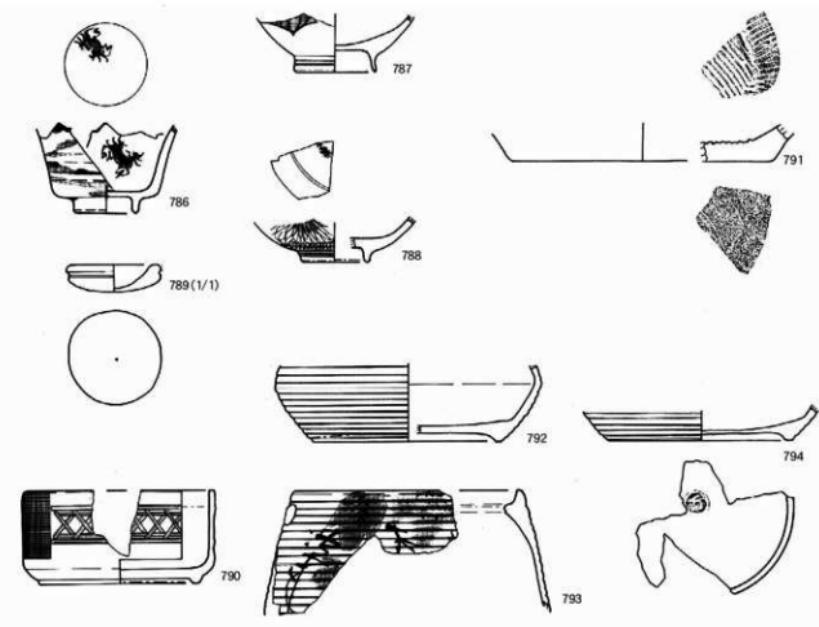
I区B18グリット



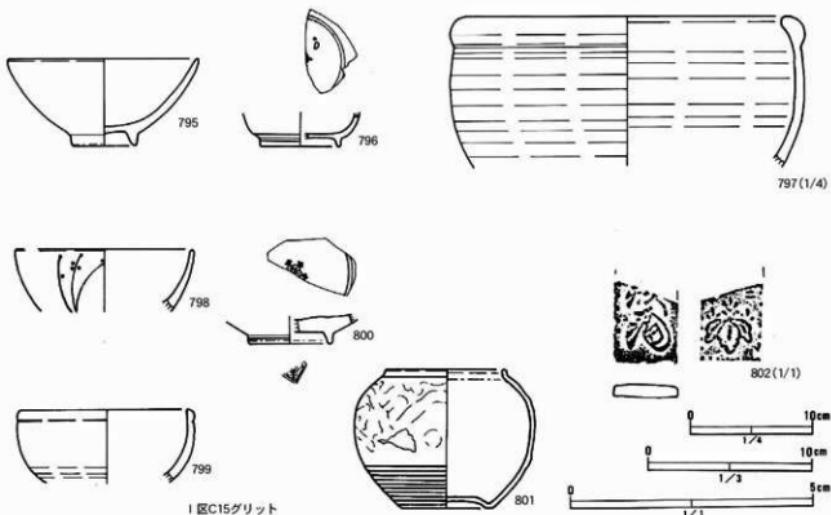
I区A-B15グリット

I区C13グリット

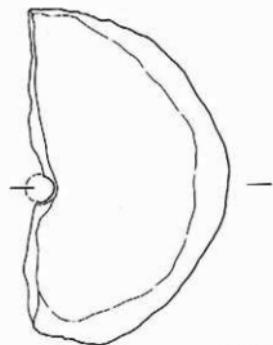
第120図 I区遺構出土遺物(44)・遺構外出土遺物(1)



I区C14グリット



第121図 I区遺構外出土遺物(2)



I区D14グリット



I区E18グリット

I区E13グリット

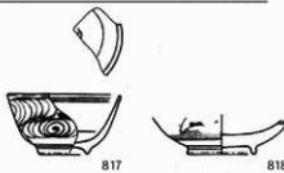
I区E14号グリット

I区E18グリット

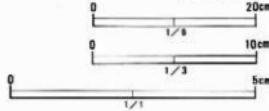


I区F14グリット

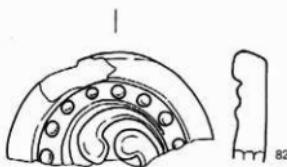
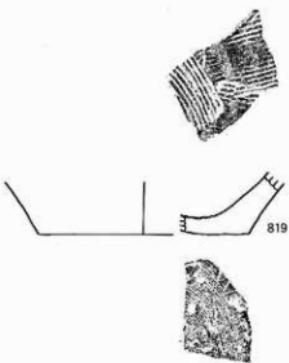
I区F15グリット



I区F16グリット

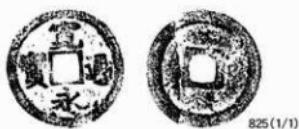


第122図 I区遺構外出土遺物(3)

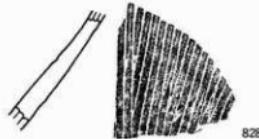


I区F16グリット

I区F17グリット

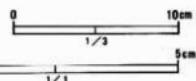


I区F18グリット

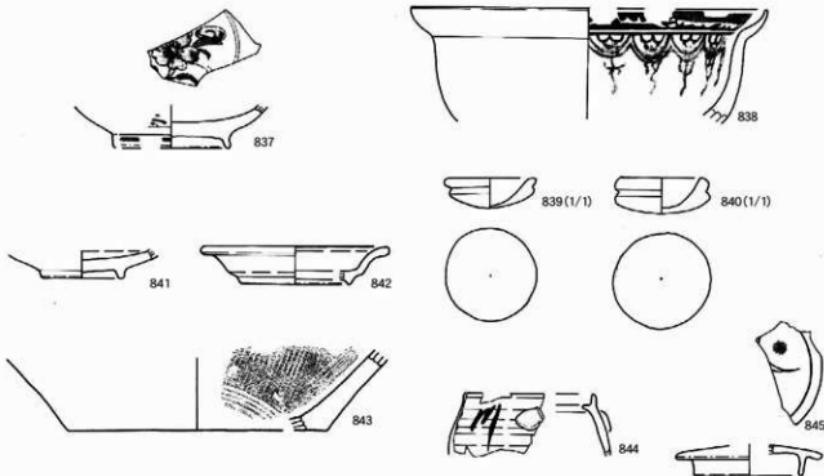


I区G6グリット

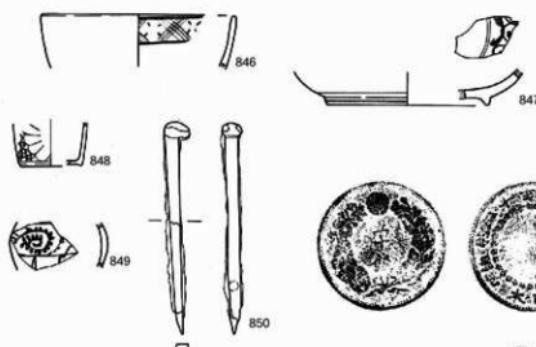
I区G2グリット



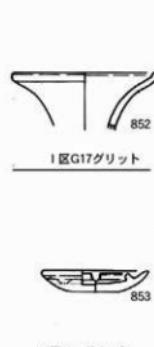
第123図 I区遺構外出土遺物(4)



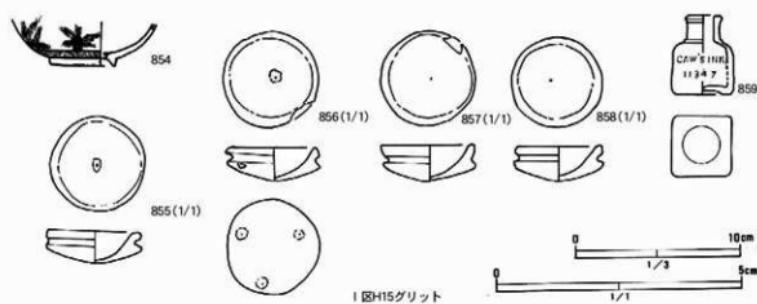
I区G15グリット



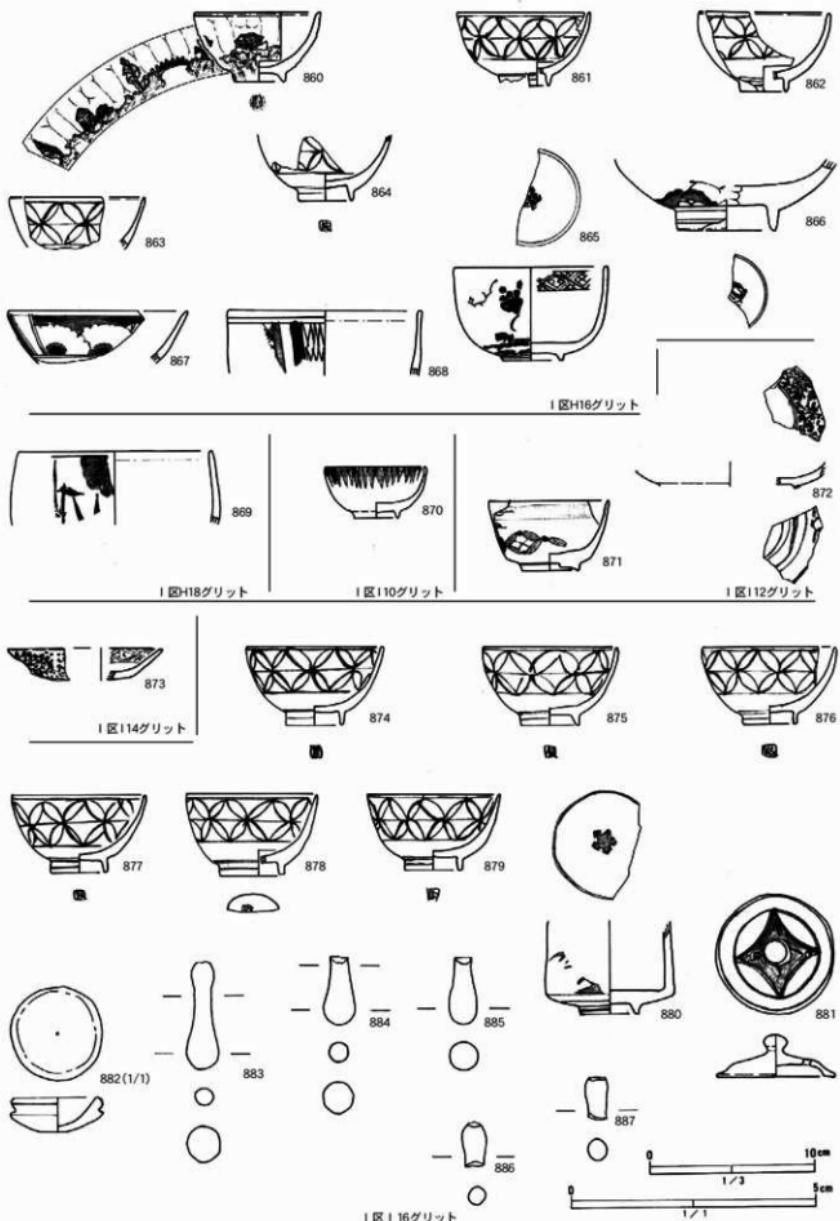
I区G16グリット



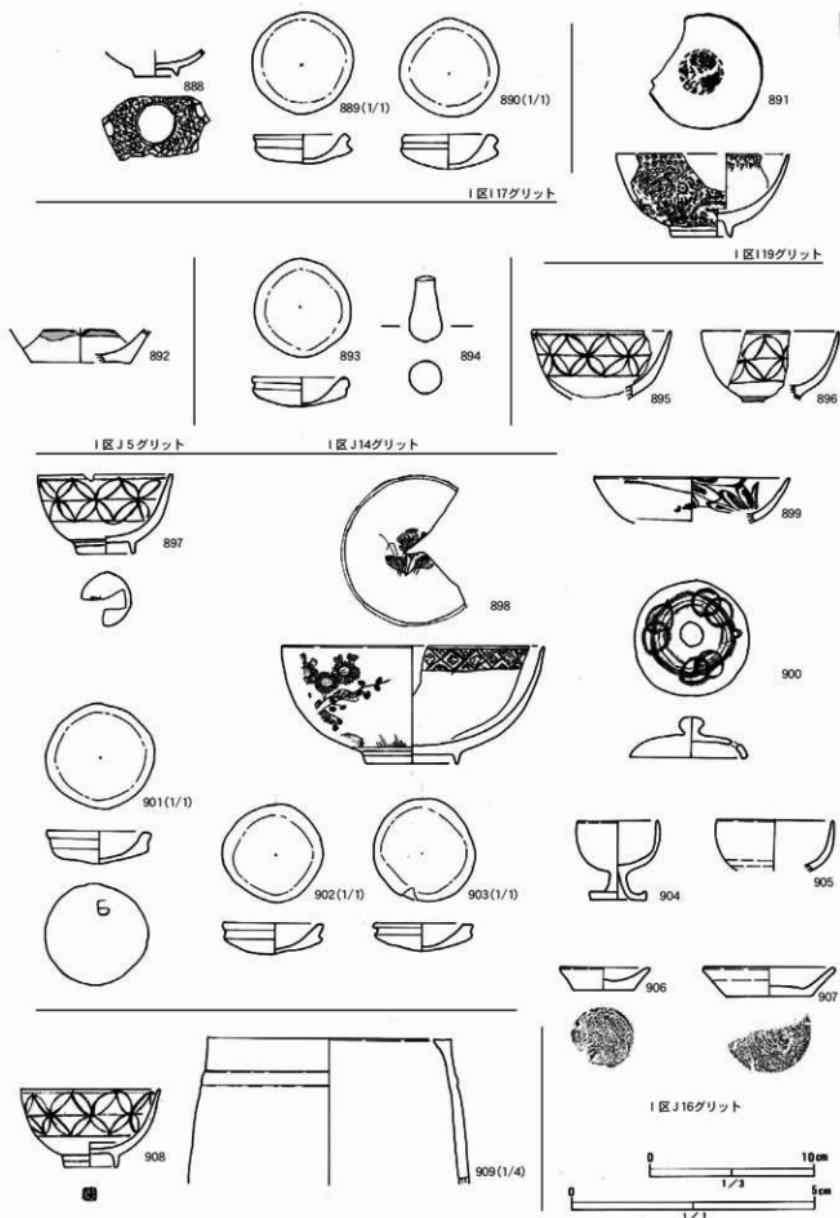
I区H14グリット



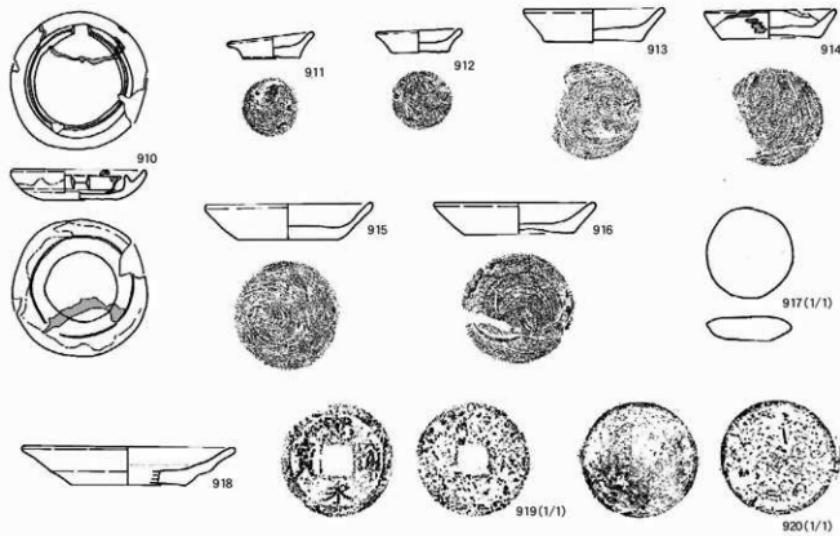
第124図 I区遺構外出土遺物(5)



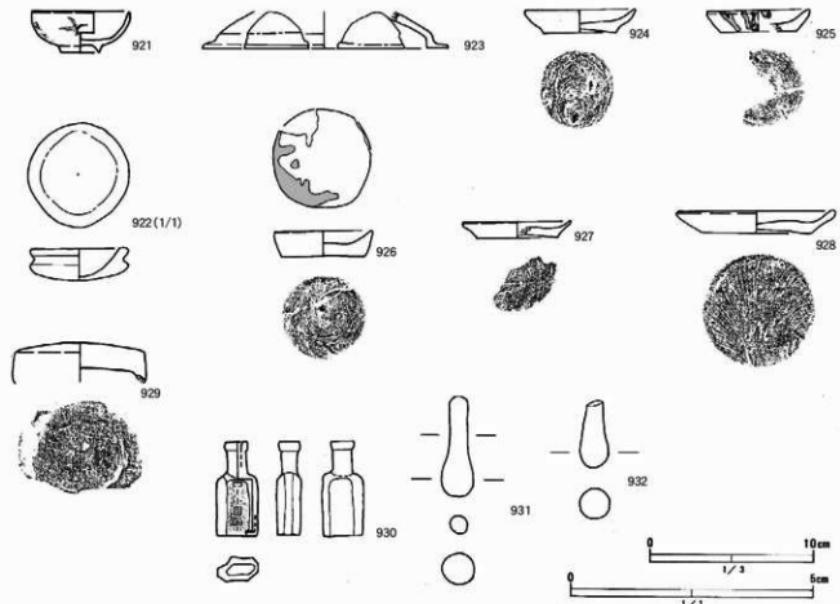
第125図 I区遺構外出土遺物(6)



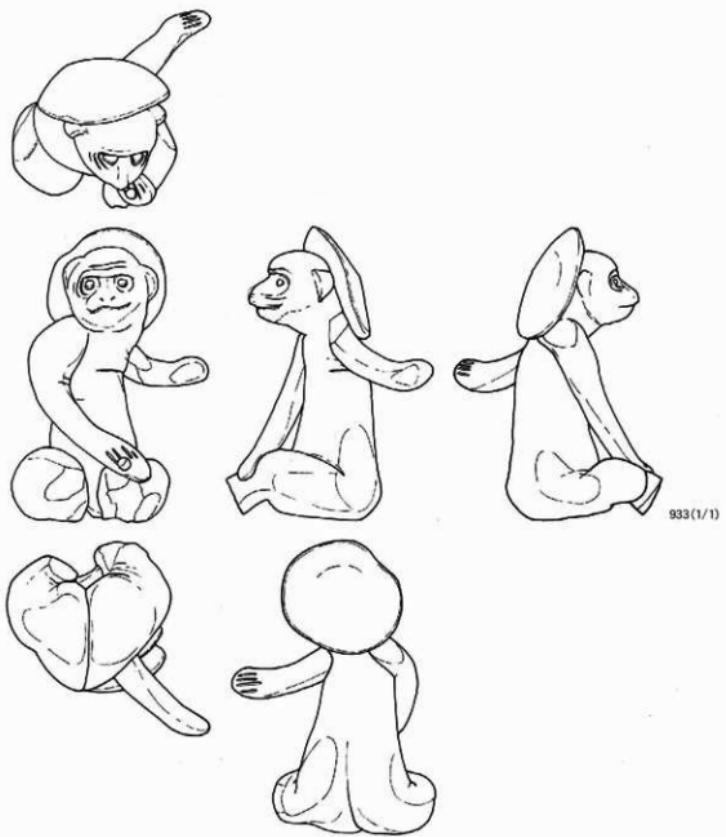
第126図 I区遺構外出土遺物(7)



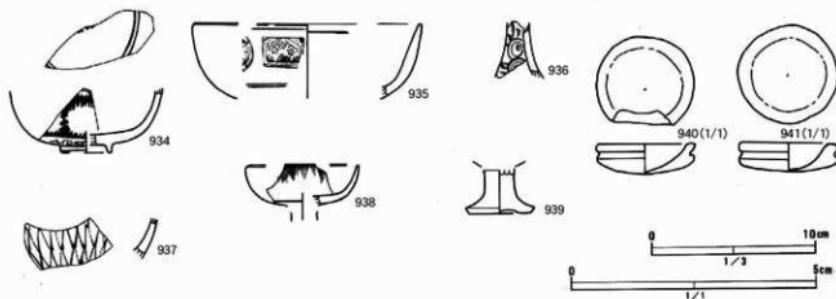
I区I・J16グリット



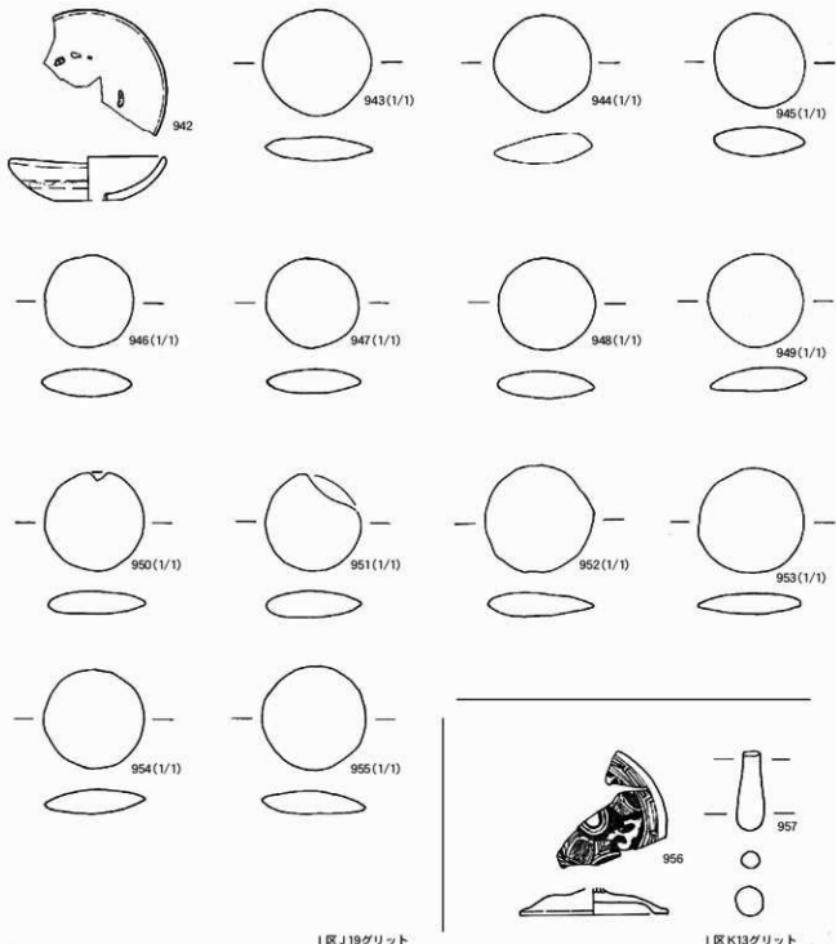
第127図 I区遺構外出土遺物(8)



I区J17グリット



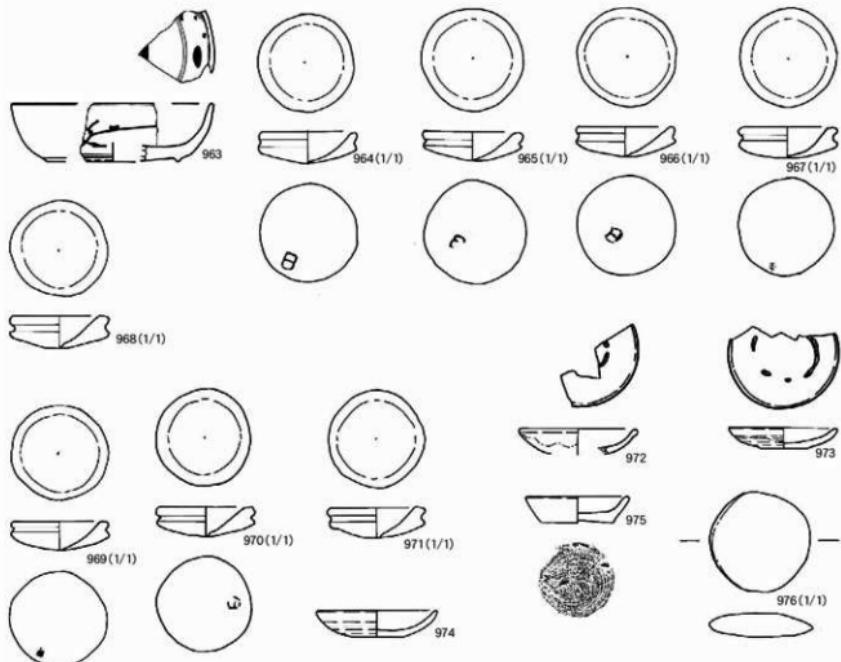
第128図 I区遺構外出土遺物(9)



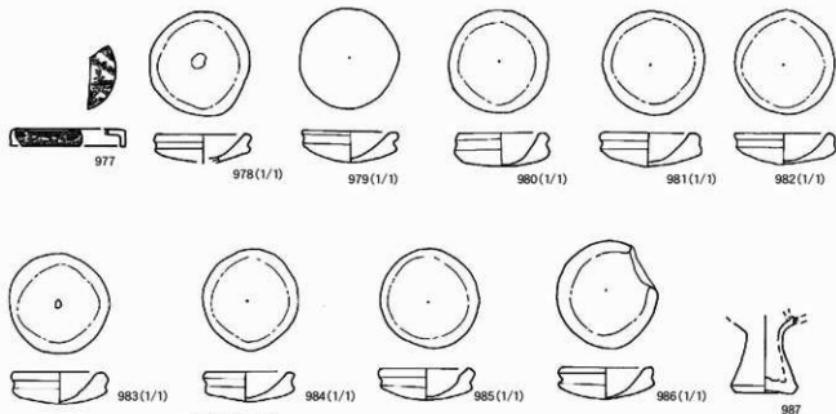
I区K17グリット

I区K18グリット

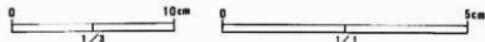
第129図 I区遺構外出土遺物(10)



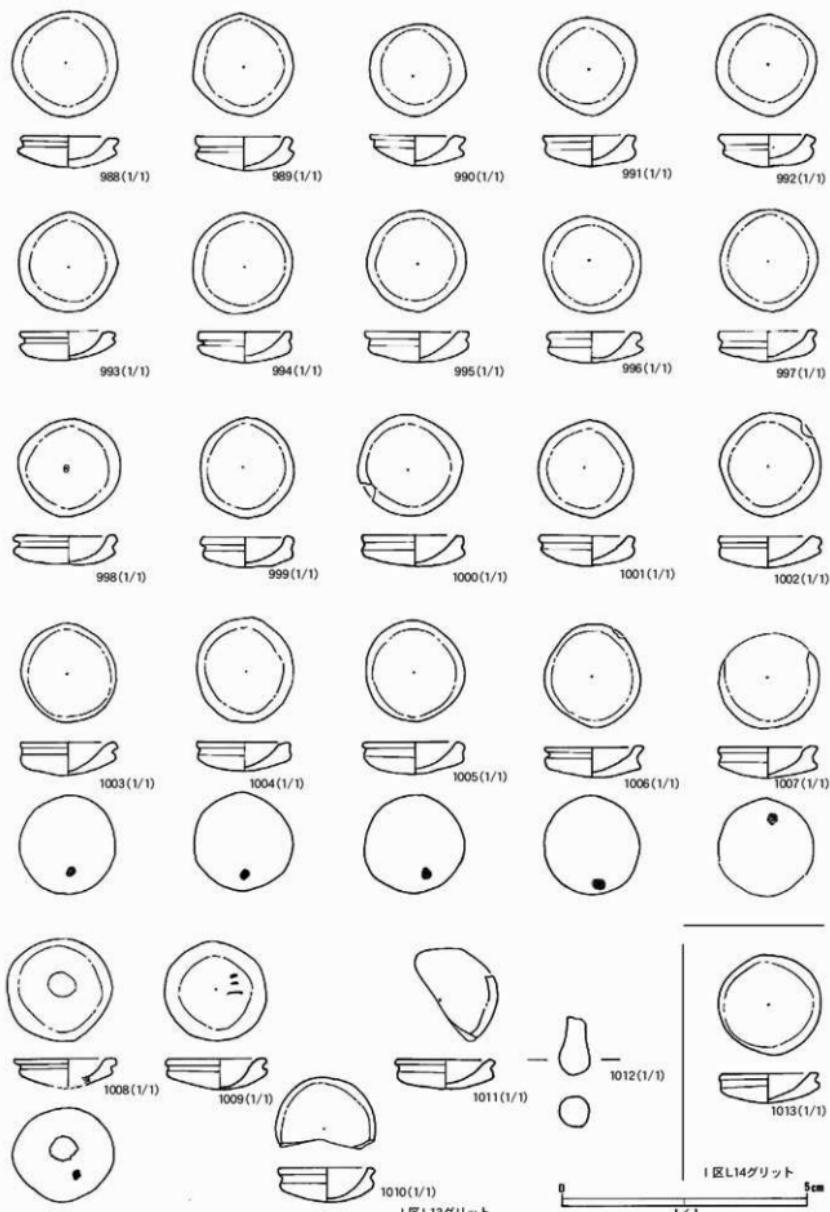
I区K19グリット



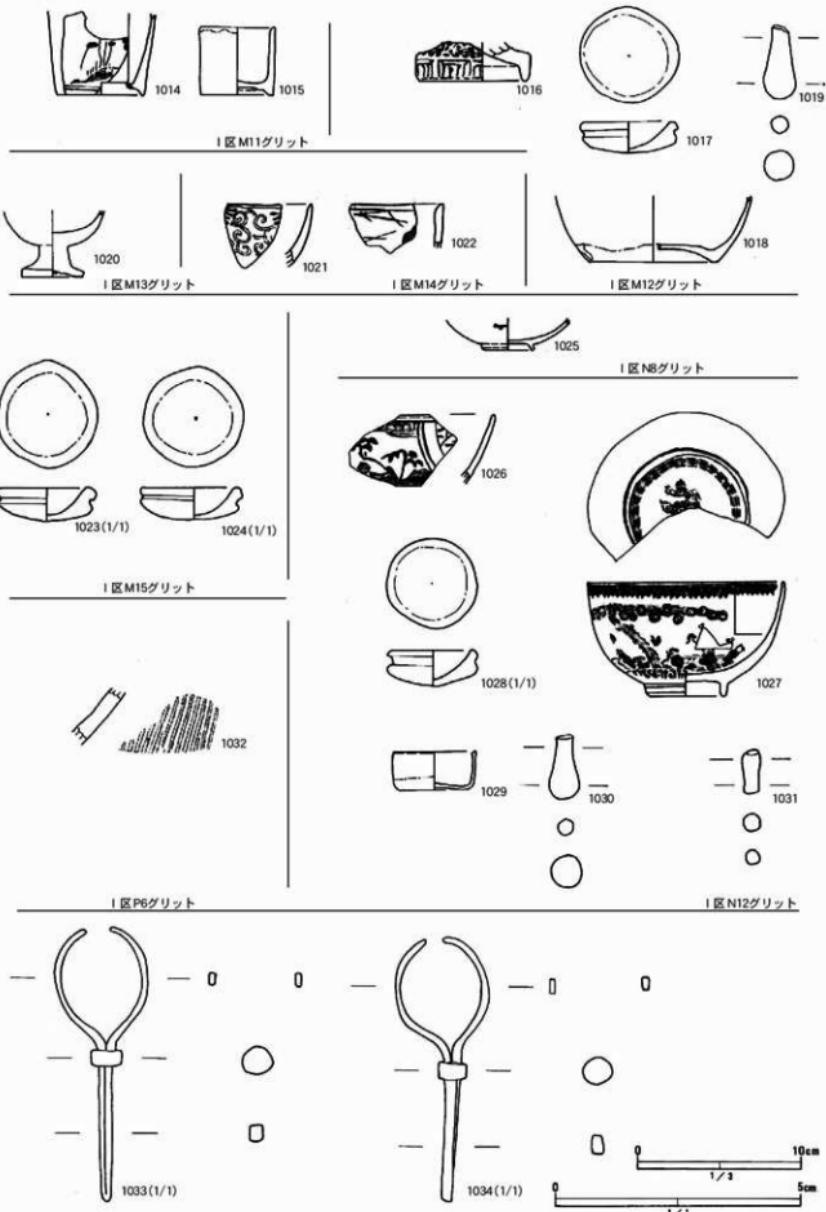
I区K20グリット



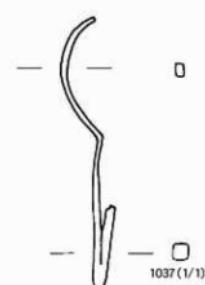
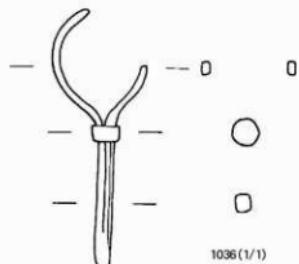
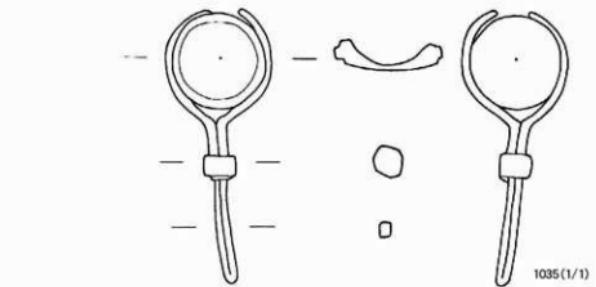
第130図 I区遺構外出土遺物(11)



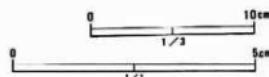
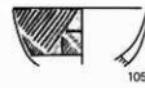
第131図 I区遺構外出土遺物(12)



第132図 1区遺構外出土遺物(13)



I 区 マス1



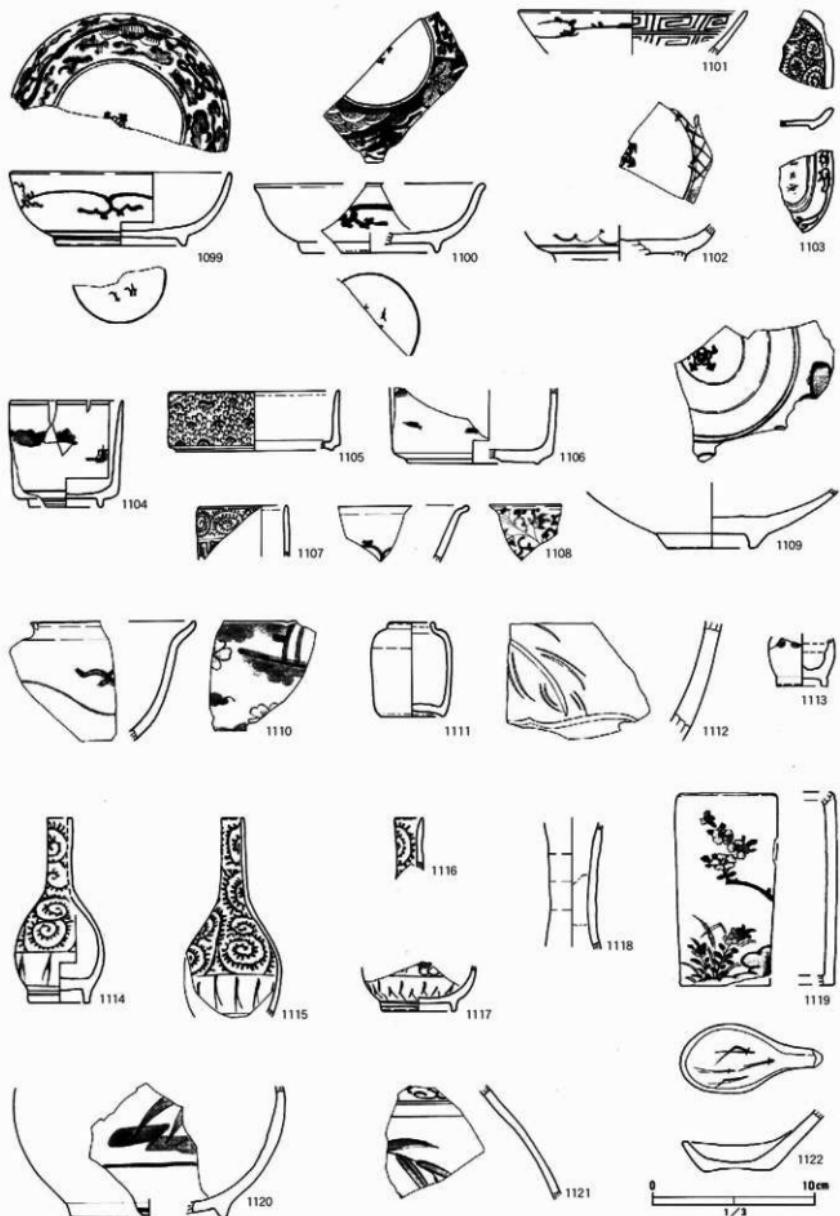
第133図 I 区遺構外出土遺物(14)



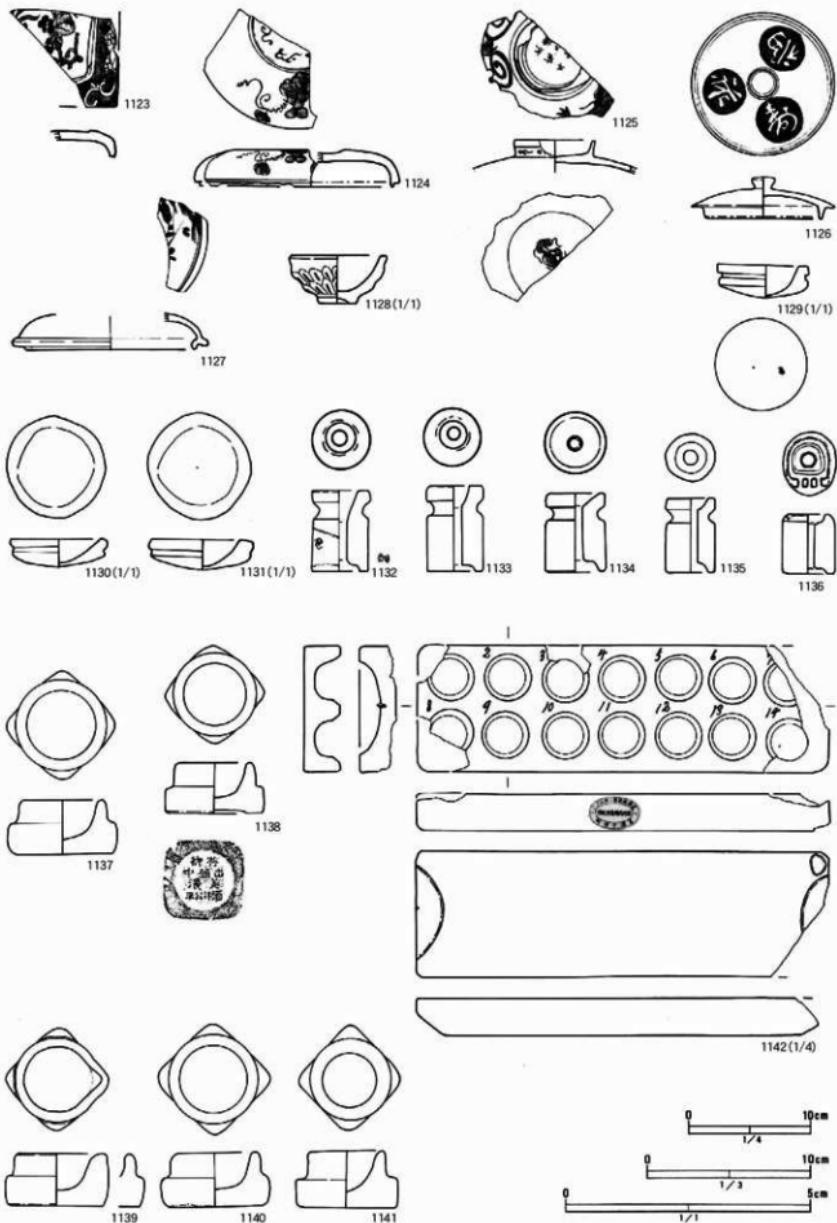
第134図 I区遺構外出土遺物(15)



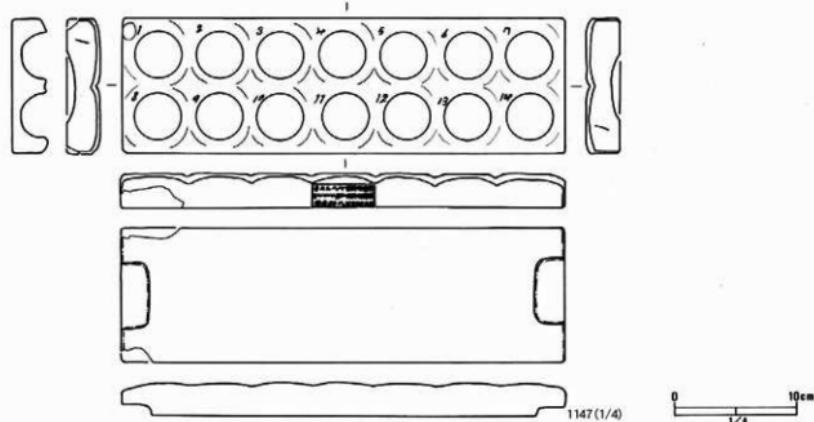
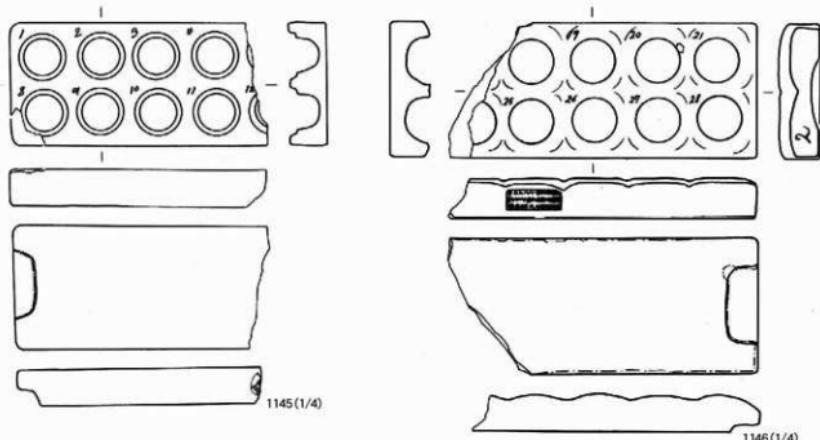
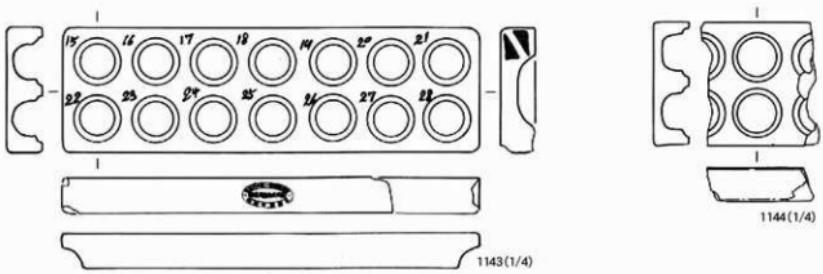
第135図 I区遺構外出土遺物(16)



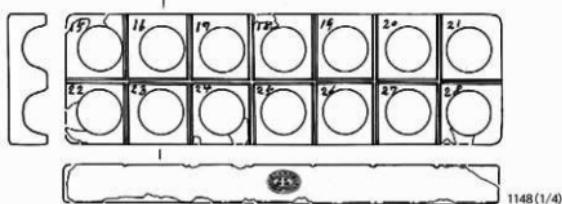
第136図 I区遺構外出土遺物(17)



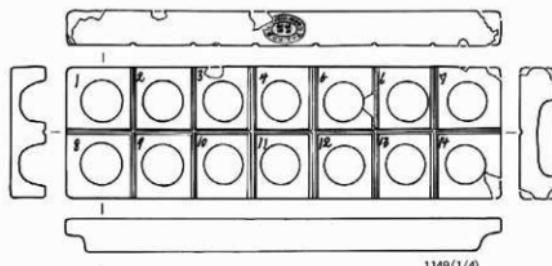
第137図 I区遺構外出土遺物(18)



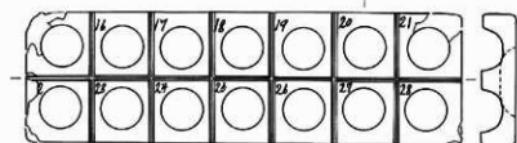
第138図 I区遺構外出土遺物(20)



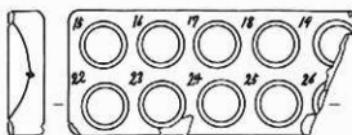
1148(1/4)



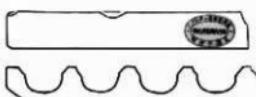
1149(1/4)



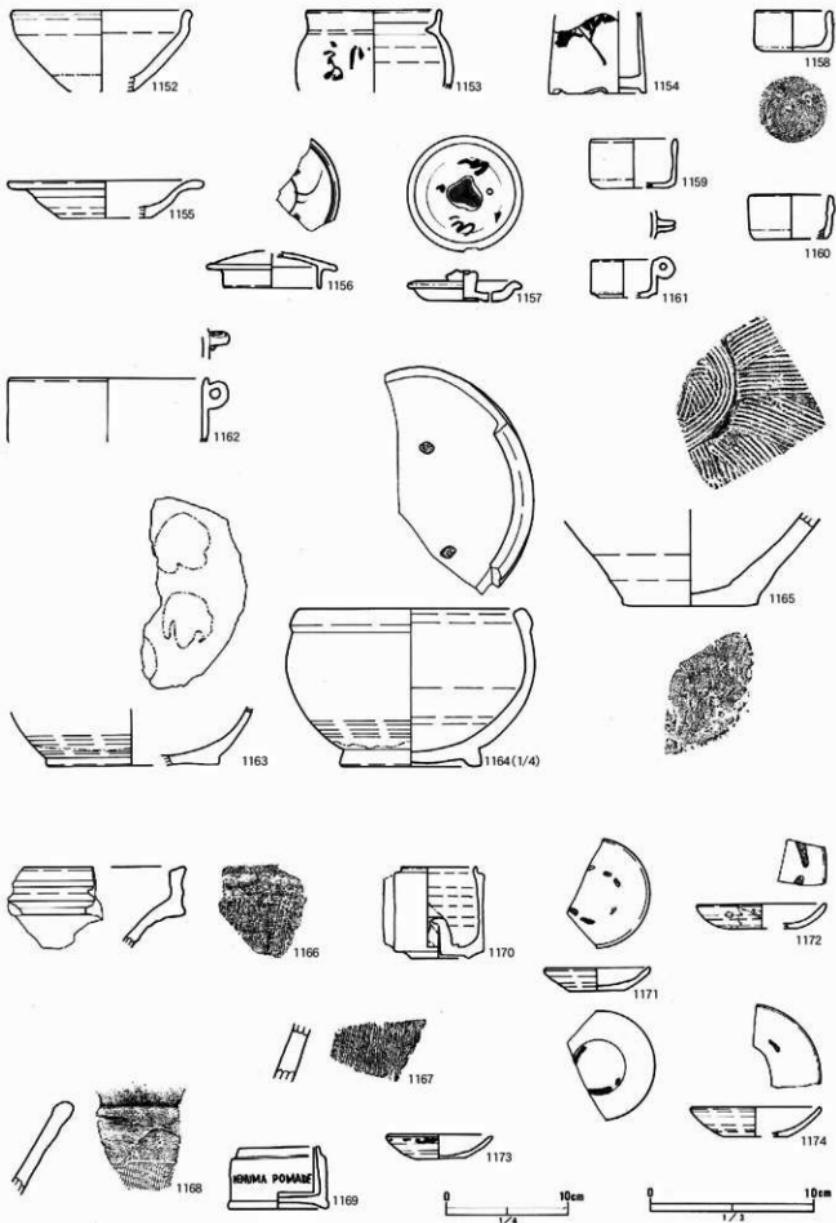
1150(1/4)



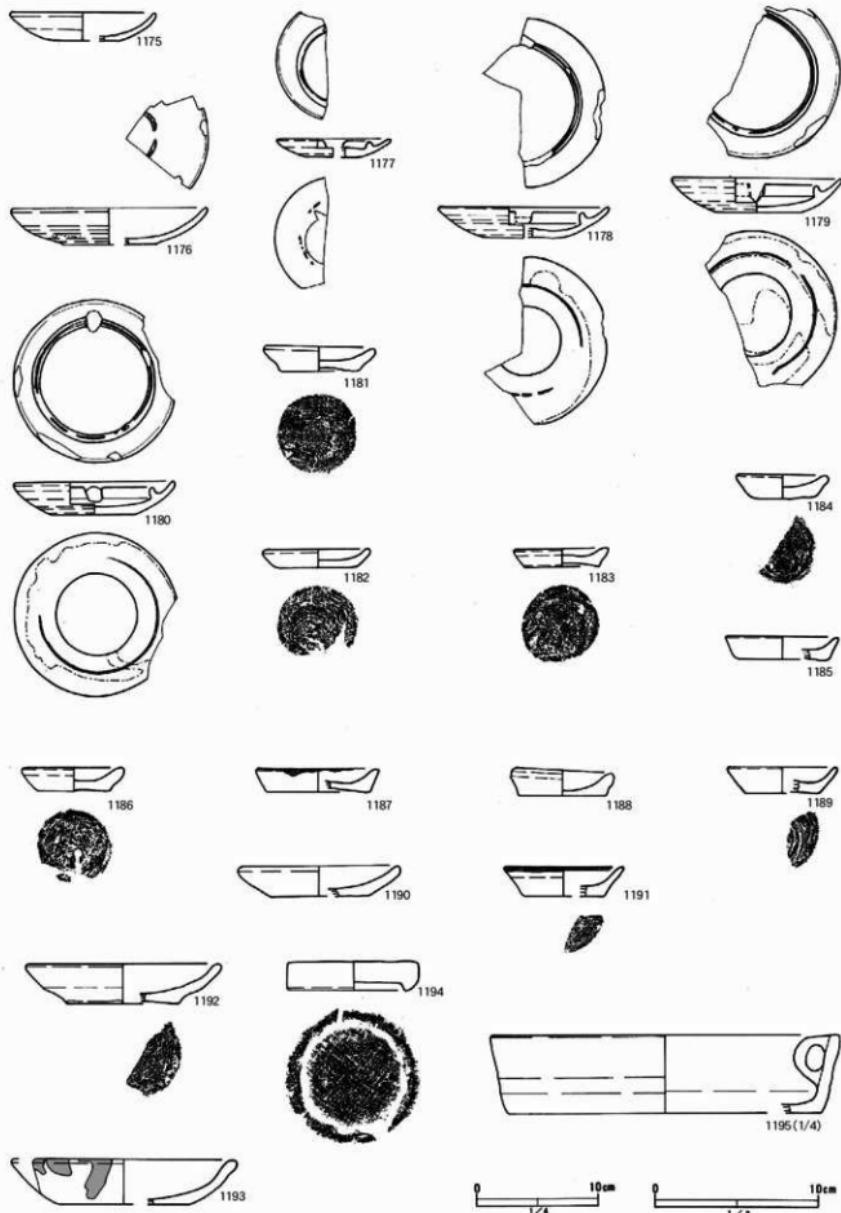
0
10cm
1/4



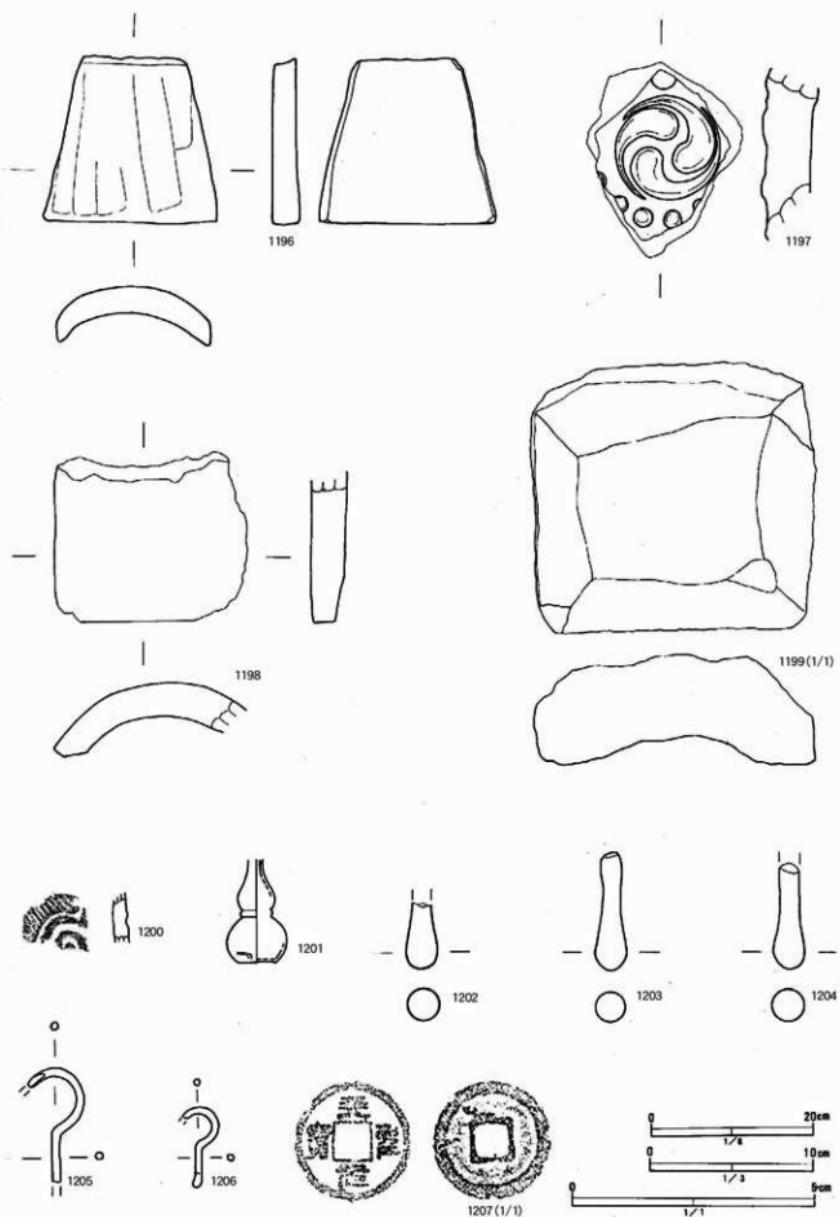
第139図 I区遺構外出土遺物(20)



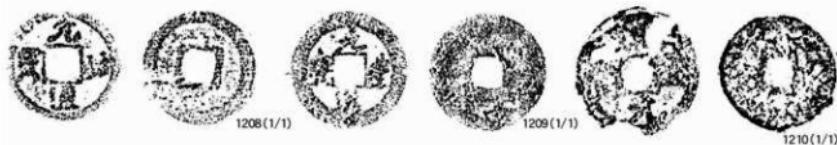
第140図 I区遺構外出土遺物(21)



第141図 I区遺構外出土遺物(22)



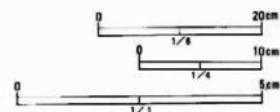
第142図 I区遺構外出土遺物(23)



1215(1/6)



I区表土



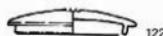
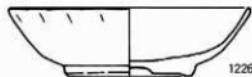
第143図 I区遺構外出土遺物(24)



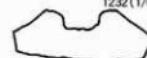
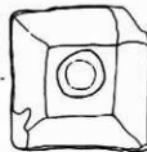
II区第1号満状遺構



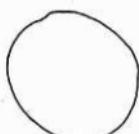
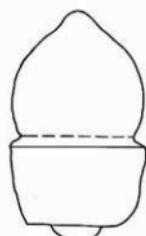
1224



II区第2号満状遺構

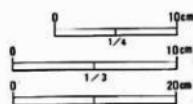
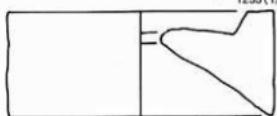


II区第10号満状遺構



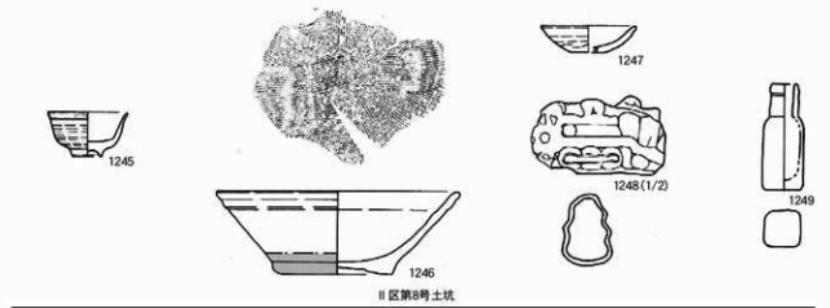
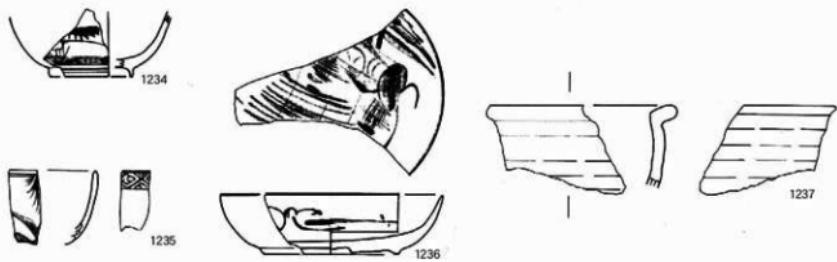
1231(1/4)

II区第4号満状遺構



II区第13号満状遺構

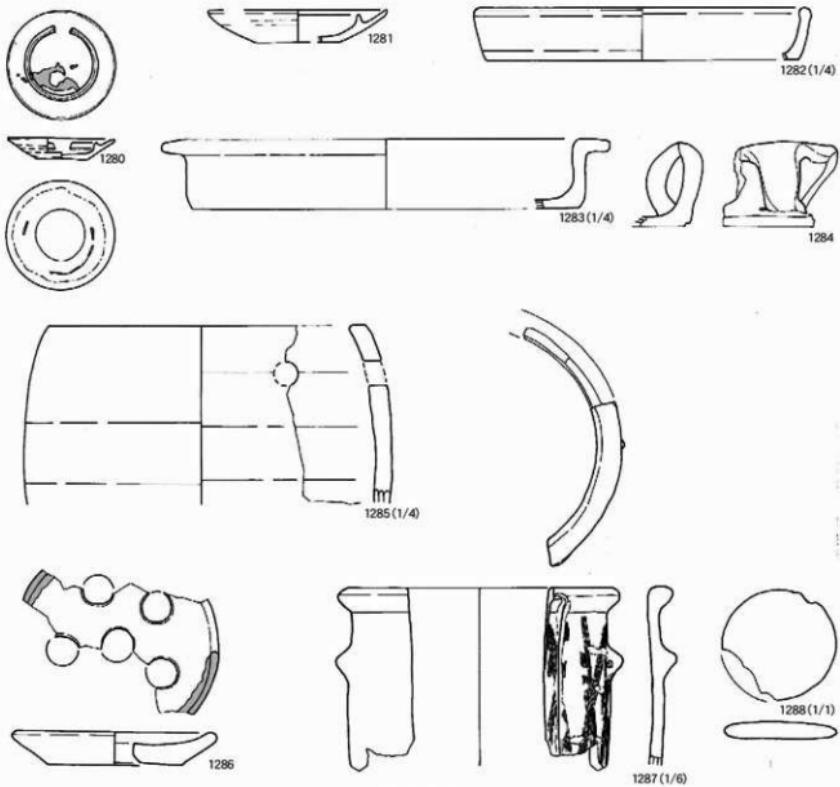
第144図 II区遺構出土遺物(1)



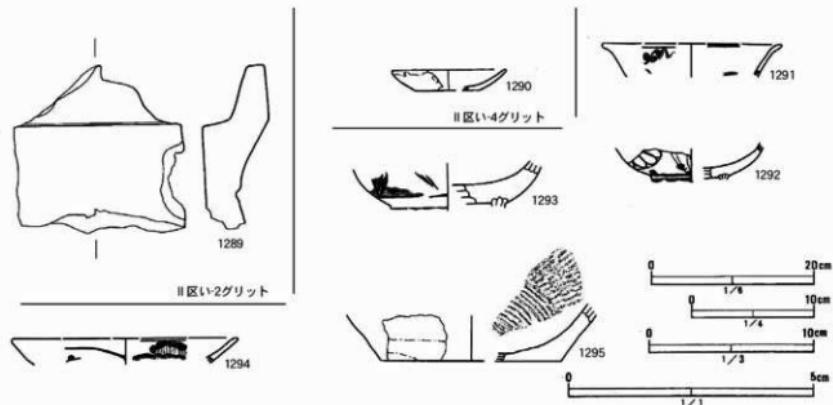
第145図 II区遺構外出土遺物(2)



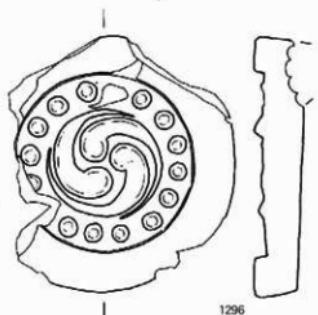
第146図 II区遺構外出土遺物(3)



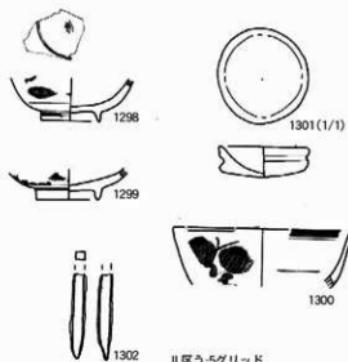
II 区 第1号井戸



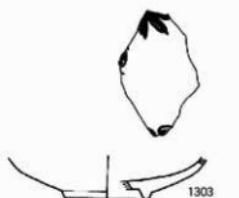
第147図 II区遺構出土遺物(4)・遺構外出土遺物(1)



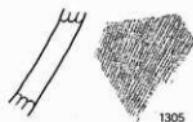
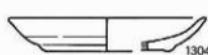
II区う-2グリッド
1296
1297



II区う-5グリッド
1298
1299
1301(1/1)
1302
1300



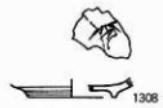
II区え-2グリッド
1303



1304
1305



1306(1/1)
1307(1/1)



II区え-3グリッド
1308



II区お-2グリッド
1309(1/1)



1310



1311



II区か-2グリッド
1312



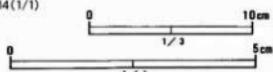
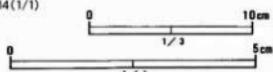
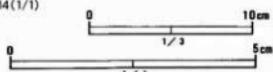
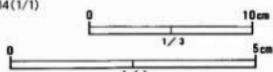
II区か-2グリッド
1313



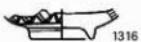
II区か-4グリッド
1314(1/1)



II区き-6グリッド
1315



第148図 II区遺構外出土遺物(2)



1316



1317



1318

II区く-6グリッド

II区け-5グリッド

II区け-6グリッド



1319



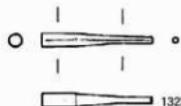
1320



1321(1/1)



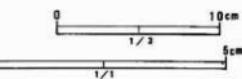
1322



II区 表 土



1324(1/1)



第149図 II区遺構外出土遺物(3)

No	出土遺物名	注記No	種別	器種等	形状等	法線(cm) (口部(直角) (底面(直角)) (側面(直角))	成形	施釉	他	指定登出	製作時期	備考
0001	1号窯 05GJ1ミソ		鉢器	小碗	丸形	A (9.0) B (9.0) C (2.1)	ろくろ	白色	—	周戸・美濃	近世	—
0002	1号窯 05GJ1ミソ		鉢器	小碗	丸形	(10.0)	—	ろくろ	—	周戸・美濃	近世	—
0003	1号窯 05GJ1ミソ P=12		鉢器	小皿	幅板	12.6	—	ろくろ	—	周戸・美濃	近世	—
0004	1号窯 05GJ1ミソ		鉢器	小碗	—	—	—	染付・透明釉	外:西方陶	—	周戸・美濃	近世
0005	1号窯 05GJ1ミソ		瓶	天目玉瓶	丸形	(11.0)	—	ろくろ	外:透明釉 内:一箇所圓錐	—	周戸・美濃	近世
0006	1号窯 05GJ1ミソ		瓶	中瓶	丸形	(11.0)	—	ろくろ	外:透明釉 内:二箇所圓錐	—	周戸・美濃	近世
0007	1号窯 05GJ1ミソ P=8		瓶	打明皿	丸形	(10.0)	(3.4)	ろくろ	外:透明釉 内:二箇所圓錐	—	周戸・美濃	近世
0008	1号窯 05GJ1ミソ		瓶	丸形	丸形	(9.0)	2.5	ろくろ	外:透明釉 内:二箇所圓錐	—	周戸・美濃	近世
0009	1号窯 05GJ1ミソ		瓶	丸形	丸形	(11.0)	—	ろくろ	外:透明釉 内:二箇所圓錐	—	周戸・美濃	近世
0010	1号窯 05GJ1ミソ		瓶	丸形	丸形	(11.0)	—	ろくろ	外:透明釉 内:二箇所圓錐	—	周戸・美濃	近世
0011	1号窯 05GJ1ミソ P=28		瓶	丸形	丸形	9.9	—	ろくろ	外:透明釉 内:二箇所圓錐	—	周戸・美濃	近世
0012	1号窯 05GJ1ミソ P=20		瓶	丸形	丸形	(10.8)	—	ろくろ	外:透明釉 内:二箇所圓錐	—	周戸・美濃	近世
0013	1号窯 05GJ1ミソ P=31		瓶	丸形	丸形	(10.0)	—	ろくろ	外:透明釉 内:二箇所圓錐	—	周戸・美濃	近世
0014	1号窯 05GJ1ミソ		瓶	丸形	丸形	(10.0)	—	ろくろ	外:透明釉 内:二箇所圓錐	—	周戸・美濃	近世
0015	1号窯 05GJ1ミソ		瓶	丸形	丸形	(10.0)	—	ろくろ	外:透明釉 内:二箇所圓錐	—	周戸・美濃	近世
0016	1号窯 05GJ1ミソ		瓶	丸形	丸形	(6.0)	—	ろくろ	外:透明釉 内:二箇所圓錐	—	周戸・美濃	近世
0017	1号窯 05GJ1ミソ P=16		瓶	丸形	丸形	(7.0)	—	ろくろ	外:透明釉 内:二箇所圓錐	—	周戸・美濃	近世
0018	1号窯 05GJ1ミソ P=16		瓶	丸形	丸形	(6.8)	—	ろくろ	外:透明釉 内:二箇所圓錐	—	周戸・美濃	近世
0019	1号窯 05GJ1ミソ P=1		瓶	丸形	丸形	(7.9)	—	ろくろ	外:透明釉 内:二箇所圓錐	—	周戸・美濃	近世
0020	1号窯 05GJ1ミソ P=31		瓶	丸形	丸形	(9.9)	—	ろくろ	外:透明釉 内:二箇所圓錐	—	周戸・美濃	近世
0021	1号窯 05GJ1ミソ		土器	かわらけ	丸形	(8.4)	—	ろくろ	外:透明釉 内:二箇所圓錐	—	周戸・美濃	近世
0022	1号窯 05GJ1ミソ		土器	かわらけ	丸形	(10.0)	—	ろくろ	外:透明釉 内:二箇所圓錐	—	周戸・美濃	近世
0023	1号窯 05GJ1ミソ P=4		土器	かわらけ	丸形	(10.4)	—	ろくろ	外:透明釉 内:二箇所圓錐	—	周戸・美濃	近世
0024	1号窯 05GJ1ミソ P=27		土器	かわらけ	丸形	(10.4)	—	ろくろ	外:透明釉 内:二箇所圓錐	—	周戸・美濃	近世
0025	1号窯 05GJ1ミソ P=1		土器	かわらけ	丸形	(11.0)	—	ろくろ	外:透明釉 内:二箇所圓錐	—	周戸・美濃	近世
0026	1号窯 05GJ1ミソ 1		土器	かわらけ	平形	(3.6)	—	ろくろ	外:透明釉 内:二箇所圓錐	—	周戸・美濃	近世
0027	1号窯 05GJ1ミソ 1		土器	かわらけ	丸形	(11.0)	—	ろくろ	外:透明釉 内:二箇所圓錐	—	周戸・美濃	近世
0028	1号窯 05GJ1ミソ		土器	かわらけ	丸形	(10.8)	—	ろくろ	外:透明釉 内:二箇所圓錐	—	周戸・美濃	近世
0029	1号窯 05GJ1ミソ		土器	かわらけ	丸形	(12.0)	—	ろくろ	外:透明釉 内:二箇所圓錐	—	周戸・美濃	近世
0030	1号窯 05GJ1ミソ P=25		土器	かわらけ	丸形	(11.6)	—	ろくろ	外:透明釉 内:二箇所圓錐	—	周戸・美濃	近世
0031	1号窯 05GJ1ミソ P=19		土器	かわらけ	丸形	(12.0)	—	ろくろ	外:透明釉 内:二箇所圓錐	—	周戸・美濃	近世
0032	1号窯 05GJ1ミソ P=2		土器	かわらけ	丸形	(10.6)	—	ろくろ	外:透明釉 内:二箇所圓錐	—	周戸・美濃	近世
0033	1号窯 05GJ1ミソ P=5		土器	かわらけ	丸形	(12.6)	—	ろくろ	外:透明釉 内:二箇所圓錐	—	周戸・美濃	近世
0034	1号窯 05GJ1ミソ		土器	かわらけ	丸形	(11.0)	—	ろくろ	外:透明釉 内:二箇所圓錐	—	周戸・美濃	近世
0035	1号窯 05GJ1ミソ P=2		土器	かわらけ	丸形	(11.0)	—	ろくろ	外:透明釉 内:二箇所圓錐	—	周戸・美濃	近世
0036	1号窯 05GJ1ミソ		土器	かわらけ	小形	(1.8)	—	ろくろ	外:透明釉 内:二箇所圓錐	—	周戸・美濃	近世
0037	1号窯 05GJ1ミソ		土器	石割品	扁瓶	2.7	—	出	—	—	周戸・美濃	近世
0038	1号窯 05GJ1ミソ		土器	石割品	扁瓶	2.8	0.8	ろくろ	外:透明釉 内:二箇所圓錐	—	周戸・美濃	近世
0039	1号窯 05GJ1ミソ P=43		土器	石割品	扁瓶	7.0	2.8	ろくろ	外:透明釉 内:二箇所圓錐	—	周戸・美濃	近世
0040	6号窯 05GJ6ミソ		土器	石割品	扁瓶	7.0	4.1	ろくろ	外:透明釉 内:二箇所圓錐	—	周戸・美濃	近世
0041	6号窯 05GJ6ミソ P=58		土器	石割品	扁瓶	(12.6)	—	ろくろ	外:透明釉 内:二箇所圓錐	—	周戸・美濃	近世
0042	6号窯 05GJ6ミソ P=61		土器	石割品	扁瓶	(10.0)	—	ろくろ	外:透明釉 内:二箇所圓錐	—	周戸・美濃	近世
0043	6号窯 05GJ6ミソ P=21		土器	石割品	扁瓶	(10.2)	4.0	ろくろ	外:透明釉 内:二箇所圓錐	—	周戸・美濃	近世
0044	6号窯 05GJ6ミソ P=9		土器	石割品	扁瓶	(9.8)	3.6	ろくろ	外:透明釉 内:二箇所圓錐	—	周戸・美濃	近世
0045	6号窯 05GJ6ミソ P=9		土器	石割品	扁瓶	(9.4)	4.0	ろくろ	外:透明釉 内:二箇所圓錐	—	周戸・美濃	近世

No.	出土遺物名	注記No	種別	器種等	形状等	法線(cm) (□) (A) (B) (C) (D) (口幅(深幅) (底幅(高さ)) (通幅))	成 形	繪 紹 他 絵付・施釉	繪 紹 他 絵付・施釉	繪定度地	製作時期	備考
0046	6号窯 05K6ミソソ P-68	鉢器	中輪	丸形	9.8 (9.0)	4.0 (4.4)	5.1 (4.4)	ろくろ 染付・透明釉	白	底・大明牛頭脚	近世	底・大明牛頭脚
0047	6号窯 05K6ミソソ P-53	鉢器	中輪	丸形	— (10.6)	— (—)	— (—)	ろくろ 染付・透明釉	白	—	近世	底・内・五井花文 周口・美濃
0048	6号窯 05K6ミソソ P-6	鉢器	中輪	丸形	— (10.6)	— (—)	— (—)	ろくろ 染付・透明釉	白	—	近世	外・丸に松竹・花葉文
0049	6号窯 05K6ミソソ P-7	鉢器	中輪	丸形	— (10.6)	— (—)	— (—)	ろくろ 染付・透明釉	白	底・大明牛頭脚	近世	外・山茶花文 周口・美濃
0050	6号窯 05K6ミソソ P-82	鉢器	中輪	丸形	— (—)	— (—)	— (—)	ろくろ 染付・透明釉	白	底・大明牛頭脚	近世	外・五台山文 周口・美濃
0051	6号窯 05K6ミソソ P-85	鉢器	小輪	丸形	— (—)	— (—)	— (—)	ろくろ 染付・透明釉	白	底・大明牛頭脚	近世	外・五台山文 周口・美濃
0052	6号窯 05K6ミソソ P-59	鉢器	小輪	菊形	9.4 (9.4)	5.0 (5.0)	2.7 (2.7)	ろくろ 染付・透明釉	白	底・大明牛頭脚	近世	外・五台山文 周口・美濃
0053	6号窯 05K6ミソソ P-22	鉢器	小輪	丸形	10.0 (10.6)	5.4 (5.0)	1.9 (2.5)	ろくろ 染付・透明釉	白	底・大明牛頭脚	近世	外・五台山文 周口・美濃
0054	6号窯 P-10 P-12	鉢器	小輪	丸形	10.0 (10.6)	6.0 (5.0)	1.9 (2.5)	ろくろ 染付・透明釉	白	底・大明牛頭脚	近世	外・五台山文 周口・美濃
0055	6号窯 05K6ミソソ P-75	鉢器	小輪	菊形	9.4 (9.4)	5.0 (5.0)	2.5 (2.5)	ろくろ 染付・透明釉	白	底・大明牛頭脚	近世	外・五台山文 周口・美濃
0056	6号窯 05K6ミソソ P-41	鉢器	皿	丸形 ラミック型	— (1.8)	— (—)	— (—)	ろくろ 染付・透明釉	白	底・大明牛頭脚	近世	外・五台山文 周口・美濃
0057	6号窯 05K6ミソソ P-74	鉢器	中輪	梅花	14.2 (11.8)	8.0 (7.4)	3.9 (3.4)	ろくろ 染付・透明釉	灰白	底・大明牛頭脚	近世	外・五台山文 周口・美濃
0058	6号窯 05K6ミソソ P-28	鉢器	中輪	丸形	9.5 (11.8)	3.4 (3.8)	4.5 (4.4)	ろくろ 染付・透明釉	灰白	底・大明牛頭脚	近世	外・五台山文 周口・美濃
0059	6号窯 05K6ミソソ P-113	鉢器	中輪	丸形	11.6 (11.8)	3.8 (3.8)	4.6 (4.6)	ろくろ 染付・透明釉	灰白	底・大明牛頭脚	近世	外・五台山文 周口・美濃
0060	6号窯 05K6ミソソ P-8	鉢器	中輪	丸形	11.6 (11.8)	3.8 (3.8)	4.6 (4.6)	ろくろ 染付・透明釉	灰白	底・大明牛頭脚	近世	外・五台山文 周口・美濃
0061	6号窯 05K6ミソソ P-118	鉢器	中輪	丸形	11.6 (11.8)	3.8 (3.8)	4.6 (4.6)	ろくろ 染付・透明釉	灰白	底・大明牛頭脚	近世	外・五台山文 周口・美濃
0062	6号窯 05K6ミソソ P-38	鉢器	中輪	丸形	11.6 (11.8)	3.8 (3.8)	4.6 (4.6)	ろくろ 染付・透明釉	灰白	底・大明牛頭脚	近世	外・五台山文 周口・美濃
0063	6号窯 05K6ミソソ P-46	鉢器	中輪	丸形	11.6 (11.8)	3.8 (3.8)	4.6 (4.6)	ろくろ 染付・透明釉	灰白	底・大明牛頭脚	近世	外・五台山文 周口・美濃
0064	6号窯 05K6ミソソ P-133	鉢器	中輪	丸形	— (—)	— (—)	— (—)	ろくろ 染付・透明釉	灰白	底・大明牛頭脚	近世	外・五台山文 周口・美濃
0065	6号窯 05K6ミソソ P-2	鉢器	中輪	丸形	— (—)	— (—)	— (—)	ろくろ 染付・透明釉	灰白	底・大明牛頭脚	近世	外・五台山文 周口・美濃
0066	6号窯 05K6ミソソ P-54	鉢器	中輪	丸形	— (—)	— (—)	— (—)	ろくろ 染付・透明釉	灰白	底・大明牛頭脚	近世	外・五台山文 周口・美濃
0067	6号窯 05K6ミソソ P-102	鉢器	中輪	杉形	— (—)	— (—)	— (—)	ろくろ 染付・透明釉	灰白	底・大明牛頭脚	近世	外・五台山文 周口・美濃
0068	6号窯 05K6ミソソ P-65	鉢器	中輪	楓葉	— (—)	— (—)	— (—)	ろくろ 染付・透明釉	灰白	底・大明牛頭脚	近世	外・五台山文 周口・美濃
0069	6号窯 05K6ミソソ P-99	鉢器	花形	花生	— (10.0)	— (7.8)	— (10.7)	ろくろ 染付・透明釉	灰白	底・大明牛頭脚	近世	外・五台山文 周口・美濃
0070	6号窯 05K6ミソソ P-101	土器	中輪	わらわらけ	小丸形 (6.4)	5.0 (5.0)	3.6 (3.0)	ろくろ 染付・透明釉	灰白	底・大明牛頭脚	近世	外・五台山文 周口・美濃
0071	6号窯 05K6ミソソ P-29	土器	中輪	わらわらけ	小丸形 (6.4)	5.0 (5.0)	3.6 (3.0)	ろくろ 染付・透明釉	灰白	底・大明牛頭脚	近世	外・五台山文 周口・美濃
0072	6号窯 05K6ミソソ P-37	土器	中輪	わらわらけ	小丸形 (6.4)	5.0 (5.0)	3.6 (3.0)	ろくろ 染付・透明釉	灰白	底・大明牛頭脚	近世	外・五台山文 周口・美濃
0073	6号窯 05K6ミソソ P-77	土器	中輪	わらわらけ	小丸形 (6.4)	5.0 (5.0)	3.6 (3.0)	ろくろ 染付・透明釉	灰白	底・大明牛頭脚	近世	外・五台山文 周口・美濃
0074	6号窯 05K6ミソソ P-83	土器	中輪	わらわらけ	小丸形 (6.4)	5.0 (5.0)	3.6 (3.0)	ろくろ 染付・透明釉	灰白	底・大明牛頭脚	近世	外・五台山文 周口・美濃
0075	6号窯 05K6ミソソ P-94	土器	中輪	わらわらけ	小丸形 (6.4)	5.0 (5.0)	3.6 (3.0)	ろくろ 染付・透明釉	灰白	底・大明牛頭脚	近世	外・五台山文 周口・美濃
0076	6号窯 05K6ミソソ P-96	土器	中輪	わらわらけ	小丸形 (6.4)	5.0 (5.0)	3.6 (3.0)	ろくろ 染付・透明釉	灰白	底・大明牛頭脚	近世	外・五台山文 周口・美濃
0077	6号窯 05K6ミソソ P-112	土器	中輪	わらわらけ	小丸形 (6.4)	5.0 (5.0)	3.6 (3.0)	ろくろ 染付・透明釉	灰白	底・大明牛頭脚	近世	外・五台山文 周口・美濃
0078	6号窯 05K6ミソソ P-105	土器	中輪	わらわらけ	小丸形 (6.4)	5.0 (5.0)	3.6 (3.0)	ろくろ 染付・透明釉	灰白	底・大明牛頭脚	近世	外・五台山文 周口・美濃
0079	6号窯 05K6ミソソ P-92	土器	中輪	わらわらけ	小丸形 (6.4)	5.0 (5.0)	3.6 (3.0)	ろくろ 染付・透明釉	灰白	底・大明牛頭脚	近世	外・五台山文 周口・美濃
0080	6号窯 05K6ミソソ P-77	土器	中輪	わらわらけ	小丸形 (6.4)	5.0 (5.0)	3.6 (3.0)	ろくろ 染付・透明釉	灰白	底・大明牛頭脚	近世	外・五台山文 周口・美濃
0081	6号窯 05K6ミソソ P-131	土器	中輪	わらわらけ	小丸形 (6.4)	5.0 (5.0)	3.6 (3.0)	ろくろ 染付・透明釉	灰白	底・大明牛頭脚	近世	外・五台山文 周口・美濃
0082	6号窯 05K6ミソソ P-91	土器	中輪	わらわらけ	小丸形 (6.4)	5.0 (5.0)	3.6 (3.0)	ろくろ 染付・透明釉	灰白	底・大明牛頭脚	近世	外・五台山文 周口・美濃
0083	6号窯 05K6ミソソ P-73	土器	中輪	わらわらけ	小丸形 (6.4)	5.0 (5.0)	3.6 (3.0)	ろくろ 染付・透明釉	灰白	底・大明牛頭脚	近世	外・五台山文 周口・美濃
0084	6号窯 05K6ミソソ P-105	土器	中輪	わらわらけ	小丸形 (6.4)	5.0 (5.0)	3.6 (3.0)	ろくろ 染付・透明釉	灰白	底・大明牛頭脚	近世	外・五台山文 周口・美濃
0085	6号窯 05K6ミソソ P-97	土器	中輪	わらわらけ	小丸形 (6.4)	5.0 (5.0)	3.6 (3.0)	ろくろ 染付・透明釉	灰白	底・大明牛頭脚	近世	外・五台山文 周口・美濃
0086	6号窯 05K6ミソソ P-76	土器	中輪	わらわらけ	小丸形 (6.4)	5.0 (5.0)	3.6 (3.0)	ろくろ 染付・透明釉	灰白	底・大明牛頭脚	近世	外・五台山文 周口・美濃
0087	6号窯 05K6ミソソ P-36	土器	中輪	わらわらけ	小丸形 (6.4)	5.0 (5.0)	3.6 (3.0)	ろくろ 染付・透明釉	灰白	底・大明牛頭脚	近世	外・五台山文 周口・美濃
0088	6号窯 05K6ミソソ P-23	土器	中輪	わらわらけ	小丸形 (6.4)	5.0 (5.0)	3.6 (3.0)	ろくろ 染付・透明釉	灰白	底・大明牛頭脚	近世	外・五台山文 周口・美濃

No.	出土遺物名	注記No.	種別	器種等	形状等	法線(cm) (□:断面) (△:底面) (○:側面)	成形	輪	縫跡	文様・模様	給付・施面	糊・他	検定度地	製作時期	備考
0088	6号 漆	05645ミゾ P-77	土器	かわらけ	丸形	9.2 (6.0)	2.1	ろくろ	—	漆茶糸緞	—	—	近世	底部切削	
0090	6号 漆	05645ミゾ P-62	土器	丸形	丸形	9.0 (6.0)	2.0	ろくろ	—	漆茶糸緞	—	—	近世	底部切削	
0091	6号 漆	05645ミゾ P-115	土器	丸形	丸形	9.8 (6.0)	2.0	ろくろ	—	漆茶糸緞	—	—	近世	底部切削	
0092	6号 漆	05645ミゾ P-103	土器	かわらけ	丸形	10.0 (6.0)	1.8	ろくろ	—	漆茶糸緞	—	—	近世	底部切削	
0093	6号 漆	05645ミゾ P-111	土器	丸形	丸形	9.6 (6.0)	1.8	ろくろ	—	漆茶糸緞	—	—	近世	底部切削	
0094	6号 漆	05645ミゾ P-104	土器	丸形	丸形	9.6 (6.0)	1.8	ろくろ	—	漆茶糸緞	—	—	近世	底部切削	
0095	6号 漆	05645ミゾ P-19	土器	かわらけ	丸形	9.6 (6.0)	2.0	ろくろ	—	漆茶糸緞	—	—	近世	底部切削	
0096	6号 漆	05645ミゾ P-124	土器	かわらけ	丸形	11.8 (6.0)	2.1	ろくろ	—	漆茶糸緞	—	—	近世	底部切削	
0097	6号 漆	05645ミゾ P-135	土器	沿焼	平底形	30.6 (28.4)	2.75	ろくろ	—	漆茶糸緞	—	—	近世	底部切削	
0098	6号 漆	05645ミゾ P-49	土器	沿焼	平底形	28.0 (30.6)	6.75	ろくろ	—	漆茶糸緞	—	—	近世	底部切削	
0099	6号 漆	05645ミゾ P-14	土器	沿焼	平底形	29.0 (30.6)	6.7	ろくろ	—	漆茶糸緞	—	—	近世	底部切削	
0100	6号 漆	05645ミゾ P-4 P-127 P-126	土器	沿焼	平底形	33.4 (30.0)	6.0	ろくろ	—	内耳	—	—	近世	底部切削	
0101	6号 漆	P-130 P-125 P-134	土器	沿焼	平底形	34.0 (30.0)	6.6	ろくろ	—	漆茶糸緞	—	—	近世	底部切削	
0102	6号 漆	05645ミゾ P-55	土器	沿焼	平底形	34.0 (30.0)	6.6	ろくろ	—	漆茶糸緞	—	—	近世	底部切削	
0103	6号 漆	05645ミゾ P-33	土器	風口	圓方体	長/200 幅/134 高/74 厚/20	給付	—	—	漆茶糸緞	—	—	近世	底部切削	
0104	10号 漆	05645ミゾ P-109	瓦	丸瓦	丸瓦	幅/132	—	—	—	漆茶糸緞	—	—	近世	底部切削	
0105	11号 漆	05645ミゾ P-13	陶器	仏瓶	丸形	(5.9)	—	ろくろ	—	染付・糸継・透明釉 外:青文	白色	—	近世	底部切削	
0106	11号 漆	05645ミゾ P-23	陶器	皿	丸形	—	—	ろくろ	—	染付・透明釉	白色	—	近世	底部切削	
0107	11号 漆	05645ミゾ P-16	陶器	神酒盃	ラッコヨウ型	—	—	ろくろ	—	染付・透明釉 外:割先くすし	白色	—	近世	底部切削	
0108	11号 漆	05645ミゾ P-24	陶器	神酒盃	ラッコヨウ型	—	—	ろくろ	—	染付・透明釉 外:割先くすし	白色	—	近世	底部切削	
0109	11号 漆	05645ミゾ P-10	陶器	神酒盃	ラッコヨウ型	—	—	ろくろ	—	染付・透明釉 外:割先くすし	白色	—	近世	底部切削	
0110	11号 漆	05645ミゾ P-8	陶器	神酒盃	ラッコヨウ型	—	—	ろくろ	—	染付・透明釉 外:割先くすし	白色	—	近世	底部切削	
0111	11号 漆	P-14 P-18~22	陶器	急須	丸形	(5.6)	8.6	ろくろ	—	内:繩紋 外:青楓(なまこ楓)	白色	—	近世	底部切削	
0112	11号 漆	P-25 P-29	陶器	土瓶	筒状	—	—	ろくろ	—	内:繩紋 外:模花文	灰色	—	近世	底部切削	
0113	11号 漆	P-27 P-30 P-31	陶器	水瓶	筒状	—	—	(16.0)	ろくろ	内:繩紋 外:模花文	灰色	—	近世	底部切削	
0114	12号 漆	05645ミゾ	容器	神酒盃	ラッコヨウ型	—	—	(5.8)	ろくろ	染付・透明釉 外:割先くすし	白色	—	近世?	底部切削	
0115	12号 漆	05645ミゾ	陶器	丸瓦	丸瓦	—	—	3.6	ろくろ	染付・透明釉	白色	—	近世	底部切削	
0116	12号 漆	05645ミゾ	容器	小瓶	壺	(8.2)	—	4.3	ろくろ	染付・透明釉 外:鳥	白色	—	近世	底部切削	
0117	13号 漆	05645ミゾ	容器	壺	壺	—	—	ろくろ	染付・透明釉 外:鳥	白色	—	近世	底部切削		
0118	13号 漆	05645ミゾ	容器	小瓶	壺	(8.4)	3.0	4.6	ろくろ	染付・透明釉 内:青楓(なまこ楓)	白色	—	近世	底部切削	
0119	13号 漆	05645ミゾ	容器	小瓶	壺	—	—	—	—	染付・透明釉 内:青楓(なまこ楓)	白色	—	近世	底部切削	

No	出土遺物名	注記No	種別	経緯等	形状等	法線(cm) (口直径)(底面周)(高さ)(厚さ)	A (口直径)	B (底面周)	C (高さ)	D (厚さ)	成 形	縦 機	横 機	縫合・輪廻	縫合・輪廻	施土 色調	施土 色調	操作時間	備考	
0120	13号 漆	056413ミゾ	漆器	中瓶	壺反	(105) (220)	5.5	5	5	5	ろくろ	塗村 透明地	外:黒繪文 内:黒繪文	白	白	—	漆戸・美濃	近世	施戸	
0121	13号 漆	056413ミゾ	漆器	大瓶	丸形	(148)	—	—	—	—	ろくろ	塗村 透明地	外:黒繪文 内:黒繪文	白	白	—	漆戸・美濃	近世	施戸	
0122	13号 漆	056413ミゾ	漆器	神酒匙	ラッキョウ型	—	—	—	—	—	ろくろ	塗村 透明地	外:黒繪文 内:黒繪文	白	白	—	漆戸・美濃	近世	施戸	
0123	13号 漆	056413ミゾ	漆器	大鉢	壺反	34.0	13.5	10.2	—	ろくろ	塗村 透明地	外:黒繪文 内:黒繪文	白	白	—	漆戸・美濃	近世	施戸		
0124	13号 漆	056413ミゾ	漆器	大鉢	丸形	(100)	2.0	(5.0)	—	ろくろ	塗村 透明地	外:黒繪文 内:黒繪文	白	白	—	漆戸・美濃	近世	施戸		
0125	16号 漆	056416土ミゾ	漆器	大鉢	明打皿	丸形	6.5	3.0	1.3	—	ろくろ	塗村 透明地	外:黒繪文 内:黒繪文	白	白	—	漆戸・美濃	18C~中葉	施戸	
0126	13号 漆	056413ミゾ	漆器	大鉢	明打皿	丸形	—	—	—	—	ろくろ	塗村 透明地	外:黒繪文 内:黒繪文	白	白	—	漆戸・美濃	近世	施戸	
0127	13号 漆	056413ミゾ	漆器	大鉢	明打皿	丸形	—	—	—	—	ろくろ	塗村 透明地	外:黒繪文 内:黒繪文	白	白	—	漆戸・美濃	近世	施戸	
0128	13号 漆	056413ミゾ	漆器	大鉢	寸胴毛	—	19.0	—	—	—	ろくろ	塗村 透明地	外:黒繪文 内:黒繪文	白	白	—	漆戸・美濃	19C	施戸	
0129	13号 漆	056413ミゾ	漆器	大鉢	方形	—	—	—	—	ろくろ	塗村 透明地	外:黒繪文 の外側	山水文	—	美濃	—	漆戸・美濃	19C	施戸	
0130	13号 漆	056413ミゾ	漆器	土器	かわらけ	丸形	(7.2)	5.0	1.5	—	ろくろ	塗村 透明地	外:黒繪文 の外側	山水文	—	美濃	—	漆戸・美濃	19C~中葉	施戸
0131	13号 漆	056413ミゾ	漆器	土器	丸形	丸瓦	—	—	—	—	—	—	内:二(ひき)	—	—	—	漆戸・美濃	近世	施戸	
0132	13号 漆	056413ミゾ	漆器	土器	丸瓦	丸瓦	—	—	—	—	—	—	内:二(ひき)	—	—	—	漆戸・美濃	近世	施戸	
0133	14号 漆	056414ミゾ	漆器	酒杯	丸形	5.7	2.3	2.6	—	ろくろ	塗村 透明地	外:黒繪文	白色	白色	—	角桝	—	漆戸・美濃	近世	施戸
0134	14号 漆	056414ミゾ	漆器	中瓶	丸形	(11.0)	—	—	—	—	ろくろ	塗村 透明地	外:黒繪文 七宝文	白色	白色	—	漆戸・美濃	19C~中葉	施戸	
0135	14号 漆	056414ミゾ	漆器	中瓶	半圓形	(11.0)	—	—	—	—	ろくろ	塗村 透明地	外:黒繪文 七宝文	白色	白色	—	漆戸・美濃	近世	施戸	
0136	14号 漆	056414ミゾ	漆器	中瓶	半圓形	—	—	—	—	—	ろくろ	塗村 透明地	外:黒繪文 七宝文	白色	白色	—	漆戸・美濃	近世	施戸	
0137	14号 漆	056414ミゾ	漆器	中瓶	小皿	—	—	—	—	—	ろくろ	塗村 透明地	外:黒繪文 七宝文	白色	白色	—	漆戸・美濃	近世	施戸	
0138	14号 漆	056414ミゾ	漆器	土器	土器	—	—	—	—	—	ろくろ	塗村 透明地	外:黒繪文 七宝文	白色	白色	—	漆戸・美濃	19C~中葉	施戸	
0139	14号 漆	056414ミゾ	漆器	土器	土器	—	—	—	—	—	ろくろ	塗村 透明地	外:黒繪文 七宝文	白色	白色	—	漆戸・美濃	近世	施戸	
0140	14号 漆	056414ミゾ	漆器	土器	土器	—	—	—	—	—	ろくろ	塗村 透明地	外:黒繪文 七宝文	白色	白色	—	漆戸・美濃	近世	施戸	
0141	14号 漆	056414ミゾ	漆器	土器	土器	—	—	—	—	—	ろくろ	塗村 透明地	外:黒繪文 七宝文	白色	白色	—	漆戸・美濃	近世	施戸	
0142	14号 漆	056414ミゾ	漆器	土器	土器	—	—	—	—	—	ろくろ	塗村 透明地	外:黒繪文 七宝文	白色	白色	—	漆戸・美濃	近世	施戸	
0143	14号 漆	056414ミゾ	漆器	土器	土器	—	—	—	—	—	ろくろ	塗村 透明地	外:黒繪文 七宝文	白色	白色	—	漆戸・美濃	近世	施戸	
0144	14号 漆	056414ミゾ	漆器	土器	土器	—	—	—	—	—	ろくろ	塗村 透明地	外:黒繪文 七宝文	白色	白色	—	漆戸・美濃	近世	施戸	
0145	14号 漆	056414ミゾ	漆器	土器	土器	—	—	—	—	—	ろくろ	塗村 透明地	外:黒繪文 七宝文	白色	白色	—	漆戸・美濃	近世	施戸	
0146	17号 漆	056417ミゾ P-1	漆器	神酒匙	ラッキョウ型	—	5.2	—	—	—	ろくろ	塗村 透明地	外:黒繪文	白色	白色	—	漆戸・美濃	19C~19C	施戸	
0147	17号 漆	056417ミゾ P-1	漆器	神酒匙	ラッキョウ型	—	—	—	—	—	ろくろ	塗村 透明地	外:黒繪文	白色	白色	—	漆戸・美濃	19C~19C	施戸	
0148	22号 漆	056422ミゾ	漆器	金糸製品	糸筒	—	2.4	0.7	0.1	—	—	—	—	—	—	漆戸・美濃	漆戸・元好室	—	—	
0149	22号 漆	056422ミゾ	漆器	金糸製品	糸筒	—	2.4	0.7	0.1	—	—	—	—	—	—	漆戸・美濃	漆戸・元好室	—	—	
0150	24漢	056411区	土器	かわらけ	小丸	6.3	3.9	1.7	—	ろくろ	塗村 透明地	外:黒繪文	白色	白色	—	漆戸・美濃	19C~中葉	施戸		
0151	24漢	056411区	土器	かわらけ	細小丸	5.9	4.4	1.1	—	ろくろ	塗村 透明地	外:黒繪文	白色	白色	—	漆戸・美濃	19C~中葉	施戸		
0152	25漢	056411区 P-3	漆器	小瓶	小瓶	—	(3.0)	—	—	—	ろくろ	上給村 透明地	内:花文	白色	白色	—	漆戸・美濃	19C~中葉	施戸	
0153	25漢	056425ミゾ	漆器	中瓶	丸形	(100)	(3.6)	4.7	—	ろくろ	コバルト・透明地	外:褐文	白色	白色	—	漆戸・美濃	19C~中葉	施戸		
0154	25漢	区 056425ミゾ P-1	漆器	中瓶	丸形	(9.4)	—	—	—	—	ろくろ	塗村 透明地	外:黒繪文	白色	白色	—	漆戸・美濃	19C~中葉	施戸	
0155	25漢	区 056425ミゾ	漆器	中瓶	丸形	(11.2)	—	—	—	—	ろくろ	塗村 透明地	外:黒繪文	白色	白色	—	漆戸・美濃	19C~中葉	施戸	
0156	25漢	P-26	区 056425ミゾ	漆器	中瓶	(10.8)	—	—	—	—	ろくろ	塗村 透明地	外:褐文	白色	白色	—	漆戸・美濃	19C~中葉	施戸	

No	出土遺物名	注記No	種別	器種等	形状等	法線(cm) (口幅(深さ)(底面(高さ))	成形	被 着		地 色	施 着	制作時期	指定書地	備考	
								A (口幅)	B (深さ)	C (底面)	D (高さ)	内・外・斜面	外・斜面		
0157	25漢	1区 05K-05ミゾ P-8	容器	中瓶	丸形	(11.4)	-	-	-	ろくろ	朱村	漆桶	文様・漆桶	19C中葉～	漆戸・美濃
0158	25漢	1区 05K-05ミゾ P-9	容器	中瓶	丸形	(11.1)	-	-	-	ろくろ	朱村	漆桶	朱村	19C中葉～	漆戸・美濃
0159	25漢	1区 05K-05ミゾ P-9	容器	中瓶	丸形	-	(3.6)	-	-	ろくろ	朱村	漆桶	外・丸文	19C中葉～	漆戸・美濃
0160	25漢	1区 05K-05ミゾ P-9	容器	中瓶	丸形	-	(3.9)	-	-	ろくろ	朱村	漆桶	外・丸文	19C中葉～	漆戸・美濃
0161	25漢	1区 05K-05ミゾ P-9	容器	中瓶	丸形	-	4.6	-	-	ろくろ	朱村	漆桶	外・丸文	近世	漆戸・美濃
0162	25漢	05K-05ミゾ	容器	中瓶	丸形	-	4.2	-	-	ろくろ	朱村	漆桶	外・丸文	18C～19C	くわらんか 透光観
0163	25漢	1区 05K-05ミゾ P-19-3	容器	中瓶	丸形	-	4.0	-	-	ろくろ	上塗村	朱色	内・花文	19C中葉～	無記印
0164	25漢	05K-05ミゾ	容器	皿	丸形	10.0	4.2	2.4	(7.0)	ろくろ	朱村	漆桶	外・墨文	19C中葉～	漆戸・美濃
0165	25漢	1区 05K-05ミゾ P-34-25	容器	五寸皿	輪花	(15.0)	4.0	-	-	ろくろ	朱村	漆桶	口見 内・山水文	19C中葉～	蛇の目扇台
0166	25漢	1区 05K-05ミゾ P-35-39-43 45-46	容器	蓋物	丸形	13.8	7.4	6.95	-	ろくろ	朱村	漆桶	外・墨文	19C中葉～	漆戸・美濃
0167	25漢	05K-05ミゾ	容器	土瓶	土瓶	7.8	-	-	-	ろくろ	朱村	漆桶	口見 内・山水文	19C中葉～	漆戸・美濃
0168	25漢	05K-05ミゾ	容器	蓋	蓋	8.0	6.8	-	-	ろくろ	朱村	漆桶	外・墨文	19C中葉～	漆戸・美濃
0169	25漢	1区 05K-05ミゾ25	容器	仏瓶	丸形	(5.8)	-	-	-	ろくろ	朱村	漆桶	外・格子文	19C中葉～	漆戸・美濃
0170	25漢	1区 05K-05ミゾ25	容器	仏瓶	丸形	(5.8)	-	-	-	ろくろ	朱村	漆桶	外・娘唐草文	19C中葉～	漆戸・美濃
0171	25漢	05K-05ミゾ25 1区 05K-05ミゾ25 1区	容器	仏瓶	丸形	-	-	-	-	ろくろ	朱村	漆桶	外・娘唐草文	19C中葉～	漆戸・美濃
0172	25漢	1区 05K-05ミゾ25 1区 05K-05ミゾ25 1区 05K-05ミゾ25	容器	灯明皿	丸形	(5.8)	-	-	-	ろくろ	朱村	漆桶	外・墨文	17C中葉～	漆戸・美濃
0173	25漢	1区 05K-05ミゾ25	容器	中瓶	丸形	-	4.1	-	-	ろくろ	朱村	漆桶	内・墨目	近世	所石
0174	25漢	05K-05ミゾ	容器	盖瓶	盖瓶	-	-	-	-	ろくろ	朱村	漆桶	内・墨目	18C	所石
0175	25漢	05K-05ミゾ25	容器	盖瓶	盖瓶	-	-	-	-	ろくろ	朱村	漆桶	内・墨目	~18C	漆戸・美濃
0176	25漢	1区 05K-05ミゾ P-28-30-34	陶器	油瓶	丸形	(20.0)	-	-	-	ろくろ	朱村	漆桶	白地	19C中葉～	漆戸・美濃
0177	25漢	1区 05K-05ミゾ P-17	陶器	火鉢?	火鉢?	-	-	-	-	ろくろ	朱村	漆桶	白地	19C中葉～	漆戸・美濃
0178	25漢	1区 05K-05ミゾ25	陶器	土瓶	土瓶	6.6	-	-	-	ろくろ	朱村	漆桶	白地	19C中葉～	漆戸・美濃
0179	25漢	05K-05ミゾ25 P-26	陶器	瓶	丸形	7.0	-	-	-	ろくろ	朱村	漆桶	白地	19C	三足
0180	25漢	1区 05K-05ミゾ P-35-41-44-47	陶器	椎木球	円筒形	12.6	9.4	12.9	-	ろくろ	朱村	漆桶	白地	18C	漆戸・美濃
0181	25漢	05K-05ミゾ25	陶器	钵	網掛型	16.8	-	-	-	ろくろ	朱村	漆桶	白地	18C	漆戸・美濃
0182	25漢	1区 05K-05ミゾ25 P-20	土器	燒造壺	口受壺	6.2	-	1.2	-	ろくろ	朱村	漆桶	白地	18C	漆戸・美濃
0183	25漢	1区 05K-05ミゾ25 P-20	土器	俎	俎	2.4	-	-	-	ろくろ	朱村	漆桶	白地	18C	漆戸・美濃
0184	25漢	1区 05K-05ミゾ25	土器	七面 (だい)	円錐型	-	-	-	-	ろくろ	朱村	漆桶	白地	18C	漆戸・美濃
0185	25漢	1区 05K-05ミゾ25	土器	七面 (だい)	円錐型	-	-	-	-	ろくろ	朱村	漆桶	白地	18C	漆戸・美濃

No.	出土遺物名	注記No.	種別	経緯等	形状等	法線(cm) (□:正面)(△:裏面)(○:横面)	成形	焼付・施釉	施土色調	結・他	推定産地	製作時期	備考
0185	25.漢 08611区26ミソP-1	電器	小杯	焼反	A:丸形 B:内丸形 C:外丸形 D:直角 6.8 2.8 4.3	ろくろ	透明釉	外:花文・草葉文 内:五弁花文 外:蝶の付着	灰白色	二重件内 漏斗・美濃	18C中葉～		
0187	25.漢 08611区26ミソP-1	磁器	中碗	丸形?	-	4.2	-	ろくろ	透明釉	外:花文・草葉文 内:五弁花文 外:蝶の付着	灰白色	二重件内 漏斗・美濃	18C中葉～
0188	26.漢 08611区26ミソP-1	土器	追手	直角	-	(19.4)	-	ろくろ	透明釉	外:花文・草葉文 内:五弁花文 外:蝶の付着	明赤褐色	-	18C中葉～
0189	26.漢 08611区26ミソP-1	金剛輪品	直角	直角	直角 6.8 4.9 0.3	-	-	ろくろ	透明釉	外:花文・草葉文 内:五弁花文 外:蝶の付着	灰白色	-	18C中葉～
0190	26.漢 08611区26ミソP-1	金剛輪品	直角	直角	直角 6.8 4.9 0.3	-	-	ろくろ	透明釉	外:花文・草葉文 内:五弁花文 外:蝶の付着	灰白色	-	18C中葉～
0191	26.漢 08611区26ミソP-1	金剛輪品	直角	直角	直角 6.8 4.9 0.3	-	-	ろくろ	透明釉	外:花文・草葉文 内:五弁花文 外:蝶の付着	灰白色	-	18C中葉～
0192	26.漢 08611区26ミソP-1	金剛輪品	直角	直角	直角 6.8 4.9 0.3	-	-	ろくろ	透明釉	外:花文・草葉文 内:五弁花文 外:蝶の付着	灰白色	-	18C中葉～
0193	26.漢 08611区26ミソP-1	金剛輪品	直角	直角	直角 6.8 4.9 0.3	-	-	ろくろ	透明釉	外:花文・草葉文 内:五弁花文 外:蝶の付着	灰白色	-	18C中葉～
0194	27.漢 1区096-027ミソ	磁器	丸形	丸形	丸形 6.4 3.0 4.4	ろくろ	透明釉	白	内:四方彫・草葉文 外:花文	内:四方彫・草葉文 外:花文	白	-	漏斗・美濃 18C中葉～
0195	27.漢 1区096-027ミソ	磁器	圓	角	-	-	-	型打	染付・透明白	内:四方彫・草葉文 外:花文	白	-	漏斗・美濃 18C中葉～
0196	27.漢 1区096-C-15	陶器	土鍋	丸形	丸形 23.6	-	-	ろくろ?	鉢物	内:花文	白	-	漏斗・美濃 18C中葉～
0197	27.漢 08611区27ミソ	陶器	鉢	丸形	-	-	-	ろくろ	陶器鉢	白	白	-	漏斗・美濃 18C中葉～
0198	27.漢 08611区27ミソ	陶器	植木鉢	丸形	円筒形 (7.8)	-	-	ろくろ	白(透明白)	白	-	-	漏斗・美濃 18C中葉～
0199	29.漢 08611区29ミソ	磁器	中碗	円筒形	円筒形 (7.8)	-	-	ろくろ	白(透明白)	白	-	-	漏斗・美濃 18C中葉～
0200	29.漢 08611区29ミソP-2	陶器	灯明皿	丸形	丸形 (6.9)	-	-	ろくろ	鉢物	外:四方彫 内:草葉文	灰	-	漏斗・美濃 18C中葉～
0201	29.漢 08611区29ミソP-9	陶器	鉢	灯明皿	丸形 (10.8)	-	-	ろくろ	鉢物	外:四方彫 内:草葉文	灰	-	漏斗・美濃 18C中葉～
0202	29.漢 08611区29ミソP-1区	金剛輪品	直角	直角	直角 2.4	0.8 0.2	型	ろくろ	金村 透明白	白	-	-	漏斗・美濃 18C中葉～
0203	31.漢 1区111-2/P-3	磁器	中碗	丸形	丸形 (9.8)	-	-	ろくろ	金村 透明白	外:草葉文	白	-	漏斗・美濃 18C中葉～
0204	31.漢 1区111-2/P-9	陶器	植木鉢	丸形	丸形 3.3	-	-	ろくろ	内:楊目	茶褐色	-	-	块状明石 18C～9C
0205	32.漢 08611区32ミソ	瓦器	瓦はじき	瓦はじき	瓦はじき 3.3	-	0.9	ろくろ	金村 透明白	白	-	-	漏斗・美濃 18C～9C
0206	35.漢 08611区35ミソ	磁器	中碗	広腹形	広腹形 (5.9)	-	-	ろくろ	金村 透明白	外:草葉文	白	-	肥前 18C
0207	36.漢 08611区36ミソ	ガラス	丸形	瓦はじき	瓦はじき 2.1	-	0.6	型押し	瓦はじき 透明白	内:一重脚脚 瓦はじき	白	-	肥前 18C
0208	36.漢 08611区36ミソ	土器	灯明皿	細小丸形	細小丸形 5.3	3.9	1.3	ろくろ	透明白	外:草葉文	白	-	肥前 18C
0209	37.漢 1区09611区37ミソ-1	土器	灯明皿	小丸形	小丸形 8.4	5.8	1.6	ろくろ	透明白	外:草葉文	白	-	中世 漏斗・美濃 18C中葉～
0210	37.漢 1区09611区37ミソ-2	土器	灯明皿	小丸形	小丸形 (9.8)	-	-	ろくろ	透明白	外:草葉文	白	-	中世 漏斗・美濃 18C中葉～
0211	38.漢 08611区38ミソ	磁器	中碗	丸形	丸形 (7.9)	-	-	ろくろ	金村 透明白	白	-	-	漏斗・美濃 18C中葉～
0212	38.漢 08611区38ミソ	金剛輪品	直角	直角	直角 2.2	0.6 0.1	型	ろくろ	金村 透明白	白	-	-	漏斗・美濃 18C中葉～
0213	38.漢 08611区38ミソ	金剛輪品	直角	直角	直角 (12.7)	-	-	ろくろ	金村 透明白	白	-	-	漏斗・美濃 18C中葉～
0214	39.漢 08611区39ミソ	陶器	大碗	深丸	深丸 (8.0)	4.4	2.7	ろくろ	口唇一様の付着	白	-	-	漏斗・美濃 18C中葉～
0215	40.漢 08611区40ミソ-1	土器	灯明皿	深丸	深丸 (8.0)	2.0	0.7	ろくろ	透明白	白	-	-	漏斗・美濃 18C中葉～
0216	42.漢 08611区42ミソ	磁器	植木鉢	丸形	丸形 4.4	3.2	4.5	型打	金村 透明白	白	-	-	近畿代 18C
0217	42.漢 08611区42ミソ	磁器	植木鉢	丸形	丸形 4.4	3.2	4.5	型打	金村 透明白	白	-	-	近畿代 18C
0218	42.漢 1区09611区42ミソ	石瓶	石臼	円柱形	円柱形 25.5	29.2	15.5	30.2	金村 透明白	白	-	-	近畿代 18C

No	出土遺物名	注記No	種別	器種等	形状等	法線(cm) (□:正面 △:裏面) (直角面) (傾斜面) (傾斜度)	成形	焼付・施釉	焼成	焼付・施釉	焼成	焼付・施釉	焼成	焼付・施釉	焼成	
0219	45葉	【060】13土壤 P-44ミゾ	磁器	中碗	丸形	(108)	-	-	ろくろ	焼付 施釉	外:草花文 内:四瓣	白色	-	肥前	近世	
0220	45葉	【060】13土壤 P-44ミゾ	磁器	碗	碗	-	-	-	ろくろ	焼付 施釉	外:草花文 内:四瓣	白色	-	肥前	18C~	
0221	2土瓶	060113土壤 P-2	磁器	丸形	丸形	12.1	6.2	2.9	ろくろ	焼付 施釉	外:草花文 内:四瓣	白色	-	肥前	近世	
0222	9土瓶	06019土壤 P-1	磁器	小坪	丸形	(2.6)	1.3	2.3	ろくろ	焼明治	口銀・黒地	白色	-	肥前	近世	
0223	9土瓶	06019土壤 P-1	磁器	小坪	壺形	(7.6)	(3.4)	5.5	ろくろ	焼付 施釉	外:草花文	白色	-	肥前	近世	
0224	9土瓶	06019土壤 P-1	磁器	中碗	丸形	(10.5)	-	-	ろくろ	焼付 施釉	外:草花文	白色	-	肥前	近世	
0225	9土瓶	06019土壤 P-1	磁器	蓋	蓋	(12.8)	-	-	ろくろ	焼付 施釉	外:草花文	白色	-	肥前	近世	
0226	9土瓶	06019土壤 P-1	磁器	脚付	丸形	-	-	-	ろくろ	焼付 施釉	外:草花文	白色	-	肥前	18C中葉	
0227	9土瓶	06019土壤 P-1	磁器	瓶	丸形	(10.1)	6.2	2.5	ろくろ	焼付 施釉	外:草花文 内:四瓣	白色	-	肥前	18C~	
0228	9土瓶	06019土壤 P-1	磁器	土器	丸形	(8.6)	(7.0)	1.6	ろくろ	焼付 施釉	外:草花文	白色	-	肥前	18C~	
0229	9土瓶	06019土壤 P-1	磁器	土器	丸形	(15.5)	3.8	3.8	ろくろ	焼付 施釉	外:草花文	白色	-	肥前	18C~	
0230	9土瓶	06019土壤 P-1	磁器	土器	丸形	(30.2)	(28.0)	6.3	ろくろ	焼付 施釉	外:草花文	白色	-	肥前	18C~	
0231	9土瓶	06019土壤 P-1	磁器	土器	焰口	(32.0)	(29.8)	5.9	ろくろ	焼付 施釉	外:草花文	白色	-	肥前	18C~	
0232	10土瓶	P-1 P-2	土壤	焰口	丸形	-	-	-	ろくろ	焼付 施釉	外:草花文	白色	-	肥前	18C~	
0233	11土瓶	06011土壤 P-11	磁器	瓶口	桶形	(6.6)	(3.2)	5.9	ろくろ	焼付 施釉	外:草花文	白色	-	肥前	18C~	
0234	11土瓶	06011土壤 P-10	磁器	瓶口	桶形	(6.6)	-	-	ろくろ	焼付 施釉	外:草花文	白色	-	肥前	18C~	
0235	11土瓶	06011土壤 P-2	土壤	小瓶	かづらけ	細小丸形	5.0	3.5	1.6	ろくろ	焼付 施釉	外:草花文	白色	-	肥前	18C~
0236	11土瓶	06011土壤 P-5	土壤	小瓶	かづらけ	小丸形	5.7	3.4	1.7	ろくろ	焼付 施釉	外:草花文	白色	-	肥前	18C~
0237	11土瓶	06011土壤 P-1	土壤	小瓶	かづらけ	小丸形	6.2	5.1	1.7	ろくろ	焼付 施釉	外:草花文	白色	-	肥前	18C~
0238	11土瓶	06011土壤 P-4	土壤	小瓶	かづらけ	小丸形	6.7	5.1	1.7	ろくろ	焼付 施釉	外:草花文	白色	-	肥前	18C~
0239	11土瓶	06011土壤 P-7	土壤	小瓶	かづらけ	細小丸形	7.0	5.1	2.1	ろくろ	焼付 施釉	外:草花文	白色	-	肥前	18C~
0240	12土瓶	06011土壤 P-3	土壤	丸形	丸形	(11.5)	5.8	2.4	ろくろ	焼付 施釉	外:草花文	白色	-	肥前	18C~	
0241	12土瓶	06011土壤 P-43	土壤	瓶	瓶	(2.3)	0.7	0.1	ろくろ	焼付 施釉	外:草花文	白色	-	肥前	18C~	
0242	12土瓶	06011土壤 P-44	土壤	瓶	瓶	(2.4)	0.6	0.1	ろくろ	焼付 施釉	外:草花文	白色	-	肥前	18C~	
0243	12土瓶	06011土壤 P-45	土壤	瓶	瓶	-	-	-	ろくろ	焼付 施釉	外:草花文	白色	-	肥前	18C~	
0244	13土瓶	06013土壤 P-58	磁器	小瓶	丸形	(7.6)	(3.0)	5.6	ろくろ	焼付 施釉	外:草花文 内:二重圓錐	白色	-	肥前	近世	
0245	13土瓶	06013土壤	磁器	小瓶	丸形	-	(3.8)	-	ろくろ	焼付 施釉	外:草花文	白色	-	肥前	近世	
0246	13土瓶	06013土壤 P-37	磁器	小瓶	丸形	-	(3.5)	-	ろくろ	焼付 施釉	外:草花文	白色	-	肥前	近世	
0247	13土瓶	06013土壤 P-19	磁器	小瓶	丸形	-	(3.4)	-	ろくろ	焼付 施釉	外:草花文	白色	-	肥前	近世	
0248	13土瓶	06013土壤 P-43	磁器	小瓶	丸形	-	(3.8)	-	ろくろ	焼付 施釉	外:草花文	白色	-	肥前	近世	
0249	13土瓶	06013土壤 P-27	磁器	桶	丸形	-	(4.0)	-	ろくろ	焼付 施釉	外:草花文	白色	-	肥前	近世	
0250	13土瓶	06013土壤	磁器	小瓶	半圓型	-	-	-	ろくろ	焼付 施釉	外:草花文	白色	-	肥前	近世	
0251	13土瓶	06013土壤 P-21	磁器	桶	丸形	-	(4.8)	-	ろくろ	焼付 施釉	外:草花文	白色	-	肥前	近世	
0252	13土瓶	06013土壤 P-6	磁器	桶	丸形	-	(4.0)	-	ろくろ	焼付 施釉	外:草花文	白色	-	肥前	近世	
0253	13土瓶	06013土壤 P-64	磁器	大桶	丸形	-	(5.0)	-	ろくろ	焼付 施釉	外:草花文	白色	-	肥前	近世	
0254	13土瓶	06013土壤 P-58	磁器	小瓶	輪花	(9.8)	-	-	ろくろ	焼付 施釉	外:草花文	白色	-	肥前	近世	
0255	13土瓶	06013土壤	磁器	小瓶	丸形	(13.4)	(8.0)	3.6	ろくろ	焼付 施釉	外:草花文	白色	-	肥前	近世	
0256	13土瓶	06013土壤	磁器	小瓶	丸形	-	(7.0)	-	ろくろ	焼付 施釉	外:草花文	白色	-	肥前	近世	

No.	出土遺物名	注記No	種別	経緯等	形状等	法線(cm) (□:直角) (△:傾斜角) (○:垂直角)	成形	被覆・被継	施土	色調	絵・他	推定度地	製作時期	備考	
0255	13土坑	056J13土壤-P-62	陶器	土器	丸形	(5.7)	—	—	—	—	—	—	—	—	—
0256	13土坑	056J13土壤-P-63	陶器	小瓶	丸形	(6.0)	—	—	—	—	—	—	—	—	—
0259	13土坑	056J13土壤-P-1	陶器	小瓶	丸形	(5.8)	(2.4)	—	—	—	—	—	—	—	—
0260	13土坑	056J13土壤-P-56	陶器	小瓶	丸形	(5.8)	—	—	—	—	—	—	—	—	—
0261	13土坑	056J13土壤-P-56	陶器	小瓶	丸形	(5.8)	—	—	—	—	—	—	—	—	—
0262	13土坑	056J13土壤-P-57	陶器	小瓶	丸形	(3.6)	—	—	—	—	—	—	—	—	—
0263	13土坑	056J13土壤-P-58	陶器	小瓶	丸形	(3.6)	—	—	—	—	—	—	—	—	—
0264	13土坑	056J13土壤-P-59	陶器	小瓶	丸形	(3.6)	—	—	—	—	—	—	—	—	—
0265	13土坑	056J13土壤-P-60	陶器	小瓶	丸形	(3.6)	—	—	—	—	—	—	—	—	—
0266	13土坑	056J13土壤-P-39	陶器	小瓶	丸形	(3.6)	—	—	—	—	—	—	—	—	—
0267	13土坑	056J13土壤-P-39	陶器	小瓶	丸形	(3.6)	—	—	—	—	—	—	—	—	—
0268	13土坑	056J13土壤	陶器	丸形	丸形	(7.8)	(3.8)	1.6	—	—	—	—	—	—	—
0269	13土坑	056J13土壤	陶器	丸形	丸形	(10.6)	(4.0)	1.9	—	—	—	—	—	—	—
0270	13土坑	056J13土壤	陶器	丸形	丸形	(11.4)	(5.0)	1.9	—	—	—	—	—	—	—
0271	13土坑	056J13土壤	陶器	丸形	丸形	(11.8)	—	—	—	—	—	—	—	—	—
0272	13土坑	056J13土壤-P-25	土器	五泄	五泄	(21.0)	—	—	—	—	—	—	—	—	—
0273	13土坑	056J13土壤-P-25-28	土器	五泄	五泄	(21.5)	—	—	—	—	—	—	—	—	—
0274	13土坑	056J13土壤-P-17	石製品	宝珠	圓	7.5	7.5	7.0	8.5	—	—	—	—	—	—
0275	14土坑	056J14土壤-P-9	石製品	丸形	丸形	(10.4)	(6.6)	3.0	—	—	—	—	—	—	—
0276	14土坑	056J14土壤	石製品	丸形	丸形	(9.4)	(6.0)	2.0	—	—	—	—	—	—	—
0277	14土坑	056J14土壤-P-7	石製品	丸形	丸形	(12.4)	(6.0)	3.5	—	—	—	—	—	—	—
0278	14土坑	056J14土壤	石製品	丸形	丸形	(9.1)	—	—	—	—	—	—	—	—	—
0279	16土坑	056J16土壤	石器	小瓶	口縁有孔	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
0280	16土坑	056J16土壤	石器	小瓶	小瓶	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
0281	16土坑	056J16土壤-P-46	石器	小瓶	丸形	(5.6)	—	—	—	—	—	—	—	—	—
0282	16土坑	056J16土壤	石器	小瓶	丸形	(6.8)	—	—	—	—	—	—	—	—	—
0283	16土坑	056J16土壤	石器	小瓶	端板	(7.9)	—	—	—	—	—	—	—	—	—
0284	16土坑	056J16土壤	石器	中瓶	端板	(9.9)	5.7	(4.2)	—	—	—	—	—	—	—
0285	16土坑	056J16土壤	石器	中瓶	端板	(9.9)	—	—	—	—	—	—	—	—	—
0286	16土坑	056J16土壤	石器	中瓶	丸形	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
0287	16土坑	056J16土壤-P-17	石器	中瓶	丸形	—	(3.9)	—	—	—	—	—	—	—	—
0288	16土坑	056J16土壤-P-106	石器	大瓶	丸形	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
0289	16土坑	056J16土壤	石器	大瓶	丸形	—	(5.2)	—	—	—	—	—	—	—	—

No	出土遺物名	注記No	種別	器種等	形状等	法線(cm) (□)A (△)B (△)C (△)D (△)E (△)F (△)G (△)H (△)I (△)J (△)K (△)L (△)M (△)N (△)O (△)P (△)Q (△)R (△)S (△)T (△)U (△)V (△)W (△)X (△)Y (△)Z (△)	成形	焼	施釉・施彩	文様・模様	施付・施繪	製作時期	検定度地	備考		
0290	16土坑	056416土坑 P-67	陶器	小皿	アワビ	(10.1) (5.4)	ろくろ	輪打	内外・施文・口豆	白	-	湘戸・美濃	近世			
0291	16土坑	056416土坑 P-8	陶器	小皿	丸形	-	-	輪打	コバルト	白	-	湘戸・美濃	近代			
0292	16土坑	056416土坑 P-112	陶器	皿	-	(6.6)	-	輪打	内・山水文	白	桃	湘戸・美濃	近代	筆：焼墨印？		
0293	16土坑	056416土坑	陶器	中皿	輪花	(12.6) (7.2) (3.2)	ろくろ	輪打	内・山水文	白	-	湘戸・美濃	近代			
0294	16土坑	056416土坑	陶器	中皿	丸形	(15.6) (8.9) 2.6	ろくろ	輪打	内・木・墨	白	-	湘戸・美濃	近代			
0295	16土坑	056416土坑	陶器	皿	皿7脚?	-	(6.6)	ろくろ	輪打	内・二重圓錐内 五瓣花文	白	桃	肥前	近世		
0296	16土坑	056416土坑 P-63	陶器	皿	輪花	(8.9)	-	ろくろ	輪打・透明釉	白	-	湘戸・透明釉	近世			
0297	16土坑	056416土坑	陶器	皿	半圓型	(13.0)	-	ろくろ	輪打・透明釉	外・梅文	白	-	湘戸・透明釉	近世		
0298	16土坑	056416土坑	陶器	碗	丸形	-	-	ろくろ	輪打・透明釉	外・梅文 内・二重圓錐	白	-	湘戸・美濃	近世	筆：銀繩	
0299	16土坑	056416土坑 P-103	陶器	神酒器	うつわうつわ	2.3	3.9	13.1	ろくろ	染付・透明釉	白	-	肥前	1780~1860		
0300	16土坑	056416土坑 P-109	陶器	神酒器	うつわうつわ	1.8	-	ろくろ	染付・透明釉	白	-	湘戸・美濃	1808~			
0301	16土坑	056416土坑 P-101	陶器	神酒器	うつわうつわ	1.8	-	ろくろ	染付・透明釉	白	-	湘戸・美濃	1808~			
0302	16土坑	056416土坑 P-84	陶器	神酒器	うつわうつわ	1.8	-	ろくろ	染付・透明釉	白	-	肥前	1780~1860			
0303	16土坑	056416土坑 P-101	陶器	神酒器	うつわうつわ	1.8	-	ろくろ	染付・透明釉	白	-	湘戸・美濃	1808~			
0304	16土坑	056416土坑	陶器	中壺	丸形	9.0	3.5	2.7	ろくろ	染付・透明釉	白	桃	湘戸・美濃	近代		
0305	16土坑	056416土坑 P-74	陶器	萬葉壺	丸形	(9.2)	-	-	ろくろ	染付・透明釉	白	-	湘戸・美濃	1808~		
0306	16土坑	056416土坑 P-12	陶器	萬葉壺	丸形	-	-	-	ろくろ	染付・透明釉	白	-	肥前	1780~1860		
0307	16土坑	056416土坑 P-37	陶器	萬葉壺	丸形	-	3.9	-	ろくろ	染付・透明釉	外・半菊文	白	-	近現代		
0308	16土坑	056416土坑	陶器	萬葉壺	丸形	-	-	-	ろくろ	染付・透明釉	外・数字	白	-	近現代		
0309	16土坑	056416土坑	陶器	萬葉壺	丸形	-	-	-	輪打	コバルト	外・数字	白	-	近現代		
0310	16土坑	056416土坑	陶器	萬葉壺	口縁三段	(24.6)	-	-	ろくろ	内・壺目	赤褐色	-	界明石系	19C~		
0311	16土坑	056416土坑 P-32	陶器	萬葉壺	萬葉壺	(8.8)	-	-	ろくろ	内・壺目	黄褐色	-	湘戸・美濃	近世		
0312	16土坑	056416土坑	陶器	萬葉壺	萬葉壺	-	-	-	ろくろ	内・壺目	黄褐色	-	湘戸・美濃	18C~		
0313	16土坑	056416土坑	陶器	萬葉壺	萬葉壺	-	-	-	ろくろ	内・壺目	黄褐色	-	湘戸・美濃	18C~		
0314	16土坑	056416土坑	陶器	萬葉壺	萬葉壺	5.0	2.6	ろくろ	内・壺目	黄褐色	-	湘戸・美濃	18C~			
0315	16土坑	P-11-42-22	陶器	萬葉壺	萬葉壺	(10.4)	-	-	ろくろ	内・壺目	黄褐色	-	湘戸・美濃	近世		
0316	16土坑	056416土坑 P-13	陶器	萬葉壺	萬葉壺	(5.0)	-	-	ろくろ	内・壺目	黄褐色	-	湘戸・美濃	近世	筆：焼跡	
0317	16土坑	056416土坑	陶器	萬葉壺	萬葉壺	(7.0)	-	-	ろくろ	内・壺目	黄褐色	-	湘戸・美濃	近世		
0318	16土坑	P-111-52-54 -55-102-50-	陶器	萬葉壺	丸形	(8.0)	14.6	15.4	ろくろ	自引・鉛輪・錫輪	外・梅・松文	黄褐色	-	益子	19C~	
0319	16土坑	056416土坑 P-11-42-22	陶器	萬葉壺	丸形	(8.0)	-	-	ろくろ	自引・鉛輪・錫輪	外・竹・梅に蟹	黄褐色	-	近世	No.321-1匁一鉢本体か？	
0320	16土坑	056416土坑 P-49	陶器	萬葉壺	萬葉壺	-	(6.0)	-	ろくろ	自引・鉛輪・錫輪	外・竹・梅に蟹	黄褐色	-	近世		
0321	16土坑	056416土坑 P-99	陶器	萬葉壺	萬葉壺	(6.0)	-	-	ろくろ	自引・鉛輪・錫輪	外・五瓣花文	黄褐色	-	近世		
0322	16土坑	056416土坑	陶器	萬葉壺	萬葉壺	(15.6)	-	-	ろくろ	自引・鉛輪・錫輪	外・竹・梅に蟹	黄褐色	-	近世		
0323	16土坑	056416土坑 P-97	陶器	萬葉壺	萬葉壺	5.3	4.5	6.2	ろくろ	自引・鉛輪・錫輪	外・竹・梅に蟹	黄褐色	-	湘戸・美濃	19C~	底部輪孔

No.	出土遺物名	記号No	種別	経緯等	形状等	法線(cm) (□)は断面図 (△)は断面図 (裏面)			成形	被覆	被覆地	製作時期	備考
						A	B	C					
0324	16土坑	05GJ15土坑 P-159-94	陶器	灯明皿	丸形	102	5.0	2.4	ろくろ	模拘	黄灰色	-	湘江・美濃
0325	16土坑	05GJ16土坑 P-85	陶器	灯明皿	丸形	7.4	3.4	1.5	ろくろ	模拘	黄灰色	-	湘江・美濃
0326	16土坑	05GJ16土坑 P-14	陶器	灯明皿	丸形	6.7	3.0	1.5	ろくろ	模拘	灰色	-	湘江・美濃
0327	16土坑	05GJ16土坑 P-47	陶器	灯明皿	丸形	7.4	3.1	1.6	ろくろ	模拘	黄灰色	-	湘江・美濃
0328	16土坑	05GJ16土坑 P-64	陶器	灯明皿	丸形	6.8	3.4	1.7	ろくろ	模拘	灰色	-	湘江・美濃
0329	16土坑	05GJ16土坑 P-22	陶器	灯明皿	丸形	(7.6)	(2.0)	1.7	ろくろ	模拘	灰色	-	湘江・美濃
0330	16土坑	05GJ15土坑 P-4	土器	かわらけ	輪小丸形	5.1	4.4	1.4	ろくろ	模拘	明褐色	-	~18°C中温 底部回折系切痕
0331	16土坑	05GJ15土坑 P-20	土器	かわらけ	丸形	7.5	5.3	1.4	ろくろ	模拘	明茶褐色	-	~18°C中温 底部回折系切痕
0332	16土坑	05GJ16土坑 P-20	土器	かわらけ	丸形	(9.0)	(7.0)	2.1	ろくろ	模拘	黑褐色	-	~18°C中温 底部回折系切痕
0333	16土坑	05GJ16土坑 P-105	土器	焰壺	丸形	(20.0)	18.4	(5.9)	ろくろ	模拘	同上	-	近世
0334	16土坑	05GJ16土坑 P-68-69 107	土器	焰壺	丸形	31.4	30.6	4.8	ろくろ	外・模の付着	黑褐色	-	近世 補修孔
0335	16土坑	05GJ15土坑 P-75-82 100	土器	焰壺	丸形	28.0	26.0	34.2	ろくろ	口縁・芯 内・底面	黄灰色	-	近世 三星
0336	16土坑	05GJ16土坑 P-19	土器	火鉢	楕形	29.8	(25.7)	29.8	ろくろ	内外・模付着	明茶褐色	-	近世 三星?
0337	16土坑	05GJ16土坑 P-15-19 89-100	土器	五槽	楕形	26.6	12.4	13.5	ろくろ	内・模付	明茶褐色	-	近世
0338	16土坑	05GJ16土坑 P-75-81-82- 100-106	土器	火消壺	圓	30.4	28.8	7.5	ろくろ	模押點付	明茶褐色	-	近世
0339	16土坑	05GJ16土坑 P-104	土器	七面(ミチユ)	刀削具	4.8	4.1	4.5	模押點付	同上	明茶褐色	-	近世
0340	16土坑	05GJ16土坑 P-15-16-17	多面鑿製品	石鬚磨	圓	3.1	2.0	0.3	模拘	外・裏文	黑褐色	-	近世
0341	16土坑	05GJ16土坑 P-15-16-17	多面鑿製品	石鬚磨	小瓶	(5.7)	(2.4)	2.7	ろくろ	模拘・透明釉	明茶褐色	-	近世
0342	17土坑	05GJ17土坑 P-7	焰壺	小瓶	端反	(7.2)	(4.7)	-	ろくろ	模拘・透明釉	白色	-	近世
0343	17土坑	05GJ17土坑 P-17	焰壺	中壺	丸形	(11.0)	(4.2)	6.3	ろくろ	模拘・透明釉	高台内・大 明年鑄	-	近世
0344	17土坑	05GJ17土坑 P-17	焰壺	中壺	丸形	(10.6)	(4.4)	6.3	ろくろ	模拘・透明釉	高台内・大 明年鑄	-	近世
0345	17土坑	05GJ17土坑 P-17-9	焰壺	中壺	丸形	(10.8)	(4.2)	6.3	ろくろ	模拘・透明釉	高台内・大 明年鑄	-	近世
0346	17土坑	05GJ17土坑	焰壺	中壺	丸形	-	(4.8)	-	ろくろ	コバルト・ 透明釉	白色	-	近代
0347	17土坑	05GJ17土坑	焰壺	丸形	-	(5.4)	-	-	ろくろ	模拘・透明釉	大網口沿	湘江・美濃	
0348	17土坑	05GJ17土坑 P-12	焰壺	圓	丸形	-	5.0	-	ろくろ	模拘・透明釉	灰色	-	近世
0349	17土坑	05GJ17土坑	焰壺	圓	丸形	-	5.0	-	ろくろ	模拘・透明釉	同上	-	近世
0350	17土坑	05GJ17土坑	焰壺	圓	丸形	-	5.0	-	ろくろ	模拘	内・椎目	-	湘江・美濃
0351	17土坑	05GJ17土坑 P-27	焰壺	圓	丸形	(3.6)	-	-	ろくろ	模拘	白色	-	近世
0352	17土坑	05GJ17土坑 P-11	焰壺	圓	丸形	5.3	3.2	1.5	ろくろ	模拘	白色	-	湘江・美濃
0353	17土坑	05GJ17土坑 P-18	土器	かわらけ	丸形	(3.0)	-	-	ろくろ	模拘	淡褐色	-	~18°C中温 底部點止系切痕
0354	17土坑	05GJ17土坑 P-18	土器	かわらけ	丸形	(5.0)	-	-	ろくろ	模拘	淡褐色	-	~18°C中温 底部點止系切痕

No.	出土遺物名	注記No.	種別	器種等	形状等	法線(cm) (□底面) (△側面) (○頂面)			成形	給付・施面	文様・装飾	施土色調	絵・他	指定原出地	製作時期	備考
						A	B	C								
0355	17土坑 05617土坑 P-14-16	土器	打削型	丸形	丸形	10.0	6.0	1.9	ろくろ	内縫の付着	淡褐色	-	-	-	-	-
0356	17土坑 05617土坑 P-14-16	土器	打削型	丸形	丸形	9.6	5.0	1.7	ろくろ	内縫の付着	淡褐色	-	-	-	-	-
0357	17土坑 05617土坑 P-25	土器	打削型	丸形	丸形	9.0	5.2	2.0	ろくろ	内縫の付着	淡褐色	-	-	-	-	-
0358	17土坑 05617土坑 P-17	土器	打削型	丸形	丸形	(8.6)	-	-	ろくろ	内縫の付着	淡褐色	-	-	-	-	-
0359	17土坑 05617土坑 P-15	土器	打削型	丸形	丸形	9.3	5.2	2.6	ろくろ	内縫の付着	淡褐色	-	-	-	-	-
0360	17土坑 05617土坑 P-2	土器	打削型	丸形	丸形	10.3	5.4	7.6	4.3	壓打	淡褐色	-	-	-	-	-
0361	17土坑 05617土坑 P-22-24	五	九五	かわらけ	丸形	2.4	0.6	0.1	ろくろ	内縫の付着	淡褐色	-	-	-	-	-
0362	18土坑 05618土坑 P-1	土器	燒製陶品	鉢	鉢	2.4	0.6	0.2	ろくろ	内縫の付着	淡褐色	-	-	-	-	-
0363	18土坑 05618土坑 P-2	土器	燒製陶品	鉢	鉢	2.4	0.7	0.1	ろくろ	内縫の付着	淡褐色	-	-	-	-	-
0364	18土坑 05618土坑 P-3	土器	燒製陶品	鉢	鉢	2.4	0.7	0.1	ろくろ	内縫の付着	淡褐色	-	-	-	-	-
0365	18土坑 05618土坑 P-4	土器	燒製陶品	鉢	鉢	2.4	0.7	0.1	ろくろ	内縫の付着	淡褐色	-	-	-	-	-
0366	18土坑 05618土坑 P-5	土器	燒製陶品	鉢	鉢	2.4	0.7	0.1	ろくろ	内縫の付着	淡褐色	-	-	-	-	-
0367	18土坑 05618土坑 P-6	土器	燒製陶品	鉢	鉢	2.4	0.7	0.1	ろくろ	内縫の付着	淡褐色	-	-	-	-	-
0368	19土坑 05619土坑 P-1	土器	燒製陶品	鉢	鉢	2.4	0.6	0.1	ろくろ	内縫の付着	淡褐色	-	-	-	-	-
0369	19土坑 05619土坑 P-2	土器	燒製陶品	鉢	鉢	2.4	0.6	0.1	ろくろ	内縫の付着	淡褐色	-	-	-	-	-
0370	19土坑 05619土坑 P-3	土器	燒製陶品	鉢	鉢	2.4	0.7	0.1	ろくろ	内縫の付着	淡褐色	-	-	-	-	-
0371	19土坑 05619土坑 P-4	土器	燒製陶品	鉢	鉢	2.3	0.7	0.1	ろくろ	内縫の付着	淡褐色	-	-	-	-	-
0372	19土坑 05619土坑 P-5	土器	燒製陶品	鉢	鉢	2.4	0.7	0.1	ろくろ	内縫の付着	淡褐色	-	-	-	-	-
0373	20土坑 05620土坑 P-20	土器	燒製陶品	小鉢	丸形	-	(4.0)	-	ろくろ	外縫文・面繩目押	灰白色	-	-	-	-	-
0374	20土坑 05620土坑 P-20	土器	燒製陶品	小鉢	丸形	-	3.5	-	ろくろ	外縫文・面繩目押	灰白色	-	-	-	-	-
0375	20土坑 05620土坑 P-20	土器	燒製陶品	小鉢	丸形	13.8	-	-	ろくろ	外縫文・面繩目押	灰白色	-	-	-	-	-
0376	20土坑 05620土坑 P-20	土器	燒製陶品	小鉢	丸形	(15.0)	-	-	ろくろ	外縫文・面繩目押	灰白色	-	-	-	-	-
0377	20土坑 05620土坑 P-20	土器	燒製陶品	中鉢	中鉢	端反	(19.0)	-	ろくろ	染付・透明釉	白色	-	-	-	-	-
0378	20土坑 05620土坑 P-3	土器	燒製陶品	中鉢	中鉢	端反	(14.0)	-	ろくろ	染付・透明釉	白色	-	-	-	-	-
0379	20土坑 05620土坑 P-20	土器	燒製陶品	大鉢	大鉢	端反	(26.6)	-	ろくろ	染付・透明釉	白色	-	-	-	-	-
0380	20土坑 05620土坑 P-20	土器	燒製陶品	大鉢	大鉢	端反	(19.0)	-	ろくろ	染付・透明釉	白色	-	-	-	-	-
0381	20土坑 05620土坑 P-20	土器	燒製陶品	中鉢	中鉢	端反	(3.5)	-	ろくろ	染付・透明釉	白色	-	-	-	-	-
0382	20土坑 05620土坑 P-20	土器	燒製陶品	中鉢	中鉢	端反	(13.5)	-	ろくろ	染付・透明釉	白色	-	-	-	-	-
0383	21土坑 05621土坑 P-20	土器	燒製陶品	小鉢	小鉢	口縫三段	-	-	ろくろ	内縫目	赤褐色	-	-	-	-	-
0384	21土坑 05621土坑 P-20	土器	燒製陶品	小鉢	小鉢	口縫三段	(23.6)	-	ろくろ	内縫目	赤褐色	-	-	-	-	-
0385	20土坑 05620土坑 P-20	土器	燒製陶品	小鉢	小鉢	口縫三段	(8.6)	-	ろくろ	内縫目	赤褐色	-	-	-	-	-
0386	20土坑 05620土坑 P-20	土器	燒製陶品	小鉢	小鉢	口縫三段	(4.3)	-	ろくろ	内縫目	赤褐色	-	-	-	-	-
0387	20土坑 05620土坑 P-9	土器	燒製陶品	石臼	石臼	円筒形	(27.0)	-	ろくろ	内縫目	赤褐色	-	-	-	-	-
0388	21土坑 05621土坑 P-1	土器	燒製陶品	丸形	丸形	9.2	5.0	4.3	ろくろ	内縫目	赤褐色	-	-	-	-	-
0389	21土坑 05621土坑 P-1	土器	燒製陶品	丸形	丸形	9.2	0.7	0.1	ろくろ	内縫目	赤褐色	-	-	-	-	-
0390	21土坑 05621土坑 P-1	土器	燒製陶品	丸形	丸形	9.2	0.6	0.1	ろくろ	内縫目	赤褐色	-	-	-	-	-
0391	21土坑 05621土坑 P-1	土器	燒製陶品	丸形	丸形	9.2	0.6	0.1	ろくろ	内縫目	赤褐色	-	-	-	-	-
0392	21土坑 05621土坑 P-1	土器	燒製陶品	丸形	丸形	9.2	0.6	0.1	ろくろ	内縫目	赤褐色	-	-	-	-	-
0393	21土坑 05621土坑 P-1	土器	燒製陶品	丸形	丸形	9.2	0.6	0.1	ろくろ	内縫目	赤褐色	-	-	-	-	-
0394	21土坑 05621土坑 P-1	土器	燒製陶品	丸形	丸形	9.2	0.6	0.1	ろくろ	内縫目	赤褐色	-	-	-	-	-
0395	21土坑 05621土坑 P-1	土器	燒製陶品	丸形	丸形	9.2	0.6	0.1	ろくろ	内縫目	赤褐色	-	-	-	-	-
0396	23土坑 05623土坑 P-1	土器	燒製陶品	丸形	丸形	9.2	0.6	0.1	ろくろ	内縫目	赤褐色	-	-	-	-	-
0397	23土坑 05623土坑 P-1	土器	燒製陶品	丸形	丸形	9.2	0.6	0.1	ろくろ	内縫目	赤褐色	-	-	-	-	-

No.	出土遺物名	注記No	種別	器種等	形状等	法面(cm) (□高さ)(△幅(奥行))	成形	繪・墨	施土	絵・他	指定度地	製作時期	備考	
0388	24土坑	0861区土坑24P-4	切妻	小瓶	丸形 (8.0)	△4.3	△2.5	染付・透明釉	外・山水入物・墨	白色	-	周口・美濃	近世	
0389	24土坑	0861区土坑24P-5	土器	かわらけ	丸形 (7.6)	△4.0	△2.5	△2.5	明治	施土・墨	16C中葉	新御田町・赤木町	近世	
0400	24土坑	0861区土坑24P-1	土器	かわらけ	丸形 (12.1)	△5.4	△2.5	△2.5	明治	施土・墨	16C中葉	新御田町・赤木町	近世	
0401	24土坑	0861区土坑24P-2	土器	かわらけ	丸形 (12.4)	△5.4	△2.5	△2.5	明治	施土・墨	16C中葉	新御田町・赤木町	近世	
0402	24土坑		土器	かわらけ	丸形 (2.4)	△0.6	△0.1	染付	白	施土	-	1111~	古河造室(窓)	
0403	24土坑		土器	かわらけ	丸形 (2.5)	△0.5	△0.1	染付	白	施土	-	1433~	古河造室(窓)	
0404	24土坑		土器	かわらけ	丸形 (2.4)	△0.6	△0.1	染付	白	施土	-	1094~	古河造室	
0405	24土坑		土器	かわらけ	丸形 (2.5)	△0.7	△0.1	染付	白	施土	-	996~	古河造室	
0406	24土坑		土器	かわらけ	丸形 (2.4)	△0.7	△0.1	染付	白	施土	-	1107~	古河造室	
0407	24土坑		土器	かわらけ	丸形 (2.4)	△0.5	△0.1	染付	白	施土	-	1587~	水戸造室	
0408	26土坑	0861区P-1	土器	かわらけ	丸形 (11.9)	△6.3	△3.2	△2.5	染付	白	施土	-	16C中葉	新御田町・赤木町
0409	26土坑	0861区土坑26P-2	土器	かわらけ	丸形 (12.0)	△5.6	△3.4	△2.5	染付	白	施土	-	16C中葉	新御田町・赤木町
0410	26土坑	0861区P-3	土器	かわらけ	丸形 (7.9)	△2.4	△0.5	△1.2	染付	白	施土	-	16C中葉	新御田町・赤木町
0411	26土坑	1区P-1	土器	かわらけ	丸形 (10.0)	△6.5	△3.0	△2.5	染付	白	施土	-	16C中葉	新御田町・赤木町
0412	26土坑	26P-3	土器	かわらけ	丸形 (7.4)	△2.4	△0.6	△0.1	染付	白	施土	-	1094~	昭和元年
0413	26土坑	26P-13	土器	かわらけ	丸形 (2.4)	△0.6	△0.1	染付	白	施土	-	996~	古河造室	
0414	26土坑	26P-13	土器	かわらけ	丸形 (2.4)	△0.6	△0.1	染付	白	施土	-	1111~	古河造室	
0415	26土坑	26P-13	土器	かわらけ	丸形 (2.4)	△0.6	△0.1	染付	白	施土	-	古河造室	口火口口	
0416	26土坑	26P-13	土器	かわらけ	丸形 (2.4)	△0.7	△0.1	染付	白	施土	-	古河造室	口火口口	
0417	27土坑		土器	かわらけ	丸形 (2.4)	△0.7	△0.1	染付	白	施土	-	古河造室	口火口口	
0418	29土坑		土器	かわらけ	丸形 (2.4)	△0.6	△0.1	染付	白	施土	-	古河造室	口火口口	
0419	29土坑	0861区土坑29	土器	かわらけ	丸形 (2.4)	△0.5	△0.1	染付	白	施土	-	古河造室	口火口口	
0420	29土坑	0861区土坑29	土器	かわらけ	丸形 (11.9)	-	-	△2.5	染付・透明釉	外・青花文	施土	-	更前	近世
0421	30土坑	0861区土坑29P-2	土器	かわらけ	丸形 (11.9)	-	-	△2.5	染付・透明釉	外・青花文	施土	-	肥前	近世
0422	30土坑	0861区P-1	土器	かわらけ	丸形 (11.9)	-	-	△2.5	染付	白	施土	-	肥前	近世
0423	31土坑	5-1	土器	かわらけ	丸形 (10.0)	-	-	△2.5	染付	白	施土	-	肥前	近世
0424	34土坑	0861区土坑34	切妻	中碗	丸形 (7.8)	-	-	△2.5	染付・透明釉	外・青花文	施土	-	肥前	近世
0425	34土坑	0861区土坑34	切妻	中碗	丸形 (8.6)	-	-	△2.5	染付	白	施土	-	肥前	近世
0426	35土坑	0861区P-14	土器	かわらけ	丸形 (9.8)	-	-	△2.5	染付	白	施土	-	肥前	近世
0427	35土坑	0861区P-14	土器	かわらけ	丸形 (7.0)	-	-	△2.5	染付	白	施土	-	肥前	近世
0428	35土坑	0861区P-18	土器	かわらけ	半筒型 (10.0)	-	-	△2.5	染付	白	施土	-	肥前	近世
0429	35土坑	0861区土坑35	土器	かわらけ	半筒型 (10.0)	-	-	△2.5	染付	白	施土	-	肥前	近世
0430	35土坑	0861区P-14	土器	かわらけ	丸形 (9.8)	-	-	△2.5	染付	白	施土	-	肥前	近世
0431	35土坑	0861区P-4	土器	かわらけ	丸形 (7.0)	-	-	△2.5	染付	白	施土	-	肥前	近世
0432	35土坑	0861区P-17	土器	かわらけ	小鉢 (10.0)	-	-	△2.5	染付	白	施土	-	肥前	近世
0433	35土坑	0861区P-17	土器	かわらけ	小鉢 (8.4)	-	-	△2.5	染付	白	施土	-	肥前	近世
0434	35土坑	0861区P-35	土器	かわらけ	小鉢 (4.0)	-	-	△2.5	染付	白	施土	-	肥前	近世

No.	出土遺物名	注記No.	種別	器種等	形状等	法線(cm) (□:直角) (△:垂直) (○:傾き)		成形	焼付・施薬	焼土色調	純・他	指定度地	製作時期	備考	
						A	B	C	D						
0435	35土坑	08611区 土坑35 p-23	陶器	罐	丸形 かわらけ	(32.4)	(14.0)	(18.0)	ろくろ	内・外目	暗赤褐色	-	卵・滑石系	19C-	
0436	35土坑	08611区 土坑35 p-25	土器	丸形 かわらけ	丸形	5.4	3.9	1.3	ろくろ	内・外目	暗褐色	-	~18C中葉 施錫留板余切痕		
0437	35土坑	08611区 土坑35	土器	灯明皿	丸形	5.8	5.0	1.2	ろくろ	内・外目	暗褐色	-	~18C中葉 施錫留板余切痕		
0438	35土坑	08611区 土坑35 p-27	土器	灯明皿	丸形	(5.6)	3.8	1.9	ろくろ	内・外目	暗褐色	-	~18C中葉 施錫留板余切痕		
0439	35土坑	08611区 土坑35 p-29	土器	灯明皿	丸形	(8.8)	7.4	(1.5)	ろくろ	内・外・窓の付箋	暗褐色	-	~18C中葉 施錫留板余切痕		
0440	35土坑	08611区 土坑35	土器	灯明皿	丸形	(6.2)	(5.0)	(1.3)	ろくろ	内・外目	暗褐色	-	~18C中葉 施錫留板余切痕		
0441	35土坑	08611区 土坑35 p-9	土器	灯明皿	丸形	(8.4)	(7.0)	(1.5)	ろくろ	内・外・窓の付箋	明信褐色	-	~18C中葉		
0442	35土坑	08611区 土坑35 p-9	土器	灯明皿	丸形	(7.6)	(6.0)	(1.5)	ろくろ	内・外・窓の付箋	暗褐色	-	~18C中葉		
0443	35土坑	08611区 土坑35 p-1	土器	かわらけ	丸形	8.3	5.3	1.5	ろくろ	内・外・窓の付箋	暗褐色	-	~18C中葉 施錫留板余切痕		
0444	35土坑	08611区 土坑35 p-22	土器	焰壺	小形	(16.6)	-	-	ろくろ	内・外・窓の付箋	深茶褐色	-	近世		
0445	35土坑	08611区 土坑35	土器	焰壺	丸形	(24.0)	-	-	ろくろ	外・窓の付箋	深茶褐色	-	近世		
0446	35土坑	08611区 土坑35 p-10	土器	焰壺	丸形	(26.1)	(25.4)	(5.1)	ろくろ	外・窓の付箋	深茶褐色	-	近世		
0447	35土坑	08611区 土坑35 p-21	土器	焰壺	丸形	(25.0)	(25.0)	(5.0)	ろくろ	外・窓の付箋	深茶褐色	-	近世		
0448	35土坑	08611区 土坑35	金属製品	鐵	圓方体	長/32	幅/22	厚/21	内・外・窓の付箋	深茶褐色	-	近世?			
0449	37土坑	08611区 土坑35 p-1	石製品	鐵	圓方体	長/144	幅/47	厚/155~15	内・外・窓の付箋	黑褐色	-	近世			
0450	38土坑	08611区	土器	燒造壺	丸形 逆凹型	(6.6)	(6.0)	(2.0)	ろくろ	内・外・窓の付箋	暗褐色	-	~18C中葉 施錫留板余切痕		
0451	KJ1区	土坑38 p-1	土器	燒造壺	丸形 中板面	(11.0)	-	2.5	(6.0)	板づくり	暗褐色	-	泉州	わざかに 施錫留板余切痕	
0452	40土坑	KJ1区 土坑40	土器	中板面	丸形 灯明皿	(8.6)	(7.0)	(1.5)	ろくろ	外・脚文	暗褐色	-	近代		
0453	40土坑	KJ1区 土坑40	土器	中板面	丸形 灯明皿	(16.8)	(9.2)	(2.0)	ろくろ	外・脚文	暗褐色	-	~18C中葉 施錫留板余切痕		
0454	40土坑	KJ1区 土坑40	土器	中板面	把手 U字状	盤/6.7	幅/2.0	厚/0.3	ろくろ	口縁・窓の付箋	暗褐色	-	~18C中葉 施錫留板余切痕		
0455	44土坑	KJ1区 土坑40	金剛輪	金剛輪	把手 U字状	盤/2.4	0.7	0.1	ろくろ	明茶褐色	-	近世	云石通鑑		
0456	44土坑	KJ1区 土坑40	金剛輪	金剛輪	把手 U字状	盤/2.5	0.7	0.1	ろくろ	金剛輪・透明釉	暗褐色	-	1086~ 天祐通鑑		
0457	44土坑	KJ1区 土坑40	金剛輪	金剛輪	把手 U字状	盤/2.5	0.5	0.2	ろくろ	金剛輪・透明釉	暗褐色	-	1587~ 永樂通鑑		
0458	44土坑	KJ1区 土坑40	金剛輪	金剛輪	把手 U字状	盤/2.3	0.6	0.1	ろくろ	金剛輪・透明釉	暗褐色	-			
0459	44土坑	KJ1区 土坑40	金剛輪	金剛輪	把手 U字状	盤/2.4	0.7	0.1	ろくろ	金剛輪・透明釉	暗褐色	-			
0460	44土坑	KJ1区 土坑40	金剛輪	金剛輪	把手 U字状	盤/2.6	3.4	0.1	ろくろ	金剛輪・透明釉	暗褐色	-			
0461	1井戸	(0861)井戸	焰壺	酒杯	丸形	7.0	3.2	3.4	ろくろ	外・脚文	灰褐色	-	更前		
0462	1井戸	(0861)井戸	焰壺	小瓶	丸形	7.5	3.2	3.2	ろくろ	染付・透明釉	灰白色	-	肥前	湖口・美濃	近世
0463	1井戸	(0861)井戸	焰壺	瓶	半圓型	(7.8)	-	-	ろくろ	染付・透明釉	白	-	湖口・美濃	近世	
0464	1井戸	(0861)井戸	焰壺	瓶	半圓型	8.4	(4.2)	-	ろくろ	染付・透明釉	白	-	湖口・美濃	近世	

No	出土遺物名	注記No	種別	器種等	形状等	(口徑)(底面)(高さ)(厚さ)	D	成形	焼付・施釉	施土	結・他	推定度地	製作時期	備考	
0465	1井戸	05611井戸	磁器	中輪	丸形 平底足	10.0 (9.8)	4.0 —	ろくろ	染付・透明釉	灰白色	絞り	肥前	18C- 近世	湖戸・美濃	
0466	1井戸	05611井戸	磁器	中輪	丸形	—	—	ろくろ	染付・透明釉	灰白色	—	湖戸・美濃	19C- 近世	湖戸・美濃	
0467	1井戸	05611井戸	磁器	中輪	丸形	—	3.1	—	ろくろ	染付・透明釉	白色	—	湖戸・美濃	近世	湖戸・美濃
0468	1井戸	05611井戸	磁器	中輪	丸形	—	3.2	—	ろくろ	染付・透明釉	白色	—	湖戸・美濃	近世	湖戸・美濃
0469	1井戸	05611井戸	磁器	中輪	広東形	110.0	6.0	ろくろ	染付・透明釉	白色	—	肥前	近世	湖戸・美濃	
0470	1井戸	05611井戸	磁器	中輪	丸形	—	(4.0)	—	ろくろ	染付・透明釉	灰色	—	湖戸・美濃	近世	湖戸・美濃
0471	1井戸	05611井戸	磁器	中輪	広東形	—	5.0	—	ろくろ	染付・透明釉	白色	—	湖戸・美濃	近世	湖戸・美濃
0472	1井戸	05611井戸	磁器	中輪	広東形	—	(5.0)	—	ろくろ	染付・透明釉	白色	—	湖戸・美濃	近世	湖戸・美濃
0473	1井戸	05611井戸	磁器	中輪	丸形	112.0	5.0	ろくろ	染付・透明釉	白色	—	肥前	18C くわんか	湖戸・美濃	
0474	1井戸	05611井戸	磁器	大輪	喇叭	115.0	6.8	ろくろ	染付・透明釉	白色	—	湖戸・美濃	18C後漢	湖戸・美濃	
0475	1井戸	05611井戸	磁器	小皿	輪花	(10.4)	(6.4)	2.3	ろくろ	染付・透明釉	灰白色	—	肥前	17C後半	蛇の目高台
0476	1井戸	05611井戸	磁器	小皿	丸形	(12.5)	(7.4)	(3.8)	ろくろ	染付・透明釉	灰白色	—	湖戸・美濃	近世	湖戸・美濃
0477	1井戸	05611井戸	磁器	中輪	丸形	—	(7.6)	(3.0)	ろくろ	染付・透明釉	白色	—	湖戸・美濃	近世	湖戸・美濃
0478	1井戸	05611井戸	磁器	皿	五寸皿	(14.4)	(9.4)	3.7	ろくろ	染付・透明釉	灰白色	—	肥前	17C後半	蛇の目高台
0479	1井戸	05611井戸	磁器	大皿	丸形	—	(17.0)	(4.1)	ろくろ	染付・透明釉	白色	—	肥前	近世	湖戸・美濃
0480	1井戸	05611井戸	磁器	丸形	半圓型 神酒器用	(2.1)	6.4	—	ろくろ	染付・透明釉	白色	—	湖戸・美濃	近世	湖戸・美濃
0481	1井戸	05611井戸	磁器	丸形	ラコヨリ・ラコ	—	(4.8)	—	ろくろ	染付・透明釉	白色	—	湖戸・美濃	近世	湖戸・美濃
0482	1井戸	05611井戸	磁器	丸形	ラコヨリ・ラコ	—	(9.0)	—	ろくろ	染付・透明釉	白色	—	湖戸・美濃	近世	湖戸・美濃
0483	1井戸	05611井戸	磁器	合子蓋	丸形	—	(9.0)	—	ろくろ	染付・透明釉	白色	—	湖戸・美濃	近世	湖戸・美濃
0484	1井戸	05611井戸	磁器	蓋物蓋	丸形	(8.7)	—	—	ろくろ	染付・透明釉	白色	—	湖戸・美濃	近世	湖戸・美濃
0485	1井戸	05611井戸	磁器	小瓶	壺折形	(9.0)	—	—	ろくろ	染付・透明釉	白色	—	湖戸・美濃	近世	湖戸・美濃
0486	1井戸	05611井戸	磁器	瓶	丸形	—	4.3	—	ろくろ	染付・透明釉	白色	—	湖戸・美濃	近世	湖戸・美濃
0487	1井戸	05611井戸	磁器	大瓶	半圓型	(12.6)	—	—	ろくろ	染付・透明釉	白色	—	湖戸・美濃	近世	湖戸・美濃
0488	1井戸	05611井戸	磁器	瓶	圓筒形	—	4.1	—	ろくろ	染付・透明釉	白色	—	湖戸・美濃	近世	湖戸・美濃
0489	1井戸	05611井戸	磁器	瓶	圓筒形	9.4	4.1	—	ろくろ	染付・透明釉	白色	—	湖戸・美濃	近代	湖戸・美濃
0490	1井戸	05611井戸	磁器	瓶	圓筒形	14.0	4.0	—	ろくろ	染付・透明釉	白色	—	湖戸・美濃	近世	湖戸・美濃
0491	1井戸	05611井戸	磁器	瓶	圓筒形	14.0	4.0	—	ろくろ	染付・透明釉	白色	—	湖戸・美濃	近世	湖戸・美濃
0492	1井戸	05611井戸	磁器	瓶	圓筒形	14.0	4.0	—	ろくろ	染付・透明釉	白色	—	湖戸・美濃	近世	湖戸・美濃
0493	1井戸	05611井戸	磁器	瓶	圓筒形	14.0	4.0	—	ろくろ	染付・透明釉	白色	—	湖戸・美濃	近世	湖戸・美濃
0494	1井戸	05611井戸	磁器	瓶	圓筒形	14.0	4.0	—	ろくろ	染付・透明釉	白色	—	湖戸・美濃	近世	湖戸・美濃
0495	1井戸	05611井戸	磁器	瓶	圓筒形	—	4.4	—	ろくろ	染付・透明釉	白色	—	湖戸・美濃	近世	湖戸・美濃

No	出土遺構名	注記No	種別	器種等	形状等	法線(cm) (□直角) (△直角) (○直角) (△直角)	成形	施土	焼付・施薬	鉄	他	指定磨出	製作時期	備考
0496	1井戸	05G1井戸	陶器	打削皿	丸形	(3.4) (3.2) 1.4	ろくろ	焼物	文様・施跡	灰	一	網戸・美濃	~18C中葉	常磐系 内側方切込形
0497	1井戸	05G1井戸	陶器	打削皿	丸形	8.4	4.2	1.8	ろくろ	焼物	一	網戸・美濃	~18C中葉	常磐系 内側方切込形
0498	1井戸	05G1井戸	陶器	打削皿	丸形	(28.0) (15.2) (19.0)	ろくろ	焼物	文様・施跡	灰	一	網戸・美濃	18C	常磐系 内側方切込形
0499	1井戸	05G1井戸	陶器	打削皿	丸形	—	8.6	—	ろくろ	焼物	—	網戸・美濃	18C	常磐系 内側方切込形
0500	1井戸	05G1井戸	陶器	打削皿	丸形	—	(14.0)	—	ろくろ	焼物	—	網戸・美濃	18C	常磐系 内側方切込形
0501	1井戸	05G1井戸	陶器	手揉目	楕円形	—	—	—	ろくろ	焼物	—	網戸・美濃	近世?	常磐系 内側方切込形
0502	1井戸	05G1井戸	陶器	手揉目	楕円形	(9.8)	—	—	ろくろ	焼物	—	網戸・美濃	~18C中葉	常磐系 内側方切込形
0503	1井戸	05G1井戸	陶器	打削皿	丸形	—	—	—	ろくろ	焼物	—	網戸・美濃	~18C中葉	常磐系 内側方切込形
0504	1井戸	05G1井戸	陶器	打削皿	丸形	(7.8)	(6.0)	1.6	ろくろ	焼物	—	網戸・美濃	~18C中葉	常磐系 内側方切込形
0505	1井戸	05G1井戸	陶器	打削皿	丸形	(8.8)	(7.0)	2.2	ろくろ	焼物	—	網戸・美濃	~18C中葉	常磐系 内側方切込形
0506	1井戸	05G1井戸	土器	土器	丸形	—	—	—	ろくろ	焼物	—	網戸・美濃	~18C中葉	常磐系 内側方切込形
0507	1井戸	05G1井戸	土器	土器	圓筒形	(28.0)	(26.0)	—	ろくろ	焼物	—	網戸・美濃	~18C中葉	常磐系 内側方切込形
0508	1井戸	05G1井戸	土器	土器	圓筒形	—	—	—	ろくろ	焼物	—	網戸・美濃	~18C中葉	常磐系 内側方切込形
0509	1井戸	05G1井戸	土器	土器	圓筒形	—	13.5	幅/6.1 厚/2.1	削り出し	焼物	—	網戸・美濃	~18C中葉	常磐系 内側方切込形
0510	2井戸	05G2井戸 P-5	陶器	打削皿	丸形	(6.0)	—	—	ろくろ	焼物	—	網戸・美濃	~18C中葉	常磐系 内側方切込形
0511	2井戸	05G2井戸 P-5	陶器	打削皿	丸形	—	—	—	ろくろ	焼物	—	網戸・美濃	~18C中葉	常磐系 内側方切込形
0512	2井戸	05G2井戸	陶器	打削皿	丸形	—	—	—	ろくろ	焼物	—	網戸・美濃	~18C中葉	常磐系 内側方切込形
0513	2井戸	05G2井戸 P-20	陶器	打削皿	丸形	—	(4.5)	—	ろくろ	焼物	—	網戸・美濃	~18C中葉	常磐系 内側方切込形
0514	2井戸	05G2井戸	陶器	打削皿	丸形	—	—	—	ろくろ	焼物	—	網戸・美濃	~18C中葉	常磐系 内側方切込形
0515	2井戸	05G2井戸	陶器	打削皿	丸形	(10.2)	(5.4)	—	ろくろ	焼物	—	網戸・美濃	~18C中葉	常磐系 内側方切込形
0516	2井戸	05G2井戸 P-4	陶器	打削皿	丸形	(11.2)	(5.4)	—	ろくろ	焼物	—	網戸・美濃	~18C中葉	常磐系 内側方切込形
0517	2井戸	05G2井戸	陶器	打削皿	丸形	(10.0)	—	—	ろくろ	焼物	—	網戸・美濃	~18C中葉	常磐系 内側方切込形
0518	2井戸	05G2井戸	陶器	打削皿	丸形	—	(11.2)	—	ろくろ	焼物	—	網戸・美濃	~18C中葉	常磐系 内側方切込形
0519	2井戸	05G2井戸	陶器	打削皿	丸形	—	—	—	ろくろ	焼物	—	網戸・美濃	~18C中葉	常磐系 内側方切込形
0520	2井戸	05G2井戸 P-16	陶器	打削皿	丸形	(7.0)	3.0	1.3	ろくろ	焼物	—	網戸・美濃	~18C中葉	常磐系 内側方切込形
0521	2井戸	05G2井戸 P-21	陶器	打削皿	丸形	(9.9)	(4.8)	1.8	ろくろ	焼物	—	網戸・美濃	~18C中葉	常磐系 内側方切込形
0522	2井戸	05G2井戸 P-22	陶器	打削皿	丸形	—	—	—	ろくろ	焼物	—	網戸・美濃	~18C中葉	常磐系 内側方切込形
0523	2井戸	05G2井戸 P-17	土器	手揉目	楕円形	(10.4)	7.0	1.8	ろくろ	焼物	—	網戸・美濃	~18C中葉	常磐系 内側方切込形
0524	2井戸	05G2井戸	土器	手揉目	楕円形	—	—	—	ろくろ	焼物	—	網戸・美濃	~18C中葉	常磐系 内側方切込形
0525	2井戸	05G2井戸 P-23	瓦	打削皿	丸形	—	—	—	ろくろ	焼物	—	網戸・美濃	~18C中葉	常磐系 内側方切込形
0526	2井戸	05G2井戸	瓦	打削皿	丸形	—	—	—	ろくろ	焼物	—	網戸・美濃	~18C中葉	常磐系 内側方切込形
0527	3井戸	05G3井戸 P-1	陶器	打削皿	丸形	—	—	—	ろくろ	焼物	—	網戸・美濃	~18C中葉	常磐系 内側方切込形
0528	3井戸	05G3井戸	石臼	打削皿	丸形	—	—	—	ろくろ	焼物	—	網戸・美濃	~18C中葉	常磐系 内側方切込形
0529	6井戸	05G6井戸	土器	手揉目	楕円形	(11.0)	(6.0)	—	ろくろ	焼物	—	網戸・美濃	近世?	常磐系 内側方切込形
0530	6井戸	05G6井戸	土器	手揉目	楕円形	—	—	—	ろくろ	焼物	—	網戸・美濃	近世?	常磐系 内側方切込形
0531	6井戸	05G6井戸	万力2段目	手揉目	楕円形	—	—	—	ろくろ	焼物	—	網戸・美濃	近世?	常磐系 内側方切込形
0532	7井戸	05G7井戸	磁器	小瓶	丸形	(7.9)	(3.0)	4.2	ろくろ	焼物	—	網戸・美濃	~18C中葉	常磐系 内側方切込形
0533	7井戸	05G7井戸	磁器	小瓶	丸形	(7.4)	—	—	ろくろ	焼物	—	網戸・美濃	~18C中葉	常磐系 内側方切込形
0534	7井戸	05G7井戸	磁器	小瓶	丸形	(7.4)	(3.6)	—	ろくろ	焼物	—	網戸・美濃	~18C中葉	常磐系 内側方切込形

No	出土遺物名	注記No	種別	器種等	形状等	法線(cm) (口径部)(底面部)(高さ部)(幅面部)	成形	繪・墨		施土	絵	他	指定度地	製作時期	備考
								A	B	C	D				
0535	7戸	05647井戸	磁器	中碗	半圓型	— (4.5)	—	ろくろ	染付・透明釉	外・輪唐草文	白	二重笠内 網戸・美濃	18C~19C		
0536	7戸	05647井戸	磁器	小皿	輪花	(13.4)	(8.0)	ろくろ	染付・透明釉	外・唐草文 内・櫻竹文	灰色	—	網戸・美濃	18C~19C	
0537	7戸	05647井戸	磁器	小皿	長皿	—	(2.2)	壓印	染付・透明釉	外・山文 内・山文	白色	—	近世	内面に施だらの痕跡	
0538	7戸	05647井戸	磁器	神酒器利	らっこうよう形	—	—	ろくろ	染付・透明釉	外・格子目文	灰色	—	網戸・美濃	18C~19C	
0539	7戸	05647井戸	磁器	量物器	丸形	(8.8)	—	ろくろ	染付・透明釉	外・草花文 内・山文	白色	—	網戸・美濃	18C~19C	
0540	7戸	05647井戸	磁器	小碗	丸形	(8.8)	(2.6)	ろくろ	染付・透明釉	外・松文	灰色	—	網戸・美濃	18C~19C	裏面に+の墨書き
0541	7戸	05647井戸	磁器	小碗	瓣形	(8.8)	3.4	ろくろ	染付・透明釉	外・松文	灰色	—	網戸・美濃	18C~19C	
0542	7戸	05647井戸	磁器	大鉢	—	(30.0)	—	ろくろ	自己・透明釉	内・三島手心印押	赤茶褐色	—	近世		
0543	7戸	05647井戸	陶器	口縁三段	口縁	(33.0)	—	ろくろ	内・擦目	緑褐色	—	屏風石系	近世		
0544	7戸	05647井戸	陶器	滑鉢	滑鉢	—	(10.0)	ろくろ	内・擦目	灰褐色	—	屏風石系	近世		
0545	7戸	05647井戸	陶器	滑鉢	滑鉢	—	(15.0)	ろくろ	内・擦目	灰褐色	—	屏風石系	近世		
0546	7戸	05647井戸	陶器	滑鉢	滑鉢	—	(19.0)	ろくろ	内・擦目	赤褐色	—	屏風石系	近世		
0547	7戸	05647井戸	陶器	滑鉢	滑鉢	—	—	ろくろ	内・擦目	灰褐色	—	屏風石系	近世		
0548	7戸	05647井戸	陶器	滑鉢	滑鉢	—	—	ろくろ	内・擦目	灰褐色	—	屏風石系	近世		
0549	7戸	05647井戸	陶器	滑鉢	滑鉢	—	—	ろくろ	内・擦目	赤褐色	—	屏風石系	近世		
0550	7戸	05647井戸	陶器	滑鉢	滑鉢	—	—	ろくろ	内・擦目	赤褐色	—	屏風石系	近世		
0551	7戸	05647井戸	土器	ひらひら形	小丸形	5.2	4.0	ろくろ	内・擦目	赤褐色	—	屏風石系	近世		
0552	7戸	05647井戸	土器	ひらひら形	小丸形	(6.0)	(4.4)	ろくろ	内・擦目	赤褐色	—	屏風石系	近世		
0553	7戸	05647井戸	土器	ひらひら形	小丸形	(6.4)	(4.8)	ろくろ	内・擦目	赤褐色	—	屏風石系	近世		
0554	7戸	05647井戸	土器	ひらひら形	小丸形	6.4	4.7	ろくろ	内・擦目	赤褐色	—	屏風石系	近世		
0555	7戸	05647井戸	土器	ひらひら形	小丸形	7.8	5.6	ろくろ	内・擦目	赤褐色	—	屏風石系	近世		
0556	7戸	05647井戸	土器	ひらひら形	丸形	(9.2)	6.4	ろくろ	内・擦目	赤褐色	—	屏風石系	近世		
0557	7戸	05647井戸	土器	打削頭	丸形	(9.0)	6.4	ろくろ	内・擦目	赤褐色	—	屏風石系	近世		
0558	7戸	05647井戸	土器	打削頭	丸形	(9.2)	6.5	ろくろ	内・擦目	赤褐色	—	屏風石系	近世		
0559	7戸	05647井戸	土器	打削頭	丸形	(9.2)	6.3	ろくろ	内・擦目	赤褐色	—	屏風石系	近世		
0560	7戸	05647井戸	土器	打削頭	丸形	(6.0)	5.5	ろくろ	内・擦目	赤褐色	—	屏風石系	近世		
0561	7戸	05647井戸	土器	打削頭	丸形	8.4	5.5	ろくろ	内・擦目	赤褐色	—	屏風石系	近世		
0562	7戸	05647井戸	土器	打削頭	丸形	(6.0)	6.2	ろくろ	内・擦目	赤褐色	—	屏風石系	近世		
0563	7戸	05647井戸	土器	土壓器	内・牛形	6.0	3.2	ろくろ	内・擦目	赤褐色	—	屏風石系	近世		
0564	7戸	05647井戸	土器	土壓器	中碗	20.5	29.3	ろくろ	内・擦目	赤褐色	—	屏風石系	近世		
0565	8井戸	05648井戸内	磁器	中碗	丸形	10.0	4.0	ろくろ	染付・透明釉	外・雷紋繪文	絵あり	漆生見	18C~19C くわんか		
0566	8井戸	05648井戸内	磁器	碗	碗	(7.7)	(5.6)	ろくろ	内・擦目	赤褐色	—	屏風石系	近世		
0567	9井戸	05649井戸	陶器	小形	—	—	—	ろくろ	内・擦目	赤褐色	—	屏風石系	近世		
0568	9井戸	05649井戸	陶器	小形	—	—	—	ろくろ	内・擦目	赤褐色	—	屏風石系	近世		
0569	9井戸	05649井戸	陶器	小形	—	—	(10.0)	ろくろ	内・擦目	赤褐色	—	屏風石系	近世		
0570	9井戸	05649井戸	陶器	中碗	丸形	(10.3)	—	ろくろ	内・擦目	赤褐色	—	屏風石系	近世		
0571	11井戸	05651井戸	陶器	中碗	丸形	(10.0)	(4.8)	ろくろ	内・擦目	赤褐色	—	屏風石系	18C~19C		
0572	11井戸	05651井戸	陶器	打削頭	丸形	1.9	—	ろくろ	内・擦目	赤褐色	—	屏風石系	18C~19C		
0573	11井戸	05651井戸	陶器	打削頭	丸形	(11.4)	—	—	内・擦目	赤褐色	—	屏風石系	18C~19C		
0574	11井戸	05651井戸	陶器	打削頭	丸形	6.3	1.6	ろくろ	内・擦目	赤褐色	—	屏風石系	18C~19C		
0575	11井戸	05651井戸	陶器	打削頭	丸形	6.2	5.0	ろくろ	内・擦目	赤褐色	—	屏風石系	18C~19C		
0576	11井戸	05651井戸	陶器	打削頭	丸形	(10.6)	—	ろくろ	内・擦目	赤褐色	—	屏風石系	18C~19C		
0577	11井戸	05651井戸	陶器	打削頭	丸形	—	—	ろくろ	内・擦目	赤褐色	—	屏風石系	18C~19C		
0578	11井戸	05651井戸	陶器	打削頭	丸形	—	—	ろくろ	内・擦目	赤褐色	—	屏風石系	18C~19C		
0579	11井戸	05651井戸	木製品	平形	平形	10.0	5.4	ろくろ	内・擦目	赤黒	絵あり	漆生見	漆生見上げ	漆は漆塗上げ	

No	出土遺物名	注記No	種別	器種等	形状等	(口部)(底面) (直徑)(深さ)	D (直徑)(深さ)	成形	施釉	焼付・施釉	焼付	他	指定書地	製作時期	備考
0580	11井戸	05611井戸	木製品	漆器 (漆器)	平形	10.4 (5.4)	—	ろくろ削り	漆黒	—	—	—	近世	近世	
0581	11井戸	05611井戸	木製品	漆器 (漆器)	平形	—	—	ろくろ削り	漆黒	—	—	—	近世	近世	
0582	石塼 2 前	05611区 石塼 2 前	磁器	碗	丸形	—	—	ろくろ削り	漆黒	—	—	—	近代	近代	
0583	石塼 2 前	05611区 石塼 2 前	磁器	小皿	丸形	8.0 (11.8)	— (11.0) (1.8)	ろくろ	外:二重圓錐 内:薄唇文 外:みじん薄唇文	白色	—	湖戸・美濃	湖戸・美濃	近代	
0584	石塼 2 前	05611区 石塼 2 前	磁器	丸皿	丸形	—	—	ろくろ	外:二重圓錐 内:薄唇文 外:みじん薄唇文	白色	—	肥前	肥前	?	
0585	石塼 2 前	05611区 石塼 2 前	切子盤	丸形	—	6.0 (6.0)	—	ろくろ	外:二重圓錐 内:薄唇文	白色	—	—	近代	近代	
0586	石塼 2 前	05611区 石塼 2 前	切子盤	丸形	—	—	—	ろくろ	外:二重圓錐 内:薄唇文	白色	—	—	近代	近代	
0587	石塼 2 前	05611区 石塼 2 前	磁器	茶葉用乳鉢	圓方体	33.9	23.6 2.9	型	コバルト 透明釉	外:数字	白色	倣唐參	美濃	近代	適用新規第一三 高井式検査用鉢 高井中瀬
0588	石塼 2 前	05611区 石塼 2 前	陶器	鍋縁鉢	小形	—	—	ろくろ	鉄輪	外:墨文	—	—	湖戸・美濃	湖戸・美濃	近代
0589	石塼 2 前	05611区 石塼 2 前	陶器	土瓶	榊形	13.8 (5.4)	— (10.6) (8.3)	ろくろ	透明釉・茶・綠・褐	黃灰色	—	京・信楽窯?	京・信楽窯?	近代	同一個体上複数色ある O551
0590	石塼 2 前	05611区 石塼 2 前	陶器	土瓶	丸形	—	—	ろくろ	透明釉・コバルト	白色	—	—	湖戸・美濃	湖戸・美濃	近代
0591	石塼 2 前	05611区 石塼 2 前	陶器	土瓶	丸形	—	—	ろくろ	透明釉・手掻毛	灰黑色	—	京・信楽窯?	京・信楽窯?	近代	同一個体上複数色ある O559
0592	石塼 2 前	05611区 石塼 2 前	陶器	土瓶	丸形	5.4 (16.8)	— (6.8)	ろくろ	透明釉・手掻毛	白色	—	—	—	—	墨絵調板糸切瓶 三足
0593	石塼 2 前	05611区 石塼 2 前	陶器	行平	丸形	—	—	ろくろ	透明釉	白色	—	—	—	—	近代
0594	石塼 2 前	05611区 石塼 2 前	陶器	行平	丸形	—	—	ろくろ	透明釉	白色	—	—	湖戸・美濃	湖戸・美濃	近代
0595	石塼 2 前	05611区 石塼 2 前	陶器	行平	丸形	—	—	ろくろ	透明釉	白色	—	—	湖戸・美濃	湖戸・美濃	近代
0596	石塼 2 前	05611区 石塼 2 前	陶器	片口	丸形	13.4 (8.4)	6.6	ろくろ	透明釉	白色	—	—	—	—	削り出し高台
0597	石塼 2 前	05611区 石塼 2 前	陶器	酒器	丸形	(32.0)	—	ろくろ	透明釉	黃灰色	—	—	—	—	近代
0598	石塼 2 前	05611区 石塼 2 前	瓦質土器	楕木鉢	楕形	19.8 (14.3)	12.0	ろくろ	黑輪	黑色	—	—	19C	19C	
0599	石塼 2 前	05611区 石塼 2 前	土器	楕木鉢	楕形	14.0	—	ろくろ	—	暗褐色	—	—	19C?	19C?	
0600	石塼 2 前	05611区 石塼 2 前	ガラス器皿	瓶	円筒形	4.6	3.8 (2.6)	型	透明釉	透明釉	—	—	近代	—	A.IIOMOTO
0601	石塼 2 前	05611区 石塼 2 前	ガラス器皿	瓶	丸形	—	—	ろくろ	透明釉・上給 内:茶字文	白色	倣唐參	透明	透明	2	
0602	圓洗拂	05611区 19	磁器	酒杯	酒杯丸形	5.8	2.4 (2.0) (2.6)	ろくろ	透明釉・コバルト	白色	絞り	絞り	19C?	19C?	
0603	圓洗拂	05611区 19	磁器	酒杯	酒杯丸形	—	—	ろくろ	透明釉・外:手撥毛	白色	絞り	絞り	19C	19C	
0604	圓洗拂	05611区 19	磁器	小杯	丸形	6.4	2.6 (2.6)	ろくろ	透明釉	白色	—	内:紫墨文	肥前	肥前	
0605	圓洗拂	05611区 19	磁器	小杯	丸形	6.4	2.6 (2.6)	ろくろ	外:青花文 内:紫墨文	白色	—	外:青花文 内:紫墨文	肥前	肥前	

No.	出土遺物名	注記No	種別	器種等	形状等	法線(cm) (□直角) (△直角) (○直角) (△直角)			成形	繪	施土	絵	他	指定原地	製作時期	備考		
						A	B	C										
0606	圓洗遺構	06C1区-105 洗11K-105	磁器	小杯	丸形	6.4	2.5	4.0	ろくろ	染付・輪裏	白	絵あり	湘戸・美濃	波佐見	~19C中葉	くわんか		
0607	圓洗遺構	06C1区-19 洗1K-19	磁器	中碗	丸形	—	—	—	ろくろ	染付・透明釉	外・青花文	絵あり	湘戸・美濃	波佐見	~19C中葉	くわんか		
0608	圓洗遺構	06C1区-19 洗1K-19	磁器	小碗	端反?	—	3.2	—	ろくろ	染付・透明釉	内・一重圓錐	白	絵あり	湘戸・美濃	波佐見	~19C中葉	くわんか	
0609	圓洗遺構	06C1区-71 洗1P-71	磁器	中碗	丸形	—	(3.2)	—	ろくろ	染付・透明釉	内外・二重圓錐	白	絵あり	湘戸・美濃	波佐見	~19C中葉	くわんか	
0610	圓洗遺構	06C1区-19 洗1K-19	磁器	中碗	丸形	—	3.8	—	ろくろ	染付・透明釉	外・青花文	白	絵あり	湘戸・美濃	波佐見	~19C中葉	くわんか	
0611	圓洗遺構	06C1区-134 洗1P-134	磁器	中碗	端反	11.1	4.4	6.1	ろくろ	染付・透明釉	内・青花文(底) 外・青花文(口)	白	絵あり	湘戸・美濃	波佐見	19C中葉~後期	くわんか	
0612	圓洗遺構	06C1区-19 洗1P-42	磁器	中碗	丸形	(11.1)	—	—	ろくろ	染付・透明釉	内・青花文(口)	白	絵あり	湘戸・美濃	波佐見	~19C中葉	くわんか	
0613	圓洗遺構	06C1区-19 洗1P-19	磁器	中碗	丸形	(10.0)	—	—	ろくろ	染付・透明釉	外・青花文	白	絵あり	湘戸・美濃	波佐見	~19C中葉	くわんか	
0614	圓洗遺構	06C1区-145 洗1P-145	磁器	中碗	丸形	—	3.8	—	ろくろ	染付・透明釉	見込・花弁文	白	絵あり	湘戸・美濃	波佐見	18C~19C?	くわんか	
0615	圓洗遺構	06C1区-K-19 洗1P-121	磁器	大碗	丸形	14.8	4.2	6.5	ろくろ	染付・透明釉	内・四方唐草文 外・唐草文	白	絵あり	湘戸・美濃	波佐見	近世	くわんか	
0616	圓洗遺構	06C1区-K-19 洗1P-108	磁器	皿	輪花	12.8	7.4	3.7	ろくろ	染付・透明釉	外・唐草文 内・みじん唐草文 外・唐草文	白	成化年款?	湘戸・美濃	波佐見	近世	くわんか	
0617	圓洗遺構	06C1区-131 洗1P-132	磁器	皿	丸形	(13.8)	7.9	3.9	ろくろ	染付・透明釉	外・唐草文	白	絵あり	湘戸・美濃	波佐見	~19C中葉	くわんか	
0618	圓洗遺構	06C1区-K-19 洗1P-19	磁器	中鉢	輪花	(14.0)	—	—	ろくろ	染付・透明釉	内・青花文	白	絵あり	湘戸・美濃	波佐見	近世	くわんか	
0619	圓洗遺構	06C1区-K-19 洗1P-108	磁器	大碗	丸形	—	—	—	ろくろ	染付・透明釉	内・五瓣花文 (内・青花山形)	白	絵あり	湘戸・美濃	波佐見	18C~19C中葉	くわんか	
0620	圓洗遺構	06C1区-77 洗1P-77	磁器	皿	丸形	—	10.2	—	ろくろ	染付・透明釉	内・青花文 (内・青花文)	白	二重鉢内 二重鉢内	波佐見	~19C中葉	くわんか		
0621	圓洗遺構	06C1区-78 洗1P-78	磁器	製油瓶	—	—	3.2	—	7.5	ろくろ	透明釉	白	絵あり	湘戸・美濃	波佐見	近世	くわんか	
0622	圓洗遺構	06C1区-K-19	磁器	神酒匙	うつまうた	—	4.2	—	6.5	ろくろ	染付・透明釉	外・娘唐草文 新菊文	白	絵あり	湘戸・美濃	波佐見	~19C中葉	くわんか
0623	圓洗遺構	06C1区-K-19	磁器	神酒匙	うつまうた	—	(2.6)	—	3.6	ろくろ	染付・透明釉	外・海鶴文	白	絵あり	湘戸・美濃	波佐見	近世	くわんか
0624	圓洗遺構	06C1区-K-19	磁器	神酒匙	うつまうた	—	—	—	6.0	ろくろ	染付・透明釉	外・娘唐草文	白	絵あり	湘戸・美濃	波佐見	近世	くわんか
0625	圓洗遺構	06C1区-K-19	磁器	神酒匙	うつまうた	—	—	—	8.0	ろくろ	染付・透明釉	外・娘唐草文	白	絵あり	湘戸・美濃	波佐見	近世	くわんか
0626	圓洗遺構	06C1区-K-19 洗1P-1	磁器	神酒匙	うつまうた	—	—	—	ろくろ	染付・透明釉	外・娘唐草文・模	白	絵あり	湘戸・美濃	波佐見	~19C中葉	くわんか	
0627	圓洗遺構	06C1区-P-41 洗1P-41	磁器	神酒匙	うつまうた	—	—	—	ろくろ	染付・透明釉	外・娘唐草文	白	絵あり	湘戸・美濃	波佐見	~19C中葉	くわんか	
0628	圓洗遺構	K19N1 P-142	磁器	粉盒	半圓型	(1.8)	6.2	—	ろくろ	染付・透明釉	外・娘唐草文	白	絵あり	湘戸・美濃	波佐見	近世	くわんか	
0629	圓洗遺構	K19N1 P-142	磁器	粉盒	半圓型	(12.8)	—	—	ろくろ	染付・透明釉	外・娘唐草文	白	絵あり	湘戸・美濃	波佐見	近世	くわんか	

No	出土遺物名	注記No	種別	器種等	形状等	(幅)(cm) (口(高)面(底))	(B) (底面)	C (側面)	D (裏面)	成形	輪	縫合・輪面	文様・縫跡	鉢身・縫跡	鉢底	他	指定書地	製作時期	備考
0630	圓洗遺構	06C1区 K19池1	切目	鉢	平盤型	—	—	—	—	ろくろ	透明釉・コバルト	青斑釉	外・網底文	白色	—	—	19C.		
0631	圓洗遺構	06C1区 K19池1	切目	鉢	中碗盤	9.4	3.7	2.8	—	ろくろ	染付・透明釉	外・縫合・單文	白色	—	—	—	近世		
0632	圓洗遺構	06C1区 池P-79	切目	中碗盤	(9.4)	3.6	(2.7)	—	ろくろ	染付・透明釉	外・縫合・單文	白色	大化年製	—	—	19C.			
0633	圓洗遺構	06C1区 池P-118	切目	中碗盤	(9.2)	3.8	2.7	—	ろくろ	染付・透明釉	外・縫合・單文	白色	大化年製	—	—	19C.			
0634	圓洗遺構	06C1区 K19	切目	中碗盤	(9.4)	3.6	(2.7)	—	ろくろ	染付・透明釉	内・单方縁 單文	外・单方縁 單文	白色	—	—	19C.			
0635	圓洗遺構	06C1区 池P-101	切目	中碗盤	(11.4)	—	—	—	ろくろ	染付・透明釉	外・網底文	白色	—	—	—	19C.			
0636	圓洗遺構	06C1区 池P-102	切目	中碗盤	(6.6)	—	—	1.7	(6.7)	ろくろ	染付・透明釉	外・單底文	白色	—	—	19C.			
0637	圓洗遺構	06C1区 池P-130	切目	中碗盤	丸形	—	2.5	6.8	ろくろ	染付・透明釉	外・單底文	白色	—	—	湖口・美濃	19C.			
0638	圓洗遺構	06C1区 池P-119	切目	中碗盤	取り皿	—	3.9	—	5.0	盤押	染付・透明釉	内・縫合	白色	—	—	19C.			
0639	圓洗遺構	06C1区 池P-119	切目	中碗盤	取り皿	—	3.9	—	5.0	盤押	染付・透明釉	内・縫合	白色	—	—	19C.			
0640	圓洗遺構	06C1区 池P-119	切目	中碗盤	丸形	5.5	3.6	5.4	—	ろくろ	染付・透明釉	外・網底文	白色	—	—	19C.			
0641	圓洗遺構	06C1区 池P-119	切目	中碗盤	仏瓶形	—	4.0	—	ろくろ	染付・透明釉	外・網底文	白色	—	—	肥前	~19C.の間	船高台		
0642	圓洗遺構	06C1区 池P-56	切目	中碗盤	仏瓶形	—	—	—	—	ろくろ	透明釉	—	白色	—	—	19C.	船高台		
0643	圓洗遺構	06C1区 池P-119	切目	中碗盤	ボタン形	1.9	—	0.7	1.9	盤押	透明釉	—	白色	—	—	近代			
0644	圓洗遺構	06C1区 池P-119	切目	中碗盤	ボタン形	1.9	—	0.6	1.9	盤押	透明釉	—	白色	—	—	近代			
0645	圓洗遺構	06C1区 池P-119	切目	中碗盤	ボタン形	2.0	—	0.6	2.0	盤押	透明釉	—	白色	—	—	近代			
0646	圓洗遺構	06C1区 池P-119	切目	中碗盤	ボタン形	1.8	—	0.6	1.8	盤押	透明釉	—	白色	—	—	近代			
0647	圓洗遺構	06C1区 池P-119	切目	中碗盤	ボタン形	(1.8)	—	0.6	(1.8)	盤押	透明釉	—	白色	—	—	近代			
0648	圓洗遺構	06C1区 池P-113	陶器	小瓶	丸形	(7.0)	3.6	3.5	ろくろ	灰釉	—	灰色	—	—	?				
0649	圓洗遺構	06C1区 K19池1	陶器	おろし皿	楕円	(6.4)	(3.8)	(1.4)	ろくろ	灰釉	—	真灰色	—	—	近世	近世			
0650	圓洗遺構	06C1区 K19	陶器	透利	楕円	—	5.0	—	ろくろ	灰釉	—	真灰色	—	—	周口	19C.			
0651	圓洗遺構	06C1区 K-19池1	陶器	角皿	丸形	—	(8.0)	(13.1)	ろくろ	透明釉	他	淡青色	—	—	甚子	19C.			
0652	圓洗遺構	7池P-67	陶器	土瓶	丸形	7.2	—	—	14.1	ろくろ	透明釉・白質	淡青色	—	—	19C.後半	0653-2セント前後			
0653	圓洗遺構	7池P-146	陶器	土瓶	平底	6.2	—	3.8	7.6	ろくろ	透明釉・白質	黃褐色	—	—	19C.後半	0653-2セント前後			
0654	圓洗遺構	池P-96	陶器	土瓶	土瓶	6.4	—	4.0	8.7	ろくろ	透明釉・白質	黃褐色	—	甚子	19C.				
0655	圓洗遺構	06C1区 池P-76	陶器	中水注置	—	3.3	—	1.2	5.0	ろくろ	透明釉	淡青色	—	—	19C.				
0656	圓洗遺構	06C1区 池P-119	陶器	土瓶	土瓶	9.5	4.8	2.2	ろくろ	白泥・2施	灰色	—	—	—	近世	高麗同款系切削			
0657	圓洗遺構	06C1区 池P-119	陶器	土瓶	土瓶	4.3	4.7	1.9	6.4	ろくろ	白泥・2施	灰色	—	—	近世	燒成の			

No.	出土遺物名	注記No	種別	経緯等	形状等	法面(cm) (□底面) (△側面) (○頂面) (■裏面)			成形	焼付・施釉	施土色調	結他	鉢底度地	製作時期	備考
						A	B	C							
0658	圓洗遺構	06KJ1区 1池P-114	陶器	壺形	壺形	-	(14.6)	-	ろくろ		赤褐色	-	界-明石系	~19C-古墳	
0659	圓洗遺構	06KJ1区 1池J-19池1	陶器	壺形	壺形	-	(6.4)	-	ろくろ		灰褐色	-	湘戸-美濃	近世	
0660	圓洗遺構	06KJ1区 1池J-19池1	陶器	壺形	壺形	-	5.0	-	ろくろ		灰褐色	-	湘戸-美濃	近世	
0661	圓洗遺構	06KJ1区1区池1	陶器	壺形	小形	-	-	-	ろくろ		灰褐色	-	湘戸-美濃	~19C	見出目跡
0662	圓洗遺構	06KJ1区 1池P-72	陶器	壺形	壺形	-	(9.6)	-	ろくろ		灰褐色	-	湘戸-美濃	~19C	
0663	圓洗遺構	06KJ1区 1池P-129	陶器	壺形	丸形	40	3.0	3.1	ろくろ		灰色	-	湘戸-美濃	~19C	
0664	圓洗遺構	06KJ1区 1池P-96	陶器	壺形	丸形	46	-	-	ろくろ		灰色	-	湘戸-美濃	~19C	
0665	圓洗遺構	06KJ1区 K-19池1	陶器	壺形	壺形	-	(3.6)	-	ろくろ		灰色	-	湘戸-美濃	~19C	
0666	圓洗遺構	06KJ1区K-19	陶器	壺形	壺形	-	(4.0)	-	ろくろ		灰色	-	湘戸-美濃	~19C	
0667	圓洗遺構	06KJ1区 1池P-117	陶器	壺形	丸形	7.0	2.8	1.7	ろくろ		灰白色	-	湘戸-美濃	~19C	常滑系
0668	圓洗遺構	06KJ1区 1池P-35	陶器	壺形	丸形	6.8	3.2	1.8	ろくろ		灰色	-	湘戸-美濃	~19C	常滑系
0669	圓洗遺構	06KJ1区 1池P-122	陶器	壺形	丸形	7.2	3.0	1.3	ろくろ		灰色	-	湘戸-美濃	~19C	常滑系
0670	圓洗遺構	06KJ1区 1池P-36	陶器	壺形	丸形	7.2	2.8	1.3	ろくろ		灰褐色	-	湘戸-美濃	~19C	常滑系
0671	圓洗遺構	06KJ1区 1池P-115	陶器	壺形	丸形	7.2	3.2	1.3	ろくろ		灰色	-	湘戸-美濃	~19C	常滑系
0672	圓洗遺構	06KJ1区 K-19	陶器	壺形	丸形	7.2	3.0	1.3	ろくろ		灰色	-	湘戸-美濃	~19C	常滑系
0673	圓洗遺構	06KJ1区J-19	陶器	壺形	丸形	(6.8)	(3.0)	1.5	ろくろ		灰色	-	湘戸-美濃	~19C	常滑系
0674	圓洗遺構	06KJ1区J-19	陶器	壺形	丸形	7.8	3.8	2.0	ろくろ		灰色	-	湘戸-美濃	~19C	常滑系
0675	圓洗遺構	06KJ1区 1池P-143	陶器	壺形	丸形	7.2	3.4	1.4	ろくろ		灰色	-	湘戸-美濃	~19C	常滑系
0676	圓洗遺構	J-133-82	陶器	壺形	丸形	7.6	3.0	1.65	ろくろ		灰色	-	信楽	~19C	常滑系
0677	圓洗遺構	06KJ1区池1	陶器	壺形	丸形	9.6	4.3	2.0	ろくろ		灰色	-	湘戸-美濃	~19C	常滑系
0678	圓洗遺構	06KJ1区J-19	陶器	壺形	丸形	(7.4)	(3.4)	(1.6)	ろくろ		灰色	-	湘戸-美濃	~19C	常滑系
0679	圓洗遺構	06KJ1区 J-19池1	陶器	壺形	丸形	(9.8)	-	-	ろくろ		灰色	-	湘戸-美濃	~19C	常滑系
0680	圓洗遺構	06KJ1区 1池P-68	陶器	照明器	丸形	6.8	3.1	1.5	ろくろ		灰色	-	湘戸-美濃	~19C	常滑系
0681	圓洗遺構	06KJ1区 1池P-93	陶器	照明器	丸形	6.8	3.0	1.7	ろくろ		灰色	-	湘戸-美濃	~19C	常滑系
0682	圓洗遺構	06KJ1区 1池P-125	陶器	照明器	丸形	7.0	3.0	1.5	ろくろ		灰色	-	湘戸-美濃	~19C	常滑系
0683	圓洗遺構	06KJ1区 1池P-144	陶器	照明器	丸形	9.2	4.0	2.3	ろくろ		灰色	-	湘戸-美濃	~19C	常滑系
0684	圓洗遺構	06KJ1区 1池P-97	陶器	照明器	丸形	6.8	3.2	1.6	ろくろ		灰色	-	湘戸-美濃	~19C	常滑系

No	出土遺物名	注記No	種別	器種等	形状等	法線(cm) (口幅(幅)) △(底面(底面)) □(側面(側面)) C D (高さ(高さ)) (厚さ(厚さ))	成形	被 燃		焼土	鉢 他	特定遺物	製作時期	調査	
								横付・輪面	輪付						
0685	圓洗通溝	064J1区K-19	陶器	光明透型	丸形	(38) -	-	ろくろ	輪付	灰色	-	網戸・美濃	18C中期	常磐系	
0686	圓洗通溝	064J1区 19地P-135	陶器	光明透型	丸形	6.8	3.0	1.7	ろくろ	輪付	灰色	-	網戸・美濃	18C中期	常磐系
0687	圓洗通溝	064J1区地1	陶器	光明透型	丸形	9.2	4.0	2.0	ろくろ	輪付	灰色	-	網戸・美濃	18C中期	常磐系
0688	圓洗通溝	064J1区地1K-19	陶器	縞	△ニチユコ7	6.0	2.6	2.2	ろくろ	輪付	灰色	-	網戸・美濃	18C中期	常磐系
0689	圓洗通溝	064J1区 19地1	陶器	縞	△ニチユコ7	-	(2.6)	-	ろくろ	輪付	灰色	-	網戸・美濃	18C中期	常磐系
0690	圓洗通溝	064J1区 19地P-126	土製品	窓形	窓形 長/1.6 幅/1.8 厚/0.3	窓形 長/1.6 幅/1.8 厚/0.3	窓形 長/1.6 幅/1.8 厚/0.3	窓形 長/1.6 幅/1.8 厚/0.3	窓形	網附透付	灰色	-	網附透付	18C中期	近世
0691	圓洗通溝	064K-10地11区 19地P-46	土製品	窓人形	窓人形	窓人形	窓人形	窓人形	窓人形	窓付	灰色	-	網附透付	18C中期	近世
0692	圓洗通溝	064K-10地11区 19地P-46	土製品	窓人形	窓人形	窓人形	窓人形	窓人形	窓人形	窓付	灰色	-	網附透付	18C中期	近世
0693	圓洗通溝	064J1区 19地1	土器	普通	普通	普通	普通	普通	普通	普通	灰色	-	明赤褐色	-	近世
0694	圓洗通溝	064J1区 19地1	土器	普通	普通	普通	普通	普通	普通	普通	灰色	-	明赤褐色	-	近世
0695	圓洗通溝	064K1区 地1	土器	普通	普通	普通	普通	普通	普通	普通	灰色	-	明赤褐色	-	近世
0697	圓洗通溝	064K1区 地1	土器	普通	普通	普通	普通	普通	普通	普通	灰色	-	明赤褐色	-	近世
0698	圓洗通溝	064K-19地1	土器	普通	普通	普通	普通	普通	普通	普通	灰色	-	明赤褐色	-	近世
0699	圓洗通溝	064J1区 19地1	土器	普通	普通	普通	普通	普通	普通	普通	灰色	-	明赤褐色	-	近世
0700	圓洗通溝	064J1区 19地1	土器	普通	普通	普通	普通	普通	普通	普通	灰色	-	明赤褐色	-	近世
0701	圓洗通溝	064J1区 19地1	土器	普通	普通	普通	普通	普通	普通	普通	灰色	-	明赤褐色	-	近世
0702	圓洗通溝	064J1区 -17	土器	普通	普通	普通	普通	普通	普通	普通	灰色	-	明赤褐色	-	近世
0703	圓洗通溝	064J1区 -17	土器	普通	普通	普通	普通	普通	普通	普通	灰色	-	明赤褐色	-	近世
0704	圓洗通溝	064J1区 -17	土器	普通	普通	普通	普通	普通	普通	普通	灰色	-	明赤褐色	-	近世
0705	圓洗通溝	064J1区 -17	土器	普通	普通	普通	普通	普通	普通	普通	灰色	-	明赤褐色	-	近世
0706	圓洗通溝	064J1区 -17	土器	普通	普通	普通	普通	普通	普通	普通	灰色	-	明赤褐色	-	近世
0707	圓洗通溝	064J1区 -17	土器	普通	普通	普通	普通	普通	普通	普通	灰色	-	明赤褐色	-	近世
0708	圓洗通溝	064J1区 -17	土器	普通	普通	普通	普通	普通	普通	普通	灰色	-	明赤褐色	-	近世
0709	圓洗通溝	064J1区 -17	土器	普通	普通	普通	普通	普通	普通	普通	灰色	-	明赤褐色	-	近世
0710	圓洗通溝	064J1区 -17	土器	普通	普通	普通	普通	普通	普通	普通	灰色	-	明赤褐色	-	近世
0711	圓洗通溝	064J1区 -17	土器	普通	普通	普通	普通	普通	普通	普通	灰色	-	明赤褐色	-	近世
0712	圓洗通溝	064J1区 -17	土器	普通	普通	普通	普通	普通	普通	普通	灰色	-	明赤褐色	-	近世
0713	圓洗通溝	064J1区 -17	土器	普通	普通	普通	普通	普通	普通	普通	灰色	-	明赤褐色	-	近世
0714	圓洗通溝	064J1区 -17	土器	普通	普通	普通	普通	普通	普通	普通	灰色	-	明赤褐色	-	近世
0715	圓洗通溝	064J1区 -17	土器	普通	普通	普通	普通	普通	普通	普通	灰色	-	明赤褐色	-	近世
0716	圓洗通溝	064J1区 -17	土器	普通	普通	普通	普通	普通	普通	普通	灰色	-	明赤褐色	-	近世

No.	出土遺物名	注記No	種別	経緯等	形状等	法線(cm) (□直角) (直角斜) (直角)			成形	焼付・施薬	焼付・施薬地	焼付時間	備考
						A	B	C					
0717	圓洗遺構	08611区 KJ19号1	土器	釜石	ボタン形 直径/20 厚/0.6						明赤褐色	-	近世
0718	圓洗遺構	08611区 KJ19号1	土器	釜石	ボタン形 直径/20 厚/0.7					明赤褐色	-	近世	
0719	圓洗遺構	08611区 KJ19号1	土器	釜石	ボタン形 直径/21 厚/0.7					明赤褐色	-	近世	
0720	圓洗遺構	08611区 KJ19号1	土器	釜石	ボタン形 直径/20 厚/0.6					明赤褐色	-	近世	
0721	圓洗遺構	08611区 KJ19号1	土器	釜石	ボタン形 直径/20 厚/0.6					明赤褐色	-	近世	
0722	圓洗遺構	08611区 KJ19号1	土器	釜石	ボタン形 直径/20 厚/0.6					明赤褐色	-	近世	
0723	圓洗遺構	08611区 KJ19号1	土器	釜石	ボタン形 直径/19 厚/0.7					明赤褐色	-	近世	
0724	圓洗遺構	08611区 KJ19号1	土器	釜石	ボタン形 直径/20 厚/0.7					明赤褐色	-	近世	
0725	圓洗遺構	08611区 KJ19号1	土器	釜石	ボタン形 直径/21 厚/0.6					明赤褐色	-	近世	
0726	圓洗遺構	08611区 KJ19号1	土器	釜石	ボタン形 直径/19 厚/0.7					明赤褐色	-	近世	
0727	圓洗遺構	08611区 KJ19号1	土器	釜石	ボタン形 直径/18 厚/0.6					明赤褐色	-	近世	
0728	圓洗遺構	08611区 KJ19号1	土器	釜石	ボタン形 直径/20 厚/0.6					明赤褐色	-	近世	
0729	圓洗遺構	08611区 KJ19号1	土器	釜石	ボタン形 直径/20 厚/0.6					明赤褐色	-	近世	
0730	圓洗遺構	08611区 KJ19号1	土器	釜石	ボタン形 直径/20 厚/0.5					明赤褐色	-	近世	
0731	圓洗遺構	08611区 KJ19号1	土器	釜石	ボタン形 直径/20 厚/0.6					明赤褐色	-	近世	
0732	圓洗遺構	08611区 KJ19号1	土器	釜石	ボタン形 直径/21 厚/0.6					明赤褐色	-	近世	
0733	圓洗遺構	08611区 KJ19号1	土器	釜石	ボタン形 直径/20 厚/0.6					明赤褐色	-	近世	
0734	圓洗遺構	08611区 KJ19号1	土器	釜石	ボタン形 直径/20 厚/0.6					明赤褐色	-	近世	
0735	圓洗遺構	08611区 KJ19号1区	土器	釜石	ボタン形 直径/21 厚/0.6					明赤褐色	-	近世	
0736	圓洗遺構	08611区 KJ19号1区	土器	釜石	ボタン形 直径/22 厚/0.6					明赤褐色	-	近世	
0737	圓洗遺構	08611区 KJ19号1区	土器	丸	-	-	-			三巴通文	-	近世	
0738	圓洗遺構	08611区 KJ19号1区	土器	糸耳	-	-	-			三巴通文	-	近世	
0739	圓洗遺構	08611区 KJ19号1区	土器	直	-	-	-			三巴通文	-	近世	
0740	圓洗遺構	S-23	石製品	直	-	-	-			三巴通文	-	近世	
0741	圓洗遺構	1区08611号1	自然遺物	七巧板	180	15.9	13.7			三巴通文	-	近世	
0742	圓洗遺構	1区08611号1	金剛製品	枝拂子	-	-	-			三巴通文	-	近世	
0743	遺物集中区	0861-10-P-21	鉢器	小碗	7.0	3.0	4.2	ろくろ	透明釉	外・花文	透明釉印判	-	近世
0744	遺物集中区	0861-10-P-3	鉢器	小碗	6.5	-	-	ろくろ	透明釉	外・花文	透明釉印判	-	近世
0745	遺物集中区	0861-10-P-2	鉢器	小碗	6.8	-	-	ろくろ	透明釉	外・花文	透明釉印判	-	近世
0746	遺物集中区	0861-10-P-25	鉢器	中碗	11.0	-	-	ろくろ	透明釉	外・花文	透明釉印判	-	近世
0747	遺物集中区	0861-10-P-5	鉢器	大皿	28.0	-	-	ろくろ	透明釉	外・青磁唐文	透明釉印判	-	近世

No.	出土遺構名	注記No.	種別	器種等	形状等	法線(cm) (□:口部面) (△:底面) (○:側面)	成形	被付・施物	製作時期	検定施地	備考
0748	遺物集中区	0564-10	陶器	大皿	平形	- (15.6)	-	ろくろ	網目・鉄物 高石臼	16C後	-
0749	遺物集中区	0564-10	陶器	蓋	半楕形	-	7.6	-	ろくろ	-	近世
0750	遺物集中区	0564-10	陶器	蓋	平形	(7.4)	-	ろくろ	鉄物	-	-
0751	遺物集中区	0564-10	土器	燒造壺	楕形	6.0	5.2	9.0	7.1	焼造壺	近世
0752	遺物集中区	0564-10	土器	かわらけ	丸形	5.0	3.6	1.4	ろくろ	明赤褐色	~16C後
0753	遺物集中区	0564-10	土器	かわらけ	丸形	5.2	4.0	1.2	ろくろ	明褐褐色	~16C後
0754	遺物集中区	0564-10	土器	かわらけ	丸形	5.4	4.2	1.6	ろくろ	褐褐色	-
0755	遺物集中区	0564-10	土器	かわらけ	丸形	5.2	3.6	1.7	ろくろ	褐褐色	-
0756	遺物集中区	0564-10	土器	かわらけ	丸形	5.8	4.0	1.6	ろくろ	褐褐色	-
0757	遺物集中区	0564-10	土器	かわらけ	丸形	5.0	4.2	1.3	ろくろ	褐褐色	-
0758	遺物集中区	0564-10	土器	かわらけ	丸形	9.6	7.8	1.9	ろくろ	褐褐色	-
0759	遺物集中区	0564-10	土器	灯明皿	丸形	9.6	6.2	2.3	ろくろ	外・環の付着	~16C後
0760	遺物集中区	0564-10	土器	かわらけ	丸形	9.8	4.8	2.0	ろくろ	黄褐色	-
0761	遺物集中区	0564-10	土器	かわらけ	丸形	8.8	(7.0)	(1.7)	ろくろ	明赤褐色	-
0762	遺物集中区	0564-10	土器	灯明皿	丸形	7.2	5.8	1.4	ろくろ	褐褐色	~16C後
0763	遺物集中区	0564-10	土器	かわらけ	丸形	9.2	7.0	2.0	ろくろ	褐褐色	-
0764	遺物集中区	0564-10	土器	かわらけ	丸形	(9.4)	(6.8)	(2.0)	ろくろ	褐褐色	-
0765	遺物集中区	0564-10	土器	灯明皿	丸形	(9.6)	-	-	ろくろ	口周部:濃の付着	-
0766	遺物集中区	0564-10	土器	かわらけ	丸形	(9.8)	-	-	ろくろ	褐褐色	-
0767	遺物集中区	0564-10	土器	かわらけ	丸形	(37.0)	(37.0)	(6.5)	ろくろ	褐茶褐色	-
0768	遺物外A-11区	0564-1区	陶器	灯明受皿	丸形	(6.8)	3.8	1.3	ろくろ	灰褐色	~16C後
0769	遺物外A-11区	0564-1区	陶器	灯明受皿	丸形	(21.6)	-	-	ろくろ	内外・花唐草文	志摩呂
0770	遺物外A-11区	0564-1区 A-17	切妻	瓦具	燒造壺	(2.5)	/5.1	-	12	白螺	近代
0771	遺物外A-17区	0564-1区 A-17	切妻	瓦具	燒造壺	4.2	2.2	1.1	ろくろ	白螺	近代
0772	遺物外A-17区	0564-1区 A-17	切妻	瓦具	燒造壺	2.0	4.6	14.3	ろくろ	外・蘭花文	近代
0773	遺物外A-17区	0564-1区 A-17	金剛輪	小瓶	燒造壺	-	-	-	ろくろ	透明物	-
0774	遺物外A-17区	0564-1区 B-17	切妻	皿	燒造壺	-	(3.6)	-	ろくろ	金剛輪	-
0775	遺物外B-17区	0564-1区 B-17	切妻	中瓶	平形	-	(5.2)	-	ろくろ	外・松竹文	近世
0776	遺物外B-17区	0564-1区 B-17	切妻	中瓶	丸形	(10.8)	(4.6)	6.0	ろくろ	外・四季文	近世
0777	遺物外B-17区	0564-1区 B-17	陶器	灯明受皿	丸形	(10.8)	(4.6)	1.5	ろくろ	内・四季文	測定・海潮
									圓錐		測定・海潮

No.	出土遺物名	注記No	種別	経緯等	形状等	法線(cm) (□底面) (△側面) (○頂面) (■裏面)	D	成形	施工作業	施工作業地	施工作業地	備考
0778	漆器外B-17区	(0641)区 B-17	陶器	灯明受皿	丸形 (6.6)	(3.0)	1.2	ろくろ	捺物	灰白色	-	湘尸・美濃
0779	漆器外C-16区	(0641)区 C-16	陶器	ガラス製瓶	平底	1.2	3.2	6.0	1.2	透明薄層	-	18C-中量 漆器
0780	漆器外A-15区	(0641)区 A-15	陶器	丸形	丸形	-	3.1	-	ろくろ	透明薄層	-	漆器
0781	漆器外A-15区	(0641)区 AB-15	陶器	丸形	丸形	-	(4.0)	ろくろ	透明薄層	灰白色	-	京・奈良
0782	漆器外A-15区	(0641)区 AB-15	陶器	丸形	丸形	2.2	-	ろくろ	透明薄層	灰白色	-	近世
0783	漆器外C-13区	(0641)区 C-13	陶器	丸形	丸形	1/18	横/20	厚/3.3	壓印	透明薄層	-	近代
0784	漆器外C-13区	(0641)区 C-13	陶器	丸形	丸形	(8.8)	-	-	ろくろ	コバルト 透明薄層	外: 漆文 内: 漆文	近代
0785	漆器外C-13区	(0641)区 C-13	ガラス製瓶	乳棒	平底	-	(14.2)	-	ろくろ	染付・透明薄層	白白色	大昭和期
0786	漆器外C-14区	(0641)区 C-14	陶器	丸形	圓折形	-	-	1.8	透明薄層	白白色	-	18C-中量 近代
0787	漆器外C-14区	(0641)区 C-14	陶器	丸形	丸形	-	(3.8)	-	ろくろ	コバルト 透明薄層	外: 漆	近代
0788	漆器外C-14区	(0641)区 C-14	陶器	丸形	丸形	-	(4.8)	-	ろくろ	コバルト 透明薄層	外: 漆	近世
0789	漆器外C-14区	(0641)区 C-14	陶器	丸形	丸形	-	(4.2)	-	ろくろ	コバルト 透明薄層	外: 梵文	近世
0790	漆器外C-14区	(0641)区 C-14	陶器	丸形	圓折形	(11.4)	(9.8)	5.7	1.9	外: 梵文 内: 梵文	白白色	近世
0791	漆器外C-14区	(0641)区 C-14	陶器	丸形	圓折形	-	(16.0)	-	ろくろ	透明薄層	白白色	-
0792	漆器外C-14区	(0641)区 C-14	陶器	丸形	圓折形	-	(11.4)	-	ろくろ	透明薄層	白白色	-
0793	漆器外C-14区	(0641)区 C-14	陶器	丸形	圓折形	7.0	-	-	ろくろ	透明薄層	白白色	-
0794	漆器外C-14区	(0641)区 C-14	陶器	丸形	圓折形	-	(11.3)	-	ろくろ	透明薄層	白白色	-
0795	漆器外C-15区	(0641)区 C-15	陶器	丸形	丸形	(1.6)	(3.8)	5.3	ろくろ	透明薄層	丸二万	京・奈良
0796	漆器外C-15区	(0641)区 C-15	陶器	丸形	丸形	-	(4.8)	-	ろくろ	染付・透明薄層	白白色	近代
0797	漆器外C-15区	(0641)区 C-15	陶器	丸形	圓柱	丸形	(26.8)	-	ろくろ	透明薄層	白白色	近世
0798	漆器外C-15区	(0641)区 C-15	陶器	丸形	圓柱	丸形	(10.8)	-	ろくろ	透明薄層	白白色	近代
0799	漆器外C-15区	(0641)区 C-15	陶器	丸形	圓柱	丸形	(10.2)	-	ろくろ	透明薄層	白白色	近代
0800	漆器外C-15区	(0641)区 C-15	陶器	丸形	圓柱	-	(5.0)	-	ろくろ	透明薄層	白白色	近代
0801	漆器外C-15区	(0641)区 C-15	陶器	丸形	圓柱	(6.6)	5.6	-	ろくろ	透明薄層	白白色	近代
0802	漆器外C-15区	(0641)区 C-15	陶器	丸形	圓柱	-	(4.8)	-	ろくろ	透明薄層	白白色	近代
0803	漆器外C-17区	(0641)区 C-17	陶器	丸形	圓柱	(12.8)	-	-	ろくろ	透明薄層	白白色	近代
0804	漆器外C-17区	(0641)区 C-17	陶器	丸形	圓柱	-	(2.0)	-	ろくろ	透明薄層	白白色	近代
0805	漆器外C-18区	(0641)区 C-18	石製品	石臼	圓形	圓盤形	2/3	厚/16.7	(32.0)	透明薄層	白白色	近代
0806	漆器外D-14区	(0641)区 D-14	陶器	丸形	丸形	-	(4.2)	-	ろくろ	染付・透明薄層	白白色	近代
0807	漆器外D-16区	(0641)区 D-16	陶器	圓柱	圓柱	丸形	1.9	-	0.6	1.9	外: 印	近代
0808	漆器外E-13区	(0641)区 E-13	陶器	五寸皿	丸形	(13.6)	(8.2)	3.6	ろくろ	染付・透明薄層	白白色	18C-中量 漆器
0809	漆器外E-13区	(0641)区 E-13	陶器	五寸皿	丸形	-	6.1	-	ろくろ	染付・透明薄層	白白色	18C-中量 漆器
0810	漆器外E-14区	(0641)区 E-14	陶器	五寸皿	丸形	-	2.7	3.9	ろくろ	染付・透明薄層	白白色	18C-中量 漆器
0811	漆器外E-18区	(0641)区 E-18	陶器	灯明受皿	丸形	(6.0)	(3.6)	1.5	ろくろ	透明薄層	白白色	近代
0812	漆器外F-16区	(0641)区 F-16	ガラス製品	漆器	丸形	2.1	3.0	3.0	10.0	組合せ	白白色	18C-中量 漆器
0813	漆器外F-14区	(0641)区 F-14	陶器	丸形	丸形	(7.6)	-	-	ろくろ	染付・透明薄層	黄褐色	18C-中量 漆器

No.	出土遺物名	注記No.	種別	器種等	形状等	法線(cm) (□(直), △(曲), ▲(曲)(直))	C(D)	成形	縫合・輪郭	文様・模様	施工作業	鉢・他	指定磨耗地	製作時期	備考
0014	遺物外F-16区	086111区F-14	ガラス製品	片口瓶	平形 丸形	幅:1.4 幅:1.6	4 0.3	△	△	透明白	-	-	-	近代	-
0015	遺物外F-16区	086111区F-14	ガラス製品	片口瓶	丸形	幅:1.6 幅:(2.6)	4 0.5	△	△	透明白	-	-	-	近代	-
0016	遺物外F-15区	086111区F-15	容器	手縫手縫	丸形	(5.2) (6.8)	2.0 3.4	△	△	透明白	-	-	-	近世	-
0017	遺物外F-16区	086111区F-16	容器	中縫	丸形	-	4.0	-	△	△	透明白	-	-	近世	-
0018	遺物外F-16区	086111区F-16	容器	中縫	丸形	-	(13.0) 幅:1.26	幅:2.1	△	△	透明白	-	-	近世	-
0019	遺物外F-16区	086111区F-16	陶器	直縫	丸形	-	-	-	△	△	透明白	-	-	近世	-
0020	遺物外F-16区	086111区F-16	陶器	斜縫	丸形	幅:4.5	幅:1.1	△	△	透明白	-	-	近世	-	
0021	遺物外F-17区	086111区F-17	土器	直縫	丸形	-	4.6	-	△	△	透明白	-	-	近世	-
0022	遺物外F-17区	086111区F-17	土器	斜縫	丸形	6.2	1.5	-	△	△	透明白	-	-	近世	-
0024	遺物外F-18区	086111区F-18	容器	中縫	丸形	-	(4.6) (6.8)	-	△	△	透明白	-	-	近世	-
0025	遺物外G-18区	086111区F-18	金銀製品	直縫	直縫	2.4	0.6 0.1	-	△	△	透明白	-	-	近世	遺物通鑑
0026	遺物外G-28区	086111区G-2	陶器	直縫	丸形	-	(7.8) (7.7)	2.8	△	△	透明白	-	-	近世	-
0027	遺物外G-28区	086111区G-2	陶器	直縫	直縫	-	-	-	△	△	透明白	-	-	近世	-
0028	遺物外G-28区	086111区G-2	陶器	直縫	直縫	-	-	-	△	△	透明白	-	-	近世	第一明石系
0029	遺物外G-6区	086111区G-6	土器	かわらけ	丸形	9.5	7.2	1.8	△	△	透明白	-	-	近世	-
0030	遺物外G-6区	086111区G-6	土器	かわらけ	丸形	(12.6)	-	-	△	△	透明白	-	-	近世	-
0031	遺物外G-15区	086111区G-15	容器	小縫	直縫	(1.4)	3.0	-	△	△	透明白	-	-	近世	-
0032	遺物外G-15区	086111区G-15	容器	中縫	丸形	(11.6)	-	-	△	△	透明白	-	-	近世	-
0033	遺物外G-15区	086111区G-15	容器	中縫	丸形	-	(4.4) (3.3)	-	△	△	透明白	-	-	近世	-
0034	遺物外G-15区	086111区G-15	容器	中縫	丸形	-	-	-	△	△	透明白	-	-	近世	-
0035	遺物外G-15区	086111区G-15	容器	中縫	丸形	-	-	-	△	△	透明白	-	-	近世	-
0036	遺物外G-15区	086111区G-15	容器	小縫	丸形	(10.0)	5.8	2.7	△	△	透明白	-	-	近世	-
0037	遺物外G-15区	086111区G-15	容器	直縫	丸形	-	(6.6) (6.6)	-	△	△	透明白	-	-	近世	-
0038	遺物外G-15区	086111区G-15	容器	斜縫	直縫	2.0	-	-	△	△	透明白	-	-	近世	-
0039	遺物外G-15区	086111区G-15	容器	斜縫	直縫	1.9	1.9	0.6	△	△	透明白	-	-	近世	-
0040	遺物外G-15区	086111区G-15	容器	斜縫	直縫	1.9	1.9	-	△	△	透明白	-	-	近世	-
0041	遺物外G-15区	086111区G-15	容器	直縫	直縫	-	5.0	-	△	△	透明白	-	-	近世	-
0042	遺物外G-15区	086111区G-15	容器	直縫	直縫	(11.4) (6.6)	2.3	-	△	△	透明白	-	-	近世	大窓
0043	遺物外G-15区	086111区G-15	容器	直縫	直縫	(16.0)	-	-	△	△	透明白	-	-	近世	-
0044	遺物外G-15区	086111区G-15	容器	直縫	丸形	(8.0)	-	-	△	△	透明白・筋跡	-	-	近世	-
0045	遺物外G-15区	086111区G-15	容器	直縫	丸形	(6.6)	-	-	△	△	透明白・筋跡	-	-	近世	-
0046	遺物外G-15区	086111区G-15	容器	直縫	丸形	(11.8)	-	-	△	△	透明白・筋跡	-	-	近世	-
0047	遺物外G-15区	086111区G-15	容器	直縫	丸形	-	9.9	-	△	△	透明白	-	-	近世	-
0048	遺物外G-15区	086111区G-15	容器	直縫	丸形	-	3.8	-	△	△	透明白	-	-	近世	-
0049	遺物外G-15区	086111区G-15	容器	直縫	丸形	-	-	-	△	△	透明白	-	-	近世	-
0050	遺物外G-15区	086111区G-15	金銀製品	直縫	直縫	-	-	-	△	△	透明白	-	-	近世	-
0051	遺物外G-15区	086111区G-15	金銀製品	直縫	直縫	2.7	2.7	0.2	△	△	透明白	-	-	近世	-
0052	遺物外G-17区	086111区G-17	容器	直縫	丸形	6.6	2.8	1.3	△	△	透明白	-	-	近世	-
0053	遺物外H-14区	086111区H-14	角鉢	打明受皿	丸形	-	4.0	-	△	△	透明白	-	-	近世	18C-19C
0054	遺物外H-15区	086111区H-15	角鉢	直縫	丸形	1.9	-	1.9	△	△	透明白	-	-	近世	-
0055	遺物外H-15区	086111区H-15	角鉢	直縫	丸形	1.9	0.7	1.9	△	△	透明白	-	-	近世	-
0056	遺物外H-15区	086111区H-15	角鉢	直縫	丸形	1.9	1.9	1.9	△	△	透明白	-	-	近世	-
0057	遺物外H-15区	086111区H-15	角鉢	直縫	丸形	1.9	-	0.7	△	△	透明白	-	-	近世	-
0058	遺物外H-15区	086111区H-15	角鉢	直縫	丸形	1.8	-	1.8	△	△	透明白	-	-	近世	-
0059	遺物外H-15区	086111区H-15	角鉢	直縫	丸形	2.0	3.7	4.6	△	△	透明白	-	-	近世	CAN STAR 1337
0060	遺物外H-16区	086111区H-16	容器	直縫	丸形	7.3	3.2	4.5	△	△	透明白	-	-	近世	-
0061	遺物外H-16区	086111区H-16	容器	直縫	丸形	8.2	(3.0)	4.5	△	△	透明白	-	-	近世	外山水文

No.	出土遺物名	注記No	種別	経緯等	形状等	法線(cm) (□:直角) (△:直角)			成形	織物		施土	絵	他	推定度地	製作時期	備考	
						A	B	C		横付・縦面	外・七宝織文							
0862	通織外+-16区	0861-1区H-16	紐目	小綱	丸形	(8.0)	3.0	4.8	ろくろ	コバルト・透明物	白	-	湘口・美濃	近代	18C~19C	新田町茶		
0863	通織外+-16区	0861-1区H-16	紐目	小綱	丸形	(8.2)	(3.0)	-	ろくろ	コバルト・透明物	白	-	湘口・美濃	近代	18C~19C	新田町茶		
0864	通織外+-16区	0861-1区H-16	紐目	小綱	丸形	-	(3.3)	-	ろくろ	コバルト・透明物	白	-	湘口・美濃	近代	18C~19C	新田町茶		
0865	通織外+-16区	0861-1区H-16	紐目	中綱	漫半球形	(9.4)	(3.6)	5.7	ろくろ	染付・透明物	内・呂宋茶 外・呂宋茶 見込・正五瓣花文	白	-	肥前	18C~19C	通織外+-16区		
0866	通織外+-16区	0861-1区H-16	紐目	大綱	丸形	-	6.0	-	ろくろ	染付・透明物 内・松竹文 五瓣花文	灰白色	-	湘口・美濃	近代	18C~19C	くらわんか		
0867	通織外+-16区	0861-1区H-16	紐目	中綱	丸形	(11.0)	-	-	ろくろ	コバルト・透明物	白	-	湘口・美濃	近代	18C~19C	通織外+-16区		
0868	通織外+-16区	0861-1区H-16	紐目	通物	半圆形	(11.6)	-	-	ろくろ	染付・透明物	外・綿目文	白	-	近世	18C~19C	通織外+-16区		
0869	通織外+-16区	0861-1区H-16	紐目	通物	圓柱形	(11.6)	-	-	ろくろ	染付・透明物	外・綿目文	白	-	18C~19C	通織外+-16区			
0870	通織外+-10区	0861-1区I-10	紐目	小綱	丸形	6.0	2.6	3.1	ろくろ	染付・透明物	外・圓筒形文	白	-	湘口・美濃	近代	18C~19C	錦込み蛇の首巻台	
0871	通織外+-12区	0861-1区I-12	紐目	紐目	小綱	丸形	(7.3)	3.5	4.2	ろくろ	染付・透明物	外・螺旋文	白	-	湘口・美濃	近代	18C~19C	錦込み蛇の首巻台
0872	通織外+-12区	0861-1区I-12	紐目	紐目	小綱	丸形	-	-	ろくろ	染付・透明物	内・牡丹唐草文	白	-	18C~19C	錦込み蛇の首巻台			
0873	通織外+-14区	0861-1区I-14	紐目	紐目	皿	平形	-	-	ろくろ	染付・透明物	外・始祖鳳凰文	白	-	18C~19C	錦込み蛇の首巻台			
0874	通織外+-16区	0861-1区I-16	紐目	小綱	丸形	8.2	3.6	4.8	ろくろ	コバルト・透明物	外・七宝織文	白	絵あり	湘口・美濃	近代	18C~19C	錦込み蛇の首巻台	
0875	通織外+-16区	0861-1区I-16	紐目	小綱	丸形	8.2	3.6	4.8	ろくろ	コバルト・透明物	外・七宝織文	白	絵あり	湘口・美濃	近代	18C~19C	錦込み蛇の首巻台	
0876	通織外+-16区	0861-1区I-16	紐目	小綱	丸形	8.2	3.2	4.7	ろくろ	コバルト・透明物	外・七宝織文	白	絵あり	湘口・美濃	近代	18C~19C	錦込み蛇の首巻台	
0877	通織外+-16区	0861-1区I-16	紐目	小綱	丸形	8.0	3.4	4.7	ろくろ	コバルト・透明物	外・七宝織文	白	絵あり	湘口・美濃	近代	18C~19C	錦込み蛇の首巻台	
0878	通織外+-16区	0861-1区I-16	紐目	小綱	丸形	(8.0)	(3.6)	(4.9)	ろくろ	コバルト・透明物	外・七宝織文	白	絵あり	湘口・美濃	近代	18C~19C	錦込み蛇の首巻台	
0879	通織外+-16区	0861-1区I-16	紐目	小綱	丸形	8.2	3.6	4.6	ろくろ	コバルト・透明物	外・七宝織文	白	絵あり	湘口・美濃	近代	18C~19C	錦込み蛇の首巻台	
0880	通織外+-16区	0861-1区I-16	紐目	小綱	小綱	半圆形	-	3.5	-	ろくろ	染付・透明物	内・五瓣花文	白	-	源氏吳	18C~19C	錦込み蛇の首巻台	
0881	通織外+-16区	0861-1区I-16	紐目	土器蓋	ボタン形	7.2	-	2.5	ろくろ	コバルト・透明物	内・五瓣花文	白	-	源氏吳	18C~19C	錦込み蛇の首巻台		
0882	通織外+-16区	0861-1区I-16	紐目	土器蓋	ボタン形	1.9	-	0.7	1.9	透明物	内・五瓣花文	白	-	源氏吳	18C~19C	錦込み蛇の首巻台		
0883	通織外+-16区	0861-1区I-16	紐目	乳鉢	丸形	長さ/-	直径20	型	透明物	内・五瓣花文	白	-	源氏吳	18C~19C	錦込み蛇の首巻台			
0884	通織外+-16区	0861-1区I-16	紐目	乳鉢	丸形	長さ/-	直径19	型	透明物	内・五瓣花文	白	-	源氏吳	18C~19C	錦込み蛇の首巻台			
0885	通織外+-16区	0861-1区I-16	紐目	乳鉢	丸形	長さ/-	直径18	型	透明物	内・五瓣花文	白	-	源氏吳	18C~19C	錦込み蛇の首巻台			
0886	通織外+-16区	0861-1区I-16	紐目	乳鉢	丸形	長さ/-	直径17	型	透明物	内・五瓣花文	白	-	源氏吳	18C~19C	錦込み蛇の首巻台			
0887	通織外+-16区	0861-1区I-16	紐目	乳鉢	丸形	長さ/-	直径16	型	透明物	内・五瓣花文	白	-	源氏吳	18C~19C	錦込み蛇の首巻台			
0888	通織外+-17区	0861-1区I-17	紐目	小綱	丸形	-	2.5	-	ろくろ	染付・透明物	外・水芭蕉文	白	-	源氏吳	18C~19C	錦込み蛇の首巻台		
0889	通織外+-15区	0864-17区	紐目	集結器	ホタル形	2.1	-	0.6	2.1	透明物	透明物	白	-	源氏吳	18C~19C	錦込み蛇の首巻台		
0890	通織外+-15区	0864-17区	紐目	集結器	ホタル形	1.9	-	0.7	1.9	透明物	透明物	白	-	源氏吳	18C~19C	錦込み蛇の首巻台		
0891	通織外+-19区	0861-1区I-19	紐目	中綱	丸形	(10.0)	(3.6)	5.0	ろくろ	コバルト・透明物	外・七宝織文	白	-	源氏吳	18C~19C	錦込み蛇の首巻台		
0892	通織外+-5区	0861-5区	紐目	丸形	打羽目	丸形	-	(6.0)	-	ろくろ	透明物	内・外・蓮の葉	茶褐色	-	~18C	新田町茶		
0893	通織外+-14区	0861-1区J-14	紐目	ラスク用具	乳鉢	長さ/-	直径20	型	透明物	透明物	透明物	白	-	源氏吳	18C~19C	新田町茶		
0894	通織外+-14区	0861-1区J-14	紐目	ラスク用具	乳鉢	長さ/-	直径20	型	透明物	透明物	透明物	白	-	源氏吳	18C~19C	新田町茶		
0895	通織外+-17区	0861-17区	紐目	乳鉢	丸形	(6.4)	-	-	ろくろ	コバルト・透明物	外・七宝織文	白	-	源氏吳	18C~19C	新田町茶		
0896	通織外+-17区	0861-17区	紐目	乳鉢	丸形	(6.4)	-	-	ろくろ	コバルト・透明物	外・七宝織文	白	-	源氏吳	18C~19C	新田町茶		
0897	通織外+-16区	0861-16区	紐目	乳鉢	丸形	(6.4)	-	-	ろくろ	コバルト・透明物	外・七宝織文	白	-	源氏吳	18C~19C	新田町茶		
0898	通織外+-17区	0861-1区I-17	紐目	小綱	丸形	-	2.5	-	ろくろ	染付・透明物	外・水芭蕉文	白	-	源氏吳	18C~19C	新田町茶		
0899	通織外+-15区	0864-17区	紐目	集結器	ホタル形	1.9	-	0.6	2.1	透明物	透明物	白	-	源氏吳	18C~19C	新田町茶		
0900	通織外+-15区	0864-17区	紐目	集結器	ホタル形	1.9	-	0.7	1.9	透明物	透明物	白	-	源氏吳	18C~19C	新田町茶		
0901	通織外+-19区	0861-1区I-19	紐目	中綱	丸形	(10.0)	(3.6)	5.0	ろくろ	コバルト・透明物	外・七宝織文	白	-	源氏吳	18C~19C	新田町茶		

No.	出土遺構名	注記No.	種別	器種等	形状等	法線(cm) (□(直角) △(直角斜) ○(直角曲)(傾き度)	成形	鐵 磁		鐵土色調	鐵付・鐵附他	製作時期	検定施地	備考	
								A (口直角)	B (底直角)	C (底直角曲)	D (底直角曲)(傾き度)				
0898	通構外J-16区	0861区J-16	罐	小鉢	丸形	[15.6] (5.4)	7.2	ろくろ	染付・透明釉	白色	-	肥前	18C~19C中葉		
0899	通構外J-16区	0861区J-16	罐	皿	丸形	[11.8]	-	ろくろ	染付・透明釉	白色	-	肥後	18C~19C中葉		
0900	通構外J-16区	0861区J-16	罐	盤	丸形	7.1	-	ろくろ	染付・透明釉	白色	-	肥後	18C~19C中葉		
0901	通構外J-16区	0861区J-16	罐	盤	丸形	2.2	-	ろくろ	染付・透明釉	白色	-	肥後	18C~19C中葉		
0902	通構外J-16区	0861区J-16	罐	盤	丸形	2.1	-	ろくろ	染付・透明釉	白色	-	近代	18C~19C中葉		
0903	通構外J-16区	0861区J-16	罐	盤	丸形	2.1	-	ろくろ	染付・透明釉	白色	-	近代	18C~19C中葉		
0904	通構外J-16区	0861区J-16	罐	盤	丸形	5.0	3.3	ろくろ	染付・透明釉	白色	-	近代	18C~19C中葉		
0905	通構外J-16区	0861区J-16	罐	丸形	丸形	[7.0]	-	ろくろ	染付・透明釉	白色	-	近代	18C~19C中葉		
0906	通構外J-16区	0861区J-16	土器	かわらけ	丸形	5.4	3.6	1.4	ろくろ	明茶褐色	-	~18C中葉	通構外J-16区		
0907	通構外J-16区	0861区J-16	土器	かわらけ	丸形	[8.1]	[4.8]	1.8	ろくろ	明茶褐色	-	~18C中葉	通構外J-16区		
0908	通構外J-16区	0861区J-16	罐	小鉢	丸形	8.2	3.6	4.8	ろくろ	染付・透明釉	白色	銘あり	通戸・美濃		
0909	通構外J-16区	0861区J-16	罐	盤	丸形	[20.0]	-	ろくろ	染付・透明釉	灰色	-	通戸・美濃	~18C中葉		
0910	通構外J-16区	0861区J-16	陶器	陶器	丸形	8.0	4.3	1.8	ろくろ	染付・透明釉	灰色	-	~18C中葉	通構外J-16区	
0911	通構外J-16区	0861区J-16	陶器	陶器	丸形	5.3	3.4	1.3	ろくろ	染付・透明釉	灰色	-	~18C中葉	通構外J-16区	
0912	通構外J-16区	0861区J-16	土器	かわらけ	丸形	5.1	3.6	1.4	ろくろ	染付・透明釉	灰色	-	~18C中葉	通構外J-16区	
0913	通構外J-16区	0861区J-16	土器	かわらけ	丸形	8.5	5.8	2.0	ろくろ	染付・透明釉	灰色	-	~18C中葉	通構外J-16区	
0914	通構外J-16区	0861区J-16	土器	かわらけ	丸形	8.0	6.0	2.2	ろくろ	染付・透明釉	灰色	-	~18C中葉	通構外J-16区	
0915	通構外J-16区	0861区J-16	土器	かわらけ	丸形	9.6	6.6	1.9	ろくろ	染付・透明釉	灰色	-	~18C中葉	通構外J-16区	
0916	通構外J-16区	0861区J-16	土器	石釜	ボタル形	[18]	[18]	/05	磨き	黑色	-	近世	~18C中葉	通構外J-16区	
0917	通構外J-16区	0861区J-16	土器	かわらけ	丸形	[15.6]	[6.6]	2.3	ろくろ	染付・透明釉	灰色	-	~18C中葉	通構外J-16区	
0918	通構外J-16区	0861区J-16	土器	かわらけ	丸形	[2.3]	0.6	0.1	染付・透明釉	灰色	-	~18C中葉	通構外J-16区		
0919	通構外J-16区	0861区J-16	土器	かわらけ	丸形	-	-	-	染付・透明釉	灰色	-	通戸・美濃	~18C中葉		
0920	通構外J-17区	0861区J-17	罐	瓶	丸形	6.0	2.3	2.6	ろくろ	透明釉・上繪	白色	-	通戸・美濃	18C~	
0922	通構外J-17区	0861区J-17	罐	土器	ボタル形	2.2	-	0.7	20	墨跡	透明釉	-	~18C中葉	通構外J-17区	
0924	通構外J-17区	0861区J-17	土器	土器	ボタル形	12.6	[6.8]	[4.6]	1.4	明茶褐色	-	~18C中葉	通構外J-17区		
0925	通構外J-17区	0861区J-17	土器	土器	ボタル形	6.0	4.6	1.3	ろくろ	明茶褐色	-	~18C中葉	通構外J-17区		
0926	通構外J-17区	0861区J-17	土器	土器	ボタル形	6.0	5.0	1.5	ろくろ	明茶褐色	-	~18C中葉	通構外J-17区		
0928	通構外J-17区	0861区J-17	土器	かわらけ	丸形	[6.6]	[5.0]	1.0	ろくろ	明茶褐色	-	~18C中葉	通構外J-17区		
0929	通構外J-17区	0861区J-17	土器	かわらけ	丸形	9.6	6.7	1.4	ろくろ	明茶褐色	-	~18C中葉	通構外J-17区		
0930	通構外J-17区	0861区J-17	土器	土器	逆凹型	8.2	-	2.4	ろくろ	明茶褐色	-	~18C中葉	通構外J-17区		
0931	通構外J-17区	0861区J-17	土器	土器	直筒	1.2	1.5	5.8	2.6	明茶褐色	-	近代	「口一上直」		
0932	通構外J-17区	0861区J-17	土器	土器	直筒	無さ/-	無さ/-	無さ/-	無さ/-	明茶褐色	-	近代	HBC~		
0933	通構外J-17区	0861区J-17	土器	土器	直筒	無さ/-	無さ/-	無さ/-	無さ/-	明茶褐色	-	近代	HBC~	右手彌尊孔	
0934	通構外J-19区	0861区J-19	罐	中鉢	丸形	-	(3.1)	-	ろくろ	染付・透明釉	白色	-	18C~	19C中葉	
0935	通構外J-19区	0861区J-19	罐	小鉢	丸形	[13.8]	-	-	ろくろ	コントラスト・スタンプ	白色	-	18C~	19C中葉	
0936	通構外J-19区	0861区J-19	罐	土器	らつとうよう形	-	-	-	ろくろ	染付・透明釉	反白	-	18C~	19C中葉	

No.	出土遺物名	注記No	種別	経緯等	形状等	法線(cm) (□底面) (△側面) (○頂面) (■裏面)	成形	被覆	施土	絵	他	指定度地	製作時期	備考		
0537	透飾外J-19区	0641J区J-19	透器	陶器	丸形	—	—	ろくろ	染付・透明釉	外・二重圓目文	白	—	18C~19C中期			
0538	透飾外J-19区	0641J区J-19	透器	仏壇器	丸形	(6.9)	—	ろくろ	染付・透明釉	外・圓目文	白	—	漏戸・美濃	18C~		
0539	透飾外J-19区	0641J区J-19	透器	仏壇器	ボターン形	—	—	ろくろ	染付・透明釉	白	—	肥前	18C~19C中期			
0540	透飾外J-19区	0641J区J-19	透器	集鉢	ボターン形	2.0	—	0.6	型押	透明釉	白色	—	近代	18C中期		
0541	透飾外J-19区	0641J区J-19	透器	集鉢	ボターン形	2.0	—	0.6	2.1	透明釉	白色	—	近代	18C中期		
0542	透飾外J-19区	0641J区J-19	陶器	灯明皿	丸形	(9.4)	(4.0)	ろくろ	染付・透明釉	白	—	漏戸・美濃	18C中期	滑溜釉		
0543	透飾外J-19区	0641J区J-19	土器	盃石	盃石	底面/22	厚/0.5	手捏	手捏	滑溜色	—	近世	18C中期			
0544	透飾外J-19区	0641J区J-19	土器	盃石	盃石	底面/20	厚/0.5	手捏	手捏	滑溜色	—	近世	18C中期			
0545	透飾外J-19区	0641J区J-19	土器	盃石	盃石	底面/19	厚/0.5	手捏	手捏	滑溜色	—	近世	18C中期			
0546	透飾外J-19区	0641J区J-19	土器	盃石	盃石	底面/19	厚/0.5	手捏	手捏	滑溜色	—	近世	18C中期			
0547	透飾外J-19区	0641J区J-19	土器	盃石	盃石	底面/19	厚/0.5	手捏	手捏	滑溜色	—	近世	18C中期			
0548	透飾外J-19区	0641J区J-19	土器	盃石	盃石	底面/19	厚/0.5	手捏	手捏	滑溜色	—	近世	18C中期			
0549	透飾外J-19区	0641J区J-19	土器	盃石	盃石	底面/20	厚/0.5	手捏	手捏	滑溜色	—	近世	18C中期			
0550	透飾外J-19区	0641J区J-19	土器	盃石	盃石	底面/20	厚/0.5	手捏	手捏	滑溜色	—	近世	18C中期			
0551	透飾外J-19区	0641J区J-19	土器	盃石	盃石	底面/20	厚/0.5	手捏	手捏	滑溜色	—	近世	18C中期			
0552	透飾外J-19区	0641J区J-19	土器	盃石	盃石	底面/22	厚/0.5	手捏	手捏	滑溜色	—	近世	18C中期			
0553	透飾外J-19区	0641J区J-19	土器	盃石	盃石	底面/21	厚/0.5	手捏	手捏	滑溜色	—	近世	18C中期			
0554	透飾外J-19区	0641J区J-19	土器	盃石	盃石	底面/21	厚/0.5	手捏	手捏	滑溜色	—	近世	18C中期			
0555	透飾外J-19区	0641J区J-19	土器	盃石	盃石	底面/21	厚/0.5	手捏	手捏	滑溜色	—	近世	18C中期			
0556	透飾外K-13区	0641J区K-13	透器	土器	盃石	底面/21	厚/0.5	手捏	手捏	滑溜色	—	近世	18C中期			
0557	透飾外K-13区	0641J区K-13	透器	土器	盃石	底面/21	厚/0.5	手捏	手捏	滑溜色	—	近世	18C中期			
0558	透飾外K-17区	0641J区K-17	透器	丸形	丸形	8.0	—	ろくろ	染付・透明釉	外・二重圓目文	乳白色	—	透光見	18C~19C中期	くわんわんか	
0559	透飾外K-18区	0641J区K-18	透器	小瓶	丸形	(6.2)	—	ろくろ	透明釉、外・網目印	外・網目文	白色	—	18C~19C中期			
0560	透飾外K-18区	0641J区K-18	透器	製油壺	平形	1.7	6.0	3.9	7.8	ろくろ	上繪付・透明釉	白色	—	漏戸・美濃	18C~	
0561	透飾外K-18区	0641J区K-18	陶器	土鍋	丸形	(17.6)	—	ろくろ	染付	滑溜釉	—	近代	18C中期	滑溜釉		
0562	透飾外K-18区	0641J区K-18	陶器	灯明皿	丸形	(8.6)	(4.2)	1.8	ろくろ	瓦陶	乳白色	—	18C中期	滑溜釉		
0563	透飾外K-18区	0641J区K-19	透器	中壺	丸形	(12.0)	(8.0)	—	ろくろ	透明釉	灰白色	—	透光見	18C~19C中期		
0564	透飾外K-18区	0641J区K-19	透器	集鉢	ボターン形	2.0	—	0.6	2.0	型押	透明釉	外・文字	—	近代	18C中期	
0565	透飾外K-18区	0641J区K-19	透器	集鉢	ボターン形	2.0	—	0.6	2.0	型押	透明釉	外・文字	—	近代	18C中期	
0566	透飾外K-18区	0641J区K-19	透器	集鉢	ボターン形	2.0	—	0.6	2.0	型押	透明釉	外・文字	—	近代	18C中期	
0567	透飾外K-18区	0641J区K-19	透器	集鉢	ボターン形	2.0	—	0.6	2.0	型押	透明釉	コバルト	—	近代	18C中期	
0568	透飾外K-18区	0641J区K-19	透器	集鉢	ボターン形	2.0	—	0.6	2.0	型押	透明釉	コバルト	—	近代	18C中期	
0569	透飾外K-18区	0641J区K-19	透器	集鉢	ボターン形	2.0	—	0.6	2.0	型押	透明釉	コバルト	—	近代	18C中期	
0570	透飾外K-18区	0641J区K-19	透器	集鉢	ボターン形	2.0	—	0.6	2.0	型押	透明釉	コバルト	—	近代	18C中期	
0571	透飾外K-18区	0641J区K-19	透器	集鉢	ボターン形	2.0	—	0.6	2.0	型押	透明釉	コバルト	—	近代	18C中期	
0572	透飾外K-18区	0641J区K-19	陶器	灯明皿	丸形	(7.0)	—	—	ろくろ	染付	灰白色	—	漏戸・美濃	18C中期	滑溜釉	
0573	透飾外K-18区	0641J区K-19	陶器	灯明皿	丸形	6.6	2.8	1.3	ろくろ	染付	灰白色	—	漏戸・美濃	18C中期	滑溜釉	
0574	透飾外K-18区	0641J区K-19	陶器	灯明皿	丸形	(7.3)	(3.0)	1.6	ろくろ	染付	灰白色	—	漏戸・美濃	18C中期	滑溜釉	

No.	出土遺物名	注記No.	種別	器種等	形状等	法線(cm) (□:A面, △:B面, ○:C面) (口幅:高さ)	成形	被 着	施 工	他	指定原地	製作時期	備考
0975	通縫外K-19区	09611区K-19	土器	直筒	ボタン形 基石	丸形 6.2 厚0.05	手捏	ろくろ	透明釉	-	-	~18C~ 透明白	透明白
0977	通縫外K-20区	09611区K-20	土器	箱根	合子形	直筒形 7.0	-	ろくろ	コバルト物 透明釉	-	-	18C~ 透明白	透明白
0978	通縫外K-20区	09611区K-20	陶器	灯明受皿	立鉢形	-	3.6	-	透明釉	-	-	18C~ 透明白	透明白
0979	通縫外K-20区	09611区K-20	陶器	集結物	ボタン形 2.1	-	0.6	2.1	透明物	-	-	透明白	透明白
0980	通縫外K-20区	09611区K-20	陶器	集結物	ボタン形 2.1	-	0.7	2.1	透明物	-	-	透明白	透明白
0981	通縫外K-20区	09611区K-20	陶器	集結物	ボタン形 2.1	-	0.6	2.1	透明物	-	-	透明白	透明白
0982	通縫外K-20区	09611区K-20	陶器	集結物	ボタン形 2.1	-	0.6	2.1	透明物	-	-	透明白	透明白
0983	通縫外K-20区	09611区K-20	陶器	集結物	ボタン形 2.0	-	0.6	2.1	透明物	-	-	透明白	透明白
0984	通縫外K-20区	09611区K-20	陶器	集結物	ボタン形 2.1	-	0.6	2.1	透明物	-	-	透明白	透明白
0985	通縫外K-20区	09611区K-20	陶器	集結物	ボタン形 2.0	-	0.6	2.1	透明物	-	-	透明白	透明白
0986	通縫外K-20区	09611区K-20	陶器	集結物	ボタン形 2.2	-	0.6	2.1	透明物	-	-	透明白	透明白
0987	通縫外K-20区	09611区K-20	陶器	集結物	ボタン形 2.1	-	3.3	3.2	透明物	-	-	透明白	透明白
0988	通縫外K-13区	09611区L-13	陶器	集結物	ボタン形 2.0	-	0.6	2.1	透明物	-	-	透明白	透明白
0989	通縫外K-13区	09611区L-13	陶器	集結物	ボタン形 1.9	-	0.7	2.1	透明物	-	-	透明白	透明白
0990	通縫外K-13区	09611区L-13	陶器	集結物	ボタン形 1.9	-	0.6	2.0	透明物	-	-	透明白	透明白
0991	通縫外K-13区	09611区L-13	陶器	集結物	ボタン形 1.9	-	0.6	2.0	透明物	-	-	透明白	透明白
0992	通縫外K-13区	09611区L-13	陶器	集結物	ボタン形 2.0	-	0.6	2.1	透明物	-	-	透明白	透明白
0993	通縫外K-13区	09611区L-13	陶器	集結物	ボタン形 2.0	-	0.6	2.0	透明物	-	-	透明白	透明白
0994	通縫外K-13区	09611区L-13	陶器	集結物	ボタン形 2.0	-	0.7	2.1	透明物	-	-	透明白	透明白
0995	通縫外K-13区	09611区L-13	陶器	集結物	ボタン形 2.1	-	0.7	2.0	透明物	-	-	透明白	透明白
0996	通縫外K-13区	09611区L-13	陶器	集結物	ボタン形 2.0	-	0.6	2.0	透明物	-	-	透明白	透明白
0997	通縫外K-13区	09611区L-13	陶器	集結物	ボタン形 2.0	-	0.6	2.0	透明物	-	-	透明白	透明白
0998	通縫外K-13区	09611区L-13	陶器	集結物	ボタン形 2.1	-	0.7	2.0	透明物	-	-	透明白	透明白
0999	通縫外K-13区	09611区L-13	陶器	集結物	ボタン形 1.9	-	0.6	2.0	透明物	-	-	透明白	透明白
1000	通縫外K-13区	09611区L-13	陶器	集結物	ボタン形 2.1	-	0.7	2.0	透明物	-	-	透明白	透明白
1001	通縫外K-13区	09611区L-13	陶器	集結物	ボタン形 2.1	-	0.6	2.1	透明物	-	-	透明白	透明白
1002	通縫外K-13区	09611区L-13	陶器	集結物	ボタン形 2.1	-	0.6	2.0	透明物	-	-	透明白	透明白
1003	通縫外K-13区	09611区L-13	陶器	集結物	ボタン形 2.0	-	0.6	2.1	透明物	-	-	透明白	透明白
1004	通縫外K-13区	09611区L-13	陶器	集結物	ボタン形 2.0	-	0.7	2.1	透明物	-	-	透明白	透明白
1005	通縫外K-13区	09611区L-13	陶器	集結物	ボタン形 2.0	-	0.7	2.0	透明物	-	-	透明白	透明白
1006	通縫外K-13区	09611区L-13	陶器	集結物	ボタン形 2.0	-	0.7	2.0	透明物	-	-	透明白	透明白
1007	通縫外K-13区	09611区L-13	陶器	集結物	ボタン形 2.1	-	0.7	2.0	透明物	-	-	透明白	透明白
1008	通縫外K-13区	09611区L-13	陶器	集結物	ボタン形 2.1	-	0.6	2.1	透明物	-	-	透明白	透明白
1009	通縫外K-13区	09611区L-13	陶器	集結物	ボタン形 2.1	-	0.6	2.1	透明物	-	-	透明白	透明白
1010	通縫外K-13区	09611区L-13	陶器	集結物	ボタン形 2.0	-	0.7	-	透明物	-	-	透明白	透明白
1011	通縫外K-13区	09611区L-13	陶器	集結物	ボタン形 2.1	-	0.7	-	透明物	-	-	透明白	透明白
1012	通縫外K-13区	09611区L-13	陶器	ラス留置	丸形	無記	-	透明物	-	-	透明白	透明白	
1013	通縫外K-14区	09611区L-14	陶器	集結物	ボタン形 2.1	-	0.7	2.0	透明物	-	-	透明白	透明白
1014	通縫外M-11区	09611区M-11	鉢	集結物	小坪	-	(5.4)	-	ろくろ	染付・透明物 外・三	-	18C~ 透明白	透明白
1015	通縫外M-11区	09611区M-11	鉢	集結物	小坪	-	4.4	4.1	透明物	-	-	透明白	透明白
1016	通縫外M-12区	09611区M-12	鉢	集結物	丸形	(6.5)	-	ろくろ	染付・透明物 外・植物・漫文	白色	-	漏戸・美濃 透明白	透明白
1017	通縫外M-12区	09611区M-12	鉢	集結物	ボタン形 丸形	2.0	-	2.0	透明物	-	-	透明白	透明白
1018	通縫外M-12区	09611区M-12	鉢	集結物	丸形	無記	-	8.0	透明物 外・漆の付着	透明	-	透明白	透明白
1019	通縫外M-12区	09611区M-12	鉢	集結物	丸形	無記	-	2.5	透明物 外・漆の付着	灰色	-	漏戸・美濃 透明白	透明白
1020	通縫外M-12区	09611区M-12	鉢	集結物	丸形	無記	-	2.5	透明物 外・漆の付着	灰色	-	漏戸・美濃 透明白	透明白
1021	通縫外M-12区	09611区M-12	鉢	集結物	丸形	無記	-	2.5	透明物 外・漆の付着	灰色	-	漏戸・美濃 透明白	透明白
1022	通縫外M-12区	09611区M-12	鉢	集結物	丸形	無記	-	2.5	透明物 外・漆の付着	灰色	-	漏戸・美濃 透明白	透明白
1023	通縫外M-12区	09611区M-12	鉢	集結物	ボタン形	2.2	-	2.2	透明物	-	-	漏戸・美濃 透明白	透明白

No.	出土遺物名	注記No	種別	経年等	形状等	法線(cm) (□(直角) (直角面) (直角面))	成形	焼	施土	結他	焼定度地	製作時期	備考	
1024	通漁外 M-12区 (06c1) 区 N-5	磁器	棒状器	ボタン形	A:2.0 B:— C:0.7 D:(直角)	棒押	焼付・陶面	文様・模様地	白色	—	近代	—	—	
1025	通漁外 N-1区 (06c1) 区 N-8	磁器	棒器	丸形	— — —	— — —	ろくろ	—	—	—	—	—	—	
1026	通漁外 N-12区 (06c1) 区 N-12	磁器	棒器	丸形	— — —	— — —	ろくろ	—	—	—	肥前	18C~19C中葉	漆付・上輪付	
1027	通漁外 N-12区 (06c1) 区 N-12	磁器	棒器	丸形	— — —	— — —	ろくろ	—	—	—	肥前	18C~19C中葉	漆付・透明釉	
1028	通漁外 N-12区 (06c1) 区 N-12	磁器	棒器	丸形	— — —	— — —	ろくろ	—	—	—	肥前	18C~19C中葉	コバルト・リノン釉	
1029	通漁外 N-12区 (06c1) 区 N-12	陶器	棒器	丸形	— — —	— — —	ろくろ	—	—	—	—	—	—	
1030	通漁外 N-12区 (06c1) 区 N-12	陶器	棒器	丸形	— — —	— — —	ろくろ	—	—	—	—	—	—	
1031	通漁外 N-12区 (06c1) 区 N-12	陶器	棒器	丸形	— — —	— — —	ろくろ	—	—	—	—	—	—	
1032	通漁外 N-12区 (06c1) 区 N-6	磁器	棒器	丸形	— — —	— — —	ろくろ	—	—	—	—	—	—	
1033	061 区 焼瓦組 汚水井	061 区マス1	金属性製品	金属性	無	無さ/5.6 無さ/5.4 無さ/5.4	厚/0.6 厚/0.55 厚/0.55	1.9 1.9 1.9	—	—	—	—	—	—
1034	061 区 焼瓦組 汚水井	061 区マス1	金属性製品	金属性	無	無さ/5.4 無さ/5.4 無さ/5.4	厚/0.6 厚/0.55 厚/0.55	1.9 1.9 1.9	—	—	—	—	—	—
1035	061 区 焼瓦組 汚水井	061 区マス1	金属性製品	金属性	無	無さ/5.4 無さ/5.4 無さ/5.4	厚/0.6 厚/0.55 厚/0.55	1.9 1.9 1.9	—	—	—	—	—	—
1036	061 区 焼瓦組 汚水井	061 区マス1	金属性製品	金属性	無	無さ/5.4 無さ/5.4 無さ/5.4	厚/0.6 厚/0.55 厚/0.55	1.9 1.9 1.9	—	—	—	—	—	—
1037	061 区 焼瓦組 汚水井	061 区マス1	金属性製品	金属性	無	無さ/5.4 無さ/5.4 無さ/5.4	厚/0.6 厚/0.55 厚/0.55	1.9 1.9 1.9	—	—	—	—	—	—
1038	06c1 区 磁土	磁器	小瓶	丸形	(4.6) 丸形	2.9 2.2	ろくろ	—	—	—	—	—	—	—
1039	06c1 区 磁土	磁器	小瓶	丸形	5.0 丸形	2.2 2.5	ろくろ	—	—	—	—	—	—	—
1040	06c1 区 磁土	磁器	小瓶	丸形	5.0 丸形	2.5 2.5	ろくろ	—	—	—	—	—	—	—
1041	06c1 区 磁土	磁器	小瓶	丸形	5.0 丸形	2.5 2.5	ろくろ	—	—	—	—	—	—	—
1042	06c1 区 磁土	磁器	小瓶	丸形	5.0 丸形	2.5 2.5	ろくろ	—	—	—	—	—	—	—
1043	06c1 区 磁土	磁器	小瓶	丸形	5.0 丸形	2.5 2.5	ろくろ	—	—	—	—	—	—	—
1044	06c1 区 磁土	磁器	小瓶	丸形	5.0 丸形	2.5 2.5	ろくろ	—	—	—	—	—	—	—
1045	06c1 区 磁土	磁器	小瓶	丸形	5.0 丸形	2.5 2.5	ろくろ	—	—	—	—	—	—	—
1046	06c1 区 磁土	磁器	小瓶	丸形	5.0 丸形	2.5 2.5	ろくろ	—	—	—	—	—	—	—
1047	06c1 区 磁土	磁器	小瓶	丸形	5.0 丸形	2.5 2.5	ろくろ	—	—	—	—	—	—	—
1048	06c1 区 磁土	磁器	小瓶	丸形	5.0 丸形	2.5 2.5	ろくろ	—	—	—	—	—	—	—
1049	06c1 区 磁土	磁器	小瓶	丸形	5.0 丸形	2.5 2.5	ろくろ	—	—	—	—	—	—	—
1050	06c1 区 磁土	磁器	小瓶	丸形	5.0 丸形	2.5 2.5	ろくろ	—	—	—	—	—	—	—
1051	06c1 区 磁土	磁器	小瓶	丸形	5.0 丸形	2.5 2.5	ろくろ	—	—	—	—	—	—	—
1052	06c1 区 磁土	磁器	小瓶	丸形	5.0 丸形	2.5 2.5	ろくろ	—	—	—	—	—	—	—
1053	06c1 区 磁土	磁器	小瓶	丸形	5.0 丸形	2.5 2.5	ろくろ	—	—	—	—	—	—	—
1054	06c1 区 磁土	磁器	小瓶	丸形	5.0 丸形	2.5 2.5	ろくろ	—	—	—	—	—	—	—
1055	06c1 区 磁土	磁器	小瓶	丸形	5.0 丸形	2.5 2.5	ろくろ	—	—	—	—	—	—	—

No	出土遺物名	注記No	種別	器種等	形状等	法線(cm) (口幅等)(底面等) A B C D (底面等)(底面等)	成形	輪	縫合・縫織	文様・模様	施主	指定磨耗	製作時期	備考
1055	表土	09611区表土	織器	小輪	丸形	8.8 3.1 4.4	ろくろ	染付・透明	外・若松文	白色	—	湘南・美濃	18C中葉-19C中葉	
1056	表土	09611区表土	織器	小輪	丸形	8.0 3.0 4.3	ろくろ	透明・コロコロ	外・丸竹編文	白色	—	湘南・美濃	近代	
1058	表土	09611区表土	織器	小輪	丸形	8.0 —	ろくろ	透明・コロコロ	外・松竹編文	白色	—	湘南・美濃	近代	
1059	表土	09611区表土	織器	小輪	丸形	8.0 —	ろくろ	透明・コロコロ	外・梅竹編文	白色	—	湘南・美濃	近代	
1060	表土	09611区表土	織器	小輪	丸形	8.0 —	ろくろ	透明・コロコロ	外・梅竹編文	白色	—	湘南・美濃	近代	
1061	表土	09611区表土	織器	小輪	圓形	7.5 3.2 5.1	ろくろ	透明・コロコロ	外・丸文・七宝文	白色	—	湘南・美濃	近代	
1062	表土	09611区表土	織器	小輪	圓形	7.2 3.2 5.2	ろくろ	透明・コロコロ	外・丸文・七宝文	白色	—	湘南・美濃	近代	
1063	表土	09611区表土	織器	小輪	圓形	7.4 3.2 5.1	ろくろ	透明・コロコロ	外・丸文・七宝文	白色	—	湘南・美濃	近代	
1064	表土	09611区表土C-8	織器	小輪	半球形	8.5 2.8 3.8	ろくろ	透明・染付	外・水芭蕉文	白色	—	湘南・美濃	近代	
1065	表土	09611区表土	織器	小輪	半圓型	7.0 (5.5) (5.0)	ろくろ	透明・染付	外・菊文	—	肥前	18C中葉-19C中葉		
1066	表土	09611区表土	織器	小輪	半圓型	7.5 — —	ろくろ	透明・染付	外・丸文	—	肥前	18C中葉-19C中葉		
1067	表土	09611区表土	織器	小輪	丸形	7.2 — —	ろくろ	透明・染付	外・人物・草花文	白色	—	肥前	18C中葉-19C中葉	
1068	表土	E-1表土	織器	小輪	丸形	9.0 (4.6) —	ろくろ	透明・染付	内・四季圖	—	肥前	18C中葉-19C中葉		
1069	表土	表土C-8	織器	中輪	丸形	10.0 (10.5) (4.0)	ろくろ	透明・染付	外・松竹編文	白色	—	肥前	18C中葉-19C中葉	
1070	表土	表土C-3	織器	中輪	丸形	9.6 (3.6) (4.9)	ろくろ	透明・染付	外・冰裂開文	白色	—	肥前	18C中葉-19C中葉	
1071	表土	09611区	織器	中輪	丸形	10.0 4.4 5.6	ろくろ	透明・染付	外・花文	白色	—	肥前	18C中葉-19C中葉	
1072	表土	09611区表土C-8	織器	中輪	丸形	10.8 3.9 4.8	ろくろ	透明・染付	外・蘭草印	灰白色	薄織	肥前	18C中葉-19C中葉	くわねんか
1073	表土	0961表土1区	織器	中輪	丸形	10.8 (3.4) (5.4)	ろくろ	透明・染付	外・水芭蕉文	白色	—	肥前	18C中葉-19C中葉	
1074	表土	0961表土	織器	中輪	丸形	9.2 (3.4) (4.4)	ろくろ	透明・染付	外・松竹編文	白色	—	肥前	18C中葉-19C中葉	
1075	表土	09611区表土	織器	中輪	丸形	9.4 — —	ろくろ	透明・染付	外・水芭蕉文	白色	—	肥前	18C中葉-19C中葉	
1076	表土	1区0961	織器	中輪	丸形	9.8 — —	ろくろ	透明・染付	外・草花文?	白色	—	肥前	18C中葉-19C中葉	
1077	表土	09611区表土	織器	中輪	丸形	10.8 — —	ろくろ	透明・染付	外・草花文	白色	—	肥前	18C中葉-19C中葉	
1078	表土	09611区表土C-8	織器	中輪	丸形	9.7 — —	ろくろ	透明・染付	外・草花文	白色	—	肥前	18C中葉-19C中葉	
1079	表土	0961表土	織器	中輪	丸形	— 4.4 —	ろくろ	透明・染付	外・草花文	白色	—	肥前	18C中葉-19C中葉	
1080	表土	0961表土	織器	中輪	丸形	— (3.6) —	ろくろ	透明・染付	コロコロ	白色	—	湘南・美濃	近代	
1081	表土	09611区表土	織器	中輪	丸形	— (3.9) —	ろくろ	透明・染付	外・草花文	灰白色	—	湘南・美濃	18C中葉-19C中葉	
1082	表土	09611区表土	織器	中輪	半圓型	— (4.0) —	ろくろ	透明・染付	外・草花文	白色	—	肥前	18C中葉-19C中葉	
1083	表土	09611区表土	織器	中輪	丸形	— — —	ろくろ	透明・染付	外・蘭草文	灰白色	—	肥前	18C中葉-19C中葉	
1084	表土	09611区表土クラク	織器	中輪	半圓型	(4.2) 4.0 —	ろくろ	透明・染付	内・五瓣花文	—	肥前	近世		

No	出土遺物名	注記No	種別	器種等	形状等	(口徑cm) (底面形) (高さcm) (幅cm)	D	成 形	施 工	施 工	施 工場所	製作時期	備 考		
1085	表土	0561区 表土C-8	磁器	中碗	丸形	100 (40)	5.0	ろくろ	染付・輪郭 外:輪郭 内:輪郭	灰白色	絞り	波佐見	18C中葉- 近世?	くわんか	
1086	表土	0561区 表土C-8	磁器	中碗	丸形	100 (40)	5.1	ろくろ	染付・透明釉	灰白色	絞り	波佐見	18C中葉- 近世?	くわんか	
1087	表土	0561区 表土	磁器	中碗	丸形	(108)	-	-	染付・透明釉	灰白色	-	18C中葉- 近世?	くわんか		
1088	表土	0561区 表土	磁器	碗	丸形	-	4.4	-	染付・透明釉	灰白色	-	18C中葉- 近世?	くわんか		
1089	表土	0561区 表土	磁器	中碗	丸形	-	3.6	-	染付・透明釉	灰白色	絞り	18C中葉- 近世?	くわんか		
1090	表土	0561区 表土	磁器	中碗	丸形	-	3.5	-	染付・透明釉	内:五瓣花文 外:竹・梅	-	18C中葉- 近世?	くわんか		
1091	表土	0561区 表土	磁器	大碗	丸形	154	6.4	8.5	ろくろ	染付・透明釉	自然	絞り	18C中葉- 近世?	くわんか	
1092	表土	0561区 土焼28	磁器	小皿	平形	9.1	5.4	2.1	ろくろ	口紅・輪郭 外:墨書き 内:墨書き	自然	-	湘口・美濃	近代	くわんか
1093	表土	0561区 表土C-8	磁器	小皿	輪花	10.1	6.0	2.5	盤打	染付・透明釉 コバルト 鋼鉄色	白色	-	湘口・美濃	18C中葉- 近世?	くわんか
1094	表土	0561区 表土	磁器	小皿	平形	12.7	7.1	2.5	盤打	コバルト 鋼鉄色	白色	-	湘口・美濃	近代	くわんか
1095	表土	0561区 表土	磁器	小皿	丸形	(13.4)	(8.0)	3.9	ろくろ	染付・透明釉 竹文	自然	-	肥前	18C中葉- 近世?	くわんか
1096	表土	0561区 表土	磁器	五寸皿	平形	14.2	9.2	3.5	ろくろ	染付・透明釉 内:松皮文 外:墨書き	自然	-	肥前	18C中葉- 近世?	くわんか
1097	表土	0561区 表土	磁器	中皿	丸形	-	(8.3)	-	ろくろ	染付・透明釉 内:墨書き 外:折光墨文 内:墨書き 外:墨書き	自然	絞り	肥前	18C中葉- 近世?	くわんか
1098	表土	0561区 表土	磁器	中皿	平形	(12.6)	(7.4)	-	ろくろ	染付・透明釉 内:墨書き 外:墨書き	自然	-	波佐見	18C中葉- 近世?	くわんか
1099	表土	0561区 表土	磁器	中皿	丸形	(11.5)	(7.6)	4.5	ろくろ	染付・透明釉 内:墨書き 外:墨書き	自然	大明光背?	肥前	18C中葉- 近世?	くわんか
1100	表土	0561区 表土	磁器	中皿	端反	(14.1)	(8.4)	-	ろくろ	染付・透明釉 内:墨書き	白色	大明光背?	肥前	18C中葉- 近世?	くわんか
1101	表土	0561区 16土焼	磁器	中皿	丸形	(14.2)	-	-	ろくろ	染付・透明釉 内:墨書き	-	-	肥前	近世	くわんか
1102	表土	0561区 表土	磁器	中皿	盤	-	-	-	ろくろ	染付・透明釉 内:墨書き	-	-	湘口・美濃	18C中葉- 近世?	くわんか
1103	表土	0561区 表土 1区	磁器	盤	圓物	-	-	1.3	盤打	内:墨書き 外:墨書き	自然	-	肥前	18C中葉- 近世?	くわんか
1104	表土	0561区 表土	磁器	盤	圓物	(6.8)	(4.4)	(4.4)	ろくろ	内:墨書き 外:墨書き	自然	-	湘口・美濃	18C中葉- 近世?	くわんか
1105	表土	0561区 表土 C-8	磁器	盤	圓物	(10.6)	(9.6)	3.6	ろくろ	内:墨書き 外:墨書き	自然	-	肥前	18C中葉- 近世?	くわんか
1106	表土	0561区 表土 C-8	磁器	盤	圓物	-	(8.0)	-	ろくろ	内:墨書き 外:墨書き	自然	-	湘口・美濃	18C中葉- 近世?	くわんか
1107	表土	0561区 表土 1区	磁器	盒	盒	(5.5)	-	-	染付・透明釉	内:墨書き 外:墨書き	自然	-	肥前	18C中葉- 近世?	くわんか
1108	表土	0561区 表土 C-8	磁器	盒	盒	-	-	-	染付・透明釉	内:墨書き 外:墨書き	自然	-	湘口・美濃	18C中葉- 近世?	くわんか
1109	表土	0561区 表土 C-8	磁器	中鉢	鉢	-	(5.5)	-	ろくろ	内:墨書き 外:墨書き	自然	-	肥前	18C中葉- 近世?	くわんか
1110	表土	0561区 表土	磁器	鉢	鉢	-	-	-	染付・透明釉	内:墨書き 外:墨書き	自然	-	肥前	18C中葉- 近世?	くわんか
1111	表土	0561区 表土	磁器	小皿	圓形	24	3.8	5.7	ろくろ	西明地	白色	-	湘口・美濃	近代	くわんか
1112	表土	0561区 表土	磁器	小皿	圓形	-	-	-	ろくろ	外:墨書き	自然	-	湘口・美濃	近代	くわんか
1113	表土	0561区 表土	磁器	小皿	圓形	らうきょう形	-	3.0	ろくろ	外:墨書き	自然	-	湘口・美濃	15c-	くわんか

No	出土遺物名	注記①②	種別	器形	法量(cm) ()は直筒値			成形	接觸	絆	地質	時代	製作技術	備考
					A	B	C							
11114	表土	05C表土	磁器	神海泡形	1.6	3.8	11.4	ろくろ	接付・透かし	外・内輪	白色	-	18C中葉~19C中葉	
11115	表土	05C表土	磁器	神海泡形	1.3	-	-	ろくろ	接付・透かし	外・内輪	灰白色	-	18C中葉~19C前	
11116	表土	05C表土 1区	磁器	神海泡形	1.6	-	-	ろくろ	接付・透かし	外・内輪	白色	-	18C中葉~19C前	
11117	表土	05C表土 C-8	磁器	神海泡形	1.6	-	(4.4)	ろくろ	接付・透かし	外・内輪	灰白色	-	18C中葉~19C前	
11118	表土	05C表土 119	磁器	花入、筒形	(6.3)	(5.4)	-	ろくろ	接付・透かし	外・内・裏面	白色	-	19C	箱戸・美濃
11120	表土	05C表土	磁器	大皿	-	-	-	ろくろ	接付・透かし	外・竹文	灰白色	-	18C中葉~高台に埋蔵	
11121	表土	05C表土	磁器	大皿	-	-	-	ろくろ	接付・透かし	外・竹文	灰白色	-	18C中葉~肥前	
11122	表土	05C表土 123	磁器	歌川海潮	-	-	-	型押	接付・透かし	外・竹文・通鑑文	白色	-	18C中葉~肥前	
11124	表土	05C表土	磁器	萬物鏡	丸形	(10.8)	-	ろくろ	接付・透かし	外・南窓文	白色	-	18C中葉~肥前	
11125	表土	05C表土 1区	磁器	萬物鏡	丸形	-	(4.9)	ろくろ	接付・透かし	外・通鑑文	白色	-	18C中葉~19C中葉	
11126	表土	05C表土	磁器	土瓶蓋	丸形	7.0	-	ろくろ	接付・透かし	外・竹文・洋	白色	-	18C中葉~近世	
11127	表土	05C表土	磁器	萬物鏡	丸形	(10.4)	-	ろくろ	接付・透かし	外・草花文	白色	-	18C中葉~近世	
11128	表土	05C表土 1区-12	磁器	萬物鏡	丸形	(2.0)	(0.8)	ろくろ	接付・透かし	外・印	白色	-	18C中葉~近世	
11129	表土	05C表土 43土具	磁器	萬物鏡	丸形	1.9	-	ろくろ	接付・コバルト	外・印	白色	-	18C中葉~近世	
11130	表土	05C表土	磁器	萬物鏡	水タン元	2.1	-	ろくろ	接付・透かし	外・印	白色	-	18C中葉~近世	
11131	表土	05C表土	磁器	萬物鏡	水タン元	2.0	-	ろくろ	接付・透かし	外・印	白色	-	18C中葉~近世	
11132	表土	05C表土 1区-28	磁器	子母	子母	3.6	3.5	ろくろ	接付・透かし	外・印	白色	-	18C中葉~近世	
11133	表土	05C表土 1区-28	磁器	子母	子母	3.6	3.5	ろくろ	接付・透かし	外・印	白色	-	18C中葉~近世	
11134	表土	05C表土 1区-28	磁器	子母	子母	3.6	3.5	ろくろ	接付・透かし	外・印	白色	-	18C中葉~近世	
11135	表土	05C表土 1区-28	磁器	子母	子母	3.6	3.5	ろくろ	接付・透かし	外・印	白色	-	18C中葉~近世	
11136	表土	05C表土 1区-28	磁器	子母	子母	3.6	3.5	ろくろ	接付・透かし	外・印	白色	-	18C中葉~近世	
11137	表土	05C表土	磁器	快壺用乳鉢	圓筒形	5.4	5.4	ろくろ	透かし・コバルト	外・印	白色	-	近現代	特許出願中
11138	表土	05C表土	磁器	快壺用乳鉢	圓筒形	5.0	5.0	ろくろ	透かし・コバルト	外・印	白色	-	近現代	美濃藩公年
11139	表土	05C表土	磁器	快壺用乳鉢	圓筒形	5.1	5.1	ろくろ	透かし・コバルト	外・印	白色	-	近現代	生口あり
11140	表土	05C表土	磁器	快壺用乳鉢	圓筒形	5.3	5.4	ろくろ	透かし・コバルト	外・印	白色	-	近現代	備考参照
11141	表土	05C表土	磁器	快壺用乳鉢	圓筒形	4.6	4.6	ろくろ	透かし・コバルト	外・印	白色	-	近現代	備考参照
11142	表土	05C表土	磁器	快壺用乳鉢	圓筒形	5.0	5.0	ろくろ	透かし・コバルト	外・印	白色	-	近現代	備考参照
11143	表土	05C表土	磁器	快壺用乳鉢	圓筒形	5.1	5.1	ろくろ	透かし・コバルト	外・印	白色	-	近現代	美濃藩公年

No	出土遺物名	注記No	種別	経緯等	形状等	法線(cm) (A-B)(B-C)(C-D) (口道面)(側面)(底面)	成形	被覆 付・裏面	文様・装饰	施土 色調	絵・他	推定產地	製作時期	備考
1144	表土	05G-表土	切器	椎葉用乳鉢	圓丸筒方体 型 / - 型 / 102.2 毫 / 23.5 高度 / 42.5 底面	型神	透明釉・コバルト?	白色	備考参照	近畿代	美濃所... 風...			
1145	表土	05G-表土	切器	椎葉用乳鉢	圓丸筒方体 型 / - 型 / 91.1 毫 / 21.5 高度 / 38.5 底面	型神	透明釉・コバルト?	白色	備考参照	近畿代	美濃所... 風...			
1146	表土	05G-表土	切器	椎葉用乳鉢	圓丸筒方体 型 / - 型 / 110.0 毫 / 23.5 高度 / 38.5 底面	型神	透明釉・コバルト?	白色	備考参照	近畿代	美濃所... 風...			
1147	表土	05G-表土	切器	椎葉用乳鉢	圓丸筒方体 型 / 85.5 毫 / 110.0 毫 / 28.5 高度 / 28.5 底面	型神	透明釉・コバルト?	白色	備考参照	近畿代	美濃所... 風...			
1148	表土	05G-表土	切器	椎葉用乳鉢	圓丸筒方体 型 / 95.9 毫 / 21.5 高度 / 35.5 底面	型神	透明釉・コバルト?	白色	備考参照	近畿代	美濃所... 風...			
1149	表土	05G-表土	切器	椎葉用乳鉢	圓丸筒方体 型 / 85.7 毫 / 103.5 毫 / 28.5 高度 / 34.5 底面	型神	透明釉・コバルト?	白色	備考参照	近畿代	美濃所... 風...			
1150	表土	05G-表土	切器	椎葉用乳鉢	圓丸筒方体 型 / 95.9 毫 / 107.5 毫 / 28.5 高度 / 36.5 底面	型神	透明釉・コバルト?	白色	備考参照	近畿代	美濃所... 風...			
1151	表土	05G-E-表土	切器	椎葉用乳鉢	圓丸筒方体 型 / 106.0 毫 / 202.5 毫 / 30.5 高度 / 35.5 底面	型神	透明釉・コバルト?	白色	備考参照	近畿代	美濃所... 風...			
1152	表土	05G-表土	陶器	中盤	天目	106.0	-	-	赤褐色	-	益子	近畿代	美濃所... 風...	
1153	表土	05G-表土	陶器	汽車手型	汽車手型	(8.0)	-	-	黃灰色	-	益子	近畿代	美濃所... 風...	
1154	表土	05G-表土	陶器	漆油利	漆油利	-	6.0	-	黃灰色	-	益子	近畿代	美濃所... 風...	
1155	表土	05G-表土	陶器	おとし蓋	おとし蓋	(12.0)	(5.6)	(2.3)	黃灰色	-	益子	近畿代	美濃所... 風...	
1156	表土	05G-表土	陶器	土瓶蓋	土瓶蓋	(5.7)	-	-	黃灰色	-	益子	近畿代	美濃所... 風...	
1157	表土	05G-表土	陶器	土瓶蓋	土瓶蓋	-	-	1.2	7.0	黃白色	-	近畿代	美濃所... 風...	
1158	表土	05G-表土	陶器	鏡持口	半圓形	4.5	3.8	2.5	黃灰色	-	近畿代	美濃所... 風...		
1159	表土	05G-表土 I 区	陶器	鏡持口	半圓形	(5.0)	(4.0)	(3.0)	黃灰色	-	近畿代	美濃所... 風...		
1160	表土	05G-表土 I 区	陶器	鏡持口	半圓形	(4.8)	(4.4)	2.7	黃灰色	-	近畿代	美濃所... 風...		
1161	表土	05G-表土	陶器	鏡持口	半圓形	(3.8)	(3.0)	2.3	黃灰色	-	近畿代	美濃所... 風...		
1162	表土	05G-表土	陶器	馬鉢	馬鉢	(12.0)	-	-	黃灰色	-	近畿代	美濃所... 風...		
1163	表土	05G-表土	陶器	馬鉢	馬鉢	-	(14.0)	-	黃灰色	-	近畿代	美濃所... 風...		
1164	表土	05G-表土	陶器	馬鉢	馬鉢	(15.6)	(12.8)	(11.4)	黃灰色	-	近畿代	美濃所... 風...		
1165	表土	05G-表土	陶器	滑鉢	滑鉢	-	(8.2)	-	黃灰色	-	近畿代	美濃所... 風...		
1166	表土	05G-表土	陶器	滑鉢	滑鉢	-	-	ろくろ	赤褐色	-	近畿代	美濃所... 風...		

No.	出土遺構名	柱記No.	種別	柱接合	形状等	柱高(cm) (口直・高さ) (横幅・幅)	成形 (A面) (B面) (C面) (D面)	柱身・柱頭		柱材・調節地	柱定盤地	製作時期	備考
								内面目	外面目				
1167	表土	06G表土 1 区	陶器	筒状	筒状	—	—	—	—	赤褐色	—	18C~	—
1168	表土	06G表土 1 区	陶器	筒状	筒状	—	—	—	—	黄白色	—	近世	—
1169	表土	06G表土 1 区	陶器	筒状	筒状	—	—	—	—	黄白色	—	近世	MENJU POMADE
1170	表土	06G表土 1 区	陶器	筒状	筒状	半圆形	4.9	6.0	3.8	圆形	鐵考多羅	18C~	鐵考多羅丸。
1171	表土	06G表土 1 区	陶器	筒状	筒状	半圆形	4.6	3.5	5.6	6.2	鐵物	18C~	鐵考多羅丸。
1172	表土	06G表土 1 区	陶器	筒状	筒状	丸形	(6.3)	(3.4)	1.4	ろくろ	鐵物	18C中~	鐵考多羅丸。
1173	表土	06G表土 1 区	陶器	筒状	筒状	丸形	(7.8)	(4.0)	1.5	ろくろ	鐵物	18C中~	鐵考多羅丸。
1174	表土	06G表土	陶器	筒状	筒状	丸形	(7.8)	(4.0)	1.8	ろくろ	鐵物	18C中~	鐵考多羅丸。
1175	表土	06G表土 1 区	陶器	筒状	筒状	丸形	(8.6)	(4.0)	1.7	ろくろ	鐵物	18C中~	鐵考多羅丸。
1176	表土	06G表土	陶器	筒状	筒状	丸形	(11.8)	(5.6)	(2.2)	ろくろ	鐵物	18C中~	鐵考多羅丸。
1177	表土	06G表土	陶器	筒状	筒状	丸形	(6.6)	(3.0)	1.1	ろくろ	鐵物	18C中~	鐵考多羅丸。
1178	表土	06G表土	陶器	筒状	筒状	丸形	(10.3)	(4.4)	1.9	ろくろ	鐵物	18C中~	鐵考多羅丸。
1179	表土	06G表土	陶器	筒状	筒状	丸形	(10.2)	(5.0)	2.1	ろくろ	鐵物	18C中~	鐵考多羅丸。
1180	表土	06G表土 1 区	土器	手造	手造	丸形	6.6	4.8	1.6	ろくろ	鐵物	18C中~	鐵考多羅丸。
1181	表土	06G表土 1 区	土器	手造	手造	丸形	6.4	4.8	1.1	ろくろ	鐵物	18C中~	鐵考多羅丸。
1182	表土	06G表土	土器	手造	手造	丸形	6.4	4.6	1.1	ろくろ	鐵物	18C中~	鐵考多羅丸。
1183	表土	06G表土	土器	手造	手造	丸形	5.4	4.6	1.1	ろくろ	鐵物	18C中~	鐵考多羅丸。
1184	表土	06G表土	土器	手造	手造	丸形	5.4	4.2	1.5	ろくろ	鐵物	18C中~	鐵考多羅丸。
1185	表土	06G表土	土器	手造	手造	丸形	(6.4)	(5.6)	2.3	ろくろ	鐵物	18C中~	鐵考多羅丸。
1186	表土	06G表土 E-3	土器	手造	手造	丸形	6.0	4.2	1.4	ろくろ	鐵物	18C中~	鐵考多羅丸。
1187	表土	06G表土 E-3	土器	手造	手造	丸形	(6.4)	(6.4)	1.4	ろくろ	鐵物	18C中~	鐵考多羅丸。
1188	表土	06G表土	土器	手造	手造	丸形	(6.4)	(5.6)	1.5	ろくろ	鐵物	18C中~	鐵考多羅丸。
1189	表土	06G表土	土器	手造	手造	丸形	(6.4)	(5.6)	1.5	ろくろ	鐵物	18C中~	鐵考多羅丸。
1190	表土	06G表土 C-8	土器	手造	手造	丸形	(9.8)	(6.0)	1.8	ろくろ	鐵物	18C中~	鐵考多羅丸。
1191	表土	06G表土 C-8	土器	手造	手造	丸形	(7.2)	(5.0)	1.8	ろくろ	鐵物	18C中~	鐵考多羅丸。
1192	表土	06G表土 C-8	土器	手造	手造	丸形	(11.8)	(7.0)	2.4	ろくろ	鐵物	18C中~	鐵考多羅丸。
1193	表土	06G表土 C-8	土器	手造	手造	丸形	(8.0)	(2.7)	—	ろくろ	鐵物	18C中~	鐵考多羅丸。
1194	表土	06G表土 C-8	土器	手造	手造	逆凹型	8.2	—	1.8	板作り	鐵物	18C中~	鐵考多羅丸。
1195	表土	06G表土 C-8	土器	手造	手造	丸形	(28.6)	(26.4)	6.4	ろくろ	鐵物	18C中~	鐵考多羅丸。
1196	表土	06G表土 C-8	瓦	神込瓦	輪違い	瓦	高さ/10.2	厚さ/1.7	9.6	—	鐵物	18C中~	鐵考多羅丸。
1197	表土	06G表土 C-8	瓦	神込瓦	輪違い	瓦	高さ/—	厚さ/2.6	—	鐵物	18C中~	鐵考多羅丸。	
1198	表土	06G表土 C-8	瓦	神込瓦	円筒型	火輪	高さ/—	厚さ/2.2	—	鐵物	18C中~	鐵考多羅丸。	
1199	表土	06G表土	石製品	石製品	石製品	火輪	高さ/34.4	厚さ/3.0	32.9	—	鐵物	18C中~	鐵考多羅丸。
1200	表土	06G表土	石製品	石製品	石製品	火輪	高さ/0.9	—	—	鐵物	18C中~	鐵考多羅丸。	
1201	表土	06G表土 C-8	石製品	石製品	石製品	火輪	高さ/—	厚さ/2.2	3.6	鐵物	18C中~	鐵考多羅丸。	
1202	表土	06G表土 C-8	石製品	石製品	石製品	火輪	高さ/—	厚さ/2.0	—	鐵物	18C中~	鐵考多羅丸。	
1203	表土	06G表土 C-8	石製品	石製品	石製品	火輪	高さ/—	厚さ/2.0	—	鐵物	18C中~	鐵考多羅丸。	
1204	表土	06G表土 C-8	石製品	石製品	石製品	火輪	高さ/—	厚さ/2.0	—	鐵物	18C中~	鐵考多羅丸。	
1205	表土	06G表土 C-8	瓦	神込瓦	輪違い	瓦	高さ/—	厚さ/0.45	—	鐵物	18C中~	鐵考多羅丸。	
1206	表土	06G表土 C-8	瓦	神込瓦	輪違い	瓦	高さ/—	厚さ/0.45	—	鐵物	18C中~	鐵考多羅丸。	
1207	表土	06G表土	瓦製品	瓦製品	瓦製品	瓦	高さ/—	厚さ/0.35	—	鐵物	18C中~	鐵考多羅丸。	
1208	表土	06G表土	瓦製品	瓦製品	瓦製品	瓦	高さ/—	厚さ/0.35	—	鐵物	18C中~	鐵考多羅丸。	

No.	出土遺物名	注記No	種別	経緯等	形状等	法線(cm) (A-B-C-D) (口直面)(側面)	成形	輪	鉢	縁	他	指定原地	製作時期	備考
1209	瓦土		金物類品	鉢	2.3 0.6	0.1						六曲室宮 口直水口	1078~	
1210	瓦土		金物類品	鉢	2.4 0.6	0.1								
1211	瓦土		金物類品	鉢	2.4 0.6	0.1								
1212	瓦土		金物類品	鉢	2.1 0.6	0.1								
1213	瓦土		金物類品	鉢	2.1 —	0.1						輪和2年 十日アルミ真 正月22		
1214	瓦土		石製品	瓦石	高さ/1.2 幅/1.2	厚/1.64 厚/1.64								
1215	瓦土		石製品	瓦石(下臼)	高さ/— 幅/—	厚/1.23 厚/1.03								
1216	瓦土		石製品	瓦石(上臼)	高さ/— 幅/—	厚/— 厚/—								
1217	1号窓	08CII区ミソ	短器	中輪	丸形	—	—	ろくろ	染付・透明釉	内:四方輪	白色	測定・美濃	18C	近世?
1218	1号窓	08CII区ミソ	短器	神酒匙利	らつとうき	—	2.7	—	ろくろ	透明釉	白色	—	—	18Cの窓
1219	1号窓	08CII区ミソ	短器	大鉢	平形	—	(12.0)	—	ろくろ	鉢輪	黄色	—	18C	中窓
1220	1号窓	08CII区ミソ	短器	灯明皿	丸形	(8.9)	—	—	ろくろ	輪輪	灰色	—	18Cの窓	近世?
1221	1号窓	08CIIミソ1	土器	わらうらけ	丸形	(9.6)	2.8	ろくろ	染付・透明釉	薄青色	—	—	18Cの窓	近世?
1222	1号窓	08CIIミソ1	土器	わらうらけ	丸形	(10.4)	2.7	ろくろ	染付・透明釉	薄青色	—	—	18Cの窓	近世?
1223	2号窓	1区08CIIミソP-7	短器	小輪	端反	(8.2)	—	—	ろくろ	外:九文 内:三重圓輪	白色	—	周芦・美濃	近世
1224	2号窓	1区08CIIミソP-4	短器	小輪	底反	—	4.4	—	ろくろ	染付・透明釉	内:皆井文	—	18Cの窓	肥前
1225	2号窓	1区08CIIミソP-8	短器	小輪	丸形	(3.4)	—	ろくろ	染付・透明釉 口直	外:一重二重圓輪 内:輪刻人物	白色	—	肥前	近世?
1226	2号窓	1区08CIIミソP-1	短器	五寸皿	輪花	(14.8)	4.2	ろくろ	染付・透明釉	輪花	—	蛇の目窓	近代	蛇の目窓
1227	2号窓	08CII区SII区P-9	短器	大鉢	輪花	12.6	—	—	ろくろ	透明釉・板写	内外:丸に唐草 外:輪文	—	近代	近代
1228	2号窓	08CII区2ソン	短器	魚鱗	丸形	6.8	—	—	ろくろ	透明釉・ブント	輪花	—	18Cの窓	近代
1229	2号窓	08CII区2ソン1	短器	わらうらけ	丸形	6.8	2.0	ろくろ	染付・透明釉	輪花	—	—	18Cの窓	近代
1230	4号窓	08CII区ミソP-1	土器	わらうらけ	丸形	6.8	5.3	ろくろ	染付・透明釉	輪花	—	—	18Cの窓	近代
1231	4号窓	08CII区ミソ4-5-1	石製品	五輪	短器	—	—	ろくろ	染付・透明釉	輪花	—	—	18Cの窓	中世
1232	S-2				五輪	—	—	ろくろ	染付・透明釉	輪花	—	—	18Cの窓	中世
1233	13号窓	S-1	石瓶	(石臼)	五輪	—	—	ろくろ	染付・透明釉	輪花	—	—	18Cの窓	近世
1234	1号土坑	08CII区土坑	短器	中輪	丸形	(5.0)	—	ろくろ	染付・透明釉	外:竹文	白色	—	18Cの窓	近世?
1235	1号土坑	08CII区土坑	短器	中輪	丸形	—	—	ろくろ	染付・透明釉	内:草文	—	—	18Cの窓	近世?
1236	1号土坑	08CII区土坑P-1	短器	五寸皿	丸形	(13.6)	3.6	ろくろ	染付・透明釉 口直	外:草文 内:山水文	白色	—	蛇の目窓	近代
1237	1号土坑	08CII区土坑P-2	陶器	粗輪	丸形	—	—	ろくろ	染付・透明釉	輪花	—	—	18Cの窓	近代
1238	1号土坑	08CII区土坑P-5	土製品	人形	天神	—	—	ろくろ	染付・透明釉	輪花	—	—	18Cの窓	近代
1239	4号土坑	08CII区6号土坑	金物類品	鉢	—	—	—	—	—	—	P.	—	近代	近代
1240	6号土坑	08CII区6号土坑	金物類品	鉢	—	—	—	—	—	—	—	—	—	近代
1241	7号土坑	08CII区土坑7	短器	小輪	丸形	6.3	3.0	6.7	ろくろ	透明白釉 スラング	—	—	18Cの窓	近代
1242	7号土坑	08CII区土坑7	短器	小輪	丸形	(7.9)	—	—	ろくろ	染付・透明釉	内:通鑑文	—	18Cの窓	近代
1243	7号土坑	08CII区土坑7	短器	輪	—	(4.2)	—	—	ろくろ	染付・透明釉	灰白	源氏見	18Cの窓	くわんか
1244	7号土坑	08CII区土坑7	短器	仏瓶	—	5.1	—	—	ろくろ	染付・透明釉	白色	—	18Cの窓	輪台

No	出土遺物名	注記No	種別	器種等	形状等	法線(cm) (口幅等)(底面等)	成形 (A B C D (底面))	施付・施面	文様・装饰	施付・施面	施土 色	経年	他	指定書出	製作時期	備考
1245	8号土坑	06CII区 土坑8	陶器	小杯	端反	(4.9)	1.8	2.7	ろくろ	染付・透明釉	白色	-	湘戸・美濃	近代		
1246	8号土坑	06CII区 土坑8	陶器	陶器	丸形	(14.6)	7.0	5.1	ろくろ	鉢輪	灰白色	-	湘戸・美濃	~19C中葉		
1247	8号土坑	06CII区 土坑8	陶器	灯明皿	丸形	(5.8)	(2.0)	1.9	ろくろ	鉢輪	灰白色	-	湘戸・美濃	18C	C型高足脚盤	
1248	8号土坑	06CII区 土坑8	陶器	瓦	瓦	1.0	2.2	6.5	2.0	鉢台	白色	-	近代			
1249	8号土坑	06CII区 土坑8	陶器	瓦	瓦	(4.8)	(1.8)	2.6	ろくろ	透明釉・上輪 白・金	白色	-	湘戸・美濃	近代		
1250	1号井戸	06CII区 土坑 P-2	陶器	小杯	端反	-	(2.1)	-	ろくろ	透明釉・上輪 白	白色	-	湘戸・美濃	近代		
1251	1号井戸	06CII区 土坑	陶器	小杯	桶形	6.2	3.5	5.7	ろくろ	染付・透明釉	白色	-	肥前	~19C中葉		
1252	1号井戸	06CII区 土坑	陶器	小杯	筒丸	7.1	3.2	6.3	ろくろ	染付・透明釉	外・紫・草文	白色	-	湘戸・美濃	近代	
1253	1号井戸	P-2	陶器	小碗	桶形	(7.8)	-	-	ろくろ	染付・透明釉	内・山水文 内・雷文	灰白色	-	肥前	~19C中葉	
1254	1号井戸	06CII区 井戸1((C-3) P-6	陶器	小碗	桶形	(11.2)	-	-	ろくろ	染付・透明釉	内・山水文 内・雷文	灰白色	-	肥前	~19C中葉	
1255	1号井戸	06CII区 3土坑 <-4	陶器	中碗	端反	(10.7)	-	-	ろくろ	染付・透明釉	内・山水文 内・雷文	灰白色	-	肥前	~19C中葉	
1256	1号井戸	06CII区 3土坑 <-4	陶器	中碗	端反	(10.8)	-	-	ろくろ	染付・透明釉	内・工字彫文	白色	-	肥前	~19C中葉	
1257	1号井戸	06CII区 3土坑	陶器	中碗	端反	(10.8)	-	-	ろくろ	染付・透明釉	内・三重圓筒	白色	-	湘戸・美濃	19C	
1258	1号井戸	06CII区 土坑	陶器	中碗	端反	-	(3.2)	-	ろくろ	染付・透明釉	内・雷文	白色	-	肥前	~19C中葉	
1259	1号井戸	06CII区 土坑	陶器	中碗	輪花?	-	(4.0)	1.7	ろくろ	染付・透明釉	外・松文	白色	-	湘戸・美濃	~19C中葉	
1260	1号井戸	06CII区 土坑 P-2	陶器	小皿	輪花?	(10.2)	(5.4)	2.4	ろくろ	染付・透明釉	外・松文	白色	-	肥前	~19C中葉	
1261	1号井戸	06CII区 3土坑	陶器	碗	碗	-	(4.4)	2.6	ろくろ	灰釉	透明釉・白泥	白色	-	湘戸・美濃	18C	
1262	1号井戸	06CII区 3土坑	陶器	土瓶	丸形	(6.0)	-	-	ろくろ	透明釉・灰地	透明釉	白色	-	湘戸・美濃	~19C中葉	
1263	1号井戸	06CII区 3土坑	陶器	土瓶	丸形	-	-	-	ろくろ	自走・染付	外・烟曲文	茶褐色	-	近世		
1264	1号井戸	(C-3)P-4	陶器	土瓶蓋	筒丸	5.0	-	-	ろくろ	透明釉・白泥	五片花紋文	灰色	-	益子	19C中葉~	
1265	1号井戸	06CII区 3土坑 <-4	陶器	土瓶蓋	筒丸	5.1	-	-	ろくろ	染付・透明釉	自走	浅黃褐色	-	18C	~19C中葉	
1266	1号井戸	06CII区 3土坑 <-4	陶器	中碗蓋	筒丸	(3.4)	(5.4)	2.3	ろくろ	染付・透明釉	内・よろけ文・花文	白色	桃山	肥前	18C	
1267	1号井戸	06CII区 3	陶器	筒丸	筒丸	(13.7)	(5.6)	-	ろくろ	鉢輪	内・雷文	淡茶褐色	-	近世	19C	
1268	1号井戸	06CII区 3	陶器	筒丸	筒丸	-	-	-	ろくろ	鉢輪	白褐色	灰色	-	湘戸・美濃	~19C中葉	
1269	1号井戸	06CII区 3	陶器	土瓶	丸形	(17.0)	-	-	ろくろ	鉢輪	白褐色	-	湘戸・美濃	19C		
1270	1号井戸	06CII区 井戸1((C-3) P-3)地	陶器	土瓶	丸形	(17.0)	-	-	ろくろ	鉢輪	白褐色	-	湘戸・美濃	~19C中葉		
1271	1号井戸	06CII区 3	陶器	鉢輪口	半圆形	3.6	3.4	2.2	ろくろ	灰釉	白色	-	湘戸・美濃	18C		
1272	1号井戸	06CII区 3土坑	陶器	灯明皿	丸形	(6.8)	-	-	ろくろ	鉢輪	白色	-	湘戸・美濃	~19C中葉		
1273	1号井戸	06CII区 3土坑	陶器	灯明皿	丸形	(6.7)	(2.8)	(1.4)	ろくろ	鉢輪	白色	-	湘戸・美濃	18C	滑溜釉	

No	出土遺物名	注記No	種別	器種等	形状等	法線(cm) (□:断面) (△:側面) (○:底面)			成形	焼付・施釉	施土色調	結他	指定度地	製作時期	備考	
						A	B	C								
1274	1号井戸	061 図K-3土坑	陶器	灯明皿	丸形	(7.4)	(3.3)	(1.4)	ろくろ	透明釉	灰色	-	信楽系	18C~中唐		
1275	1号井戸	061 図K-3土坑	陶器	灯明皿	丸形	6.4	3.0	1.3	ろくろ	透明釉	灰色	-	信楽系	18C~中唐		
1276	1号井戸	061 図K-3土坑	陶器	灯明皿	丸形	8.1	3.4	1.7	ろくろ	透明釉	灰色	-	信楽系	18C~中唐		
1277	1号井戸	061 図K-3土坑	陶器	灯明皿	丸形	6.8	3.5	1.7	ろくろ	焼付	灰灰色	-	信楽系	18C~中唐		
1278	1号井戸	P-7	陶器	灯明皿	丸形	6.8	3.0	1.5	ろくろ	焼付	灰色	-	信楽系	18C~中唐		
1279	1号井戸	061 図K-3土坑	陶器	灯明皿	丸形	(9.2)	4.2	2.5	ろくろ	焼付	灰白色	-	信楽系	18C~中唐		
1280	1号井戸	061 図K-4	陶器	灯明皿	丸形	6.5	3.1	1.3	ろくろ	焼付	灰色	-	信楽系	18C~中唐		
1281	1号井戸	061 図K-4 土坑<4	陶器	灯明皿	丸形	(11.0)	(5.0)	(2.0)	ろくろ	透明釉	白色	-	信楽系	18C~中唐		
1282	1号井戸	061(II)区 井戸P-15	土器	焰壺	焰壺	-	(33.6)	(32.0)	(5.7)	(36.0)	ろくろ	淡灰褐色	-	信楽系	18C~中唐	
1283	1号井戸	061 図K-3土坑	土器	焰壺	内窓	-	(27.0)	(26.0)	-	ろくろ	淡灰褐色	-	信楽系	18C~中唐		
1284	1号井戸	P-17	土器	焰壺	内窓	-	-	-	ろくろ	淡灰褐色	-	信楽系	18C~中唐			
1285	1号井戸	061(II)区 井戸P-12	土器	焰壺	内窓	-	(28.0)	-	-	ろくろ	淡灰褐色	-	信楽系	18C~中唐		
1286	1号井戸	061(II)区 土坑<4	土器	土器	土器	-	(12.0)	(8.2)	2.0	ろくろ	淡褐色	-	信楽系	18C~中唐		
1287	1号井戸	061(II)区 井戸P-12	土器	土器	土器	-	(30.0)	-	-	ろくろ	淡褐色	-	信楽系	18C~中唐		
1288	1号井戸	061(II)区 井戸P-16	石製品	釜石	釜石	-	(22)	(2.2)	0.2	ろくろ	黑色	-	信楽系	18C~中唐		
1289	通轄外 1-2区	061(II)区 1-2	瓦	丸瓦	丸瓦	-	-	-	まき	灰釉	深黑色	-	信楽系	18C~中唐		
1290	通轄外 1-4区	061(II)区 1-4	陶器	灯明皿	丸形	(6.9)	(3.6)	(1.3)	ろくろ	焼付	灰白色	-	信楽系	18C~中唐	目録1点	
1291	通轄外 1-2区	061(II)区 1-2	陶器	端板	中板	-	(10.6)	-	-	ろくろ	焼付・透明釉	白色	-	信楽系	18C~中唐	
1292	通轄外 1-2区	061(II)区 1-2	陶器	端板	中板	-	-	-	ろくろ	焼付・透明釉	白色	-	肥前	18C~中唐		
1293	通轄外 1-2区	061(II)区 1-2	陶器	端板	中板	-	-	-	ろくろ	焼付・透明釉	白色	-	肥前	18C~中唐		
1294	通轄外 1-2区	061(II)区 1-2	陶器	端板	中板	(13.6)	-	-	ろくろ	焼付・透明釉	白色	-	肥前	18C~中唐		
1295	通轄外 1-2区	061(II)区 1-2	陶器	端板	中板	-	(11.0)	-	ろくろ	焼付	灰白色	-	肥前	18C~中唐		
1296	通轄外 1-2区	061(II)区 1-2	瓦	斜丸瓦	斜丸瓦	-	-	-	ろくろ	焼付・透明釉	白色	-	肥前	18C~中唐		
1297	通轄外 1-2区	061(II)区 1-2	金製品	環管	環管	幅/15	幅/16	-	まき	焼付	白色	-	肥前	18C~中唐		
1298	通轄外 1-2区	061(II)区 1-2	金製品	環管	中板	-	-	-	まき	焼付・透明釉	白色	-	肥前	18C~中唐		
1299	通轄外 1-2区	061(II)区 1-2	金製品	環管	中板	-	(3.6)	-	まき	焼付・透明釉	白色	-	肥前	18C~中唐		
1300	通轄外 1-2区	061(II)区 1-2	金製品	環管	中板	(10.6)	-	-	まき	焼付・透明釉	白色	-	肥前	18C~中唐		
1301	通轄外 1-2区	061(II)区 1-2	金製品	環管	中板	-	-	-	まき	焼付	白色	-	肥前	18C~中唐		

No.	出土遺構名	注記No.	種別	経緯等	形状等	法線(cm) (口直面) A (側面) B (底面) C (腹面) D (裏面)	成形	焼付・施薬	施薬色調	焼付・施薬地	焼付時期	備考	
1302	通構外 ウー-056	06cJII区 ウー-5	金物製品	打	丸形	(7.5) 0.5	打出	ろくろ	灰白色	-	肥前	~19C-四葉	
1303	通構外 えー-056	06cJII区 エー-2	切替	皿	平形	(7.5) (2.0)	ろくろ	灰白色 長石棉	灰白色	-	肥前	~19C-四葉	
1304	通構外 えー-056	06cJII区 エー-3	切替	皿	半筒	(12.0) -	ろくろ	灰白色	赤褐色	-	通世	2	
1305	通構外 えー-056	06cJII区 エー-3	切替	皿	半筒	(7.5) -	ろくろ	灰白色	赤褐色	-	通世	1006~	
1306	通構外 えー-056	06cJII区 エー-3	金物製品	丸筒	丸筒	2.3	0.7	0.1	灰白色	-	通世	1708~	
1307	通構外 えー-056	06cJII区 エー-3	金物製品	丸筒	丸筒	2.2	0.6	0.1	灰白色	-	通世	1708~	
1308	通構外 オー-056	06cJII区 オー-2	金物製品	皿	半筒	(5.4) -	ろくろ	金付・透明釉	内:竹文	肥前	1739~	通構外 通宝	
1309	通構外 オー-056	06cJII区 オー-2	金物製品	皿	半筒	2.3	0.1	白	白	-	通世	1739~	
1310	通構外 オー-056	06cJII区 オー-5	切替	小皿	半筒形	(7.0) -	ろくろ	焼付・透明釉	外:雷文 内:四方輪	白	通世	19C	
1311	通構外 オー-056	06cJII区 オー-5	切替	中皿	平形	(10.7) -	ろくろ	焼付・透明釉	白	-	肥前	18C-19C-通宝	
1312	通構外 カー-056	06cJII区 カー-2	切替	中皿	輪形	-	-	7.5	ろくろ	焼付・透明釉	白	通世	~19C-通寶
1313	通構外 カー-056	06cJII区 カー-2	金物製品	丸筒	丸筒	2.3	0.67	断り出	白	-	通世	~19C-通寶	
1314	通構外 カー-056	06cJII区 カー-5	切替	鉢	半筒形	-	(7.5) -	ろくろ	白	-	大正10年	相手一絆	
1315	通構外 キー-056	06cJII区 キー-5	切替	中皿	丸形	-	(3.8) -	ろくろ	白	通世	19C	通構外 通寶	
1316	通構外 <-056	06cJII区 <-5	切替	丸筒	丸筒	(6.0) -	-	(7.3) ろくろ	白	-	通世	19C	
1317	通構外 けー-056	06cJII区 けー-5	切替	丸形	丸形	(6.0) -	-	外:山文 内:草花文	白	-	通世	19C	
1318	通構外 けー-056	06cJII区 けー-6	切替	中皿	丸形	(3.6) -	-	ろくろ	外:山文 内:五叶文	白	通世	~19C-通寶	
1319	表土	06cJII区 表土	切替	中皿	半筒形	(9.8) -	-	ろくろ	外:山文 内:透明白	白	通世	通寶	
1320	表土	06cJII区 表土	切替	丸筒	丸筒	(6.0) -	-	(8.0) ろくろ	外:山文 内:透明白	白	通世	1708~	
1321	表土	06cJII区 表土	切替	丸筒	丸筒	(2.4) -	(3.3) 職合	焼付	外:山文 内:透明白	乳茶色	京・信濃系	1800	
1322	表土	06cJII区 表土	瓦	軒丸瓦	直徑/15.0 厚/2.1	直口 番/6.8 直徑/0.8	打出	外:三巴通文	灰	-	通世	18C	
1323	表土	06cJII区 表土	金物製品	滑溜	-	-	-	-	-	-	通世	~19C-通寶	

第5章 自然化学分析

はじめに

甲府城下町遺跡（北口県有地）は、山梨県甲府市中央に所在し、後背の丘陵地から流下する相川が形成した扇状地扇端付近に立地している。また、戦国期に武田氏が櫛渕ヶ崎に居館を造営した際に建設された城下町の南端、近世甲府城下町の山手御門および内堀、二の堀に囲まれた地点に相当する。本遺跡の発掘調査の結果、戦国時代の墓坑と考えられる土坑、近世の井戸跡や溝、園池遺構等の遺構が検出されている。

本報告では、1) 古環境復元、2) 植物利用、3) 遺構の性格といった課題について検証するため、各遺構より採取された土壤や動物遺存体等を対象に自然科学分析調査を実施する。

1. 試料

試料は、土壤試料6点（21号土坑、園池遺構、1～3号埋桶）、骨・貝等の動物遺存体6点（6号井戸、14・23・27・31号土坑）、種実試料1点（1号埋桶）からなる。各試料の概要及び分析項目を表1に示す。

2. 分析方法

(1) 花粉分析

試料約10gについて、水酸化ナトリウムによる泥化、篩別、重液（臭化亜鉛比重2.3）による有機物の分離、フッ化水素酸による鉱物質の除去、アセトトリシス（無水酢酸9：濃硫酸1の混合液）処理による植物遺体中のセルロースの分解を行い、物理・化学的処理を施して花粉を濃集する。残渣をグリセリンで封入してプレパラートを作成し、400倍の光学顕微鏡下でプレパラート全面を走査し、出現する全ての種類について同定・計数する。

結果は同定・計数結果の一覧表、および花粉化石群集の層位分布図として表示する。図中の木本花粉は木本花粉総数、草本花粉・シダ類胞子は総数から不明花粉を除いた数をそれぞれ基準として、百分率で出現率を算出し図示する。

表1. 分析試料及び分析項目一覧

No.	地区	遺構名	試料名	分析項目*				
				花粉	寄生	微細	種子	骨
1	I 区	21号土坑(墓坑)	かわらけ内の土壤	●	●			
2		6号井戸	骨					●
3	I 区	11号井戸	貝					●
4		14号土坑(墓坑)	骨(人骨)	B-1 B-2 B-3 B-4 B-5 B-6 B-7				●
5	I 区	23号土坑(墓坑)	骨(人骨)	骨				●
6		27号土坑(墓坑)	骨(人骨)	骨-1 骨-2 骨-3 骨-4 骨-5				●
7		31号土坑(墓坑)	骨(人骨)	骨				●
8	I 区	園池遺構	土壤	1 2	● ●	● ●		
9	II 区	1号埋桶	土壤	3層	● ●	● ●	● ●	●
10	II 区	2号埋桶	土壤・種子	3層	● ●	● ●	● ●	
11	II 区	3号埋桶	土壤	5層	● ●	● ●	● ●	

*例 花粉:花粉分析、寄生:寄生虫卵分析、微細:微細物分析、種子:種実遺存体同定、骨:骨・貝類同定、土壤:土壤理化分析(電気伝導度、全窒素、全窒素、全リン)

(2) 寄生虫卵分析

試料10ccを正確に秤り取る。これについて水酸化ナトリウムによる泥化、篩別、重液（臭化亜鉛比重2.3）による有機物の分離の順に物理・化学的処理を施し、寄生虫卵を分離・濃集する。処理後の残渣を定容してから一部をとり、グリセリンで封入してプレパラートを作成し、400倍の光学顕微鏡下でプレパラート全面を走査して出現する全ての寄生虫卵について同定・計数する。

結果は、堆積物1ccあたりに含まれる寄生虫卵の個数を一覧表として表示する。

(3) 微細遺物分析・種実同定

土壤試料200cc（試料番号1は少量のため40cc）を水に浸し、粒径0.5mmの篩を通して水洗する。篩内

の試料を粒径別にシャーレに集めて双眼実体顕微鏡下で観察し、ピンセットを用いて同定可能な種実遺体や、木材・炭化材（主に径4mm以上）、昆虫・動物遺存体などを抽出する。

種実遺体を双眼実体顕微鏡下で観察する。現生標本および石川（1994）、中山ほか（2000）等との対照から、種類と部位を同定し、個数を数えて表示する。実体顕微鏡下による区別が困難な複数種間は、ハイフォンで結んで表示する。100個を超える木材は容量を表示する。炭化材は個数（100個まで）と70°C48時間乾燥後の重量を表示する。

分析後の抽出物は、種類毎に容器に入れて保管する。種実・木材・昆虫は70%程度のエタノール溶液による液浸処理を施す。また、二枚貝類の殻皮と動物遺存体は、骨貝同定試料として別途抽出する。

（4）骨・貝同定

試料の遺存状況等の観察を行った後、接合可能あるいは必要な試料については、一般工作用接着剤を用いて接合を行う。また、試料に付着した泥分は可能な限り除去する。ただし、バインダー等により硬化されており泥分を除した場合、破損する恐れがある試料は、そのままの状態にとどめておく。

試料を肉眼およびルーペで観察し、その形態的特徴から、種と部位の同定を行う。計測は、デジタルノギスを用いて測定する。同定・解析は金子浩昌氏の協力を得ている。

（5）土壤理化分析

本分析では、電気伝導度（白金電極法）、有機炭素（チューリング法）、全窒素量（硫酸分解－水蒸気蒸留法）、全リン酸（硝酸・過塩素酸分解－バナドモリブデン酸比色法）の4項目の調査を行う（土壤環境分析法編集委員会,1997）。以下に、各項目の工程を示す。

1) 試料調製

試料を風乾後、土塊を軽く崩して2mm篩で篩分けをする。この篩通過試料を風乾細土試料とし、分析に供する。風乾細土試料の一部を振動ミル（平工製作所製TI100：10ml容タンクステンカーバイト容器）で微粉砕し、微粉砕試料を作成する。風乾細土試料は、105°Cで4時間乾燥し、分析試料水分を求める。

2) 電気伝導度（EC）

風乾細土10.0gを秤りとり、50mlの蒸留水を加えて1時間振とうする。振とう後、すみやかにECメーター（白金電極法）で電気伝導度を測定する。

3) 有機炭素・腐植含量

微粉砕試料0.100～0.500gを100ml三角フラスコに正確に秤りとり、0.4Nクロム酸・硫酸混液10mlを正確に加え、約200°Cの砂浴上で正確に5分間煮沸する。冷却後、0.2%フェニルアントラニル酸液を指示薬に0.2N硫酸第一鉄アソニウム液で滴定する。滴定値および加熱減量法で求めた水分量から乾土あたりの有機炭素量（Org-C乾土%）を求める。これに1.724を乗じて腐植含量（%）を算出する。

4) 全窒素

微粉砕試料1.00gをケルダール分解フラスコに秤りとり、分解剤約3.0gと硫酸10mlを加え加熱分解する。分解後、蒸留水約30mlを加え放冷した後、分解液全量を供試し水蒸気蒸留法によって窒素を定量する。この定量値と加熱減量法で求めた水分量から乾土あたりの全窒素量（%）を求める。さらに、有機炭素量を全窒素量で除し、炭素率（C/N）を算出する。

5) 全リン酸

微粉砕試料1.00gをケルダールフラスコに秤りとり、はじめに硝酸（HNO₃）10mlを加えて加熱分解する。放冷後、過塩素酸（HClO₄）20mlを加えて再び加熱分解を行う。分解終了後、蒸留水で100mlに定容し、ろ過する。ろ液の一定量を試験管に採取し、リン酸発色液（バナドモリブデン酸・硝酸液）を加えて分光光度計によりリン酸（P₂O₅）濃度を測定する。この測定値と加熱減量法で求めた水分量から乾土あたりのリン酸含量（P₂O₅mg/g）を求める。

3. 結果

(1) 花粉分析

結果を表2、図1に示す。图表中で複数の種類をハイフンで結んだものは、種類間の区別が困難なものと示す。また、木本花粉総数が100個体未満の試料は、統計的に扱うと結果が歪曲する恐れがあることから、出現した種類を+で表示するに留めている。以下に、地点毎の産状を記す。

1) 2号土坑

花粉化石の産出状況は悪く、定量解析に有効な個体数は検出されなかった。花粉化石は、木本花粉ではモミ属やツガ属、マツ属、草本花粉ではイネ科が1~2個体検出されるのみである。

2) 園池遺構

2試料(試料番号1,2)とも花粉化石が産出し、保存状態は比較的良好である。試料番号1は、花粉化石群集における木本花粉の占める割合が高く、マツ属、スギ属が多産する。この他に、ツガ属やコナラ属アカガシ亜属等が伴う。草本花粉では、イネ科やアカザ科、キク亜科、栽培種のソバ属、水生植物のハス属、アカウキクサ属等が検出される。試料番号2は、試料番号1に比べ保存状態は不良であり、産出量も少ないと。木本花粉では、マツ属が優占し、ツガ属、スギ属、モミ属等を伴う。草本花粉ではイネ科が多産し、アカザ科、栽培種のトウナス属等が検出される。

3) 1号埋桶

花粉化石が産出するが、池1試料と比較すると保存状態はやや不良である。木本花粉ではマツ属が多産するほか、ツガ属やモミ属、スギ属、アカガシ亜属等が検出される。草本花粉ではイネ科が多産するほか、栽培種のソバ属やトウナス属等が検出される。

4) 2号埋桶・3号埋桶

2試料とも花粉化石がほとんど検出されず、木本花粉のモミ属、ツガ属、マツ属、スギ属、ハンノキ属等がわずかに検出されるのみである。

(2) 寄生虫卵分析

結果を表2に示す。分析対象とした1~3号埋桶のうち、2・3号埋桶からは寄生虫卵は1個体も検出されない。一方、1号埋桶からは、回虫卵約200個/cc、鞭虫卵約100個/ccが検出された。

(3) 微細遺物分析・種実同定

1) 検出状況

結果を表3に示す。木本4分類群132個、草本24分類群758個、種類(同一種と思われる)・部位不明7個、計897個の種実が検出された。このうち、栽培種及び栽培種を含む分類群では、栽培種のブドウ114個、イネの胚乳1個、穎4個、エゴマ1個、メロン類3個、カボチャ3個と、栽培種の可能性が高いナス科10個が確認された。また、上記した種実の他に、木材、炭化材、昆虫、二枚貝類の殻皮、動物遺存体なども検出された。以下に、試料別の検出状況を示す。

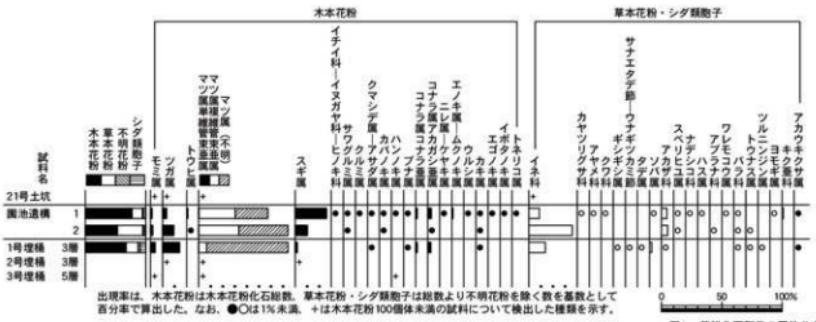


図1. 花粉化石群集の層位分布

表2. 花粉分析・寄生虫卵分析結果

種類 試料番号	21号 土坑	園池遺構		1号 埋桶 3層	2号 埋桶 3層	3号 埋桶 3層
		1	2			
木本花粉						
モミ属	1	4	2	6	—	1
ツガ属	2	10	10	22	3	—
トウヒ属	—	3	1	—	—	—
マツ属単維管束亞属	—	1	—	—	—	—
マツ属複維管束亞属	2	90	36	10	—	—
マツ属(不明)	1	80	44	105	7	6
スギ属	—	78	11	3	1	—
イチイ科-イヌガヤ科-ヒノキ科	—	1	—	—	—	—
サワグルミ属	—	1	1	—	—	—
クルミ属	—	1	—	—	—	—
クマシデ属-アサダ属	—	1	—	1	—	—
カバノキ属	—	2	1	—	—	—
ハンノキ属	—	1	—	—	—	2
ブナ属	—	2	—	1	—	—
コナラ属コナラ亞属	—	4	—	2	—	—
コナラ属アカガシ亞属	—	9	1	4	—	—
ニレ属-ケヤキ属	—	1	—	—	—	—
エノキ属-ムクノキ属	—	3	—	—	—	—
ウルシ属	—	1	—	—	—	—
カキ属	—	1	1	1	—	—
エゴノキ属	—	1	—	—	—	—
イボタノキ属	—	2	—	—	—	—
トネリコ属	—	1	—	—	—	—
草本花粉						
イネ科	1	33	71	30	—	—
カヤツリグサ科	—	2	—	—	—	—
アヤメ科	—	1	—	—	—	—
クワ科	—	1	—	—	—	—
ギシギシ属	—	—	—	2	—	—
サナエタデ節-ウナギツカミ節	—	—	—	1	—	—
タデ属	—	—	—	1	—	—
ソバ属	—	2	—	4	—	—
アザガ科	—	17	10	2	—	—
スベリヒユ属	—	1	1	—	—	—
ナデシコ科	—	1	—	—	—	—
ハス属	—	2	—	—	—	—
アブラナ科	—	—	1	—	—	—
ワレモコウ属	—	1	—	—	—	—
バラ科	—	1	1	2	—	—
トウナス属	—	—	1	2	—	—
ツルニンジン属	—	—	—	1	—	—
ヨモギ属	—	1	—	—	—	—
キク亜科	—	4	—	—	—	—
不明花粉	—	6	5	8	—	2
シダ類胞子						
アカウキクサ属	—	1	—	1	—	—
他のシダ類胞子	—	13	5	20	3	—
合計						
木本花粉	6	298	108	155	11	9
草本花粉	1	67	85	45	0	0
不明花粉	0	6	5	8	0	2
シダ類胞子	0	14	5	21	3	0
総計(不明を除く)	7	379	198	221	14	9
寄生虫卵[個/cc]						
回虫卵				200	0	0
鞭虫卵				100	0	0

1) 寄生虫卵は、10の位を四捨五入し、100単位として表記している。

1) 21号土坑

土壤40cc (64.9g) より、草本のスペリヒュ科、キジムシロ属ーへビイチゴ属ーオランダイチゴ属の種実各1個と、炭化材1個 (0.01g未満) が検出された。

2) 園池遺構

・試料番号1

土壤200cc (365.6g) より、木本のキイチゴ属1個、草本9分類群 (イネ科、カヤツリグサ科、タデ属、アカザ科、ヒユ科、スペリヒュ科、カタバミ属、エノキグサ、イヌコウジュ属) 47個の種実と、木材9個、炭化材3.8g、昆虫6個、二枚貝類の殻皮1個が検出された。

・試料番号2

土壤200cc (338.2g) より、木本のスギ15個、草本14分類群 (イネ、エノコログサ属、イネ科、カヤツリグサ科、タデ属、アカザ科、スペリヒュ科、ナデシコ科、カタバミ属、イヌコウジュ属、エゴマ、ナス科、カボチャ、キク科) 73個の種実と、木材4個、炭化材0.12g、昆虫28個、二枚貝類の殻皮1個が検出された。栽培種では、イネの穎2個、エゴマ1個、カボチャ2個が確認された。

表3. 微細遺物分析・種実同定結果

試料名 分析量	21号土坑 かわらけ内		園池遺構		1号埋構 3層		2号埋構 3層		3号埋構 5層	
	土壤40cc (64.9g)	土壤200cc (365.6g)	土壤200cc (338.2g)	土壤200cc (357.9g)	種実50cc (54.6g)	土壤200cc (363.1g)	土壤200cc (363.1g)	土壤200cc (363.1g)	土壤200cc (363.1g)	土壤200cc (363.1g)
分類群	部位	状態								
木本										
スギ	種子	—	—	15	—	—	—	—	—	—
クワ属	種子	—	—	—	1	1	1	—	—	—
キイチゴ属	核	—	1	—	—	—	—	—	—	—
ブドウ	種子	完形	—	—	40	71	1	—	—	—
		破片	—	—	—	—	—	2	—	—
草本										
イネ	胚乳	破片	炭化	—	—	—	1	—	—	—
	穎	破片	—	—	2	—	1	—	—	—
		炭化	—	—	—	—	—	1	—	—
エノコログサ属	果実	—	—	1	4	2	5	—	—	—
		炭化	—	—	—	—	—	1	—	—
オヒシバ	種子	—	—	—	—	—	—	1	—	—
イネ科	果実	—	1	7	111	21	59	8	—	—
カヤツリグサ科	果実	—	2	14	34	8	25	8	—	—
ギシギシ属	果実	—	—	—	15	6	6	—	—	—
タデ属	果実	—	1	2	2	2	2	—	—	—
アカザ科	種子	—	5	4	18	4	47	—	—	—
ヒユ科	種子	—	2	—	—	—	—	—	—	—
スペリヒュ科	種子	1	15	4	16	4	31	3	—	—
ナデシコ科	種子	—	—	3	—	—	—	—	—	—
キンボウケ属	果実	—	—	—	—	—	—	1	—	—
キジムシロ類*	核	1	—	—	2	—	—	—	—	—
カタバミ属	種子	—	6	13	—	—	2	—	—	—
エノキグサ	種子	—	1	—	2	—	1	—	—	—
トウダイグサ	種子	—	—	—	1	—	—	—	—	—
トウダイグサ属	種子	—	—	—	92	16	51	1	—	—
イヌコウジュ属	果実	—	14	1	—	1	—	—	—	—
エゴマ	果実	破片	—	1	—	—	—	—	—	—
ナス科(栽培種)	種子	—	—	—	4	6	—	—	—	—
ナス科	種子	—	—	1	—	6	—	—	—	—
メロン類	種子	破片	—	—	2	—	1	—	—	—
カボチャ	種子	完形	—	—	—	—	—	1	—	—
		破片	—	—	2	—	—	—	—	—
キク科	果実	—	—	18	—	—	—	—	—	—
不明種		—	—	—	7	—	—	—	—	—
木材		—	9	4	>100(3cc)	6	—	—	—	5
炭化材		1(<0.01g)	>100(3.8g)	>100(0.12g)	22(0.09g)	13(<0.01g)	>100(0.11g)	—	31(0.08g)	—
昆虫		—	6	28	137	67	28	—	41	—
二枚貝類の殻皮		—	1	1	—	—	—	—	—	—
動物遺存体		—	—	—	6	—	—	—	—	—

*キジムシロ類: キジムシロ属ーへビイチゴ属ーオランダイチゴ属

3) 1号埋植

・土壤試料

土壤200cc (357.9g) より、木本2分類群（クワ属、ブドウ）41個、草本13分類群（エノコログサ属、イネ科、カヤツリグサ科、ギシギシ属、タデ属、アカザ科、スペリヒユ科、キジムシロ属—ヘビイチゴ属—オランダイチゴ属、エノキグサ、トウダイグサ、トウダイグサ属、ナス科、メロン類）303個、不明7個の種実と、木材3cc、炭化材22個、昆虫137個、動物遺存体6個が検出された。栽培種では、ブドウ40個、ナス科4個、メロン類2個が確認された。

・種実試料

種実50cc (54.6g) より、木本2分類群（クワ属、ブドウ）72個、草本12分類群（イネ、エノコログサ属、イネ科、カヤツリグサ科、ギシギシ属、タデ属、アカザ科、スペリヒユ科、トウダイグサ属、イヌコウジュ属、ナス科（栽培種・野生種））78個の種実と、木材6個、炭化材13個、昆虫67個が検出された。栽培種では、ブドウ71個、イネの胚乳・穎各1個と、栽培種の可能性があるナス科6個が確認された。

4) 2号埋植

土壤200cc (363.1g) より、木本のブドウ3個、草本15分類群（イネ、エノコログサ属、オヒシバ、イネ科、カヤツリグサ科、ギシギシ属、タデ属、アカザ科、スペリヒユ科、キンポウゲ属、カタバミ属、エノキグサ、トウダイグサ属、メロン類、カボチャ）235個の種実と、炭化材0.11g、昆虫28個が検出された。栽培種では、ブドウ3個、イネの穎1個、メロン類1個、カボチャ1個が確認された。

5) 3号埋植

土壤200cc (363.1g) より、草本4分類群（イネ科、カヤツリグサ科、スペリヒユ科、トウダイグサ属）20個の種実、木材5個、炭化材31個、昆虫41個が検出された。

2) 種実遺体の記載

本分析で検出された種実の遺存状態は、比較的良好である。イネの胚乳・一部の穎、一部のエノコログサ属には炭化個体が認められた。以下に、同定された種実の形態的特徴等を記す。

<木本>

・スギ (*Cryptomeria japonica* (L.f.) D.) スギ科スギ属

種子が検出された。黒褐色、長さ5–5.5mm、幅2–3mm、厚さ1mm程度の線状長楕円体。正中線上は鈍稜で、両縁には質の薄い翼がある。種皮表面はやや平滑。

・クワ属 (*Morus*) クワ科

種子が検出された。黄灰褐色、長さ2mm、径1.8mm程度の三角状広倒卵体。一側面は狭倒卵形、他方は稜になりやや薄い。基部一端に爪状突起がある。種子表面には微細な網目模様がある。

日本に分布するクワ属は、ケグワ、オガサワラグワ、ヤマグワ、ハチジョウグワの4種と栽培種のマグワがある。ケグワ、オガサワラグワ、ハチジョウグワは分布地が限られ、本地域には分布していないことから、ヤマグワやマグワに由来する可能性がある。ただし、種子の実体顕微鏡下観察による判別は困難であることから、本報告ではクワ属にとどめている。

・キイチゴ属 (*Rubus*) バラ科

核（内果皮）の破片が検出された。黄灰褐色、長さ2mm、幅1.5mm程度の半円形～三日月形。腹面方向にやや湾曲する。表面には大きな凹みが分布し網目模様をなす。

・ブドウ (*Vitis* spp.) ブドウ科ブドウ属

種子が検出された。灰～黒褐色、広倒卵形。側面観は半広倒卵形。基部は嘴状に大きく長く突出する。腹面には中央に縦筋が走り、その両脇には長さ2mm程度の楕円形の深く窪んだ孔が存在する。背面にはさじ状の凹みがある。種皮は硬く、表面は粗面、断面は柵状。

大坪遺跡（甲府市）の9世紀代とされる河川埋土5層より2個確認されたブドウ属B（新山,2002）、

沙留遺跡（東京都）の近代とされる駅舎の上中等便所跡より1個確認されたオウシュウブドウ（金原ほか、1996）に近似する。本分析で確認された完形個体112個を計測した平均値は長さ6.27mm、幅4.55mm、厚さ3.40mm（表7）であり、野生のブドウ属よりも大型で縦長、基部が大きく突出する形状を呈することから、栽培種のブドウと判断した。

＜草本＞

・イネ (*Oryza sativa L.*) イネ科イネ属

胚乳の破片と穎（果）の破片が検出された。穎（果）は淡～茶褐色、1号埋桶から確認された胚乳1個と2号埋桶から確認された穎1個は炭化しており黒色。胚乳は、完形ならば長さ3.5～5mm、幅2.5～3.5mm、厚さ1～1.5mm程度のやや偏平な長楕円体。破片は頂部の部分で、長さ1.8mm、幅3mm程度。基部を欠損するため、胚が脱落した斜切形の凹部は確認されない。表面はやや平滑で、2～3本の隆条が継列する。

穎は完形ならば長さ6～7.5mm、幅3～4mm、厚さ1～2mm程度のやや偏平な長楕円体。破片の大きさは最大3.5mm程度。基部に斜切状円柱形の果実序柄と1対の護穎を有し、その上に外穎（護穎と言う場合もある）と内穎がある。外穎は5脈、内穎は3脈をもち、ともに舟形を呈し、縫合してやや偏平な長楕円形の稻穂を構成する。果皮表面には微細な粒状突起が継列する。

・エノコログサ属 (*Setaria*) イネ科

果実が検出された。淡～黄褐色、2号埋桶から確認された炭化個体1個は黒色。長さ1.5～2.5mm、径1～1.5mm程度の半狭卵体で背面は丸みがあり腹面は偏平。果皮表面には横方向に目立つ網目模様が配列する。

・オヒシバ (*Eleusine indica (L.) Gaertner*) イネ科オヒシバ属

種子が検出された。黒褐色、長さ1.3mm、径0.7mm程度の鈍三稜状狭倒卵体。20数個の細い隆条が放射状に伸び、ひだ状をなす。

・イネ科 (Gramineae)

果実が確認された。イネ、エノコログサ属、オヒシバ以外の形態上差異のある複数種を一括した。果実は淡～灰褐色、炭化個体は黒色。長さ1～3mm、径0.5～2mm程度の狭卵～半偏球体で背面は丸みがあり腹面は偏平。果皮表面には微細な縦長の網目模様が継列する。

・カヤツリグサ科 (Cyperaceae)

果実が検出された。淡～黒褐色、長さ1～1.2mm、径0.7mm程度の三稜状狭倒卵体。頂部の柱頭部分は伸び、基部は切形。果皮表面には微細な網目模様がある。カヤツリグサ属 (*Cyperus*) に似る個体等がみられる。

・ギシギシ属 (*Rumex*) タデ科

果実が検出された。暗灰褐色、長さ2mm、径1.5mm程度の三稜状広卵体。三稜は鋭く明瞭で、両端は急に尖る。果皮表面はやや平滑。果実周囲には、果実を取り巻く内花被片が発達する。花被は灰褐色、径3.5mm程度の心円体で粗い網目模様をなし、縁には歯牙がある。中肋は瘤状に膨れる。

・タデ属 (*Polygonum*) タデ科

果実が検出された。形態上差異のある複数種を一括した。茶～黒褐色、長さ2.5～3mm、径1.5～2mm程度の二面または三稜状卵体。頂部は尖り花柱が残存する個体がみられる。基部は切形で萼が残る個体がみられる。果皮表面は平滑または網目模様がある。

・アカザ科 (Chenopodiaceae)

種子が検出された。黒色、径1～1.3mm程度のやや偏平な円盤状。基部は凹み、鱗がある。種皮表面には臍を取り囲むように微細な網目模様が放射状に配列し、光沢がある。

・ヒユ科 (Amaranthaceae)

種子が検出された。黒色、径1～1.2mm程度の偏平な円盤状で縁は稜状。基部は凹み、鱗がある。

種皮表面には臍を取り囲むように微細な網目模様が配列し、光沢がある。

・スペリヒユ科 (*Portulacaceae*)

種子が検出された。黒色、径0.7mm程度の偏平な腎臓状円形。基部一端が凹み、臍がある。臍には種柄の一部が残る。種皮表面には鈍円錐状突起が密生する。

・ナデシコ科 (*Caryophyllaceae*)

種子が検出された。灰褐色、径1mm程度の腎状円形でやや偏平。基部は凹み、臍がある。種皮は薄く柔らかい。種皮表面には瘤へ針状突起が臍から同心円状に配列する。

・キジムシロ属—ヘビイチゴ属—オランダイチゴ属 (*Potentilla*—*Duchesnea*—*Fragaria*) バラ科

核(内果皮)が検出された。淡灰褐色、径1mm程度のやや偏平な腎形。内果皮は厚く硬く、表面は粗面で数個の隆条が斜上する。

・カタバミ属 (*Oxalis*) カタバミ科

種子が検出された。黒褐色、長さ1.5mm、幅1mm程度の偏平な倒卵形。基部は尖る。種皮は薄く柔らかく、縦方向に裂けやすい。表面には4-7列の肋骨状横隆条が配列する。

・エノキグサ (*Acalypha australis* L.) トウダイグサ科エノキグサ属

種子の破片が検出された。黒褐色、長さ1.7mm、径1.3mm程度の倒卵体。基部はやや尖り、Y字状の筋がある。種皮は薄く硬く、表面には粒状の微細な凹みが密布しづらつく。

・トウダイグサ (*Euphorbia Helioscopia* L.) トウダイグサ科トウダイグサ属

種子が検出された。黒褐色、長さ2mm、径1.5mm程度の倒卵体。腹面正中線に隆条がある。基部は舌状に突出する。種皮は薄くて硬く、表面は5-6角形の凹みによる大型の網目模様が発達する。

・トウダイグサ属 (*Euphorbia*) トウダイグサ科

種子が検出された。灰~黒褐色、長さ1mm、径0.8mm程度の4稜状倒卵体。表面には4つの鈍縦稜条があり、稜間の各面に数条の横ひだがある。種皮表面はやや平滑。ニシキソウの類と思われる。

・イヌコウジュ属 (*Mosla*) シソ科

果実が検出された。淡~灰褐色、長さ1-1.3mm程度の倒広卵体。基部には臍点があり、舌状にわずかに突出する。果皮はやや厚く硬く、表面は浅く大きく不規則な網目模様がある。

・エゴマ (*Perilla frutescens* (L.) Britt. var. *japonica* Hara) シソ科シソ属

果実の破片が検出された。黄灰褐色、径2mm程度の倒広卵体。基部には大きな臍点があり、舌状に突出する。果皮はやや厚く硬く、表面は浅く大きく不規則な網目模様がある。

・ナス科 (*Solanaceae*)

栽培種に由来する可能性が高い種子が検出された。黄灰褐色、径3-3.5mm程度の歪な腎臓形で偏平。基部のくびれた部分に臍がある。種皮はやや厚く、表面には微細な星型状網目模様が臍を中心として同心円状に発達する。大型で種皮が厚いことから、栽培種(ナスなど)に由来する可能性がある。

・ナス科 (*Solanaceae*)

野生種に由来すると考えられる種子が検出された。淡~黄灰褐色、長さ1.8mm、幅2mm程度の歪な腎臓形で偏平。基部のくびれた部分に臍がある。種皮表面には微細な星型状網目模様が臍から同心円状に発達する。上記の栽培種に由来すると考えられる種子よりも小型で種皮も薄いことから区別している。

・メロン類 (*Cucumis melo* L.) ウリ科キュウリ属

種子の破片が検出された。淡灰褐色、完形ならば長さ5-9mm、幅2-3.5mm、厚さ1-1.5mm程度の偏平な狭倒皮針形で、基部に倒「八」の字形の凹みがある。破片の大きさは、最大3.5mm程度。種皮表面には縦長の細胞が配列する。

・カボチャ (*Cucurbita* sp.) ウリ科カボチャ属

種子が検出された。灰褐色、長さ1.4cm、幅7mm、厚さ1mm程度の偏平な倒卵体。基部には切形

の大きな鱗がある。両面全周に走る縁は明瞭で、段差があり薄くなる。種皮表面は粗面で縁付近に毛がみられる。

カボチャは栽培のために持ち込まれた渡来種で、日本で栽培しているカボチャには、16世紀に渡來したニホンカボチャ、19世紀に渡來したセイヨウカボチャ、セイヨウカボチャよりさらに後れて渡來したベボカボチャの3種がある。

・キク科 (Compositae)

果実が検出された。黒褐色、長さ2mm、幅1mm程度の偏平な倒挿皮針体。頂部は切形で円形の鱗がある。果皮表面には網目模様が継列する。タカサプロウ (*Eclipta prostrata* (L.) L.) の果皮表面にあるスponジ状の翼を欠損したものに似る。

(4) 骨貝同定

検出分類群一覧を表4に、結果を表5に示す。

検出された種類は、腹足綱2種類（トコブシ、クロアワビ）、二枚貝綱（シジミ類）、硬骨魚綱、両生綱（カエル類）、哺乳綱4種類（ヒト、イヌ、ウマ、ニホンジカ）である。以下に、各試料の結果を記す。

1) 6号井戸

イヌの椎骨片、左上腕骨、左尺骨、右寛骨、左右大腿骨、左右脛骨が確認される。破損した四肢骨が一括して出土する。左上腕骨は、近位骨端が外れ、遠位骨端が欠損する。骨体最小径は11.59mmを計る。左尺骨は骨体のみを残す。左右大腿骨は、近遠位骨端は未骨化である。骨体最小径12.30mmを計る。寛骨は、右側骨体部のみを残す破片である。左右脛骨は、いずれも破片で、近位骨端が未骨化である。

2) 11号井戸

トコブシとクロアワビが確認される。トコブシは、背縁と頂部の近縁を残す。クロアワビは破損するが1個体あったと推定され、推定殻長140.0mm程度とみられる。

3) 14号土坑

B-1は、ウマ左大腿骨で、骨体から遠位部にかけて残存する。骨体に古い亀裂がみられ、埋存時にすでに破損していたものと考えられる。明瞭な解体痕等は観察されない。

B-2は、疎である。B-3～B-5は、ニホンジカの右踵骨である。B-3とB-5は接合し、B-4もその一部と考えられる。遠位端を破損するが、本来は完存していたものと推定される。B-6は、ニホンジカの左右不明の中手骨である。遠位骨部が残存するが、骨体部分が破損している。

B-7は、ニホンジカの右橈骨・右尺骨・基節骨・中節骨・末節骨である。右橈骨は、近位骨端～遠位部にかけて残存するが、破損が著しい。右尺骨は、近位端部と骨体片が認められる。基節骨は、近位端と遠位端が検出される。近位端幅15.99mmを計る。中節骨は、遠位骨端のみが残存する。末節骨は、近位骨端のみが残存する。

4) 23号土坑

獣類の四肢骨片である。土塊状の中に破片が存在するが、形質を観察することが不可能なため、詳細不明である。

表4. 検出分類群一覧

軟体動物門	Phylum Mollusca
腹足綱	Class Gastropoda
前鰓貝綱	Subclass Prosobranchia
古腹足目	Order Vetigastropoda
ミミガ科	Family Halotiidae
トコブシ	<i>Halotis(Sulculus) diversicolor aquatilis</i>
クロアワビ	<i>Halotis(Nordotis) discus discus</i>
二枚貝綱	Class Bivalvia
異齒亜綱	Order Heterodontia
マルスラレガイ目	Order Veneroida
シジミ科	Family Corbiculidae
シジミ類	Gen. et. sp. indet.
脊椎動物門	Phylum Vertebrata
硬骨魚綱	Class Osteichthys
魚類	Ord. et. fam. indet.
両生綱	Class Amphibia
カエル目(無尾目)	Order Anura
カエル類	Fam. et. gen. indet.
哺乳綱	Class Mammalia
サル目(靈長目)	Order Primates
ヒト科	Family Hominidae
ヒト	<i>Homo sapiens</i>
ネコ目(食肉目)	Order Carnivora
ネコ亜目	Suborder Fissipedia
イヌ科	Family Canidae
イヌ	<i>Canis familiaris</i>
ウマ目(奇蹄目)	Order Perissodactyla
ウマ科	Family Equidae
ウマ	<i>Equus caballus</i>
ウシ目(偶蹄目)	Order Artiodactyla
シカ科	Family Cervidae
ニホンジカ	<i>Cervus nippon</i>

表5. 骨貝同定結果

No.	遺構名	試料名	種類	部位	左	右	部分	数量	備考
2	6号井戸	骨	イヌ	椎骨			破片	2	
				上腕骨	左		両端欠	1	
				尺骨	左		近位端	1	
				寛骨		右	破片	1	
				大腿骨	左		両端欠	1	
					右		近位端	1	
					右		遠位端	2	
				脛骨	左		両端欠	1	
					右		近位端	1	
				不明			破片	多	
3	11号井戸	貝		トコブシ			破片	1	殻長60mm±
				クロアワビ			破片	1	殻長140mm±
4	14号土坑(墓坑)	骨(人骨)		B-1	ウマ	大腿骨	左	遠位端	1
				B-2	猩				他破片1有
				B-3	ニホンジカ	踵骨	右	遠位端欠	1
				B-4	ニホンジカ	踵骨	右	破片	1
				B-5	ニホンジカ	踵骨	右	破片	1
				B-6	ニホンジカ	中手骨		破片	96+
							遠位端	1	
				獣類	不明		破片	38+	
				B-7	ニホンジカ	橈骨	右	遠位端欠	1
						右	遠位端片	1	
					尺骨	右	近位端	1	
						右	破片	2	
					基節骨		近位端	1	
							遠位端	1	
					中節骨		遠位端	1	
					末節骨		近位端	1	
					不明		破片	多	
					猩			1	
5	23号土坑(墓坑)	骨(人骨)		獣類	四肢骨		破片	1	土塊状
				骨	肋骨／四肢骨		破片	23+	猩骨
				骨-1	ヒト	脛骨	破片	1	土塊状
6	27号土坑(墓坑)	骨(人骨)		骨-2・3	ヒト	上腕骨	破片	1	土塊状
						大腿骨	破片	1	
						脛骨	破片	1	
				骨-4	ヒト	上腕骨	破片	1	土塊状
						橈骨	破片	1	
				骨-5	ヒト	尺骨	破片	1	
						脛骨	左	遠位端欠	1
						尺骨	左	遠位端欠	1
						大腿骨	左	近位端	1
7	31号土坑(墓坑)	骨(人骨)	骨	獣類 炭化材	脛骨	左	遠位端	1	土塊状
							破片	1	猩骨,他破片27+有
8	圓池遺構	土壌	1	シジミ類	殻皮		破片	1	
				2	シジミ類		破片	1	
9	1号埋桶	土壌	3層	カエル類	橈骨+尺骨		ほぼ完存	1	泥分が固着
					脛骨		ほぼ完存	1	泥分が固着
				魚類	指趾骨		破片	2	
					椎骨		ほぼ完存	1	泥分が固着

5) 27号土坑

ヒトの四肢骨である。骨-1は脛骨、骨-2・3は上腕骨・大腿骨・脛骨、骨-4は上腕骨・橈骨・尺骨、骨-5は左桡骨・左尺骨・左大腿骨・左脛骨である。骨-2・3は、大腿骨・脛骨が底面にあり、その上位に上腕骨がみられる。骨-5は、大腿骨・脛骨の上位に橈骨・尺骨がみられる。また、底面に木材の付着が認められる。

6) 31号土坑

焼骨の特徴が観察される獣類の肋骨／四肢骨片である。この他に部位不明の多数の破片や炭化材が認められる。

7) 圓池遺構

微細物分析より検出された二枚貝の殻皮である。本試料は、シジミ類の殻皮である。シジミ類には、

汽水域に棲息する種類の他、淡水域を中心に棲息するマシジミ (*Corbicula leana*) が存在するが、本試料のみから判断することは困難である。

8) 1号埋桶

微細物分析により検出された動物遺存体は、カエル類の桡尺骨・脛骨・指趾骨、魚類の椎骨に同定された。魚類椎骨は固着した泥分の除去が困難であったため詳細な観察が行えず、種の同定には至らない。

(5) 土壤理化学分析

結果を表6に示す。以下に、遺構毎の結果を記す。

1) 21号土坑

塩類濃度の指標となる電気伝導度 (EC) は0.10mS/cm以下であり、腐植含量は1.29%である。リン酸含量は3.34P₂O₅mg/gと比較的高い値を示す。

2) 圏池遺構

試料番号1,2における電気伝導度 (EC) は0.43~0.91mS/cmであり、腐植含量は3.46~3.80%である。リン酸含量は3.97~4.49P₂O₅mg/gと高い値を示す。

3) 埋桶

2・3号埋桶の電気伝導度 (EC) は0.17~0.48mS/cm、リン酸含量は1.75~2.15P₂O₅mg/gである。一方、1号埋桶は0.83mS/cm、3.85P₂O₅mg/gと2・3号埋桶と比べて高い値を示す。腐植含量は1.42~1.88%である。

表6. 土壤理化学分析結果

遺構名	試料名	土性	土色	電気伝導度 (EC) (mS/cm)	有機炭素 (%)	腐植 (%)	全窒素 (%)	C/N	全リン酸 (mg/g)
21号土坑(墓坑)	かわらけ内の土壤	HC	10YR2/3 黒褐色	0.08	0.75	1.29	0.07	11	3.34
圏池遺構	1	HC	10YR2/3 黒褐色	0.43	2.20	3.80	0.13	17	3.97
圏池遺構	2	HC	10YR2/3 黒褐色	0.91	2.00	3.46	0.16	13	4.49
1号埋桶	3層	HC	10YR2/3 黒褐色	0.83	1.09	1.88	0.11	10	3.85
2号埋桶	3層	HC	10YR2/2 黒褐色	0.17	0.86	1.48	0.09	10	2.15
3号埋桶	5層	HC	10YR2/3 黒褐色	0.48	0.82	1.41	0.08	10	1.75

1)土色：マンセル表示系に準じた新版標準土色誌(農林省農林水産技術会議監修,1967)による。

2)土性：土壤調査ハンドブック(ペドロジスト懇談会編,1984)の野外土性による。HC…重粘土(粘土45~100%、シルト0~55%、砂0~55%)

3)腐植：有機炭素に1.72を乗じて算出。

4)C/N：有機炭素を全窒素で除して算出。

4. 考察

(1) 古環境

圏池遺構及び1号埋桶からは定量解析に有効な花粉化石が検出され、花粉化石の産出状況・保存状態が比較的良好な圏池遺構試料では木本類のマツ属(主として複維管束亜属)の多産が認められた。同様の傾向は、甲府城下町遺跡(日向町遺跡第2地点、KJ43地点)でも確認されている(パリノ・サーヴェイ株式会社,2004・MS)。

マツ属複維管束亜属(いわゆるニヨウマツ類)は、生育の適応範囲が広く極端な陽樹であることから、二次林の代表的な種類とされる。また、中~近世にマツ属が急増することが知られており、その原因是自然干渉の結果としての二次林や植林が増加したためとされている(たとえば波田,1987など)。これらの点から、本分析結果およびこれまでの甲府城下町遺跡で確認されたマツ属の多産は、二次林の増加や植林、周辺の植栽等に由来することなどが推定される。

この他に検出された温帯針葉樹のモミ属やツガ属、スギ属、落葉広葉樹のコナラ属コナラ亜属、常緑広葉樹のコナラ属アカガシ亜属等は、後背の山地・丘陵や低地部に生育していたと考えられる。また、大坪遺跡(甲府市)の古墳時代中期~古代の堆積物を対象とした分析調査では、スギを主体にヒノキ類、モミ属、ツガ属を交えた温帯針葉樹やコナラ亜属等の落葉広葉樹が周辺丘陵部に優勢であり、アカガシ亜属等の常緑広葉樹も一部に生育していたとされている(鈴木,2002)。このことから、本遺跡周辺の丘陵や山地等では、

古墳時代頃より上記したような温帯性針葉樹や落葉広葉樹が生育し、一部に常緑広葉樹が林分を形成していると考えられる。また、10世紀以降ニヨウマツ類の二次林が増加する傾向が認められる（鈴木,2002）とされていることや、甲府城下町遺跡の調査成果などから、古代以降にマツ属が増加したと考えられる。

一方、草本花粉では、イネ科の多産やアカザ科、キク亜科等が検出され、園池造構や埋桶ではイネ科やカヤツリグサ科、ギシギシ属、アカザ科、トウダイグサ属等の種実が検出された。これらは、いずれも開けた明るい場所を好む人里植物を多く含む分類群であることから、遺跡周辺には明るく開けた草地の環境が存在したと考えられる。また、園池造構試料からは、水生植物のハス属、アカウキクサ属等の花粉が検出されたことから、池内にはこれらの水生植物が生育していたと推測される。

（2）植物利用

園池造構及び埋桶試料からは、栽培種のブドウやイネ、エゴマ、メロン類、カボチャ、栽培種の可能性があるナス科、野生種で食用可能なキイチゴ属等の種実が検出された。ブドウやメロン類は果実が食用に、カボチャは果実と種子が食用にされる。また、イネは胚乳が食用に、エゴマは種子が食用や油料として利用される。今回検出されたブドウ属については、前述した形態的特徴から栽培種としたが、さらに、本遺跡分析試料（112個：表7）、野生種のブドウ属（ヤマブドウなど）及び栽培種ブドウ（ヨーロッパ系品種、欧米雜種等）の種子（弊社標本試料）を対象に、それぞれデジタルノギスを用いて種子の長さ・幅・厚さを小数第2位まで計測し、形態的特徴（大きさ）の検証を行った。その結果、分析試料は、長さ／幅、長さ／厚さとともに野生種と異なり、栽培種の範囲に収まる傾向が認められ、形態的特徴（大きさ）からも栽培種の可能性が示唆される。

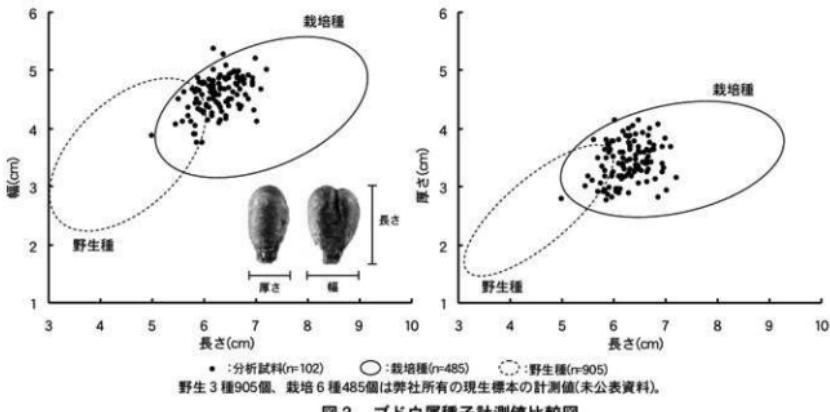


図2. ブドウ属種子計測値比較図

この他に、ソバ属やカボチャを含む分類群であるトウナス属の花粉が検出されたことから、遺跡周辺での栽培が推測される。多量の種子が確認されたブドウも、果実の長期保存や運搬には不向きであるため、周辺で栽培されたものを利用した可能性がある。

これまでに実施された甲府城下町遺跡における植物利用に関する調査結果では、日向町遺跡第2地点の井戸跡からはアンズ、ウメ、モモ等が多く検出されたほか、メロン類やトウガン、ヒョウタン類、二ホンカボチャ近似種（バリノ・サーヴェイ株式会社,2004）が、KJ43地点の埋桶からは、栽培種と推定されるブドウ属、メロン類、栽培種を含む分類群であるアカザ科やナス科が検出されている（バリノ・サーヴェイ株式会社,MS）。本分析結果は、これらの検出された分類群と概ね調和する組成を示す一方、比較的大型の種実である木本類のアンズやウメ、モモ等は全く検出されないといった特徴が指摘される。これは遺構の用途・機能

やこれらの大型植物化石等が混じる堆積物の由来（試料採取層位）等の差異等に起因する可能性もあることから、今後、これらの点を考慮した分析調査等を行い、評価・検証することが望まれる。

（3）遺構の用途検証

本項目では、発掘調査所見等から墓坑、園池遺構、埋桶とされる種類（機能・用途）の異なる遺構覆土の土壤の理化学成分の特性、遺構内から出土した動物遺存体や微細遺物の産状や種類等の特徴の比較を行った。

園池遺構試料では、電気伝導度（EC）は0.43～0.91mS/cmと比較的高く、腐植含量も3.46～3.80%と他の遺構覆土と比べてやや多い傾向やC/N（炭素率）も若干高いことが指摘される。電気伝導度は、普通硝酸イオン、塩素イオンあるいは硫酸イオンと正の相関関係にあり、塩類濃度の大まかな指標として利用されることから、分析対象とした試料の堆積時は、塩類や有機物が富化される環境が推定される。

墓坑の可能性が示唆される21号土坑（かわらけ内土壤）では、電気伝導度（EC）は0.10mS/cm以下と一般的な土壤の範囲にあり、腐植含量も1.29%と少ない。一方、リン酸含量は3.34P₂O₅mg/gと比較的高い値を示した。土壤中に普通に含まれるリン酸含量、いわゆる天然賦存量に関する報告事例（Bowen,1983；Bolt & Bruggenwert,1980；川崎ほか,1991；天野ほか,1991など）によれば、天然賦存量の上限は約3.0P₂O₅mg/g程度とされ、人為的な影響（化学肥料の施用など）を受けた黒ボク土の既耕地では5.5P₂O₅mg/g（川崎ほか,1991）とされている。また、骨片などの痕跡が認められる土壤では6.0P₂O₅mg/gを越える場合が多い（未公表試料）。甲府城下町遺跡（KJ43地点）の胞衣埋納遺構と推定される土坑を対象とした分析調査では、腐植含量は2.02～2.91%，リン酸含量は1.23～1.86P₂O₅mg/gといった結果（パリノ・サーヴェイ株式会社,MS）が得られている。これらの土壤の理化学性と比較すると、21号土坑試料における腐植含量は少なく、リン酸含量は高い値を示すことから、遺体成分等が土壤へ富化された可能性がある。ただし、土坑埋土の母材となる土壤（基本土層）等の理化学性が不明であることやリン酸含量は上記した天然賦存量を大きく上回らず同程度であるため、本分析結果については慎重に評価することが望まれる。

埋桶試料では、1号埋桶と2・3号埋桶で異なる傾向が認められた。1号埋桶では、電気伝導度（EC）は0.83mS/cm、リン酸含量は3.85P₂O₅mg/gと2・3号埋桶と比べて高い値を示し、上記した園池遺構と類似した特徴を持つ。また、園池遺構に比べ腐植含量はそれほど多くはないといった異なる特徴も指摘される。なお、腐植含量は、2・3号埋桶と大きな差異は認めないことから、1号埋桶は塩類やリン酸を富化する何らかの要因が示唆され、その要因は園池遺構と異なることが推定される。

また、これらの遺構を対象とした寄生虫卵分析では、1号埋桶（3層）から回虫卵（約200個/cc）や鞭虫卵（約100個/cc）が検出された一方、2・3号埋桶（5層）からは全く検出されなかった。微細遺物分析・種実同定結果における栽培種の種実や動物遺存体の産状に着目すると、ブドウ（1号埋桶で111個、2号埋桶で3個）、ナス科（1号埋桶で10個）、メロン類（1号埋桶で2個、2号埋桶で1個）、カボチャ（2号埋桶で1個）などの種実、1号埋桶からはカエル類の棲尺骨、脛骨、指趾骨、魚類の椎骨等の動物遺存体が検出された。

なお、便所遺構を対象とした既存の調査事例によれば、寄生虫卵は花粉と同程度の保存性をもち、糞便が累積した堆積物では1,000～5,0000個/cm³含まれ、そうでない場合では100個/cm³未満であり、寄生虫卵の産状から糞便の堆積を検出できるとされている（例えば、黒崎ほか,1994；金原・金原,1994など）。さらに、食物残渣が多く検出される傾向も指摘されており、種ごと食べるメロン類やナス属などの種実遺体が検出されることが報告されている（金原・金原,1994）。甲府城下町遺跡（KJ43地点）の埋桶を対象とした分析調査では、リン酸含量が高い値を示す、回虫卵・鞭虫卵・肝吸虫卵・横川吸虫卵等の寄生虫卵の検出、ブドウ属やメロン類の種子や海産魚類（マイワシ、アジ科、タイ科等）を主体とする魚骨等の検出されるといった特徴が確認されている（パリノ・サーヴェイ株式会社,MS）。

これらの調査事例や過去の埋桶試料の調査結果を参考とすると、1号埋桶では塩類やリン酸が富化された可能性がある、寄生虫卵の検出個数は約300個/ccと自然条件下における汚染の範囲内よりも若干多い、ブドウやナス科など栽培種の種実遺体の多産や魚骨等が検出されるといった特徴が見出される。これらの特徴

から1号埋桶は、上記した埋桶遺構と同様の性格であることが推定され、その機能・用途として便所の可能性が指摘される。一方、2・3号埋桶では、上記したような結果・産状は得られなかつたため、遺構の用途等を言及するに至らない。

(4) 動物遺存体

14号土坑からは、ウマの左大腿骨、ニホンジカの右踵骨、中手骨、右横骨、右尺骨、基節骨、中節骨、末節骨等が検出された。ウマは、残存する部位から小型のウマと推測される。ニホンジカは、明瞭な解体痕は認められないが、いずれも部分的な骨格が検出されることから解体後に廃棄された可能性がある。また、サイズも同程度と推測されることから、検出されたニホンジカは同一個体と推定される。23・31号土坑からは、獣類の四肢骨片、肋骨片が検出された。31号土坑試料は焼骨の特徴が認められ、同試料中には炭化材も確認されたことから、利用時あるいは利用後に被熱を受けたことが推定される。27号土坑からは、ヒトの上腕骨、桡骨、尺骨、大腿骨、脛骨が検出された。上肢と下肢が重なる状況や試料に木材が確認されたことなどから、座棺で埋葬された遺体が押しつぶされた状態も想定される。なお、大きさ等から成人と推測されるが、性別については不明である。

上記の各土坑は、いずれも墓坑と推定される遺構とされているが、27号土坑からヒトの骨格が検出されたほかは、ウマやニホンジカ、獣類等であった。現段階では、各遺構の詳細な調査所見や動物遺存体の出土状況等は不明なため、遺構および出土した動物遺存体の性格については今後の検討課題である。

2) 井戸跡

6号井戸からは、小型犬で一才未満の個体と推定されるイヌの椎骨片、左上腕骨、左尺骨、右対角骨、左右大腿骨、左右脛骨等、破損した四肢骨が検出された。11号井戸からは、海産のトコブシとクロアワビが検出された。本遺跡では、上記したように埋桶内や井戸跡内から、タラ類、ボラ、ブリ、カツオ、メバル類等の海産魚に由来する動物遺存体も検出されている(パリノ・サーヴェイ株式会社,2004・MS)ことから、多様な海産物が内陸地へ流通していたことや、これらが食糧として利用されていたことなどが推定される。一方、6号井戸から検出されたイヌは、まとまりのある骨格が検出されたが解体痕等は確認されず利用状況は不明である。

参考・引用文献

山梨県埋蔵文化財センター,甲府城下町遺跡(北口)の調査

http://www.pref.yamanashi.jp/barrier/html/maizou-bnk/14389650421.html

天野 洋司・太田 健・草場 敏・中井 信,1991,中部日本以北の土壤型別蓄積リンの形態別計量,土壤蓄積リンの再生循環利用技術の開発,農林水産省農林水産技術会議事務局編,28-36.

Bolt,G.H. & Bruggenwert,M.G.M.,1976,SOILCHEMISTRY,[岩田 進午・三輪 審太郎・井上 隆弘・陽 捷行(訳),1980,土壤の化学,学会出版センター,309p.]

Bowen,H.J.M.,1979,Environmental Chemistry of Elements, [浅見 輝男・茅野 充男(訳),1983,環境無機化学,元素の循環と生化学,博友社,297p.]

土壤環境分析法編集委員会編,1997,土壤環境分析法,博友社,427p.

波田 善夫,1987,松くい虫被害対策として実施される特別防除が自然生態系に与える影響評価に関する研究-松くい虫等被害に伴うマツ林生態系の擾乱とその動態について-,資料集,日本自然保护協会,41-49.

石川 茂雄,1994,原色日本植物種子写真図鑑,石川茂雄図鑑刊行委員会,328p.

金原 正明・金原 正子,1994,堆積物中の情報の可視化・可視化情報,14.9-14.

金原 正明・金原 正子・岡山 邦子,1996,沙留遺跡における寄生虫卵分析、花粉分析、種実同定,沙留遺跡-沙留遺跡埋蔵文化財発掘調査報告書-第3分冊,沙留地区遺跡調査会編,415-422.

川崎 弘・吉田 澤・井上 恒久,1991,九州地域の土壤型別蓄積リンの形態別計量,土壤蓄積リンの再生循環利用技術の開発,農林水産省農林水産技術会議事務局編,23-27.

黒崎 直・松井 章・金原 正明・金原 正子,1993,糞便堆積物の分析－特に寄生虫卵分析について－,日本文化財科学会第10回大会研究発表要旨集,日本文化財科学会,115-115.

中山 至大・井之口 希秀・南谷 忠志,2000,日本植物種子図鑑,東北大出版会,642p.

新山 雅広,2002,大坪遺跡から出土した大型植物化石・大坪遺跡－平成12年度調査地点の報告－,大坪遺跡発掘調査会,30-34.

農林省農林水産技術会議事務局監修,1967,新版標準土色帖.

バリノ・サーヴェイ株式会社,2004,自然科学分析,山梨県埋蔵文化財センター調査報告書 第220集 甲府城下町遺跡(日向町遺跡第2地点)－山梨県北口駐車場建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書－,山梨県教育委員会・山梨県土地開発公社,20-31.

バリノ・サーヴェイ株式会社,MS,甲府城下町遺跡(KJ43地点)の自然科学分析

ペドロジスト懇談会編,1984,土壤調査ハンドブック,博友社,156p.

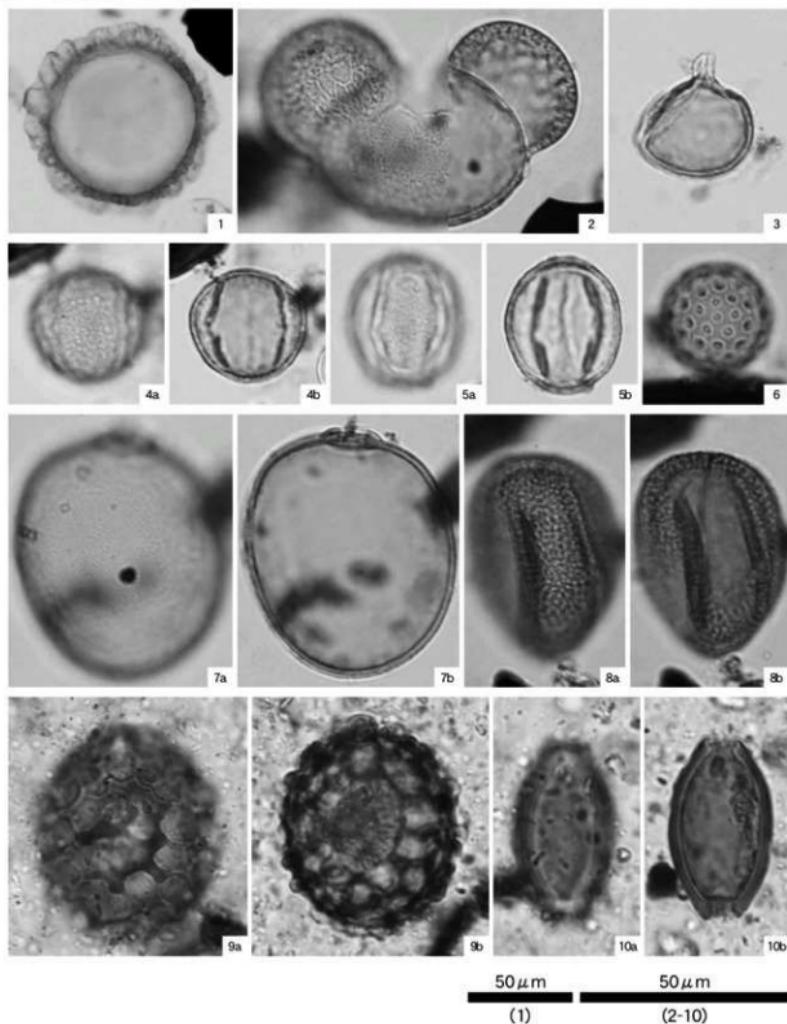
表7. ブドウ属種子計測値一覧

計測個体番号	縦	幅	厚さ
1	6.28	4.07	3.21
2	6.91	4.83	3.37
3	6.17	4.72	3.13
4	6.02	4.38	2.94
5	5.97	4.77	3.75
6	5.86	4.32	2.84
7	5.88	4.78	2.96
8	6.85	4.88	4.04
9	5.82	4.03	3.16
10	5.59	4.59	3.77
11	6.91	4.73	3.66
12	6.02	4.35	2.88
13	6.67	4.32	3.72
14	7.18	4.98	3.12
15	5.56	4.08	3.08
16	5.98	4.25	3.49
17	6.47	4.88	3.04
18	6.34	5.24	4.01
19	6.07	4.81	3.77
20	6.51	4.48	3.25
21	5.97	4.24	3.23
22	6.66	4.83	3.49
23	6.41	4.81	3.34
24	6.29	4.12	3.44
25	5.67	4.33	2.88
26	5.48	4.48	3.16
27	6.76	4.74	3.61
28	6.41	4.42	3.26
29	6.63	4.56	3.22
30	5.95	4.74	3.14
31	6.25	4.41	3.41
32	6.17	4.55	3.47
33	5.74	4.08	3.04
34	6.66	4.39	3.28
35	6.97	5.19	3.81
36	6.11	4.67	3.55
37	6.31	4.64	3.68
38	6.15	5.35	3.56
39	6.15	4.79	3.93
40	6.14	4.18	3.09
41	6.41	4.19	3.51
42	6.57	4.95	3.57
43	6.75	4.81	3.67
44	5.81	4.41	3.25
45	6.31	4.66	3.28
46	5.88	4.62	3.68
47	6.59	4.74	3.37
48	6.68	4.64	3.97
49	6.42	4.44	3.34
50	6.41	5.06	3.88
51	7.01	4.08	2.92
52	7.08	4.64	3.65
53	5.82	4.59	3.61
54	5.89	4.41	3.56
55	6.07	4.47	3.16
56	6.28	4.83	3.82

計測個体番号	縦	幅	厚さ
57	6.71	4.35	3.39
58	6.67	4.79	3.58
59	5.83	4.65	3.46
60	5.86	4.83	3.71
61	6.21	4.56	3.85
62	6.62	4.86	3.62
63	5.75	4.65	3.31
64	5.68	4.19	3.47
65	6.31	4.67	3.66
66	6.63	4.93	3.36
67	6.28	4.54	3.74
68	6.64	4.96	3.86
69	6.12	4.61	2.94
70	5.99	4.74	4.12
71	6.32	4.27	3.16
72	6.39	4.85	3.76
73	6.14	4.75	3.14
74	6.73	4.86	3.62
75	6.63	4.84	3.43
76	6.31	4.34	3.86
77	6.05	4.11	2.94
78	6.54	4.94	3.38
79	6.46	4.66	4.12
80	6.37	4.65	3.22
81	6.85	4.47	2.79
82	6.29	4.88	3.62
83	6.54	4.61	3.89
84	6.21	4.44	3.15
85	5.79	3.87	2.88
86	5.94	3.72	2.78
87	6.95	4.29	3.29
88	5.42	4.05	2.97
89	6.16	4.67	3.37
90	6.79	4.54	3.09
91	6.26	4.75	3.97
92	5.94	4.56	3.75
93	5.85	3.73	2.75
94	5.81	3.88	2.92
95	6.45	4.84	3.28
96	6.13	4.24	3.15
97	5.85	4.48	3.78
98	6.15	4.49	3.34
99	5.93	4.28	3.61
100	6.27	4.38	2.86
101	6.47	4.49	3.59
102	4.97	3.85	2.76
103	6.18	4.59	3.26
104	6.91	4.76	3.23
105	6.48	4.91	3.57
106	6.45	4.49	3.65
107	6.16	4.98	3.33
108	6.41	4.13	3.43
109	6.09	4.33	3.36
110	6.46	4.36	3.32
111	6.62	4.71	3.06
112	6.08	4.69	2.86

*計測単位はmm

図版1 花粉化石・寄生虫卵



1.ツガ属(池1;1)

3.スギ属(池1;1)

5.コナラ属アカガシ亜属(池1;2)

7.イネ科(池1;1)

9.回虫卵(1号埋桶;3層)

2.マツ属(池1;1)

4.コナラ属コナラ亜属(池1;1)

6.アカザ科(池1;1)

8.ソバ属(池1;1)

10.鞭虫卵(1号埋桶;3層)

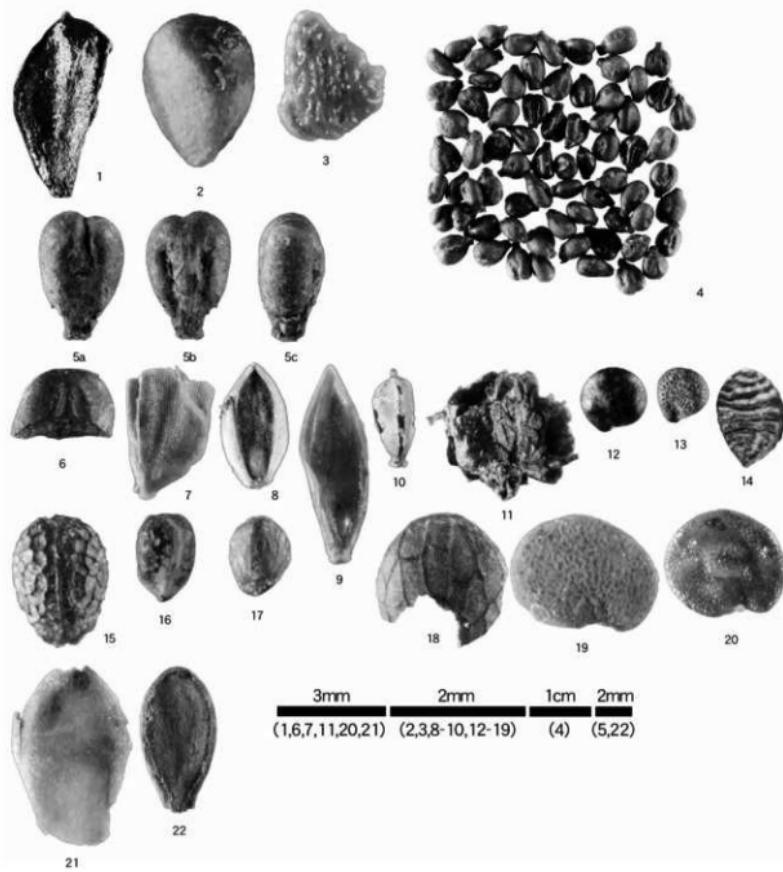
50 μm

(1)

50 μm

(2-10)

図版2 種実遺体



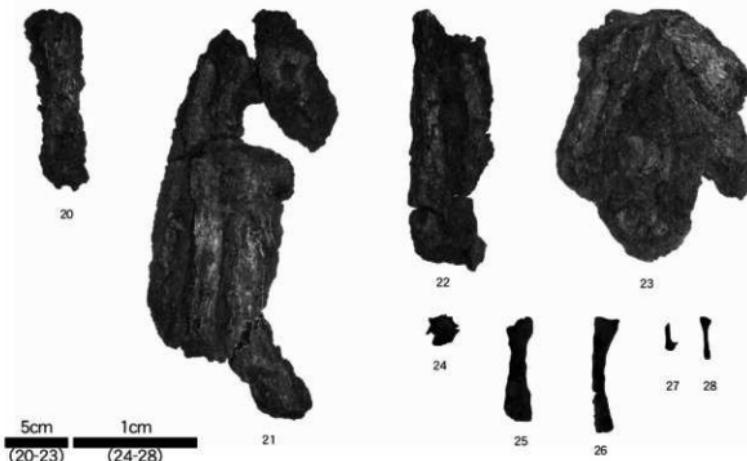
- | | |
|------------------------|-------------------------|
| 1. スギ 種子(池1:2) | 2. クワ属 種子(1号埋桶;3層) |
| 3. キイチゴ属 核(池1:1) | 4. ブドウ 種子(1号埋桶;3層) |
| 5. ブドウ 種子(1号埋桶;3層) | 6. イネ 胚乳(1号埋桶;3層) |
| 7. イネ 頸(池1:2) | 8. エノコログサ属 果実(2号埋桶;3層) |
| 9. イネ科 果実(1号埋桶;3層) | 10. カヤツリグサ科 果実(1号埋桶;3層) |
| 11. ギンギシ属 果実(1号埋桶;3層) | 12. アカザ科 種子(2号埋桶;3層) |
| 13. スペリヒュ科 種子(2号埋桶;3層) | 14. カタバミ属 種子(池1:2) |
| 15. トウダイグサ 種子(1号埋桶;3層) | 16. トウダイグサ属 種子(1号埋桶;3層) |
| 17. イヌコウジュ属 果実(池1:1) | 18. エゴマ 果実(池1:2) |
| 19. ナス科 種子(1号埋桶;3層) | 20. ナス科 種子(1号埋桶;3層) |
| 21. メロン類 種子(1号埋桶;3層) | 22. カボチャ 種子(2号埋桶;3層) |

図版3 出土骨貝類(1)



- | | |
|---------------------------|---------------------------|
| 1. トコブシ(11号井戸) | 2. クロアワビ(11号井戸) |
| 3. 中型獣類肋骨(31号土坑) | 4. イヌ左上腕骨(6号井戸) |
| 5. イヌ左尺骨(6号井戸) | 6. イヌ右寛骨(6号井戸) |
| 7. イヌ左大腿骨(6号井戸) | 8. イヌ右大腿骨(6号井戸) |
| 9. イヌ左脛骨(6号井戸) | 10. イヌ右脛骨(6号井戸) |
| 11. ニホンジカ右桡骨(14号土坑B-7) | 12. ニホンジカ右尺骨(14号土坑B-7) |
| 13. ニホンジカ中手骨(14号土坑B-6) | 14. ニホンジカ右踵骨(14号土坑B-3) |
| 15. ニホンジカ基節骨遺位端(14号土坑B-7) | 16. ニホンジカ基節骨近位端(14号土坑B-7) |
| 17. ニホンジカ中節骨遺位端(14号土坑B-7) | 18. ニホンジカ末節骨近位端(14号土坑B-7) |
| 19. ウマ左大腿骨(14号土坑B-1) | |

図版4 出土骨貝類(2)



20. ヒト脛骨(27号土坑;骨-1)
21. ヒト上腕骨・大腿骨・脛骨(27号土坑;骨-2・3)
22. ヒト上腕骨・桡骨・尺骨(27号土坑;骨-4)
23. ヒト左桡骨・左尺骨・左大腿骨・左脛骨(27号土坑;骨-5)
24. 魚類椎骨(1号埋桶;3層)
25. カエル類桡骨(1号埋桶;3層)
26. カエル類脛骨(1号埋桶;3層)
27. カエル類指趾骨(1号埋桶;3層)
28. カエル類指趾骨(1号埋桶;3層)

第6章 考察

第1節 土地利用の変遷

ここでは、調査対象地の土地利用の変遷について、いくつかの時期区分を行いそれについてまとめてみたい。

第Ⅰ期 原始・古代・中世

隣接して発掘調査された日向町遺跡や甲府城下町遺跡以外の調査地においてS字状口縁台付甕形土器などが散在的に出土しており、そのほとんどが遺構に伴うものではない。また、当地は甲府盆地に流下する相川によって形成された扇状地扇端部にあるため湧水がみられる場所でもある。当該地の西方には塙部遺跡・緑が丘一丁目遺跡・緑が丘二丁目遺跡や南東方向には朝氣遺跡など集落が形成された痕跡のある遺跡も確認されており、当地点周辺でも集落が存在した可能性は高いが現時点での土地利用については不明である。

第Ⅱ期 中世（武田城下町期）

永正16年（1519）に武田信虎は、それまで武田氏が館を構えていた石和川田館より甲府盆地北側の相川に躰獨ヶ崎館を造営した。この躰獨ヶ崎館は天正9年（1581）に勝頼が本格的な城郭構造を持つ新府城に政庁を移転するまで武田氏三代の居館として存続していく。また、当地は川田館と比較しても経済・軍事など様々な面で勝っており、翌17年には躰獨ヶ崎の後背地に当たる積翠寺に詰城として要害城を築き軍事態勢の強化を図るとともに、南に緩やかな傾斜をみせる扇状地上に城下町を建設している。

貞享3年（1686）『旧古府中村日影組村絵図』（武田神社蔵）によると当該地は武田城下町の南端部にある寺城地や付随する町となっており、今回の調査で検出された16世紀代の墓坑の時期とほぼ合致するものである。また、2004年3月発行の甲府城下町発掘調査報告書によれば甲府城下町と武田城下町は現在の北バイパスのやや北寄り穴山小路から県庁正門のあるあたりまでが重なり合う範囲として捉えられている。

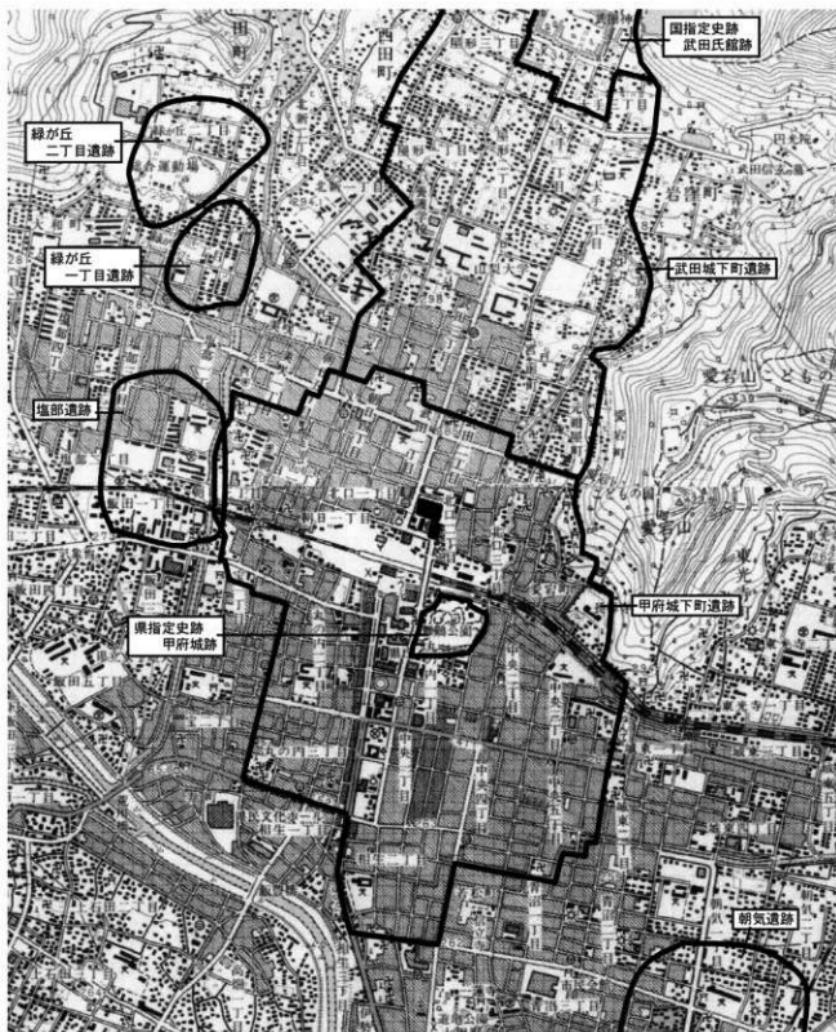
第Ⅲ期 甲府築城期

武田氏滅亡の翌年天正11年（1583）から慶長5年（1600）関ヶ原の戦い後までを第Ⅲ期に充てる。武田氏滅亡後、豊臣秀勝・加藤光泰・浅野長政・浅野幸長と短期間に豊臣系城主が入れ替わっている。浅野幸長は関ヶ原の戦いで東軍に属し殊勲を立てその功績により紀伊和歌山に転封となり、それによって徳川家康が甲斐を再び所領し平岩親吉が甲府城代として入府したのである。この17年間で甲府城の築城とともに城下の近世化再編が図られる足がかりが築かれている。勝頼が新府に移るにあたり、館や家臣團の屋敷などは破壊していくのにに対し町人地などは移転せずにほぼ残っていた。これは新府城が約2ヶ月で廃城となつたためである。このため、近世城下町形成が容易であったことが想定できる。しかし、甲府城の築城にあたっては一条小山にあった一蓮寺を移転することが第一条件であり、ある程度の時間が必要であったと思われる。

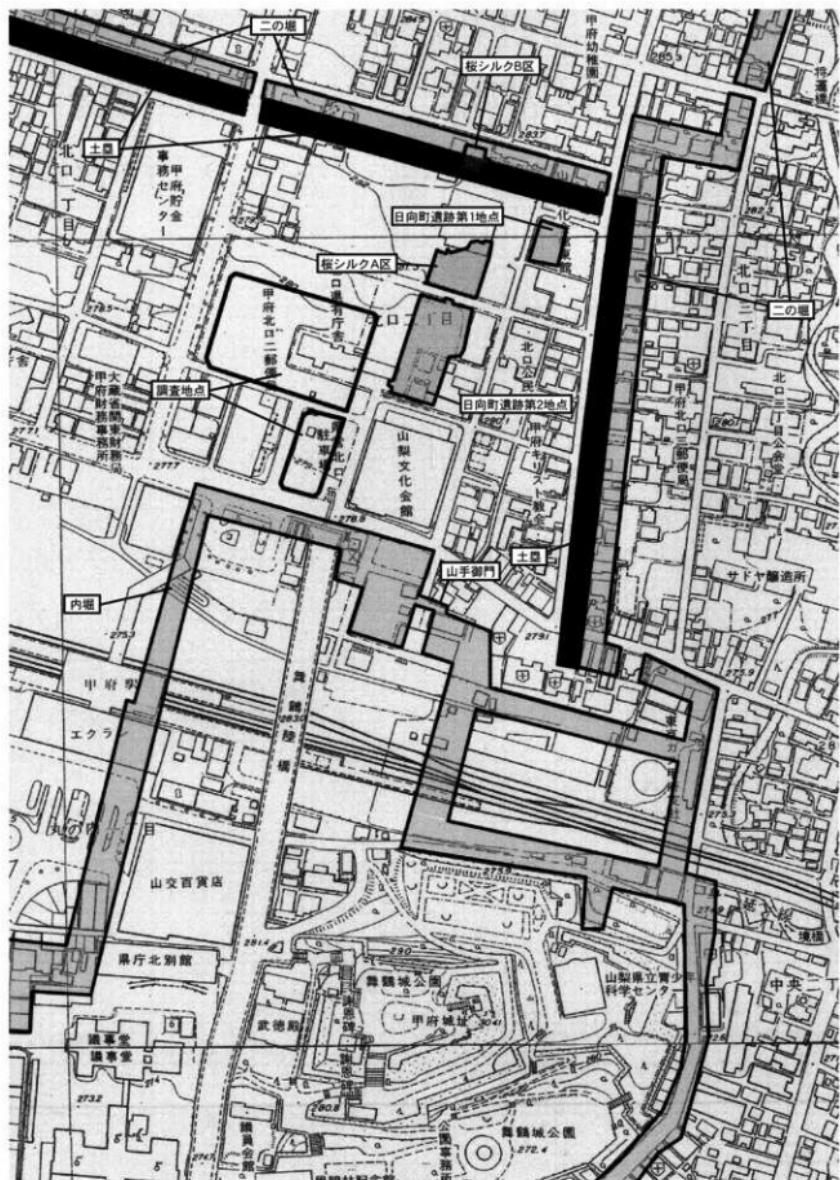
この時期は絵図資料が無く土地利用の状況はほとんど掴めない。

第Ⅳ期 徳川直接支配期

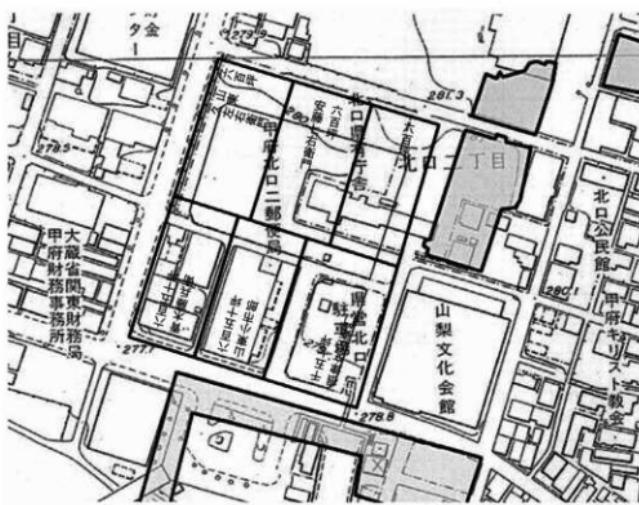
関ヶ原の戦い後から宝永元年（1704）に柳沢吉保が川越より甲府城主に封ぜられるまでの約100年間を充てる。この間は徳川の所領となり慶長5年（1600）甲斐に再び戻った平岩親吉によってさらに甲府城・城下町の整備が行われている。慶長12年（1607）に徳川義直が尾張清洲城主となり転封するにあたって平岩親吉も尾張犬山城主に転じ、元和2年（1616）まで武田十二騎と呼ばれる武田氏旧家臣の旗本が城番を務めている。この後、徳川忠長が甲府城主となるも寛永9年（1632）に改易となってしまう。ここから再び寛文元年（1661）まで幕府の直轄領となり城番制が敷かれる。寛文元年（1661）から宝永元年（1704）まで



第150図 調査地周辺遺跡位置図



第151図 調査地周辺の土地利用の状況および発掘調査地点

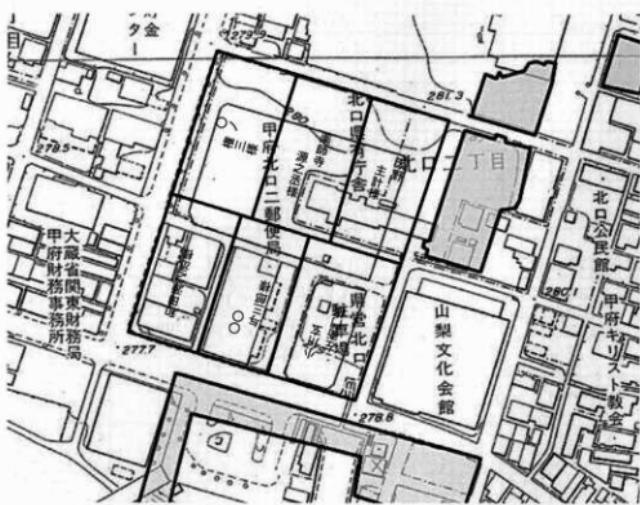


絵図1 甲府御城下絵図



絵図2 甲府城下絵図

第152図 絵図からみた拝領地(1)



絵図3 甲府城下絵図



絵図4 甲府城下絵図(文化12年)

第153図 絵図からみた拝領地(2)



絵図5 懐宝甲府絵図(嘉永2年)

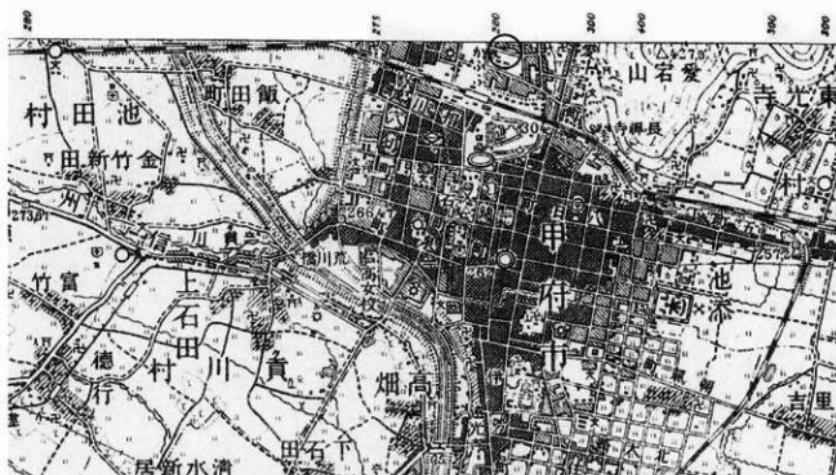


絵図6 懐宝甲府絵図(嘉永2年以降)

第154図 絵図からみた拝領地(3)



地図1 明治21年



地図2 昭和4年参考本部

第155図 古地図と調査地点

徳川綱重とその子綱豊（6代将軍家宣）が城主となり甲府家と呼ばれた。

第IV期の絵図としては『極秘諸国城図』（城山公園管理事務所蔵）と『甲府城内屋敷図』（柳沢文庫蔵）があるが山の手方面の土地区画は不明確であり判断はし難い。

第V期 柳沢期

宝永元年（1704）に徳川綱豊が五代将軍綱吉の養子として江戸城西の丸に入ると、綱吉の側近であった柳沢吉保が川越より甲府城主となった。その後、宝永6年綱吉の死によって吉保は隠居し、所領はその子の吉里が継ぎ、享保9年（1724）に大和郡山に転封となる。この20年間を柳沢期とした。吉保は甲府城や城下町の整備を行い、吉里検地などを実施し藩財政の基盤強化を図っている。

柳沢期の絵図は大和郡市の柳沢文庫に多く所蔵されている。その中の『甲府御城絵図』を参考にすると調査区のある山手小路・橋小路・森下小路に囲まれた空間には、宝永元年（1704）から宝永6年（1710）には森下小路に沿ってそれぞれ600坪の区画に西側より御軍使番「山東久左衛門」・御大目付「安藤七右衛門」と空閑地が並んでいる。また、山手小路に沿っては西側から650坪御旗奉行「青木藤兵衛」、650坪御旗奉行「山東小市郎」、1050坪御寄合「根津文左衛門」の屋敷地が続いている（図1）。

また、『甲府城下絵図』では、森下小路沿いに西から300石「山田左衛門」・「安藤七右衛門」と『甲府御城絵図』で空閑地だった箇所に「天野左兵衛」が居住している。山手小路に沿っては西より「青木藤兵衛」・「山東久左衛門」・「根津文左衛門」と並んでいる。なかでも「山東久左衛門」は森下小路と橋小路の角地より山手小路側に移転している様子が伺える。

第VI期 勤番支配期

当該期は柳沢転封の享保9年（1724）から慶応3年（1867）明治維新までの甲府勤番支配が置かれた時期を充てる。

享保9年（1724）に柳沢吉里は、八代将軍徳川吉宗の実施した享保の改革の一つ、幕府領の拡大政策として大和郡山に転封させられる。これによって甲斐の藩政は終わり、明治維新まで続く幕府による直接統治が始まり、幕府は甲府勤番制度を設け追手と山手からなる甲府勤番支配を任命した。さらにそれぞれの下に100人の勤番士、与力10騎、同心50名を配している。

勤番支配期初期の絵図として柳沢文庫所蔵の『甲府城下絵図』があげられる。調査地周辺の区画には森下小路沿い西から「口ノ権三」・「薬師寺源口之丞」・「天野主計」の名がみられる。また、山手小路では西より「和田源之丞」・「口口与三郎」・「小川玄左衛門」の3区画が読み取れる。「天野主計」は、享保21年（1736）2月1日に300俵にて武具奉行に就任しており、宝暦5年（1755）に病気帰番している。

弘化2年（1845）の『甲府城下絵図』（山梨県立図書館蔵）では勤番士の名前は無いが森下小路沿いに「五一」・「五十二」・「五十九」、山手小路沿いに「四十二」・「四十四」・「四十五」と区画割りが確認できる。

また、幕末期嘉永の絵図としては『懐宝甲府城絵図』（山梨県立図書館蔵）が有名である。当絵図は嘉永2年とそれ以降の二葉があり、それぞれの区画はほぼ同じであるが押領者に違いが見られる。

嘉永2年（1849）の絵図では、調査地のある森下小路・橋小路・山手小路に囲まれた一角はそれまでの絵図から見る区画と違ひがはっきりと見て取れる。橋小路沿いに大区画の屋敷地があり東に向かって小区画の屋敷地が続く。この内、森下小路沿いに「秋鹿」（勝手小普請、秋鹿幸蔵、100俵）が、山手小路沿いに「庄」・「小ジマ」・「カトウ」と続き、その他は空閑地となっている。ここで登場してくる勝手小普請とは寛政元年（1789）に寛政の改革の一環として新設されたもので今までの甲府勤番組織に変更を加え勤番全体にいわゆる「山流し」的な意味合いを定着させる要因となったものである。

嘉永2年以降を示している絵図は前者と区画割りはほぼ同じであるが北西角にあたる森下小路・橋小路に面している区画が二分され北側に「中島」氏、南側に「鳴田」氏が屋敷を押領している。山手小路に沿っては嘉永4年（1851）に山手組仮目付に400俵で就任した「庄十郎右衛門」・「ササイ」・「カモミヤ」の名前が見られそれらの北東側には大きく空閑地が造られていた。

第VII期 近代以降

明治期になると勤番士も拝領していた屋敷地を返納し新たな土地の利用が始まるが大規模な変革は認められない。明治36年（1903）中央線の開通によって甲府は南北に分断される形となる。しかし、明治43年の地図を見ると当該地にはまだ大きな土地利用は認められない。

第2節 蚕糸関連の遺物

【蚕糸の歴史】

絹作りは約5,000年ほど前に中国黄河周辺で始まり、我が国には弥生時代中頃に伝わったというのが今のところの定説である。

江戸時代になると東北地方では手で糸車を直接回転させながら集緒していく「胴操り」や、長野・群馬などでは鍋より糸に燃りをかけながら、片手で糸を巻き取り枠を回す「牛首」による生糸が生産されていた。

江戸時代後半から明治初頭までは「座操り（ざぐり）器」と呼ばれる、ハンドルの付いた枠を歯車などで回しながら糸を巻き取っていく手法に変化していく。この座操り器は歯車付きのハンドルを回すことにより糸枠が何回転もするため前時期よりも生産能率が向上した。

明治初めにはフランスやイタリアから銅・鉄・真鍮で作られた操糸機が輸入されている。これは、蒸気によって繭を煮る湯を温め、小孔を開口させた集緒器に糸を通しまとめ、燃りをかけ、水力などから動力を得て糸を巻きとる枠を回転させるものである。さらに明治8年には上記の海外から輸入された操糸機を参考にして本体は木材、鋼は陶器で作られた「諏訪式座操機」などが考案され普及していく。

昭和になると回転するプロペラの中心に繭を通しておき、新しい繭の糸口をプロペラに接触させて接緒を行う「多条操糸機」が開発され一人で20ほどの織糸が出来るようになる。また、昭和20年以降になると生糸の太さを感じたり繭の補給などを自動で行える「自動織糸機」が開発され現在では製糸工業の盛んな国に輸出されている。

生糸は明治から太平洋戦争前頃までの日本の輸出総額の約4割を占め日本の経済を支えていた主産業品と言っても良いであろう。

【甲府での蚕糸】

明治6年（1873）に2万7千円をかけて錦町に勧業製糸場が建設されてから甲府の製糸工業は大きく発達していく。甲府での生産高は明治26年には65万円、36年に183万円、44年に237万円と増大していった。それに伴って蒸気機関や電力を利用した規模の大きな工場が進出して行くようになる。明治12年（1900）の山梨の生糸生産量は日本の2割を占めるまでに成長し、これは日本の生産高で言えば長野県につぐものであった。また、明治10年代の後半には熟練した女工の争奪が激化し、明治30年代からは県外への女工流出という事態までにも発展していく。この時の諏訪地域への出稼ぎは約5,300名にも及んでいる。

大正になると第一次世界大戦による好景気となり生糸の需要が高まりをみせるようになる。大正3年には207万円、最高値を記録した8年には824万円と跳ね上がり繭生産者達の懐を潤した。大正6年（1917）には諏訪地域への女工の出稼ぎも1万人を突破している。同8年に調査地のやや北側に丸茂文六によって製糸工場が建設され翌9年より操業が始まっている。

しかし好景気は長くは続かず、昭和5年には前年度比の6割にまで生糸相場が暴落していく。この影響から昭和16年（1941）に蚕糸業統制法の施行によって県内の製糸工業は2／3にあたる107工場が廃業に追い込まれている。さらに残った工場も一部を除いて昭和18年（1943）には軍需工場へと転化されてしまった。太平洋戦争後の昭和27年（1952）には県による蚕糸業復元計画により生糸産業は復興を果たすが昭和30年代からは生産過剰や不景気などの理由から減収を続けることとなる。

【出土遺物】

今回の調査では表土層や煉瓦で造られ常滑焼きの土管で接続された汚水栓の中より蚕糸関連の遺物が検出されている。中でも縫糸機に取り付けられていた集緒器、品質検査に使用された乳鉢・ガラス製乳棒が目を引く。

集緒器は、いずれも磁器製で、いわゆるボタン型集緒器である。そのほとんどが集緒器単体での検出で周囲を針金で結節したものは少ない。中央には細い穴が穿たれており、直径も約1cmと小さなものである。用途は鍋で煮て柔らかくなった繭から糸を繰り出してこの集緒器の細い穴を通って撚りがかけられ糸として巻き取られていくもので、糸がこの細い穴を通るときに塊となった部分を止める役割も持っている。また、点数は少ないが中には呉須で『三』や『8』、『、』などの印が施されたものもあり、機械や生糸の太さなどの違いによる集緒器の差別化がなされていたのかも知れない。

検査用乳鉢は、縦約10cm、横約35cm、厚さ約3cmで集緒器と同様に磁器でできている。ゴルフボールよりもやや小さな凹みが横7カ所に2列開けられており、それぞれの左肩に1~14と15~28の数字が呉須で書き込まれている。また、側面には右から左に『実用新案第一一三〇六三号』『酒井式検査用乳鉢』『濃國中津町』あるいは『☆第六六九二号☆』『新案特許』『名古屋市京町八神幸助』と商標が記されている。また、このほかに凹みが単体のものも數多く出土している。こちらは、前者と違い直径約5cm隅丸方形の底面に円筒状の乳鉢部を接合させた形態をとっている。なお高さは約3cmをはかり、底部に『特許出願中』『濃國』『酒井公平』と銘がはいっている。ガラス製乳棒長さ約4cmほどで両端部に丸みが付けられている。

これらの検査用器具は蚕の成虫である蛾（ガ）を乾燥させて磨りつぶして病気の有無を検査する品質管理用に使用されたものである。

【参考文献】

- 石川 博 2005年 「江戸時代の甲府上水と下水」 『山梨郷土研究会資料』
- 磯田道史 2003年 『武士の家計簿』 新潮新社
- 大橋康二 1994年 『古伊万里の文様 初期肥前磁器を中心に』 理工学社
- 大西政太郎 1978年 『陶芸の伝統技法』 理工学社
- 岡谷市立岡谷蚕糸博物館 1997年 『岡谷蚕糸博物館紀要2』
- 岡谷市立岡谷蚕糸博物館 2004年 『カイコとシルクのおはなし』
- 岡谷市立岡谷蚕糸博物館 2001年 『製糸のおはなし』
- 甲府市教育委員会 1992年 『甲府市遺跡地図』
- 甲府市教育委員会 2001年 『甲府城下町遺跡I』
- 甲府市教育委員会 2002年 『甲府城下町遺跡II』
- 甲府市役所 1963年 『甲府いまとむかし』
- 甲府市役所 1993年 『甲府市史 別編III 甲府の歴史』
- 視覚デザイン研究所 2000年 『日本・中国の文様事典』
- 志村憲一 2005年 「発掘された甲府上水」 『山梨郷土研究会資料』
- 新宿区内藤町遺跡調査会 1992年 『内藤町遺跡』
- 新宿区四谷三丁目遺跡調査団 1991年 『四谷三丁目遺跡』
- 誠文堂新光社 1998年 『はじめての釉薬・焼成入門』
- 谷畠美帆 2006年 『江戸八百八町に骨が舞う』 吉川弘文館
- 名古屋市見晴台考古資料館 1995年 『特別展 城下町大発掘』
- 仁木正格 2005年 『やきものの見方ハンドブック』 池田書店
- ニュー・サイエンス社 1983年 『考古学ライブラリー17 美濃焼』
- ニュー・サイエンス社 1984年 『考古学ライブラリー23 常滑焼』
- ニュー・サイエンス社 1985年 『考古学ライブラリー32 鎌倉の考古学』
- 平凡社 1995年 『日本歴史地名大系第19巻 山梨県の地名』
- 平凡社 1988年 『別冊太陽 古伊万里』
- 平凡社 2002年 『別冊太陽 実物大そば猪口事典』
- 山梨県 2005年 『県指定史跡甲府城跡（上・下巻）』
- 山梨県教育委員会他 2005年 『鰍沢河岸II』
- 山梨県教育委員会他 2006年 『鰍沢河岸III』
- 山梨県教育委員会 1969年 『甲府城総合調査報告書』
- 山梨県教育委員会他 2004年 『甲府城下町遺跡（日向町遺跡第2地点）』
- 山梨県教育委員会他 2004年 『甲府城下町遺跡』
- 山梨県教育委員会他 2000年 『宮沢中村遺跡』
- 山梨県立博物館 2006年 『よみがえる武田信玄の世界』
- 読売新聞社 1977年 『日本のやきもの 第2集』



調査区(Ⅰ区東側部分)
手前は甲府市による
調査地

写真図版



調査前の様子

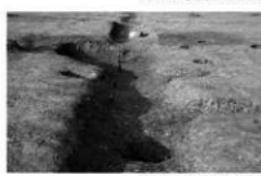
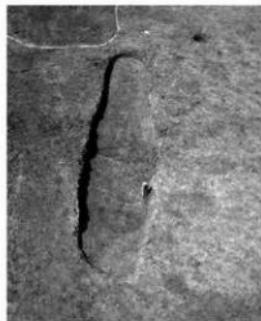


遺物の検出作業



出土遺物の復元作業

【I 区】





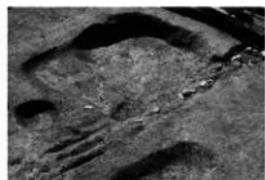
第1号土坑



第2・3号土坑



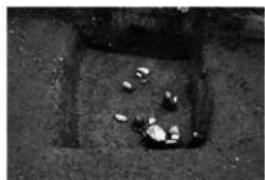
第8号土坑



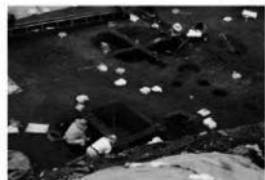
第9・10号土坑



第11号土坑



第12号土坑



第9・12号土坑 調査風景



第14号土坑



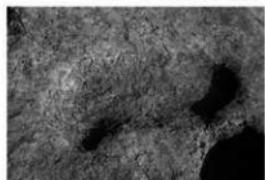
第14号土坑 調査風景



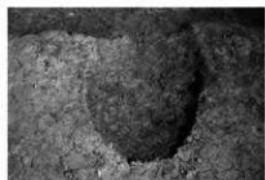
第15号土坑



第16号土坑



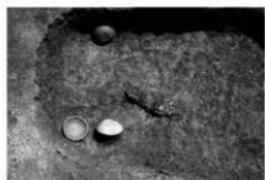
第18号土坑



第23号土坑



第24号土坑



第26号土坑 遺物検出状況



第35号土坑 調査風景



第42号土坑



第44号土坑

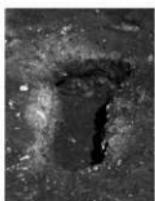
【I 区】



第1号井戸



第1号井戸 断面



第2号井戸



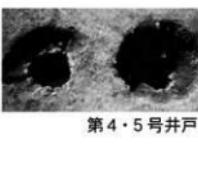
第2号井戸 調査風景



第3号井戸



第3号井戸 断面



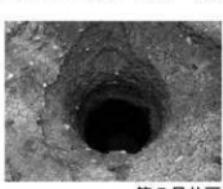
第4・5号井戸



第4・5号井戸 断面



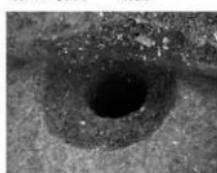
第6号井戸 断面



第7号井戸



第7号井戸 断面



第8号井戸



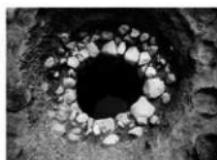
第8号井戸 断面



第9号井戸



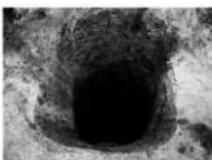
第9号井戸 断面



第10号井戸



第10号井戸 断面



第11号井戸



第11号井戸 断面

第12・13号井戸 圓池遺稿内

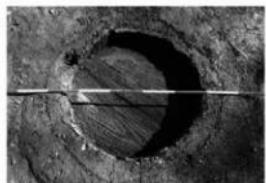


第12・13号井戸 断面

【I・II区】



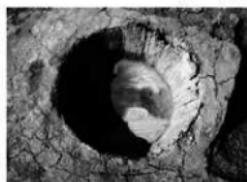
第1号埋桶



第2号埋桶



第3号埋桶



第4号埋桶



第5・6号埋桶



第5・6号埋桶 調査風景



石垣(直線部分)



桐木



石垣(コーナー部分)



圍池遺構 遺物検出状況



圍池遺構 完掘

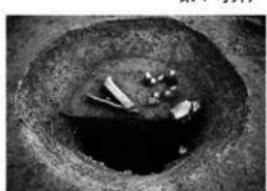
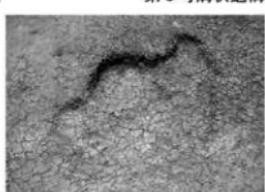
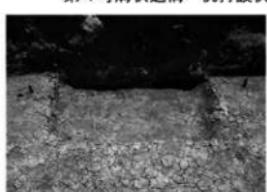


圍池遺構 調査風景

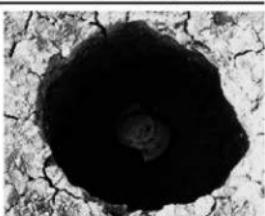
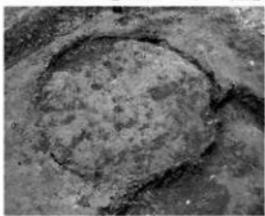
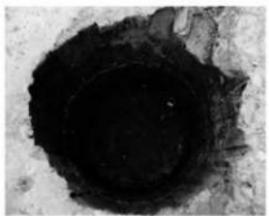
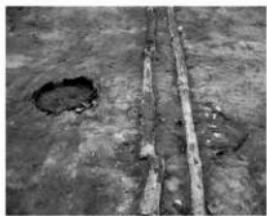


Pit(D-16・17区)

【II区】



【II区・その他】



【I 区】



第1号溝状遺構出土遺物 1



第1号溝状遺構出土遺物 2



第10·11号溝状遺構出土遺物



第12·13号溝状遺構出土遺物



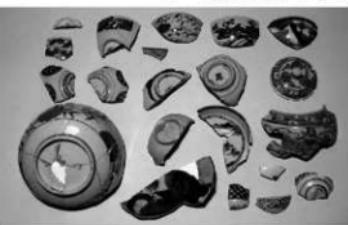
第13号溝状遺構出土遺物



第14号溝状遺構出土遺物



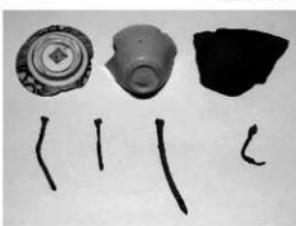
第17·24号溝状遺構
出土遺物



第25号溝状遺構出土遺物 1



第25号溝状遺構出土遺物 2



第26号溝状遺構
出土遺物



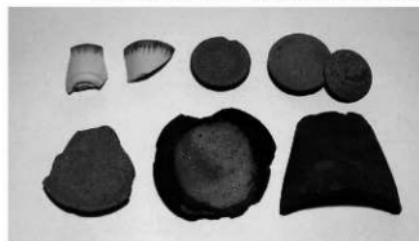
第27·29·31·35·36号溝状遺構出土遺物



第37·38·39·40·42·44号溝状遺構出土遺物



第2·9·10号土坑出土遺物



第11·12号土坑出土遺物



第13号土坑出土遺物 1



第13号土坑出土遺物 2



第13号土坑出土遺物 3



第13号土坑出土遺物 4



第16号土坑出土遺物 1



第16号土坑出土遺物 2

【I 区】



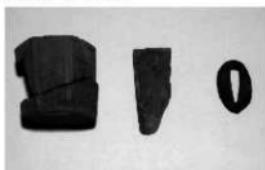
第16号土坑出土遗物 3



第16号土坑出土遗物 4



第16号土坑出土遗物 5



第16号土坑出土遗物 6



第16号土坑出土遗物 7



第17号土坑出土遗物



第17·18号土坑出土遗物



第20·21号土坑出土遗物



第24·26号土坑出土遗物



第29·30·34号土坑出土遗物

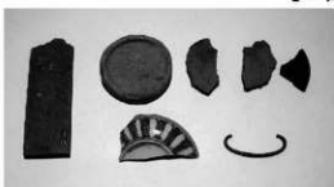


第35号土坑出土遗物 1

【I 区】



第35号土坑出土遺物 2



第37・38・40号土坑出土遺物



第1号井戸出土遺物 1



第1号井戸出土遺物 2



第1号井戸出土遺物 3



第2号井戸出土遺物 1



第2号井戸出土遺物 2



第6号井戸出土遺物



第7号井戸出土遺物 1



第7号井戸出土遺物 2



第8・9号井戸出土遺物

【I 区】



第11号井戸出土遺物



石垣 2 前出土遺物



圓池遺構出土遺物 1



圓池遺構出土遺物 2



圓池遺構出土遺物 3



圓池遺構出土遺物 4



遺物集中区出土遺物



遺構外出土遺物 (A・B・AB・C区)



遺物集中区出土遺物 (C-15区 No802)



遺構外出土遺物 (G区)

【I 区】



遺構外出土遺物(I・J区)

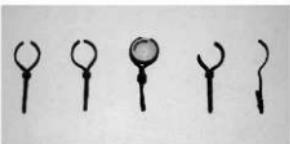
遺構外出土遺物(H・I区)



遺構外出土遺物(J区)



遺構外出土遺物(L・M・N・P区)



汚水枠出土遺物(集緒器)



表土出土遺物 1



表土出土遺物 2



表土出土遺物 3



表土出土遺物 4



表土出土遺物 5



表土出土遺物 6

【I・II区・石製品】



表土出土遺物 7



表土出土遺物 8



第1・2・4号溝状遺構出土遺物



第1・4・6・7・8号土坑出土遺物



第1号井戸出土遺物 1



第1号井戸出土遺物 2



遺構外出土遺物



I区 第20号土坑出土石製品 No389



I区 第24号溝状遺構出土石製品 No218



I区 第31号土坑出土石製品 No423

【石製品・錢貨】



I区 第5号井戸出土石製品
No528



I区 圓池遺構出土石製品
No740



I区 遺構外出土石製品
No805



I区 遺構外出土石製品
No1199



I区 表土出土石製品
No1214-1215-1216



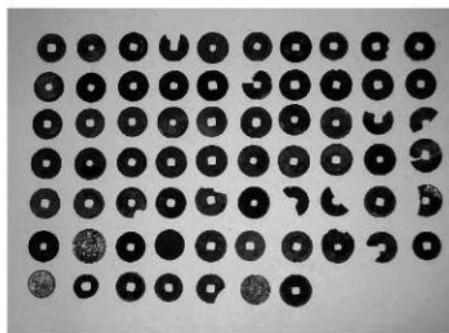
II区 第4号溝状遺構出土石製品
No1231



II区 第10号溝状遺構出土石製品
No1232



II区 第13号土坑出土石製品 No1233



錢貨

報 告 書 抄 錄

ふりがな	こうふじょうかまちいせき(きたぐちけんゆうち)						
書名	甲府城下町遺跡(北口県有地)						
副書名	北口県有地開発に伴う発掘調査報告書						
シリーズ名	山梨県埋蔵文化財センター調査報告書						
シリーズ番号	第258集						
編集者名	吉岡弘樹						
編集機関	山梨県埋蔵文化財センター						
所在地	〒400-1508 甲府市下曾根町923 TEL055-266-3016						
発行年月日	平成20年3月28日						
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村 遺跡番号	北緯 (新) 35° 138° 40' 34' 07" 15"	東経 (新)	調査期間	調査面積	調査原因
こうふじょうかまち いせき 甲府城下町 遺跡	やまなしけんこうふし きたぐちにちょうめ 山梨県甲府市 北口二丁目	1920			平成17年 8月1日～ 12月26日 平成18年 5月8日～ 11月21日	7,000m ²	甲府市北口県有地 開発に伴う発掘調査
所収遺跡名	種別	時代	主な遺構	主な遺物	特記事項		
甲府城下町 遺跡(北口県 有地)	城下町	中世 近世 近代	溝状遺構 井戸 土坑 園地遺構 ピット ほか	磁器・陶器・瓦・金属製品 ガラス製品・木製品 ほか	甲府城山手御門に近接した 武家屋敷地		

山梨県埋蔵文化財センター調査報告書 第258集

こうふじょうかまちいせき 甲府城下町遺跡

北口県有地埋蔵文化財発掘調査報告書

平成20年3月14日印刷

平成20年3月28日発行

編集 山梨県埋蔵文化財センター

〒400-1508 山梨県甲府市下曾根町923

Tel 055-266-3016

maizou-bnk@pref.yamanashi.jp

発行 山梨県教育委員会

印刷 港北出版印刷株式会社